

授業科目		フランス語					
担当教員	馬場 智一			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする。まず発音記号、綴りと発音を学び、フランス語特有の母音や綴りに慣れる。次に日常的な会話表現を学んでゆく。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で名詞・形容詞・所有形容詞・冠詞およびその性数、規則動詞と代表的な不規則動詞の変化を学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。				フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする。			
キーワード	フランス語、フランス文化						
教授方法	授業は演習形式。宿題を課し、授業中に答え合わせをする。予習を前提に、授業では発音の練習、例文のロールプレイ、練習問題などを通じて、できるかぎり授業中にフランス語を運用する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	発音記号、綴りと発音						
2	挨拶、別れの挨拶						
3	自己紹介、挨拶(夕方)						
4	ある人についてたずねる(1)、名前の綴り						
5	名前・職業・住所についてたずねる・言う						
6	自分の仕事について話す						
7	やりたい職業を言う						
8	国籍をたずねる、何語を話すか言う(1)						
9	ある人についてたずねる(2)、知らないという						
10	何かを示す、何語を話すか言う(2)						
11	好きなものを言う、好き嫌いの程度を言い表す(物について)						
12	どちらが好きか言う何をするのが好きか言う						
13	好き嫌いの程度を言い表す(行動について)						
14	したいことについて話す好みを説明する						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	授業で学んだ表現を正しい発音および文法で運用できること			小テスト	30	単語の意味および綴りと発音の関係が理解できていること
平常点	30	宿題、授業態度、など					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
適宜予習や復習を課す。				他の受講生の参考になるので、質問がある場合はできるだけ授業中に質問すること。			
教科書・テキスト	斉藤昌三、『新版 ル・フランセ (Le Français Nouvelle édition)』白水社、1750円			受講生に望むこと	フランス語やフランス語圏の文化・歴史に関心があること。		
参考書・参考資料等	なし。会話については授業中にプリントを配布する。			その他・特記事項	なし		

授業科目	フランス語						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
フランス語 で得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。具体的には、時間、曜日、予定、謝る、場所、趣味・余暇、頻度、習慣、家族、過去の出来事、どこに行ったのか、だれかを誘う、断る、交通手段を尋ねるなどの表現を学ぶ。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で、疑問詞、前置詞、複合過去、複合過去における性数一致について学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。				フランス語 で得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。			
キーワード	フランス語、フランス文化						
教授方法	授業は演習形式。宿題を課し、授業中に答え合わせをする。予習を前提に、授業では発音の練習、例文のロールプレイ、練習問題を通じて、できるかぎり授業中にフランス語を運用する。						
履修条件等	フランス語 1をすでに履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	どちらが好きか理由を述べる、人を描写する						
2	年齢を言う、科目・時間割について話す						
3	持っているものについて話す、物を借りる						
4	謝る、ある場所について説明する						
5	ある場所についての情報を求める						
6	何をするのか尋ねる、答える						
7	何をするのか尋ねる、詳しくきく						
8	趣味・余暇の過ごし方について話す、態度を示す						
9	習慣について話す、家族について話す						
10	過去の出来事について語る						
11	どこに行くか尋ねる、答える						
12	時間を尋ねる・答える						
13	どこに行ったのか詳しく話す、できることとするべきことを言う						
14	だれかを何かに誘う・誘われる、交通手段について尋ねる						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	授業で学んだ表現を正しい発音および文法で運用できること			小テスト	30	単語の意味および綴りと発音の関係が理解できていること
平常点	30	宿題、授業態度など					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
適宜予習や復習を課す。				他の受講生の参考になるので、質問がある場合はできるだけ授業中に質問すること。			
教科書・テキスト	斉藤昌三『新版 ル・フランセ (Le Français Nouvelle édition)』白水社、1750円			受講生に望むこと	フランス語やフランス語圏の文化・歴史に関心があること。		
参考書・参考資料等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目		ドイツ語					
担当教員	浜 泰子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英語以外の外国語（ここでは「ドイツ語」）を運用すること（「読み、書き、聞き、話す」こと）ができるようになるために、ドイツ語の基礎を習得します。</p> <p>ドイツ語の基本となる「文法」を学習しながら、筆記練習、発音練習、パートナー会話練習などを通して、実際に使えるドイツ語を目指して、バランスよくドイツ語の基礎を習得していきます。</p> <p>また、随時、ドイツ語の背景にある文化などにも触れ、ドイツ語を話す人々の生活や精神面にも目を向けることで、ドイツ語に対する理解をさらに深めるとともに、国際人としての多様な世界の見方を培っていきます。</p>				<p>・日常生活レベルの「語彙力」を身につけ、正しい「発音」ができるようになる。</p> <p>・ドイツ語運用の基本となる「文法」を習得する。</p> <p>・ドイツ語を使った簡単な自己紹介、買い物、道案内など、日常生活に必要な表現を「話し、聞き、書き、読んで理解する」ことができるようになる。（2学期開講の「ドイツ語」を続けて受講することで、ドイツ語技能検定試験4級に合格できるレベルのドイツ語力を身につける）</p> <p>・ドイツ語圏の文化や考え方に触れることで、異文化を理解し受容する感性を身につける。</p>			
キーワード	ドイツ語、文法、会話、ドイツ語圏の文化						
教授方法	<p>オンライン（オンデマンド形式）を用いた授業方法で行います。One Driveに「授業資料」と「授業動画」をアップしますので、そこからアクセスして、まず「授業資料」をプリントアウトした後、「授業動画」を視聴してください。（One DriveのURLは、最初の2回はメールで、それ以降は毎回ポータルでお知らせします。）プリントアウトしてもらった「授業資料」と「教科書」を用いて授業を行います。</p> <p>まず、その課で扱われる文法を学習したのち、練習問題を解いて文法的な理解を確認、さらに口頭練習、会話練習などを通して運用練習を行います。毎回課題を出しますので、それをポータル上で提出してもらい、その回の授業をしっかりと行うことができるかを確認、さらに教師がアドバイスをを行うことで学習をサポートしていきます。また、各課終了後に小テストを行うことで、教師および学習者自らが習熟度をチェックできるよう役立てていきます。</p> <p>2週に1回の頻度で、Zoomによる質問日を設けます。（日時など詳細はその都度お知らせします。）</p>						
履修条件等	パソコンなどで授業動画を視聴できるよう、予めインターネット環境を整えておいてください。また授業動画を視聴する前に準備しておく「授業資料」をプリントアウトする方法を確認しておいてください。（プリンターの準備など）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション / アルファパート・発音の基礎・挨拶						
2	発音（つづき）・数字 Lektion 1 自己紹介（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）						
3	Lektion 1 自己紹介（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）						
4	Lektion 1 自己紹介（人称代名詞、動詞の現在人称変化、語順）						
5	Lektion 2 趣味はManga（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）						
6	Lektion 2 趣味はManga（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞）						
7	Lektion 2 趣味はManga（名詞の性と格変化、冠詞、疑問代名詞） Lektion 3 フランクフルト中央駅で（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）						
8	Lektion 3 フランクフルト中央駅で（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）						
9	Lektion 3 フランクフルト中央駅で（不規則動詞の現在人称変化、命令形、人称代名詞の3格と4格）						
10	Lektion 4 買い物（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）						
11	Lektion 4 買い物（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類）						
12	Lektion 4 買い物（名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類） Lektion 5 チューリヒの町で（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）						
13	Lektion 5 チューリヒの町で（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）						
14	Lektion 5 チューリヒの町で（前置詞の格支配、従属接続詞と副文、非人称のes）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	30%	基礎知識の理解度や応用力を評価		課題提出	35%	課題に丁寧に取り組んでいるか、授業をしっかりと受け、理解できたことや疑問点をはっきりさせられているかを判断し評価	
小テスト	30%	各課終了後の小テストにより、授業内容の理解度や家庭学習における復習の程度を評価		学習に対する取り組み姿勢	5%	課題を期限内に提出できたか、授業や家庭学習において明らかになった疑問に対し、自分で解決できない場合、メールやZoom質問日などを利用して積極的	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>授業で学習した内容は、次回までしっかりと復習をしてください。</p> <p>教科書添付のCDなどを利用して、言語習得にとって最も大切な「発音練習」を繰り返し行ってください。</p> <p>出された宿題は丁寧に取り組み、理解を定着させる努力をしてください。</p> <p>理解できたこと、できないことを明確にし、自ら解決できないことはメールですぐに、またはZoom質問日に質問してください。</p>				<p>メールによる質問はいつでも受け付けます。（メールアドレス：mailuf t@po30.lcv.ne.jp または hama.yasuko@u-nagano.ac.jp）また、2週に1回Zoomによる質問日がありますので、自由に参加してください。（詳細はその都度お知らせします）</p>			
教科書・テキスト	小野寿美子・中川明博・西巻丈児著『KREUZUNG NEO クロイツング・ネオ』朝日出版社、2011年『ネオ』初版、2,500円＋税（ISBN：978-4-255-25345-9）			受講生に望むこと	<p>・本授業の受講者は2学期開講の「ドイツ語」を続けて受講することが望ましいです。（教科書後半部は「」で扱います）</p> <p>・語学習得は、一段一段の積み重ね。家庭での復習や発音練習もしっかり行ってください。</p> <p>・独和辞書を必ず用意してください。（独和辞典については初回の授業で紹介いたします。）</p>		

参考書・ 参考資料等	清野智昭著『ドイツ語のしくみ《新版》』白水社，2014年初版，1,300円+税 (ISBN: 978-4-560-08656-8) 独和辞典については、初回授業で紹介します。	その他・ 特記事項	この授業の内容は、2学期開講の「ドイツ語」に続きます。(「ドイツ語」においても同じ教科書を継続して使用します)
---------------	---	--------------	---

授業科目		ドイツ語					
担当教員	浜 泰子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>1 学期開講の「ドイツ語」に引き続き、英語以外の外国語（ここでは「ドイツ語」）を運用すること（「読み、書き、聞き、話す」こと）ができるようになるために、ドイツ語の基礎を習得していきます。ドイツ語の基本となる「文法」を学習しながら、筆記練習、発音練習、パートナー会話練習などを通して、実際に使えるドイツ語を目指し、バランスよくドイツ語の基礎を習得していきます。また、随時、ドイツ語の背景にある文化などにも触れ、ドイツ語を話す人々の生活や精神面にも目を向けることで、さらにドイツ語に対する理解を深めるとともに、国際人としての多様な世界の見方を培っていきます。</p>				<p>・日常生活レベルの「語彙力」を身につけ、正しい「発音」ができるようになる。 ・ドイツ語運用の基本となる「文法」を習得する。 ・「ドイツ語」に続き、さらにいろいろなニュアンスを加えた表現や、過去の表現に至るまで、日常生活に必要な様々な表現を「話し、聞き、書き、読んで理解する」ことができるようになる。 （1 学期開講の「ドイツ語」から続けて受講することで、ドイツ語技能検定試験 4 級に合格できるレベルのドイツ語力を身につける） ・ドイツ語圏の文化や考え方に触れることで、異文化を理解し受容する感性を身につける。</p>			
キーワード	ドイツ語、文法、会話、ドイツ語圏の文化						
教授方法	<p>オンライン（オンデマンド形式）を用いた授業方法で行います。One Driveに「授業資料」と「授業動画」をアップしますので、そちらにアクセスして、まず「授業資料」をプリントアウトした後、「授業動画」を視聴してください。（One DriveのURLは、毎回ポータルでお知らせします。）プリントアウトしてもらった「授業資料」と「教科書」を用いて授業を進行していきます。まず、その課で扱われる文法を学習したのち、練習問題を解いて文法的な理解を確認、さらに口頭練習、会話練習などを通して運用練習を行っていきます。毎回課題を出しますので、それをポータル上で提出してもらい、その回の授業をしっかりと受けることができたかを確認、さらに教師がアドバイスをを行うことで学習をサポートしていきます。また、各課終了後に小テストを行うことで、教師および学習者自らが習熟度をチェックできるよう役立てていきます。2週に1回の頻度で、Zoomによる質問日を設けます。（日時など詳細はその都度お知らせします。）</p>						
履修条件等	<p>・1 学期開講の「ドイツ語」を履修した後、本授業を履修してください。 ・パソコンなどで授業動画を視聴できるよう、予めインターネット環境を整えておいてください。また授業動画を視聴する前に準備しておく「授業資料」をプリントアウトする方法を確認しておいてください。（プリンターの準備など）</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	復習						
2	Lektion 6 映画を見に行きたい（話法の助動詞、分離動詞）						
3	Lektion 6 映画を見に行きたい（話法の助動詞、分離動詞）						
4	Lektion 6 映画を見に行きたい（話法の助動詞、分離動詞） Lektion 7 私のねがい（形容詞の格変化、zu不定詞）						
5	Lektion 7 私のねがい（形容詞の格変化、zu不定詞）						
6	Lektion 7 私のねがい（形容詞の格変化、zu不定詞）						
7	Lektion 8 休暇旅行（動詞の3基本形、現在完了）						
8	Lektion 8 休暇旅行（動詞の3基本形、現在完了）						
9	Lektion 8 休暇旅行（動詞の3基本形、現在完了）						
10	Lektion 9 オペラ鑑賞（過去、再帰代名詞と再帰動詞）						
11	Lektion 9 オペラ鑑賞（過去、再帰代名詞と再帰動詞）						
12	Lektion 9 オペラ鑑賞（過去、再帰代名詞と再帰動詞） Lektion 10 ホテルに宿泊（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）						
13	Lektion 10 ホテルに宿泊（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）						
14	Lektion 10 ホテルに宿泊（形容詞・副詞の比較、関係代名詞）						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	30%	基礎知識の理解度や応用力を評価		課題提出	35%	課題に丁寧に取り組んでいるか、授業をしっかりと受け、理解できたことや疑問点をはっきりさせられているかを判断し評価	
小テスト	30%	各課終了後の小テストにより、授業内容の理解度や家庭学習における復習の程度を評価		学習に対する取り組み姿勢	5%	課題を期限内に提出できたか、授業や家庭学習において明らかになった疑問に対し、自分で解決できない場合、メールやZoom質問日などを利用して積極的	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>授業で学習した内容は、次回までしっかりと復習をしてください。教科書添付のCDなどを利用して、言語習得にとって最も大切な「発音練習」を繰り返し行ってください。出された宿題は丁寧に取り組み、理解を定着させる努力をしてください。理解できたこと、できないことを明確にし、自ら解決できないことはメールですぐに、またはZoom質問日に質問してください。</p>				<p>メールによる質問はいつでも受け付けます。（メールアドレス：mailuf t@po30.lcv.ne.jp または hama.yasuko@u-nagano.ac.jp）また、2週に1回Zoomによる質問日を設けますので、自由に参加してください。（詳細はその都度お知らせします）</p>			
教科書・テキスト	<p>小野寿美子・中川明博・西巻文児著『KREUZUNG NEO クロイツング・ネオ』朝日出版社、2011年『ネオ』初版、2,500円＋税（ISBN：978-4-255-25345-9）</p>			受講生に望むこと	<p>・本授業は、1 学期開講の「ドイツ語」を受講した後に受講してください。（教科書前半部は「」で扱います） ・語学習得は、一段一段の積み重ね。家庭での復習や発音練習もしっかり行ってください。 ・独和辞書を必ず用意してください。（独和辞書は「ドイツ語」の初回授業で紹介いたします）</p>		

参考書・ 参考資料等	清野智昭著『ドイツ語のしくみ《新版》』白水社，2014年初版 ，1,300円+税 (ISBN：978-4-560-08656-8)	その他・ 特記事項	本授業では、1学期開講の「ドイツ語」で使用し たテキストを継続して使用します。
---------------	---	--------------	--

授業科目		中国語					
担当教員		谷口 眞由実		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
初めて中国語を学ぶ学生を対象に初め段階に必要な発音と基本文法事項・語彙を学習する。拼音字母の発音、声調、音節の発音に習熟することをはじめとして、聞く、話す、読む、書くの4つの能力にわたる中国語の基礎学力を身につける。基礎文法については、豊富な例文を取り上げ、繰り返し練習問題に取り組むことで要点の理解を進める。また、例文については音読し、暗唱できるようにする。最後には学習した文型を使いながら、自己紹介ができるようにする。 Chinese				拼音字母で表記された音声を正確に発音することができ、また、拼音字母によって表記された単語や短文を簡体字に直したり、日本語訳ができる。更に基礎的な文法を用いた簡単な会話や自己紹介ができるようにする。			
キーワード	中国語の基礎文法、拼音字母、声調（四声）						
教授方法	講義形式で発音や基礎文法を分かりやすく説明した後、繰り返し練習を行う。単語や例文については数名で組になって練習を行い、互いに発音や文法をチェックしあう。また、受講者は語学教材のCDなどを用いて、書き取りや中文和訳を行うとともに、短文を暗唱し、発表する。発音のチェック、文法の理解度を確認しながら、授業を進めることで基礎的な学力を身につける。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	中国語とは。簡体字、拼音字母、文法の特徴。発音 1：音節、声調、単母音、複母音						
2	発音 2：子音、鼻母音、er化						
3	発音 3：声調変化、声調の組み合わせ、日常の挨拶						
4	発音 4：中国語基本音節表、漢詩「登鸛雀樓を読む」						
5	第1課：「你好！」：名前の言い方、「是」構文						
6	第1課：「你好！」：“吗”を使う疑問文、出身地の言い方、副詞“都”						
7	第2課：「这是谁的课本？」：指示代名詞、疑問詞“谁”						
8	第2課：「这是谁的课本？」：助詞“的”、語気助詞“呢”、副詞“也”						
9	第3課：「今天几号？」：数の言い方、数量名詞述語文、年齢の聞き方						
10	第3課：「今天几号？」：年月日、曜日の言い方、聞き方						
11	第4課：「我们去哪儿？」：動詞述語文、正反疑問文、場所の表現、語気助詞“吧”						
12	第4課：「我们去哪儿？」：数の聞き方、お金の単位、動詞句を目的語に取れる動詞						
13	第5課：「今天下午天气怎么样？」：形容詞述語文、程度副詞、時間の言い方						
14	第5課：「今天下午天气怎么样？」：程度の聞き方、助詞“的”、量詞						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	50	学習した拼音字母、語彙、基礎文法事項や中文和訳などについて理解できているかを問う問題とし、その点数で評価する。		口頭発表、レポート	30	自己紹介を発表するとともに、その内容を簡体字で記述したレポートを提出する。	
平常点	20	普段の授業での小テスト、練習問題などの取り組みを全体的に評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前に教科書を予習し、分からない単語は調べ、教科書の発音の予習を行う。事後には、学習した単語や構文を復習し、本文を暗唱すること。問題集にも主体的に取り組んでほしい。				授業の中や授業後に適宜質問・相談を受け付ける。丁寧に答えたいと思っているので、気軽に質問してほしい。			
教科書・テキスト	『李麗と話そう！中国語初級文法&会話』中国語教育実践方法論研究会編、伊藤さとみ・曹泰和監修、郁文堂			受講生に望むこと	例文の発音や短文の発表など、恥ずかしがらないで大きな声を出して発音するようにしてほしい。また、こまめに辞書を引くようにしてほしい。		
参考書・参考資料等	授業時に紹介する。			その他・特記事項	授業時に辞書を紹介するので、できれば購入してほしい。また、授業中、パソコンやスマホの使用は原則禁止。		

授業科目	中国語					
担当教員	谷口 真由実		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
この授業では、「中国語」で学んだ初級段階の発音と基本文法事項・語彙についての復習を交えつつ、一段階進めて多くの語彙や呼応関係、文法事項を学ぶ。特に日常生活や中国旅行など、実際の場面で役立つ例文を豊富に学習し、繰り返し練習問題に取り組むことで理解を進める。音読練習、暗唱を盛り込み、頭で理解するだけでなく中国語の音を体で感じながら、発音と構文を一体として習得する。また数名の組みでの会話の発表などを通じて実践的な中国語によるコミュニケーション能力を身につける。 Chinese				「中国語」で学んだ基礎知識を再度復習しながら、さらにさまざまな言いまわしや一歩進んだ文法事項について学び、簡単な表現について和文中訳ができるようにする。会話文と文章とを交えてさまざまな中国語表現を学んで身につける。さらに中国語での豊かなコミュニケーション能力を養うことをめざす。		
キーワード	中国語基礎、拼音字母、簡体字、中国語の自己紹介					
教授方法	発音や基礎文法を丁寧に分かりやすく説明し、練習を繰り返し行う。2人組になって、発音や会話の練習などを行い、互いに発音や文法をチェックしあう。また、教科書の録音音声で本文や例文の発音を聞いて復習したり、聞き取りを適宜取り入れることによって、中国語の音を感じて理解するよう図りたい。受講者は短文を暗唱し、2人組になって会話を皆の前で発表する。発表を通じて理解度を確認し合うとともに、コミュニケーション能力を学ぶ。					
履修条件等	「中国語」を履修してから履修すること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	発音の復習、「中国語」の文法の復習					
2	第7課：「今天太热了！」：比較構文、比較構文、比較構文					
3	第7課：「今天太热了！」：同程度を表す構文、仮定の言い方、並列の言い方					
4	第8課：「我已经到池袋了」：実現を表す助詞“了”、変化を表す“了”、いろいろな副詞					
5	第8課：「我已经到池袋了」：連動文、“先・・・，然后・・・”					
6	第9課：「李丽在家吗？」：存在を表す動詞“在”、時間の言い方					
7	第9課：「李丽在家吗？」二重目的語構文、介詞“给”					
8	第10課：「你去过中国吗？」：経験を表す“过”、“是・・・的”構文					
9	第10課：「你去过中国吗？」：疑問詞“怎么”、介詞“在”					
10	第11課：「明天就是文化节了」：語気助詞“呢”、様態補語					
11	第11課：「明天就是文化节了」：並列の言い方“一边・・・一边・・・”					
12	第12課：「离机场还有多远？」：時間量の言い方、概数の言い方、禁止の言い方					
13	第12課：「离机场还有多远？」：介詞“离”、介詞“从”、“到”					
14	第13課：「你在干什么呢？」：進行を表す“正在・・・”、まとめ					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	期末に筆記試験を実施する。学習した拼音字母、語彙、基本的な文法事項や中文和訳などについて理解できているかどうかを問う問題とし、その点数で評	口頭発表・レポート	20	最後の時間にある一日の過ごし方について、口頭で発表するとともに、内容を簡体字と拼音で記述したレポートを提出する。	
平常点	20	普段の授業での暗唱、小テストなどの取り組みを全般的に評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
予習時に、新出単語を辞書で調べ、本文を理解し、付属の録音音声で発音練習を行ってほしい。また、授業後には授業で学んだ内容を復習し、できるだけ暗唱してほしい。				授業中や授業後に適宜質問を受けたい。できるだけその場で答えるようにするが、場合によっては次回までに回答を準備することもある。		
教科書・テキスト	『李麗と話そう！中国語初級文法&会話』中国語教育実践方法論研究会編、伊藤さとみ、曹泰和監修、郁文堂 ¥2,500		受講生に望むこと	発音したり、他の学生の前にでて会話を発表したりするのを恥ずかしがらず、積極的に行ってほしい。		
参考書・参考資料等	参考書や辞書については、授業の中で紹介する。		その他・特記事項	辞書を授業時に紹介するので、できれば購入してほしい。また、授業中、パソコンやスマホの使用は原則禁止。		

授業科目	スペイン語						
担当教員	織田 竜也			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>スペイン語の入門クラス。スペイン語理解の基礎として、アルファベット、発音、アクセント、数詞、規則動詞、ser動詞、estar動詞、名詞の性と数、冠詞、形容詞、不規則動詞、疑問詞、数字、時刻、前置詞などを講義する。講義した文法事項を踏まえて「聴く」「話す」訓練を行う。</p>				<p>初めてスペイン語を学ぶ学生を対象とする。初歩的な文法事項を理解し、簡単な自己紹介や旅先で買い物できる程度の会話力、看板やレストランのメニューを理解する程度の読解力の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠A1程度の語学力を習得することを目標とする。</p>			
キーワード	スペイン語。入門。会話。						
教授方法	文法事項の講義の後、演習形式で対話の練習を行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	講義：Unidad 1 アルファベット、発音、アクセント						
2	演習：国、挨拶、数字						
3	講義：Unidad 2 人称代名詞、名詞の性と数、ser動詞						
4	演習：国籍、職業、自己紹介						
5	講義：Unidad 3 冠詞、所有詞、形容詞、estar動詞						
6	演習：都市、大学						
7	文法事項の復習、中間試験、映像鑑賞						
8	講義：Unidad 4 動詞の現在形、疑問詞、時刻						
9	演習：時刻と曜日、日常生活						
10	講義：Unidad 5 指示詞、所有詞、不規則動詞						
11	演習：家族の紹介						
12	講義：Unidad 6 hayの用法、不定詞						
13	演習：旅行の計画						
14	全体のまとめ、期末試験、映像鑑賞						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
受講態度	10				中間試験	30	
期末試験	60						
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事後学習：Glexaによる課題				面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。			
教科書・テキスト	Juan Carlos Moyano Lópezほか『¡Muy bien! Curso de español』（2018年、朝日出版社）。			受講生に望むこと	どうすれば楽しく積極的に学習できるのか。性格や気質を考えて、自分の学習方法を発見してください。		
参考書・参考資料等	宮本博司（編）『改訂版 スペイン語ミニ辞典』（2003年、白水社）。			その他・特記事項	テキストは必ず入手してください。辞典は意欲的に学習したい人だけで大丈夫です。		

授業科目		スペイン語					
担当教員	織田 竜也			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>スペイン語の初級・中級クラス。複雑な文を理解するために、前置詞を伴う人称代名詞、不規則動詞、直接目的人称代名詞、間接目的人称代名詞、大名動詞、接続詞、点過去、線過去などについて講義する。構文を理解することで会話での「聴く」「話す」能力ばかりでなく、メールや雑誌などを「読む」「書く」能力を高める。</p>				<p>入門程度のスペイン語を習得済みの学生を対象とする。初級から中級程度の文法事項を理解し、スペイン語話者と簡単なやりとりができる程度の会話力、辞書を使いながら易しいスペイン語の読み物を読み進める程度の読解力の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠A2～B1程度の文法事項と語彙を習得することを目標とする。</p>			
キーワード	スペイン語。初級。作文。						
教授方法	文法事項の講義の後、演習形式で対話の練習を行う。						
履修条件等	「スペイン語」の単位を修得した者（滞在経験などから入門的な知識を持つ者）。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	講義：Unidad 7 gustar動詞						
2	演習：好み、予定						
3	講義：Unidad 8 不規則動詞、直接目的人称代名詞						
4	演習：買い物						
5	講義：Unidad 9 不規則動詞、間接目的人称代名詞						
6	演習：						
7	文法事項の復習、中間試験、映像鑑賞						
8	講義：Unidad 10 代名動詞、天気						
9	演習：祭りや行事						
10	講義：Unidad 11 estar動詞の応用、接続詞						
11	演習：体調と気分						
12	講義：Unidad 12 点過去と線過去						
13	演習：今年度のできごと						
14	全体のまとめ、期末試験、映像鑑賞						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	10			中間試験	30		
期末試験	60						
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事後学習：Glexaによる課題				面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。			
教科書・テキスト	Juan Carlos Moyano Lópezほか『¡Muy bien! Curso de español』（2018年、朝日出版社）。			受講生に望むこと	どうすれば楽しく積極的に学習できるのか。性格や気質を考えて、自分の学習方法を発見してください。		
参考書・参考資料等	宮本博司（編）『改訂版 スペイン語ミニ辞典』（2003年、白水社）。			その他・特記事項	テキストは「スペイン語」の続きです。辞典は意欲的に学習したい人だけで大丈夫です。		

授業科目	日本語						
担当教員	二本松 泰子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
留学生在日本語で口頭発表したり1,200字程度のレポートを書いたりするために必要な知識として、日本語の文法および語彙の基本的な学習を行う。文法については、品詞の知識と文章上での単語の使い方を中心に学習を進め、正しい日本語の組み立て方を理解する。語彙については、普遍性の高い言葉を学ぶために新聞記事などを取り上げ、その読解および要約を通して知識を習得する。担当者による講義以外に、受講生にプレゼンテーションや課題作文を実施することによって、より実践的な日本語運用能力を身に付けることを目指す。それと併せて、BJTビジネス日本語能力テストのスコアが700点以上(480点以上でJLPTのN1におおむね相当する)獲得できるスキルも養成する。				ねらい 日本語の基本的な文法と語彙に関する知識を学ぶ。 到達目標 BJTビジネス日本語能力テストのスコアが700点以上獲得できる実用的な日本語運用能力を習得できる。			
キーワード	日本語の基本、日本語文法、日本語の語彙、漢字学習						
教授方法	授業はすべて日本語で行います。授業中は日本語で発言するようにしてください。						
履修条件等	JLPTを受験したことがある、もしくは将来的に受験する予定であること。日本語 を履修後、続けて日本語 も履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	日本語の文の法則 文節と品詞について						
2	主語の使い分け 格助詞「が」と係助詞「は」の違い						
3	動作を表すニュアンス 自動詞と他動詞						
4	連用修飾の多様性 副詞の種類						
5	文脈のつなぎ方 接続詞の種類						
6	距離感の表し方 指示代名詞の使い方						
7	受け身の表現 助動詞「れる」「られる」						
8	使役の表現 助動詞「せる」「させる」						
9	敬語の種類 尊敬語・謙譲語・丁寧語						
10	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く						
11	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く						
12	BJTビジネス日本語能力テストの過去問題・類題を解く						
13	受講生によるプレゼンテーション 正しい日本語で自己表現をする						
14	受講生による日本語作文 1,200字程度の文章を書く						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	何度か日本語の課題作文(400字程度)を提出してもらい、その内容で評価します。		小テスト	30	日本語運用能力を試す小テストを受験し、獲得点数に応じて評価します。	
発表(プレゼン)	20	テーマを設定して日本語で発表(プレゼン)してもらいます。適切な日本語を用いた表現ができているかどうかで評価します。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習:教科書の予習および授業中に出された宿題は必ず準備してきてください。 事後学習:授業中に習った日本語の語彙・漢字や文法などの知識については、毎回必ず復習して覚えてください。				毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はメールやポータルなどを利用してご連絡ください。			
教科書・テキスト	毎回、授業で提示します。			受講生に望むこと	毎回の授業には、必ず国語辞典(電子辞書可)を用意してください。		
参考書・参考資料等	必要に応じて提示します。			その他・特記事項	授業には必ず参加してください。授業以外でも日本語の文章を積極的に読むように心がけてください。		

授業科目	日本語						
担当教員	谷口 眞由実・二本松 泰子		必修・選択	選択	単位数	1単位	
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2学期		授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格	備考				
授業の概要			到達目標				
<p>「日本語」を履修した外国人留学生を対象とした授業とする。日本語の語彙や文法についての基礎知識を確認しながら、幅広いテーマについて書かれた本文を読んで内容を把握し、ディスカッションを行なって理解を深める。次に本文について要旨や感想、意見を短文にまとめ、学生同士互いに批評し合ってさらに手直しし提出する。これらの過程を通して「聞く・話す・読む・書く」の4つの能力にわたって総合的な力を身につける。最後に、本文のテーマに沿ったレポートを書き、明解な文章を作成する力を養う。 Japanese Language</p>			<p>すでに学んできた日本語の語彙や文型、文法を基礎として日常的な場面に必要な日本語の理解に加えて、より広い場面で使われる日本語を理解することができる能力を身に着ける。幅広い話題について書かれた記事や簡単な評論を読んで内容を理解したり、自分の意見を述べたり、書いたりできることを目標とする。</p>				
キーワード	日本語の語彙、文型、文法、日本語の理解、留学生						
教授方法	演習形式で行う。まず教科書の各課の本文を読み、内容を把握し、文法事項を学ぶ。次に全員で本文についてディスカッションを行うことで理解を深める。その後、本文について各自の感想や意見を短文にまとめ、グループで互いに批評しあい、最後に他人の意見を踏まえ、文章を手直しして提出する。実践的な練習を通して、コミュニケーションを円滑に行う能力と文章を書く力を養う。言葉の背景である日本の文化や話題になっている時事についても、適宜授業に盛り込む。						
履修条件等	留学生対象。「日本語」を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	第1「新たな出会い」（印象的に自己紹介する）						
2	第3「時間を生かす」（時間の使い方についての情報をやり取りする）						
3	第5「緊急事態」（緊急事態が起こって経験したことについて話す）						
4	第7「世代を超えた交流」（故郷や住んだことのある場所やそこでの生活を紹介する）						
5	第9「言葉を楽しむ」（日本語表現と自国の表現を比べる）						
6	第11「ライフスタイル」（様々な人のライフスタイルを知り、自分自身の考えや経験と比較する）						
7	第13「トレンドに乗ってつながる」（社会の流行やトレンドの中から興味のあるものを取り上げる）						
8	第15「情報社会に生きる」（情報やメディアについての自分の意見を述べる）						
9	第16「学校生活」（学校事情についての各国の違いや自身の経験を述べる）						
10	第17「働くということ」（自分の将来について考えるため仕事に対する考えを周囲と共有する）						
11	第18「地球に生きる」（環境について問題になっていること、環境のためにできることを述べる）						
12	第19「科学の力」（科学技術に関する課題に触れ、科学が社会に果たす役割を考える）						
13	第20「豊かさで幸せ」（豊かさについての多様な価値観を知り、自分の考えを客観的に振り返る）						
14	レポートを書く						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
定期試験	30	学習した語彙・文法などが理解できているか、聞き取りや書き取りができるかを問う問題とし、基本的な知識の理解度によって評価する。	小テスト・作文	40	本文についての作文を実施し、語彙・文法などの理解度、習熟度によって評価する。最後に各自本文に関連したテーマについてのレポートを作成し、自分		
平常点	30	普段、意見を述べたり、ディスカッションやグループ学習に積極的に参加しているか、漢字の小テストの点数などで評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応				
本文の予習・復習につとめ、さらに事後の課題が出された場合は、課題に取り組み提出すること。			授業時間中や授業後に受け付ける。遠慮なく質問してほしい。				
教科書・テキスト	『できる日本語中級』（アルク、嶋田和子監修）		受講生に望むこと	ディスカッションなどに積極的に参加してほしい。			
参考書・参考資料等	授業時に適宜紹介する。		その他・特記事項	国語辞典を用意し、適宜引いてみてほしい。授業時間中は、原則として授業内容以外でのパソコン・スマホは使用しないこと。			

授業科目	English Lectures on Cultural Issues B						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course will give students experience in listening to English lectures on Intercultural Understanding. Moving beyond the idea that culture is food and festivals, this course will introduce the concepts of deep culture, West-East cultural differences, dimensions of culture and cultural identity. This will be followed by studying how culture influences communication and intercultural work teams. Lectures will introduce cultural keywords of 6 neighboring countries.				Students will practice English listening and comprehension skills. They will learn core concepts of culture and the vocabulary for these topics. Students will apply the content of the course to their own experiences of cultural learning and describe this in a report.			
キーワード	English lecture, intercultural understanding						
教授方法	Lectures in English will be supported with pre-study notes, slides and lecture recordings.						
履修条件等	This course is open to all Year 3 and Year 4 students.						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 1 Core Concepts of Culture						
2	Unit 1 Core Concepts of Culture, Learning Culture						
3	Unit 1 Core Concepts of Culture, Generalizations and Stereotypes						
4	Unit 2 West-East Culture Differences						
5	Unit 2 West-East Culture Differences						
6	Unit 2 West-East Culture Differences						
7	Unit 3 Dimensions of Culture						
8	Unit 3 Dimensions of Culture						
9	Unit 3 Dimensions of Culture						
10	Unit 4 Cultural Identity, Hafu Experience in Japan						
11	Unit 4 Cultural Identity						
12	Unit 5 Culture and Communication, High and Low Context						
13	Unit 5 Culture and Communication, International Space Station communication						
14	Unit 5 Culture and Communication						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Vocabulary	30	one quiz in each unit on words for that topic		Writing	40	1-paragraph writing assignments about one's own experiences of cultural learning.	
assignments	30	reading Japanese and English and other assignments					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Students will prepare for class by studying words in the lecture and reading Japanese or English. Recordings of lectures will be available for review.				Students can ask questions with email.			
教科書・テキスト	-			受講生に望むこと	a desire to stretch their English ability and curiosity about culture		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	The instructor will adjust the lectures and assignments to fit the students' English level.		

授業科目	English Lectures on Social Issues B						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
Students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures in English that will cover a variety of topics relevant to global and regional understanding, with an emphasis on important social issues related to gender. This course will give students the experience of attending academic lectures in English at the university level, give students a higher-level understanding of a wide range of women's issues that will help them to solve contemporary gender-related problems, and strengthen skillsets necessary to achieve leadership levels of success on language proficiency tests.				This class has three important goals. First, students will strengthen their listening and comprehension skills by attending lectures. Students will prepare for lectures by reading materials outside of class and watching videos. Second, students will develop note-taking skills in order to systematically organize the information they are listening to during the lectures. Third, students will demonstrate they have understood the material by analyzing it and developing opinions in small discussion groups during lecture breaks.			
キーワード	gender, women, lecture, essay						
教授方法	In order to deepen their knowledge of both the English language and topics under discussion, students will be expected to do preparatory work outside of class, including reading materials and watching videos. Students will be required to take notes in class and turn in their notes as part of the grade. At the end of each quarter students will demonstrate understanding of course materials in the form of an essay.						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction: course outline and assignments						
2	Research methodology						
3	Women's rights and legal changes related to women						
4	The emancipation of women and women's movements						
5	Family relationships, cohabitation and marriage						
6	Civil partnership and same sex marriage						
7	Multicultural Britain and forced marriage. Jasvinder Sanghera's case						
8	Pregnancy, childbirth, childrearing and surrogacy						
9	Female entrepreneurs Part 1						
10	Female entrepreneurs Part 2						
11	Women and paid work						
12	Working mothers						
13	Female politicians						
14	Review						
共通の成績評価基準							
S grade: The student fully understands English lectures and can express his/her opinions about lectures in fluent English. A grade: The student understands more than 80% of English lectures and can express his/her opinions about lectures in relatively good English. B grade: The student understands more than 70% of English lectures and can express his/her opinions about lectures in English to a certain extent. C grade: The student understands more than 60% of English lectures, but he/she finds it difficult to express his/her opinions about lectures in English. F grade: The student understands less than 50% of English lectures and fails to express his/her opinions about lectures in English.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Two essays	60%	The students will be assessed on the basis of two essays (one essay each term).		Student notes	30%	Student notebooks will be checked and graded.	
Other	10%	Other class activities and assignments					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Students will be expected to read materials and watch videos outside of class in preparation for lecture. Students will be required to take lecture notes and keep a class notebook.				If students have any questions for the course teacher, they should feel free to ask at any time. If students want to make an appointment to meet online, please ask the teacher during class sessions or send an email.			
教科書・テキスト	Necessary materials will be distributed by the course teacher.			受講生に望むこと	Students should prepare for class by reading all necessary materials. Students should actively take notes in class and join in discussion activities. Students need to use their English-English dictionary constantly. The working language of the class is English.		

参考書・ 参考資料等	The course teacher will distribute other handouts as well. She will supply students with a list of relevant and useful articles and books.	その他・ 特記事項	Any student, who fails to submit his/her assignments, cannot get a credit for this course. Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.
---------------	--	--------------	---

授業科目	Advanced English Communication (A1)				
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	選択	単位数 2単位
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義 科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
Building on the 2-year EPGM framework, students develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List (a vocabulary list of approximately 1200 words that frequently appear on TOEIC tests and TOEIC study guides). Students develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions include social issues and career-based problems and solutions.			This class has three important goals. First, students develop the four skills for communicative purposes. Second, students familiarize themselves with the TOEIC Service List. Third, students develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course.		
キーワード	fluency, autonomy, vocabulary				
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Class orientation + introduction to the study progress guide + TOEIC service list study				
2	Unit 1 + study progress guide and discussion (or presentation) preparation				
3	Unit 1 + study progress guide and discussion (or presentation) preparation				
4	Unit 1 + study progress guide and discussion (or presentation)				
5	Unit 2 + study progress guide and discussion (or presentation) preparation				
6	Unit 2 + study progress guide and discussion (or presentation) preparation				
7	Discussion (or presentation) + study progress guide				
8	Unit 3 + study progress guide and discussion (or presentation) preparation				
9	Unit 3 + study progress guide and discussion (or presentation) preparation				
10	Unit 3 + study progress guide and discussion (or presentation)				
11	Unit 4 + study progress guide and discussion (or presentation) preparation				
12	Unit 4 + study progress guide and discussion (or presentation) preparation				
13	Unit 4 + study progress guide and discussion (or presentation) preparation				
14	Discussion (or presentation) + study progress guide + Course-in-Review				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Discussion	40	Various discussion activities	Language skills	30	Textbook-related activities and other assignments
Vocabulary	15	TOEIC Service List	Study Progress Guide	15	Successful completion of the study progress guide
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class.			Contact me by email or by Teams.		
教科書・テキスト	Business Plus 3, Cambridge University Press (Margaret Helliwell)		受講生に望むこと	Demonstrate a willingness to communicate and to develop autonomy.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Advanced English Communication (A1)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.				This class has three important goals. First, students will strengthen their ability to use the four skills necessary for understanding, speaking, and writing for communicative purposes with various language users. Second, students will use the TOEIC Service List. Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement.			
キーワード	fluency, communication, business English, TOEIC, discussion						
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to Discussion Topic 1, the Study Progress Guide (SPG), and vocabulary targets						
2	Textbook Unit 5, discussion preparation, SPG						
3	Textbook Unit 5, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG						
4	Textbook Unit 7, information gathering and data collection, SPG						
5	Textbook Unit 7, report on information and data, SPG						
6	Textbook Unit 7 + Discussion Test						
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3 (work-life balance: personal life vs company life, comparing urban and regional Japan), SPG						
8	Textbook Unit 8, information gathering & data collection, SPG						
9	Textbook Unit 8, report on information and data, SPG						
10	Textbook Unit 8, discussion, introduction of Discussion Topic 4 (sustainable development goals), SPG						
11	Textbook Unit 9, information gathering and data collection, SPG						
12	Textbook Unit 9, report on information and data, SPG						
13	Textbook Unit 9 + Discussion Test, SPG						
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG						
共通の成績評価基準							
Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Discussion tests	40%	Discussion tests will be videoed and evaluated		TOEIC Service List	15%	Students will be tests of depth of knowledge of the TOEIC Service List	
4 skills	35%	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide		Other	10%	Other class activities and assignments	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Students will be expected to participate actively in all class activities. Students should be self-motivated and will to develop personal learning goals. Homework will be turned in before class.				If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to stop by the instructor's office, or if you want to make an appointment ask during class or send an email.			
教科書・テキスト	Business Plus 3 – Preparing for the Workplace, Helliwell, Cambridge University Press, 2014			受講生に望むこと	Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins.		
参考書・参考資料等	An electronic dictionary with good English sample sentences.			その他・特記事項	-		

授業科目	Advanced English Communication (A1)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
Students will strengthen their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking necessary for understanding, speaking and writing for communicative purposes, with various language users; and use the TOEIC Service List. Students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of and targeting of clear benchmarks for language improvement. Topics for classroom-based activities and discussions will include current and next generation social issues and career-based problems and solutions.				This class has three important goals. First, students will strengthen their ability to use the four skills necessary for understanding, speaking, and writing for communicative purposes with various language users. Second, students will use the TOEIC Service List. Third, students will continue to develop their English-learning autonomy through the development of clear benchmarks for language improvement.			
キーワード	fluency, communication, business English, TOEIC, discussion						
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.						
履修条件等	Students should have taken any Year 3 English class OR be an advanced English user with high willingness to communicate. Please contact the instructor if you are unsure or have questions.						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Class orientation. Introduction to Discussion Topic 1, Business Advantage textbook, the Study Progress Guide (SPG), and vocabulary targets						
2	First textbook unit, discussion preparation, SPG						
3	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG						
4	Second textbook unit, information gathering and data collection, SPG						
5	Second textbook unit, report on information and data, SPG						
6	Second textbook unit + Discussion Test						
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3, SPG						
8	Third textbook unit, information gathering & data collection, SPG						
9	Third textbook unit, report on information and data, SPG						
10	Third textbook unit, discussion, introduction of Discussion Topic 4, SPG						
11	Fourth textbook unit, information gathering and data collection, SPG						
12	Fourth textbook unit, report on information and data, SPG						
13	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG						
14	Evaluation of Discussion Video (2), SPG						
共通の成績評価基準							
Students can actively participate in academic discussions. Students can research and collect data to participate in and lead academic discussions related to current and next-generation social issues and career-based problems and solutions.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Discussion tests	40%	Discussion tests will be videoed and evaluated		TOEIC Service List	15%	Students will be tests of depth of knowledge of the TOEIC Service List	
Textbook	35%	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide		Other	10%	Other class activities and assignments	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Students will be expected to participate actively in all class activities. Students should be self-motivated and will to develop personal learning goals. Homework will be turned in before class.				If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to stop by the instructor's office, or if you want to make an appointment ask during class or send an email.			
教科書・テキスト	Business Advantage - Intermediate. Koester, Pitt, Handford, Lisboa, Cambridge University Press, 2012			受講生に望むこと	Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.		
参考書・参考資料等	A dictionary with good English sample sentences. Please bring an appropriate notebook to class.			その他・特記事項	-		

授業科目	Advanced English Communication (A1)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
Building on the 2-year EPGM Fluency framework, students will develop their ability to use the four skills of listening, reading, writing and speaking for understanding, speaking and writing for communicative purposes; and familiarize themselves with the TOEIC Service List. Students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course. Topics for classroom-based activities and discussions will include social issues and career-based problems and solutions.				This class has three important goals. First, students will develop the four skills for communicative purposes. Second, students will familiarize themselves with the TOEIC Service List. Third, students will develop their English-learning autonomy as they identify their current level and create clear benchmarks for improving over the course.			
キーワード	Fluency, communication, business English, TOEIC, discussion						
教授方法	Classes are active. Students gather information to discuss textbook topics, and topics related to social issues and career-based problems and solutions. Students develop their own learning goals and study vocabulary.						
履修条件等	Students should have taken any Year 3 English class OR be an advanced user of English with high willingness to communicate. Please contact instructor if you are unsure or have questions.						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Class orientation, introduction of Discussion Topic 1, Business Advantage textbook, introduction of the Study Progress Guide (SPG) and semester-long vocabulary targets						
2	First Textbook Unit, discussion preparation, SPG						
3	First textbook unit, discussions, + introduction of Discussion Topic 2, SPG						
4	Second textbook unit, information gathering and data collection, SPG						
5	Second textbook unit, report on information and data, SPG						
6	Second textbook unit + Discussion Test						
7	Evaluation of Discussion Video (1), introduction of Discussion Topic 3, SPG						
8	Third textbook unit, information gathering & data collection, SPG						
9	Third textbook unit, report on information and data, SPG						
10	Third textbook unit, discussion, introduction of Discussion Topic 4, SPG						
11	Fourth textbook unit, information gathering and data collection, SPG						
12	Fourth textbook unit, report on information and data, SPG						
13	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG						
14	Fourth textbook unit + Discussion Test, SPG						
共通の成績評価基準							
Students can participate in academic discussions. Students can gather relevant information for academic discussions related to social issues and career-based problems and solutions.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Discussion tests	40	Discussion tests		TOEIC	15	TOEIC Service List Vocabulary Test	
Textbook	35	Textbook-related activities and completion of the Study Progress Guide		Assignments	10	Other activities	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Read, prepare, and do homework before classes. Engage in discussion.				If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to stop by the instructor's office, or if you want to make an appointment ask during class or send an email.			
教科書・テキスト	Business Advantage - Intermediate, Koester, Pitt, Handford, and Lisboa, Cambridge University Press, 2012			受講生に望むこと	Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.		
参考書・参考資料等	Dictionary, notebook			その他・特記事項	-		

授業科目		Advanced Academic English (A1)					
担当教員	坂 淳一			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1,2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。				ノーベル文学賞も受賞したバートランド・ラッセルの『幸福論』を原文で読み、高度な英文資料を読みこなす力を身につける。内容のかたまりごとに、小見出しを付ける方法を学ぶ。英文で読んだ内容について意見を述べる力を身に付ける。日本語や英語で summary を書く力を養う。英文エッセイとして自分の意見を書く経験をする。			
キーワード	アカデミックリーディング、アカデミックライティング						
教授方法	読解については、全員で討論しながらテキストを読み進める講読形式。英文エッセイは、「幸福」とは何かについて個々人で書き進めてもらいながら、教員から、また時には受講者の仲間から助言をもらいながら仕上げる。分量は、英文で500字以上(A4で2枚くらい。もっと長くなっても良い)。最後に、ラッセルの幸福論に対する論評を1000~2000語程度の日本語でまとめる。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方についての説明、バートランド・ラッセルおよびテキストの紹介。Academic English とはどのようなものかの解説と練習。						
2	読解の技術と実践(1)、Academic Writing 技術と演習(頭括型と尾括型)						
3	読解の技術と実践(2)、Academic Writing 技術と演習(パラグラフの構成方法)						
4	読解の技術と実践(3)、Academic Writing 技術と演習(接続詞と副詞の使い方)						
5	読解の技術と実践(4)、Academic Writing の課題と注の付け方、句読法など						
6	読解の技術と実践(5)、Academic Writing 技術と演習(冠詞の使い方)						
7	読解の技術と実践(6)、Academic Writing の技術と演習(冠詞の使い方)						
8	読解の技術と実践(7)、Academic Writing の技術と演習(分詞構文の使い方)						
9	読解の技術と実践(8)、Academic Writing の技術と演習(分詞構文の使い方)						
10	読解の技術と実践(9)、Academic Writing の技術と演習(フィードバックと修正)						
11	読解の技術と実践(10)、Academic Writing の技術と演習(フィードバックと修正)						
12	読解の技術と実践(11)、Academic Writing の技術と演習(フィードバックと修正)						
13	読解の技術と実践(12)、Academic Writing の技術と演習(その他の技術)						
14	読解の技術と実践(13)、Academic Writing の技術と演習(その他の技術)						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	60	英文エッセイ、テキストに対する論評、要約など		上記以外の授業評価	40	授業内での討論、小見出しの課題など	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
毎回2~3頁は読むので、次回読む部分について、指定された方法(指定された部分の翻訳、全体の要約、見出し付けなど)での予復習を怠りなく行って欲しい。学期末には、14回で読んだ部分に関する日本語の論評(和文で1000~2000字程度)と英文エッセイを仕上げ提出すること。				質問は授業中にどんどんして欲しい。メールでの質問や相談も可。			
教科書・テキスト	Bertrand Russell, The Conquest of Happiness (Liveright Publishing)			受講生に望むこと	楽しんで、能動的に読んで欲しい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で、あるいは OneDrive で提供する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Advanced Academic English (A1)						
担当教員	加藤 貴之		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを学ぶ。1,2年次で培った語彙や文法の知識、構文理解、読解力、英作文力を土台として、TOEIC、TOEFL、IELTS等の高度な読解問題と同等水準以上の英文資料を読みこなし、自分の意見を英文エッセイの形で展開する学習活動を行う。			1. 1つのテーマについて、異なる意見の根拠を整理しながら読み解くことができる。 2. 引用資料および効果的な英語表現を使って主張を伝達できる。 3. 海外と日本のメディアを比較することで、異なる背景をもつ聴衆への情報発信における重要点を理解できる。				
キーワード	アカデミックリーディング、アカデミックライティング、批判的考察						
教授方法	リーディングからライティングへとつなげるかたちでスキルアップを図るために、指定されたテーマについて、(1) 教師が選定した英文資料の他、受講者が見つけた英文資料も読むことで、多角的な観点から理解する。(2) またインプットした内容を要約して引用し、説得的な英語表現を使って300語エッセイを作成する。(3) 授業で作成したエッセイを発展的に統合させてミニレポートを英文で作成する。授業では、ペア/グループワークを通じてアウトプットの機会を確保する。						
履修条件等	3年次以上に在籍していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス (学習計画、成績評価、学習の進め方など)						
2	東京や世界の首都/都市に関する英文 (1)						
3	東京や世界の首都/都市に関する英文 (2)						
4	300語エッセイ (1)						
5	東京の首都機能移転について (1)						
6	東京の首都機能移転について (2)						
7	300語エッセイ (2)						
8	東京五輪に関する論評 (1)						
9	東京五輪に関する論評 (2)						
10	300語エッセイ (3)						
11	海外メディアにおける日本に関する記事 (1)						
12	海外メディアにおける日本に関する記事 (2)						
13	300語エッセイ (4)						
14	ミニレポートのラフドラフト作成と発表						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
語彙確認テスト	20	英作文力を測定する。		300語エッセイ	60	4回の300語エッセイ作成において、英文資料の読解力、効果的かつ適切な英語表現力を測定する。	
英文レポート	20	英文資料を踏まえた効果的かつ適切な英語表現および異なる背景をもつ聴衆への情報発信力を測定する。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)			質問や相談への対応				
基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料を学習し、事後学習としてリーディング内容の復習およびライティング課題に取り組みを行うこと。			授業時に確認できなかったことは大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。				
教科書・テキスト	指定なし (教師による資料配布)			受講生に望むこと	日常で英語を読むことを習慣にしてください。		
参考書・参考資料等	ライティングの方法や英語表現等に関する参考サイトを紹介			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Advanced Academic English (A1)					
担当教員	坂 淳一			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルを高める。3年次までに培った学術英語の基礎を土台として、専門科目における学修のトレーニングとして、英語文献の批判的考察を行いながら、自分の主張を英文レポートの形で展開する学習活動を行う。				高度に社会的な英文資料を読みこなす英語力と教養を身につける。内容のかたまりごとに、小見出しを付ける方法を学ぶ。英文で読んだ内容について、批判的に討論する力を身につける。日本語と英語で、読んだ英文の summary を書く力を養う。英文エッセイの形で自分の主張を展開する力を身につける。			
キーワード	アカデミックリーディング、アカデミックライティング						
教授方法	全員で討論しながら一冊のテキストを読み進める輪読形式。テキストは、「1%の富裕層ではなく、「99%の私たち」のために、性別・人種主義・環境破壊のない社会を」と訴えるフェミニズムのベストセラーの原書。構文解説、見出しを付けて読む方法、ポイントを押さえた要約の練習などを行いつつ、背景となる社会問題についても学ぶ。英文エッセイは、エッセイの基本スタイル、論の展開方法などを学び、引用の仕方も学びながら現代社会の問題について個々人で書き進めてもらう。分量は、英文で1000字程度（A4で2～3枚くらい。もっと長くなっても良い）。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方についての説明、テキストの紹介。序章の "A fork in the road" を読んでみる。						
2	"Thesis 1" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（頭括型と尾括型）						
3	"Thesis 2" "Thesis 3" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（パラグラフの構成方法と展開方法）						
4	"Thesis 4" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（パラグラフの構成方法と展開方法）						
5	"Thesis 5" 読解と討論、Academic Writing 技術と演習（接続詞と副詞の正しい使い方）						
6	"Thesis 6" 読解と討論、Academic Writing 課題と注の付け方						
7	"Thesis 7" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（句読法）						
8	"Thesis 8" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（冠詞の使い方）						
9	"Thesis 9" "Thesis 10" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（仮定表現の使い方）						
10	"Thesis 11" "Beginning in the middle" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（分詞構文の効果的な使い方）						
11	"Reconceptualization of capitalism and its crisis" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）						
12	"What is social reproduction?" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）						
13	"Crisis of social reproduction" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（フィードバックと修正）						
14	"The politics of feminism for the 99 percent" 読解と討論、Academic Writing の技術と演習（その他の技術）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	60	英文エッセイ、テキストに対する論評、要約など			上記以外の授業評価	40	授業内での討論、小見出しの課題など
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回頁数読むので、次回読む部分について、指定された方法（指定された部分の翻訳、全体の要約、見出し付けなど）での予復習を怠りなく行って欲しい。英文エッセイ、テキストの論評も、指定された期日までに仕上げる。				質問は授業中にどんどんして欲しい。メールでの質問や相談も可。			
教科書・テキスト	Feminism for the 99%: A Manifesto (Verso)			受講生に望むこと	楽しんで、能動的に読んで欲しい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で、あるいは OneDrive で提供する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Advanced Academic English (A1)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語4技能の統合的発展を図りながら、専門科目の学びに役立つ英語文献を読み、学術的なレポートを英語で書くためのアカデミックリーディングおよびアカデミックライティングのスキルをさらに高める。3年次までに培った学術英語の基礎を土台として、専門科目における学修のトレーニングとして、英語文献の批判的考察を行いながら、リサーチの成果を踏まえて、自分の主張を英文レポートの形で展開する学習活動を行う。				・専門分野に関連する英語文献を読み、筆者の主張やその根拠を正しく読み取ることができる。 ・先行研究の整理と批判的分析に基づき、自分の考えを英文レポートにまとめることができる。			
キーワード	アカデミックリーディング、アカデミックライティング						
教授方法	各受講者が自身の専門分野に関連する英語文献(記事・論文等)を読んで要点をまとめて発表し、内容や表現に関する質疑応答を行う。読んだ文献の内容について整理・考察しながら期末レポートの執筆を進め、随時教員によるフィードバックを行う。						
履修条件等	アカデミックリーディング・ライティングの基礎が身についていることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	英語文献読解・発表方法の解説						
3	英語文献読解演習(1)						
4	英語文献読解演習(2)						
5	英語文献読解演習(3)						
6	英語文献読解演習(4)						
7	レポート構想発表						
8	英語文献読解演習(5)						
9	英語文献読解演習(6)						
10	英語文献読解演習(7)						
11	英語文献読解演習(8)						
12	レポート発表(1)						
13	レポート発表(2)						
14	レポート発表(3)						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	50	・英語文献の要点や自身のレポートの内容についてわかりやすく発表できているか。 ・他者の発表に対して積極的に質問やコメントがで		期末レポート	50	先行研究の整理と批判的分析に基づき、自分の考えを英文レポートにまとめることができているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
・自分が発表する文献をよく読んで、要点を整理しておくこと。 ・他者が発表する文献をざっと読んで、疑問点を整理しておくこと。				・授業時に直接、またはメールで連絡してください。			
教科書・テキスト	受講者と相談の上決定します。(テキストは使用せず、各受講者の関心に応じた記事や論文を用いる予定です。)			受講生に望むこと	複数の情報や主張をふまえた客観的・論理的な議論が展開できるよう、授業で扱う文献以外にも、関連する文献をできるだけ多く読むようにしましょう。		
参考書・参考資料等	必要に応じて授業時に紹介します。			その他・特記事項	授業計画は受講者数などに応じて調整しますので、受講を検討している人はなるべく初回の授業以前にメールで連絡をください。		

授業科目	心理学					
担当教員	藤田 勉		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
心理学に対して興味や関心をもつ人は多いが、心理学という学問がどういった学問で、どのようなことを研究しているのか理解している人は少ない。心理学の対象・目的・仕事を明確にし、心理学の代表的な研究法を学ぶことで、心理学とはどのような学問であるのかを理解する。さらに、心理学の様々な分野（知覚心理学、学習心理学、性格心理学、思考心理学、臨床心理学、社会心理学、教育心理学、発達心理学等）における研究成果を知ることにより、その有用性を確認する。				本講義を通じて、受講生は一般に誤解されやすい心理学を正しく理解するとともに、心理学的なものの見方や思考法を学ぶ。		
キーワード	心理学、行動、学習、研究法					
教授方法	原則的には講義形式で進められるが、受講生が参加・体験できるような実験、調査、検査等を組み入れ、受講生に心理学を“実感”してもらえよう工夫していく。受講生は授業時間以外で講義内容に関して予習・復習を行うことが求められる。今年度は学期中数回の小テストを実施する予定である。					
履修条件等	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
第1回	キックオフ（授業の目的、授業の内容、授業の形式、使用テキスト、成績評価の方法、授業のスケジュールなど）					
第2回	心理学とは何か（心理学の対象）					
第3回	心理学とは何か（心理学の目的、心理学の仕事）					
第4回	心理学の研究法（観察、実験）					
第5回	心理学の研究法（調査、検査、事例研究法）					
第6回	まとめ					
第7回	感覚・知覚心理学（知覚とは、錯視の例、幾何学的錯視他）					
第8回	感覚・知覚心理学（対比現象、反転図形、恒常性、視覚以外の錯覚他）					
第9回	学習心理学（学習とは、行動の種類、レスポナント条件づけの基本手続きと応用研究）					
第10回	学習心理学（オペラント条件づけの基本手続きと応用研究）					
第11回	記憶について（記憶とは、記憶の検査法、記憶の種類、記憶の範囲、記憶の諸現象、記憶術）					
第12回	発達心理学（発達心理学とは、ヒトの発達段階、胎生期～乳児期の発達）					
第13回	発達心理学（乳児期～幼児期の発達）					
第14回	性格心理学（性格とは、性格の分類、性格の形成、性格検査の実際）、授業全体のまとめ					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	50	筆記試験により授業内容の理解度を総合的に評価する。	小テスト（筆記）	50	筆記試験により単元ごとの授業内容の理解度を評価する。学期中数回の実施を予定。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
この授業は60時間の授業外学習が必要である。授業に臨むにあたり、指定された教科書の該当箇所や参考資料等を事前に読んでおくこと。			質問・相談については、原則的には授業時間内で受け付け、当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は、初回授業時間で伝えるメール・アドレスにて受け付ける。			
教科書・テキスト	『新版行動科学序説（新版5刷）』藤田勉・藤田直子 世音社 2019 ISBN：978-4-921012-12-0		受講生に望むこと	本授業を受講することにより、「心理学」の有用性を知り、日常生活に役立ててもらいたい。		
参考書・参考資料等	『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《見方の“クセ”と“思い込み”編》』藤田勉 ほおずき書籍 ISBN978-4-434-17309-7 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》』藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17206-9 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《Q & A編》』藤田勉 ほおずき書籍 2020 ISBN：978-4-434-27733-7		その他・特記事項	出席は授業開始時に確認する。授業開始後30分までは遅刻、それ以降は欠席とする。		

授業科目	哲学						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>素朴な疑問について哲学的に考えてゆく。フランスの大学入学資格試験で実際に出題された問題と、その模範解答を紹介する。解答を検討する過程で、著名な哲学者の学説や文章を紹介する。授業の後半では、受講者自身に問いを出してもらい、クラス全体で議論する。毎回授業の最後に、学習内容およびディスカッションを振り返る。</p>				<p>ねらい ヨーロッパ文化および近代文明の背景をなす西洋哲学の著名な学説についての知識を身につけると同時に、私たちが生きる世界に対して自ら疑問をもって、哲学的に考えることを学ぶ。</p> <p>到達目標 自明の事柄について哲学的な問いを立てることができる。 立てられた問に含まれる言葉を定義できる。 問に関連する哲学史上の著名な学説を参照することができる。 論証に必要な具体例を挙げるることができる。 立論を論理的に構成できる。 立論を説得的に構築できる。 対話を通じて自らの考えを吟味検討できる。</p>			
キーワード	哲学、倫理、ヨーロッパ、論理的思考、対話						
教授方法	講義、ディスカッションを主体とし、必要に応じて演習、小テストを実施する。対面授業とオンライン（同時双方向、オンデマンド）を併用する。						
履修条件等	特にないが、自分の頭で考えることを放棄したい学生には向かない。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、哲学について						
2	自己と他者（1）						
3	自己と他者（2）						
4	自己と他者（3）						
5	小テスト、レポートについて（書き方、問いの設定）						
6	理性と現実（1）						
7	理性と現実（2）						
8	理性と現実（3）						
9	社会・道徳・政治（1）、小テスト						
10	社会・道徳・政治（2）						
11	社会・道徳・政治（3）						
12	小テスト、レポートのピアレビュー						
13	まとめの対話、レポートの提出						
14	レポートの返却、レポート内容の発表						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点	15	受講態度、提出物、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。			小テスト	40	小テストを行い、理解度に応じて評価する
授業レポート	45	授業の達成目標への到達度により評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
資料をあらかじめ配布する場合は、事前に読んでおくこと。学習内容について小テストを行うので、復習をすること。授業で学んだ内容を基にレポートを作成すること。				・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	自分が知っていることと知らないことを区別するよう努力し、自分の頭で粘り強く考え、ディスカッションでは質問を互いにし合うよう心掛けること。		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	倫理学						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この授業では倫理学の対象、方法、その応用について講義形式で紹介する。学習内容に関連したディスカッションを適宜行う。小テストおよびレポートを課す。講義ではまず倫理学の対象と方法および簡単な歴史を説明する、ついで規範性の導出を主な関心とする3つのアプローチを立場ごとに解説する。最後に現代的諸問題を倫理学がどのように扱っているのかを個別の問題ごとにみてゆく。				ねらい 倫理学の各分野の基本的な学説を学び、人間や社会が抱える諸問題を倫理的に考察することができるようになること 到達目標 規範倫理や応用倫理学の代表的な立場や扱われる問題について、基本的な説明ができる。 倫理学上の学説を、現代の具体的問題に適用し吟味検討できる。 いかなる理念や倫理観をもつべきか、みずから吟味できるようになる 倫理的問題を、独断的な信念によらず他者との対話を通じて検討することができる			
キーワード	倫理、功利主義、義務論、徳倫理、生命倫理、環境倫理、動物倫理、食倫理、ビジネス倫理、グローバルジャスティス						
教授方法	講義ののち、ディスカッションを行う。対面とオンラインを併用する。						
履修条件等	特にないが、自分の頭で考えることを放棄したい学生には向かない。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、倫理学について						
2	功利主義						
3	義務論						
4	徳倫理						
5	生命倫理、レポートの書き方						
6	生命倫理						
7							
8	映画と解説（1）						
9	映画と解説（2）						
10	環境倫理						
11	動物倫理						
12	食の倫理						
13	レポートピアレビュー						
14	レポートの返却、レポートの発表						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点	15	受講態度、提出物、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。			小テスト	40	小テストを行い、理解度に応じて評価する
授業レポート	45	授業の達成目標への到達度により評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
資料をあらかじめ配布する場合は、事前に読んでおくこと。学習内容について小テストを行うので、復習をすること。授業で学んだ内容を基にレポートを作成すること。				・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中に行う。			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	普段から時事問題に関心をもち、倫理学と関連する問題にアンテナを張っておくこと。		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	教育学						
担当教員	荒井 聡史			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
子どもと教育に関する心理学的、社会的、哲学的、教育学的な理論を学び、学際的視点から現代社会における教育の課題を検討する。特に1980年代以降の子ども論の理論動向を軸に、高度情報化社会の中の子どもの生活世界の変容や、近代学校制度から始まる学校中心主義的教育言説の構造的問題点についても触れながら、子ども・若者の教育の現代的課題を浮き彫りにし、人間にとっての教育の意味、社会における教育の意味を検討していく。				子どもという存在を学際的な視座から見つめ直すために必要な諸理論を学びながら、子どもや若者を多様な視点から見るとともに、人間にとっての教育の意味と現代社会における子どもをめぐる課題を検討し、受講者が子どもの問題を自らの課題として受け止め、向き合う意欲と態度を身につけることを目標とする。			
キーワード	グローバル化と教育改革、教育の国際比較、情報消費社会と子ども、生涯発達から見た子ども、教育目的論						
教授方法	・zoomビデオ会議アプリケーションを利用した講義を基本とする。 ・プレゼンテーションソフトを利用した講義を中心に、豊富な音楽資料、映像資料を提示し、分かり易く、しかし知的刺激に富んだ授業を心がける。また、受講生には毎回アクション・ペーパーに記入をしてもらい、受講生の主体的、能動的な授業参加を促すとともに、インタラクティブな授業展開を試みる。						
履修条件等	総合教育科目人文系科目として履修可能。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション・日本の教育の何が問題か						
2	現在の教育をめぐる状況 - 日本の学校教育改革の系譜						
3	現在の教育をめぐる状況 - グローバル化と学力観						
4	教育と文化・社会 カリキュラム論的に見た学力観						
5	教育と文化・社会 学校制度の国際比較						
6	情報・消費社会の子どもたち アイデンティティの多元化						
7	情報・消費社会の子どもたち ハイパーメリトクラシー社会						
8	情報・消費社会の子どもたち 現代の大人になりにくさ						
9	子どもが「育つ」とはどういうことか - 古典的心理学の発達観						
10	子どもが「育つ」とはどういうことか 人間の発達の多層性						
11	子どもが「育つ」とはどういうことか - 生涯発達と生きる意味						
12	教育は何のため? - 教育目的の様々な規定						
13	教育は何のため? - 教育と人間の関係						
14	教育は何のため? 「大人になること」の意味						
共通の成績評価基準							
授業内容を主体的に受け止め、教育の課題を自らの課題として捉えて学習を進展できたかを評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポートA	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。		授業レポートB	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。	
授業レポートC	24	授業内容を主体的に受け止め、自らの課題として発展できたかを評価する。		授業内小レポート	28	毎授業後提出するリアクションペーパーを通じて、授業に主体的に参加できたかを評価する	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎授業回の終わりに次回の授業内容に関する資料を配布するので、事前に読んで疑問点等を整理した上で授業に望むこと。 授業内容を主体的に受け止め、自己の課題を確認してレポートに反映すること。				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・メールでの質問も受け付ける。			
教科書・テキスト	特に使用しない。授業内で配布するペーパー資料を中心に授業を進めるので、資料をきちんと整理して保管すること。			受講生に望むこと	授業内容を主体的に受け止め、これからの自己の人生と社会のあり方を展望するための課題を発見する姿勢を望む。		
参考書・参考資料等	第1回授業時に参考文献リストを提示する。また、授業中適宜資料を配布する。			その他・特記事項	授業レポートについては第1回授業時に課題を提示するので、授業内容を通じて得た視点を反映させながら作成してもらう。		

授業科目		言語学					
担当教員	金田一 真澄			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>言葉とは何かという素朴な疑問から入り、身のまわりの言葉の不思議な世界に迫ります。言葉について人はどのように考え、どのように使ってきたのか、言葉に対する人間の飽くなき探究心と好奇心の歴史をたどります。人間の認知や心理など、20世紀中葉までの言語学で敬遠されてきた側面に焦点を当て、人間にとって不可欠な存在となった言葉の仕組みの一端を明らかにしていきます。ときに、生物学、心理学、哲学、社会科学などの周辺の領域についても言及し、関連する日本語の表現や文法現象についても広く観察します。</p> <p>言語へのアプローチの道は様々です。基本的にはサイエンスの立場からアプローチしますが、それは突きつめると「人間とは何か」を探し求める旅でもあります。英語表記 < linguistics ></p>				<p>ふだん気づけなかった言葉の力、特に母語の様々な力の存在について自覚し、認識するようになります。また、言葉を通して、人間とは何かについてのイメージを掴むことができるようになります。そうして言葉の使い方やその背景に注意を払うようになり、母語を大切に扱うようになります。</p> <p>1) 母語の魅力を意識し、大切に扱うようになります。 2) 母語を通して、人間とは何かということ深く考えるようになります。 3) 論理的で深い思考力、豊かな表現力、柔軟な発想力が身につきます。</p>			
キーワード	言語、人間、コミュニケーション、思考力						
教授方法	<p>毎回予習を求めます。あらかじめ調べて理解しておくべき項目を指示しておきますので、必ず準備をして授業に出席して下さい。毎回授業の理解の助けとなるプリントを配付し、1時間余の授業を行い、その後は授業で扱ったテーマについて、様々な視点から意見交換のディスカッションを行います。意見を積極的に発表してもらい、こちらからもコメントを加えます。最後に、コメント用紙にその日の授業について感じたことを記入して提出してもらいます。毎回プリントを配付するのは授業内容を速やかに理解するためです。</p>						
履修条件等	初めて言語学を学ぶ人であること。言葉に関心をもち、自分の意見を積極的に述べる努力をする人を歓迎します。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	言葉と人間の世界 言葉は人間のすべての領域において対象となるもの						
第2回	言葉の力 言葉は単に情報を伝達するための道具ではない						
第3回	言語起源論 言葉はいつのために生まれたものなのか						
第4回	言語決定論 言葉がなくて思考することは可能だろうか						
第5回	言語生得説 幼児は言葉を親から学ぶのか、本性的に言語能力があるのか						
第6回	言語認識論 人の外界認識に言葉はいかに関わるのか						
第7回	カテゴリー論 + レポートの書き方 分類と意味との深い関係について。レポートの書き方						
第8回	意味論 意味はかつて哲学者の深淵な課題だった						
第9回	語用論 発話の意味は状況や話者によって決まる						
第10回	会話論 日常会話は複雑・繊細でA Iにも理解できない						
第11回	メタファ論 メタファの達人は偉大である：アリストテレス						
第12回	レトリック論 言葉のコピーはレトリックからできている						
第13回	言語学の流れ 言語学には流行がある						
第14回	笑い論 + まとめ 笑いとは高度な知性を必要とする						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート 6000字 程度	70%	6000字のレポートを、「レポートの書き方」(第7回)に従って書く。言葉に関するテーマについて独自の考えに具体例や引用を含め、期限内に提出する。		授業中の 発言	20%	積極的に意見を述べるのが求められる。自らの経験や知識に則した考えを分かりやすく述べること。	
コメント 用紙	10%	授業を聞いて感じたこと、考えたことをまとめて書く					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
毎回課題を与えるので、次の授業までに調べてくること				授業の後で、質問・相談に応じます。			
教科書・ テキスト	なし。配付資料で行います。			受講生に 望むこと	<p>授業の最後の20-30分が、学生との意見交換の場となります。その日の講義内容に関連する課題をこちらで与え、それに対して積極的に意見を述べてもらうものです。大勢の前で自分の考えをきちんと分かりやすく述べることは、貴重なプレゼンテーションの場となり、将来グローバル社会で活躍するためにも、役立つはずです。一方で、他の学生の思いもかけない意見に耳を傾けることも、良い勉強になります。答えの出ない問いについて様々な視点から議論することも大切です。こうした意見交換の場に積極的に参加することを切に希望します。</p>		
参考書・ 参考資料等	講義の最後にテーマごとに示します。						

その他・
特記事項

レポートを出さないと、評価がつきません。

授業科目		言語学					
担当教員		中島 基樹		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
主に日本語と英語の言語データを比較することを通して、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論など言語学の各分野を概観し、人間言語の普遍性と多様性について考察する。				<ul style="list-style-type: none"> ・言語学の各分野の研究対象や主な研究事例について理解すること。 ・日本語と英語の共通点と相違点（人間言語の普遍性と多様性）について理解すること。 ・（言語）データを客観的・論理的に分析する力を養うこと。 			
キーワード	日英語比較、言語学、自然科学						
教授方法	第1～10回は教員による講義と受講者（個人またはグループ）による演習を中心に、第11～13回は、受講者による発表を中心に授業を進めます。第1～10回は、毎回授業後に小テストを行い、その日の授業内容の理解度を確認します。						
履修条件等	なし（「言語学」とは独立した内容のため、「言語学」からの受講が可能です。）						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：言語学とは？						
2	音韻論						
3	形態論 複合						
4	形態論 派生						
5	統語論 句構造						
6	統語論 移動と語順						
7	意味論 単語の意味						
8	意味論 文の意味						
9	語用論						
10	言語習得研究						
11	受講者によるグループ発表						
12	受講者によるグループ発表						
13	受講者によるグループ発表						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	授業中の教員の発問に対し、自ら考え、グループでの議論に積極的に参加しているか。		小テスト	30	毎回の授業内容を正しく理解できているか。	
グループ発表	10	関心のあるトピックについて調査を行い、その内容を他者にわかりやすく伝えることができているか。		期末レポート	30	授業内容をふまえて適切な問いを設定し、客観的・論理的な調査・考察を行ってレポートにまとめることができているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して興味を持ったトピックについて、文献等で詳しく調べてみましょう。 ・日頃から身の回りの言語表現・言語事象に対する意識を高めましょう。 				小テストの自由記述欄に記入するか、メール等で連絡してください。			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	文献の内容や教員の解説、他者の意見をそのまま鵜呑みにするのではなく、自分の頭で批判的に考えることを心がけましょう。		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・窪園晴夫(2019)『よくわかる言語学』 ミネルヴァ書房 ・三原健一・高見健一(2013)『日英対照 英語学の基礎』 くらしお出版 その他、授業時に随時紹介します。			その他・特記事項	言語（英語・日本語など）運用能力の向上を目的とした授業ではありません。		

授業科目	文学（日本文学）					
担当教員	二本松 泰子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>わが国の伝統文化のひとつである古典文学は、それと気付かないだけで、実は、現代社会におけるさまざまな文化的営為に依然として影響を与え続けている。本授業では、わが国の代表的な古典作品を取り上げて文学史を概観しつつ、それらが関連する現代社会の文化事象について、具体的な事例を挙げて解説する。それによって、現代に生きる我々の精神文化が、古典文学という伝統文化と深く関わって形作られていることを学ぶ。</p>				<p>ねらい 日本の古典における代表的な作品について文学史的な知識を学びつつ、それが現代社会の精神文化に与えている影響について理解する。</p> <p>到達目標 社会的営為としての文学が果たす役割を理解し、社会における文化の在り方についての正しい見解を身に付けることができる。</p>		
キーワード	古典文化、伝統文化、古典文学					
教授方法	<p>授業は対面とZoomミーティングの交互で行う。毎回の授業では、プリントやパワーポイントの他に、古典文学に関連する動画なども視聴覚教材として使用し、講義する。授業の終わりに講義内容に関する簡単なワークシートを作成してもらい、知識の定着をはかる。ワークシートの記入方法については、その都度、説明する。</p> <p>なお、毎回の授業で紹介する古典作品については、現代語訳のプリントや動画など、高校時代に古典が苦手だった人にも取り組みやすい教材を用いながら内容を説明するので、古典がまったく読めなくても構わない。</p>					
履修条件等	「文学」「文学」の授業も履修することが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	日本古典文学を学ぶ意味 現代社会の精神文化を形成したものの					
2	『古事記』『日本書紀』－神話と現代人の迷信－					
3	『出雲国風土記』の物産記事－郷土誌のはじまり－					
4	『万葉集』と万葉仮名－詩歌の遡源－					
5	『竹取物語』のかぐや姫－正統派ヒロイン像の確立－					
6	『伊勢物語』の在原業平－正統派英雄像の確立－					
7	『源氏物語』の光源氏と紫上－恋愛小説の祖型－					
8	『今昔物語』『宇治拾遺物語』－都市伝説のモチーフ－					
9	『枕草子』『方丈記』『徒然草』－エッセイ・コラムの文芸性－					
10	『平家物語』『太平記』－歴史小説への影響－					
11	『醒睡笑』と咄本－話芸への影響－					
12	『雨月物語』と上田秋成－怪談の娯楽性－					
13	『椿説弓張月』と曲亭馬琴－連載小説の商業的価値－					
14	日本文学のまとめ 古典から近現代文学まで					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	80	授業中に取り上げた作品について、正しい知識が身についているかを評価基準とする。		ワークシート作成	20	授業で取り上げた作品について、正しい知識を以て説明できているかを評価基準とする。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
授業で紹介した作品や同時代の他の作品を自主的に読んでください。				毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はオフィスアワーなどを利用して研究室に来てください。		
教科書・テキスト	古典文学作品のコピーを必要に応じて配布します。			受講生に望むこと	日本人の精神基盤を支える古典文化について理解を深めてください。	
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	授業で扱うすべての古典文学作品については動画でその内容を紹介するほか、現代語訳のプリントを配布しますので、古文が読めなくても授業内容を十分理解できます。この授業を通して、日本の古典文化について身近に感じてくださると嬉しいです。	

授業科目		文学（中国文学）					
担当教員	谷口 眞由実			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
中国文学は三千年近い歴史を有し、日本文学や日本文化への影響も計り知れない。本授業は、中国文学を世界文学の一つである点と日本文学との深い関わりとの両方を軸として捉え直す。中国古典文学の多様なジャンルの作品を取り上げ、味わうと共にその特徴を考察する。また、作者の生涯や作品が誕生した社会的あるいは文学史的背景に着目し、文学に表された人間観、世界観について考える補助線とする。古典文学が人間存在の奥深さや世界観の多様さへと我々をいざない、現代の個人や社会の諸問題のありかを照らす灯となることを理解する。 Literature（Chinese Literature）				世界の文学の中から主に中国の文学、詩や物語、小説などを取り上げて、作品中に描かれた様々な人間ドラマを読み取り、考察する。さまざまなジャンルの文学作品の特徴について知ることを目標とする。特に古典文学の中に脈々と息づく深い人間洞察や豊かな世界観を学び、現代を生きる上での糧となることを理解する。			
キーワード	中国文学、古典文学、詩、小説、人生観、世界観						
教授方法	講義形式で作品を解説・読解しつつ、各時間に取り上げる作品の表現や内容について適宜問題を設定し、学生同士のディスカッションやグループ学習を行いながら進める。学生自身が作品と向き合い、読解を深め、問題について、さまざまな質問や意見を持つように促す。ディスカッションやグループ学習で出された意見をフィードバックすることで、解釈の揺れや広がり、問題への多様なアプローチの仕方、思考方法などを学ぶよすがとする。また、適宜参考文献を紹介し、さらに関心・興味を広げ、人生観や世界観を学ぶ一助とする。						
履修条件等	特になし						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	中国文学の特徴 - 漢語の表現特徴、韻文・散文のさまざまなジャンル、中国最古の詩集『詩経』						
2	『文選』所収「古詩十九首」 - 後漢時代の民衆（または役人）の喜怒哀楽						
3	六朝詩人陶淵明「飲酒二十首」 - 詠いこまれた人生への洞察、アウトサイダーとしての生涯						
4	唐詩の世界 - 「詩中に画有り、画中に詩有り」と評された王維の自然詩、近体詩の成立						
5	唐詩の世界 - 自由奔放な詩想をうたい上げた李白、比喩表現の豊かさ						
6	唐詩の世界 - リアリズムの詩人杜甫、葛藤と社会との対峙の諸相						
7	唐詩の世界 - 白居易「長恨歌」の物語性と表現工夫						
8	唐詩の世界 - 李商隱の「錦瑟」詩における修辭性と情感表出の間						
9	宋詩 - 蘇軾「赤壁の賦」と『三国志』						
10	歴史文学『史記』 - 時代や社会と格闘した人間のドラマ						
11	歴史文学『史記』 - 時代や社会と格闘した人間のドラマ、司馬遷が託した思い						
12	六朝志怪小説『搜神記』 - 不思議な出来事の記録、人間の愚劣さと誠実さ						
13	唐代伝奇小説 - 人間の一生の物語「枕中記」、幸福とはなにか						
14	中国文学のまとめ - 古典から近現代まで						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおかめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	60	授業で取り上げた作品について、個人でさらに調査・考察した結果をレポートにまとめる。参考文献を適宜参考に行っているか、考察に独自性は見えるか		グループワークや課題	40	授業の中でグループでディスカッションやグループ学習を実施する。積極的に参加しているか、ユニークな意見を提出しているか、他の学生の意見を参考	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
次の授業で学ぶプリントに事前に目を通しておくこと。授業後、興味を持った作品について、レポート作成に向けて参考資料を読み込んだり、作品への読解を深めておいてほしい。				授業の中で適宜質問を受ける。また、授業後なども可能。遠慮なく質問してほしい。			
教科書・テキスト	特に使用しない。レジュメプリントを配布する。			受講生に望むこと	グループ学習やディスカッションに積極的に参加してほしい。また、授業で紹介した作品のみでなく、関連作品も積極的に読むようにしてほしい。		
参考書・参考資料等	授業の中で紹介する。			その他・特記事項	授業中は、原則としてパソコンやスマホを使用しないこと。		

授業科目	文学（イギリス文学）				
担当教員	坂 淳一		必修・選択	選択	単位数 2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2学期	授業形態	講義 科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
イギリス文学は、幅広いジャンルと長い伝統を持ち、欧米文学への入り口として好適である。この講座では、イギリス文学史の区分に従って講義と作品鑑賞を行い、イギリス文学の魅力を探ってゆく。詩と小説の鑑賞を交互に行いながらイギリス文学の歴史と魅力について学び、時代背景や文化・思想・宗教などについても学ぶ。英詩の鑑賞には英日対訳教材を、小説の鑑賞には映画と翻訳を活用するが、時には原書も参照する。鑑賞した作品については授業内でディスカッションを行い、相互に理解を深める。また、作品分析のレポートを書き、文化研究の方法を学ぶ。(Literature III (British Literature))			<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス文学の歴史と特徴を知る。 ・文学鑑賞の楽しみ方と文化研究の方法を身に付ける。 ・文学の背景にある文化・思想・宗教についての教養を身に付ける。 		
キーワード	英文学、イギリス文学、英文化、イギリス文化、西欧文化				
教授方法	作品を鑑賞し、その作品について的小レポートを書いてもらい、解説をするという流れで進める。学生の皆さんにも、自分はその作品をどうとらえるかを話し合ってもらい、作品理解を相互に深める。英詩の翻訳にもチャレンジしてもらおう。				
履修条件等	特になし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	授業の進め方の説明、イギリス文学史の概説、古英語期の『ベオウルフ』、中英語期の『カンタベリー物語』について				
2	『ハリー・ポッター』と聖書、アーサー王伝説				
3	シェイクスピアのソネット、レポート提出と解説				
4	『ガリバー旅行記』鑑賞				
5	シェイクスピアの演劇とルネサンスについて				
6	『ガリバー旅行記』レポート提出と解説、古典主義時代について				
7	古典主義とロマン主義（1） アレクザンダー・ポープとワーズワースの詩の鑑賞（ヘロイック・カプレットとバラッド）				
8	ジェイン・オースティン『エマ』鑑賞				
9	古典主義とロマン主義（2） 歴史・庭園文化・ゴシック小説、ブレイクの詩				
10	ロマン主義時代の文学：『エマ』レポート提出とジェイン・オースティンの解説				
11	ディケンズ『クリスマス・キャロル』鑑賞				
12	ヴィクトリア朝英国とその文化について				
13	『クリスマス・キャロル』レポート提出とディケンズの解説				
14	20世紀のイギリス文学：ジェイムズ・ジョイスとヴァージニア・ウルフ				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	70%	4回提出する、鑑賞した作品に関する小レポートの総合評価	授業内の討論やリアクション	20%	授業内におけるディスカッションや、授業後に毎回書くリアクションペーパーの内容による評価。
翻訳	10	英詩の翻訳の出来栄			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
レポート提出が4回あり、英詩の翻訳もあります。作品ならびに関連の文献を読んだり、映画を見るなどして、完成度の高いレポートを書いてください。			質問については、出来るだけ授業中に聞か、メールで問い合わせてください。		
教科書・テキスト	教材・資料はプリントで配布するか、オン・ラインで配信する。		受講生に望むこと	ただ講義を聞くだけではなく、自分の感じたことや気付いたことを積極的に発言してください。	
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で紹介したり、コピーまたはオンラインで配布する。		その他・特記事項	対面授業になるか、Zoomによるオンライン授業になるかで14回の進行は多少変わりますが、基本的な内容は同じです。	

授業科目	歴史(近現代)						
担当教員	大串 潤児			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
長野県の20世紀を主な素材として、一般教養としての「歴史(近現代史)」の基礎知識と歴史学の方法を講義する。				地域にある大学に学ぶ学生として以下の知識・力の育成を目指す。 高等学校までの近現代史の知識をふまえてさらに高度な専門的知識の習得。 地域(長野県)の近現代史 20世紀史の基礎的な知識を学ぶ。 歴史学の基本的な方法論や、時代・社会を分析する方法について学ぶ。			
キーワード	現代史の方法 社会史 民衆史						
教授方法	基本的には配布したレジュメに即した講義を行う。主題によっては映像資料などを活用しつつ、学生との討論を実施する。 (COVID-19感染症流行の状況によって講義形態を変更する場合がある)						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス 授業内容の概要						
2	信州(長野県)とはどのような地域なのか? (1) 前近代史の復習						
3	信州(長野県)とはどのような地域なのか? (2) 近現代史の舞台						
4	近代の出発(1) 幕末維新をどうみるか?						
5	近代の出発(2) 「王政復古」か、「ご一新」か?						
6	学校からみる「近代」(1) 教育とは何だろうか?						
7	学校からみる「近代」(2) 就学率は100%?						
8	女性が働くということ(1) 近代の産業と労働						
9	女性が働くということ(2) 農村のすがた						
10	戦争と軍隊(1) 「軍都」という空間						
11	戦争と軍隊(2) ある兵士の戦場経験:日中戦争						
12	満州移民						
13	松代大本営 アジア太平洋戦争の敗戦と東アジア						
14	"いのち"の近現代史 佐久病院の戦後史						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
試験	100	講義の内容を理解しているか、どうかを問う。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
一連のテーマで講義する機会が多いので、レジュメ記載の参考文献には目を通すことが望ましい。				質問があれば授業後の時間に可能な限り対応する。 その他は以下のメールアドレスに相談のこと。 ogushi@shinshu-u.ac.jp			
教科書・テキスト	毎回の講義でレジュメを配布する。			受講生に望むこと	積極的に授業に臨んでほしい。		
参考書・参考資料等	毎回の講義レジュメで紹介する。			その他・特記事項	高等学校(ないし中学校)の日本史(社会科)教科書が参考になる。		

授業科目	民俗文化論					
担当教員	織田 竜也		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>民俗文化（Folk Culture）は都市文化（Urban Culture）との対比で語られてきた文化現象である。民俗学という分野で研究が行われてきたが、文化人類学、社会学、歴史学、文学との関連も深い。民俗宗教、祭り、伝承、民俗芸能などの事例を紹介しながら、日本の民俗文化について解説する。現代の事象として、デジタルコンテンツやテーマパークに民俗文化がどのように取り込まれているのかを知り、民俗文化の変容について考える。先駆者の仕事から専門的な切り口についても考察する。</p>			<p>民俗文化の現代的な諸相について理解を深める。参拝や祭り、盆や節句などの民俗宗教、神楽や歌舞伎などの民俗芸能の具体的な事例に触れ、民俗文化を変容させる要因について考える。生活習慣としての民俗、忘れられた民俗、新たに創造される民俗に思いを巡らせ、日本人は何を受け継ぎ、何を失ったのかを想像する。日本各地の民俗文化をマネジメントする基礎的な知識を習得することを目標とする。</p>			
キーワード	民俗宗教。民俗芸能。フォークロリズム。観光資源。デジタルコンテンツ。					
教授方法	講義中心の授業。映像資料を使用した学習を踏まえ、民俗文化にまつわる現代社会の問題点や将来像について考える。					
履修条件等	特になし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	民俗文化とは何か					
2	民俗宗教					
3	年中行事					
4	神社と祭り					
5	縁起の民俗文化					
6	南方熊楠の民俗学					
7	柳田国男と折口信夫					
8	神楽と民間伝承					
9	能と紅葉伝説					
10	歌舞伎と紅葉伝説					
11	フォークロリズム					
12	デジタルコンテンツと民俗文化					
13	テーマパークと民俗文化					
14	全体のまとめと期末試験					
共通の成績評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講態度	10			期末試験	90	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
事後学習：映像視聴、読書など、随時指示する。				面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。		
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。	
参考書・参考資料等	岡本太郎『神秘日本』（2015年、角川ソフィア文庫）。			その他・特記事項	特になし。	

授業科目	文化人類学					
担当教員	織田 竜也		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>文化人類学は「文化を通して人間集団を理解する」学問分野である。文化は集団が共有する世界観であり、時代や地域の制約を受けて常に化する。人間が創り出す世界観の構造、他者理解のメカニズム、世界各地の様々な文化現象について解説する。構造主義、文化相対主義、創られた伝統、トリックスター、ポトラッチ、シャーマニズムなどの文化人類学の思考方法や概念を通して世界を見つめた後に「自分とは何か」「人間とは何か」といった普遍的な問いに立ち返る。</p>				<p>世界各地の文化を学び、異文化理解に必要な知識を習得する。文化人類学の基礎的な思考方法に親しむことで、異質な他者に対して、共感しなくても理解する柔軟な思考を育む。多様な人間の暮らし、習慣、感じ方、考え方などに触れ、あらためて自分とは何かを考える。既存の価値観から距離を置き、新たな世界の見方を習得することを目標とする。</p>		
キーワード	異文化理解。構造主義。創られた伝統。トリックスター。複数の経済。					
教授方法	講義中心の授業。映像資料を使用した学習を踏まえ、世界の文化にまつわる現代社会の問題点や将来像について考える。					
履修条件等	特になし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	イントロダクション、世界観と他者					
2	構造主義					
3	経済と文化					
4	宗教と死生観					
5	文化相対主義					
6	国家と王権					
7	創られた伝統					
8	トリックスター					
9	老いと病い					
10	スペインの巡礼					
11	失われた文明					
12	経済人類学					
13	クラとポトラッチ					
14	全体のまとめ、期末試験					
共通の成績評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
受講態度	10			期末試験	90	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
事後学習：映像視聴、読書など、随時指示する。				面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。		
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	口頭の講義内容をノートするように指導する。試験問題はそこから出題する。	
参考書・参考資料等	山口昌男『学問の春：知と遊びの10講義』（2009年、平凡社新書）。			その他・特記事項	特になし。	

授業科目	音楽						
担当教員	大南 匠			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	国際関係論						
担当教員	駒村 哲			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
国際関係の歴史的形成と展開に関する基本的知識を得るとともに、現代国際社会が直面する諸問題を解決する手法を学ぶ。				学際的かつ総合的学問である国際関係論について理解できるようになる。現代国際関係の諸問題を解決する手がかりを自ら見つけることができるようになる。			
キーワード	国民国家、民族、冷戦						
教授方法	講義(プリント配布)とともにビデオをみる。						
履修条件等	歴史学及び政治学関係の科目を履修することが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	国際関係論とは何か						
2	国民国家とは何か						
3	国際社会とは何か						
4	第1次世界大戦						
5	1920年代のヨーロッパ						
6	1920年代のアジア						
7	1930年代のヨーロッパ						
8	1930年代のアジア						
9	第2次世界大戦－ヨーロッパ戦争						
10	第2次世界大戦－アジア・太平洋戦争						
11	冷戦とは何か－アメリカにおける研究						
12	冷戦とは何か－ロシアにおける研究						
13	国際関係論における理論研究						
14	21世紀の国際関係論						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	25%	論理的説明がなされている		期末試験	25%	歴史的事実を正確に理解している	
期末試験	25%	オリジナルな見解が説得力を有している		期末試験	25%	講義内容を踏まえて論述している	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前にテキストを読み、問題関心を高め、事後はテキストを読み返す。				講義の前後で対応する。			
教科書・テキスト	『国際紛争』(ジョセフ・ナイ)有斐閣			受講生に望むこと	主体的かつ積極的に取り組む。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	社会学					
担当教員	築山 秀夫		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>この科目は、総合教育科目のうち「社会と産業」の科目に位置づけられている。社会学の立場から、現代社会の構造と特徴について講義する。現代社会を、社会学的パースペクティブを用いて分析し、考察できる能力を培う。</p> <p>まず、社会学の方法と視座、社会学が誕生した歴史的背景について学ぶ。次に、近代社会、リスク社会の特質について、学ぶ。そして、社会的に重要視され、受講生が関心を持つ問題を幾つか取り上げて、そのメカニズムや構造的背景について考察する。特に、身近な分野としての家族、少子化、ジェンダー、グローバリゼーション等について、社会学的に接近し、履修者間の議論（グループワークと発表）を通じて理解を深める。</p> <p>英語表記「Sociology」</p>			<p>身近で個人的な問題に見えるような現象を、より広い社会的文脈のなかで捉え直し、理解することのできる能力を身に付けることをねらいとする。さらには、他者によって構築された自己自身を捉え、デフォルト的なものの見方をアンインストールし、社会をこれまでと違う視点で眺めることで、そこに潜む構造を捉える批判的な思考法と、それをより良い社会の構築に結びつける構想力を身に付けより良い社会の構築に必要な条件を探求することをねらいとし、以下を到達目標とする。</p> <p>社会学の方法や視座、社会学的想像力とは何かを理解する。 社会学の歴史について理解する。 社会学の領域や多様性について理解する。 社会学が対象としている近代社会の特徴を理解する。 自分で社会的問題を捉え、それについて、社会学的な分析をすることができ。</p>			
キーワード	社会学的想像力、近代社会、少子高齢化、ジェンダー、グローバリゼーション					
教授方法	<p>基本は、講義形式で行い、その上、学生による能動的な学修も組み込む。受講者をグループに分け、いくつかのテーマについて、グループ内でディスカッションをした後に、意見の発表をしてもらう。コロナ禍への対応のために、当初一週間は、オンライン講義とする。また、その後も、オンライン講義と対面講義を交互に実施する。小テスト及び期末試験は対面とする。よって、授業計画の多少の変更がある。小テストの実施については、実施する前の講義でアナウンスをする。学生諸君の興味関心に対応するために、講義で取り扱うテーマを変更することがある。</p>					
履修条件等	この科目は、社会科学の考え方の基礎的な習得をねらっているため、なるべく一年次に受講をして頂きたい。本授業を履修する前に受講する必要のある科目はない。初回で、この講義の進め方について説明するので、初回から出席することが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション:授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする。 ・受講生の属性を知るために、Formsによる簡単な調査を実施する。グループワーク 受講生をグループに分けて、「社会的」なるものとは何					
2	社会学の方法と視座:社会学の方法と社会学の魅力、社会学的想像力について解説する。 第一回で調査した結果を共有する。					
3	社会科学および社会学の誕生と歴史的背景、科学史における位置づけについて解説する。					
4	社会学の領域と多様性:社会学の領域、社会学の多様性(連字符社会学)について解説する。 第1～4回までの内容についての理解度を確認するために、小テストを実施する。					
5	近代社会の特質:国民国家、資本主義、階級社会など近代社会の特質について解説する。					
6	リスク社会としての現代:リスク社会としての現代社会の特質について解説する。 第5～6回までの内容についての理解度を確認するために、小テストを実施する。					
7	グループワーク 少子化の背景と原因について、グループに分かれて議論する。 テーマに関するレポートを提出する					
8	現代日本の家族と少子化:家族の構造や機能、家族の現状を諸データより分析し、解説する					
9	現代日本の家族と少子化:家族の構造や機能、家族の現状を諸データより分析し、解説する					
10	グループワーク 日本における社会的格差について、グループに分かれて議論する。 テーマに関するレポートを提出する。					
11	日本における社会的格差、福祉制度の課題について解説する。					
12	グループワーク グローバリゼーションについて、グループに分かれて議論する。 テーマに関するレポートを提出する。					
13	グローバリゼーションについて、その現状と課題について、解説する。					
14	まとめ:これまでの授業で学んだことを振り返り、社会学的に捉えることは何かを確認する。					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記)	50	選択・記述とし、社会学の基礎的知識を理解し、社会学的視点で社会事象の説明ができれば、優とする。試験が60点以上なければ、他の成績が悪くても		小テスト	20	第4回と第6回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。
授業レポート	30	グループワークを実施するうちの3回の講義時に、それぞれレポートを(10点満点)提出していただき、評価する。全てのレポートを提出していることが及				
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応		
毎回、次回の講義に必要な資料等を配布するので、次回の講義までに必ず熟読しておくこと。事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、参考文献の当該箇所を読むなどして、理解の深化に努める。フォローアップ課題に答える。				質問は、授業後及びオフィスアワー時に受け付ける。また、毎回、講義の後に、リアクションペーパーを書いて頂くので、そちらに質問を書いて頂ければ、次回の講義時に解答する。但し、自分のできる限り調べる努力をすること。		
教科書・テキスト	教科書は特になし。毎回、次回以降の授業のレジュメ・資料を配布する。			受講生に望むこと	<p>授業はパワーポイントによる講義を中心に行うが、受講生にはノートを取って学習することを求める。</p> <p>グループワークやディスカッションに積極的に取り組むこと。 日常的に新聞等のマス・メディアが発信する情報を摂取し、現代社会に関する多様な情報を獲得すること。</p>	

参考書・ 参考資料等	参考文献に関しては、講義内でその都度、適宜紹介する。また、必要な参考資料を講義時に配布する。	その他・ 特記事項	自ら考え、学び、知的好奇心を持ち続けることを期待する。意見を主張するときには、必ずエビデンスを示すことを心掛けてほしい。
---------------	--	--------------	--

授業科目		憲法									
担当教員		関 良徳		必修・選択		選択	単位数	2単位			
履修年次		1・2・3・4年	開講学期		1・2学期	授業形態		講義	科目ナバリング		
対象学生		全学科共通		関連資格		備考					
授業の概要					到達目標						
授業の前半では、日本国憲法の基本原理や様々な種類の人権について概説し、それらの特性や問題点について検討します。後半では、人権保障のために設けられている統治機構の各機能について概説します。					この授業の目標は、私たちの身の周りで生じている様々な憲法上の問題を手掛かりに、日本国憲法の基本原理（民主主義・平和主義・基本的人権の尊重）について理解することです。具体的には、各条文の解釈を通じてその意味を理解すると同時に、判例を適宜参照することで実際の事件と憲法とのかかわりについて考察できるようになることです。						
キーワード		人権 自由 平等 社会 国家									
教授方法		講義形式とディスカッション形式を組み合わせています。必要に応じてオンラインでの授業を行います。									
履修条件等		この授業を履修するためには、毎回の予習と復習が必要です。									
授 業 計 画											
実施回		授業内容									
1		憲法と立憲主義：憲法についての基礎的な概念やその中核を構成する立憲主義の考え方を説明する。									
2		日本国憲法の成立：大日本帝国憲法から現憲法成立までの歴史的過程及びその正統性を概説する。									
3		民主主義と天皇制：憲法前文、民主主義及び天皇制について説明する。									
4		平和主義の原理：第9条の解釈及び自衛隊問題について説明し、改憲論について討論する。									
5		基本的人権の原理：人権の諸形式及び人権の主体等について説明するとともに、人権の限界について考える。									
6		包括的基本権と法の下での平等：第13条及び第14条について説明し、関連する判例を検討する。									
7		自由権 - 内心の自由：思想良心、信教、学問の各自由について説明し、関連する判例を検討する。									
8		自由権 - 表現の自由：表現の自由や知る権利について、判例検討を通じてその限界を考える。									
9		自由権 - 人身の自由：刑事司法制度と人身の自由について説明を行う。									
10		自由権 - 経済的自由：職業選択の自由や財産権について説明を行う。									
11		参政権と社会権：参政権、生存権、教育を受ける権利、労働基本権について概説する。									
12		統治機構 - 国会：国会の権能や法律の制定過程について説明する。									
13		統治機構 - 内閣：内閣の権能や議院内閣制（大統領制との比較を含む）などについて概説する。									
14		統治機構 - 裁判所・地方自治：裁判所の役割や司法権の独立、地方自治の制度について説明する。									
共通の成績評価基準											
授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「達成目標の水準にある」、応用問題が解ければ「それよりもやや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と評価されます。											
成績評価方法と基準											
評価項目		割合		評価基準		評価項目		割合		評価基準	
1		60		期末試験		2		40		予習・復習課題	
授業外における学習（事前・事後学習等）						質問や相談への対応					
毎回の授業時に短いレポート課題を出します。この課題は授業の事後学習であると同時に、次回の授業の事前学習となる内容になっています。次回授業の際に提出する必要があります。						・授業時間内に質問・相談を受け付けます。 ・メールでの質問や相談も受け付けています。					
教科書・テキスト		使用しません。毎回レジュメを配布します。				受講生に望むこと		憲法が身近な問題と関わっていることを十分に理解していただきたいと思います。			
参考書・参考資料等		『論点 日本国憲法（第2版）』東京法令出版。その他は授業時間内に適宜紹介します。				その他・特記事項		授業内で行うディスカッションに積極的に参加して下さい。			

授業科目	経済学入門						
担当教員	中条 潮			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この入門講座では、海外実地研修（海外プログラム）の研修国とグローバルマネジメント学部のビジネスビジット先を例に、経済学の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性をわかりやすく説明します。				主たる目標は、以下の2つです。 1) 海外実地研修（海外プログラム）の研修国の特徴とビジネスビジットのねらいを理解すること、 2) 専門科目としての「ミクロ経済学」で体系的にミクロ経済学を学ぶ準備段階として、日本と世界の基礎的な経済事象を理解することによって、政策のありかたや経営問題を考える際の基本となる「経済学的な物の見方」を身に付けること。			
キーワード	海外プログラム 経済学 経営の基礎						
教授方法	教授方法 7回の短い授業であり、かつ、履修者が多い授業ですので、時間のかかる質疑応答を実施する余地がなく、基本的には講義スタイルとします。 この授業の実施方法は、Covid-19の状況次第で、対面とオンライン（ライブ）の両方の可能性があります。対面授業の場合も、オンライン授業と同様の形態で教室で授業をしますので、PCとヘッドセットを持参して授業にのぞんでください。						
履修条件等	全学部全学年の学生が履修可能です。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	海外実地研修についての私の考え方と本講義の視点 ～大学では何を学ぶべきか～						
2	ミクロ経済学のごくごく基礎知識～経済事象を読み解くために～ 1. 経済学の目標は社会全体の利益の最大化 2. 経済学の「効率」の概念						
3	ミクロ経済学のごくごく基礎知識～経済事象を読み解くために～ 3. 市場メカニズムの役割と限界						
4	海外プログラムとの関係で考える経済の諸相 1. 海外プログラムのbusiness visit sitesと学んでもらいたい経済の基礎						
5	海外プログラムとの関係で考える経済の諸相 4. 自由貿易vs閉鎖国家						
6	海外プログラムとの関係で考える経済の諸相 6. 「外部不経済の内部化」と「企業の社会的責任」はどう違う？～CSR、SDGへの疑問～						
7	海外プログラムとの関係で考える経済の諸相 8. 経済改革、自由、高福祉～北欧モデルとニュージーランドの改革から学ぶ～						
共通の成績評価基準							
（全学共通）【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
評価項目 :定期試験の予定	100	必要な基礎用語、経済事象、余剰分析について、筆記試験なら50%、レポートの場合は80%理解しているとみなせば合格とします。	授業中の質問や回答	不定	授業を活性化させる質問や回答の場合は、その程度に応じて加点することがあります。		
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：学生ポータルにupされた授業のレジメを読んで、わからない用語は自分で調べておくこと。 事後学習：授業中に登場した用語でわからなかったものがあれば自分で調べること。				質問は、なるべく、授業中をお願いします。 授業前後の質問は1分以内で回答できる質問だけにしてください。 上記で対応が難しい質問や相談については、メールにてアポをとっていただければ可能な限り対応します。			
教科書・テキスト	教科書は使用しません。ポータルに授業資料をupします。			受講生に望むこと	学生として当然必要な学習態度以外、特に求めません。		
参考書・参考資料等	自分で探すこと。ただし、参考書が必要なほどの高度の内容は講義しません。			その他・特記事項	グローバルマネジメント学部の「海外実地研修」を履修する学生は、この「経済学入門」を履修済みであることが望ましいです。		

授業科目		経済学入門					
担当教員	穴山 悌三			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>経済入門 では「マクロ経済学」の初歩的基礎的な手法を用いながら、日本と世界の経済現象をわかりやすく解説し、政策のあり方や経営問題を考える際の基本となる「経済学的な物の見方」の理解を得ることを目標とします。 英語表記「Introduction to Economics」</p>				<p>この授業を通じて、次のことができるようになります。 1) グローバル化する社会と経済を理解するために、家計、企業、国家の役割を統合した大きな視点から分析する「マクロ経済学」の入門的な基礎知識を理解することができる。 2) すべての社会・経済活動の基礎となる現代の経済事情や経営環境などについて、主としてマクロ経済学の視点で基礎的な説明ができる。</p>			
キーワード	マクロ経済学、経済事情、経営環境						
教授方法	2学期開講科目のため、本年度はライブ形式およびオンデマンド形式を併用するオンライン型の授業になります。主にパワーポイントを用いた講義を行います。履修生の理解度の確認や意見を求める機会をできるだけ設け、ライブ授業でフィードバックするなど、双方向性にも留意します。						
履修条件等	経済学入門 と はセット科目です。両方とも履修することが望ましいです。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	6/9 イントロダクションー講義の目的、ミクロとマクロ、経済学の考え方 (教科書第 部イントロダクション)						
2	6/16 経済活動の捉え方 - 国民所得、生計費、失業 (教科書第8章、第9章、第10章付論)						
3	6/23 生産と成長 (教科書第10章)						
4	6/30 貯蓄、投資と金融システム (教科書第11章)						
5	7/7 総需要と総供給 (教科書第12章)						
6	7/14 オープン・エコノミー (教科書第13章)						
7	7/21 政策論評、授業のまとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート試験	50	レポート提出型の試験を行い、点数評価します。授業の例題レベルの問題が解ければ100点満点中70～79点、応用問題が解ければ同80点以上、授業内			平常点	50	授業中に課す短いクイズやレポートなどを通じて、授業への参加態度、理解度、意見表明等での貢献度を総合的に評価します。
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
授業計画に記す教科書の当該箇所に予め目を通してください (授業の理解度に応じて進捗は若干変化する可能性がありますので当該箇所は適宜授業中に指示します)。授業内容に関連するテーマについて毎回クイズや短いレポートを課しますので、授業後に必ず回答してください。				オンライン型の授業となるため、質問や相談などはメール等で受け付けます。なお類似の質問等に対しては一括回答をする場合があります。			
教科書・テキスト	N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之他訳 [2019] 『マンキュー入門経済学 (第3版)』、東洋経済新報社。ISBN:978-4-492-31521-7 *テキストを購入しない方も授業理解ができるように努めますが、手元で参照することが理解の深化・定着に有用です。			受講生に望むこと	分かりやすく現実に即した授業を心掛けます。将来社会に出てからの常識や、経済学系科目の履修の前提となりますから、是非履修して下さい。授業内容に関する積極的な意見等についても期待しています。		
参考書・参考資料等	以下の参考図書は、予め全員が購入する必要はありません。授業開始後の各自の関心に応じて、適宜必要な箇所を参照すると良いでしょう。 ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山道広他訳 [2019] 『クルーグマンマクロ経済学 (第2版)』、東洋経済新報社。ISBN:978-4-492-31490-6 N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之他訳 [2019] 『マンキュー経済学 マクロ編 (第4版)』、東洋経済新報社。ISBN:978-4-492-31520-0 吉川洋 [2017] 『現代経済学入門 マクロ経済学 (第4版)』、岩波書店。ISBN:978-4-00-026656-7 その他、必要に応じて授業中に適宜指示します。			その他・特記事項	本授業は大人数のオンライン型の授業になるため、万が一授業中に通信不通などの不具合が生じた場合は授業ポータルに対応等を通知しますので指示に従ってください。その他についても臨機応変に対応する場合がありますので、授業関係のお知らせには注意していただきます。 将来あるいは並行して「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「海外実地研修」、「国際交通観光ビジネス入門」、「公共経済学」、「公共経済学」、「グローバル経済論」を履修する学生、また、「航空観光公共経済プログラム」への参加を希望する学生は、「経済入門 および」を履修しないしは履修済であることが求められます。		

授業科目		社会保障入門					
担当教員	清水 浩和			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>入門編である本講義では、まずは身の回りの年金、医療、雇用、介護などの具体的なテーマを取り扱う。わが国と諸外国の社会保障の諸問題に関するデータや事例を紹介することから出発し、「なぜそうなのか」「そもそもどうだったのか」といった根源的な問題の検討を行う。こうした検討を行うことで、社会保障の理念・制度・実態を具体的に学ぶとともに、これらを体系的に理解する方法を示す。全体として、社会保障を学ぶ面白さや楽しさを伝えることに最も重点を置くこととする。</p> <p>英語表記「Introduction to Social Security」</p>				<p>本講義では、身の回りの社会保障の問題について「なぜそうなのか」「そもそもどうだったのか」といった疑問を持つことから出発する。自分の身の回りの医療や年金などの問題に対して疑問を持ち、その歴史的経緯や原因を考察することで、受講後も生活に役立つ社会保障の基礎知識の修得をはかるとともに、それらの知識を基に自ら考え表現する能力を養う。</p>			
キーワード	社会保障の基礎知識の実践的活用、社会保障の財政分析（歴史的把握と国際比較）、福祉と社会保障の関係、						
教授方法	毎回のスライド（講義後に配布予定：板書）に沿って講義を進めるが、ノートを自分なりに取ることが望ましい。また、質問やコメント（チャットやコメントシート等）を適宜募る。受講生諸君の積極的な参加を歓迎する。						
履修条件等	特になし。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	なぜ社会保障を学ぶのか - コロナ渦の中で考える - : 巨大な「パズル」を解く国際比較と歴史的視点						
2	なぜ社会保障を国家が行うのか：市場経済と国家の役割の変容						
3	なぜ社会保障を国家が行うのか：市場経済と国家の役割の変容						
4	社会保障は財政危機を招くのか、消費税は社会保障に使われているのか：社会保障の給付と負担を財政で読み解く						
5	コロナ禍に医療はどのように対応したのか：医療保障（医療保険等）の理念と実態						
6	日本の医療は優れているのか：医療保障（医療保険等）の理念と実態						
7	老後の介護はもう安心なのか：介護保障（介護保険等）の理念と実態						
8	老後の費用はどのくらいかかるのか：介護保障（介護保険等）の理念と実態						
9	貧困はどこで生じているのか：雇用保障（失業保険等）の理念と実態						
10	より良い仕事に就くにはどうすれば良いのか：雇用保障（失業保険等）の理念と実態						
11	生活保護を受ける人は本当に怠け者か：公的扶助（生活保護等）の理念と実態						
12	なぜうちの親の年金はこうも少ないのか：所得保障（年金保険等）の理念と実態						
13	なぜ保育所に子どもを入れられないのか：児童保障（子ども・子育て支援制度等）の理念と実態						
14	（総括）社会保障を体系的に考える：ライフサイクルを通した社会保障の考え方						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	70	論理展開の的確さ、記述内容の面白さ、授業内容の理解度、キーワードの記述の正確さ等を主な評価基準とする。剽窃は厳禁。		上記以外の評価	30	意欲的な講義への参加、講義への質問、コメントペーパー等の内容を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業後に配布するスライドや自分のノートを繰り返し復習すること。スライドではアニメーションも多用しているため、実際に自分の手で動かしてみしてほしい。その上で、毎回の講義への自分なりの感想や考えをコメントシートで実際に書いてみてほしい。これらができれば、大きな学習効果が得られる。				電子メールやコメントペーパーで受け付ける。授業中もチャットで適宜受け付ける。これらの質問への回答は講義中にできるだけしていく予定である。 (メールアドレス) 18000764@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	各回の講義で紹介する。			受講生に望むこと	講義中はスライドにはない話も多くするため、講義ノートをしっかりとってほしい。自分でノートを取り、重要なポイントと疑問点をスライドで復習をすると効果的な学習を進められる。		
参考書・参考資料等	各回の講義で紹介する。			その他・特記事項	受講生諸君の知的好奇心にできるだけ応えられる講義を行いたい。講義への諸君の積極的な参加を期待する。		

授業科目	数学的発想						
担当教員	鈴木 章斗			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	生命科学					
担当教員	杉山 英子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>変化が激しくストレスに晒されやすい現代にあって、私たちを取り巻く自然への深い関心と理解を培い、生涯に亘って精神と身体を健康に維持できるように、生物の生命現象を分子の動きを追いながら学び、疾患や失調という形で表出されてくる個体や集団レベルでの課題を理解できるようにする。具体的には、生体構成物質の構造や性質ならびに細胞や器官の働き、ヒトの健康と密接に関わる栄養、ホメオスタシス、生殖、発生等における基本的な物質の流れについて学ぶ。さらに、遺伝子操作技術の発展が人間社会に及ぼす影響などを学ぶ。</p>				<p>「生命のしくみ」を一通り理解し、現代社会に急速に拡散・浸透しつつある生命科学の知識や技術をいかに利用し育てていくかを判断することができる力を養う。</p>		
キーワード	細胞、炭水化物、脂質、タンパク質・アミノ酸、核酸、遺伝子、ウイルス、栄養、ホルモン、免疫					
教授方法	講義。テキストとスライドを併用する。オンライン授業と対面授業の併用のため、より化学的要素の強い内容を対面授業に配置した。					
履修条件等	高校の「生物基礎」を履修してあること。化学基礎も履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション（「生物学」から「生命科学」へ 生物学の歴史）					
2	生命とは何か、生物とはどのようなものか（「生命」の基本概念）					
3	生命の最小単位：Cell（細胞の構造と細胞内小器官の役割）					
4	からだをつくる分子（糖質・タンパク質・脂質・無機塩・核酸）					
5	細胞と遺伝子（1）（細胞増殖とDNA複製）					
6	細胞と遺伝子（2）（genomeと gene expression）					
7	動物の発生と細胞分化					
8	生命活動とエネルギー（エネルギーの通貨ATPとミトコンドリア）					
9	ホメオスタシスと栄養（1）（飢餓応答と摂食の重要性）					
10	ホメオスタシスと栄養（2）（生体リズムと食事）					
11	ホメオスタシスと栄養（3）（摂食とホルモン）					
12	免疫（自己による非自己の認識に果たす糖鎖の役割）					
13	遺伝子操作技術と人間社会					
14	まとめ					
共通の成績評価基準						
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	60	思考力、表現力、読解力	筆記試験 (Glexa)	40	論理的思考力、表現力、理解力	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
生物系の科学ニュースや新書を読むように心がけてほしい。			学習支援システム (Glexa) やメールで受け付け、回答します。			
教科書・テキスト	『ヒトを理解するための生物学』八杉貞雄著（裳華房）		受講生に望むこと	授業に集中してほしい。		
参考書・参考資料等	参考書：『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著（講談社）他、授業の中で紹介する。		その他・特記事項	『生物と無生物のあいだ』を必ず読んでもらいます。		

授業科目		プログラミング基礎							
担当教員		萱津 理佳		必修・選択		選択	単位数	2単位	
履修年次		2・3・4年	開講学期	3・4学期		授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生		全学科共通	関連資格			備考			
授業の概要					到達目標				
<p>アルゴリズムの記述、変数や制御構造、プログラミングの基礎を学ぶことにより、コンピュータの原理解を深めるとともに、論理的な思考、問題解決能力を養う。次に、情報の発信や表現に関わるより発展的な内容を学習する。まず、WWWの仕組みを理解し、HTMLを使った演習、ホームページビルダーを利用したWebサイトの作成を通して情報発信力、情報表現力を身につける。</p>					<p>アルゴリズム・プログラミングの基礎を学ぶことにより、論理的な思考および問題解決能力を養う。また、WWWの仕組みを理解し、インターネット上で情報発信、情報表現力を身につける。</p>				
キーワード		プログラミング的思考、Webに関する基礎（HTML、CSS、JavaScript）、Webサイト作成							
教授方法		講義と演習を織り交ぜた形式。受講者がPCを操作しながら授業を進める。							
履修条件等		特になし							
授業計画									
実施回	授業内容								
1	ガイダンス、プログラム・プログラミング・プログラミング的思考とは								
2	プログラミング的思考と論理的思考、論理的思考とアルゴリズム								
3	アルゴリズムとプログラミング、プログラムの基本構造について、アプリ教材を利用したプログラミング的思考のレッスン								
4	ビジュアルプログラミング言語を利用したプログラミング								
5	WWWの基礎知識、HTMLでのWebページ作成（1）								
6	HTMLでのWebページ作成（2）、CSSの基礎								
7	JavaScriptでプログラミング（1） 逐次処理								
8	JavaScriptでプログラミング（2） 選択処理と繰り返し処理								
9	JavaScriptでプログラミング（3） 総合問題								
10	Webサイト作成（1）ホームページビルダー演習（トップページ、サブページの作成）								
11	Webサイト作成（2）ホームページビルダー演習（リンクの作成、サイトの転送）								
12	課題作成（1）								
13	課題作成（2）								
14	作品発表会&相互評価								
共通の成績評価基準									
成績評価方法と基準									
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準		
課題レポート	50	課題を正確に理解し、提出期限を守って提出できている。課題の理解度および完成度。			その他の授業評価	50	授業に意欲的に取り組んでいる。		
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応				
<p>授業で指定された課題に取り組むこと。授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp 				
教科書・テキスト					受講生に望むこと	<p>授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 生活のいろいろな場面でプログラミング的思考を発揮してみましょう！</p>			
参考書・参考資料等		授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	<p>PC教室キャパシティの都合上、定員を30名とします。受講希望者は履修登録の上、第1回の授業に必ず集まって下さい。履修登録者が30名を超えた場合は、第1回授業の冒頭で履修の抽選を行います。感染対策のため、定員の上限を26名と変更します。</p>			

授業科目		IT活用論						
担当教員		石田 幸央			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期		授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格			備考			
授業の概要					到達目標			
<p>基本的にオンラインでの授業となります。ITとはどんなものか、どのように活用されているか、国内及び世界の事例を交えて学びます。この1年間でITを活用しながらの授業が一般化する中で、ますます重要性を増してきたスマホやパソコン、タブレットの利用方法をまず伝えます。インターネットが課題解決した世界の事例、コロナウイルスによって変わった世界、ビッグデータ解析の重要性、AIの活用事例を学びます。SNS、ショッピング、会員制無制限利用サービス(サブスク)、SDGsなどとITとの関わりやスマホ決済やシェアリングエコノミー、IoTの実例を学びます。情報発信のための画像や映像などの要素制作を実践し、活用できるようにします。すべての講義において学生とインタラクティブに対話し、対象のサービスを実際に使いながら進め、試しに作ってみるなど、実践的な講義を目指します。いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話していただきます。自分の頭で考えて判断、行動し、ITを活用できる学生の育成を狙いとしています。なお、基本的にインターネットで入手できる以上のことは学ばないため、すでにITを駆使して情報源として有意義に活用できている学生は対象外となります。また、本授業ではITの世界を幅広く学ぶため、その分専門性の高さや学術的・技術的な深さを求める学生には物足りない内容になるので対象外とします。</p>					<p>ITやテクノロジーへの苦手意識の克服 さまざまな活動の中で自らホームページやSNS、デジタル化の担当となる意欲的な社会人になる準備ができること</p>			
キーワード	IT、テクノロジー、デジタル、スマホ、パソコン、タブレット、インターネット、ビッグデータ、AI、シェアリングエコノミー、対話							
教授方法	<p>プレゼンテーション資料を使った授業と演習・実習 次の授業に対して予習し、その内容をスモールグループで共有し、自らの言葉で教え、仲間から学び、知識を広げる。また、授業終了後に授業を通じて学んだこと、考えたことをレポートすることを求めます。 以下「授業内容」に記載のSPはショートプレゼン、Rはレポートのある日です。</p>							
履修条件等	PC、タブレット、スマホ等の情報端末持参 WiFiでのインターネット接続必須							
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
1	第1回・講義の概要、ITって怖い？便利？ ITの理解とインターネットサービス、ビジネスモデル スマホからPCまでIT機器の選び方							
2	第2回・インターネットが課題を解決した事例紹介、サービス設計 世界から見た日本のIT事情(GAFA, BAT) SP/R							
3	第3回・コロナウイルスが変えた世界 世界での課題解決の事例 国内で明らかになった課題とその解決 SP/R							
4	第4回・データの理解と分析 ビッグデータでわかること、AIってなんだ？ 機械学習、ディープラーニング、統計、グラフ分析、データグラフィック SP							
5	第5回・検索しないで探す SNSの過去現在未来 SNSとの付き合い方、メリットとデメリット、リスク、タブー SP							
6	第6回・商品を買う、売る ストアの開店、商品の魅せ方 SNSの活用、写真や動画の撮り方 SP/R							
7	第7回・IDと会員サービス プレミアムとポイントとサブスクモデル 変わる音楽や映像の世界 SP/R							
8	第8回・世界、地球、環境のこと 深く関わるITとSDGs SP/R							
9	第9回・プログラミングの要らないプログラム？ ツール、アプリで作るホームページ、システム開発、アプリ開発							
10	第10回・情報発信のためのクリエイティブ制作 画像・映像・音楽の制作と編集方法							
11	第11回・変革を遂げるお金の未来 デジタルマネー、スマホ決済の広がり、Fintechの今とこれから SP/R							
12	第12回・シェアリングエコノミー 「空き」の活用 小さな余りから大きな資源へ 群衆の叡智 SP/R							
13	第13回・ドローン、センサー、AIの活用、工業・農業・漁業・サービス業での実例 IoTの今とこれから SP							
14	第14回・まとめ これからのIT人材 圧倒的に足りないIT実務人材 ITを恐れない人材になるには？							
共通の成績評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
1	40	オープニングピッチ(ショートプレゼン)参加 4点 x 10回			2	35	レポート提出 x 7回 期限内で5点	
3	15	最終レポート提出			4	10	積極点 発言、発表等で加算	
授業外における学習(事前・事後学習等)					質問や相談への対応			

	次回授業の予習、調べ物 授業後に学習内容のレポート	随時可能 メールでの質問、相談なども遠慮なくしてください。
教科書・ テキスト	なし	受講生に 望むこと 積極的に授業での取り組みに参加し、内容に応じて積極的に発言、コミュニケーションすることを望みます。
参考書・ 参考資料等	インターネット上のあらゆる情報	その他・ 特記事項 楽しみながら対話し、学びましょう！

授業科目	発信力ゼミ（10組）						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義ノートの取り方、図書館やウェブでの情報収集、専門書・論文を読む際のポイント、レポートの書き方、プレゼンテーションなどの具体的な手法について、訓練を行う。クラス内でのディスカッションやグループワークを通じて、情報の収集力や理解力、日本語での表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり、語り合ったりすることでキャリアデザインにも関心を高める。学年末には、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。とくに講義ノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的手法を習得する。学んだことや自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	発信力、情報収集、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッション、グループワーク、個人研究。レポート作成、授業内プレゼンテーション、年度末の合同発表会を通じて、受講者全員が発信力を高めることができるような内容とする。						
履修条件等	前半は10組に所属すると決められていること。後半は10組で学ぶことを希望すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	大学で学ぶということ。大学生活におけるメンタルヘルスについて						
2	卒業後のキャリアと大学における学びと生活						
3	卒業後のキャリアと大学における学びと生活						
4	講義ノートの取り方						
5	図書館での情報収集の方法						
6	インターネットでの情報収集の方法						
7	レポートの書き方						
8	レポートの書き方						
9	パワーポイントを使った発表						
10	パワーポイントを使った発表						
11	時事問題に関するディスカッション						
12	後半のクラスについて						
13	「信州の観光を考える」クラス・授業の進め方						
14	担当する観光地に関する基本情報の発表						
15	担当する観光地における宿泊施設の紹介						
16	担当する観光地における飲食店の紹介						
17	担当する観光地におけるレジャー施設の紹介						
18	担当する観光地が抱える問題点						
19	長野県内の観光地と比較考察できそうな諸外国の観光地の選定						
20	担当する外国の観光地の基本情報の発表						
21	担当する外国の観光地の宿泊施設の紹介						
22	担当する外国の観光地の飲食店の紹介						
23	担当する外国の観光地のレジャー施設の紹介						
24	担当する外国の観光地が抱える問題点						
25	長野県内の観光地と外国の観光地との比較考察						
26	長野県内の観光地と外国の観光地との比較考察						
27	学年全体での発表会の準備						
28	学年全体での発表会・予行演習						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	発信力ゼミ統一基準	発表	25	発信力ゼミ統一基準
レポート	25	発信力ゼミ統一基準			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
発表・レポート・ディスカッションの準備・授業の振り返り			noguchi.nobuko@u-nagano.ac.jpに質問・相談内容を送ってください。直接、話をしたいときには、その旨、メールに書いてください。		
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと	できるだけ休むことなく出席してください。	
参考書・参考資料等	佐藤望他編著『アカデミック・スキルズ【第3版】』慶応大学出版会		その他・特記事項	わからないことはそのままにせず、遠慮なく、質問したり、調べたりする習慣を身につけてください。	

授業科目	発信力ゼミ（４組）						
担当教員	谷口 眞由実			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	情報収集、情報読解力、グループワーク、発信力、プレゼンテーション						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	学生生活について（１）メンタルヘルス						
2	学生生活について（２）キャリア講座（１）自己理解						
3	学生生活について（３）キャリア講座（２）将来像						
4	アカデミックスキルズ（１）ノートの取り方						
5	アカデミックスキルズ（２）情報検索、本の読み方						
6	アカデミックスキルズ（３）文章・新聞講座						
7	アカデミックスキルズ（４）レポートの書き方（１）						
8	アカデミックスキルズ（５）レポートの書き方（２）						
9	アカデミックスキルズ（６）言葉の表現力をみがくー漢詩を作ってみよう						
10	アカデミックスキルズ（７）プレゼンテーション（１）						
11	アカデミックスキルズ（８）プレゼンテーション（２）						
12	後半で所属を希望するゼミの調査						
13	後半ゼミの自己紹介、ゼミテーマ「詩と絵本で交流しよう」の説明						
14	ゼミテーマに沿ってテーマや問いを考える（夏季休暇にむけて）						
15	夏季休暇課題の発表、ピアレビュー						
16	「詩や絵本について」のグループをつくる。テーマと問いを考える						
17	「詩や絵本について」のグループでの情報収集						
18	「詩や絵本について」のグループで関連図書などを読む						
19	「詩や絵本について」のグループで関連図書などを読む						
20	「詩や絵本について」の学外調査の準備						
21	「詩や絵本について」の学外調査（あるいは外部講師のお話を聞く）						
22	「詩や絵本について」の学外調査の振り返り						
23	「詩や絵本について」のグループの研究発表内容、方法を検討する						
24	「詩や絵本について」のグループのプレゼン内容を考える、構想発表（１）						
25	「詩や絵本について」のグループのプレゼン内容を考える、構想発表（２）						
26	プレゼンテーションの発表準備						
27	クラス内研究発表会（１）						
28	クラス内研究発表（２）						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業の中で、調査や作文などの課題を出すので、しっかり取り組んで期限までに提出すること。			授業の中で、遠慮なく質問・相談してほしい。なるべくその場でお答えしたい。		
教科書・テキスト	適宜プリントなど配布		受講生に望むこと	クラス内の学生同士、積極的に意見交換するようにし、またウェブサイトから情報を得るだけでなく、幅広く本を読むようにしてほしい。	
参考書・参考資料等	『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門』（佐藤望ほか編、慶應義塾大学出版会、2014年度第2版）		その他・特記事項	授業には必ず出席し、指示がある場合以外は、スマホやパソコンは使用しないこと。	

授業科目	発信力ゼミ（5組）						
担当教員	築山 秀夫			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。後半のゼミでは、担当者の専門である社会学的手法を用いて、関心のある社会問題を設定し、フィールドワークを実践することで、その社会問題の解決策を探る。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。「問題の構造を正確に捉え、その問題の解決法を模索し、実行する」方法について理解する。</p>			
キーワード	学問的ヒット、アカデミックスキルズ、フィールドワーク、社会学、まちづくり、ジェンダー						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。課外活動として、フィールドワークを実施する。						
履修条件等	この科目は、一年生の必修科目である。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	自己紹介 学生生活について（1）メンタルヘルス						
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解（自分史、成功体験、実行計画）						
3	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像（働く意味、自分の価値観、多様性）						
4	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方 三つのノート						
5	アカデミックスキルズ（2）図書館ガイダンス 情報検索、本の読みこと、情報をINPUTすること、自分の関心を知る						
6	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座 新聞を読むこと、情報をINPUTすること、自分の関心を知る						
7	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）勉強・研究・論文						
8	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）参考文献、引用と剽窃						
9	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション（1）						
10	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（2）						
11	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（3）						
12	3・4学期のゼミ紹介 後半で所属を希望するゼミの調査						
13	自分の興味・関心を発表することで自己紹介を行う。質疑応答 事前学習：自分が興味・関心のある社会問題を一人2つ、問いの形式（論点：issueを疑問形で）にして考え、関心理由とその問いを巡る社会						
14	担当者の専門である社会学とは何か。理解したことを皆で議論 事前学習：社会学でどのような研究がなされているのかを調べてくる。						
15	自分の問題関心をグループに分かれプレゼン、質疑応答 事前学習：一番興味・関心のある社会問題を問いの形式（論点：issueを疑問形で）にして考え、関心理由とその問いを巡る社会的状況につい						
16	プレゼン・スライドをレポートにまとめる。二人一組になり、お互いのレポートを読む 事前学習：15回に報告したスライドを文章化してくる。						
17	社会問題を解くための社会調査：フィールドワーク（質的調査） 事前学習：自分の関心興味ある社会問題を解くために、誰にどんなことを調査すればいいのかを考えてくる。						
18	グループに分かれて、研究テーマを決定する。補助線としてのジェンダー。 事前学習：研究したいテーマをジェンダーという補助線を入れて検討してくる。						
19	研究テーマ=問いを深め、議論 事前学習：研究テーマに関する先行研究をサーベイ（同じ研究テーマの研究にはどのようなものがあるのかを調査）してくる。						
20	研究テーマに関して、二次データ（文献等）で理解したことを報告 事前学習：研究テーマに関して、先行研究や既存データ分析で理解できるところを調べてくる。						
21	問いを解決するために、いかなるフィールドワークが必要かの議論 事前学習：既存研究ではわからなかったことを理解するためのフィールド調査とは何かを検討する。						
22	フィールドワークの設計 事前学習：フィールドワークの設計をしてくる。						
23	フィールドワークの実践 事前学習：フィールドワークの準備をする。						
24	フィールドワークで得られた知見をまとめ報告。質疑応答。 事前学習：フィールドワークで得られたことをまとめてくる。						
25	論文執筆：映画撮影のように、フィールドワークを通して、本当に知りたかった内容を再確認し、問いを修正し、論文を構築。 事前学習：問いを修正し、論文の執筆法に沿って、論文を書いてみる。						
26	論文内容をプレゼンするスライドの作成 事前学習：エビデンスにもとづいたスライドを作成する。						
27	グループ内報告会と質疑応答 事前学習：グループ内で発表するための準備をしてくること。						
28	報告会と論文の完成 事前学習：発表準備をしてくること。						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	口頭報告の水準、ディスカッションへの貢献、授業内での取り組み姿勢を評価する。	課題・レポート等	25	事前学習の課題、レポートの質を評価する。
プレゼンテーション	25	プレゼン力のみならず、質疑応答の対応の質についても評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>授業外の学習や活動は以下のようなものがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 四月中に、個人面接を実施します。 2. フィールドワークを実施します。 3. 担当者が主催している「門前まちづくりサロン」（月1回：オンライン）に、参加する。 4. 事前学習：毎回、次回の授業に向けて、課題を出すので、対応する。 <p>事後学習：授業に関するフォローアップ課題等を出すので、対応する。 課題については、期限を設けておりますので、期限を厳守してください。</p>			<p>授業中の質問については、授業時間内に質問していただければ、回答するので、分からないことについては、どんどん質問してほしい。ある学生が分からないことは他の学生も分からないことであることが多いので、是非、協力してほしい。</p> <p>授業後に分からないことが出てきたら、フォローアップ課題の中に、質問を入れておくので、そちらで質問をしてください。次回の授業時に回答します。</p> <p>授業と関係なく、大学生生活一般に関する質問を何でも受けます。メールで質問を頂けましたら、24時間以内に回答します。また、直接、質問、相談したい場合は、メールでアポを取ってください。時間の調整をして、直接、お会いしたり、オンラインで回答いたします。</p>		
教科書・テキスト		特にありません。 毎回、その授業に関連するスライドや文書を事前にあるいは、授業中に配布いたします。	受講生に望むこと		授業中に、資料や文書を配布したり、アンケートに答えて頂いたりするので、毎回、必ず、個人のPCを持参してください。
参考書・参考資料等		佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦2020『アカデミック・スキルズ(第3版)』大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会 その他、授業内で、適宜指示します。	その他・特記事項		授業の進行状況によって、スケジュールや内容が変更されることがある。

授業科目	発信力ゼミ（3組）						
担当教員	萱津 理佳			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	アカデミック・スキルズ、プレゼンテーション、テーマ探求						
教授方法	<p>講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。</p> <p>報告書等の提出および授業時間外のコミュニケーションには、GlexaおよびMS Teams 等を利用する。</p>						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	大学生活について（1）メンタルヘルス						
2	大学生活について（2）キャリア講座 自己理解						
3	大学生活について（3）キャリア講座 将来像						
4	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方						
5	アカデミックスキルズ（2）情報検索、本の読み方						
6	アカデミックスキルズ（3）新聞講座、文章講座						
7	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方						
8	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方						
9	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
10	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	後半ガイダンス、自己紹介、アイスブレイク						
14	アイスブレイク、夏休みの活動・宿題等について						
15	夏の課題報告（1）						
16	夏の課題報告（2）						
17	発信力を鍛えよう、テーマ探求（1）						
18	発信力を鍛えよう、テーマ探求（2）						
19	テーマ決定、研究計画（1）						
20	研究計画（2）						
21	テーマに関する調査・研究（1）						
22	テーマに関する調査・研究（2）						
23	テーマに関する調査・研究（3）						
24	テーマに関する調査・研究（4）						
25	発表準備・レジュメ作成（1）						
26	発表準備・レジュメ作成（2）						
27	発表会（1）						
28	発表会（2）						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<ul style="list-style-type: none"> 指定された課題・レポートに取り組むこと 学外での調査やイベントに参加など（任意） 			<ul style="list-style-type: none"> 質問や相談は、授業中および授業の前後に受け付けます。 授業時間外はメールでの対応、または（アポをとって）直接来室して下さい。 		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと		各自が自分の課題やテーマの解決に向けて、主体的に学び、活動すること グループワークや、ゼミの活動・議論に積極的に参加すること
参考書・参考資料等		<ul style="list-style-type: none"> 「スタディスキルズ・トレーニング」実教出版，1200円 「大学生のための読む，書く，プレゼン，ディベートの方法」玉川大学出版部，1500円 適宜資料を配布，または，参考書等を指示します。	その他・特記事項		アカデミックスキルズを身につけるとともに，主体性やコミュニケーション力，考えぬく力を一緒に鍛えていきましょう！

授業科目	発信力ゼミ（2組）						
担当教員	織田 竜也			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	アカデミック・スキルズ、スピーチ、動画、プレゼン、学外実習、ゲーミフィケーション。						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	キャリア講座（1）自己理解						
3	キャリア講座（2）キャリアデザイン						
4	アカデミックスキルズ（1）本を読む、ノートを取る						
5	キャンパスツアー（含む図書館）						
6	アカデミックスキルズ（2）新聞・文章講座						
7	アカデミックスキルズ（3）レポートの書き方						
8	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方						
9	アカデミックスキルズ（5）プレゼンテーション						
10	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション						
11	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	後半の進め方						
14	夏季休暇の過ごし方						
15	夏季休暇の課題発表（1）						
16	夏季休暇の課題発表（2）						
17	スピーチ準備						
18	スピーチ発表						
19	ゲーミフィケーション						
20	グループ学習						
21	グループ発表						
22	動画制作						
23	動画発表						
24	動画発表						
25	学外実習						
26	学外実習						
27	最終動画発表						
28	最終動画発表						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
読書、フィールドワーク、プレゼンの練習。			面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。		
教科書・テキスト	随時指示する。		受講生に望むこと	他人に自分の内面を見せる勇気を養ってください。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	発信力ゼミ（9組）						
担当教員	二本松 泰子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	城下町、地域活性化、まちづくり、龍岡城五稜郭、佐久市白田地区						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	大学生活について（1）						
2	大学生活について（2）						
3	大学生活について（3）						
4	アカデミックスキルズ（1）						
5	アカデミックスキルズ（2）						
6	アカデミックスキルズ（3）						
7	アカデミックスキルズ（4）						
8	アカデミックスキルズ（5）						
9	プレゼンテーションの準備						
10	プレゼンテーション（1）						
11	プレゼンテーション（2）						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	夏休みに向けた指導 - 長野県佐久市の龍岡城五稜郭について調べる -						
14	夏休みに向けた指導 - 城下町における課題の見つけ方 -						
15	夏休みの成果発表						
16	フィールドワークの準備 - 龍岡城五稜郭を軸とする周辺地域の調査 -						
17	フィールドワークの実施 - 龍岡城五稜郭・新海三社神社・蕃松院・びんころ地蔵を中心に -						
18	フィールドワークの成果発表、グループ分け、グループごとのテーマ設定						
19	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城五稜郭周辺地域のマップをつくろう【調査】 -						
20	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城五稜郭周辺地域のマップをつくろう【制作】 -						
21	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城周辺地域のアイコンを使ったグッズをつくろう【調査】 -						
22	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城周辺地域のアイコンを使ったグッズをつくろう【制作】 -						
23	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城五稜郭周辺地域における町おこしのアイデアについてグループ内で討論する -						
24	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城五稜郭周辺地域における町おこしのアイデアについてクラス内で討論する -						
25	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城五稜郭周辺地域における町おこしのアイデアについて地元市民とオンラインミーティングで討論する						
26	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城五稜郭周辺地域における町おこしを企画する						
27	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城五稜郭周辺地域における町おこしのラジオCMを制作する						
28	埋もれた地域資源としての城下町文化をプロデュースする - 龍岡城五稜郭周辺地域における町おこしを運営する						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習：プレゼンテーションを担当する場合は、報告のためのパワーポイントや資料を事前に作成しておいてください。 事後学習：プレゼンテーションをした後は、指摘されたことを中心に補足調査をしてください。			毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はオフィスアワーなどを利用して研究室に来てください。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	コロナ禍の状況によりますが、後半の授業では龍岡城周辺地域のフィールドワークを実施する他、地域の行政（佐久市役所観光課・文化振興課など）や市民団体（佐久市市民活動サポートセンター・龍岡城五稜郭保存会など）と協働して城下町の活性化に関する調査・プレゼンテーションの方法について学びます。このように地域と密着した皆さんの学習成果については、広く地元発信してもらおう予定ですので、地域貢献の意義についても併せて学んでください。	
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	後期の授業では、長野県内での発信に関する学習の一環として、地元メディアの取材にご対応していただく場合があります。何卒、よろしくご協力ください。

授業科目	発信力ゼミ（11組）						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	アカデミックスキルズ、キャリア						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	学生生活について（1）メンタルヘルス						
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解						
3	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像						
4	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方						
5	アカデミックスキルズ（2）情報検索、本の読み方						
6	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座						
7	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）						
8	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）						
9	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション（1）						
10	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（2）						
11	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（3）						
12	後半で所属を希望するゼミの調査						
13	自己紹介、哲学プラクティスについて						
14	哲学対話をやってみる						
15	夏休みの振り返り、読書レポートピアレビュー、読んだ本の紹介						
16	哲学カフェ方法論講義						
17	哲学カフェ模擬演習						
18	グループ分け、計画立案						
19	計画発表・哲学カフェ演習						
20	計画発表・哲学カフェ演習						
21	実施報告・哲学カフェ演習						
22	実施報告・哲学カフェ演習						
23	クラス内発表準備、冬休みの課題について						
24	クラス内発表準備						
25	クラス内発表準備						
26	クラス内発表準備						
27	クラス内発表						
28	クラス内発表						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
フィールドワークについては適宜指示する。			他の学生の参考になるので、できるだけ授業中にすること。		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	授業時間以外、学外の活動を通じた、学外の人々との交流に積極的に参加すること	
参考書・参考資料等	<p>アカデミックスキルズについては、適宜必要な資料を配布する。</p> <p>哲学対話については、以下を参照。</p> <p>河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン』河出書房新社、2018年</p> <p>梶谷真司『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』幻冬舎、2018年</p> <p>土屋陽介『僕らの世界を作りかえる哲学の授業』青春新書、2019年</p>		その他・特記事項	特になし	

授業科目	発信力ゼミ（1組）						
担当教員	東 俊之			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	アカデミックスキルズ、キャリア、課題探求、探求型学習、伝統						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	大学生活について（1）：ガイダンス、授業の説明等						
第2回	大学生活について（2）：キャリア講座						
第3回	大学生活について（3）：キャリア講座						
第4回	アカデミックスキルズ（1）：ノートの取り方						
第5回	アカデミックスキルズ（2）：図書館ガイダンス						
第6回	アカデミックスキルズ（3）：新聞講座						
第7回	アカデミックスキルズ（4）：レポートとは何か						
第8回	アカデミックスキルズ（5）：レポートの書き方						
第9回	アカデミックスキルズ（6）：プレゼンテーションとは何か						
第10回	アカデミックスキルズ（7）：プレゼンテーションの準備						
第11回	アカデミックスキルズ（8）：プレゼンテーションの実際と前半クラスの振り返り						
第12回	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
第13回	【後半クラス開始】・アイスブレイクを行う / ・ゼミの主テーマについてクラス全体で議論する、など						
第14回	【後期オリエンテーション】・後期（3・4学期）のスケジュールを確認する / ・3学期に作成するリサーチペーパー（レポート課題）のテーマを開示する、など						
第15回	【アカデミック・ライティングの進め方】・3学期に作成するリサーチペーパーの作成の手順を説明する / ・アカデミックな文章の作成方法をおさらいする、など						
第16回	【リサーチペーパー作成演習】・あたえられたテーマについての情報・データを収集し、論題を検討する、など						
第17回	【レポート作成演習】・あたえられたテーマについての個人レポートの構成を考える、など						
第18回	【レポート作成演習】・あたえられたテーマについての個人レポートを実際に作成する、など						
第19回	【個人レポート報告（中間課題）】・作成したレポート（リサーチペーパー）の内容を個人でプレゼンテーションする / ・他者からのコメントを受け、リサーチペーパーを修正する、など						
第20回	【個人レポート報告（中間課題）】・作成したレポート（リサーチペーパー）の内容を個人でプレゼンテーションする / ・他者からのコメントを受け、リサーチペーパーを修正する、など						
第21回	【3学期までの自己点検授業】・3学期までの自己の成長を振り返り、次学期の目標を考える / ・自身の作成したリサーチペーパーを自己評価する、など						
第22回	【グループ活動の基本】・グループ活動の要点を学ぶ、ブレインストーミングやKJ法を体験する、など						
第23回	【グループ活動】・グループを決定する / ・グループ活動のテーマを開示し発表論題を検討する、など						
第24回	【グループ活動】・テーマについての情報を収集し、グループで発表する論題を決定する、など						
第25回	【グループ活動】・グループで設定した研究目標を達成するため手段を検討する / ・検討した手段を評価する、など						
第26回	【グループ活動】・これまでのグループ活動をまとめる / ・次回の発表の準備を行う、など						
第27回	【グループ発表練習】・クラス内で発表を行い、他者とディスカッションを行う（採点の対象ではない） / ・グループ活動を自己評価する、など 課外で「個人面談」をおこないます。						
第28回	【クラス内での発表】・クラス内で発表を行い、他者から講評を得る（採点の対象とする） / ・1年間の振り返り（自己点検）をおこない、次年度の目標を立てる、など						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す 「発信力ゼミ（1組）」では、3学期に提出するリ
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す 「発信力ゼミ（1組）」では、第28回に実施するクラス内発表とそれに至るプロセスを評価	上記以外の授業評価	0	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>授業外でのレポート作成やプレゼンテーションの準備は必須です。提出期限は厳守してください。レポートやプレゼンテーションに内容によっては、課外でのフィールド調査も必要になる場合があります。また、授業時にグループ活動などを行う際には、事前に個人で情報収集することを求めます。さらに、アカデミックスキルを身につけるためには、きちんと復習することが不可欠です。担当者から返却された採点済みのレポートを必ず見直すようにしてください。</p>			<p>不明な点は遠慮なく訪ねてください。特に、レポート作成などは今後大学生活を送る上で不可欠な能力・技術ですので、わからないまま放置しないようにしてください。オフィスアワーを設定しますが、オフィスアワー以外の時間でも対応可能です。ただし、不在の場合があるので、なるべくメールでアポイントを取ってください。なお、オフィスアワーの予定は、授業の初回でアナウンスします。</p>		
教科書・テキスト	特に指定しません。		受講生に望むこと	本科目は、発信力を涵養するとともに、大学生（あるいは社会人として）としての基礎的な能力を身につけることも目的としています。そのため、遅刻や無断欠席、授業中の私語など受講態度不良は厳しく注意します。	
参考書・参考資料等	佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦（2020）『アカデミック・スキルズ（第3版）』慶應義塾大学出版会 その他、授業内で適宜指示します。また必要な資料を配付する場合もあります。		その他・特記事項	授業のことだけでなく、大学生活で困ったことがあれば、遠慮なく授業担当者（東）に尋ねてください。	

授業科目	発信力ゼミ（12組）					
担当教員	加藤 孝士		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング
対象学生	全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力、自身のキャリアへの関心を高める。社会問題等を調査したり、自分の将来像などについて語り合い、その成果をクラス内で発表する。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>		
キーワード						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。					
履修条件等	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	学生生活について 1					
2	学生生活について 2					
3	学生生活について 3					
4	アカデミックスキルズ 1					
5	アカデミックスキルズ 2					
6	アカデミックスキルズ 3					
7	アカデミックスキルズ 4					
8	アカデミックスキルズ 5					
9	プレゼンテーションの準備					
10	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×15名					
11	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×15名					
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査					
13	後半の授業説明と自己紹介					
14	夏休みに向けた課題について					
15	課題の発表と共有					
16	調査・分析の手法（1）					
17	調査・分析の手法（2）					
18	グループ分けとテーマの決定					
19	テーマに関する情報収集（1）					
20	テーマに関する情報収集（2）					
21	仮プレゼン資料の作成					
22	ショートプレゼン					
23	テーマに関する調査・分析（1）					
24	テーマに関する調査・分析（2）					
25	テーマに関する調査・分析（3）					
26	プレゼンテーションの準備（1）					
27	プレゼンテーションの準備（2）					
28	クラス発表会					
共通の成績評価基準						

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
発表テーマに関する情報収集等を行う必要がある			授業後、H404にて質問・相談を受けつける		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	疑問をお持ちながら、授業に臨んでください	
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項	特になし	

授業科目	発信力ゼミ（13組）						
担当教員	寺川 直樹			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	アカデミック・スキルズ、自然災害、批判的思考						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	(前半) 大学生活について(1)						
2	(前半) 大学生活について(2)						
3	(前半) 大学生活について(3)						
4	(前半) アカデミックスキルズ1						
5	(前半) アカデミックスキルズ2						
6	(前半) アカデミックスキルズ3						
7	(前半) アカデミックスキルズ4						
8	(前半) アカデミックスキルズ5						
9	(前半) プレゼンテーションの準備						
10	(前半) プレゼンテーション(1)						
11	(前半) プレゼンテーション(2)						
12	(前半) 3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	(後半) ゼミテーマ(自然災害およびそれに付随する諸問題)に関する講義						
14	(後半) ゼミテーマに関する講義(批判的思考)、および夏休みのレポートテーマに関する説明						
15	(後半)						
16	(後半)						
17	(後半)						
18	(後半)						
19	(後半)						
20	(後半)						
21	(後半)						
22	(後半)						
23	(後半)						
24	(後半)						
25	(後半)						
26	(後半)						
27	(後半)						
28	(後半)						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
レポート課題の提出や発表準備を求めることがある。また、授業時間外に学外研修に向かう予定である。			メール（terakawa.naoki@u-nagano.ac.jp）での連絡か、H403に直接お越しください。		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	自然災害およびそれに付随する諸問題、または批判的思考に関心があることが望ましい	
参考書・参考資料等	その都度指示する。		その他・特記事項	特になし	

授業科目	発信力ゼミ（8組）						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	アカデミック・スキルズ、レポート、プレゼンテーション、グループワーク						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク、レポート、プレゼンテーション、発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	学生生活について（1）：メンタルヘルス						
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解						
3	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像						
4	アカデミック・スキルズ（1）ノートの取り方						
5	アカデミック・スキルズ（2）情報検索、本の読み方						
6	アカデミック・スキルズ（3）文章・新聞講座						
7	アカデミック・スキルズ（4）レポートの書き方（1）						
8	アカデミック・スキルズ（5）レポートの書き方（2）						
9	アカデミック・スキルズ（6）プレゼンテーション（1）						
10	アカデミック・スキルズ（7）プレゼンテーション（2）						
11	アカデミック・スキルズ（8）プレゼンテーション（3）						
12	後半で所属を希望するゼミの調査						
13	後半のテーマの解説（1）						
14	後半のテーマの解説（2）と夏休みの課題						
15	夏休みの課題の発表とグループ分け						
16	グループ研究のテーマの検討						
17	個人研究のテーマの検討						
18	中間発表の準備（1）						
19	中間発表の準備（2）						
20	中間発表（1）						
21	中間発表（2）						
22	中間発表の振り返り						
23	個人研究（レポート）の報告（1）						
24	個人研究（レポート）の報告（2）						
25	最終発表の予行演習の準備						
26	最終発表の予行演習						
27	最終発表の準備						
28	最終発表会（クラス内）						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
前半の授業では、宿題と復習に熱心に取り組むこと。宿題をやらないと、アカデミック・スキルズを身に付けられない。後半の授業では、グループでの活動が多くなるので、資料の収集と読み込み、プレゼンの準備、レポートの執筆等にしっかりと取り組むこと。準備が疎かになると、他のメンバーに迷惑を掛けることになる。			なるべく、授業中に質問すること。授業時間外に質問や相談がある場合、研究室に来ること（Zoomでも可）。用事がなければ、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。		
教科書・テキスト	開講時に指定する。		受講生に望むこと	アカデミック・スキルズは、知識ではなく方法である。本を読むだけでは、身に付きません。実際に、テーマ選び、資料の収集と整理、プレゼン、レポート執筆を体験することでしか、身に付きません。1年間じっくりと時間を掛けて研究に取り組みましょう。	
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介する。		その他・特記事項	13回目以降では、「金融とSDGs」をテーマにグループで研究する予定である。受講者の関心や進捗状況に応じて、授業内容を変更することもある。	

授業科目	発信力ゼミ（15組）						
担当教員	宮城 正作			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	アカデミック・スキルズ、ものづくり						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	メンタルヘルス講座、自己紹介						
2	アカデミックスキルズ1（レポートの書き方）						
3	キャンパスツアー（含む図書館）						
4	アカデミックスキルズ2（資料作成）						
5	キャリア講座（1）自己理解						
6	情報検索ガイダンス						
7	アカデミックスキルズ3（資料デザイン）						
8	キャリア講座（2）コミュニケーションスキルアップ						
9	キャリア講座（3）キャリアデザイン						
10	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×20名						
11	ショートプレゼン 発表（3分）、質疑応答（3分）×20名						
12	3・4学期のゼミ紹介、後半で所属を希望するゼミの調査						
13	・シルクスクリーン技法の説明 ・シルクスクリーン技法を用いたTシャツ制作（基礎編）						
14	・シルクスクリーン技法を用いたTシャツ制作（基礎編）						
15	・シルクスクリーン技法を用いたTシャツ制作（基礎編）						
16	・シルクスクリーン技法を用いたTシャツ制作（基礎編）						
17	・シルクスクリーン技法を用いたTシャツ制作（基礎編）						
18	・グループ決めと制作物の検討						
19	・制作物の検討とブランド名・コンセプトの立案						
20	・各自・各グループで制作（応用編）						
21	・各自・各グループで制作（応用編）						
22	・各自・各グループで制作（応用編）						
23	・各自・各グループで制作（応用編）						
24	・各自・各グループで制作（応用編） ・展示方法の検討						
25	・各自・各グループで制作（応用編） ・展示方法の検討						
26	・作品の展示（中間発表）						
27	・プレゼンテーション資料の作成						
28	・プレゼンテーション（最終発表）						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す	上記以外の授業評価		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
・制作は授業内で終えることはできませんので、授業外の時間も活用してください。			随時受け付けます。 miyagi.masanari@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	とくになし。		受講生に望むこと	アートやデザイン、ファッションが好きの人に向いています。絵が上手い・下手という技術面ではなく、「好き」や「やってみたい」という気持ちをもっている人を歓迎します。「楽しみたい」という安易な気持ちで選択すると、ついていけないと思います。「好き」・「やってみたい」という気持ちがとても大切です。	
参考書・参考資料等	教員より随時配布する。		その他・特記事項	とくになし。	

授業科目	発信力ゼミ（14組）						
担当教員	山本 直樹			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力、自身のキャリアへの関心を高める。社会問題等を調査したり、自分の将来像などについて語り合い、その成果をクラス内で発表する。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード							
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	学生生活について（1）メンタルヘルス						
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解						
3	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像						
4	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方						
5	アカデミックスキルズ（2）情報検索、本の読み方						
6	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座						
7	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）						
8	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）						
9	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション（1）						
10	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（2）						
11	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（3）						
12	後半で所属を希望するゼミの調査						
13	夏休みに向けた指導						
14	夏休みに向けた指導2						
15	ドラマワーク（身体）						
16	ドラマワーク（感覚）						
17	ドラマワーク（感情）						
18	ドラマワーク（言葉）						
19	ドラマワーク（物語の立体化）						
20	劇の創作（1）						
21	劇の創作（2）						
22	劇の創作（3）						
23	中間発表、反省会						
24	朗読劇（リーダーシアター）の創作（1）						
25	朗読劇（リーダーシアター）の創作（2）						
26	朗読劇（リーダーシアター）の創作（3）						
27	最終リハーサル、反省会						
28	発表会						

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す
レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
毎回の授業終了時に示す課題について取り組み、次回提出すること。			適宜、対応する。		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	演習および創作の際には積極的な参加を望む	
参考書・参考資料等	佐藤ほか（編）『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』第二版、慶応義塾大学出版会、2013年 小林由利子他『ドラマ教育入門』図書文化社、2010年		その他・特記事項	13回目以降は動きやすい服装で臨むこと	

授業科目	発信力ゼミ（6組）						
担当教員	鶴田 靖人			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	アカデミック・スキルズ、プレゼンテーション、発信力						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク、レポート、プレゼンテーション、合同発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	学生生活について（1）メンタルヘルス						
2	学生生活について（2）キャリア講座（1）自己理解						
3	学生生活について（3）キャリア講座（2）将来像						
4	アカデミックスキルズ（1）ノートの取り方						
5	アカデミックスキルズ（2）情報検索、本の読み方						
6	アカデミックスキルズ（3）文章・新聞講座						
7	アカデミックスキルズ（4）レポートの書き方（1）						
8	アカデミックスキルズ（5）レポートの書き方（2）						
9	アカデミックスキルズ（6）プレゼンテーション（1）						
10	アカデミックスキルズ（7）プレゼンテーション（2）						
11	アカデミックスキルズ（8）プレゼンテーション（3）						
12	後半で所属を希望するゼミの調査						
13	夏休みに向けた指導（1）						
14	夏休みに向けた指導（2）						
15	夏休みの振り返り、課題発表						
16	調査・分析方法を学ぶ（1）						
17	調査・分析方法を学ぶ（2）						
18	調査・分析方法を学ぶ（3）						
19	調査・分析方法を学ぶ（4）						
20	調査・分析方法を学ぶ（5）						
21	調査したいテーマを考える						
22	テーマに関連した解決すべき課題を探す（1）						
23	テーマに関連した解決すべき課題を探す（2）						
24	課題の解決策の検討（1）						
25	課題の解決策の検討（2）						
26	発表内容をまとめる・プレゼンの準備						
27	中間発表						
28	クラス内発表						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25	発表評価ルーブリックを別に示す			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業内活動の準備を事前に課す場合がある。事後学習として課題を課す場合がある。			質問はできるだけ授業内で行うこと。相談は授業後に受け付ける。		
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと	ディスカッションなどの活動が多いので、積極的に参加すること。	
参考書・参考資料等	適宜配布する。		その他・特記事項	なし	

授業科目	発信力ゼミ（7組）						
担当教員	中川 亮平			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学で学ぶための基礎的な技法、アカデミック・スキルズを実際に経験して修得する。講義でのノート、図書館やウェブでの情報収集、読書、レポート、プレゼンテーションなどの具体的な手法について訓練を行う。ディスカッションやグループワークを通じて、情報読解力、理解力、日本語表現力を高める。自分の将来像や社会問題を調査したり語り合うことでキャリアデザインにも関心を高める。各クラス一人ずつプレゼンテーションを行ってクラスの代表を決定し、全クラスで合同発表会を実施する。合同発表会の内容は報告集として閲覧できるようにする。後半（第13～28回）の中心テーマは「問いを立てること」、行動規範は「多事争論」とし、学生同士が互いを敬いつつ健全に批判しながら学びあう姿勢を身につける。</p>				<p>大学での学習・研究を円滑に進めるためのアカデミック・スキルズの修得、学ぶことへの積極的な姿勢を獲得する。特にノートの取り方、レポートの書き方、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの具体的な手法を習得する。学んだ事や自らの考えを文章やプレゼンテーションなどで表現するための発信力を身につける。</p>			
キーワード	学生生活、キャリア、アカデミックスキルズ、問いを立てる、多事争論						
教授方法	講義を含む演習形式。実践的なアカデミック・スキルズの訓練。テーマに沿ったディスカッションやグループワーク。レポート、プレゼンテーション、発表会などで受講者全員が発信力を高める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	学生生活について1：メンタルヘルス						
2	学生生活について2：キャリア講座その1						
3	学生生活について3：キャリア講座その2						
4	アカデミックスキルズ1：ノートテキング						
5	アカデミックスキルズ2：図書館利用ガイダンス						
6	アカデミックスキルズ3：新聞を読む						
7	アカデミックスキルズ4：レポート・論文とは						
8	アカデミックスキルズ5：レポート・論文の書き方						
9	アカデミックスキルズ6：プレゼンテーションとは何か						
10	アカデミックスキルズ7：プレゼンテーションの準備						
11	アカデミックスキルズ8：プレゼンテーション、前半授業の振り返り						
12	後半所属希望ゼミの調査						
13	【後半クラス開始】自己紹介、アイスブレイク、後半ゼミのテーマ共有・議論						
14	アクティビティ：個人と集団による協働、夏季休暇に向けて						
15	講義と議論：異時間・異空間・異分野の事柄を対比して問いを立てる						
16	TEDスピーチ その1						
17	TEDスピーチ その2						
18	講義と議論：リサーチの方法、問いに対する回答の仕方						
19	パネルディスカッション その1						
20	講義と議論：アカデミック・ライティングの方法						
21	アカデミック・ライティング演習：テーマに沿って問いを立て実際に書く その1						
22	アカデミック・ライティング演習：テーマに沿って問いを立て実際に書く その2						
23	パネルディスカッション その2						
24	フィールドトリップ（調整中）						
25	講義と議論：プレゼンテーションの方法、クラス内発表準備						
26	クラス内発表準備						
27	クラス内発表 その1						
28	クラス内発表 その2						

共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50%	受講態度、ディスカッション、その他授業内での活動や提出物への取り組み姿勢を総合して評価	レポート等	25%	レポート・中間発表等、課題に応じてそのつど評価基準を示す
発表	25%	発表評価ルーブリックを別に示す			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
レポートやプレゼンテーションの準備などの課題に限らず、授業に関連する本を読む習慣をつけること。フィールドワークについては別途指示する。			他の学生の参考にもなるので、できるだけ授業中にすること。個別の質問や相談にはいつでも受け付ける。		
教科書・テキスト	特に指定なし。		受講生に望むこと	周囲の目を気にせず議論に積極的に参加すること。多読。	
参考書・参考資料等	指定の教科書はないが、適宜必要な資料を配布する。参考図書は適宜紹介する。		その他・特記事項	一部英文の資料を用いる。	

授業科目		デザイン思考							
担当教員		三上 龍之		必修・選択		選択	単位数	2単位	
履修年次		1・2年	開講学期		4 学期	授業形態		演習	科目ナバリング
対象学生		全学科共通		関連資格		備考			
授業の概要				到達目標					
<p>「デザイン」が色やカタチなどのいわゆるデザイナーの活動だけではなく、様々な分野や職種で応用・実践できる方法論であることを理解する。今の姿を探る、課題を見つける、解決策を考える、試して洗練するというプロセスの中で、発散と収束を繰り返して課題を発見し解決するための、様々なツールを実際に体験する。また、関連したノウハウなども学習し、総合演習では、グループで設定したテーマで、これまで学習したプロセスを通して実施することで、デザイン思考による課題の発見と解決を実践する。</p> <p>英語表記「Design Thinking」</p>				<p>ねらい： 社会課題が複雑化し、人々の価値観が多様化するなか、これまでのマーケティングやマネジメントのアプローチに加え、デザイン的な取り組みで課題を発見し解決する方法論「デザイン思考」の有効性が注目されている。本科目では、社会の様々な分野や職種で応用・実践できる「デザイン思考」のマインド、プロセス、ツールについて学び、経験することで、これからのイノベーション人材に必要な基礎的スキルの向上を狙う。</p> <p>到達目標： 「デザイン思考」に関して、体験を通じて自分ごととして理解する</p>					
キーワード		デザイン、イノベーション、共創、協働、課題発見、課題解決、人間中心							
教授方法		基礎的知識の講義ののち、実際の手法を、個人またはグループワークにより体験する。総合演習ではグループごとにテーマを決め、一連のプロセスを通して実施し、プレゼンテーション（課題発表）を行う。							
履修条件等		特に無し							
授業計画									
実施回	授業内容								
1	ガイダンス～デザイン思考の背景								
2	デザイン思考の概要								
3	プロセス1「今の姿を探る」								
4	演習1「今の姿を探る」手法の実践								
5	プロセス2「課題を見つける」								
6	演習2「課題を見つける」手法の実践								
7	プロセス3「解決策を考える」								
8	演習3「解決策を考える」手法の実践								
9	プロセス4「試して洗練する」								
10	演習4「試して洗練する」手法の実践								
11	総合演習：「今の姿を探る」								
12	総合演習：「課題を見つける」								
13	総合演習：「解決策を考える」								
14	総合演習：「試して洗練する」								
共通の成績評価基準									
特に無し									
成績評価方法と基準									
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準		
定期試験	40%	総合演習での取り組み成果のプレゼンテーションによりグループワークの実践度合いを評価する			授業レポート	60%	毎回レポートで学んだ内容の理解度を判断。最終回は総合レポートとして、到達目標が達成されたかを評価する。		
授業外における学習（事前・事後学習等）									
<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから「デザイン」について自分ごととして意識する ・各回の学習内容を振り返り、授業レポートを作成する ・各回のワークをグループで繰り返し、ワークの内容を確実に把握する ・総合演習課題のグループでの授業外活動、および各ステップでの繰り返しによるブラッシュアップを実施する ・最終回終了後、総合レポートを作成する 					質問や相談への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の前後・授業中に質問に応じる ・各回の授業レポートで相談・質問を受け付け、個別または次回授業の中で対応する メールアドレス：tatsuyuki.mikami@toshiba.co.jp				
教科書・テキスト	特に無し				受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は受け身でなくインタラクティブに取り組む ・グループワークでは積極的に献身的に ・集中し真剣に考え没入する感覚を味わう 			
参考書・参考資料等	必要に応じ授業の中で紹介する				その他・特記事項	受講人数の上限：36名 上限を上回った場合の選抜方法：受講希望者は履修登録と同時に、受講動機と出席見込（他科目、実習等との重複の有無）を申告すること。方法については別途通知する。			

授業科目	世界の文化と社会						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
日本と密接な関係を持っている多文化・他人種社会アメリカ合衆国について、特に地域・人種・日米関係等の視点から、基本的に理解するための講義を進めてゆく。またアメリカ文化が幕末・明治時代以降現在に至るまで日本においていかに受容されてきたのかを概観し、さらにグローバルな視点からアメリカ文化と日本及び東洋の文化との間の比較考察を試みる。質疑応答・議論などの機会も設けることにより、双方向的な授業内容にしたい。				世界のなかの特定の文化や社会を、一國に限定して捉えるのではなく、他国との交流や、地域全体、さらにはグローバルな動態のなかで捉えることのできるものの見方を、具体的事例を通じて学ぶ。またこれにより、日本の文化と社会も同様な観点から捉えられるようにする。			
キーワード	アメリカの文化と社会、日米関係						
教授方法	アメリカの文化と社会、日米関係、日米社会・文化の比較などについての講義を中心に進める。毎回リアクションペーパーを提出を求め、学生の積極的な参加を期待し、質疑応答・議論などを通じて双方向的な講義にしたい。写真、DVDなどの映像教材を用いてアメリカ社会の現実の姿に対する理解を深める。						
履修条件等	「世界の文化と社会」履修者は必ず「世界の文化と社会」も履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	現代アメリカ社会の動向、アメリカの成立と発展・理念・文化についての概説						
2	アメリカの地域・移民・人種・日米関係についての概説						
3	アメリカの西部・カリフォルニア						
4	ヒスパニック系・日系・アジア系						
5	アメリカの南部・南北戦争・現代の南部・南部の文化・アフリカ系・ネイティブ・アメリカン						
6	アメリカの東部・ニューイングランド・ニューヨーク・ユダヤ系・アイルランド系						
7	アメリカの中西部・五大湖周辺地方・農業問題、日米関係						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	50%	講義で扱った内容の中で最も興味を持ったテーマについて各自研究し、その成果を最終レポートにまとめる。			参加意欲	30%	学生との質疑応答・議論などの時間を設け、講義への積極的な参加・意欲・態度を評価に加える。
リアクションペーパー	20%	毎時間講義後リアクションペーパーの提出を求め、講義内容についての反応・理解を確認しながら進める。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義中に興味を持ったテーマを自主的に研究する。				何時でも質問・相談に応じます。メールも可。			
教科書・テキスト	講義に関連するプリント資料を配布する。			受講生に望むこと	講義で扱う資料などを事前に読んできて欲しい。		
参考書・参考資料等	亀井俊介著『アメリカ』（新潮社）			その他・特記事項	特になし		

授業科目	世界の文化と社会						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
アメリカの文化と社会を中心に講義した3学期の「世界の文化と社会」の続きである。中華人民共和国および周辺の中国語通用地域についての、社会、政治、文化、民族問題などについて、基礎的な情報を理解することを目的として講義を進める。グローバルな視点からの東アジアの現在までの歴史的展開とともに、日本と中国の社会と文化の相違について考察する。				世界のなかの特定の文化や社会を、一國に限定して捉えるのではなく、他国との交流や、地域全体、さらにはグローバルな動態のなかで捉えることのできるものの見方を、具体的事例を通じて学ぶ。またこれにより、日本の文化と社会も同様な観点から捉えられるようにする。			
キーワード	中国の歴史・社会・文化、日中関係						
教授方法	中国及び中華圏の歴史・社会・文化、日中関係、日中の文化と社会の比較などを中心に講義を進める。毎回リアクションペーパーの提出を求め、学生の積極的な参加を期待し、質疑応答・議論などを通じて双方向的な講義にしたい。写真などの映像教材を用いて中国社会の現実の姿に対する理解を深める。						
履修条件等	「世界の文化と社会」の履修は「世界と文化と社会」を履修していることが条件となっている。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	中国の歴代王朝・歴史・地理・社会・文化・政治・民族の概観（ ）						
2	中国の歴代王朝・歴史・地理・社会・文化・政治・民族の概観（ ）						
3	現代の中国社会の概観						
4	中国の文化・思想・宗教（儒教・道教・仏教）の日本への影響						
5	新渡戸稲造『武士道』、岡倉天心『茶の本』・『東洋の理想』、内村鑑三『代表的日本人』、鈴木大拙『禅と日本文化』						
6	日本と中国の文化と社会の比較						
7	講義のまとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	50%	講義で扱った内容の中で最も興味を持ったテーマについて各自研究し、その成果を最終レポートにまとめる。			リアクションペーパー	20%	毎時間リアクションペーパーの提出を求め、講義内容についての反応・理解を確認する。
参加意欲	30%	学生との質疑応答・議論の時間を設け、講義への積極的な参加・意欲・態度を評価に加える。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義の中で興味を持ったテーマについて自主的に研究する。				何時でも質問・相談に応じます。メールも可。			
教科書・テキスト	講義に関連するプリント資料を配布する。			受講生に望むこと	配布する講義用の資料を読んできて欲しい。		
参考書・参考資料等	陳舜臣・尾崎秀樹『中国』（新潮社） 岡本隆司『近代中国史』（ちくま新書）			その他・特記事項	特になし		

授業科目		象山学					
担当教員	首藤 聡一郎・真野 毅		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
<p>この科目は、総合教養科目に位置づけられており、グローバルマネジメント学部では必修科目、健康発達学部では選択科目とされている。イノベーターを学外から招き、現実における様々な課題やチャレンジについて学生にリアルに考えてもらう講義である。イノベーターに自分の経験を語っていただいたうえで、講師をファシリテーターとし、学生自らが自分の問題として考えていく。これまで、整理された知識を受動的に身につける機会が多かった学生に対し、複雑な現実と格闘する先達の姿を見せ、能動的に現実と向き合っていくきっかけを与え、社会に貢献していく方法を身につけてもらう。</p> <p>なお、本講義を担当する1人である真野毅は、京セラに入社し、同社米国子会社社長（携帯電話部門）に就任。その後、クアルコムジャパン株式会社代表取締役を経て、民間出身副市長公募を通じて兵庫県豊岡市副市長に就いた。学生が現実を理解し、向き合っていく姿勢を構築していくためのファシリテーターとして、それらの経験を十分に活用していく。</p> <p>また、もう1人の担当の首藤聡一郎は、経営戦略を中心に研究を進めている。学生が現実を理解する助けとなる諸理論を適宜紹介していくとともに、学生が自らの考えを明示的にまとめていくプロセスの支援をしていく。</p> <p>英語表記「Introduction of business and society」</p>			<p>1) 現実のビジネスや行政の現場について理解し、その現実をリアルに感じ取れるようになる、2) 学生が現実の課題やチャレンジについて自分の問題としてしっかり考えられるようになる。</p>				
キーワード	企業と社会、行政、社会的企業						
教授方法	講演、グループワークおよびレクチャー。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス、次回講演に向けた準備						
2	講演および質疑応答(1)						
3	ワークショップ(1)						
4	講演および質疑応答(2)						
5	ワークショップ(2)						
6	講演および質疑応答(3)						
7	ワークショップ(3)						
8	講演および質疑応答(4)						
9	ワークショップ(4)						
10	講演および質疑応答(5)						
11	ワークショップ(5)						
12	講演および質疑応答(6)						
13	ワークショップ(6)						
14	最終ワークショップ、まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小レポート	35	内容、形式等		グループワーク	30	グループワークレポートの内容	
期末レポート	35	内容、形式等					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習: ご講演者に関する調査、事後学習: 小レポート作成。				基本的にはメールで対応。			

教科書・テキスト	なし。	受講生に望むこと	この授業は皆さんにとって多くのことをもらすと思います。真剣に取り組みましょう。また、学外のイノベーターのご協力あつての授業です。貴重な時間を割いて来てくださる講師の方に感謝の気持ちをもって講演に臨みましょう。
参考書・参考資料等	佐々木 利廣，大室 悦賀『入門 企業と社会』、中央経済社、2015年。その他については授業時に適宜紹介。	その他・特記事項	本講義を担当する1人である真野毅の実務経験京セラに入社し、同社米国子会社社長（携帯電話部門）に就任。その後、クアルコムジャパン株式会社代表取締役を経て、民間出身副市長公募を通じて兵庫県豊岡市副市長に就いた。

授業科目		信州学					
担当教員		田澤 直人		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		1年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生		全学科共通	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標			
<p>「信州学」の授業は、信州（長野県）といった地域を素材として、信州の歴史・民俗・地理・産業・観光等、信州に関わることについて、授業担当者を受講学生が、ともに調べ、考えていく授業である。そもそも、「信州学」という学問分野があるわけではない。担当者は、大学時代に日本民俗学を専攻した故に、そうした観点から「信州学」を論ずることもある。しかし、基本的には、学生諸君が、自らの関心のある分野について、興味関心を共にする者同士でグループを作り、調べ、考え、分析したことを、最終的に授業の中で発表してもらう。</p>				<p>信州について、自らが興味関心のあることについて、他者と協力しながら、各種文献を用い、調べることができたか。 信州について、グループ内で協力して調べたことを、発表を通して、他者にわかるように発表することができたか。 信州について、他者の発表した事柄について、自分なりに客観的な評価ができたか。 信州について、自らが調べたことを、最終的にレポートとして提出できたか。</p>			
キーワード		信州、歴史、地理、民俗、産業、観光、プレゼンテーション、グループによる調べ学習					
教授方法		1回めの授業はオリエンテーション実施。昨年度の授業の様子を説明。第2回の授業では、授業内でレポート提出。第3回の授業で、グループ分けを行い、信州に関する事柄について調べ学習を開始する。第4回の授業から調べ学習を行うが、担当者は各グループの進捗状況をその都度ヒアリングを行い把握する。授業の途中で、途中経過の中間発表会を実施。その後さらに調べ学習を継続。最終的に調べた内容をパワーポイントを使い発表する。聞き手は、発表内容を評価する。					
履修条件等		なし。					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	リモート授業：オリエンテーション：授業の進め方について説明。最終的なプレゼンテーションの内容を、昨年度発表例を参考に説明する。						
2	リモート授業：県歌「信濃の国」を題材に、授業を行う。時間内示した課題に対して、授業後レポート提出を課す。また、自分がどういったことを調べたいか、アンケートを実施						
3	リモート授業：学生の自己紹介、その際に、自分がどういった分野に興味関心があるかを明示する。グループ決め						
4	リモート授業：学生の自己紹介、その際に、自分がどういった分野に興味関心があるかを明示する。グループ決め						
5	リモート授業と対面授業を併用：中間発表会に向けて、準備。担当者は、ヒアリング実施						
6	リモート授業と対面授業を併用：中間発表会に向けて、準備。担当者は、ヒアリング実施						
7	リモート授業：中間発表会実施						
8	リモート授業と対面授業を併用：最終発表に向けて、準備。担当者は、ヒアリング実施						
9	リモート授業と対面授業を併用：最終発表に向けて、準備。担当者は、ヒアリング実施						
10	リモート授業と対面授業を併用：最終発表に向けて、準備。担当者は、ヒアリング実施						
11	リモート授業と対面授業を併用：最終発表に向けて、準備。担当者は、ヒアリング実施						
12	リモート授業と対面授業を併用：最終発表に向けて、準備。担当者は、ヒアリング実施。発表資料の完成・提出						
13	リモート授業：発表会、発表が時間内でおさまらずに、授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価する。						
14	リモート授業：発表会、発表が時間内でおさまらずに、授業延長も考えられます。学生は、発表内容を評価する。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート提出	30	プレゼンテーションの内容を踏まえて、自分が調べたことを具体的にレポートできているか評価する。また、第2回の授業のレポート提出も評価する。			平常点	10	授業の出席及び授業への取り組み状況を評価する。
発表評価	60	授業担当者及び授業受講者による、発表内容の5段階評価を実施する。その結果を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
グループによる文献調査、フィールドワーク等が必要になります。				担当者の個人メールアドレスに相談ください。 tazawa.naoto@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特にありません。			受講生に望むこと	積極的に取り組んでください。掲示板に、「お知らせ」を示します。必ず、閲覧してください。		
参考書・参考資料等	特にありません。			その他・特記事項	特にありません。		

授業科目	シーズンスポーツ						
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	通年	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学での講習および8月に2泊3日の集中授業で、カヌー、ウィンドサーフィン、SUPの基礎を学び、協力して自然、ひと、自分とうまく付き合っていくには、どのようにすればよいのかをグループワークでディスカッションする。</p>				<p>長期休暇中に合宿形式で、他者との交流を持ちながら自然体験を行い、新しい仲間を作り、その後も心身ともに充実した大学生活を送れるようにする。また、自然の中で、マリンスポーツを通して目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】を身につける。</p>			
キーワード	自然体験、生涯スポーツ、ウィンドサーフィン						
教授方法	本授業は、信州の自然を生かしたマリンスポーツのうちウィンドサーフィン、SUP、カヌー、(stand-up paddling)といった種目が、自己の健康を作る生涯スポーツになるような様々な方法や技能を体験しながら学ぶ。また、自然、ひと、自分とうまく付き合っていく方法を学んでいくことを目的とする。						
履修条件等	<p>定員14名（4名以下、実施中止）</p> <p>【実施経費】約2万2千円 自己負担（道具のレンタル料、レッスン料、救助費用、2泊3日目の費用）</p> <p>このほか、自宅から黒姫駅までの往復交通費、昼食お弁当代が自己負担としてかかります。</p> <p>5月中にガイダンスをおこなって、前金1万円を集めますので、当選者は教務課による掲示に注意してください。</p> <p>【実施場所】野尻湖グリーンスポーツクラブ（信濃町）</p> <p>住所：〒389-1312 長野県 上水内郡信濃町富濃3946-125</p> <p>TEL:026-255-3645</p> <p>【実施日時】現地実習 予定8月3日～5日 夏期休業中</p> <p>【宿泊場所】野尻湖畔のコテージないし旅館を予定</p> <p>(3)授業のキーワード</p> <p>ウィンドウサーフィ、カヌー、SUP</p> <p>(4)授業計画 事前学習2時間 事後学習 1時間 実習11時間 計14時間</p> <p>*大学での講習</p> <p>事前学習 学期中の土日ないし夏休み</p> <p>座学 1時間 プール体験学習 1時間</p> <p>事後学習 時期は検討中</p> <p>座学（最終レポート講評）1時間</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	授業内容:大学での講習 事前学習 学期中の土日ないし夏休み						
2回	大学での講習 座学 1時間 プール体験学習 1時間						
3回 ～6回	1日目 AM:11時に黒姫駅集合（お昼お弁当持参） 野尻湖グリーンスポーツクラブ（信濃町）						
7回 ～10	2日目 野尻湖グリーンスポーツクラブ（信濃町） 午前 ウィンドウサーフィン、カヌー、SUP応用						
11回 ～13	3日目 野尻湖グリーンスポーツクラブ（信濃町） 午前 ウィンドウサーフィン、カヌー、SUPのうちから選択活動						
14回	事後学習 時期は検討中 座学（最終レポート講評）1時間						
0							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
共通の成績評価基準							
特になし							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢・ス	50	ウィンドウサーフィン、カヌー、SUP操作可			授業レポート	30	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと
上記以外の授業評価	20	時間外の運動を促すこと					
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		

	特になし。最終レポートにより事後学習とする。		メールで対応：zhang.yang@u-naganno.ac.jp
教科書・テキスト	特になし	受講生に望むこと	事前にエントリーを行ってください。
参考書・参考資料等	必要に応じて提示します。	その他・特記事項	1.実施予定日：2020年8月3日～5日（変更あり） 2.参観者4名以下、実施中止とする

授業科目	シーズンスポーツ（冬期）						
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	通年	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>長期休暇中に合宿形式で、他者との交流を持ちながら自然体験を行い、新しい仲間を作り、その後心身ともに充実した大学生活を送れるようにする。また、自然の中でのウィンタースポーツを通して、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】を見につける。</p>				<p>本授業は、信州の自然を生かしたウィンタースポーツのうちスキー、スノーボードといった種目が、自己の健康を作る生涯スポーツになるように様々な方法や技能を体験しながら学ぶ。また、自然、ひと、自分とうまく付き合っていく方法を学んでいくことを目的としている。</p>			
キーワード	自然体験、生涯スポーツ、スキー、スノーボード						
教授方法	大学での講習および2月に2泊3日の集中授業で、スキー、スノーボードの基礎を学び、協力して自然、ひと、自分とうまく付き合っていくには、どのようにすればよいのかをグループワークでディスカッションする。						
履修条件等	<p>定員】40名 【実習日時】2022年2月中（2泊3日） 【実施場所】志賀高原一ノ瀬スキー場 電話番号：0269-34-2588 0269-34-2404 【宿泊場所】住所：〒381-0401長野県下高郡山ノ内町志賀高原一ノ瀬 ホテルマウンド 電話番号：0269-34-2727 自己負担経費：宿泊代¥14,000円（1日2食） レンタル料金（板、靴）約¥6,000円（2日間） リフト代約¥6,000円（2日間） リフト券のスノーマジック19・20利用 19歳はアプリ使用でリフト券が無料になる。 20歳はアプリ使用でリフト券が最大半額になる。 また、3回昼代は、別当自己負担とする。 11月中にガイドスを行って、前払金として2万円を徴収します。当選者は教務課から掲示に注意してください。</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	大学での学習・事前学習						
2回 ~6回	1日目 志賀高原一ノ瀬スキー場集合（お昼弁当持参） 午前 スキー・スノーボード（初級）基礎						
7回 ~10	2日目 志賀高原一ノ瀬スキー場 午前 スキー・スノーボード（初級）応用						
11回 ~13	3日目 志賀高原一ノ瀬スキー場 午前 スキー・スノーボード（初級）応用						
14回	事後学習 時期未定 座学（最終レポート講評）						
0							
0							
00							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
0							
共通の成績評価基準							
ウィンタースポーツを通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢・ス	50	スキー・スノーボード操作			上記以外の授業評価	20	授業時間外の運動・健康管理を促すこと
授業レポート	30	授業時にレポートを課す。そのための資料収集しておくこと					レポートを提出すること
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		

最終レポートにより事後学習とする	メールで対応： Mail: zhang.yong@u-nagano.ac.jp		
教科書・ テキスト	特に指定しません	受講生に 望むこと	受講希望者は、事前にエントリーを行ってください。 。
参考書・ 参考資料等	必要に応じて提示します。	その他・ 特記事項	1. 実施予定日時：未定（変更あり） 2. 8名以下は、実施中止の場もあります

授業科目	グローバル教養ゼミ(坂)						
担当教員	坂 淳一			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
教科書・テキスト			受講生に望むこと		
参考書・参考資料等			その他・特記事項		

授業科目	グローバル教養ゼミ（張）						
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
教科書・テキスト			受講生に望むこと		
参考書・参考資料等			その他・特記事項		

授業科目	グローバル教養ゼミ（谷口）						
担当教員	谷口 眞由実			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。 Global Humanities Seminar</p>				<p>中国古典文学を中心に中国文学や中国文化関連文献を講読し理解を深め、背景にある歴史、思想についても考える。あまり学ぶ機会のない中国近現代文学についても、日本語訳を利用しながら講読するほか、関連する映画なども参考にして理解を深めたい。中国文学の作者の多くが社会の荒波の中で必死で社会と切り結び、抗い、その苦難と葛藤を文学に結晶させている。それらを読解すると同時に併せて現代に繋がる問題意識を醸成したい。後期には、中国文学・文化に関して各自関心のある課題について調査・研究を行い、幅広い視野と深い教養を身に着ける。</p>			
キーワード	中国文学、中国文化、古典文学、中国の歴史、中国の思想						
教授方法	週に1回。クォーターごとに7回、通年で28回の授業を演習形式で実施する。作品ごと、段落ごとに担当を決めて、語彙・文法、あるいは作者・制作背景、作品解説など調べた結果を発表し、さらにディスカッションする形で展開することで、中国語・中国文学、中国文化を主体的に学ぶ。また、学外の関連施設などを訪れて調査を行い、知識を深める。						
履修条件等	「中国語」「中国語」を履修していることが望ましいが、必須条件ではない。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクションー中国古典を現代中国語で読むためにー						
2	「塞翁失馬」ー『淮南子』の寓話と思想						
3	「両小児弁日」ー『列子』の寓話						
4	「晏子使荆」ー『説苑』の寓話						
5	「長安何如日遠」ー『世説新語』の機知						
6	「呉郷老狸」ー志怪小説『搜神記』						
7	「馬説」ー古文復興運動の旗手韓愈の散文と寓意						
8	「黔之驢」ー古文復興運動の旗手柳宗元の散文と寓意						
9	「売油翁」ー古文復興運動の推進者欧陽脩の散文と寓意						
10	「愛蓮説」ー周敦頤の思想						
11	「楽府二首」ー民衆の生活心情をうたう						
12	「唐詩二首」ー唐詩の韻律を中国語で味わう						
13	「詞曲二首」ー宋・元に流行した文芸						
14	『詩経二首』ー中国最古の詩集を読む						
15	『論語』二則ー孔子の考えを読む、各自の興味に沿ってテーマを考える						
16	『老子』三章ー老荘思想の考え方、各自の興味に沿ってテーマを考える						
17	『孟子』二章ー論説にみる巧みな比喻、各自のテーマに沿って調査						
18	「河伯と海若」ー『莊子』の寓話、各自のテーマに沿って調査						
19	「四面楚歌」ー『史記』の人間ドラマ、各自問いを立てる						
20	「楽羊子妻」ー『後漢書』にみる人物描写、各自問いを立てる						
21	「売炭翁」ー白居易の風諭、問いに基づいた調査						
22	「水調歌頭」ー蘇軾の抒情、問いに基づいた調査						
23	「桃花源記」ー陶淵明の描くユートピア、問いに基づいた調査						
24	魯迅の短編小説、テーマ・問いに基づいて考察をまとめる						
25	魯迅の短編小説、テーマ・問いに基づいて考察をまとめる						
26	魯迅の短編小説、パワーポイントを作成する						
27	各自のテーマについてのプレゼンテーション発表						
28	各自のテーマについてのプレゼンテーション発表						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	60	授業での発表や小レポートなどの内容、普段の授業の取り組みやディスカッションでの積極性などで評価する。	プレゼン発表・レポート	40	テーマや問いを主体的に立てて、調査・考察を行い、それを明解な論理で組み立て、発表できたか、また文章化できたかで評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前にテキストを予習し、分からない単語など調べておく。また、授業後、適宜学んだ単元の内容についてさらに調べて理解を深めてほしい。			授業中、及び授業後に受け付ける。遠慮なく出してほしい。		
教科書・テキスト	『現代中国語で読む古典』（青木五郎著、白帝社）		受講生に望むこと	分からないことはそのままにせず、質問したり、自身で調べたりしてほしい。主体的に取り組んでほしい。	
参考書・参考資料等	授業の中で紹介する。		その他・特記事項	『中国語辞典』のコンパクトなものは貸し出す予定。それで不足する場合は、図書館の大型辞典を利用するか、購入してほしい。	

授業科目	グローバル教養ゼミ（萱津）						
担当教員	萱津 理佳			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。</p>				<p>・情報システムやネットワークの仕組み、および、情報社会の動きについて理解を深める。そして、情報に関する興味関心を広げるとともに、各自が追究していきたい具体的なテーマを探求し設定する。設定したテーマについて、文献調査やフィールドワーク・分析を行い、報告書にまとめる。これらの過程を通して、問題についての理解を深めるとともに、問題を提起する能力、それについての現状把握や解答する能力、そして、それらをまとめ表現する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>・他のゼミ生の活動を理解し議論しあうことで、情報分野に関する興味関心を広げるとともに、コミュニケーション力を身につける。</p>			
キーワード	ICT, 情報, ネットワーク						
教授方法	原則として、演習方式。適宜、グループワークを取り入れる。報告書等の提出には、GlexaおよびMS Teams 等を利用する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス, アイスブレイク, 春季休業中の報告						
2	アイスブレイク, 春季休業中の報告						
3	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告						
4	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告						
5	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告						
6	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告						
7	共通学習, 各自のテーマ探求に関する報告						
8	グループ活動, 各自のテーマに関する調査計画						
9	グループ活動, 各自のテーマに関する調査計画						
10	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究						
11	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究						
12	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究						
13	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究						
14	グループ活動, 各自のテーマに関する調査・研究						
15	各自のテーマに関する中間発表						
16	各自のテーマに関する中間発表						
17	各自のテーマに関する調査・研究						
18	各自のテーマに関する調査・研究						
19	各自のテーマに関する調査・研究						
20	各自のテーマに関する調査・研究						
21	各自のテーマに関する調査・研究						
22	各自のテーマに関する調査・研究						
23	ゼミ論集（報告書）の作成						
24	ゼミ論集（報告書）の作成						
25	ゼミ論集（報告書）の作成						
26	ゼミ論集（報告書）の作成						
27	発表会						
28	発表会 , 振り返り, まとめ						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業・課題	100	授業や課題への取り組み状況，および達成度を総合的に評価する			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<ul style="list-style-type: none"> 指定された課題・レポートに取り組むこと 各自の課題の進捗状況等の報告用資料を作成し，ゼミで発表のこと 学外での調査やイベントに参加など 			<ul style="list-style-type: none"> 質問や相談は，授業中および授業の前後に受け付けます。 授業時間外はメールでの対応，または（アポをとって）直接来室して下さい。 		
教科書・テキスト			受講生に望むこと		各自が自分の課題やテーマの解決に向けて，主体的に学び，活動しましょう。 グループワークや，ゼミの活動・議論に積極的に参加しましょう。 授業時間外でのICTを活用したコミュニケーションも積極的にとりましょう。
参考書・参考資料等		適宜資料を配布，または，指示します。	その他・特記事項		<ul style="list-style-type: none"> 「情報」分野に関するニュースや社会問題にアンテナを張りましょう。 実際に『やってみる』活動を重視したいと思います。また，やりっぱなしではなく，やったことに対する振り返り，文書化も大切です！

授業科目	グローバル教養ゼミ（織田）						
担当教員	織田 竜也			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。</p>				<p>文献読解、フィールドワーク、映像制作を通して文化人類学的思考に習熟する。文献読解では事前に調べ学習を行い、他者を他者のまま理解するように努める。フィールドワークでは未知の世界観から受けた刺激を調査報告にまとめてプレゼンする。映像制作では秘めた自分を人前にさらし、撮影から編集までの過程で映像人類学的な技法を学ぶ。</p>			
キーワード	構造主義。フィールドワーク。映像制作。世界観。暗黙知。						
教授方法	テキストの輪読。ディスカッション。フィールドワーク実習。						
履修条件等	事前に「受講申請」を行った者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション						
2	文献読解 『ほんとうの構造主義』						
3	文献読解 『ほんとうの構造主義』						
4	文献読解 『ほんとうの構造主義』						
5	映像鑑賞						
6	文献読解 『ほんとうの構造主義』						
7	文献読解 『ほんとうの構造主義』						
8	フィールドワーク実習・報告						
9	文献読解 『ほんとうの構造主義』						
10	文献読解 『ほんとうの構造主義』						
11	文献読解 『イスラーム文化』						
12	文献読解 『イスラーム文化』						
13	文献読解 『イスラーム文化』						
14	前半のまとめ						
15	映像制作						
16	映像制作						
17	映像制作						
18	映像発表						
19	文献読解 『イスラーム文化』						
20	文献読解 『イスラーム文化』						
21	文献読解 『イスラーム文化』						
22	文献読解 『ユダヤ人とユダヤ教』						
23	文献読解 『ユダヤ人とユダヤ教』						
24	文献読解 『ユダヤ人とユダヤ教』						
25	文献読解 『ユダヤ人とユダヤ教』						
26	文献読解 『ユダヤ人とユダヤ教』						
27	映像鑑賞						
28	全体のまとめ						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
文献読解	40	調べ学習。発表。発言。	報告	30	フィールドワーク実習の報告。
映像作品	30	オリジナルの映像作品。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
文献の調べ学習。フィールドワーク実習。映像制作。			面談を希望する日時をメールで問い合わせてください。		
教科書・テキスト	出口顯『ほんとうの構造主義』NHKブックス。井筒俊彦『イスラーム文化』岩波文庫。市川裕『ユダヤ人とユダヤ教』岩波新書。		受講生に望むこと	真っ直ぐな眼差しで世界と向き合えるように自分を磨いてください。	
参考書・参考資料等	随時指示する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	グローバル教養ゼミ(中島)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。				日本語または英語の文法やその習得過程に関する研究を行い、その成果をレポート(論文)にまとめること。また、その過程において論理的・批判的な思考力を身につけること。			
キーワード	言語学						
教授方法	各受講者の興味・関心に応じてテーマを設定し、先行研究をふまえて新しい研究の立案・実行を目指します。授業では受講者による先行研究や調査計画・結果の発表を中心に、質疑応答や意見交換を通して研究の構想を練り上げていきます。						
履修条件等	特になし(予備調査で受講申請した人以外で受講を希望する場合は、事前に担当教員まで相談してください。)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	文献講読(1): 研究テーマの設定に向けて						
3	文献講読(2): 研究テーマの設定に向けて						
4	文献講読(3): 研究テーマの設定に向けて						
5	文献講読(4): 研究テーマの設定に向けて						
6	文献講読(5): 研究テーマの設定に向けて						
7	研究テーマ案発表						
8	文献講読(6): 先行研究の調査						
9	文献講読(7): 先行研究の調査						
10	文献講読(8): 先行研究の調査						
11	文献講読(9): 先行研究の調査						
12	文献講読(10): 先行研究の調査						
13	文献講読(11): 先行研究の調査						
14	研究テーマ案発表・決定						
15	中間発表(1)						
16	研究テーマに関する文献講読または調査報告(1)						
17	研究テーマに関する文献講読または調査報告(2)						
18	研究テーマに関する文献講読または調査報告(3)						
19	研究テーマに関する文献講読または調査報告(4)						
20	研究テーマに関する文献講読または調査報告(5)						
21	中間発表(2)						
22	研究テーマに関する文献講読または調査報告(6)						
23	研究テーマに関する文献講読または調査報告(7)						
24	研究テーマに関する文献講読または調査報告(8)						
25	中間発表(3)						
26	研究テーマに関する文献講読または調査報告(9)						
27	研究テーマに関する文献講読または調査報告(10)						
28	最終発表						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	50	授業時の発表やディスカッションに対する取り組みにより評価。	研究レポート	50	年度末に提出する研究レポートの内容により評価。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
各回の授業で扱う文献をよく読み、疑問点を整理して授業に臨んでください。			授業時に直接、またはメールで連絡してください。		
教科書・テキスト	受講者と相談しながら決定します。		受講生に望むこと	文献に書かれていることに対して疑問を抱くことで、新たな研究の可能性を見出しましょう。	
参考書・参考資料等	必要に応じて随時紹介します。		その他・特記事項	授業日程等は受講者と相談して調整します。	

授業科目	グローバル教養ゼミ(二本松)						
担当教員	二本松 泰子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>長野県ゆかりの文学作品を地域文化として理解し、それを町おこしや観光資源として利用することによって、地元を活性化させるための文化事業を企画・立案する。その過程を通して、地域資源としての日本文学の価値について学ぶ。</p>				<p>ねらい 長野県ゆかりの文学作品を取り上げ、地域文化としての日本文学の役割について理解する。</p> <p>到達目標 日本文学が地元の地域資源となる可能性について学び、それを活用してゆく手法を身に付ける。</p>			
キーワード	『平家物語』、木曾義仲、巴御前						
教授方法	<p>今年度は、長野県出身の歴史上の人物である木曾義仲と巴御前について取り上げる。まずは、1・2学期において義仲と巴御前が登場する文学作品や伝説に関する基礎知識を学ぶ。次に、3・4学期において県内における義仲・巴御前ゆかりの地域を調査し、地域文化としての文学・伝説について理解を深める。さらにそのような知見を踏まえて、地元ケーブルテレビ等と連携したミニ番組の企画、自治体と連携した市民向けオンライン・ワークショップや講演会の企画・運営、多言語パンフレットの企画・制作、その他各種地元メディアに発信する、といった義仲と巴を顕彰する活動を地元で行う。</p>						
履修条件等	コロナ禍の状況によりますが、大学の許可が得られたらフィールドワークを実施します。何卒、積極的に参加してください。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業のガイダンス(1年間のスケジュール、学習目標の確認など)						
2	日本文学と地域文化について【講義】						
3	長野県内の文化事業についてー自治体の活動を中心にー【講義】						
4	長野県内の文化産業についてー地元メディアを中心にー【講義】						
5	木曾義仲と巴御前について学ぶー歴史上の人物としての義仲・巴について【講義】ー						
6	木曾義仲と巴御前について学ぶー『平家物語』の義仲・巴について【講義】ー						
7	木曾義仲と巴御前について学ぶー県内における義仲・巴ゆかりの伝説・遺跡について【講義】ー						
8	木曾義仲と巴御前について学ぶー県外における義仲・巴ゆかりの伝説・遺跡について【講義】ー						
9	木曾義仲と巴御前について調べるー各種コンテンツにおける義仲・巴について【演習】ー						
10	企画書を書くー木曾義仲と巴御前を地元で紹介するアイデアを考える【演習】ー						
11	企画書を書くー木曾義仲と巴御前を他県で紹介するアイデアを考える【演習】ー						
12	木曾義仲と巴御前のPR動画を作成する【演習】						
13	木曾義仲と巴御前のPR動画を作成する【演習】						
14	夏休みに向けた指導ー東御市・木曾町と義仲・巴についてー						
15	夏休みの成果報告、木曾義仲と巴御前について学ぶー義仲挙兵の地としての東御市について【講義】ー						
16	フィールドワークの準備ー東御市の白鳥河原(義仲挙兵の地)とその周辺について調べる【グループワーク】ー						
17	フィールドワークの実施ー東御市の白鳥河原の現地踏査ー						
18	フィールドワークの成果発表ー《義仲挙兵の地》としての東御市の白鳥河原をPRする動画・多言語パンフレットを作成する【グループワーク】ー						
19	木曾義仲と巴御前について学ぶー義仲・巴の出身地としての木曾町について【講義】ー						
20	木曾義仲と巴御前について学ぶー木曾町における義仲・巴関連の遺跡及び施設について【講義】ー						
21	木曾義仲と巴御前について学ぶー木曾町の義仲・巴関連のイベントについて【講義】ー						
22	フィールドワークの準備ー木曾町における義仲・巴関連の情報について調べる【グループワーク】ー						
23	フィールドワークの実施ー木曾町の現地踏査ー						
24	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【地元ケーブルテレビの番組制作を企画する】【グループワーク】ー						
25	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【地元ケーブルテレビの番組制作を企画する】【グループワーク】ー						
26	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【動画・多言語パンフレットを作成する】【グループワーク】ー						
27	フィールドワークの成果発表ー《義仲・巴の出身地》としての木曾町をPRする【自治体と連携した市民向け講演会・フォーラムの開催・運営】【グループワーク】ー						
28	1年間の活動報告書を作成する【グループワーク】						

共通の成績評価基準

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表	50	授業のテーマに即した内容、形式、発表の仕方などを総合的に評価する。	レポート	50	授業のテーマに即した内容、形式、執筆の方法などを総合的に評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習：課題の提出については、各自締め切りまでに準備しておいてください。 事後学習：課題の返却後は、指摘されたことを確認しておいてください。			毎回、授業の冒頭で前回の授業に関する質問や意見を受け付けます。個人的に質問をしたい人はメールやポータルなどを利用してご連絡ください。		
教科書・テキスト	授業中に提示します。		受講生に望むこと	フィールドワーク（実現できた場合）とグループワークを重視した学習を進めてゆく予定です。どちらも積極的に取り組んでください。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	3学期以降に、上記以外の地元メディアから取材があれば、積極的に対応してください。どうぞよろしくお願ひします。	

授業科目	グローバル教養ゼミ(馬場)						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>哲学の原典購読および、参加者の希望に応じてフランス語・ドイツ語の文章購読をし、哲学的問題やグローバルな諸問題について議論する。また、各自関心のあるテーマについて調べ報告する。</p>				<p>文章を精読する習慣を通じて物事を筋道を立てて整理して論じたり、哲学的に考える姿勢を身につける。フランス語・ドイツ語をブラッシュアップしたい学生には、フランス語1・2、ドイツ語1・2で学習できなかった文法事項を学習し、全文法事項の9割程度を学習することを旨とする。文章読解力や、外国語読解能力を生かし関心あるテーマについて深く調査できる力を身につけることを目標とする。</p>			
キーワード	フランス語、ドイツ語、哲学、倫理学、グローバル、ヨーロッパ						
教授方法	毎回哲学の原典を輪読する。語学希望者がいる場合は、フランス語ないしドイツ語で書かれた同じ内容の文章を読み、適宜文法解説、背景の解説などを行う。						
履修条件等	フランス語を学習したい学生はフランス語1・2を、ドイツ語を学習したい学生についてはドイツ語1・2を履修していることが条件となる。哲学の原典購読をしたい学生は、哲学、倫理学、公共哲学のいずれかを履修していることが望ましいが、何か哲学の本を読みたいという強い意欲があれば、履修を妨げるものではない。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方について						
2	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
3	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
4	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
5	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
6	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
7	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
8	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
9	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
10	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
11	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
12	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
13	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション、レポートの提出						
14	レポートの返却、報告						
15	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
16	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
17	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
18	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
19	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
20	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
21	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
22	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
23	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
24	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
25	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
26	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション						
27	(外国語) 原典購読と解説、ディスカッション、レポートの提出						
28	レポートの返却、報告						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	70	予習、授業態度等を総合的に評価する	レポート	30	授業中に示す
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
与えられた文章をあらかじめ読み、外国語の場合は解らない単語を調べたり、分からない文法事項をはっきりさせておくこと。			可能な限り授業中にすること		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと		語学の場合はしっかり予習をすること。積極的にディスカッションに参加すること。
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項		輪読の文章は、初回、受講者と相談して決めるので、必ず初回出席すること。初回をやむを得ない理由で休む場合はメールで必ず連絡すること。

授業科目		金融リテラシー					
担当教員	石川 光治			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	全学科共通	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>今日では、金融との関わりなしに日常生活を営むことは不可能である。また、金融商品・サービスが多様化・高度化する中、金融取引においては、自己責任・自己判断がより一層求められる時代となっている。加えて、我が国では世界トップクラスで少子高齢化が進み、公的社会保障を巡る財政事情も厳しさを増している。こうした環境の下、個人が将来の夢や豊かな生活を実現するには、金融に関する正確な知識と的確な選択・判断力（＝金融リテラシー）を身に付け、トラブルを回避しながら効果的な取引を行っていく必要がある。本科目は、金融業界の各分野から専門家を招き、お金に関する身近な内容から、金融・経済に関する基礎知識、各種金融商品の特性、トラブルの回避・対処法といったトピックを総合的に理解することで、大学生活はもとより社会に出てからも役立つ金融リテラシーの習得を目指す。</p> <p>英語表記「Financial literacy」</p>				<p>・金融・経済に関する基礎知識を身に付けるとともに、各種金融商品の特性およびトラブルの回避・対処方法等のトピックにつき総合的に理解する。 ・大学生、社会人として必要な金融に関する情報収集力、選択・判断力を身に付ける。</p>			
キーワード	金融、ライフプラン、リスク						
教授方法	金融業界・財政の専門家によるオムニバス形式の講座（長野県金融広報委員会＜事務局：日本銀行長野事務所＞の寄付講座）。講義を主体に一部演習を織り交ぜた形式で実施する。随時、学生との対話も行う。						
履修条件等	特になし。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	【導入、人生と金融リテラシー】 講義概要、社会情勢の変化と金融リテラシー、人生設計と資金計画の重要性など 講師：担当教員（石川）						
2	【お金と経済】 金融と経済の関係、経済変動が及ぼす生活への影響、上手にお金の取引を行うための知恵など 講師：担当教員（石川）						
3	【ライフプランを描く】 ライフプランの重要性、人生の三大費用、社会保障制度など 講師：長野県金融広報委員会						
4	【ライフプランを描く】 第3回講義を踏まえたキャッシュフローの分析演習など（持ち帰り課題として後日提出） 講師：長野県金融広報委員会						
5	【経済・財政・金融システム】 人々の生活と国家財政の関わり、国家財政の現状と課題など 講師：財務省関東財務局長野財務事務所						
6	【経済・財政・金融システム】 日本銀行の業務と金融政策、最近の金融経済情勢など 講師：日本銀行松本支店						
7	【お金をふやす】 投資信託の仕組みと特徴、分散投資の意義など 講師：投資信託協会						
8	【地域経済と金融】 地域経済における地方銀行の役割、地方創生に向けた地方銀行の役割など 講師：八十二銀行						
9	【お金をふやす】 資産形成や投資の意義、リスクとリターンの関係、リスク管理の手法、長期投資の重要性など 講師：日本証券業協会						
10	【お金を借りる】 銀行の役割、クレジットカード・消費者ローン・住宅ローンの仕組みと利用上の留意点など 講師：全国銀行協会						
11	【リスクや将来に備える】 生活の中のリスクと保険の役割、損害保険の仕組みと活用方法など 講師：日本損害保険協会						
12	【リスクや将来に備える】 人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の仕組み、ライフステージに即した活用方法など 講師：生命保険文化センター						
13	【トラブルに強くなる】 学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法、金融商品詐欺と予防策など 講師：長野県金融広報委員会						
14	【全体総括、ライフプランを描く】 第4回演習課題に関する議論・解説、重要事項の復習、全講義の中で生じた疑問への回答など 講師：長野県金融広報委員会、担当教員（石川）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	60	基礎知識を問う択一式試験を課す。講義内容の理解度に応じて評価する。		中間レポート	30	講義内容の理解度と活用状況に応じて評価する。オリジナリティを重視して評価する。	
ライフプランニング演習にお	10	講義内容の理解度と活用状況に応じて評価する。授業員献度等も加味して評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲が広いので、毎回、講義内容の復習を行い、知識の定着に取り組む。 ・第4回講義において、ライフプラン・キャッシュフロー分析演習に関する持ち帰り課題を課す（提出締切：第10回講義終了時）。 ・第6回講義終了時に、3000字程度（A4・表裏1枚）の中間レポートを課す（提出締切：第8回講義終了時）。 				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。 ・毎回、講義のアンケートを実施する。 ・メールでの質問も受け付ける。 メールアドレス：info@nagano-money.com 			
教科書・テキスト	教科書・テキストは特になし。毎回、講義資料を配付する。			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義内容を理解できるよう主体的に講義に参加すること。 ・外部講師によるオムニバス形式の講座であるため、毎回の講義において疑問点を解消するよう努めること。 		
参考書・参考資料等	必要に応じ、適宜参考資料を配付する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	経営学入門						
担当教員	森本 博行			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>・経営学とは、ビジョンの実現に向けてPDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルを回して、人や組織を効率的かつ効果的に動かすために、何をすべきか研究する学問です。経営学入門の授業では、PDCAサイクルを構成する経営戦略論や経営組織論などの経営学の専門分野について具体的に概説します。</p> <p>・担当教員は、外資系企業を顧客する広告会社である（マッキンゼー・エリクソン・ボストン）においてマーケティング戦略を担当し、さらにソニーにおいて、経営戦略、広告宣伝戦略、新事業戦略を担当し、米国、英国の海外子会社の実務経験があります。ソニーを退職する時は、イノベーション戦略オフィスVP（Vice President）でした。</p>				<p>・経営学全般について、経営学を学ぶ意義について学修する。</p>			
キーワード	経営発想、経営戦略、経営組織、意思決定、財務管理、マーケティング、技術戦略、国際経営、異文化マネジメント						
教授方法	・パワーポイントを利用した講義形式で授業を行います。						
履修条件等	・課題についてレポートを出す意欲を持つこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	経営学とは何か ・経営学とは、ビジョンの実現に向けて人や組織を効率的かつ効果的に動かすために何をすべきか研究する学問です。						
2	不確実性と経営発想 ・新しいビジョンや新事業の実行には、必ず不確実性とリスクが存在します。						
3	意思決定論 ・より優れた意思決定をするために何をすべきか						
4	ミクロ組織論（組織行動論、ミクロ組織論） ・リーダーは人を動かすために何をすべきか、について考察する						
5	マクロ組織論（経営組織論） ・環境の変化に適応する最適な組織構造とはどうあるべきか						
6	財務管理論 ・どのように組織の業績を業績を評価すべきか、考察する。						
7	競争戦略論（事業戦略論） ・競争戦略論は、企業に収益をもたらす持続的競争優位を探索することであり、企業収益の源泉と企業間の収益格差について理論的に考察する						
8	資源ベースの経営戦略論（企業戦略論） ・高収益はなぜ生まれたのか、収益を獲得するために経営資源の配分はいかにあるべきか、考察						
9	創発戦略論 ・戦略の本質は何か、について考察する。						
10	マーケティング・マネジメント（マーケティング論） ・個人や社会のニーズを見極めて、ニーズに応えて利益を獲得するために製品やサービスを創造するマーケティングについて考察する。						
11	技術戦略論 ・イノベーションは、経済成長の原動力となるばかりでなく、企業にとって競争優位の源泉となるが、イノベーションを生み出すために何をす						
12	国際経営論 ・グローバルをめざす企業は、進出国で競争優位を獲得するためにどのような経営をすべきか、考察する。						
13	異文化マネジメント論 ・企業買収した異文化組織をどのように経営すべきか、考察する。						
14	総括 経営学とは何か ・経営学とは、ビジョンの実現に向けて人や組織を効率的かつ効果的に動かすために何をすべきか研究する学問であり、経営学入門では、						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	50	経営学の各学問分野についての理解度を評価します。			期末レポート	50	経営学についての理解度を評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では、パワーポイント資料をあらかじめ読み、事後学習では提示された課題について考察することが求められる。				メールで質問や相談に応じます、			
教科書・テキスト	マネジメント入門（スティーブ P. ロビンズ、ダイヤモンド社）			受講生に望むこと	課題レポートを必ず提出すること		
参考書・参考資料等	ゼミナール経営学入門（伊丹敬之、加護野忠男、日本経済新聞社）			その他・特記事項	経営学入門は主要な専門科目の概説ですが、関心のある専門科目を今後さらに深く学修することも求められます。		

授業科目	政策科学					
担当教員	田村 秀・中村 稔彦		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>本講義は、学部の1年次全員を対象に、政策の基本的な事項や政策を理解するために必須となるデータ・リテラシーを学ぶことを通じて、経済政策や公共政策を今後学習するための基本的な素養を涵養することを目標とするものである。</p> <p>具体的には政策の立案、実施、評価の基本的な過程に関して、個別事例を通して理解を促すとともに、政策を作成する上で欠かすことのないアンケートや各種統計データに関する基礎的な見方を学び、政策に関する基本的な知識の習得を目指している。</p> <p>なお、第1回から第11回までを田村が国、自治体勤務の経験を踏まえ、より具体的な政策を取り上げて担当するとともに、第12回から第14回までについては中村が担当する。</p>			<p>ねらい 公共経営コースの導入科目として、政策に関する基本的な事項を学習し、基礎的なデータ・リテラシーを涵養することにより、公共経営分野における知識が体系的に理解でき、数量的スキルを修得できるようになる。</p> <p>到達目標 政策に関する基本的な用語の内容が理解できる。 政策を理解するための基礎的なデータ・リテラシーを習得する。 公共経営の基本的な考え方が理解できる。</p>			
キーワード	データ・リテラシー、アンケート、ランキング、経済波及効果					
教授方法	講義形式で行い、学生に対して毎回問いかけるなど双方向形式で進める。					
履修条件等	特になし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	講義内容の説明、受講に当たっての注意を行うとともに、データ・リテラシーに関する基礎的な問いかけを行う。					
2	政策とは何かということについて具体的な事例を通じて説明を行い、政策プロセス、すなわちPDCAサイクルについて具体的な事例を通じて説明を行う。					
3	政策のニーズを把握する上で欠かすことのないアンケートに関する基本的な統計理論を説明する。					
4	問題点の多いアンケートを事例として取り上げ、政策形成に活かすためにどのように改善すべきかなどの考察を行う。					
5	学生アンケートを実例にして、アンケートからどのような分析をすべきか、また、政策形成に関してどのような有益な情報が得られるのかについて考察を行い、アンケートに関するまとめを行う。					
6	データの見方について、留意点などを具体的に説明する。					
7	データの見方について、引き続き事例を基に考察する。					
8	様々な統計データについて、活用方法も含めて説明を行う。					
9	ランキングの特性について具体的な事例を通じて説明を行う。					
10	引き続きランキングの特性について説明を行うとともに、アンケートなどに関する課題を行う。					
11	データの視覚化について、グラフの有効な活用方法などを考察するとともに11回目までのまとめを行う。					
12	政策の立案・評価の両面で必要となる経済波及効果とその算出方法について、具体的な事例も用いながら説明を行う。					
13	経済波及効果の算出方法の問題点の解決方法について説明を行う。					
14	経済波及効果の実際を学んだ上で、経済波及効果に関する課題を行う。					
共通の成績評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
課題	75	3回実施する（25%×3回）		授業レポート	25	講義内容についてどの程度理解しているかを基準とする。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。 課題の内容について復習を行う。 授業で扱った内容や資料について、自分なりに調べてみる。</p>				<p>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。 ・メールでの質問も受け付ける。</p>		
教科書・テキスト	教科書：田村秀『データ・リテラシーの鍛え方』（イースト新書、2019年）			受講生に望むこと	<p>公共政策や経済に関するニュースを日頃から読むこと。 ニュースで取り上げられる様々なデータの出典や根拠について関心を持つこと。</p>	
参考書・参考資料等	<p>参考書：田村秀『データの罠』（集英社新書、2006年）、小長谷 一之他『経済効果入門 地域活性化・企画立案・政策評価のツール』（日本評論社、2012年）及び石村貞夫他『Excelでやさしく学ぶ産業連関分析』（日本評論社、2009年）。</p> <p>このほか、資料をWEBサイトから事前にダウンロードして入手しておくこと。</p>			その他・特記事項	<p>国、地方自治体で実際の公共政策の立案及び実施に携わっている（田村）。</p>	

授業科目	マーケティング入門						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>マーケティングの考え方やフレームワークは、一般的な企業はもとより、行政機関や教育機関、医療機関といった様々な組織で活かすことができる。さらに言えば、身近なグループや個人の行動にすら適用することが可能である。本授業は入門という位置づけであるため、特に基本的なフレームワーク（環境分析、STP、MM、CRM）に焦点を当て、それらを理解し活用できるようにすることを狙いとする。なお、出来る限りイメージしやすいように事例を多く示すこと、各論となるマーケティング関連科目への橋渡しとなるような俯瞰的な視点を提供することの2点を意識した授業を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングに関わる基本的な知識（専門用語、トピック、現代の潮流など）を理解している。 ・マーケティング戦略の基本的なフレームワークを理解し、さまざまなケースに適用することができる。 ・マーケティングの概要を理解し、俯瞰的な視点から各論を位置づけることができる。 			
キーワード	マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ						
教授方法	PowerPointを利用して講義形式で行なう。配布資料は指定した共有フォルダにアップする。配布資料に定義や細かな表などは載せているので、授業中は全体の概要をおさえたうえで、何が重要なのかを考える。授業では事例を多く提示するとともに、積極的に履修者にも具体例を考えてもらう時間をとり、抽象的な概念をできるだけ具体化できるように支援する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、マーケティングの概要						
2	環境分析						
3	STP						
4	ブランドの構築						
5	MM（製品）						
6	MM（製品）						
7	MM（価格）						
8	MM（価格）						
9	MM（流通チャネル）						
10	MM（流通チャネル）						
11	MM（コミュニケーション）						
12	MM（コミュニケーション）						
13	CRM						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	100	授業で学んだフレームワークを、オリジナリティの高い事例にどれだけ適用できるかを問うものである。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
複数回のレポートがあり、授業で取り上げたトピックについて具体例を考えることで理解を深めてもらう。				授業中の質問はチャットで随時受け付けている（たいていの質問はその場ですぐに回答する）。また、授業後しばらくzoomに残っているので直接質問することもできるし、メールでの質問も随時受け付けている。			
教科書・テキスト	教科書は使わず、毎回資料を配布する。			受講生に望むこと	授業で扱われたトピックについて、日々の生活の中で実例を探すこと。		
参考書・参考資料等	授業の中で参考文献の一覧を配布する。			その他・特記事項	特になし		



授業科目		アントレプレナーシップ論					
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義では、アントレプレナーシップについて、初学者に向けた入門として以下の内容を学習する。具体的にはアントレプレナーシップ（起業・創業）という現象がなぜ生じるのか、アントレプレナーシップを生じさせる構造はどうなっているのか、アントレプレナーシップと地域再生や地域活性化にはどのような関係があるのかを学習する。講義内容は、事例を扱いながら、アントレプレナーの役割とアントレプレナーにとって必要な要素を学習します。そして、地域との関係性をどのように構築し、地域の活性化に貢献する手法を学びます。また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>アントレプレナーとは会社を起業する人や企業・行政の組織の中で新しい組織やビジネスとネット組織や人を結びつけて、新しいものを生み出す人のことです。こうした人々は経済発展の原動力になったことが高く評価されて、その機能について考察するのがアントレプレナーシップ論です。この講義では、理論を通して、企業家精神をも養うことをねらとします。</p>			
キーワード	哲学、サステナブルアントレプレナー、企業家社会						
教授方法	基本的に理論の習得をベースとした講義形式で実施する。講義の中では、映像資料の鑑賞、ディスカッション、事例検討などでグループによる対話も取り入れる。						
履修条件等	2年次以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション（授業概要、評価基準の説明、授業の進め方）・アントレプレナーが求められる背景						
2	映像鑑賞						
3	アントレプレナーシップ基礎理論（アントレプレナーとはどのような人なのか）						
4	アントレプレナーの社会的意義（市場の創造、企業や社会の変革、企業家社会の構築）						
5	アントレプレナーに必要となる能力（哲学、ビジョン、事業機会の認知、資源動員および事業コンセプト）						
6	アントレプレナーシップとイノベーション（イノベーション2.0の台頭と役割の変化）						
7	変容する企業モデル（持続可能な企業モデルの台頭）と組織構造						
8	地域社会とアントレプレナーシップの関係・中間まとめ						
9	組織内で求められるアントレプレナーシップ（イントレプレナーと事業継承）						
10	組織内で求められるアントレプレナーシップ（パブリックアントレプレナー）						
11	ニュータイプのアントレプレナー（社会的企業家と制度的企業家）						
12	ニュータイプのアントレプレナー（サステナブルアントレプレナー）						
13	アントレプレナーシップとセルフマネジメント						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ミニレポート	20	授業内でミニレポート2回実施。講義中の重要なキーワードを理解しているかを確認する。		章レポート	80	授業内でレポートを2回作成してもらいます。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習：テーマに沿って参考図書等を利用し学習すること 事後学習：テーマに沿って事例を調べる。課題となる映像視聴と論文を必ず読んでおくこと。</p>				<p>授業後あるいはメールにてアポイントを入れ、対面あるいはリモートで対応する。</p>			
教科書・テキスト	指定無し			受講生に望むこと	食欲に自身の変化を求めて欲しい。		
参考書・参考資料等	<p>大室悦賀著『サステナブル・カンパニー入門』学芸出版、2016年 山田幸三他編『からのアントレプレナーシップ』中央経済社、2017年 川名和美他著『社会人基礎力を養うアントレプレナーシップ』中央経済社、2016年 その他講義中に指示する。</p>			その他・特記事項	<p>講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要になるので、それなりの覚悟をもって望んでほしい。これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識させる内容とする</p>		

講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要に

授業科目	ソーシャル・ビジネス論						
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
近年、社会的課題の解決にビジネスの手法を活用する「ソーシャルビジネス」が台頭し、社会的にその期待が高まっている。本講義では、ソーシャル・ビジネスの台頭した社会的背景、役割、特徴について学び、事例の検討をおこない、ソーシャルビジネスの本質について学習する。講義では、本質を理解するために、ディスカッションや映像鑑賞などを行い、知識と実践的なマネジメント力を身につける。また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。				本講義では、社会的課題の解決が行政のみならずビジネスの手法でも実行可能であること、そして市民それぞれが意識をもって参加することが重要になっていることを理解し、自分で何ができるかを考えることができる知識と思考を獲得することを目標とする。			
キーワード	市場の失敗、政府の失敗、ボランタリーの失敗						
教授方法	基本的に理論の習得をベースとした講義形式で実施する。一方で、映像資料や事例検討などでグループによる対話も取り入れる。						
履修条件等	2年以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション&ワークショップ（授業概要、評価方法、授業の進め方）						
2	ソーシャルビジネスが台頭する社会的背景（政府の失敗と市場の失敗）						
3	ソーシャルビジネスが台頭する社会的背景（NPOの失敗とNPOの形態変化）						
4	ソーシャル・ビジネスとは何か						
5	ソーシャル・ビジネスの特徴とメカニズム						
6	組織形態（株式会社、NPO、社団法人）と組織ポートフォリオ戦略						
7	ソーシャル・イノベーションとソーシャル・イノベーション・クラスター						
8	中間まとめ						
9	社会指向型企業の台頭と特徴						
10	サステナブルカンパニーの台頭						
11	企業と社会の関係の問い直し						
12	サステナブルカンパニーと地域の関係						
13	ソーシャル・ビジネスのモデル化のポイント						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
ミニレポート	20%	授業内でミニレポートを2回実施			授業テスト	40%	事前にテーマを設定し、授業内でレポートを作成してもらいます。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：テーマに沿って参考図書等を利用し学習すること 事後学習：テーマに沿って事例を調べる。毎回課題を出すので、それらを必ず視聴、読み込んでおくこと。				授業後あるいはメールにてアポイントを入れ、対面あるいはリモートで対応する。			
教科書・テキスト	大室悦賀『サステナブル・カンパニー入門』学芸出版、2016年			受講生に望むこと	私語等で受講生や担当者に迷惑がおよぶ行為には厳しく対応する。迷惑行為におよぶ者には警告なしに学生番号を確認のうえ退出退場を命じることがある。		
参考書・参考資料等	谷本真治他編著『ソーシャルイノベーションの創出と普及』NTT出版、2013年 大室悦賀編著『ソーシャル・ビジネス』中央経済社、2011年			その他・特記事項	講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要になるので、それなりの覚悟をもって望んでほしい。これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識させる内容とする。		

講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要にな

授業科目	海外実地研修A					
担当教員	首藤 聡一郎・真野 毅		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、企業訪問、パネルディスカッション調査研究、などの活動を組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 ミズーリ大学コロンビア校 (アメリカ合衆国・ミズーリ州コロンビア)</p>			<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育て上げる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚/ものの考え方を養い、各国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>			
キーワード	語学研修、ビジネス研修、異文化体験					
教授方法	講義、フィールドワーク					
履修条件等	事前に履修を認められた学生。「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
第1週	午前：語学研修（英語） 180分×1コマ×5日 = 計15時間 午後：ビジネス研修 3時間×5日 = 15時間					
第2週	午前：語学研修（英語） 180分×1コマ×5日 = 計15時間 午後：ビジネス研修 3時間×5日 = 15時間					
第3週	午前：語学研修（英語） 180分×1コマ×5日 = 計15時間 午後：ビジネス研修 3時間×5日 = 15時間					
第4週	午前：語学研修（英語） 180分×1コマ×2日 = 計6時間 午後：ビジネス研修 3時間×2日 = 6時間					
-						
-						
-						
-						
-						
-						
-						
-						
-						
-						
-						
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
語学研修（英語）	50%	ビジネスを課題とした基礎英語能力（主として自己の意見の表明能力）とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力	ビジネス研修	50%	各種プレゼンテーションの取り組みプロセスと内容	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
必要に応じて研修先および担当教員より指示する			面談やメール等で対応			
教科書・テキスト	必要に応じて研修先および担当教員より指示する		受講生に望むこと	楽しく真剣に取り組みましょう		
参考書・参考資料等	必要に応じて研修先および担当教員より指示する		その他・特記事項	特になし		

授業科目		海外実地研修B						
担当教員		中村 文彦・鶴田 靖人		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次		2年	開講学期	2 学期		授業形態	実験・実習	科目ナバリング
対象学生		グローバル履修メント	関連資格			備考		
授業の概要				到達目標				
<p>語学研修（英語）とビジネス研修により構成された研修を行う。 語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みつつ、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。 ビジネス研修は、講義、ワークショップ、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。 【研修先】 ニュージーランド リンカーン大学</p>				<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育てる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚・ものの考え方を養い、研修国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>				
キーワード		The idea of a Food System (Food Value Chain)						
教授方法		語学研修（英語）：講義（研修先大学内での実施が中心） ビジネス研修：講義、演習、実習（研修先大学内での講義および演習、現地の行政や企業等に出向いての演習および実習）						
履修条件等		「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい						
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
1	ウェルカムセレモニー・enrollment手続き、その他							
2	【第1週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
3	【第1週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
4	【第1週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
5	【第1週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
6	【第2週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
7	【第2週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
8	【第2週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
9	【第2週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
10	【第3週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
11	【第3週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
12	【第3週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
13	【第3週】 午前：語学研修（英語） 午後：アグリビジネスコース研修							
14	最終プレゼンテーション farewellセレモニー							
共通の成績評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
語学研修（英語）	40	ビジネスを課題とした基礎英語能力（主として自己の意見の表明能力）とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力（80%）、英語授業への取り組み姿勢			ビジネス研修	40	visit前の準備姿勢とvisit後の振り返り・プレゼンテーション(80%)、研修への取り組み姿勢（20%）。	
研修全体の成果	20	研修全体における学習姿勢・研修全体の成果の評価						
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応				
研修全体を通じて自己の英語力を向上させ、現地のビジネスから学習のヒントを得るように心がけること。				現地教員、引率教員が適宜対応する。				
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	効果を高めるため、授業参加者同士でも英語で会話するよう努めること。			
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	研修中は、引率教員および現地教員の指示に従って常に適切な行動をとるよう心がけること。			

授業科目	海外実地研修C					
担当教員	衣川 修平・中村 陽人		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 Ara Institute of Canterbury (ニュージーランド・クライストチャーチ)</p>				<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育て上げる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚/ものの考え方を養い、各国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>		
キーワード	collaboration, Tourism and Environmental issue.					
教授方法	語学研修（英語）：講義（研修先大学内での実施が中心） ビジネス研修：講義、演習、実習（研修先大学内での講義および演習、現地の行政や企業などに出向いての演習および実習）					
履修条件等	「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
第1週	2020年6月15日（月）～6月19日（金）午前：語学研修（英語）15時間程度 午後：ビジネス研修、研修の事前準備、グループプレゼンテーション					
第2週	2020年6月22日（月）～6月26日（金）午前：語学研修（英語）15時間程度 午後：ビジネス研修、研修の事前準備、グループプレゼンテーション					
第3週	2020年6月29日（月）～7月3日（金）午前：語学研修（英語）15時間程度 午後：ビジネス研修、研修の事前準備、グループプレゼンテーション					
共通の成績評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
語学研修（英語）	40	ビジネスを課題とした基礎英語能力（主として自己の意見の表明能力）とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力（80%）、英語授業への取り組み姿勢	ビジネス研修	40	研修訪問前の事前プレゼンテーションの準備姿勢と内容および研修訪問後の振り返りプレゼンテーションの内容（80%）、ビジネス研修への取り組み姿勢	
研修全体の成果	20	英語研修、ビジネス研修、課外活動、日常生活をとおして学んだ成果をまとめたレポート（100%）				
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
英語研修の予習・復習、ビジネス研修の事前調査、ビジネス研修の事後整理、最終レポートの作成など。				適宜対応する。		
教科書・テキスト	必要に応じて研修先および担当教員より指示する。			受講生に望むこと	課題にかかわらず、主体的に問題意識を持ち、調べ、考えてほしい。	
参考書・参考資料等	必要に応じて研修先および担当教員より指示する。			その他・特記事項	特になし。	

授業科目	海外実地研修D					
担当教員	中村 稔彦・尹 大栄		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>自身が参加する研修先となる国（海外実地研修に参加しない学生は、担当教員と相談して定めた任意の国）について、政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、議論し、研修先における学修の要点について教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>【研修先】スウェーデンのCEFR（語学力のレベルを示す国際標準規格）にのった教育を提供する英語学校（スウェーデン王国・ウプサラ）本年度に限りオンラインで実施する。</p>				<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>		
キーワード	語学研修、サイトビジット、国内事前研修先との比較、英語でのプレゼンテーション					
教授方法	発表とディスカッション（オンラインにより実施）					
履修条件等	海外実地研修（スウェーデン、ウプサラ）参加者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
第1回	本演習の目的、発表方法の説明					
第2回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第3回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第4回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第5回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第6回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第7回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第8回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第9回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第10回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第11回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第12回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第13回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
第14回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
発表	100%	プレゼンテーションと議論により判断				
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
研修国（スウェーデン）の政治・経済・社会に関する資料・文献のレビュー			研究室訪問や、メールでの質問・相談に対応する。			
教科書・テキスト	関連文献・資料を適宜紹介、配布する。		受講生に望むこと	関連文献・資料をしっかりとレビューすること		
参考書・参考資料等	関連文献・資料を適宜紹介、配布する。		その他・特記事項	研修効果を高めるための事前学習を怠らないこと		

授業科目	海外実地研修E						
担当教員	永田 邦和・宮下 清		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次	2年	開講学期	2 学期		授業形態	実験・実習	科目ナンバリング
対象学生	グローバルメン	関連資格	備考				
授業の概要			到達目標				
<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 アテネオ大学 語学学習センター （フィリピン共和国・マニラ）</p>			<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育て上げる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚/ものの考え方を養い、各国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>				
キーワード	フィリピン、東南アジア、日本企業の海外戦略、開発経済						
教授方法	語学研修（英語）：講義（研修先大学内での実施が中心） ビジネス研修：講義、演習、実習（研修先大学内での講義および演習、現地の行政や企業などに出向いての演習および実習。）						
履修条件等	「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1週	語学研修（英語）3時間×1日+5時間×3日=18時間 ビジネス研修（ビジネス・ビジットの事前準備・事後報告の準備）2時間×2日=4時間 （予定訪問先）Epson Precision（Philippines）Inc.（EPPI）						
第2週	語学研修（英語）3時間×2日+5時間×2日=16時間 ビジネス研修（第1週のビジネス・ビジットの事後報告、第2週のビジネス・ビジットの事前準備・事後報告の準備）2時間×3日=6時間 （予定訪問先）アジア開発銀行（ADB）・国際協力機構（JICA）						
第3週	語学研修（英語）5時間×2日+3時間×2日=16時間 総括（第2週のビジネス・ビジットの事後報告、海外実地研修とビジネス・ビジットのまとめ）2時間×2日+7時間×1日=11時間						
第4週	語学研修（英語）5時間×1日+3時間×1日=8時間						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
語学研修（英語）	40	ビジネスを課題とした基礎英語能力（主として自己の意見の表明能力）とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力（80%）、英語授業への取り組み姿勢		ビジネス研修	40	研修訪問前の事前プレゼンテーションの準備姿勢と内容および研修訪問後の振り返りプレゼンテーションの内容（80%）、ビジネス研修への取り組み姿勢	
研修全体の成果	20	英語研修、ビジネス研修、課外活動、日常生活をとおして学んだ成果をまとめたレポート（100%）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
語学研修の予習・復習や、宿題等に行き届きと取り組むこと。また、ビジネス・ビジットのプレゼンテーションの準備に十分に時間を掛けること。				質問や相談がある場合、現地教員または引率教員に尋ねること。			
教科書・テキスト	必要に応じて現地教員および引率教員より指示する。			受講生に望むこと	「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて現地教員および引率教員より指示する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		海外実地研修F					
担当教員		東 俊之・尹 大栄		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング
対象学生		グローバル専攻	関連資格	備考			
授業の概要				到達目標			
<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。</p> <p>ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 レスター大学（イギリス・レスター市）</p>				<p>「グローバルな視点と考え方を有する学生を育て上げる」という長野県立大学の目的を達成するため、世界の現状をビジネスの側面から体感し、グローバルな感覚/ものの考え方を養い、各国の経済とビジネスについてその要諦を学ぶとともに、グローバルな視点にとって必須であるビジネス英語の実践的対話力の習得と現地でのブラッシュアップを図る。</p>			
キーワード		語学研修、ビジネス研修					
教授方法		語学研修（英語）：講義（研修先大学からオンラインで実施される） ビジネス研修：講義、演習、実習（オンラインによる講義および演習、現地の各種組織とオンライン接続による演習および実習）					
履修条件等		「海外経営経済演習」の単位を修得していることが望ましい					
授 業 計 画							
実施回		授業内容					
第1週		第1週：オンラインによる語学研修：15時間程度。 ビジネス研修：事前学習+事後学習（自習・グループ活動・プレゼンテーション）=6時間程度、（予定訪問先）Chatsworth House 変更になる場合がある					
第2週		第2週：オンラインによる語学研修：15時間程度。 ビジネス研修：事前学習+事後学習（自習・グループ活動・プレゼンテーション）=6時間程度。（予定訪問先）Leicester City Football club, East Midlands Airport 変更になる場合がある					
第3週		第3週：オンラインによる語学研修：15時間程度。 ビジネス研修：事前学習+事後学習（自習・グループ活動・プレゼンテーション）=6時間程度。 変更になる場合がある					
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
語学研修（英語）	40	ビジネスを課題とした基礎英語能力（主として自己の意見の表明能力）とビジネス上の基礎的会話を実施できる能力（80%）、英語授業への取り組み姿勢			ビジネス研修	40	研修訪問前の事前プレゼンテーションの準備姿勢と内容および研修訪問後の振り返りプレゼンテーションの内容（80%）、ビジネス研修への取り組み姿勢
研修全体の成果	20	オンラインで実施される英語研修、ビジネス研修、課外活動などをとおして学んだ成果をまとめたレポート（100%）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
語学およびビジネス研修の授業に基づき、必要な事前学習（主にテキストや関連・参考資料の予習や語学練習など）と事後学習（資料やノートの整理、理解確認や語学練習など）を行うことが求められる。				学習その他の相談については、引率教員（授業担当教員）が随時対面およびメールで対応する。			
教科書・テキスト	必要に応じて研修先および担当教員より指示する。また語学研修に関しては、現地で準備される。			受講生に望むこと	これまで英語や海外経営経済演習をはじめ、多くの準備をしてきた海外研修を最大限に活かせるように心がけてください。また今年度はオンラインで実施されるので、その準備を忘れずに行ってください。		

参考書・ 参考資料等	必要に応じて研修先および担当教員より指示する	その他・ 特記事項	気になることや心配なことは小さなことでも引率教員（授業担当教員）や先方（レスター大学）スタッフに相談・連絡してください。オンライン研修でも充実したものになるよう、積極的なコミュニケーションを心がけましょう。
---------------	------------------------	--------------	---

授業科目	海外経営経済演習（リンカーン）						
担当教員	中村 文彦			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>研修先の政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴について、自ら調べて報告・議論した上で、研修先における学修の要点等に関する担当教員のアドバイスを受ける。この際、適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>【研修先】リンカーン大学ニュージーランド</p>				<p>海外研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>			
キーワード	The idea of a Food System (Food Value Chain)						
教授方法	基本的に、オンライン（可能であれば対面式も併用）による演習形式で行います。						
履修条件等	リンカーン大学に留学を予定していること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス、授業の進め方に関する説明、海外研修に向けた事前学習について、プレゼンテーション・グループワークの説明						
2	テーマ：ニュージーランドについて調べよう、グループワーク（各グループ3人程度）およびプレゼンテーション、他グループのアセスメント						
3	テーマ：クライストチャーチについて調べよう、グループワーク（各グループ3人程度）およびプレゼンテーション、他グループのアセスメント						
4	テーマ：NZの農業について調べよう、グループワーク（各グループ3人程度）およびプレゼンテーション、他グループのアセスメント						
5	テーマ：NZの加工生産について調べよう、グループワーク（各グループ3人程度）およびプレゼンテーション、他グループのアセスメント						
6	テーマ：NZのワインについて調べよう、グループワーク（各グループ3人程度）およびプレゼンテーション、他グループのアセスメント						
7	個人によるプレゼンテーション（英語！）総合評価						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
調査・報告	40	調査内容（質および量が十分なレベルであるか？） 調査姿勢（主体性等） 学術調査の引用のルール等を満たしているか？			参加態度	60	議論への参加・貢献 授業への参加姿勢（主体性、その他） 協調性その他
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
報告を担当している箇所以外についても、できるだけ各回のテーマに関する下調べを自分で行うこと。				ポータルサイト（メール）でお知らせします。			
教科書・テキスト	特に指定しない。			受講生に望むこと	積極性と協調性をもって参加すること。		
参考書・参考資料等	ポータルサイト（メール）でお知らせします。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		海外経営経済演習（レスター）					
担当教員	東 俊之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>自身が参加する研修先となる国（海外実地研修に参加しない学生は、担当教員と相談して定めた任意の国）について、政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、議論し、研修先における学修の要点について教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。担当教員の宮下は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有しており、ビジネスやマネジメントの事例を含めた学びを進め、それらの考察を通して実務にも生かせる能力の習得に役立てていきます。</p> <p>【研修先】レスター大学（英国・レスター）</p>				<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>			
キーワード	国内事前研修、研修先事前学習、英語プレゼン						
教授方法	演習（必要に応じて講義を行う場合もある。また、外部講師による講演を行う場合もある）						
履修条件等	海外実地研修Fに参加予定の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議						
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
発表	60	プレゼンテーションと議論の内容を評価		グループ活動	20	プレゼンテーションの準備としてのグループ活動の参加度や事前準備状況を評価	
レポート	20	授業内で何度か課すレポート課題を評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>海外研修の広い意味での準備になるため、英語とビジネス研修に役立つ参考資料を収集することや学ぶことが事前学習になります。また授業での発表や質疑など討議で得たことを整理し、必要なフォロー学習を行うことが事後学習となります。</p>				<p>担当教員のオフィスアワーや授業前後での面談、またメールなどで連絡があれば都合のつく時間にて対応します。なお、教員のオフィスアワーの設定时限は、授業の初回でアナウンスします。</p>			
教科書・テキスト	教科書は、特に指定しません。			受講生に望むこと	<p>海外研修を最大限充実したものにするための準備を行うのが本演習です。現地で英語での討議や発表の経験をしますが、訪問予定先や英国での興味のあることについて事前に調べて、自分なりに理解し、自分の考えや意見が述べられるようにしておくといでしょう。調べることで、さらなる疑問や興味も出てくるので、英国での学びがますます面白くなります。</p>		
参考書・参考資料等	授業内で適宜指示します。			その他・特記事項	<p>本演習の時間で、海外で重要となる連絡や説明を行うこともあるので、欠席をしないように十分留意しておいてください。海外では国内以上に体調管理は大切になりますので、その点でも準備をしておいてください。</p>		

授業科目	海外経営経済演習 (AIC)						
担当教員	衣川 修平			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>自身が参加する研修先となる国（海外実地研修に参加しない学生は、担当教員と相談して定めた任意の国）について、政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、議論し、研修先における学修の要点について教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>【研修先】Ara Institute of Canterbury (AICクライストチャーチ工科大学) (ニュージーランド・クライストチャーチ)</p>				<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>			
キーワード	collaboration, tourism and environmental issue						
教授方法	演習。必要に応じて講義を実施する場合もある。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	プレゼンテーションと議論により判断					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
各種課題にむけた調査、資料作成。				質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。また、メールでの質問も随時受け付ける。			
教科書・テキスト	授業の中で適宜指示する。			受講生に望むこと	課題にかかわらず、主体的に問題意識を持ち、調べ、考えてほしい。		
参考書・参考資料等	授業の中で適宜指示する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	海外経営経済演習（ミズーリ）				
担当教員	首藤 聡一郎		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
<p>自身が参加する研修先となる国（海外実地研修に参加しない学生は、担当教員と相談して定めた任意の国）について、政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、議論し、研修先における学修の要点について教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。 【研修先】ミズーリ大学（米国・ミズーリ州コロンビア）</p>			<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>		
キーワード	日米比較、地方行政、ベンチャーエコシステム、NPO				
教授方法	演習。必要に応じて講義を実施する場合もある				
履修条件等	ミズーリ大学留学予定者				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	ガイダンス、英語でのピッチ				
2	グループワーク（日米の地方政治システム）				
3	海外での生活に潜むリスク				
4	グループワーク（日米のベンチャーエコシステム）				
5	グループワーク（日米のNPO）				
6	留学に際してのリスク管理				
7	グループワーク（留学の目的と計画）				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	話し方なども含めたプレゼンテーションの内容	期末レポート	50	内容、形式等
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
グループワーク・プレゼンテーションの準備。			授業時に受け付ける。必要に応じて授業外でも対応するが、その場合、メール等で事前にアポイントメントを取ることを。		
教科書・テキスト	なし。		受講生に望むこと	事前の準備で留学の学びの豊かさや楽しさは大きく変わります。真剣に取り組みましょう。	
参考書・参考資料等	必要に応じて授業時に紹介。		その他・特記事項	使用言語は基本的に英語。	

授業科目	海外経営経済演習（マニラ）						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>自身が参加する海外研修先について（海外研修に参加しない学生は担当教員と相談のうえ任意の国をとりあげて）、その国の政治、社会、文化、民族、経済、ビジネスの具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、全員で議論し、教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>【研修先】アテネオ大学 語学学習センター（フィリピン共和国・マニラ）</p>				<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>			
キーワード	フィリピン、東南アジア、日本企業の海外戦略、開発経済						
教授方法	演習。必要に応じて講義を実施する場合もある。対面かオンラインのどちらで行うかは、開講時まで連絡する。						
履修条件等	海外実地研修E参加予定者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
プレゼンテーションと議論	100	プレゼンテーションと議論により判断					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
プレゼンテーションの準備に十分時間を掛けること。				なるべく、授業中に質問すること。授業時間外に質問や相談がある場合、研究室に来ること。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	海外実地研修を実りあるものにするため、この演習で十分な準備をすること。		
参考書・参考資料等	適宜指示する。			その他・特記事項	授業中に重要な連絡・説明をするので、欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合、担当教員に連絡すること。		

授業科目	海外経営経済演習（ウプサラ）						
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>自身が参加する研修先となる国（海外実地研修に参加しない学生は、担当教員と相談して定めた任意の国）について、政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、議論し、研修先における学修の要点について教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p> <p>【研修先】スウェーデン（スウェーデン王国・ウプサラ）</p>				<p>海外短期実地研修の準備を兼ねて、訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ること、および英語によるプレゼンの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>			
キーワード	北欧モデル、スカプスタ空港、Toyota Material Handling Europe、ウプサラ市環境政策、Apotea.se						
教授方法	発表とディスカッション						
履修条件等	海外実地研修（スウェーデン、ウプサラ）参加者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	本演習の目的、発表方法の説明						
第2回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第3回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第4回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第5回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第6回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第7回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
発表	100%	プレゼンテーションと議論により判断					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
研修国（スウェーデン）の政治・経済・社会に関する資料・文献のレビュー				研究室訪問や、メールでの質問・相談に対応する。			
教科書・テキスト	関連文献・資料を適宜紹介、配布する。			受講生に望むこと	関連文献・資料をしっかりとレビューすること		
参考書・参考資料等	関連文献・資料を適宜紹介、配布する。			その他・特記事項	研修効果を高めるための事前学習を怠らないこと		

授業科目	海外経営経済演習 (野口)						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	海外経営経済演習（中村文）						
担当教員	中村 文彦			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
海外研修の総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることにより、海外の経済社会事情に関する具体的な議論をし、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図る。				授業の目標は次の通り。 訪問国等、特定の国を対象とした研究を行い、海外の経済社会事情に関する具体的な議論を行うことにより専門学習の基礎を得る。 英語プレゼン能力の向上を図る。 その後の専門分野における学びの動機を得る。			
キーワード	The idea of a Food System (Food Value Chain)						
教授方法	海外実地研修参加者は特定のテーマ（経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ）について、また、海外実地研修に参加しなかった者は、海外経営経済演習 の履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象について、それぞれ、概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断等を、主に英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論しながら、教員のアドバイスを受ける。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	第7回：クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
調査・報告	40	調査内容（質および量が十分なレベルであるか？） 調査姿勢（主体性等） 学術調査の引用のルール等を満たしているか？		参加態度	60	議論への参加・貢献 授業への参加姿勢（主体性、その他） 協調性その他	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
報告を担当している箇所以外についても、できるだけ各回のテーマに関する下調べを自分で行って下さい。				授業後に受け付けます。			
教科書・テキスト	特に指定しません。			受講生に望むこと	積極性と協調性をもって参加して下さい。		
参考書・参考資料等	授業内で都度指示します。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	海外経営経済演習 (東)					
担当教員	東 俊之		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>自身が参加した海外実地研修における経営学、経済学、社会学、行政学等に係るテーマ(海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象)について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとします。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>		
キーワード	事後学習、英語によるプレゼンテーション、他研修先との比較					
教授方法	演習					
履修条件等	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
第1回	本演習の目的、発表方法の説明					
第2回	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議					
第3回	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議					
第4回	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議					
第5回	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議					
第6回	学生による発表と議論および担当教員のコメント、またはグループ討議					
第7回	学生による発表と議論および担当教員のコメント					
共通の成績評価基準						
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記)	0%			小テスト	0%	
授業レポート	0%			上記以外の授業評価	100%	プレゼンテーションと議論により判断
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応		
<p>プレゼンテーションの準備は必須です。また、事後学習として発表者は発表内容のリフレクションをすることが求められます。</p>				<p>オフィスアワーを設定しますが、それ以外でも入室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。 なおオフィスアワーの日は授業の初回で案内します。</p>		
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	受講生間の積極的なディスカッションができるように、質問項目を考えながら他者の発表を聞くようにしてください。	
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	欠席した場合は、なるべく早く授業担当者に連絡を取り、指示を仰いでください。	

授業科目	海外経営経済演習 (大室)						
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	海外経営経済演習（衣川）						
担当教員	衣川 修平			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
主に海外実習で訪れた地域における経済、経営、社会、行政等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとします。				海外短期実地研修で訪れた地域をリサーチ対象として、基盤的な知識の獲得、ディスカッション、プレゼンテーション、の各能力の向上を図ることを目標とします。			
キーワード	プレゼンテーション，経済学，経営学のパースペクティブ						
教授方法	演習						
履修条件等	海外研修の単位を修得した者。 また海外研修に行けなかったまたは単位を修得できなかったが、特段の事情が認められる者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	本演習の目的、発表方法の説明						
第2回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第3回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第4回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第5回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第6回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第7回	報告会						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者の意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べることができたか		報告	50	1. 報告資料は適切であったか 2. 報告方法が効果的であったか 3. 協業関係をうまく取り結ぶことができたか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
プレゼンテーションのための、資料収集とパワー作成を第1回から行うようにしてください。				演習時にオフィスアワーを指定します。			
教科書・テキスト	適宜紹介します。			受講生に望むこと	本演習の性質上、報告会は欠席しないようにお願いします。		
参考書・参考資料等	適宜紹介します。			その他・特記事項	Email: kinugawa.shuhei@u-nagano.ac.jp		

授業科目	海外経営経済演習（金）				
担当教員	金 賢仙		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。			海外経済実地研修において自身が赴いた国・地域の政治、経済、文化等について、説明できるようになる。 自身の問題意識を深め、検討すべきテーマの設定をできるようになる。 自身のテーマについてのプレゼンテーションができるようになる。 英語によるプレゼンテーション、意見交換ができるようになる。		
キーワード	海外経営経済				
教授方法	演習				
履修条件等	海外経営経済演習、海外経済実地研修を履修済みであること。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	ガイダンス				
2	学生による発表と議論及び担当教員のコメント				
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント				
7	クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論。				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
100		プレゼンテーションと議論により判断			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
報告を担当している箇所以外についても、できるだけ各回のテーマに関する下調べを自分で行ってください。			原則として、オフィス・アワーに対応する。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	自身が興味関心を持ったことに関連する問題意識を深め、テーマ設定ができるようにしましょう。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	プレゼンテーションに際して、参考文献を自身で用意すること。参考文献は最低でも2件用意すること。（英文か和文かは問わない。） 印刷等の手配については、授業中に説明します。	

授業科目	海外経営経済演習（首藤）				
担当教員	首藤 聡一郎		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
まず、留学時の学びをそれぞれプレゼンテーションしてもらった後、受講者全員で議論する。また、留学時に生じた疑問について調査し、それについてもプレゼンテーションしてもらった後、議論する。			1) 留学の経験を、外部化することで、明瞭にすることができる 2) 他社の留学経験を理解することで自らの経験を深化させることができる 3) 留学時に生じた疑問について調査することで、留学時の学びを発展させることができる		
キーワード	海外留学、留学経験の共有、留学経験の振り返り				
教授方法	プレゼンテーション、ディスカッション				
履修条件等	「海外実地研修」受講者				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	ガイダンス				
2	留学経験のプレゼンテーション・ディスカッション（1）				
3	留学経験のプレゼンテーション・ディスカッション（2）				
4	留学経験のプレゼンテーション・ディスカッション（3）				
5	留学時に生じた疑問に関するプレゼンテーション・ディスカッション（1）				
6	留学時に生じた疑問に関するプレゼンテーション・ディスカッション（2）				
7	留学時に生じた疑問に関するプレゼンテーション・ディスカッション（3）				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	内容、わかりやすさ、形式等から総合的に判断	ディスカッション	50	発言の頻度、質等から総合的に判断
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習（1）：自らの留学に関するプレゼンテーションの準備 事前学習（2）：留学時に生じた疑問に関するプレゼンテーションの準備			授業時に受け付ける。それ以外の時間に関してはメールでアポイントメントを取ること		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	真刻に取り組みましょう	
参考書・参考資料等	授業時に適宜紹介		その他・特記事項	特になし	

授業科目	海外経営経済演習（田村）						
担当教員	田村 秀			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>			
キーワード	海外、経済、経営、プレゼンテーション						
教授方法	演習						
履修条件等	海外短期実地研修に参加すること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論及び担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論及び担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論及び担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論及び担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論及び担当教員のコメント						
7	クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
その他	100	プレゼンテーションと議論により判断					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
海外短期研修から帰国後、研修で学んだことをしっかりと整理すること				随時受け付ける			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	毎回受講し、議論に積極的に参加すること		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	海外経営経済演習（永田）						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>自身が参加した海外研修における経済・経営・社会・行政・政治上のテーマについて（海外研修に参加しなかった学生は担当教員と相談して自身が定めた任意の研究対象について）、その概略、研修と研究から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を主として英語でプレゼンし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、専門教育の基礎とする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>			
キーワード	海外事情、日本との比較、英語プレゼン						
教授方法	演習形式。対面で行う予定。						
履修条件等	海外実地研修に参加すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と討論および担当教員のコメント（1）						
3	学生による発表と討論および担当教員のコメント（2）						
4	学生による発表と討論および担当教員のコメント（3）						
5	学生による発表と討論および担当教員のコメント（4）						
6	学生による発表と討論および担当教員のコメント（5）						
7	学生による発表と討論および担当教員のコメント（6）						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	0				小テスト	0	
授業レポート	0				上記以外の授業評価	100	発表と討論により評価
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
発表の準備に十分時間をかけること。				なるべく授業中に質問をすること。また、授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	他の受講生の発表に対して積極的に質問やコメントをすること。		
参考書・参考資料等	適宜指示する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	海外経営経済演習（中村陽）						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマについて、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。				海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。			
キーワード	海外研修、英語によるプレゼンテーション						
教授方法	演習。必要に応じて講義を実施する場合もある。						
履修条件等	海外経営経済演習 および海外実地研修を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	クラスごとではなく全学生一堂に会しての代表学生による発表と全員での議論。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	プレゼンテーションと議論により判断					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
各課題にむけた調査、資料作成。				質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。また、メールでの質問も随時受け付ける。			
教科書・テキスト	授業の中で適宜指示する。			受講生に望むこと	課題にかかわらず、主体的に問題意識を持ち、調べ、考えてほしい。		
参考書・参考資料等	授業の中で適宜指示する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	海外経営経済演習（中村稔）						
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者についてはその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。</p>			
キーワード	研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断、国内事前研修先との比較、英語でのプレゼンテーション						
教授方法	演習						
履修条件等	特になし。3回以上欠席した者は評価の対象外とする。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	本演習の目的、発表方法の説明						
第2回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第3回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第4回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第5回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第6回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
第7回	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーションと議論	100	知識力、構成力、表現力、思考力、発言力を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
できる限り台本を見ないで、英語でプレゼンテーションができるように、事前準備をしっかりと行うこと。				随時対応する。			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	海外研修の成果を十分にアピールして欲しい。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	海外経営経済演習（三浦）						
担当教員	三浦 正士			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを、その後の専門分野における学びの動機付けとする。</p>				<p>海外の事情に関する調査能力、日本と比較検討する思考力、分析力を身につける。 英語でのプレゼンテーション能力を身につける。 議論に必要なコミュニケーション能力を身につける。</p>			
キーワード	国際比較、プレゼンテーション、英語						
教授方法	演習形式で行う。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
上記以外の授業評価	100	プレゼンテーションと議論により判断する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。 ・報告者以外は、報告が予定されている内容について、書籍やインターネット等を通じて事前に情報を収集する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。 			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	海外経営経済演習（宮下）						
担当教員	宮下 清			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>この科目は受講者がそれぞれ参加した海外研修での経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマにおいて、その概略、研修から得られた知見、自身の経営や政策における考えなどの発表と討議による学びの場となるものである。発表はプレゼンテーションを英語で行い、全員で議論し、教員のアドバイスを受け、さらに学びを深めていく。これにより、専門分野での学びの動機付けとする。</p> <p>担当教員は国際企業での人事教育、海外商品企画、海外営業管理の実務経験を有し、ビジネスやマネジメントの事例を含めた学びを進め、それらの考察を通して実務にも生かせる能力の習得に役立てる。海外実地研修に参加しない学生は「海外経営経済演習」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象について上記を行うものとする。</p>				<p>海外短期実地研修参加者はその総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることで海外の経済社会事情について、具体的な議論ができるようになること、さらに専門的な学習の基礎を学び、英語プレゼン能力の向上を図れることを目標とする。</p>			
キーワード	海外研修、海外体験、研修の体得、英語プレゼン						
教授方法	演習による（毎回の予定に基づき、受講者の発表と討議を行う）						
履修条件等	原則として、ゼミナール（演習）と海外実地研修の受講者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本演習の目的、発表方法の説明						
2	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
3	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
4	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
5	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
6	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
7	学生による発表と議論および担当教員のコメント						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
その他	100	発表（プレゼンテーション）と議論（ディスカッション）による					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習として、研修先でテーマとすることを学習する。発表のための準備を行う。事後学習として、他の発表や討議で学んだことを整理、習得し、次回以降に活かす。				オフィスアワーや授業前後にて対応。			
教科書・テキスト	指定はないが、海外研修時のテキストや資料を必要に応じて活用。			受講生に望むこと	海外研修を充実させることはもとより、研修後も資料やノートを整理し授業に活用できるように。		
参考書・参考資料等	特に指定はない。海外研修時の資料を必要により活用。			その他・特記事項	各国での学び、体験を受講者が持ち寄ることで、さらに多様なグローバル知見の獲得が本演習の意義である。担当教員は国際企業での人事教育、海外商品企画、海外営業管理の実務経験を有する。		

授業科目	海外経営経済演習（森本）						
担当教員	森本 博行			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>・海外実地研修における異文化体験について、学問的研究視点からその内容について検討し、学修する。</p> <p>・担当教員は、外資系企業を顧客とする広告会社である（マッキンゼー・エル&P）においてマーケティング戦略を担当し、さらにソニーにおいて、経営戦略、広告宣伝戦略、新事業戦略を担当し、米国、英国の海外子会社での実務経験があります。ソニーを退職する時には、イノベーション戦略オフィスVP（Vice President）でした。</p>				異文化理解力、問題発見能力、論理的説明力の修得を目指します。			
キーワード	グローバル 異文化体験 多文化社会						
教授方法	・海外実地研修での体験したことを、学問的に整理して、受講生が発表し、多文化社会について議論する演習方式で行います。						
履修条件等	・ゼミナールを受講していること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	・文化とは何か、ホフステードの『多文化社会』を読み解き、受講生の異文化体験を整理、考察する。						
2	英国での異文化体験 ・どのようなことで文化の違いを感じました。						
3	フィリピンでの異文化体験 ・どのようなことで文化の違いを感じました。						
4	アメリカでの異文化体験 ・どのようなことで文化の違いを感じました。						
5	ニュージーランドでの異文化体験 ・どのようなことで文化の違いを感じました。						
6	スウェーデンでの異文化体験 ・どのようなことで文化の違いを感じました。						
7	多文化社会で体験したことの意義とは どのようなことで文化の違いを感じました。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
発表	50	・ビジネスビジット等で体験を整理して説明できたか、を評価します。			レポート	50	・ビジネスビジット等での体験を論理的に説明しているか、を評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
・事前学習として訪問国の政治経済等を調査し、自らの異文化体験を整理する。また事後学習として、訪問国について総括し、レポートとしてまとめる。				・メールやゼミナールで質問や相談を受けます。			
教科書・テキスト	『多文化社会』（G.ホフステード）			受講生に望むこと	・受講生は、自らの異文化体験を写真等をまじえて説明できるようにしておくこと。		
参考書・参考資料等	『異文化理解力』（エリンメイヤー）			その他・特記事項	・受講生は、自らの異文化体験を客観的に整理しておくこと。		



授業科目	海外経営経済演習 (尹)						
担当教員	尹 大栄			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	海外経営経済演習（六山）				
担当教員	六山 悌三		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
自身の海外研修における経済経営社会行政政治上のテーマについて、その概略、研修と研究から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を主として英語でプレゼンし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、専門教育の基礎とする。			海外短期実地研修参加者等の総括も兼ねて、訪問国をはじめ特定の国を具体的に研究対象とすることによって、海外の経済社会事情について、具体的な議論をして、専門的な学習の基礎とするとともに、英語プレゼン能力の向上を図ることを目標とする。		
キーワード	海外事情、経営課題、経済問題				
教授方法	演習				
履修条件等	学務の規定による				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	本演習の目的、発表方法の説明				
2	学生による発表と討議				
3	学生による発表と討議				
4	学生による発表と討議				
5	学生による発表と討議				
6	学生による発表と討議				
7	学生による発表と討議				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーションと討議	100	プレゼンテーションと討議の内容により判断			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
海外経営経済演習 および海外実地研修準備等をもとに、各自が複数回のプレゼンテーション（パワーポイント資料と報告言語は英語による）を準備する必要があります。有益な討議のために、報告用パワーポイント資料は事前に配布・共有し、全参加者が質疑や討議の事前準備をしてください。			質問、相談がある場合はゼミナールの開催前後やメール等で随時対応します。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	海外実地研修等の成果を専門学習に活かすための演習です。積極的に議論に参加して下さい。	
参考書・参考資料等	適宜指示します。		その他・特記事項	プレゼン・討議の方法等は第1回のガイダンスで説明するほか、各テーマについての事前準備等を適宜演習内で指示します。	

授業科目		経営組織論					
担当教員	東 俊之		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバ'リング	
対象学生	グローバル'メント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>今日の社会は組織なしには動かない。そのため、組織について基本知識を持つことが不可欠である。つまり、組織全体をいかにマネジメントするかを考える必要があり、また組織のなかの人間行動に注目することが不可欠である。本科目では、経営組織論、特にマクロ組織論（組織理論）に注目し、今後の社会生活において必要不可欠な組織についての知識や技能を、講義や演習、事例分析を通して身につける。そしてこうした知識・技能を活用して、組織をマネジメントする基礎的な実践能力を涵養する。</p> <p>本授業では、経営組織論に関する様々なテーマについて、講義形式の授業、事例分析やグループ活動、ビデオや動画などのAV資料などを通じて効果的に学習する。また本授業は、最初の数回で「組織論の全体」を把握し、その後「組織と環境との関係」、「組織の成長・発展の方法」を主題にしなが、経営組織論の各論を学習する。</p>				<p>本科目は、組織を経営するための基礎的な実践能力を身につけることがねらいです。具体的には、組織とは何か、またどのような組織観があるのかを説明できる、組織と環境との関係から、組織をいかに設計すればよいかを説明できる、組織の経営活動ならびに組織内の人間行動の側面から、組織文化を説明できる、企業組織の基本形態と特徴を、経営戦略との関係から説明できる、組織を変革する過程や条件を理解し、変革を実行できる、本科目で学習した内容を、実際の組織活動に応用できる、ようになることを到達目標としています。</p>			
キーワード	マクロ組織、協働システム、組織構造、コンティンジェンシー理論、組織文化						
教授方法	毎回、経営組織論に関する様々なテーマについて、基本的にPowerPointを中心に、一部板書を併用しながら授業を行います。また、多くの授業回でショートケースを用いながら説明を行います。その際、皆さんの「所属する組織」を具体的にイメージしながら理論を考察する機会を持ちます。くわえて、事例分析やグループ活動なども適時実施します（おおよそ講義：70%、演習30%の割合）。さらに2回に1度の割合で小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。						
履修条件等	先行して履修すべき科目等は、特にありません。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	【ガイダンス（イントロダクション）】：本科目の全体像を説明し、「組織とは何か」を考えます。特に、「組織」は皆さんにとって、あるいは社会にとって不可欠なものであることを把握し、本授業で学ぶことをどのように実践に生かせるかを理解します。						
第2回	【マクロ組織論とミクロ組織論】：経営組織論は大きくマクロ組織論（組織理論）とミクロ組織論（組織行動論）に分けられます。ここでは、この両者の内容について理解を深め、さらには組織と集団の違いを学習します。特に、マクロ組織論の射程を詳しく解説します。						
第3回	【経営組織の基本概念】：様々な組織の見方ができることを理解し、自分なりの組織観を持てるようにします。また経営組織論における代表的な組織の定義である「バーナードの協働システムとしての組織観」を紹介し、他の組織観との違いを学習します。						
第4回	【伝統的組織論（管理と組織の関係）】：F. テイラーの科学的管理法とH. ファヨールの管理原則、さらにM. ヴェーバーの官僚制組織論を題材として、古典的な組織論を学びます。また、当時の歴史背景から、そうした理論的ななぜ導き出されたのかを考えます。						
第5回	【協働の体系としての組織】：「近代組織論の父」と称される、C. パーナードの理論を学び、組織が「協働システム」として成り立っていることを理解します。くわえて、協働システムとしての組織が成立する条件についても詳細に考察します。						
第6回	【組織における意思決定】：ノーベル経済学賞受賞者である、H. サイモンの組織に関する理論を学び、組織における意思決定がどうあるべきかを考えます。特に、限定合理性である人間の限界を克服するための道具（装置）として組織が存在していることを理解します。						
第7回	【組織と組織のダイナミクス】：組織は外部環境から影響を受け、また外部環境に影響を与える存在です。こうした「オープンシステム」としての組織を検討します。さらに、組織内の個人の行動が経営活動にどう影響するのか検討します。グループ討議を実施します。						
第8回	【組織構造と組織デザイン論】：経営組織の基本構造（機能別組織、事業部制組織、マトリクス組織など）について学習します。また、不確実性と情報処理負荷の削減という視点から、組織をどのように設計すべきかを考察します。						
第9回	【コンティンジェンシー理論】：環境変化に応じて組織の構造や管理方法を適切に変化すべきだという考えをコンティンジェンシー理論（条件適応理論）と言います。ここではコンティンジェンシー理論の代表的な研究を確認し、環境と組織との関係を考察します。						
第10回	【環境の多様な側面】：環境と組織を場合、組織から環境への働きかけが必ずしも可能でない場合があります。こうした「非合理的組織論」の代表的な研究分野である制度派組織論と個体群生態学について学習し、その対策を検討します。教科書から離れた内容です。						
第11回	【組織文化論】：「組織に共通するものの見方、価値観」を組織文化と言います。組織構造だけでなく、この組織文化も組織の成果に影響を与えたと考えられます。そこで、この組織文化が組織メンバーに与える影響を考え、また文化をどのように管理すべきかを学習します。						
第12回	【経営組織と戦略】：組織が持続・発展するためには、環境変化に合わせて「経営戦略」を変更するだけでなく、組織構造や組織文化を変革することも不可欠です。ここでは、経営組織と経営戦略との関係を事例を用いながら考察します。グループ討議を実施します。						
第13回	【組織間関係論】：外部環境の変化に対して個別組織での対応が難しい場合には、組織間のレベルでの対応が不可欠です。ここでは、組織が持続・発展するための方法として、他組織と協働する必要があることを学び、そのポイントを探ります。						
第14回	【経営組織論の展望】：まとめとして、これまで学んできたことを振り返り、様々な組織理論が生まれる背景を探ります。さらに、現在の経営組織論の到達点を鑑み、今後どのようなことが問題となってくるのか、皆さんと検討します。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	30%	期末試験（40点）。期末試験は、論述問題を出題します。これまで学んできたことを総合的に考える問題を出題します。なお論述問題ですので、自身の見		小テスト	30%	小テスト（5点×6回＝30点。2、4、6、8、10、12回に実施）。前回および当日の授業内容が理解できているかの確認のために実施します。穴埋問題を中心	
授業レポート	30%	レポート課題（20点）とグループ討議レポート（5点×2回＝10点）。レポート課題は、組織の特徴を分析するレポートです。またグループ討議レポートは、		上記以外の授業評価	0%	授業への積極的な取り組みなどによって、ボーナスポイントを付与する場合があります。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回授業の終わりに「課題」を提示します。これは提出を求めるとはせず、次回授業の予習になるものです。グループ討議を行う際には、事前に調査しておかないと、活発な議論ができません。さらに2回に1度の割合で小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。</p>				<p>オフィスアワーとして設定しますので、その時間に研究室に来ていただいても構いませんし、Zoomのミーティングを開設しますので、そちらに参加いただいても構いません。それ以外の時間でも可能な限り対応しますが、あらかじめアポイントメールをお送りください（時間の調整をします）。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。</p> <p>なお、オフィスアワーの時間については、授業の初回で案内します。</p>			
教科書・テキスト	教科書：馬場・蔡・福原ほか著『マネジメントの航海図』中央経済社、2015年（本体2,700円＋税）。（必ずしも教科書通りには進みません。また適時資料を配布します）			受講生に望むこと	組織活動は日常のあらゆる場面に存在しています。そのため、常に「組織」を意識し、特に企業組織の活動について、新聞記事や雑誌記事、関連書籍を読み、理解することが大切です。また授業は、これまで皆さんが組織活動で経験したことを思い出しながら受講してください。		
参考書・参考資料等	参考書：田尾雅夫編著『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房、2010年（本体2,800円＋税）。（その他、参考文献は授業時に指示します）						

その他・
特記事項

授業スライドは、授業前に学生ポータルからダウンロードできるようにします。予習・復習に役立ててください。ただし、授業時にもスライドを印刷したものを配付しますので必ずしも印刷する必要はありません。また、欠席された際はなるべく早めに担当教員にアポイントをとり、指示を仰ぐようにしてください（次回授業についていけなくなる場合があります）。

授業科目		ミクロ経済学					
担当教員	飯村 卓也			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
消費者は何をどれだけ消費（需要）するか、企業はいかに生産活動を行うのか、市場価格はどうか決まるのか、独占はなぜ問題なのか、市場機構の限界と政府の役割は何かなど、一般的な市場メカニズムの理論を体系的に講義するとともに、近年目覚しく発展してきたゲームの理論や情報の経済学の基本事項を学び、高年次における応用科目への橋渡しを行う。				この講義では、ミクロ経済学で用いられる基礎的な概念を理解し、経済学的な思考法を身につけることを目標とします。			
キーワード	ミクロ経済学、需要と供給、競争と独占、価格メカニズム、効率的な資源配分						
教授方法	オンラインで授業を行います。						
履修条件等	履修するための条件は特に定めません。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	はじめに：需要と供給 需要・供給曲線(pp.21-27)、価格変動と需要・供給曲線のシフト(pp.28-43)						
2	需要曲線と消費者行動 需要曲線の構造(pp.45-61)、消費者行動と需要曲線(pp.62-67)						
3	費用の構造と供給行動 供給曲線(pp.83-94)、短期費用曲線と長期費用曲線(pp.95-99)、利潤最大化行動と供給曲線(pp.100-110)						
4	市場取引と資源配分(1) 市場と価格メカニズム(pp.111-121)、市場と価格メカニズムの応用例(pp.122-129)						
5	市場取引と資源配分(2) 競争のもたらすもの(pp.130-137)、企業の参入・退出行動と資源配分(pp.138-147)						
6	独占の理論 供給独占の理論(pp.267-278)、独占理論の展開(pp.279-285)						
7	市場の失敗 外部効果(pp.347-363)、費用逡減産業(pp.364-370)、公共財(pp.371-376)						
8	消費者行動の理論 無差別曲線と効用(pp.149-164)、予算制約と消費者行動(pp.165-174)						
9	消費者行動理論の展開 所得変化と需要(pp.175-182)、価格変化と需要(pp.183-195)						
10	生産と費用 生産関数としてとらえた企業(pp.205-213)、生産要素間の代替と費用(pp.214-220)、費用最小化行動と費用曲線(pp.221-228)、利潤最大化行						
11	一般均衡と資源配分 交換の利益(pp.241-248)						
12	ゲームの理論とその応用 囚人のジレンマ(pp.293-303)、協調のメカニズム(pp.304-308)、企業の経営戦略(pp.319-326)						
13	不完全情報の経済学 レモンの市場の経済学(pp.401-408)、情報の不完全性への対応(pp.409-417)						
14	まとめと総復習						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	50	試験の得点		課題提出	40	計4回の課題提出の得点	
授業への積極的な取り組み	10	取り組み度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
(予習) 各回で扱う教科書の該当ページが示されています。授業に参加する前に該当ページを必ず読んでから授業に参加して下さい。 (復習) 配布資料で授業の内容を振り返り、一回一回のポイントを確実に理解するようにしてください。				質問や相談がある場合はメールで連絡をください。メールやZoomなどで対応します。メールアドレスは初回の授業でお知らせします。			
教科書・テキスト	ミクロ経済学 第3版 伊藤元重 日本評論社			受講生に望むこと	教科書は自習書にも使える読みやすい本です。予習の量も毎回30ページ以内なので、「予習・授業・復習」のサイクルを確立するようにしてください。		
参考書・参考資料等	特に指定しません。			その他・特記事項	講義用資料は「お知らせ」で送ります。		

授業科目		ファイナンス入門					
担当教員		永田 邦和		必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次		2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生		グローバル専攻	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標			
<p>ファイナンスは、将来の利益が確実でない状況での資金の貸借を研究している。企業は、不確実性を伴う事業に必要な資金を調達し、その利益から資金を返済している。経営者や金融機関の担当者、投資家が企業活動を金銭的な観点から評価し、正しい意思決定をするためには、ファイナンスの知識が必要になる。</p> <p>本講義では、グローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎知識や予備知識の修得を目指し、初学者が理解しやすいように、金融機関や金融市場の概要も取り上げ、ファイナンスの基本的な考え方を学習する。</p>				<p>本講義では、金融機関や金融市場、ファイナンスの基本的な考え方、証券投資、コーポレート・ファイナンス、リスク管理手法に関する基礎知識を身に付け、企業経営や金融に関するニュースや出来事の背景を理解できるようにする。これらの基礎知識は、今後のグローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎的・予備的知識のみならず、金融業界への就職や個人の資産形成、企業経営においても重要な知識である。</p>			
キーワード		資金調達、投資、資産価格、ポートフォリオ					
教授方法		講義形式。対面で行う予定であるが、受講者が多い場合、オンラインに変更する。授業では、キーワードを空欄にした資料を配付するので、説明を聞いてキーワードを記入すること。授業中に、計算問題と課題を解く演習時間を設ける。					
履修条件等		総合教育の「経済学入門」を受講していると、授業内容を理解しやすい。					
授業計画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	コーポレート・ファイナンスの世界						
3	リスクとリターン：期待値と標準偏差						
4	自己資本と負債						
5	資金の時間的価値：現在価値の計算方法						
6	資産価格の決定理論（1）：債券価格						
7	資産価格の決定理論（2）：株価の決定理論						
8	投資決定の基礎理論						
9	資本構成の基礎理論（1）						
10	資本構成の基礎理論（2）						
11	ポートフォリオ理論（1）：共分散と相関係数						
12	ポートフォリオ理論（2）：分散投資とCAPM						
13	デリバティブ（1）：デリバティブと先物						
14	デリバティブ（2）：オプションとスワップ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記試験）	60	ファイナンスの基礎知識の理解度に応じて評価する。オンライン形式の場合、レポートに変更する可能性もある。		小テスト	30	進捗状況に応じて2回～3回小テストを行い、理解度に応じて評価する。オンライン形式の場合、小テストを行わず、授業中の課題と宿題に変更する可能性	
授業レポート	0			上記以外の授業評価	10	授業中の課題や宿題の成果に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業前に教科書を読んで、予習すること。授業では、教科書を超えるレベルの内容も取り上げるので、授業後には、教科書やノート等で復習すること。				リアクションペーパーを配布するので、質問を記入すること。質問には次回の授業で回答する。また、授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。オンライン形式の場合、授業の最後に、質疑応答の時間を設ける。			
教科書・テキスト	内田交（2009）『すらすら読めて奥までわかるコーポレート・ファイナンス』（改訂版）、創成社。教科書に載っていない分野については、資料を配付する。			受講生に望むこと	ファイナンスを深く理解するには数学や統計学の知識が必要になる。「習うより慣れる」の方針で、授業中に演習時間を設けたり、宿題を課す。何度も繰り返すと正解を導けるようになるので、諦めずに取り組むこと。		
参考書・参考資料等	石橋尚平・高橋陽二・内木栄利子（2018）『知識の基盤になるファイナンス』中央経済社。 柳瀬典由・石坂元一・山崎尚志（2018）『リスクマネジメント』中央経済社。			その他・特記事項	受講生の理解度や進捗状況に応じて授業計画と成績評価等を変更する。オンライン形式になったときには、教授法や成績評価等も変更する。		

授業科目		原価計算入門					
担当教員	衣川 修平			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>世の中にはものを販売する小売業もあれば、ものを製造する製造業があります。本講義では、主に製造業において原価を計算し、それを内部管理に使用する会計手法である工業簿記を学びます。</p> <p>原価には製造原価、販売費、一般管理費などがあり、製造原価はさらに材料費、労務費、経費に分類される。これらの費用をどのように計算すれば、適切に企業の生産活動をコントロールできるのかを学ぶのが工業簿記です。</p> <p>本講義では実際に電卓を叩いて、叩いて、叩きまくり、問題演習を豊富に解いていきます。 勇者は剣で雄々しく戦うが、賢者はそろばんで戦う。</p>				<p>主に製造業においてマネジメントに不可欠なツールとして工業簿記があります。本講義では工業簿記の基礎を学ぶことによって、会計数値の観点から、製造活動をコントロールし、マネジメントする方法の基礎を学びます。</p>			
キーワード	マネジメントアカウンティング、コスト、配賦						
教授方法	講義。随時、電卓を使った問題演習、ディスカッションなどを入れます。						
履修条件等	初等簿記の知識があり、基礎的な仕訳ができること。アカウンティング入門の単位を取得していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	イントロダクション&工業簿記とは何か：工業簿記と原価計算						
第2回	工業簿記の基本：原価とはなにか						
第3回	工業簿記の基本：原価計算の流れ						
第4回	材料費：材料費の購入と消費						
第5回	材料費：棚卸資産、予定消費						
第6回	労務費						
第7回	経費						
第8回	製造間接費						
第9回	部門計算：集計						
第10回	部門計算：配賦						
第11回	個別原価計算：個別原価計算の基礎						
第12回	総合原価計算						
第13回	標準原価計算						
第14回	直接原価計算&まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験(筆記)	80	定期試験では点数で評価したうえで、講義全体の理解度を助案して修正する。			小テスト	20	講義内容を修得したかどうか、3回に一度ほど、小テストを行う。
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
問題集を指示するので、それを解いてください。				講義中にオフィスタ임을指示します。またメールでの質問を随時受け付けます。			
教科書・テキスト	自作プリントを配布する予定です。			受講生に望むこと	会計は努力が報われる科目です。また社会に出てから役に立つ科目です。電卓と一緒に叩いて頑張りましょう。		
参考書・参考資料等	岡本 清(編集), 廣本敬郎(編集)『検定簿記ワークブック/2級工業簿記』中央経済社			その他・特記事項	Email: kinugawa.shuhei@u-nagano.ac.jp		

授業科目		アカウントニング入門					
担当教員		中村 文彦		必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>アカウントニング（会計）は、企業のビジネス活動を資金の面からとらえて、これを記録し、その順末を利害関係者（ステークホルダー）に会計情報として報告する一連のプロセスを対象とします。会計情報がどのように作成され報告されるかによってその後の企業行動や利害関係者の行動に影響を受け、その結果、マクロ経済上のパラメータも動かされるため、アカウントニングのスキルを身につけることは重要です。本講義では、アカウントニングを支える複式簿記という技術の基礎を学び、様々なアカウントニング領域の学習の準備を行います。</p>				<p>複式簿記の基礎的技法を身につけることが、本講義の基本目標です。この目標の達成には、会計処理という技術だけではなく、その背後にある基本的な会計思考を合わせて理解する必要があります。</p>			
キーワード	経営活動 経営における会計の役割						
教授方法	オンライン（木曜日のみリアルタイムによる講義、オンデマンドによる音声解説付きパワーポイントファイルの配信）で実施します。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	:簿記学習の出発点 【学習事項】複式簿記の必要性、簿記一巡のプロセス、簿記普及の背景、簿記の種類、簿記の学び方						
2	:5要素と2つの財務諸表 【学習事項】5要素の重要性、資産・負債・純資産と純資産等式、貸借対照表、問題演習						
3	5要素と2つの財務諸表 【学習事項】費用・収益と当期純損益、損益計算書、問題演習						
4	「勘定」という計算単位 【学習事項】複式簿記の記録対象、取引の概念、「勘定」という計算単位、勘定記入のルール、問題演習						
5	仕訳と仕訳帳 【学習事項】仕訳の手順と役割、主要簿としての仕訳帳、仕訳帳の記入法、問題演習						
6	転記と総勘定元帳 【学習事項】転記の手順、総勘定元帳の記入法、問題演習						
7	現金・預金取引 【学習事項】現金勘定の利用と勘定記入、現金出納帳、当座預金勘定、その他の預金、問題演習						
8	商品売買取引 【学習事項】商品売買取引、分記法による取得と販売の会計処理、返品と値引きの記帳、問題演習						
9	債権債務（売掛金・買掛金と貸付金・借入金） 【学習事項】売掛金勘定の記帳、買掛金勘定の記帳、貸付金勘定の記帳、借入金勘定、問題演習						
10	授業内容:固定資産の取引 【学習事項】固定資産の分類、有形固定資産の取得と売却、問題演習						
11	純資産（資本） 【学習事項】資本金勘定の記帳、資本の引出しの処理、問題演習						
12	費用・収益 【学習事項】様々な費用と収益、費用と収益の会計処理、問題演習						
13	試算表と精算表 【学習事項】会計情報のニーズ、試算表の種類と作成の目的、試算表の種類、試算表の作成手順、						
14	試算表と精算表 【学習事項】精算表、精算表の種類、精算表の作成と当期純損益算定のメカニズム、問題演習						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	30	前回学習した内容について定着度合いを評価する。		期末テストまたはレポート	40	試験の場合には、講義全体の学習内容について試験を行い、理解度・習熟度等を評価する。レポートの場合には、レポートで評価します。	
スモールタスク	30	授業内容について簡単な演習を行い、指定アドレスにメールで送信することで提出する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストを一読してから授業に出席し、学習したことはその日のうちにすぐ復習し身に付けるよう心がけること。また、企業が公表する各種情報にも日常から関心を持つこと。				ポータルサイトでお知らせする。			
教科書・テキスト	中村文彦『簿記の思考と技法（第2版）』森山書店。			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	初回の講義およびポータルサイトでお知らせします。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	地方財政論						
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
講義では単に知識を修得するにとどまらず、講義の中で学生自身が「望ましい地方財政と地方財政の姿」を考えられるようにしたい。いきなり地方財政について理解することは困難であるため、当初は基礎となる財政学の理論や制度、そして中央政府（国）の財政状況等も概観する。毎回、理論や制度の説明を行うだけでなく、実態や問題点、改革案を明示したり、学生に意見を求めることにも力点を置くようにする。実態や問題点をより明確にするために、多数の最新の財政統計資料（図表）も配付する。また理解力、思考力を高めるために、毎回授業の最後には、受講生に講義内容の要約や感想、課題の解答等をZOOMのチャットやコメントシートにまとめさせる時間を設ける。				地方公共財の供給や教育・医療・社会保障等の提供とこれらにかかる費用を賄うための税金の徴収等、地方公共団体（都道府県市区町村）等の経済活動は私たちの生活に密接に関わっているが、これら経済活動の方向性と程度は最終的には政治によって決定される。私たちの生活に大きな影響を与えるだけに、これらをどの方向に向けるべきか、また、どの程度実施すべきかについては、常に私たち住民は意見をもち、そして、監視しなければならない。時には、アクション（投票）等を起こす必要もあるだろう。意見をもち、監視するためには、当然知識が必要であり、ここに「地方財政論」を学ぶ必要性が出てくるのである。「地方財政論」の講義の到達目標は、受講生が地方財政の理論や制度、歴史、政策等を包括的に理解することだけでなく、それらをもとに現在直面しているわが国の地方財政上の様々な課題を自己評価する力を身につけることである。			

キーワード	最適な資源配分、所得再分配、経済安定化、地域発展政策						
教授方法	講義はテキストの他、配付する多数のレジュメ、最新の財政統計資料（図表）等を使用して行う。一方的な話す講義にはせず、講義の随所で受講生に質問して回答を求めるようにする。受講生は講義に集中し、かつ思考しなければならず、気を抜いている暇などないであろう。更に理解力、思考力、表現力を向上させるために、毎回講義の最後10分程度は、当日の講義の重要な部分のおさらいと与えた課題に対する回答等の記入（ZOOMのチャットやコメントシート）に充てるようにする。						
履修条件等	特になし。ただし、5回以上欠席した者は評価の対象外とする。						

授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	ガイダンス/財政学と地方財政論（『財政学』第1章の2、3及び『地方財政論』第1章の2、3、4） シラバスの記載事項についての確認した上で、財政とは地方財政とは何か、なぜ中央政府、地方政府は必要なのかを考える。						
第2回	予算の意義と循環（『財政学』第4章の1、2、3、4及び『地方財政論』第2章の1） 予算の意義や原則、循環等を中央政府と地方政府に分けて学んだ上で、予算制度の問題点を考える。						
第3回	経費構造と地方財政計画の意義（『財政学』第2章の2及び『地方財政論』第2章の2、3、4、5） 中央政府と地方政府の経費構造と地方財政計画の意義を学んだ上で、経費がなぜ膨張するのかを考える。						
第4回	地方政府の現代的機能（『財政学』第2章の3、4及び『地方財政論』第3章の1、2、3、4） 公共財の定義や供給状況学んだ上で、フリーライダー、足による投票、所得再分配について考える。						
第5回	教育と機会均等（『地方財政論』第4章の1、2、3、4） 義務教育をめぐる国と地方の役割分担について学んだ上で、教育への政府の関与が正当化される理由等について考える。						
第6回	医療・介護とリスク分散（『地方財政論』第5章の1、2、3、4） 国民健康保険「国保」制度と介護保険制度について学んだ上で、医療サービスや介護サービスの問題点を考える。						
第7回	福祉と所得再分配（『地方財政論』第6章の1、2、3、4） 生活保護や児童扶養手当等の現金給付について学んだ上で、地方政府がなぜ現金給付に関与しているのか等について考える。						
第8回	租税の理論（『財政学』第5章1、2、3、4） 租税の根拠や構造について学んだ上で、望ましい税制について考える。						
第9回	個人所得税（『財政学』第6章の1、2、3、4） 所得税の理念や算定方法を学び、実際に所得税額を計算する。						
第10回	地方税の体系（『地方財政論』第7章の1、2、3、4） 地方税の体系や代表的な税目の課税要件等を学んだ上で、地方政府は支出増加を地方税の課税自主権の行使で調整すべきかについて考える。						
第11回	特定補助金の理論と応用（『地方財政論』第9章の1、2、3、4） 地方政府へ交付される使途が特定された補助金の理論等について学んだ上で、特定補助金の整理・縮小を図ろうとする改革論について考える。						
第12回	地方財政調整制度（『地方財政論』第10章の1、2、3、4） 地方政府へ交付される使途の特定のない一般補助金の理論等について学んだ上で、地方交付税制度をめぐる政策的な諸問題について考える。						
第13回	財政赤字と公債論（『財政学』第11章1、2、3及び『地方財政論』第11章の1、2、3、4） 財政赤字の状況を確認した上で、公債の発行の必要性と負担について考える。						
第14回	地方財政と分権改革（第13章の1、2、3、4） 地方分権改革の動きについて学んだ上で、残された改革課題と改革をとりまく外部環境や内在的要因について考える。						

共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							

成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
チャットやコメントシート	28	毎回の講義内容の感想や課題の解答等をZOOMのチャットやコメントシートに記入して送付(各回0~2点×14回)。理解度、問題意識、表現力等を評価	テスト	42	ミニテスト1回の点数と学期末テストの点数の合計		
レポート	30	授業で興味を持った内容について、問題点を指摘し、その改善案を統計資料や実地調査（自治体担当部署への電話等含む）から見つけ出すことを課題にす					

授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業前に各回の該当の章・節を読み、理解できない用語や内容について、自分なりに調べておくこと。 授業後は、講義で説明した重要な部分の見直しと講義の中で紹介した参考書や新聞、ホームページ等を調べる。これにより、幅広い経済・財政の一般常識を身につけることができるだろう。				授業後の他、研究室やメール等でも対応する。			
教科書・テキスト	持田信樹『地方財政論』（東京大学出版会、2013年）3,080円（税込）。			受講生に望むこと	理想の地方政府、地方財政とはどのようなものか、講義を受けながら、常に考えてほしい。 その他にも、社会問題について関心を持つとともに、自分なりの答えを持つように心掛けてほしい。		
参考書・参考資料等	持田信樹『財政学』（東京大学出版会、2009年）3,080円（税込）。 総務省編『令和2年度版 地方財政白書』（日経印刷、2020年）5,315円（税込）。 廣光俊昭著『図説 日本の財政 令和2年度版』（財経詳報社、2021年）2,860円（税込）。 植松利夫編著『図説 日本の税制、令和元年度版』（財経詳報社、			その他・特記事項	本学の規定に基づき授業は1、2回目は、オンデマンド（YouTube）とZOOMのオンラインの併用で行う。3日目以降は原則対面とする。1、2回目の授業で使用するパワーポイントデータや資料等は、原則3日前までにポータルやメールでデータを送付するので、事前にプリントアウトするなどして、授業に望む		

<p>持田信樹『財政学』(東京大学出版会、2009年)3,080円(税込)。 総務省編『令和2年度版 地方財政白書』(日経印刷、2020年)5,315円(税込)。 廣光俊昭著『図説 日本の財政 令和2年度版』(財経詳報社、2021年)2,860円(税込)。</p>	<p>本学の規定に基づき授業は1、2回目は、オンデマンド(YouTube)とZOOMのオンラインの併用で行う。3日目以降は原則対面とする。1、2回目の授業で使用するパワーポイントデータや資料等は、原則3日前までにポータルやメールでデータを送付するので</p>
--	---

授業科目		行政学					
担当教員	三浦 正士			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目では、行政学の基本的な考え方を学び、行政が果たすべき役割と機能について考察する。具体的には、教科書や参考書を基に講義を行い、行政システム、官僚制、行政組織、公務員制度、政策過程に関する基礎的な理論を習得するとともに、具体的な事例を取り上げることで、理論を現実の問題に応用する力を養う。さらには、政治と行政（政官関係）、国と地方（中央地方関係）、行政と民間（官民関係）、行政と住民（行政統制）など、行政を取り巻く多様なアクターとの関係について考察し、行政を様々な角度から理解するための視点を養うことのできる講義とする。				行政学に関する基本的な知識を習得し、行政の基本的な仕組みと今後の課題を説明することができる。 政府をめぐる近年の動向や行政と企業、NPO、住民といった多様なアクターの関わりを踏まえ、これからの行政のあり方について、主体的に調べる態度を持ち、自らの意見を示すことができる。			
キーワード	政府、官僚制、内閣と省庁、公務員制度、政策過程						
教授方法	講義形式で行う。レジュメとパワーポイント等を用いて、講義の要点を理解することのできる授業とする。						
履修条件等	「地方自治論」を併せて受講することが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	行政学の射程：講義内容の説明、受講に当たっての注意を行うとともに、「行政」とは何かについて考察し、行政学を学ぶ意義を共有する。						
2	行政機能の肥大化と福祉国家：欧米や日本における国家と政府の歴史をたどり、政府や行政の役割がどのように変化してきたかについて解説する。						
3	行政改革と公民関係：日本における行政改革の展開と近年における行政改革の主要なテーマを取り上げ、その意味と今後の課題について検討する。						
4	官僚制をめぐる諸論点：官僚制をめぐる多様な研究の概要を解説するとともに、官僚制批判の含意と今後の課題について検討する。						
5	行政組織論と行政管理論：経営学の知見も踏まえつつ、行政機構の内部の仕組みとそのメカニズムを解説し、組織や管理を考える視点を学ぶ。						
6	行政組織論と行政管理論：経営学の知見も踏まえつつ、行政機構の内部の仕組みとそのメカニズムを解説し、組織や管理を考える視点を学ぶ。						
7	政府体系と中央地方関係：欧米や日本における多様な政府体系を解説するとともに、中央政府と地方政府（自治体）の関係に関する諸理論について検討する。						
8	執政制度と政官関係：議院内閣制と大統領制の違いを解説するとともに、内閣と与党の関係、内閣と省庁の関係に注目して日本の政官関係の特徴を説明する。						
9	内閣制度と省庁制：日本の中央政府の組織編成、中央省庁改革による変化について解説するとともに、日本の行政機構の特徴について検討する。						
10	公務員制度と人事行政：行政組織を支える公務員制度の諸原理と人事行政の運用について、具体的な事例にも触れながら説明する。						
11	行政官僚制の政策過程：政府が政策を立案、決定、実施、評価する一連のプロセスを解説するとともに、政策過程における政治と行政の役割を検討する。						
12	法律の制定過程と予算の策定過程：政策過程における諸理論を踏まえて、日本における法律の制定・予算の策定過程の実際を検討する。						
13	行政統制と行政責任：住民が行政を統制するための諸制度（情報公開、行政不服審査等）について解説するとともに、現代国家における行政責任とは何かを考察する。						
14	まとめ：これまでの講義内容について振り返るとともに、行政の果たすべき役割と機能、その課題について理解を深めたか確認を行う。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	60	学期末に提出を課す。講義内容を踏まえ、行政学に関する知識の理解度、論理性を評価する。		リアクションペーパー	40	各回の終了時に提出を課す。授業に対する積極性、問題を発見する力を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習 日本の政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを通じて情報を収集し、関心を高める。 事後学習 教科書、参考書の関連する章を読み、講義内容について理解を深める。				・質問は、授業中に受け付けるほか、リアクションペーパーで受け付ける。毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントを行う。 ・上記のほか、質問や相談は随時メール等で受け付ける。			
教科書・テキスト	伊藤正次ほか『はじめての行政学』（有斐閣ストウディア、2016年）			受講生に望むこと	授業中に重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、積極的に教員に質問すること。		
参考書・参考資料等	牛山久仁彦、外山公美編著『国家と社会の政治・行政学』（芦書房、2013年） 西尾勝『行政学[新版]』（有斐閣、2001年）			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		社会調査論					
担当教員	築山 秀夫			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目は、社会調査の意義、社会調査の歴史、社会調査における倫理、調査の種類と具体例、量的調査と質的調査の相違と特徴、調査目的に応じた調査方法の選択、調査の企画・設計、標本抽出と誤差、調査票の作成法（ワーディング）、質的調査法、フィールドワークの仕方など、データ収集から分析するまでの具体的な方法について学ぶ。 英語表記「Social Research」				社会調査についての基本的な理解の習得、社会調査報告書を読みリテラシーを身に付けることを目標とする。 具体的には、 社会調査の歴史を理解する。 社会調査と社会理論の関係を理解する。 社会調査における倫理について理解する。 調査目的に応じた調査方法の選択を理解する。 社会調査の企画と設計ができる。 標本抽出と抽出誤差について理解できる。 調査票の作成ができる。 カイ二乗検定他、二変数の相関をとらえることができる。 質的調査の基本を理解する。 信頼に足る調査を見分けることができる。			
キーワード	社会調査、量的調査と質的調査、サンプリング、ワーディング、フィールドワーク						
教授方法	基本的に、講義形式で実施する。毎回、グループに分かれて議論するなど、アクティブ・ラーニングを取り入れる。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする。社会調査を巡る現状について、解説する。社会調査を受講する学生諸君に対して、簡単な調査をする。						
2	社会調査の意義と目的 社会調査の理論に対する意義、観察と理論の関係について解説する。						
3	社会調査の歴史 大衆を捉える手段として始まった社会調査の歴史について、解説する。						
4	社会調査の倫理 社会調査と権力、社会調査と人権について、日本社会学会倫理綱領に基づきながら、解説する						
5	社会調査の企画と設計 調査目的の明確化、社会調査全体の企画と設計について、解説する。第1～第4回までの内容について、理解度を確認するために、小テスト を実施する。						
6	社会調査の種類 調査目的に応じた社会調査の種類と方法について、量的調査、質的調査について解説する。標本抽出の理論と方法 量的調査におけるサンプリングの歴史、種類や意義について解説する。						
7	調査票の作成 仮説から調査票を作成する方法について解説する。K J法を用いて、仮説を立て、ワーディングを検討する。						
8	調査票の作成 ワーディングの方法について解説する。ワーディングによって、いかに回答が左右されるのかについての実験を行う。						
9	調査の作業 調査実施計画書、調査参加依頼書等の作成と調査のシミュレーションについて解説する。						
10	単純集計と主な統計量 データの分布を示す主な統計量、平均値、標準偏差などについて解説する。第5～9回までの内容について、理解度を確認するために、小テスト を実施する。						
11	2変数間の関連 2つの項目の間の関連性をとらえるために、クロス集計とカイ二乗検定について解説する。幾つかの事例を用いて、カイ二乗検定を行う。						
12	質的調査、参与観察法 参与観察法の事例として、マリノフスキー、ホホワイトなどによる調査を解説する。						
13	フィールドワーク、聞き取り調査 聞き取り調査の具体的な手法、ラポール関係の構築などについて解説する。						
14	まとめ 社会調査のリテラシーについて、受講者間で再度確認する。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60	選択・記述式とし、社会調査の基礎的知識の理解度に応じて評価する。期末試験が60点以上なければ、他の成績が良くても及第できない。		小テスト	20	小テストを2回実施し、その理解度に応じて評価する。	
平常点	20	毎回の講義後のフォローアップ課題の質、アクティブラーニングによるディスカッションの質などにより評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：毎回、次回のテーマに関する課題を解いてくること（100分程度）。 事後学習：フォローアップ課題に回答し、授業内容を復習し、疑問点を整理すること（100分程度）。				フォローアップ課題提出時に、質問を書いて頂き、次回に回答する。質問及び回答は、履修生全員で共有する。			
教科書・テキスト	特になし。毎回、詳細なスライドをファイルで共有する。			受講生に望むこと	事前学習、事後学習にしっかりと時間を取り、授業に望んでいただきたい。 日常的に、多様なセクターが実施する社会調査に関心を示し、調査内容、調査目的、ワーディング、サンプリング、分析、結果の提示方法などに注意しながら、自分なりに読み解いて、調査のリテラシーを身につけてほしい。 自ら考え、学び、積極的に授業に参加してほしい。		
参考書・参考資料等	大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二 2013『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉 2015『社会調査の考え方 上・下』東京大学出版会						

その他・
特記事項

特になし

授業科目		リーダーシップ論					
担当教員		宮下 清		必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>授業では、リーダーとリーダーシップの意味、リーダーシップ研究、リーダーシップのスタイル、経営環境とリーダーシップ、メンバーとフォロワー、現在と今後のリーダーシップのあり方などのリーダーシップの論点を取り上げる。</p> <p>対面でもオンラインでもライブ講義に加え、課題や事例のグループ討議、コメントや質疑とそのフィードバックを行うことで、主体的かつ双方向的な学びができるよう配慮して進める。担当教員は国際企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有しており、リーダーシップの発揮などの説明や事例で実務経験を活かしていきたい。</p>				<p>リーダーシップとは「組織の目的や目標の達成に向けて、個人および集団を働かせるための影響力」を意味する。マネジメント分野で関心が高く、重要な分野であるリーダーシップの働きや理論を学び、リーダー、マネジャー、フォロワーやメンバーの働きや関係を理解できる、リーダーシップ持論を自分の言葉で他者に話せるようになる、ことを目標とする。リーダーシップで組織の問題や課題への対応力も高め、実践的に社会生活に応用できる、活用できることも目指している。</p>			
キーワード	マネジャー、リーダー、リーダーシップ、フォロワーシップ						
教授方法	講義に演習的な授業形態を加え、課題・事例研究、グループ討議、発表・質疑等により双方向の授業とする。読書や講義で知識・概念を、共同学習やグループ討議から多様で実践的な理解が得られるようにしたい。						
履修条件等	経営学入門、組織論、組織行動論を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	第1回：ガイダンス・リーダーシップとは：マネジメントとリーダーシップを学ぶ意義、ドラッカーの考え方						
2	第2回：マネジメントは：マネジメントについての誤解、組織とは、組織の共通目的、貢献意欲、コミュニケーション						
3	第3回：マネジャーの人間観：合理的経済人モデル、社会人モデル、自己実現モデル、複雑人モデル						
4	第4回：リーダーシップの基本：リーダーとは、リーダーシップの定義、サーバントリーダーシップ						
5	第5回：リーダーシップの持論：演習：持論としてのリーダーシップを探る						
6	第6回：リーダーシップ論の展開(1)：リーダーシップの資質、リーダーシップの行動特性、リーダーシップと状況						
7	第7回：リーダーシップ論の展開(2)：カリスマ的リーダーシップ、変革型リーダーシップ						
8	第8回：フォロワーからのリーダーシップ：リーダーとフォロワーの信頼関係、フォロワーのリーダーシップ、リーダーシップの幻想						
9	第9回：フォロワーシップとは何か(1)：フォロワーのルーツ、フォロワーシップの定義、ボス・マネジメント						
10	第10回：フォロワーシップとは何か(2)：模範的フォロワー、勇敢なフォロワー、頼れるフォロワー、フォロワーシップの定性的研究						
11	第11回：リーダーシップを高める：演習：自分のリーダーシップをどう高めるか						
12	第12回：マネジャーに求められるもの(1)：ゼネラル・マネジャーの行動、マネジャーの仕事						
13	第13回：マネジャーに求められるもの(2)：マネジャーの実像、マネジャーの3つの課題						
14	第14回：総合事例：リーダーシップの事例と総合課題（期末レポートの課題）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験 または期末	40	授業全体の理解度の評価		授業での 課題	30	授業課題の提出やレポートの評価	
上記以外 の評価	30	授業への積極的な参加（質疑、討議、コメント等）による評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し再度考察する「事後学習」を行うことで、学習を定着させることができる。				授業中のチャットによる質問にはできるだけ授業中に答える。また授業後に個別に質問を受ける。またメールでも対応したい。			
教科書・ テキスト	小野善生『リーダーシップ徹底講座』中央経済社、2018年。			受講生に 望むこと	リーダーシップについて学び、考え、実践してみようというスタンスによって、理解につながる。		
参考書・ 参考資料等	『リーダーシップの名著を読む（日経文庫）』日経新聞、2015。『HBRリーダーシップの教科書』ダイヤモンド社、2018。金井 壽宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社、2005。			その他・ 特記事項	自分の体験や記事からリーダーシップに関する知見や情報が、多面的かつ興味深い理解につながる。担当教員は国際企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有している。		

授業科目		経営戦略論					
担当教員	首藤 聡一郎			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>企業の経営戦略について講義する。特に詳細に取り扱うのは、企業のポジショニングや関係性を重視する経営戦略論と、企業内部の経営資源の蓄積と活用や人々の学習を重視する経営戦略論である。加えて、ゲーム理論の要素を組み込んだものなども取り扱う。理論をふまえて現実について考えてもらうことで、理論に対する理解を深めると同時に考える力を養ってもらう。</p> <p>なお、本授業はZoomなどを活用し、オンラインで実施する。</p>				<p>1) 現実の企業の経営戦略について知る。2) 経営戦略論を概観する。3) 理論を用いて現実の企業行動を分析できるようになる。</p>			
キーワード	経営戦略論、事業戦略、企業戦略						
教授方法	講義						
履修条件等	特になし						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	コスト・リーダーシップ戦略						
3	差別化・集中化						
4	ビジネス・システム						
5	経営資源の蓄積と活用						
6	イノベーション						
7	多角化と企業ドメイン						
8	範囲の経済						
9	PPM (プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント)						
10	ファイブ・フォース・モデル						
11	協調と競争 (1)						
12	協調と競争 (2)						
13	国際化						
14	まとめ：特に、戦略と組織との関係について						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末レポート	40	内容、形式など		授業時の課題	30	内容、形式等	
リフレクションシート	30	内容、形式等					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習：提示される文書・映像等を通じた学習				授業時に受け付ける。それ以外の時間に関してはメールでアポイントメントをとること。			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	授業以外でも、学んだ理論を使って現実を捉える訓練をしてみてください。		
参考書・参考資料等	授業時に適宜紹介。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	公共哲学						
担当教員	馬場 智一			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
公共性についての現代の思想や論争を辿り、現代社会が抱える公共性の問題を考えるための手掛かりを学んでゆく。次に、経済、政治、社会保障、科学技術、災害など、具体的な領域において、公共哲学が考えるべき問題を検討する。				ねらい 古代から現代にいたる公共哲学の代表的な学説を学び、現代社会が抱える公共性の諸問題を、哲学的に考えることができるようになること 到達目標 公共哲学における著名な学説について基本的な説明ができる。 公共哲学における学説を、現代世界に適用し、吟味検討できる。 現代社会の公共性がいかにあるべきか、自ら吟味検討できる。 現代社会の公共性がいかにあるべきか、他者との対話を通じて吟味検討できる。			
キーワード	政治哲学、法哲学、社会思想、経済思想、社会福祉論、科学技術社会論、正義論						
教授方法	オンライン授業（同時双方向およびオンデマンド）を行う。適宜ディスカッションを行う。						
履修条件等	特にないが、哲学ないし倫理学をすでに履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の進め方、授業スケジュール、授業で学ぶこと、テストについて、評価について、公共哲学とは何か						
2	公共哲学としての功利主義						
3	公共哲学としてのリベラリズム						
4	小テスト、リベラリズム批判の公共哲学 1 ノーゾックの権原理論						
5	リベラリズム批判の公共哲学 2 マッキンタイアの徳倫理学、レポートの書き方						
6	小テスト、アーレントの公共哲学						
7	ハーバーマスの公共哲学						
8	小テスト、民主主義と公共性						
9	経済学と公共性						
10	小テスト、危機と公共哲学 1 巨大災害						
12	危機と公共哲学 2 社会保障						
12	小テスト、公共的問題としての科学技術						
13	レポート提出、国際社会における公共性						
14	小テスト、レポート返却、レポート内容の発表						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点	15	受講態度、提出物、ディスカッションへの参加を総合的に評価する。			小テスト	40	小テストを行い、理解度に応じて評価する。
授業レポート	45	授業の達成目標への到達度により評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書の指定された範囲を、事前に読んでおくこと。 学習内容について小テストを行うので、復習をすること。 授業で学んだ内容を基にレポートを作成すること。				・他の受講生の参考になるので、質問は、できるだけ授業中にすること。授業の前後にも受け付ける。できるかぎり回答は授業中にを行う。			
教科書・テキスト	山岡龍一・斎藤純『公共哲学 改訂版』放送大学教育振興会 NHK出版、2017年 ISBN 9784595140877			受講生に望むこと	普段から時事問題に関心を持ち、公共哲学と関連する問題にアンテナを張っておくこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜示す			その他・特記事項	特になし		

授業科目		地方自治論					
担当教員	三浦 正士			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目では、地方自治の基本的な仕組みを学び、今後の課題を考察する。序盤の授業（第1回～第6回）では、地方自治に関する歴史と理論、地方分権改革の動向等について検討を行う。中盤の授業（第7回～第10回）では、地域政治のシステムや住民自治のあり方について検討を行う。終盤の授業（第11回～第14回）では、自治体の政策過程を解説するとともに、まちづくり、地域福祉、防災・危機管理といった具体的な政策課題を取り上げ、行政と企業、NPO、地域住民の協働のあり方について自治体の実践を交えつつ実証的な検討を行う。以上により、地方自治の基本的な仕組みに関する知識の習得のみならず、地方自治の現実の姿を多面的な視点から理解することのできる講義とする。				地方分権改革がもたらされた背景と制度の変化について理解し、地方自治の基本的な仕組みと今後の課題を説明することができる。 自らが地域における自治の主体であることを認識し、多様化・複雑化する地域の公共的課題について自発的に調べる態度を持ち、自らの意見を示すことができる。			
キーワード	住民自治、団体自治、地方分権、二元的代表制、参加・協働						
教授方法	講義形式で行う。具体的には、穴埋め式のレジュメと具体的な事例を交えたパワーポイントを用いて、講義の要点を理解することのできる授業とする。また、リアクションペーパーを用いて、双方向的なコミュニケーションを図る。						
履修条件等	「行政学」を事前に履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	「自治」とは何か？：講義内容の説明、受講に当たっての注意を行うとともに、「自治」とはいかなる概念かを解説し、地方自治論を学ぶ意義を共有する。						
2	戦前の地方自治の歴史：日本における戦前の地方自治の歴史をたどり、現在の地方自治制度の源流となった戦前の諸制度の問題点を考察する。						
3	戦後の地方自治の歴史：日本における戦後の地方自治の歴史をたどり、自治体が直面してきた政策課題と地方自治制度の改革課題を考察する。						
4	地方自治の種類と機能：都道府県と市町村、特別地方公共団体といった地方自治の基本的な制度設計を解説するとともに、大都市制度についても触れる。						
5	地方分権改革の意義と到達点：地方分権一括法とその後の地方分権改革の動向を解説し、分権時代における自治体の役割の重要性について理解を深める。						
6	市町村合併と広域行政：自治の区域の変更をもたらす合併の歴史的展開とその功罪を考察するとともに、区域変更を伴わない自治体間の連携の手法である広域行政について解説する。						
7	二元的代表制と自治体議会の改革課題：自治体における首長と議会の関係を説明するとともに、近年の議会改革の動きを念頭に、自治体議会の改革課題を考察する。						
8	議員のなり手不足と地域政治：人口減少に伴い深刻化する「議員のなり手不足問題」を取り上げ、今日の地域政治が抱えている課題とその対応策について考察する。						
9	住民参加と協働：地方自治における住民参加・協働の重要性について解説するとともに、情報公開や住民投票といったトピックスについても触れる。						
10	地域コミュニティと自治体内分権：住民自治の基盤である地域コミュニティと自治体行政の関係について解説するとともに、近年進められている自治体内分権の意義を展望する。						
11	自治体の政策過程：総合計画や予算編成といった自治体の政策過程について解説し、PDCAサイクルを作動させるうえでの課題について考察する。						
12	地方自治とまちづくり：自治体が直面する政策課題のひとつとして「まちづくり」を取り上げ、地方分権や住民参加・協働の現状について考察を深める。						
13	地方自治と地域福祉：自治体が直面する政策課題のひとつとして「地域福祉」を取り上げ、地方分権や住民参加・協働の現状について考察を深める。						
14	地方自治と防災・危機管理：自治体が直面する政策課題のひとつとして「危機管理」を取り上げ、地方分権や住民参加・協働の現状について考察を深める。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	60	学期末に実施する。講義内容を踏まえ、地方自治に関する知識の理解度、論理性を評価する。		リアクションペーパー	40	各回の終了時に提出を課す。授業に対する積極性、問題を発見する力を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習 自治体の政治・行政に関するテーマについて、書籍、新聞、ニュースなどを通じて情報を収集し、関心を高める。 事後学習 教科書、参考書の関連する章を読み、講義内容について理解を深める。				・質問は、授業中に口頭で受け付けるほか、リアクションペーパーで受け付ける。毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントを行う。 ・上記のほか、質問や相談は随時メール等で受け付ける。			
教科書・テキスト	今川晃、牛山久仁彦編『自治・分権と地域行政』（芦書房、2020年）			受講生に望むこと	授業中に重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、積極的に教員に質問すること。		
参考書・参考資料等	磯崎初仁、金井利之、伊藤正次『ホーンブック地方自治 [第3版]』（北樹出版、2014年） 新藤宗幸・阿部斎『概説 日本の地方自治』（東京大学出版会、2006年）			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		民法概論					
担当教員	後藤 泰一			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この授業では、先ず“法学の基礎”を固めた上で、次に所有権(物権)・契約・不法行為(財産法と称する分野)を一通り学び“民法の基礎”を固める。契約が有効に成立するには、一人前の取引能力を有すること、真意が相手に正しく伝わっていること、契約内容が適法性・社会的妥当性を有することが要求されるが、これを代理や時効とともに学ぶ。そして、その契約を通して不動産や動産の所有権を他人に移転しつうが、その所有権の有する支配権という強力な権能から生ずる様々な問題のほか、交通事故・公害・欠陥商品など身近に起きる不法行為と損害賠償に関する問題も学ぶ。				民法の基礎的な概念及び用語を習得する。 条文を正確に読み解く力を養う。 身近に生ずる問題解決のための法的思考と法的素養を身につける。			
キーワード							
教授方法	基本的には講義形式であるが、随時「質疑応答」もありうる。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	民法を学ぶ前に(その1)：法と社会規範、道徳との関係、法はどこにあるか、法の目的						
2	民法を学ぶ前に(その2)：法律関係、権利と義務、権利の分類、権利の実現ほか						
3	民法とは何か、民法典について、財産法の3原則、条文(六法)の読み方						
4	民法上の権利の主体、契約を有効に成立させるには？ 権利能力と意思能力						
5	制限行為能力、未成年者・成年被後見人・被保佐人ほか、死亡と失踪宣告						
6	法人のあらまし、代理制度・表見代理と無権代理						
7	無効・取消し・解除、錯誤・虚偽表示・心裡留保						
8	物権的請求権、占有権、所有権の取得時効(合わせて債権の消滅時効も)						
9	不動産売買と登記(対抗問題と背信的悪意者排除論)、動産売買と即時取得						
10	所有権の制限、利用による場合(地上権・賃借権)、担保による場合(抵当権・譲渡担保)						
11	相隣関係、建物区分所有、共有(遺産の共有とは？)						
12	不法行為と損害賠償、過失責任・無過失責任・中間責任、不法行為が成立するには？						
13	人格権の侵害、交通事故、公害(四大公害訴訟)ほか						
14	欠陥商品と消費者保護、共同不法行為、全体のまとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	100						
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
新聞やテレビ等で報道される“法的問題ないし民法上の問題”を自分で考えてみる。 参考書として紹介する書物を利用・活用し、民法を幅広く学習するよう努める。				質問・相談等は授業後に受け付ける。			
教科書・テキスト	特になし(授業では配布資料を使用する)。ただし、六法は必携とする(例えば、『ポケット六法』(有斐閣)・『デイリー六法』(三省堂)のほか、判例付きの『判例六法』(有斐閣)でもよい)。			受講生に望むこと	授業中の携帯電話・スマートフォン等は使用厳禁。 法律の授業なので六法を忘れないように。		
参考書・参考資料等	授業中に随時紹介する。			その他・特記事項	私たちは(嫌だと言っても)法の中で暮らしているという現実をいつも意識・自覚しておいて欲しい。		

授業科目		キュレーター概論					
担当教員	秋葉 芳江			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>キュレーターは、無数の情報の海の中から自分の価値観や世界観に基づいて情報を拾い出し、新たな価値や意味を付与し多くの人々とそれらを共有する人材である。</p> <p>本講義では、他者基準ではなく、自らの基準で、自らの力で価値を発見または創出する力を実践的に身につける。 (隔週開講、2コマ連続。開講日に注意)</p> <p>講義形式：対面を基本。状況によってオンラインとなる場合には同時双方向型(リアルタイムオンライン形式。通信環境の不測事態時は部分的オンデマンド代替)。ただし、11月10日はオンラインの場合でも三輪キャンパスに入構したうえでオンラン受講すること。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・視点を变える、視野を広げる、異なる視座を持つ、俯瞰すること、クリエイティビティを理解し、感性を磨き、その他キュレーターの主要なふるまいを知り、実践できるようになる。最低限でも意識できるようになる。 ・最終課題(最終の提出物)において、講義で理解し得たことを踏まえ、自分なりの新しい価値を創出し提案する。新しい価値を生み出す力は、21世紀を生き抜く力として必須である。 ・完全オンライン時代を迎え知的コミュニケーションスキルの習得、コラボレーションマインドセットの習得も目標とする。 			
キーワード	価値創出、イノベーション、クリエイティビティ、バックキャスト、視座・視点・視野・俯瞰、SDGs、パラダイムシフト、DX、感性と理性、問いをたてる力						
教授方法	<p>レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。また、毎回の履修生フィードバックを活用し、毎週講義冒頭で、前回講義からのステップアップレクチャー&ディスカッションを可能な限り行う。オンラインツールを多用しオンライン空間での集合知の学びを促進する。</p> <p>対面でも複数の各種オンラインツール使用を前提とする。(Office365、mentimeter、slido、zoom、Googleアプリ等。講義内で指示する)。討論(オンラインの場合はzoomブレイクアウト機能)を多用する。</p>						
履修条件等	<p>特になし。ただし、アントレプレナーシップ論(GM必修)履修済を前提としている。三年次のソーシャルビジネスプランニングの履修希望者は本講義の履修を強く推奨する。</p>						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。本講義で使用する言葉の説明。(9/29 : 3限)						
2	"価値"を発見、創出するとは。なぜ価値が重要であるのか。新しい価値とは何なのか。ブルーオーシャン戦略も手がかりにする。(9/29 : 4限)						
3	データに基づき理解する。各種ツールも活用し現代をデータに基づき理解する。(10/13 : 3限)						
4	感性に基づき未来を発想する。未来から"バックキャスト"する思考方法を理解する。未来と自分自身を結節するとはどういうことか。未来構想力を強化する。(10/13 : 4限)						
5	多様な事例から価値創出を理解する。ケーススタディと討論で実践的に理解する。(10/27 : 3限)						
6	価値創出実践。講義中に紹介する方法によって自ら新しい価値創出に挑戦する。中間まとめ課題提示。(10/27 : 4限)						
7	SDGsを知る。各自の中間まとめ課題を利用した価値創出を行う。(11/10 : 3限) 【オンラインの場合でも三輪キャンパス入構】						
8	"場と空間"が持つ力を理解する。様々なケースにおいて、もたらされる効用を理解する。効用ある空間の探索を実践する。(11/10 : 4限) 【オンラインの場合でも三輪キャンパス入構】						
9	"問う力"を理解する。異なる視点、視野、視座による相対化を理解する。物事を"俯瞰"することをワークも通じて実践的に理解する。(12/1 : 3限)						
10	"問いをたてる力"について理解する。あたり前を疑い現存する価値を"再定義"することを理解する。(12/1 : 4限)						
11	"感性"、"直感"の有用性を理解する。感性や直感の磨き方、"平常心"の持ち方を実践的に理解する。自身にとっての多様性についても理解する。(12/15 : 3限)						
12	パラダイムシフトと価値創出。最新の世界動向(例:DX、AI、IoT、ロボティクス、100年人生、等)を手掛かりに、価値の生み出し方を理解する。(12/15 : 4限)						
13	自己更新と自己規範。現代に求められる人材像を具体的にイメージし、自己更新と自己規範をワークも通じて構築する。(1/12 : 3限)						
14	まとめ=社会環境が変わろうとも生き抜くために=。 *最終課題提示(1/12 : 4限)						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
最終課題	30	講義内容を踏まえていること、提案する価値と講義内容とのつながりが明示されていること、および、自分なりの新しい価値提案を行っていること。(詳細)		中間まとめ課題	20	提出時点までの講義内容を踏まえていること。自分の考えが記載されていること。	
平常の講義における各回成	50	講義に対する積極的な参加姿勢。各回講義内容の理解度。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索しておくこと。プレ宿題(事前学習成果)提出を課す場合がある。オンラインツールを用いた集合知による学びを実践する。講義時間外でもアクセス可能であり積極的に活用されたい。</p> <p>最終課題では、簡潔で論理的な文章での提出を求める。作文スキルに不安のある者は、中間まとめ課題の機会も活用し時間外学習にて研鑽して欲しい。</p> <p>CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する(平日夜間開催)。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。</p> <p>広く実社会での価値創出を知るために、ビジョナリーな企業の情報収集と探索を推奨する。</p>				<p>メールは随時受け付ける。予約の上でのオンラインでの対応またはCSI(後町キャンパス)への来訪。</p>			
<p>教科書・テキスト</p> <p>指定なし</p>				<p>受講生に望むこと</p> <p>講義には集中して臨んでもらいたい。講義では討論を多用する。積極的参加を臨む。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。講義中にオンラインで探索、フィードバック、ワークを求めるため、ノートPCを各自持参し参加することを強く推奨する(困難な学生は事前に教務に相談)。</p>			

<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>推奨書籍は以下。加えて講義の中で随時紹介する。 「サステイナブル・カンパニー入門」大室悦賀著,学芸出版社,2016年 「ブルー・オーシャン戦略」W・チャン・キム , レネ・モボルニュ他著,ダイヤモンド社,2015年 「LIFE SHIFT」リンダ・グラットン他著,東洋経済新報社,2016年 「2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望」落合陽一著,SBクリエイティブ,2019年</p>	<p>その他・ 特記事項</p>	<p>民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、現在、ソーシャル・イノベーションを創出するCSI運営を担う経験をふまえ、実践的な講義を行う。</p>
-----------------------	---	----------------------	--

授業科目		長野県の経済と産業					
担当教員	藤巻 雄司			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>現在、急激な人口減少や高齢化が進む中で「地方消滅」がさげばれており、いかに持続可能な地域経済を考えていくかが課題となっている。本講義では、長野県の経済と産業に焦点を当て、地域経済の現状や課題がどのようになっているのか、個別の自治体や産業の実態にも焦点を当てつつ解説していく。</p> <p>そして、持続可能な地域経済のあり方、それを支える政策のあり方等について、自らが地域経済の支援者となった時に何が出来るのかを考える。</p> <p>さらに、経営コンサルタント（中小企業診断士）としての経験を活かし、個別の産業に対する基本的な経営支援の手法についても講義の中に織り交ぜて解説する。</p>				<p>地域経済に関する基本的な考え方を身につけている。</p> <p>長野県の経済の概況を理解できている。</p> <p>個別の産業の概況について理解できている。</p> <p>個別の産業などに対する基本的な経営支援が行える。</p>			
キーワード	長野県経済の概況、長野県産業の特徴、経営支援の手法						
教授方法	講義や演習を織り交ぜた形式。できるだけディスカッションを行い、履修人数によっては学生による報告も実施。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	導入：講義の目的説明						
2	地域経済をめぐる現状理解						
3	地域政策の歴史						
4	地域政策の歴史						
5	地域経済の分析視角						
6	地域経済の分析視角						
7	地域経済の分析視角						
8	事例分析：長野県経済の概況						
9	事例分析：長野県経済の概況						
10	事例分析：個別産業の概況						
11	事例分析：個別産業の概況						
12	事例分析：市町村経済の概況						
13	事例分析：市町村経済の概況						
14	講義のまとめ、報告・ディスカッション						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	基礎的事項を前提とし、地域経済の発展のために自分がすべきことを考えられるか。		上記以外の授業評価	50	授業中のディスカッションやリアクションペーパー等の内容。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>地域経済を考えるためのデータを自身で収集する。</p> <p>講義で学習した内容を現地で確認するなどし、理解を深める。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回、授業の始めに前時の授業における質問や意見に対するコメントを行う。 			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	地域経済の発展に興味を持ち、そのために将来、自分は何をするのかを考えてほしい。		
参考書・参考資料等	講義内で紹介、配布する。			その他・特記事項	<p>長年、経営コンサルタント（中小企業診断士）として長野県の個別産業を支援してきた経験を活かし、できるだけ現場の実態に則した講義とする。</p> <p>履修人数や社会情勢を踏まえて、内容は適宜調整・変更する。</p>		

授業科目		組織行動論					
担当教員	宮下 清			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目では、組織の中で働く人間を理解し、人間の行動を理論的にとらえ、組織目的の達成に有効な知識や考え方を学ぶ。授業では、モチベーション、コミットメント、キャリア・マネジメント、チーム・マネジメント、リーダーシップ、組織学習、組織変革など組織と人間が関わる様々な論点を取り上げる。特にオンライン（対面はもちろん）ではライブ講義に加えて課題や事例についてのグループ討議を多く取り入れ、出来るだけ受講生が主体的かつ双方向的に学べるものとする。 担当教員は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を10年以上有しており、職場のモチベーション、リーダーシップ、組織変革やキャリアマネジメントの説明や事例などでそれらを活用し実践的な話、わかりやすい講義につなげていきたい。				人は家族、学校、企業などの組織に所属し多くの人たちと関わり活動している。組織行動とは「組織における人間行動」のことであり、そうした人間行動を対象としている。組織行動論の学びを通して、企業など組織の人間行動を理解することができるようになること、さらに、組織の問題や課題への対応力を高め、組織活動や協働などに活用できるようになることを、目標としている。			
キーワード	モチベーション、キャリア、組織学習、組織変革						
教授方法	授業では講義による概念説明が主になるが、課題・事例などでグループ討議と発表・質疑などを取り入れたい。読書や講義で知識・概念を学び、課題や事例から実践的で理解を届けかつ深められるよう進める。						
履修条件等	「経営学入門」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス・組織行動論とは：経営学と組織行動論、組織行動を学ぶ意義						
2	組織と人間の関わり：経営管理と組織、組織における人間観、個人と集団						
3	モチベーション(1)：モチベーションとは、欲求階層説（内容理論）、動機づけ理論						
4	モチベーション(2)：内発的動機づけ、期待理論（過程理論）、職務特性理論						
5	組織コミットメント：情緒的と功利的なコミットメント、日本企業の組織コミットメント						
6	キャリア・マネジメント(1)：キャリアとは、企業におけるキャリア、個人のキャリア意識						
7	キャリア・マネジメント(2)：キャリアモデル、組織と個人の視点、エンプロイアビリティ						
8	チーム・マネジメント：チームの定義、多様なチームとその特徴、チームによる意思決定						
9	リーダーシップ：リーダーとリーダーシップ、リーダーシップ研究、フォロワー						
10	組織学習(1)：組織学習の考え方、アンラーニング、組織学習のサイクル、ダブルループ学習						
11	組織学習(2)：パラダイム転換、知識創造モデル、学習する組織、実践共同体による学習						
12	組織変革(1)：組織変革とは、計画的変革と創発的変革、組織変革のプロセス						
13	組織変革(2)：組織変革の事例、組織変革への抵抗、組織変革エージェントとサポート						
14	総合研究：課題と事例の検討						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末レポート（期末試験）	40	授業内容の理解度の全体的な評価		授業の課題	30	授業中や授業外で課される提出物・レポートの評価	
上記以外の評価	30	授業への積極的な参加（発言、質疑、発表、討議）による評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し、学習を定着させる「事後学習」が求められる。				オンライン授業となるため、授業時、学生ポータルやメールでの対応が主体となる。			
教科書・テキスト	開本浩矢編『組織行動論』（ベーシック+）、中央経済社、2019年			受講生に望むこと	組織行動で学んだことが日常生活でどう関わるかを考え、適用や実践すると有益で興味深くなる。		
参考書・参考資料等	S.P. ロビンズ著、高木晴夫訳『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社 2009年。鈴木竜太・服部泰宏著『組織行動：組織の中の人間行動を探る』有斐閣、2019年。			その他・特記事項	オンライン授業で実施するが、状況により期末試験は対面実施の場合もある（2週間前までに決定）。自分の得た見聞、文献やニュースなど関連情報と組織行動の学びを関連付けてみてください。担当教員は企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有している。		

授業科目		グローバル・ビジネス					
担当教員	森本 博行			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>・グローバル・ビジネスの授業では、進出国政府の産業政策の存在、欧米の多国籍企業との競争、経済発展途上において「制度の空隙」のある新興国市場など、不利な立場にある外国企業がなぜ海外市場に進出して競争優位を獲得して収益をあげることができるのか、考察します。</p> <p>・担当教員は、外資系企業を顧客とする広告会社である（マッキンゼーエリクソン・グローバル・マーケティング戦略を担当し、さらにソニーにおいて、米国、英国の海外子会社に在籍し、国際経営の実務経験があります。ソニーを退職する時には、イノベーション戦略オフィスVP (Vice President) でした。</p>				<p>・グローバル人材として必要な専門知識を修得。</p>			
キーワード	異文化マネジメント、クロスボーダーM&A トランスナショナル経営 寡占的優位理論、内部化理論、折衷理論						
教授方法	・パワーポイント資料を提示する講義形式で行います。						
履修条件等	・経営学入門を履修していること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	グローバル経営の考え方 ・多国籍企業とは、「海外に複数拠点をもち、付加価値活動を行う企業」と定義され、またグローバル経営における成功要因は、グローバルに						
2	グローバル経営の戦略論 ・『レクサスとオリーブの木』で表現された相反することの同時存在するグローバル社会の存在を考察する。						
3	グローバル経営戦略の諸側面 ・グローバル経営戦略の側面である、国際化のエントリー・モードとして技術供与、フランチャイズ、技術合作、さらに間接輸出、直接輸出、現						
4	グローバル経営の組織論 ・多様な環境のもとでの組織対応について考察する。						
5	海外子会社経営と戦略的役割 ・本社と海外子会社との関係について考察する。						
6	グローバル統合・ローカル適応の論理 ・多国籍企業の集権化と分権化の論理について考察する。						
7	多国籍企業の革新モデル：トランスナショナル経営 ・世界規模での効率化、各国市場への適応する柔軟性、世界規模で学習する仕組みの構築という、相矛盾する要素の同時実現をめざすトランス						
8	グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント ・生産要素を組み合わせることによって、既存の価値を新しい次元に転換して経済的価値を生み出すイノベーション・マネジメントについて考						
9	グローバルR&Dマネジメント ・研究開発の本国中心の論理と国際化の論理について考察する。						
10	グローバル戦略提携とのマネジメントとクロスボーダーM&A ・戦略提携とは、企業間で相互学習することで新たな価値を創造しながら企業間関係を進化させることにあり、グローバル戦略提携の要因と目						
11	グローバル人的資源管理 ・グローバル人材とは、専門性の高い知識と異文化（多文化）理解力、コミュニケーション能力を備え、国や文化を超えて活躍できる人材であ						
12	リージョナル・マネジメント ・北米のNAFTA、欧州のEU、南米のメルコスール、ASEANのAFTAなどの「地域経済ブロック」が誕生し、地域内貿易が世界貿易の60%を占めるよ						
13	グローバル経営における文化・異文化マネジメント ・経営スタイルや上司の役割の違いなど異文化マネジメントの課題について考察する。						
14	グローバル経営の課題 ・グローバル経営を進展させるための経営課題として、グローバル経営戦略や経営組織、グローバル人材の育成、異文化マネジメントなど総括						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	50	グローバル・ビジネスの各専門分野についての理解度を評価します。		期末レポート	50	グローバル・ビジネスの経営についての理解度を評価します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>・事前学習として授業で提示されるパワーポイント資料を閲覧しておくこと、事後学習として提示された課題について考察すること。</p>				<p>・メールで質問と相談に応じます。</p>			
教科書・テキスト	『グローバル経営入門』（浅川和宏、日本経済新聞社）			受講生に望むこと	・是非とも、受講生はグローバル人材をめざして下さい。		
参考書・参考資料等	『レクサスとオリーブの木』（草思社） 『コークの味は国ごとに違うべきか』（文芸春秋）			その他・特記事項	・グローバル・ビジネスについてさらに深く学びたい場合には「グローバル・ビジネス演習」を受講して下さい。		

授業科目		経営統計学入門					
担当教員	鶴田 靖人			必修・選択	選択必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>統計学とは、データの扱い方、データから正しい値を推測する方法を研究する学問である。経営の世界では、品質管理やマーケティングなどの分野で統計スキルを用いている。その理由は、データという客観的な数値を活用することで、課題の把握、将来の予測、効果の検証などを正確に行えるからである。また、「データは21世紀の石油である」という言葉もあるようにデータをつまぐ活用することで新たな価値を生むことができる」とされている。この授業ではデータから必要な情報を得るための様々な統計手法や統計的思考を学ぶ。</p>				<p>到達目標 ばらばらな数の集まりであるデータが持つ特徴を記述統計量と呼ばれる指標を用いて要約し、データの特徴を説明できる。 確率の考え方を使って、データ全体（母集団）から一部（標本）をランダムに抽出する標本調査の仕組みを説明できる。 標本から母集団の性質を推測する統計的推論（推定、検定）を正しく使用し、自分が立てた仮説の妥当性を検証できる。 相関関係を理解し、回帰分析手法を身に付けることで、複数のデータの関係を明らかにできる。</p>			
キーワード	統計学、記述統計量、回帰分析、標本抽出、統計的推測						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式で行います。演習は計算問題を解きます。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、データの視覚化 統計学とは、どのような学問であるかを学ぶ。授業の進め方について理解する。ヒストグラムを用いたデータの視覚化の方法を学ぶ。						
2	データが持つ特定の性質を数量的に表現する方法を学ぶ（1） キーワード：代表値、平均						
3	データが持つ特定の性質を数量的に表現する方法を学ぶ（2） キーワード：散らばりの尺度、分散、標準化、変動係数						
4	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（1） 相関関係、相関係数						
5	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（2） キーワード：回帰関係、回帰分析、最小二乗法						
6	回帰分析と相関分析の考え方と方法を学ぶ（3） キーワード：回帰分析、決定係数						
7	統計的推論の基礎である確率の考え方や基本的な確率の概念を学ぶ（1） キーワード：確率に関する3つのアプローチ、確率変数、確率分布、期待値						
8	統計的推論の基礎である確率の考え方や基本的な確率の概念を学ぶ（2） キーワード：二項分布、正規分布						
9	標本（サンプル）から計算された値の確率的なふるまいを学ぶ（1） キーワード：母集団、標本、無作為抽出、大数の法則、中心極限定理						
10	標本（サンプル）から計算された値の確率的なふるまいを学ぶ（2） キーワード：標本分布、t分布						
11	母集団の特徴を表す値を推測する方法を学ぶ（1） キーワード：統計的推論、比率の区間推定、点推定						
12	母集団の特徴を表す値を推測する方法を学ぶ（2） キーワード：平均の区間推定						
13	標本を観察した結果とつきあわせて、仮説が正しいかどうかを調べる方法を学ぶ（1） キーワード：仮説検定、有意水準、比率の検定						
14	標本を観察した結果とつきあわせて、仮説が正しいかどうかを調べる方法を学ぶ（2） キーワード：平均の検定						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	40	基礎知識の理解度に応じて評価する			課題	40	授業の理解度に応じて評価する
上記以外の授業評価	20	リアクションシート（正誤問題を含む）に応じて評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回、指定された課題に取り組んでください。 教科書を参考に授業の復習をしてください。前回までの授業内容を理解している前提で授業を行います。</p>				<p>質問は、基本的にメールで受け付けます。 アドレス：tsuruta.yasuhito@u-nagano.ac.jp オフィスアワーを設定します（日時は授業で説明）。</p>			
教科書・テキスト	宮川公男著『基本統計学 第4版』有斐閣、2015年。			受講生に望むこと	毎回、電卓（四則演算、%、平方根の計算ができるもの）を持参してください。主体的に演習や課題に取り組むことを期待しています。		
参考書・参考資料等	なし			その他・特記事項	高度な数学の知識を理解している必要はありません。電卓を使用して四則演算や平方根の計算を行える能力は必要です。		

授業科目	地方行政基礎演習						
担当教員	野口 暢子・中村 稔彦			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	行政法						
担当教員	宮森 征司			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
行政法は、行政組織法、行政作用法、行政救済法の三分野から構成されるが、この授業では、これら全ての分野における基本的な概念や仕組みについて、行政法学の理論、一般法の条文、事例や裁判例を素材としながら、概観的に学習する。				行政法の基本的な概念や仕組みについて理解し、受講生自らの言葉で説明することができる能力を身に付ける。			
キーワード	行政法、行政法総論、行政救済法、行政組織法、公法						
教授方法	授業は講義形式で行う。受講生の人数に合わせて、講義中に学生に意見を求める等、可能な限り双方向性を確保する。						
履修条件等	特になし。もっとも、憲法や民法など、他の法律学の素養があれば本講義の内容理解は自ずと深まるはずである。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス：授業の進め方、行政法とは						
2	法律による行政の原理（法律の留保）；行政法の一般原則						
3	行政組織法の基礎						
4	行政の行為形式論；行政行為						
5	行政行為						
6	行政指導；行政契約						
7	行政立法；行政計画						
8	行政の実効性確保						
9	中間試験						
10	行政救済法の全体像；取消訴訟						
11	取消訴訟						
12	その他の抗告訴訟						
13	国家補償法；国家賠償						
14	国家賠償 ；損失補償						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト・コメント	20	授業内容の理解、コメントの積極性などを総合的に踏まえて評価する		中間試験	10	記号選択問題(40%)、説明問題(40%)、事例解決型問題(20%)	
期末試験	70	記号選択問題(40%)、説明問題(40%)、事例解決型問題(20%)					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義前後には、教科書ないし参考書の該当部分をよく読んで、予習・復習をしっかり行うこと。 基本的に、本講義では、学生が自分で授業中にとったメモやノートをもとに学習することを想定している。				質問は、授業中・授業の前後に口頭で、あるいは、メールで受け付ける。 時間をかけて口頭で質問したい場合は、必ず事前にアポイントメントを取ること。 上記とは別に、講義内でコメントシートを実施する。受講生の間で共有した方が良いと考えた質問やコメントについては、毎回の講義開始時に、教員から紹介やフィードバック等を行う（昨年度までは各回講義で丁寧なフィードバックを試みていたが、今年度は講義時間の関係から、対応方法に変更を加える可能性が高い。詳しくは、第1回講義時に説明する）。			
教科書・テキスト	・高橋滋ら編著『行政法Visual Materials〔第2版〕』（有斐閣、2020年）2,750円 （講義中、同書に掲載されている図表を参照する機会が多くなるので、購入を推奨する。）			受講生に望むこと 法学学習においては、日常生活の中ではあまり用いない用語や日常用語とは意味が異なる語が登場することがある。この点でつまづくと大変なので、基本的な内容と思われても分からないことがあったら、積極的に質問することが期待される。 本講義では、学生が自分で授業中にとったメモやノートをもとに、教科書や参考書と照らし合わせながら学習することを想定している（基本的に、授業内容に関するPPTファイルの配布などは想定していない）。			
参考書・参考資料等	○発展的な学習（例えば、公務員試験の受験）を想定している受講生には、以下の書を推薦しておく。自身の相性に照らして、購入を検討されたい。 ・曾和俊文・山田洋・巨理格『現代行政法入門（第4版）』（有斐閣、2019年） ・高橋信行『自治体職員のためのようこそ行政法』（有斐閣、2017年） ・板垣勝彦『公務員をめざす人に贈る行政法教科書』（有斐閣、						

<p>○発展的な学習（例えば、公務員試験の受験）を想定している受講生には、以下の書を推薦しておく。自身の相性に照らして、購入を検討されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普和俊文・山田洋・巨理格『現代行政法入門（第4版）』（有斐閣、2019年） ・高橋信行『自治体職員のためのようこそ行政法』（有斐閣、2017年） ・板垣勝彦『公務員をめざす人に贈る行政法教科書』（有斐閣、 	<p>法学学習においては、日常生活の中ではあまり用いない用語や日常用語とは意味が異なる語が登場することがある。この点でつまづく大変なので、基本的な内容と思われても分からないことがあったら、積極的に質問することが期待される。</p>
<p>その他・特記事項</p>	<p>講義時には、必ず、「ポケット六法」「デイリー六法」など（どの種類のものを購入するかは受講生の判断に委ねる）を持参すること（ただし、電子媒体で代替してもよい）。</p> <p>基礎的な知識や概念については、毎回の講義後に復習しておくこと（法学学習にとっては体系性が命である）。</p> <p>日々の新聞やニュース等の報道に目を向け、複眼的な視野を持つように心掛けること（中学・高校の「現代社会」や「政治経済」で学習するレベルの基礎知識を用いながら、様々な立場に立って物事を見るスタンスが、本講義の講義内容の理解にも結び付けてくるはずである）。</p> <p>講義時間の都合上、教科書記載の全ての分野を網羅的に扱うことはできない。したがって、各種資格試験で行政法の学習が必要な学生にとって、本講義の内容は不十分なものとならざるを得ない。自主的な学習が必要となることをあらかじめ留意して講義に臨むこと。質問があれば適宜対応するので、不安な点などあれば、適宜相談すること。</p>

授業科目	コミュニティ・デザイン（概論）						
担当教員	築山 秀夫			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
基本的に講義形式で行い、学生による能動的学修も組み込む。コミュニティデザインを学ぶために、コミュニティの基礎的知識を理解することを目標とする。講義内容の柱は次の3つである。第一は、コミュニティに関する社会学者による理論的展開について、第二は、コミュニティを地縁型とテーマ型に分け、それぞれの構造と現状、課題について、第三は、コミュニティのデザインとしての公共政策、住民による市民活動・まちづくりについてである。これらを通じて、受講者とコミュニティとのあり方について考察を深める。				地域の課題を観察、分析し、地域再生を目指すコミュニティデザインに関する、基礎知識としてコミュニティ概念及び、その現状を理解し、コミュニティ政策やコミュニティデザインそれ自体が持つ課題を学び、現代の具体的な問題に応用することのできる能力を身に付けることをねらいとし、以下を到達目標とする。 社会学者によるコミュニティの定義について理解する。 コミュニティの変容と現状について理解する。 地縁型コミュニティとテーマ型コミュニティの内実と課題について理解する。 スケールごとのコミュニティ・デザインのあり方について理解する。 コミュニティデザインの現状と課題について理解する。			
キーワード	コミュニティ・デザイン、地縁型コミュニティ・テーマ型コミュニティ、ナショナル・デザイン、ローカル・デザイン						
教授方法	授業は講義を中心に行うが、幾つかのテーマについて、グループに分かれて議論し、発表するなど、アクティブ・ラーニングを取り入れる。コロナ禍への対応のために、一部をオンライン講義に変更することもある。小テスト及び期末試験は対面とする。よって、授業計画の多少の変更がある可能性がある。小テストの実施については、実施する前の講義でアナウンスをする。学生諸君の興味関心に対応するために、講義で取り扱うテーマを変更することがある。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする コミュニティ及びコミュニティ・デザインをめぐる現状について、解説する。						
2	日本におけるコミュニティの現状について、解説する。 コミュニティ・デザインの定義及びコミュニティ・デザインの歴史、アソシエーションではなく、コミュニティをデザインすることについて、						
3	コミュニティの定義 社会学者によるコミュニティ概念の定義について解説する コミュニティの変容 コミュニティ解放仮説、社会関係資本、コミュニティの排他性・寛容性について解説する						
4	地縁型コミュニティの構造と機能 地縁型コミュニティとしての町内会など所謂地域住民組織について解説する 地縁型コミュニティの理解を深めるために、実家が位置する町内会等地域住民組織に関するレポート を提出する。						
5	地縁型コミュニティの現状と課題 町内会や自治会などの現状と変容について解説する。 第1～4回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト を実施する。						
6	テーマ型コミュニティの構造と機能 市民活動及びNPM、新しい公共などについて解説する。						
7	テーマ型コミュニティの現状と課題 NPO・NGOの定義、日本のNPOの現状等について解説する。 テーマ型コミュニティの理解を深めるために、実家がある市町村に存在するNPOに関して、レポート を提出する。						
8	テーマ型コミュニティの事業デザイン、ファンドレイジング、ロジック・モデルについて解説する。 グループディスカッション 地域課題を解決するNPOの事業をデザインする。						
9	デザインすること、社会計画、まちづくり、サブシディアリティの原理について解説する。						
10	コミュニティのデザイン1 ナショナルなデザインとしての国土計画、コミュニティ政策、新しい公共について解説する。 第5～9回までの内容についての理解度を確認するために、小テスト を実施する。						
11	コミュニティのデザイン2 ローカルなデザインとしての都市計画、都市マスタープラン、コミュニティ政策について解説する						
12	コミュニティのデザイン3 市民による地域のデザイン、住民参加、市民活動について解説する						
13	コミュニティのデザイン5 デザインしないまちづくり、リノベーションのまちづくりについて解説する。						
14	まとめ コミュニティデザインを越えて 受講者同士のディスカッション						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	50	選択・記述とし、コミュニティ及びコミュニティ・デザインに関する理解について問う。定期試験が60点以上なければ、及第しないこととする。			小テスト	20	第5回と第10回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。
レポート	20	第4回と7回にレポートを提出して頂く。全てのレポートを提出していることが及第の条件となる。			日常点	10	日常的な、ディスカッション等への参加状況で評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業中に、配布された資料に関しては、しっかりと読み込んでおくこと。講義中に取ったノートを読み返し、復習をしておくこと。				質問は授業後、オフィスアワー時に受け入れる。また、毎回、講義の後に、フォローアップ課題を提出して頂くので、そちらに質問を書いて頂ければ、次回の講義時に解答することとする。但し、自分でできる限り調べる努力をすること。			
教科書・テキスト	特になし。必要な文献資料については、その都度、コピーしたものを配布する。			受講生に望むこと	受講生は、予習・復習、グループワークやディスカッションに積極的に取り組んでほしい。		
参考書・参考資料等	船津衛・浅川達人2014『現代コミュニティとは何か』恒星社厚生閣 広原盛明2011『日本型コミュニティ政策-東京・横浜・武蔵野の経験』晃洋書房 小泉秀樹2016『コミュニティデザイン学』東京大学出版会			その他・特記事項	自らの出身地域を再生させるにはいかなるコミュニティデザインが必要かをベースに考えてほしい。		

授業科目	地域マーケティング						
担当教員	坪井 明彦			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			



授業科目		ソーシャル・イノベーション論					
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>近年、社会的課題の解決にビジネスの手法を活用する「ソーシャルビジネス」が台頭し、社会的にその期待が高まっている。本講義では、ソーシャル・ビジネスの中心となる概念であるソーシャル・イノベーションについて学習する。その過程では、ソーシャルイノベーションと密接に関わるイノベーション理論をオーバービューしていく。講義では、本質を理解するために、ディスカッション、映像鑑賞などを行い、知識と実践的なマネジメント力を身につける。</p> <p>また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>本講義では、ソーシャル・イノベーションを最終的に理解するとともに、その過程でイノベーションの理論がどのように変遷してきているのかを理解することを目的とする。加えて、イノベーションのベースとなる知識創造についても理解する。</p>			
キーワード	ユーザーリードイノベーション、オープンイノベーション、知識創造						
教授方法	基本的に理論の習得をベースとした講義形式で実施する。一方で、映像資料や事例検討などでグループによる対話を取り入れる。						
履修条件等	3年以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション（授業概要、評価方法、授業の進め方）・イノベーションが求められる理由						
2	イノベーションとは何か（シュムペーターとドラッカー）						
3	イノベーション理論1（歴史・イノベーションが企業にもたらすもの）						
4	イノベーション理論（イノベーションタイプ・パターン・プロセス）						
5	イノベーション理論（資源動員と知識創造）						
6	イノベーション理論（認知バイアス・直感と論理・感情・新製品開発のマネジメント組織マネジメント）						
7	イノベーション理論（イノベーションと企業戦略）						
8	中間まとめ						
9	リードユザイノベーションの再考						
10	オープンイノベーションの2.0の台頭						
11	ソーシャルイノベーション1（ソーシャルイノベーションとは何か）						
12	ソーシャルイノベーション（ソーシャルイノベーションと知識創造）						
13	ソーシャルイノベーション（ソーシャルイノベーションのビジネス化）						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
ミニレポート	20%	授業内でミニレポートを2回実施			小レポート	80%	授業内で小レポートを2回実施
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：テーマに沿って参考図書等を利用し学習すること 事後学習：テーマに沿って事例を調べる。課題となった映像資料を視聴し、課題とする論文を読み込んでいくこと。				授業後あるいはメールにてアポイントを入れ、対面かリモートで対応する			
教科書・テキスト	無			受講生に望むこと			
参考書・参考資料等	谷本真治他編著『ソーシャルイノベーションの創出と普及』NTT出版、2013年 大室悦賀編著『ソーシャル・ビジネス』中央経済社、2011年 クレイトン・クリステンセン著『イノベーションのジレンマ 技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』翔泳社、2001年 ドラッカー著『イノベーションと企業家精神』ダイヤモンド社、2001年			その他・特記事項	講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要になるので、それなりの覚悟をもって望んでほしい。私語（いかなる理由の発話であれ）や遅刻など、他の受講者にとって迷惑になると私が判断する行為に対		

講義においては参考図書を中心に行うが、その他の文献も図書館等を利用して理解を深めることが望ましい。また経営学（歴史・理論）も関連するので履修が望ましい。授業では数回のレポートを書いてもらうことになる。よって事前の予習・復習が必要にな



授業科目		地域イノベーション論					
担当教員	尹 大栄			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>長期間にわたる国内景気の低迷や安価な輸入品との競争激化などにより、日本の多くの地域・地場産業が衰退の一途をたどっている。本講義では、長い歴史の中で生き残ってきた国内外の代表的な地域・地場産業を取り上げ、その持続性を支えるイノベーションを生み出してきた企業家や地域企業、非営利組織（NPO）、社会的企業の活動について学ぶ。これらの主体がどのようなロジックで地域産業の変革を引き起こすのかについて、理論的な説明に加え、具体的な事例を取り上げて議論する。</p>				<p>地域産業が抱えている様々な課題を創造的に解決する方法について学習し、地域産業の持続的要因は何かについて理解する。</p>			
キーワード	地域・地場産業、産地、イノベーション、取引制度、人材育成						
教授方法	指定テキスト及び参考書を用いた講義形式を基本とするが、地域イノベーションの主体である企業、非営利組織（NPO）、社会的企業のイノベーション活動に関する豊富なエピソード、写真映像などを積極的に活用する授業展開を計画している。						
履修条件等	地域産業に興味のある人						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション；地域産業とイノベーション						
2	世界3大眼鏡産地（日・伊・中）の物語（1）						
3	世界3大眼鏡産地（日・伊・中）の物語（2）						
4	世界3大眼鏡産地（日・伊・中）の物語（3）						
5	静岡県の酒造産業の活性化（1）						
6	静岡県の酒造産業の活性化（2）						
7	ブラモデルの集積地 静岡						
8	協調メカニズムとしての取引制度（1）						
9	協調メカニズムとしての取引制度（2）						
10	協調メカニズムとしての取引制度（1）						
11	地域産業における人材育成の仕組み（2）						
12	地域産業とファミリービジネス（1）						
13	地域産業とファミリービジネス（2）						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	70	期末テストの成績		レポートほか	30	レポート提出	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前課題についてしっかり調べてくる。				研究室訪問やメールに対応する。			
教科書・テキスト	尹大栄（2014）『地域産業の持続性』中央経済社			受講生に望むこと	地域産業を深く学ぶ機会にしてほしい。		
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介する。			その他・特記事項	授業はテキストに沿って展開するので、テキストを購入すること		

授業科目		経営史							
担当教員		橋本 規之		必修・選択		選択	単位数	2単位	
履修年次		2年	開講学期	3・4学期		授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生		グローバルメント	関連資格			備考			
授業の概要				到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 18世紀の産業革命の時代から、21世紀の現在までを対象にして、ヨーロッパ、アメリカ、日本、アジア地域におけるビジネスとマネジメントの歴史を概観します 各時期の政治、経済、社会、文化の背景を踏まえて、市場への創造的な適応であるイノベーションの観点から、経営史を織り込んでいきます 前半の第1回～第7回は、ヨーロッパとアメリカの経営史を扱います 後半の第8回～第14回は、日本とアジアの経営史を取り上げます 				<ul style="list-style-type: none"> ビジネスとマネジメントの歴史をグローバルなスケールで学ぶことを通じて、時間軸（垂直方向）と空間軸（水平方向）を自在にスライドできる認識とセンスを養います イノベーションの歴史から思考の糧を得ることにより、広い視野と多角的な視点で物事に創造的にアプローチできる力を身に付けることを目指します 					
キーワード		市場、組織、ネットワーク、経営戦略、管理組織、大企業体制、日本の経営、企業統治、イノベーション、経営資源、調整された活動の体系、ビジネス・システム、ビジネス・モデル、プラットフォーム、アーキテクチャ、価値づくり							
教授方法		<ul style="list-style-type: none"> 講義形式です。毎回の講義で配布するパワーポイントの資料に基づいて進めていきます 講義中、適宜ディスカッションも行います 							
履修条件等		・特にありません							
授 業 計 画									
実施回	授業内容								
1	全体のイントロダクションの後、2回に分けて、18世紀後半から19世紀前半までのイギリスを中心に、産業革命（工業化）の時代を扱います。								
2	同上								
3	2回に分けて、18世紀末から20世紀初頭までのアメリカを中心に、大企業の誕生の時代を扱います。								
4	同上								
5	20世紀前半の欧米のビジネスの歴史を扱います。								
6	20世紀後半の欧米のビジネスの歴史を扱います。								
7	1990年代以降のデジタル革命とIT革命を通じた、欧米のビジネス活動の足跡を扱います。								
8	これ以降は、日本とアジアの経営史です。初回は、日本の江戸時代の商家経営や明治期の産業革命（工業化）を扱います。								
9	1920～30年代の大衆消費社会の到来と財閥の時代を扱います。								
10	第二次世界大戦後の復興期の企業活動を扱います。								
11	1960年代を中心に高度成長期の企業活動を扱います。								
12	1970年代から80年代の安定成長期の企業活動を扱います。日本の経営が最も国際競争力を発揮した時代です。								
13	1990年代から現在までのグローバル市場での日本企業の活動を扱います。								
14	最後はアジア経営史です。成長著しい東アジア地域を中心に、アジア企業のビジネスの諸展開を概観します。								
共通の成績評価基準									
成績評価方法と基準									
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準		
中間レポート	50	前半の講義を踏まえた課題レポート（50点満点）の達成度により評価します。			期末レポート	50	後半の講義を踏まえた課題レポート（50点満点）の達成度により評価します。		
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応				
<ul style="list-style-type: none"> 事前の学習では、参考文献の該当箇所を読んでおく、理解が深まります 事後の学習も同様ですが、講義資料をよく復習することが肝心です 各スライドの脚注や末尾の参考文献リストを復習や発展的な学習として利用してください 					<ul style="list-style-type: none"> 授業後の教室や電子メールで基本的に対応します メールの連絡先は下記の通りです hashimoto.noriyuki@u-nagano.ac.jp 				
教科書・テキスト		<ul style="list-style-type: none"> 特に指定しません 初回の講義で代表的なテキストを紹介します 			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を理解するためには、毎回出席することが不可欠です 知的好奇心を十分に発揮してください 			
参考書・参考資料等		<ul style="list-style-type: none"> 各回の講義で紹介いたします 毎回のパワーポイントの資料の最後に参考文献リストがあり、○の3種類の記号で文献のタイプを表しています 			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 講義はZoomで行います 使用言語は日本語です 講義資料は当日午前中にポータルに掲載します。ダウンロードや印刷をしておいてください 			

授業科目	企業家論(トップ・マネジメント論)						
担当教員	今村 英明			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授業計画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	健康マネジメント論						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>健康な社会づくりとは何か、地域のあるべき姿を描き、何をすべきかを考える力を養う。健康な地域社会の実現のために、地域全体のアセスメントから健康ニーズや取り組むべき課題を明確にし、計画・実施・評価を展開する方法を学ぶ。これらに基づいて地域住民及び保健・医療・福祉・企業等を含む地域にある様々な社会資源と連携して、いかに健康な地域社会づくりをマネジメントするかを理解するために必要な知識（健康や連携の意義、健康づくりを支える地域システム、事業化・施策化など）を学び、地域特性に合った社会づくりの必要性を理解する。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・社会の動向と健康課題の現状を理解し、QOLやヘルスプロモーションの理念に基づいた地域や組織の将来展望について考える。 ・ライフステージごとの健康システムの現状を理解し、新たなヘルスシステムを考える。 ・個人の健康維持増進と健康的な地域づくりや会社経営のあり方について理解を深める 			
キーワード	ヘルスプロモーション ヘルスシステム 健康経営						
教授方法	講義、ワーク 学生発表						
履修条件等	とくになし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 健康とは 予防とは 健康の世界戦略について						
2	社会の動向と健康課題の変遷						
3	ライフサイクルと健康をまもる仕組み						
4	親と子どもの健康をまもる仕組み						
5	労働者の健康をまもる仕組み（法的根拠）						
6	労働者の健康をまもる仕組み（健康課題と保健計画）						
7	健康経営とは（特定健診、メンタルヘルス）						
8	健康経営とは（タバコ、アルコール、がん）						
9	健康経営実践者にきく						
10	健康経営実践者にきく						
11	地域ヘルスケアシステムとは						
12	ヘルスシステムの充実にむけて						
13	現状のヘルスシステムと補いたいリソースを考える						
14	学生が考えた新たなヘルスシステムの提案						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業内ワーク	40	授業内の個人ワーク、グループワークの提出物（提出の有無、内容）		学生発表	40	グループ発表（自己評価：20%、教員評価：20% 資料・発表、内容）	
レポート	20	最終レポート（ヘルスシステムへの新提案）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
発表のために資料づくりを事前事後の学習で補うこと				授業時またはメール等で質問・相談可能			
教科書・テキスト	産業保健ハンドブック 労働調査会			受講生に望むこと	ワークや自己学習は積極的に実施すること		
参考書・参考資料等	国民衛生の動向ほか適宜紹介する			その他・特記事項	とくになし		

授業科目		中小企業論					
担当教員	兼村 智也			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
日本の企業のほとんどを占める中小企業について、1学期では主として、その歴史や理論、「中小」規模であるがゆえの経営上の特徴、優位性と劣位性、発展性や限界性などについて学習する。2学期では主として新たな成長機会として可能性が広がる国際化への取り組み、そのなかでの中小企業の経営戦略、また台頭する新たなビジネスモデルについて学習する。				同じ経営でも大企業とは異なる「経営」が中小企業にみられること、その「経営」は大変ユニークであることについての認識や理解を深める。そこから中小企業の重要性や発展性を感じ取り、また身近な存在であり、地域経済の担い手である中小企業への興味・関心を高め、同時にそれを評価・分析する目を養う。			
キーワード	中小企業、ファミリービジネス、地域経済、事業創造、国際化、グローバル化						
教授方法	配布資料を参照しながらオンライン授業で行なう。そのなかで2～7回、9～14回の授業開始時に前回授業の復習テスト(3問×2点)をクリックカーを使って実施する。なお出欠席の管理もクリックカーで行う。						
履修条件等	オンライン授業に必要な設備一式を確保できること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	中小企業とは何か：中小企業の定義、国民・地域経済における位置づけ、中小企業の多様性とその類型、大企業と区別して取り上げられ、議論される理由・意義などについて学習する。						
2	中小企業の役割と存立分野：中小企業が経済社会のなかで果たす役割は非常に多く、その存立分野も幅広い。いずれも大企業は対応しない・できない役割・分野であり、中小企業の優位性が活かせる役割・分野でもある。それは何か、その特徴や要因、理論について学習する。						
3	中小企業と地域経済：中小企業は地域経済とのつながりが大変強い。それがどのような分野にみられ、背景・要因は何か。さらに地域経済の発展を説明する産業集積や産業クラスターの意味とメカニズム、また近年みられる「地方創生」への取り組み、そのなかでの中小企業が果たす役割						
4	中小企業問題と政策：「二重構造」など過去に指摘された問題、その後、中小企業が恒常的に抱えてきた競争・取引関係、金融面における問題、そして昨今、指摘・注目される生産性や事業承継などの問題とその政策(の変遷)について学習する。						
5	中小企業経営の特徴：所有と経営の一致、経営者の影響力、簡素な組織と迅速な意思決定、事業的企業と生業的企業、経営資源の不足、競争の厳しさなど中小企業にみられる経営上の特徴、その優位性・劣位性を大企業との違いを意識しながら学習する。						
6	ファミリービジネス(FB)とは何か：中小企業の多くを占め、その高い業績に近年、世界的にも注目が集まるFB(企業)を取り上げ、FBを見る際のフレームワーク、その特徴や高業績を支える要因について学習する。						
7	中小企業の経営戦略：中小企業がもつ固有の問題性を克服しつつ、その優位性を活かした中小企業にふさわしい経営戦略にどのようなものがみられるのか、その競争優位とは何かについて学習する。						
8	中小企業のマーケティング戦略：顧客数の多くない中小企業におけるマーケティングが如何に行われるか、そのプロセスや主に中小製造業者が扱う生産財にかかるマーケティング、BtoB取引の考え方・特徴について学習する。						
9	中小企業の事業創造：新事業の創造と既存事業の変革の2つを含む概念である事業創造について、その必要性、特徴と可能になる事業領域、そのプロセス、課題と克服方法について学習する。						
10	中小企業と人材：複数の経営資源のなかで中小企業にとって如何に「ヒト」が重要か、また働く者にとっての中小企業の魅力と現実、若者を惹きつける中小企業にみられる特徴、そして近年拡大する外国人労働者ももたらす効果や問題について学習する。						
11	中小企業の国際化：中小企業の国際化の歴史と現状、そのプロセスやメリット、さらに海外進出する中小企業の現地経営の実態と問題点、国内事業との関連性などについて学習する。						
12	グローバル・ニッチトップ(GNT)企業の特徴：GNTとは何か、競争戦略のなかでのGNTの位置づけ、独自の技術や製品の開発をコアにして、国際市場における「強み」を作ってきたGNT企業の特徴、成長プロセス、経営戦略などについて学習する。						
13	ボーン・グローバル(BG)企業の特徴：近年、成長の過程としてグローバル化を図るのではなく設立当初からグローバルな視野で創業するBG企業が登場している。こうした企業が登場した背景や特徴や創業に至るプロセス、その条件などについて学習する。						
14	地域中小企業の事例分析：これまで学習してきた事業創造、マーケティング、国際化などの視点からユニーク経営をみせる地域中小企業を取り上げ、その成長要因、ビジネスモデルについて分析・学習する。						
共通の成績評価基準							
復習テスト12回(計72点)とレポート2回(計28点)の合計得点(100点満点)で評価する。評価基準はS:100～90点、A:89～80点、B:79～70点、C:69～60点。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
復習テスト	72%	6点満点の復習テストを12回(2～7回、9～14回)		レポート	28%	14点満点のレポートを2回(7・14回終了時)	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
授業資料は2日前の月曜日には配布するので事前に目を通しておくこと。次に復習テストのある場合は授業の復習を行い、その準備をしておくこと。				学務システムを使用して随時受付する。			
教科書・テキスト	特になし(授業資料は事前に配布する)。			受講生に望むこと	身近な存在である中小企業を具体的な事例、今日の話題を交えながら、わかりやすく講義したく思いません。是非興味を持って授業に臨んでください。		
参考書・参考資料等	「よくわかる中小企業」関 智宏 編著(ミネルヴァ書房) ISBN:9784623088225 / 「中小企業経営入門」井上善海 編著(中央経済社) ISBN:9784502117619 / 「中小企業のマネジメント」安達明久等 著(中央経済社) ISBN:9784502268311 / 「グローバル市場を志向する国際中小企業」中道 真 著(晃洋書房)			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		組織間関係論					
担当教員	東 俊之			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバ'リング	
対象学生	グローバル'メント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>組織間関係とは、一定の環境下において、ある組織と別の一つあるいはそれ以上の組織との間で生じる関係のことである。その対象は、営利企業だけではなく、NPOや行政組織なども含まれる。そのため、企業間の協調関係、企業と非営利組織との関係、企業と行政との関係、あるいは複数の異なるセクター間協働などが、この範疇に入る。また環境変化が激しい現在では、単一組織だけで十分な成果をあげることが難しくなっており、そのために他組織と何らかの関係を構築することが求められている。</p> <p>本科目ではこうした組織間関係を、先行研究（理論）と事例（実践）の両側面から検討し、組織間関係が生じるメカニズムは何か、関係を継続・発展するためにどのようなマネジメントが必要か、さらには組織間関係によってどのような付加価値が創造されるのか、などを考える。これら考察により、組織を経営するための実践的なマネジメント能力を涵養する。</p>				<p>現在では、他組織と何らかの関係をもち、協働することによる価値創造が求められている。そのため、組織間関係論の知識を持つことが不可欠になっている。</p> <p>そこで本科目で組織間関係論の先行研究（理論）を学習し、かつ組織間関係の具体的な事例を検討することで、組織間関係に関する知識・技能を身につける。具体的には、組織間関係の形成過程や成功要因を説明できる、実際の組織間関係を深く分析できる、さらに 自組織と他組織との関係を円滑に構築できる、といった能力を修得する。</p>			
キーワード	資源依存理論、ネットワーク論、コラボレーション論、マルチセクター協働、地域協働、事例分析						
教授方法	<p>本科目は、Zoomを用いた双方向型のオンライン方式で実施します。また本授業は、大きく分けて2つのパートから成り立っています。前半（2～7回）は「理論編」で、組織間関係論の理論を学びます。簡単な事例を用いますが、基本的にはPowerPointと板書の両方を使用した講義形式です。しかし漫然と受講するのではなく、自身の所属する組織に置き換え、考えながら講義を聴く姿勢が求められます。</p> <p>また後半（9～13回）は「事例編」で、事例を検討することでより具体的に組織間関係の必要性やマネジメント方法などを演習形式で学習します。事例は個人で分析するだけでなく、グループで演習（ディスカッション）してもらうことがあります。そのため、授業前に事例内容を理解しておくことが必要であり、自身の見解を持っておくことが不可欠です。なお、授業計画に示している事例を変更する場合があります。</p>						
履修条件等	特に履修条件は設けませんが、「経営組織論」「経営戦略論」を履修していることが望ましいです。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	【ガイダンス（イントロダクション）】：本科目の全体像を説明し、試験やレポート課題提出などのスケジュールを案内します。さらに「組織間関係とは何か」を考え、単一組織では達成できないことが成果を生み出す可能性を理解します。「レポート課題」を説明・解説します。						
第2回	【組織間関係論の展開と領域】：組織間関係論がどのように発展してきたのか、またどのような研究領域が含まれているのか、その概要を学習します。また、組織間関係論の基本的な用語や考え方を理解し、なぜ「組織間関係」を把握することが必要かを理解します。						
第3回	【組織間関係論の基本理論（1）】：組織と組織の関係を分析するための基本的な理論を枠組みとして、「取引コスト理論」「資源依存理論」などの考え方を学習します。こうした理論を踏まえつつ、皆さんが所属する組織が、他組織と「なぜ関係を結んでいるのか」を考えます。						
第4回	【組織間関係論の基本理論（2）】：組織間関係の理論として議論されている、「ネットワーク論」や「コラボレーション（協働）論」などを学習します。特に、組織と組織が協働することで、それぞれの組織が持つ能力の総和以上の価値が創造される可能性を検討します。						
第5回	【組織間関係論の対象】：企業だけが組織間関係論の対象となるのではなく、NPOや行政組織、学校組織などが含まれることを理解します。そのうえで、「同一セクターのダイアド（1対1）関係」から、「クロスセクターのマルチ（複数間）関係」への展開していることを事例から学習し						
第6回	【組織間関係の形成プロセスと媒介者】：新たな組織間関係を築くためのポイントを考え、どのように組織間関係形成のプロセスをマネジメントし、またどのように調整することが必要かを考えます。さらに、組織間関係構築に必要な「人」の役割についても考えます。						
第7回	【組織間学習と組織間文化】：組織間関係を継続・発展するために不可欠な「組織間学習」の理論を学び、皆さんの関係する組織でどのような学習が行われているのか理解します。そして、組織間で文化を共有することの利点を問題点を理解します。						
第8回	企業間関係の総合演習（中間振り返り）と中間テスト：これまでの内容を振り返り、組織間関係論の理論を全体像をつかみます。特に自分の所属する組織で、学んできたことがどのように生かせるのかを確認します。最後に理論の理解度を把握すべく、テストを行います。						
第9回	【事例学習（1）組織間関係としての企業と企業】：企業間の関係が組織間関係の代表的な事例です。例えば、「SCM」や「製販同盟」など様々な事例があげられます。異なる業態の企業の協働事例を取り上げ、企業間の協働がうまく進むために必要なことを考えます。						
第10回	【事例学習（2）企業とNPOの組織間関係】：企業とNPOの関係だけでなく、近年では企業とNPOの関係についても注目されています。ここでは、特に社会問題解決のための企業とNPOの協働について事例を用いながら検討します。						
第11回	【事例学習（3）マルチセクターによる協働】：企業やNPO、行政組織など様々な主体（マルチセクター）による組織間協働が、近年増加しています。ここでは、企業、NPO、行政の協働による地域ブランド構築の事例を取り上げ、その成功要因を検討します。						
第12回	【事例学習（4）6次産業化における農商工連携】：農山村や漁村の産業振興を考えた上で近年盛んに議論されている「6次産業化」とは何かを学び、さらに6次産業化を進展させるための農商工連携について地元（長野県）の事例を踏まえながら検討します。						
第13回	【事例学習（5）組織間協働による地域活性化】：「地域」には様々な主体が存在しており、その主体の協働が地域活性化のためには不可欠です。地域主体が協働するために、何が必要で、どのように協働をマネジメントすべきか、事例分析を通じて学習します。						
第14回	【組織間関係論の到達点と方向性】：これまで学習してきたことのまとめとして、組織間関係論の現在の到達点を確認し、まだ十分に議論されていない領域や今後の課題などを考察します。また、皆さん自身が本科目で学んだことをどのように活用すべきかを考えます。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	45 %	期末試験（30点）& 中間試験（15点）。期末テキスト、論述問題を中心に出題。中間テストは、空欄補充問題を中心に出題。		小テスト	20%	第3回、第4回、第5回、第6回、第7回の最初に、前回授業内容と、予習課題内容の理解度の確認のために小テストを実施（各4点×5回＝20点）。基本用語の	
授業レポート	35%	レポート課題（15点）と事例分析レポート（4点×5回＝20点）。レポート課題は、組織間関係論の成功要因を各自で分析します。また事例分析レポート		上記以外の授業評価	0	授業中の積極的な発言や、事例分析についてのプレゼンテーションなどを行った場合は、ボーナスポイントを付与する場合があります。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回授業の終わりに「課題」を提示します。これは提出を求めものではなく、次回授業の予習になるものです。グループ討議を行う際には、事前に調査しておかないと、活発な議論ができません。さらに第3回～第7回にかけて、毎回小テストを実施しますので、予習・復習が不可欠です。なお、授業スライドは、授業前に学生ポータルからダウンロードできるようにします。予習・復習に役立ててください。</p>				<p>オフィスアワーを設定しますので、その時間に研究室に質問に来るか、またはZoomでも相談を受け付けます。また、可能な限りオフィスアワー以外の時間でも対応します。ただし、対応できない場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。</p> <p>なお、オフィスアワーの設定時間は、授業の初回で案内します。</p>			
教科書・テキスト	佐々木利廣・加藤高明・東 俊之・澤田好宏『組織間コラボレーション：協働が社会的価値を生み出す』ナカニシヤ出版、2009年（本体2,400円＋税）。（必ずしも、教科書通りには進みません。また適時資料を配布します）			受講生に望むこと	「経営組織論」、「経営戦略論」を履修していることが望ましいですが、特に未履修者でも理解できるように授業します。また、常に企業活動や組織活動に関するニュースを確認したり、所属する組織における問題点の把握に努めたりする積極的な姿勢が不可欠です。		

<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>・佐々木利廣・大阪NPOセンター編『地域協働のマネジメント』中央経済社、2018年（本体2,700円＋税）／・小橋勉『組織の環境と組織間関係』白桃書房、2018年（本体3,000円＋税） （その他、参考文献は授業時に指示します。また資料を配付する場合もあります）</p>	<p>その他・ 特記事項</p> <p>同時双方向型を中心とし、一部オンデマンド型を組み合わせた、オンライン授業を実施します。また、当日使用する資料は、学生ポータルを使って事前に配信します。また欠席された際は、なるべく早めに担当教員の指示を仰いでください。その他、不明な点は遠慮なく尋ねてください。</p>
-----------------------	--	---

授業科目	BoPビジネス概論						
担当教員	渡邉 さやか			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目		人材マネジメント論					
担当教員		宮下 清		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>人材マネジメントは最重要な経営資源とされる人的資源（Human Resource）を対象とし、組織目的を達成するための人材に関わる活動や施策から成り立つ。本授業では人的資源管理の基礎となる知識と重要な概念について理論と実践面から理解を深める。具体的には人材と関わる環境、戦略、組織、育成、雇用、異動等について学んでいく。</p> <p>担当教員は国際企業で人事教育、商品企画、営業管理に従事し、モチベーション、リーダーシップ、組織開発、ナレッジマネジメント、教育訓練や国際人事など人材マネジメントの知識・成果を業務に活かした経験を有する。</p>				<p>人材マネジメント(HRM)について、経営環境や戦略・組織との関連を含めてよく理解し、基礎的な用語や概念については自分の言葉で説明できる、さらに企業や組織の課題を探り、解決につなげる力を修得し、それを活用できることを目標とする。</p>			
キーワード	人的資源（HR）、人材育成、雇用管理、評価、報酬						
教授方法	シラバスに沿ってテキスト等で事前学習を行うことが望まれる。そして授業では重要点やその意味、関連・背景などを確認できる。グループ討議やコメントなど双方向に主体的に学び、事後学習でふりかえり、修得することができる						
履修条件等	「経営学入門」を履修していること。経営組織論、組織行動論を履修していることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス：人材マネジメントの学び方、経営・戦略・人事、環境と経営、外部環境と内部環境						
2	人材マネジメント(HRM)と人事管理：人事労務管理と人材マネジメント、人事管理の意義と発展						
3	人材とモチベーション：労働意欲と人間観、欲求階層説、動機づけの人事施策、職務充実						
4	人材とリーダーシップ：リーダーシップの研究、リーダーの役割、マネジメントとリーダーシップ						
5	組織文化と組織開発：人材マネジメントと組織文化、組織開発、組織の活性化						
6	知識創造と人材：ナレッジマネジメント、知識価値と知識資産、知の創造を行う人材						
7	組織文化と組織開発：組織文化、組織開発、組織の活性化						
8	知識創造と人材：ナレッジマネジメント、知の創造を行う人材						
9	人材育成と教育訓練(1)：教育・研修・能力開発、企業内教育と体系						
10	人材育成と教育訓練(2)：人材育成の課題、人材育成のプログラム						
11	雇用管理(1)：採用、配置、異動、人材ポートフォリオ、昇進昇格						
12	雇用管理(2)：ジョブローテーション、職能資格制度、専門職、目標管理						
13	国際人材マネジメント：国際人事モデル、多国籍企業と国際戦略、グローバル人材						
14	人材マネジメントの総合事例：事例企業における人材マネジメント、活用と育成						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末レポート(期末試験)	60	授業全体の理解度の評価 【オンライン授業により期末試験から変更】		授業の課題	20	授業課題の提出やレポートの評価	
上記以外の評価	30	授業への積極的な参加(質疑、討議、コメント等)による評価					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成(提出)する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し再度考察することで「事後学習」により、学習をより定着させることができる。				授業中のチャットによる質問にはできるだけ授業中にお答えしたい。また授業後に個別に質問を受ける。またメールでも対応したい。			
教科書・テキスト	宮下清『テキスト経営・人事入門』創成社、2013年			受講生に望むこと	日頃から、企業の人事や教育制度など実践的な記事を経済新聞や経済誌から読んでみてください。		
参考書・参考資料等	『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣、上林憲雄ほか、2018年。 『新しい人事労務管理』有斐閣、佐藤博樹ほか、2019年。			その他・特記事項	自らの見聞、文献やニュースから得た情報を人材マネジメントと関連させて考えてみてください。そうすることで学びはより一層興味深いものとなる。担当教員は企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験がある。		

授業科目	経営情報論						
担当教員	首藤 聡一郎			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルコースメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
経営情報の基礎的な諸理論と実際				1) 経営情報の基礎的な諸理論を理解する 2) 経営情報、特にIT (Information Technology) の利活用の実際について知る			
キーワード	経営情報、Information Technology、意思決定、情報処理、コミュニケーション						
教授方法	講義						
履修条件等	3年生以上						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	人の情報処理特性						
3	ITの基礎原理						
4	業務の自動化・AI (Artificial Intelligence) の活用						
5	コミュニケーションの基礎理論						
6	通信の基礎理論						
7	CMC (Computer Mediated Communication)						
8	組織と情報 (1)						
9	組織と情報 (2)						
10	組織におけるIT活用の基礎理論と実際 (1)						
11	組織におけるIT活用の基礎理論と実際 (2)						
12	ビジネスとIT (1)						
13	ビジネスとIT (1)						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末レポート	40	内容、形式等		授業時の課題	30	内容等	
リフレクションシート	30	内容等					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
適時指示します				授業後に対応します。アポイントメントをとってくればそれ以外の時間にも対応します			
教科書・テキスト	ありません			受講生に望むこと	授業への積極的な関与をお願いいたします		
参考書・参考資料等	適宜指示します			その他・特記事項	ITについて取り扱いますが、それ以外の内容もあります。その点についてご理解いただいたうえで受講の決断をしていただければ幸いです		

授業科目		企業倫理					
担当教員	井上 真由美			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
株式会社などの営利企業は経済的な活動を通して利益を追求しますが、反面その活動を通して社会や環境に影響を与える存在でもあります。近年では、持続可能な発展目標がグローバルに共通の課題として取り組まれ、営利企業に期待される役割も広がっております。本授業では、持続可能な社会の実現のために、営利企業が多様なステークホルダーとの間でどのような関係を構築することが望ましいのかについて様々な視点から検討します。				以下を授業目標とします。企業倫理に関する概念、理論、歴史を学び、現代企業が直面する倫理的問題や課題に対応するための考え方を習得する。			
キーワード	企業倫理、CSR、フィランソロピー、ソーシャル・ビジネス、コーポレートガバナンス						
教授方法	遠隔による講義形式で実施します（授業内容に関連する映像を見ることもあります）。また、数回の課題レポートに対してコメントします。						
履修条件等	経営学に関する基礎的な知識を有していることを前提に説明します。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス：授業の目標、概要、進め方を理解する						
2	CSR：CSRの理論とその展開について理解する						
3	フィランソロピー：企業が社会貢献活動に取り組むのはなぜかを理解する						
4	ソーシャル・ビジネス：社会的課題の解決をビジネスとして取り組む企業の活動を理解する						
5	ソーシャル・ビジネスのケーススタディ：社会的課題の解決を実践する企業の活動プロセス（特にステークホルダーとの協働関係）について理解する						
6	日本における企業倫理（歴史）：江戸時代の商業道德や長寿企業の企業倫理について理解する						
7	株式会社とステークホルダー：株式会社と多様なステークホルダーの関係はどのように捉えられてきたのかを理解する						
8	日本のコーポレートガバナンス（1）：日本のコーポレートガバナンスの歴史の変遷を理解する						
9	日本のコーポレートガバナンス（2）：日本のコーポレートガバナンスの近年の動向を理解する						
10	アメリカのコーポレートガバナンス（1）：アメリカのコーポレートガバナンスの歴史の変遷を理解する						
11	アメリカのコーポレートガバナンス（2）：アメリカのコーポレートガバナンスの近年の動向を理解する						
12	企業活動のグローバル化と企業倫理（1）：機関投資家とコーポレートガバナンスの関係について理解する						
13	企業活動のグローバル化と企業倫理（2）：クロスボーダーM&Aが増加する中で生じる倫理的問題について理解する						
14	企業活動のグローバル化と企業倫理（3）：企業活動のグローバル化に伴う企業とステークホルダーとの間の倫理的問題について理解する						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	60	理解度に応じて評価します		期末レポート	40	理解度に応じて評価します	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業後に指定された課題に取り組んでいただきます。前期の授業で学んだ内容をもとに、期末レポートを作成していただきます。				質問は授業の後に受け付けます。また、メールでの質問も受け付けます。			
教科書・テキスト	指定なし			受講生に望むこと	授業に遅刻しないように気を付けて下さい。		
参考書・参考資料等	谷本真治（2020）『企業と社会 サステナビリティ時代の経営学』中央経済社。 佐久間信夫・田中伸弘編著（2019）『改訂版』CSR経営要論』創成社。			その他・特記事項	レジュメを用いた授業を行います。		

授業科目		グローバル・ビジネス演習					
担当教員	森本 博行			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>・グローバル・ビジネス演習は、企業はなぜグローバルをめざすのか、進出国の経済発展段階や文化の違い、自国の産業を優遇する経済政策等によって外国企業にとって不利な立場にあるのに、どのようにして持続的競争優位を獲得できるのか、企業事例を通して、考察します。</p> <p>・担当教員は、外資系企業を顧客する広告会社である（マッキンゼー・エリクソン・ワールド）においてマーケティング戦略を担当し、さらにソニーにおいて、米国、英国の海外子会社に在籍し、国際経営の実務経験があります。ソニーを退職する時には、イノベーション戦略オフィスVP (Vice President) でした。</p>				<p>・グローバル人材として課題発見能力を修得します。</p>			
キーワード	グローバル人材 海外生産 国際マーケティング 国際財務 国際経営戦略 国際経営組織 グローバルR&D						
教授方法	・企業事例のテキストをもとにした講義形式						
履修条件等	・「グローバル・ビジネス」を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	国際経営とは 味の素 味の素のケースから考えてみよう。						
2	国際経営戦略 トヨタ自動車のケースから考えてみよう。						
3	国際経営組織 アクセンチュアのケースから考えてみよう。						
4	国際マーケティング 資生堂のケースから考えてみよう。						
5	国際研究開発とイノベーション シーゲート・テクノロジーのケースから考えてみよう。						
6	グローバルR&D IBMとネスレのケースから考えてみよう。						
7	国際人的資源管理 シーメンスのケースから考えてみよう。						
8	国際経営財務 ソニーのケースから考えてみよう。						
9	自動車産業 新興国における現代自動車とトヨタ自動車のケースから考えてみよう。						
10	エレクトロニクス産業 レノボ、ノキア、サムスン電子、パナソニックのケースから考えてみよう。						
11	IT産業 GoogleとIBMのケースから考えてみよう。						
12	流通業 アジアにおけるグローバル小売業競争の展開から考えてみよう。						
13	生活文化産業 ユニリーバ、P&G、花王にみる欧米日企業のケースから考えてみよう。						
14	国際経営マネジメントの変革 野村ホールディングスのケースから考えてみよう。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	50	課題に対する問題意識		期末レポート	50	理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
・テキストの企業事例の事前学習、課題レポートの提出のための事後学習				メール等で質問と相談に応じます。			
教科書・テキスト	『ケースに学ぶ国際経営』（有斐閣ブックス）			受講生に望むこと	なぜ企業はグローバルをめざすのか、という問題意識をもって授業の臨むと、理解が容易になります。		
参考書・参考資料等	『グローバル経営入門』（日本経済新聞社） 『新興国市場戦略論』（有斐閣） 『グローバル経営戦略』（東京大学出版会）			その他・特記事項	・毎回の授業で課題が出ますので、課題レポートを提出すること。		

授業科目		コーポレート・ガバナンス					
担当教員	尹 大栄			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>「企業を誰が、誰のために、どのように統治すべきか」というコーポレート・ガバナンス（企業統治）については、時代や国によってその捉え方が大きく異なっている。本講義では、コーポレート・ガバナンスの基本的な仕組みとその機能について学習したうえで、株式会社制度の歴史を振り返りながら、企業統治のあり方がどのように変遷してきたのか。そして、国・地域によって企業統治の実態がどのように違っているのかについて、各国の具体的な事例を取り上げて議論する。</p>				<p>コーポレート・ガバナンス（企業統治）の基本概念と理論、実態について学習し、将来、企業マネジメントに応用できる能力を身につけることを目標とする。</p>			
キーワード	資本主義、株式会社制度、法人、代理人、ファミリービジネス						
教授方法	講義						
履修条件等	とくになし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション：企業経営においてコーポレート・ガバナンスがなぜ重要なのか						
2	株式会社の誕生：東インド会社の出現						
3	株式会社制度の特徴（1）：有限責任制、会社機関						
4	株式会社制度の特徴（2）：所有と経営の分離						
5	「法人」と株式会社						
6	コーポレート・ガバナンスの組織構造：株主総会、取締役会						
7	各国のコーポレート・ガバナンス（1）：米・独企業						
8	各国のコーポレート・ガバナンス（2）：日本企業						
9	各国のコーポレート・ガバナンス（3）：アジア（韓国、中国）企業						
10	代理人（エージェンシー）理論と信任						
11	コーポレート・ガバナンスの実際（1）：株主代表訴訟						
12	コーポレート・ガバナンスの実際（2）：取締役会と経営陣の関係						
13	日本企業のコーポレート・ガバナンス改革						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	70	筆記試験の出来具合に応じて評価する。			発表	30	課題発表の内容を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習：事前に指定された文献に目を通しておくこと。 事後学習：課題のレポート作成にしっかり取り組むこと。 				メールなどで常時対応する。			
教科書・テキスト	とくに指定しない。			受講生に望むこと	株式会社制度に関連する幅広い話題を用意するつもりである。授業時に紹介する関連文献をしっかりとレビューしてほしい。		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> 吉村典久（2007）『日本の企業統治』NTT出版 加護野忠男ほか（2010）『コーポレート・ガバナンスの経営学』ほか 			その他・特記事項	「知の冒険」に出かけよう！		

授業科目		セルフ・マネジメントと社会イノベーション					
担当教員	稲垣 聡一郎			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目は、「具体的な結果」をベースにしている。「望む結果を得るために、どのように自分をマネジメントすれば良いのか?」「パフォーマンスを発揮できる状態をどのように作り、リーダーシップを発揮するのか?」などの要素を、自分の内面や軸(思考レベルではなく、感情や身体感覚レベル)に向き合いながら、実践を通して習得していく。「自分の外にある人や環境を変える」アプローチではなく、「自分自身の内面や思考のクセ、感情・行動・結果の構造」を理解すること、意識的にそれらをシフトすることで、今までとは違う選択肢を生み出し、新たな行動・結果を生み出していく。				<p>ねらい:「望む結果を得るために、どのように自分をマネジメントすれば良いのか?」「パフォーマンスを発揮できる状態をどのように作り、リーダーシップを発揮するのか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情・思い込み・思考・行動・コミュニケーションのパターンに気づくことができる ・モノゴトに対して、今までとは違った見方をすることができる(視野が広がる・視座が高くなる) ・相手が考え、感じていることに気づくことができる(非言語メッセージや言葉に出ない文脈に気づくことができる) ・相手と深い関係性を築き、信頼関係を作ることができる ・集中力・注意力が増し、新たな情報をよりオープンに認識できる ・ストレスを軽減し、知的集中力を高めて課題と向き合える 			
キーワード	セルフマネジメント、ソーシャルイノベーション、リーダーシップ、マネジメント						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。ディスカッションやダイアログを通してを行う。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(授業の位置づけ、授業の進め方、グループ内で自己紹介)						
2	セルフマネジメントとは何か						
3	自分の今の状態を知る:身体・感情・マインド・意図						
4	セルフマネジメントの全体像						
5	ストレスとは何か?:恐れと疲労						
6	自分のストレスの状態を知り、ストレス状態からの脱却法を考える						
7	マネジメントの最小単位:Unit of Analysis						
8	人の意識と無意識:意識や注意を高めるためのポイント						
9	自分の状態を理解する:自分のパターンを知る						
10	自分の状態を理解する:自分のパターンを変えるための方法を考える						
11	マインドセット:Growth Mindset/Fixed Mindset						
12	新たな結果を生み出すための方法:選択肢を広げ結果を変えるために						
13	セルフマネジメントを日常に組み込むための方法を考える						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加貢献	30	基礎知識の理解度に応じて評価する。		各回のレポート	40	各回、実践結果のレポートを提出する。理解度に応じて評価する。	
最終レポート	30	授業終了後のレポート					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。 実践期間中の「うまくできたこと」「難しかったことやチャレンジ」「実践から学んだインサイト」をレポート1枚にして授業に持ち寄る 授業で学んだ内容をもとに、最終講義終了後にレポートを作成して提出する</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・メールでの質問も受け付ける(sit@transform-your-world.com)。 			
教科書・テキスト	ドラッカー・スクールのセルフマネジメント教室 Transform Your Results ISBN-10: 483342360X ISBN-13: 978-4833423601 出版社: プレジデント社			受講生に望むこと	毎回、実践期間で学んだレポートを作成し授業に臨むこと。 主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。また、授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		ソーシャルビジネス・プランニング					
担当教員	秋葉 芳江			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>はプランニング基礎編。レクチャーに加えて個人ワークとグループワークを組み合わせ、主体性、創造力および構想力を養う。ではプランニングの前提として持つべき“望ましい姿勢”を醸成する。事例からイメージを膨らませ、価値基準が貨幣価値だけではないことを理解し、マルチステークホルダーとの四方よしの関わり方を理解する。ビジネスで“きれいなこと”を言っよいた、ということを理解し、講義最後には、ビジネスアイデア素案（実現可能性は問わない）を1本作成しプレゼンテーションする。</p> <p>毎週2コマ連続での開講。開講曜日に注意。</p> <p>～通して、マイアイデアを元にスパイラルアップしながら、起業に必要な主要要素を履修し、の最終ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。</p> <p>担当教員は、民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師で起業家排出、およびソーシャル・イノベーションを創出する本学CSI運営を担っている。これら経験をふまえ、実践的な講義を行う。</p> <p>講義形式：対面を基本。第1講、第2講はオンライン確定（以降で状況によりオンラインとなる場合、同時双方向型（リアルタイムオンライン形式。通信環境の不測事態時は部分的オンデマンド代替））。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・プランニングの基本的なスキームを理解する ・社会課題を生まないビジネスの実際を理解する ・ビジネスアイデアの源泉を理解する ・ビジネスモデルの基本について理解する ・自らの発想によるビジネスアイデアを1つ作成する ・完全オンライン時代の知的コミュニケーションスキルの習得 ・コラボレーションマインドセットの習得 			
キーワード	アイデア創出、構想力、ビジネスモデル、SWOT、マネタイズ、SDGs						
教授方法	レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークとディスカッションを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。オンラインツールを多用し集合知の学びを推進する。講義は双方向型かつ反転型で行う。対面でも複数の各種オンラインツール使用を前提とする。（Office365、mentimeter、slido、zoom、Googleアプリ等。講義内で指示する）						
履修条件等	<p>二年次のキュレーター概論履修済を強く推奨する。キュレーター概論未履修者の履修も受け入れるが、より一層の熱意をもって履修すること。</p> <p>起業志向の学生は履修を強く推奨する。具体的な起業希望者はソーシャルビジネス・プランニング～通して履修することを強く推奨する。（～通して、起業に必要な主要要素を履修でき、ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。）</p> <p>履修希望者は、～のシラバス内容をよく確認すること。</p> <p>ソーシャルビジネス・プランニング～を連続で履修登録することを推奨するが、のみ、のみの履修希望者にも配慮する。履修登録期間中に相談されたい。</p> <p>なお、起業志向までいかずともアントレプレナーシップを実践的に身につけたい学生、および、組織の中で新事業創出に関わる実践力を身につけたい学生の履修も大いに歓迎する。</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。オンラインを含むコミュニケーションについて（4/15）【オンライン】						
2	ソーシャルビジネスのプランニングの基本的スキーム（4/15）【オンライン】						
3	社会課題を生まないビジネスとは（4/22）						
4	既存ソーシャルビジネス事例から考察し、一般ビジネスの社会化を考える（4/22）						
5	ビジネスアイデアの源泉（4/29）						
6	ビジネスアイデアの源泉（4/29）						
7	SDGsをビジネスアイデアに取り込む（5/6）						
8	ミニアイデアソン（5/6）						
9	ビジネスモデルとは（5/13）						
10	仮想のビジネスモデルを考える1（5/13）						
11	仮想のビジネスモデルを考える2（レビュー）（5/20）						
12	マネタイズを考える（5/20）						
13	アイデアプレゼンテーション（5/27）						
14	アイデアプレゼンテーション（続き）、まとめ（5/27）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
各回の成果物	50	適切に講義内容に取り組んでいること。理解度、積極性。コミュニケーションスキル。コラボレーションマインドセット。		最終アイデア表明	50	講義内容を踏まえていること、および、提案アイデアの源泉が明確なこと。	

授業外における学習（事前・事後学習等）		質問や相談への対応	
<p>毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。したがって事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索しておくこと。指定するオンラインドキュメント類等による学習。講義内容に応じて、ブレ宿題（事前学習成果）の提出あり。</p> <p>CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する（平日夜間開催）。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。</p> <p>持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外の機会を積極的に活用することを推奨する。</p>		<p>メールは随時受け付ける。予約の上でのオンラインまたは対面（後町キャンパス）での対応。</p> <p>特に起業志向の学生は上記による随時相談を大いに歓迎する。</p>	
教科書・テキスト	特になし	受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。 ・テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス（ノートPC、タブレット）は必須（困難な学生は事前に教務に相談）。オンライン講義の場合、PCでの参加を強く推奨（教務とよく相談されたい）。 ・履修登録期間中でも重要な内容が続くので、履修希望者は初回講義の冒頭から出席することを強く推奨する。 ・新しい学びスタイルを共に創り出していく意欲ある学生の履修を望む。
参考書・参考資料等	<p>「ビジネスモデル・ジェネレーション」アレックス・オスターワルダー他著、翔泳社、2012年</p> <p>上記のほか授業中に適宜参考書を紹介する。</p>		<p>その他・特記事項</p> <p>実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。ICT分野有資格。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。</p>

授業科目	ソーシャルビジネス・プランニング						
担当教員	秋葉 芳江			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>では、ソーシャルビジネスの形成過程を理解する。創業者が事業化に進む時の“スイッチ”はどこで押されるのか、事業原動力、継続モチベーションは何か、事例から理解する。ソーシャルビジネス事業が創業者の体験や価値観と深くつながっていること、事業における理念（哲学）の重要性を理解する。アイデアにテクノロジーを活用する具体および、サプライチェーンからの発想を理解する。受講を通じて、生き方が働き方とつながっていること、未来構想力がカギになることも理解する。最終的に、持続可能性を意識したビジネスアイデア素案にまとめそのピッチを行う。</p> <p>毎講義の冒頭で、前回講義に関する質問等へのフィードバックを行う。</p> <p>毎週2コマ連続での開講。開講曜日に注意。</p> <p>～通して、マイアイデアを元にスパイラルアップしながら、起業に必要な主要要素を履修し、～の最終ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。</p> <p>担当教員は、民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師で起業家排出、およびソーシャル・イノベーションを創出する本学CSI運営を担っている。これら経験をふまえ、実践的な講義を行う。</p> <p>講義形式：対面を基本。コロナ状況によってオンラインに変更となる場合には同時双方向型（リアルタイムオンライン形式。通信環境の不測事態時は部分的オンデマンド代替）</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアへのテクノロジー活用を理解する ・サプライチェーンを意識してビジネスを理解する ・収益化の基本について理解する ・未完成ながら持続可能ビジネスアイデアをピッチできるようになる ・社会環境の変化に適応してビジネスをシフトさせることを理解する ・完全オンライン時代の知的コミュニケーションスキルの習得 ・コラボレーションマインドセットの習得 			
キーワード	ビジネスモデル、経営理念、片付けるべき用事、サプライチェーン、サーキュラーエコノミー、アイデアプレスト、プログラミング、プレゼンテーションスキル						
教授方法	<p>レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークとディスカッションを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。オンラインツールを多用し集合知の学びを推進する。講義は双方向型かつ反転型で行う。</p> <p>対面でも複数の各種オンラインツール使用を前提とする。（Office365、mentimeter、slido、zoom、Googleアプリ等。講義内で指示する）</p>						
履修条件等	<p>二年次のキュレーター概論履修済を強く推奨する。キュレーター概論未履修者の履修も受け入れるが、より一層の熱意をもって履修すること。</p> <p>起業志向の学生は履修を強く推奨する。具体的な起業希望者はソーシャルビジネス・プランニング～通して履修することを強く推奨する。（～通して、起業に必要な主要要素を履修でき、～ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。）</p> <p>履修希望者は、～のシラバス内容をよく確認すること。</p> <p>ソーシャルビジネス・プランニング～を連続で履修登録することを推奨するが、～のみの履修希望者にも配慮する（必ず履修登録期間中に相談されたい）。</p> <p>なお、起業志向までいかずともアントレプレナーシップを実践的に身につけたい学生、および、組織の中で新事業創出に関わる実践力を身につけたい学生の履修も大いに歓迎する。</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。ソーシャルビジネスのプランニングの基本的スキーム復習。（6/10）						
2	起業家から学ぶ（事業動機、モチベーション、経営理念）。オンラインゲスト予定（6/10）						
3	生きた経営理念にするには（第2講を踏まえ）（6/17）						
4	仲間を集めるには。アイデアプレスト実践。（6/17）						
5	テクノロジー活用実習（簡易プログラミング）（6/24）						
6	テクノロジー活用実習（続き）。テクノロジーの最新動向を知る（6/24）*中間課題提示						
7	サプライチェーン、トレーサビリティを事例から理解する（7/1）						
8	サプライチェーンから“四方よし”を考える（7/1）						
9	利益を生む仕組みをデザインする（7/8）						
10	ビジネスをどこにシフトすれば幸福総和は増えるのか（7/8）						
11	プレゼンテーションスキルアップ（7/15）						
12	ビジネスアイデア再考 “愛”はあるか？（アイデアレビュー）、ピッチ準備（7/15）						
13	アイデアピッチ実施（7/22）						
14	まとめ（7/22）						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
毎回の成果物	40	事前学習（プレ宿題）を含めて積極的に講義内容に取り組んでいること。理解度。コミュニケーションスキル。コラボレーションマインドセット。			最終のアイデアピッチ&提	50	講義内容を踏まえていること、および、提案アイデアが新たな課題を生まないこと。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
中間課題	10	課題の指示を踏まえ、トライアンドエラーが実践できていること。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。したがって事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索してくる。指定するオンラインドキュメント類等による学習。講義内容に応じて、プレ宿題（事前学習成果）の提出あり。</p> <p>CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する（平日夜間開催）。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。</p> <p>持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外の機会を積極的に活用することを推奨する。</p>			<p>メールは随時受け付ける。予約の上でのオンラインまたは対面（後町キャンパス）での対応。特に起業志向の学生は上記による随時相談を大いに歓迎する。</p>		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。 ・テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス（ノートPC、タブレット）は必須（困難な学生は事前に教務に相談）。オンライン講義の場合、PCでの参加を強く推奨（教務とよく相談されたい）。 ・履修登録期間中でも重要な内容が続くので、履修希望者は初回講義の冒頭から出席することを強く推奨する。 ・新しい学びスタイルを共に創り出していく意欲ある学生の履修を望む。 	
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する			その他・特記事項	<p>実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。</p>

授業科目	ソーシャルビジネス・プランニング						
担当教員	秋葉 芳江			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>はプランニング実践編である。を履修済であることが望ましい。実務的な指導を含めて実際のプランニングに本格的に取り組む。レクチャーとワークから基本的なプランニング力を身につける。</p> <p>ではプランニングに必要な要素、事業化する際の実践的ポイントを理解する。模擬プランニングを行い、さらに“よいビジネス”にするにはどうすべきか机上検討し、グループ討議では視点の多様性の価値を理解する。激変する社会環境に適合しうるビジネスのつくりかたを学ぶ。</p> <p>と異なり、では実現可能性を含めて検討する。課題提出も増す。</p> <p>毎週2コマ連続での開講。開講曜日に注意。</p> <p>～通して、マイアイデアを元にスパイラルアップしながら、起業に必要な主要要素を履修し、の最終ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している。</p> <p>担当教員は、民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わり、自らも起業経験を有し、現在も各種起業塾講師で起業家排出、およびソーシャル・イノベーションを創出する本学CSI運営を担っている。これら経験をふまえ、実践的な講義を行う。</p> <p>講義形式：対面を基本。状況によって、オンライン同時双方向型（リアルタイムオンライン形式。通信環境の不測事態時は部分的オンデマンド代替）に変更する場合がある。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスモデル要素を深く理解する ・最新の社会動向を踏まえ、ビジネスを取り巻く実務要素を知る ・バックオフィスを理解してビジネス全体像をイメージできるようになる ・様々なテクノロジーの動向を理解しビジネスでの活用を理解する ・完全オンライン時代の知的コミュニケーションスキルの習得 ・コラボレーションマインドセットの習得 			
キーワード	Vision, Mission, Value, 顧客視点、バリュージャーニー、ビジネスモデルパターン、限界費用ゼロ、バックオフィス、知的財産、ゼブラ企業						
教授方法	レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークとディスカッションを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。オンラインツールを多用し集合知の学びを推進する。講義は双方向型かつ反転型で行う。対面でも複数の各種オンラインツール使用を前提とする。（Office365、mentimeter、slido、zoom、Googleアプリ等。講義内で指示する）						
履修条件等	<p>二年次のキュレーター概論履修済、ソーシャルビジネスプランニング 履修済を強く推奨する。</p> <p>起業志向の学生は、履修を強く推奨する。具体的な起業希望者はソーシャルビジネス・プランニング ～通して履修することを強く推奨する。（～通して、起業に必要な主要な要素を履修でき、ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している）</p> <p>履修希望者は、～のシラバス内容をよく確認すること。</p> <p>ソーシャルビジネス・プランニングを履修せずのみの履修も可能。</p> <p>なお、起業志向までいかずともアントレプレナーシップを実践的に身につけたい学生、および、組織の中で新事業創出に関わる実践力を身につけたい学生の履修も大いに歓迎する。</p>						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。ソーシャルビジネス・プランニング ～ 確認。（9/30）						
2	起業者から学ぶ（事業立ち上げの実際、プライシング等）（ゲスト予定）（9/30）						
3	マイビジネスのvalueと顧客との関係を考える（10/7）						
4	パターンを手掛かりにマイビジネスモデル検討（10/7）						
5	グローバル視点で持続可能なビジネスを捉える（10/14）						
6	最新の海外事例からヒントを探る（ドイツとの中継を予定。ドイツのソーシャルビジネス）（10/14）						
7	テクノロジー活用実習（10/21）						
8	テクノロジー活用実習（10/21）*中間課題提示						
9	限界費用ゼロ社会でのビジネスを考える（10/28）						
10	起業で意識すべき法律、知財、組織（10/28）						
11	ビジネスを支える”バックオフィス”を知る（ゲスト予定）（11/4）						
12	マイビジネスレビュー（11/4）						
13	起業における動向と諸情報（税、ポートフォリオ、ゼブラ企業、等。その他、履修生プランに応じて）（11/11）						
14	まとめディスカッション=そのアイデアは未来をどう変えるのか=（11/11）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
毎回のブレ宿題・成果物と	40	適切に講義内容に取り組んでいること。理解度。積極性。	中間課題	10	指示するテクノロジーをアイデアに活用していること		
提案ドキュメント	50	講義内容、まとめディスカッションを踏まえていること、および、アイデアの世界観が示されていること。					

授業外における学習（事前・事後学習等）		質問や相談への対応	
<p>ほぼ毎回ブレ宿題（事前学習成果）の提出あり。 毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。 したがって事前学習として次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考、探索しておくこと。指定するオンラインドキュメント類等による学習。 CSI主催「公開講座」「経営者トークライブ」「コラボ公開講座」等への参加を推奨する（平日夜間開催）。参加によってより理解が深まる。開催情報はCSI公式Facebookページ掲載。 持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外の機会を積極的に活用することを推奨する。</p>		<p>メールは随時受け付ける。予約の上でのオンラインまたは対面（後町キャンパス）での対応。 特に起業志向の学生は上記による随時相談を大いに歓迎する。履修登録時点で具体的な事業プランや希望がある学生は、個別相談に応じる。</p>	
教科書・テキスト	特になし	受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある。 ・テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス（ノートPC、タブレット）は必須（困難な学生は事前に教務に相談）。オンライン講義の場合、PCでの参加を強く推奨（教務とよく相談されたい）。 ・履修登録期間中でも重要な内容が続くので、履修希望者は初回講義の冒頭から出席することを強く推奨する。 ・新しい学びスタイルを共に創り出していく意欲ある学生の履修を望む。
参考書・参考資料等	<p>「2030年の世界地図帳」落合陽一著、SBクリエイティブ、2019年 「ビジネスモデル・ジェネレーション」アレックス・オスターワルド著、翔泳社、2012年 その他、授業中に適宜参考書を紹介する</p>		<p>実務経験：民間セクターにおいて30年以上価値創出に現場で携わる。自らもソーシャルビジネス起業経験を有す。各種起業塾講師、持続可能経営志向の創業支援多数。</p>
		その他・特記事項	

授業科目	ソーシャルビジネス・プランニング						
担当教員	秋葉 芳江			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>では、～の集大成としてマイプランを仕上げる。ライフプランも並行させ、なりたい自身の姿を投影したビジネスプランニングの実務を含む指導を行う。プランは仮想でも可。各自プランの相互ブラッシュアップを重ね、最終成果として、持続可能なプランに集大成させ、シードマネー獲得挑戦を想定したプレゼンテーションを実施する。途中、プロトタイプ実施を推奨。</p> <p>受講を通じて、生き方と働き方を乖離させないことを具体的に理解し、一歩踏み出す自信、挑戦する楽しみも知る。講義終了後に具体的事業化を希望する学生には、引き続きCSIで創業実務を含めて支援することが可能。長野県立大学発ベンチャー支援制度活用も支援可。</p> <p>激変する社会環境に適合しうるビジネスのつくりかたを学ぶ。</p> <p>学生起業希望者も履修生に想定するので、は事前・事後課題も多く、まで以上に一層実践的で負荷ある講義である。</p> <p>毎週2コマ連続での開講。開講曜日に注意。</p> <p>講義形式：対面を基本。状況によって、オンライン同時双方向型（リアルタイムオンライン形式。通信環境の不測事態時は部分的オンデマンド代替）に変更となる場合がある。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能なビジネスを、未来構想型で自ら構築できる ・生き方と働き方（仕事）を乖離させないプランニングができる ・アントレプレナーシップを身につける ・完全オンライン時代の、知的コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルの習得 ・コラボレーションマインドセットの習得 			
キーワード	持続可能ビジネスプラン、事業計画書、価値循環、資金調達、創業実務、プレゼンテーション						
教授方法	<p>レクチャー、思考、対話・討論、発見、を講義時間の中で繰り返す。ワークとディスカッションを多用する。レクチャーは各回のテーマに沿った実践的レクチャーである。履修期間を通じてアイデアレビューを繰り返す。オンラインツールを多用し集合知の学びを推進する。講義は双方向型かつ反転型で行う。対面でも複数の各種オンラインツール使用を前提とする。（Office365、mentimeter、slido、zoom、Googleアプリ等。講義内で指示する）</p>						
履修条件等	<p>二年次のキュレーター概論履修済、ソーシャルビジネスプランニング履修済を強く推奨する。起業志向の学生は、履修を強く推奨する。具体的な起業希望者はソーシャルビジネス・プランニング～を通して履修することを強く推奨する（～を通して、起業に必要な主要な要素を履修でき、～ではシードマネー獲得挑戦段階まで到達することを想定している）。</p> <p>履修希望者は、～のシラバス内容をよく確認すること。なお、起業志向までいかずともアントレプレナーシップを実践的に身につけたい学生、および、組織の中で新事業創出に関わる実践力を身につけたい学生の履修も大いに歓迎する。</p>						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。講義概要と進め方、到達点、評価方法。マイアイデアレビュー（11/25）						
2	シードマネー獲得プレゼンテーションについて（11/25）						
3	プレゼンテーション実践トレーニング（12/2）						
4	”事業計画書”の機能（12/2）						
5	徹底討論「ビジネスを通じた地域社会への貢献とは何か」（12/9）						
6	提供価値を可視化する（プロトタイプ）。無形資産とは。（12/9）						
7	マイビジネスの価値循環を考える（12/16）						
8	資金調達、ビジネスにおける”人財”（12/16）						
9	創業実務（人格選択、創業、登記、企業内ベンチャー等）（12/23）						
10	事業計画書の作成ポイント（12/23）						
11	プロトタイプテストレビュー。事業計画レビュー（マンツーマン指導含む）（1/6）						
12	プロトタイプテストレビュー。事業計画レビュー（マンツーマン指導含む）（1/6）						
13	ファイナルプレゼンテーション（1/13）						
14	全員ディスカッション、まとめ「work as life で生きていく」（1/13）						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
<p>プレ宿題・成果物と講義参加</p>	40	適切に講義内容に取り組んでいること。課題提出状況。理解度。積極性。			<p>ファイナルビジネスプラン</p>	60	<p>講義内容を踏まえていること、持続可能なビジネスであること、プラン内容が自分自身と乖離していないこと、アントレプレナーシップがあること、プレ</p>
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>毎回、プレ宿題（事前学習成果）の提出と事後課題あり。 まで以上に多くの課題がある。 毎回の講義の時間は、自らのプランを磨き上げていくステップとして使うこと。 各自のプランブラッシュアップのために、講義時間外に、オンライン個別相談を設ける。有効に活用すること。 持続可能経営に取り組む経営者の生の知見に触れる学外の機会を、積極的に活用することを推奨する。</p>		<p>メールは随時受け付ける。予約の上でのオンラインまたは対面（後町キャンパス）での対応。 特に起業志向の学生は上記による随時相談を大いに歓迎する。</p>	
教科書・テキスト	特になし	受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・講義には集中して臨むこと。他の履修生や講義進行に支障する者は即座に退席を指示することがある ・テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にオンラインデバイス(ノートPC、タブレット)は必須(困難な学生は事前に教務に相談)。オンライン講義の場合、PCでの参加を強く推奨(教務とよく相談されたい)。 ・履修登録期間中でも重要な内容が続くので、履修希望者は初回講義の冒頭から出席することを強く推奨する。 ・新しい学びスタイルを共に創り出していく意欲ある学生の履修を望む。
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。		その他・特記事項

授業科目		コミュニティ・デザイン（各論）					
担当教員	由井 真波			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル人材	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>ソーシャルな課題を、人々の繋がり・関係性に着目し、自分ごとに引きつけ、解決へとアプローチする「コミュニティデザイン」的な思考力を身に付ける。講義と、グループワークによる体験学習を行う。</p> <p>授業で紹介する事例や活用する手法・ツールは、地域の現場で多様な主体者とともにデザインプロジェクトを推進してきた、講師による実例を素材とする。</p> <p>：地縁型やテーマ型などコミュニティの多様なフィールドと、コミュニティデザインの実践例を知る ：の事例をもとにコミュニティデザインの構造を知り、実際の現場で用いられる手法（フィールドワーク、ワークショップなど）を知る ：身近なコミュニティでの体験をもとに考察する ：の手法の一部を実践する</p>				<p>実社会の多様なコミュニティを構成する人々に注目し、背景にある思いや相互の働きかけを見つけ出し、視覚的に記述することができる。</p> <p>人々の活動を活性化し、コミュニティの「場」のあり方について自身なりの具体的な見解を示せる。</p> <p>コミュニティデザインの基礎スキルである、他者との創造的な対話に係る基本的な技術を身につける。</p>			
キーワード	コミュニティデザイン、共創、フィールドワーク、ビジュアライズ						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時グループワークを行う。また、学外へのフィールドワークを行う。						
履修条件等	特になし						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	集中1日め：授業の位置付け、進め方について理解する。コミュニティデザインの概要について知る。						
2	集中1日め：実例をもとにコミュニティデザインのプロセスについて理解する。						
3	集中1日め：ワークシートを用い、現実のコミュニティにおける人々の関係性に注目する。						
4	集中1日め：グループワーク（ワークシートの作成とシェア）						
5	集中2日め：グループワーク（寮・ほか身近なコミュニティでの体験から） 適宜講義を交える。						
6	集中2日め：グループワーク（寮・ほか身近なコミュニティでの体験から） 適宜講義を交える。						
7	集中2日め：グループワーク（三輪でのコミュニティ体験から） 適宜講義を交える。						
8	集中3日め：フィールドワーク（まち歩き）						
9	集中3日め：フィールドワーク（まち歩き）						
10	集中3日め：フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。						
11	集中3日め：フィールドワークをもとにコミュニティ視点から現場の状況と課題をまとめる。						
12	集中4日め：発表の準備を行う。						
13	集中4日め：発表と意見交換						
14	集中4日め：まとめ・振り返りと最終レポート作成						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	70	授業内で使用するワークシートやコメントシートの提出状況や成果に応じて評価する。（40%） 最終レポートにて、コミュニティデザイン的な思		上記以外の授業評価	30	授業内のグループワークほか共創への参加と貢献に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>自身がこれまで関わってきた、異なる「コミュニティ」を意識し、その特徴や違いをイメージしておく（血縁や地縁によるコミュニティ、寮生活のコミュニティ、ほかアルバイト先など自身が経験したコミュニティなど）</p> <p>履修生には、簡単な事前課題（画像データ集めなど）と準備物を別途連絡する。 1,2,3日めとも、次の授業日までの課題を課すため課外時間の確保を願う。</p>				<p>・質問は、原則として授業中や授業の前後に受け付ける。</p> <p>・フォームを優先的に活用する。</p> <p>・初回授業以降、予備的に、メールでの質問も受け付ける。（アドレスは初回授業時に紹介）</p>			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	<p>毎回、ノートPCなどオンラインワークショップが可能なツールおよび環境を各自用意のこと。</p> <p>その他、ワークに必要なツールは事前課題案内時に紹介、各自用意のこと。（ふせんやマーカー、ワークシートの出力、アプリなど）</p>		
参考書・参考資料等	講座内で適宜資料配付、参考書の紹介を行う。			その他・特記事項	<p>受講は20名程度まで。希望者多数の場合は抽選を行う。</p> <p>フィールドワークの受け入れ先との調整により、授業の進行は変更することがあり、授業内で案内する。</p> <p>授業進行補助（TA）を受講生内外より募る。 全14回を土・日を中心とした4日に分けて実施する。</p>		



授業科目		コミュニティ・デザイン（各論）					
担当教員	由井 真波			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>地域における身近なコミュニティをフィールドとして、現実の課題解決に向け、自分ごととして実践する「コミュニティデザイン」的な行動力を身に付けることを目標とする。フィールドワークを中心に、グループワークによる体験学習を行う。</p> <p>授業で紹介する事例や活用する手法・ツールは、地域の現場で多様な主体者とともにデザインプロジェクトを推進してきた、講師による実例を素材とする。</p> <p>：フィールドワーク、ヒアリングをもとに、県立大が位置する身近な地域のコミュニティにおける課題を発見する ：課題を設定し、解決へ向け、ワークショップを経て提案する ：の提案の一部をデザイン手法を用いて実験的に実施する（プロトタイピング） ：を通してコミュニケーション力を高める</p>				<p>身近なコミュニティが抱える課題の中から、適正規模かつ具体的なイシューを設定することができる。</p> <p>イシューに対し、「自分ごと」としての具体的な提案を行うことができる。</p> <p>。提案の一部を具体的にプロトタイピングすることができる。</p> <p>コミュニティデザインの基礎スキルである、他者とともに創案し表現する基本的な技術を身につける。</p>			
キーワード	コミュニティデザイン、共創、フィールドワーク、プロジェクト、実践						
教授方法	演習形式。グループワークにより進行し、適宜学外へのフィールドワークを行う。						
履修条件等	（必須ではないが）2学期開講の「コミュニティデザイン各論I」を受講していることが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	集中1日め：授業の位置付け、進め方について理解する。コミュニティデザインの実践に求められる態度を知る。						
2	集中1日め：コミュニティデザイン各論Iの成果から、地域の現状と関係性を知る。						
3	集中1日め：フィールドワーク（まち歩き）						
4	集中1日め：グループワーク（身近なコミュニティの課題整理とテーマ検討）						
5	集中2日め：フィールドワーク（まち歩き）						
6	集中2日め：グループワーク（現状共有とイシュー検討）						
7	集中2日め：グループワーク（提案の方向性検討）						
8	集中3日め：フィールドワーク（イシューを想定したまち歩き）						
9	集中3日め：グループワーク（提案作成：プロトタイピング含む）						
10	集中3日め：グループワーク（提案作成：プロトタイピング含む）						
11	集中3日め：グループワーク（提案作成：プロトタイピング含む）						
12	集中4日め：発表の準備を行う。						
13	集中4日め：発表と意見交換						
14	集中4日め：まとめ・振り返りと最終レポート作成						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	70	授業内で使用するワークシートやコメントシートの提出状況や成果に応じて評価する。（40%） 最終レポートにて、コミュニティデザイン的な提			上記以外の授業評価	30	授業内のグループワークほか共創への参加と貢献に応じて評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>日頃、人々の活動を相互に活性化させる取り組みやプロジェクトとその仕組みについて注目しておく。</p> <p>「自分ごと」として身近なコミュニティで実践してみたいアイデアを意識しておく。</p> <p>履修生には、簡単な事前課題（情報キャッチアップなど）と準備物を別途連絡する。</p> <p>4日間でプロトタイピングまでおこなうため課外時間の確保を願う。</p>				<p>・質問は、原則として授業中や授業の前後に受け付ける。</p> <p>・フォームを優先的に活用する。</p> <p>・初回授業以降、予備的に、メールでの質問も受け付ける。（アドレシは初回授業時に紹介）</p>			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	<p>毎回、ノートPCなどオンラインワークショップが可能なツールおよび環境を各自用意のこと。</p> <p>その他、ワークに必要なツールは事前課題案内時に紹介、各自用意のこと。（ふせんやマーカー、ワークシートの出力、アプリなど）</p> <p>プロトタイピングに必要な材料等は各自用意のこと。（提案内容次第）</p>		
参考書・参考資料等	講座内で適宜資料配付、参考書の紹介を行う。			その他・特記事項	<p>受講は15名程度まで。希望者多数の場合は抽選を行う。</p> <p>フィールドワークの受け入れ先との調整により、授業の進行は変更することがあり、授業内で案内する。</p>		

受講は15名程度まで。希望者多数の場合は抽選を行う。
フィールドワークの受け入れ先との調整により、授業の進行は変更することがあり、授業内で案内する。

授業科目	マーケティングリサーチ						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>近年の企業経営では、大企業はもとより中小企業であっても、実証的なデータを取得・分析し、その結果に基づき意思決定を行なおうとする動きが加速しており、調査・分析にかかわる知識やスキルがビジネスパーソンに強く求められるようになってきている。本授業では実証的な手法の中でも特に定量的な調査手法に重点を置き、その知識とスキルの習得を目指す。講義中心であるが実際の調査票を比較したり、標本サイズを算出してサンプリングを実施したりするなど、適宜、実習的な要素を取り入れる。また、実際に企業で行われた調査について取り上げ、意図や問題点を考察するなど、実務の世界でいかに適用するか、という実践的な視点を重視する。なお、ここで得られる知識やスキルは主張（提案）の強力な根拠となるものであり、実証研究にもそのまま活かすことができる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査手法の特徴を理解し、目的に合った調査手法を正しく選択することができる。 ・各種調査手法を実際に用いて、必要なデータを入手することができる。 			
キーワード	マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ						
教授方法	PowerPointを利用して講義形式で行なう。配布資料は指定した共有フォルダにアップする。配布資料に定義や細かな表などは載せているので、授業中は全体の概要をおさえつつ、何が重要なのかを考える。授業では事例を多く提示するとともに、積極的に履修者にも具体例を考えてもらう時間をとり、抽象的な概念をできるだけ具体化できるように支援する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、調査・分析のための基礎知識						
2	調査手法とデータの分類						
3	質問法（測定と尺度）						
4	質問法（構成概念と妥当性）						
5	質問法（調査票の作成）						
6	質問法（調査票の作成）						
7	質問法（標本抽出）						
8	質問法（標本抽出）						
9	質問法（標本サイズの決定）						
10	質問法（データ収集）						
11	実験法						
12	投影法						
13	面接法						
14	観察法						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	100	授業で学んだ知識を、実際の調査計画や調査票にどれだけ適用できるかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業後には配布資料を用いて授業内容を復習する。				授業中の質問はチャットで随時受け付けている（たいていの質問はその場ですぐに回答する）。また、授業後しばらくzoomに残っているので直接質問することもできるし、メールでの質問も随時受け付けている。			
教科書・テキスト	教科書は使わず、毎回資料を配布する。			受講生に望むこと	授業で扱われたトピックについて、日々の生活の中で実例を探すこと。		
参考書・参考資料等	授業の中で参考文献の一覧を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	マーケティング論						
担当教員	今村 英明			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	消費者行動論						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本授業は心理学や社会学、経済学など複数の学問領域の知見を適宜利用しながら、購買意思決定を行う消費者について深く理解することを目的とする。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の購買意思決定に影響を及ぼす内的要因と外的要因について理解し、情報処理や意思決定のメカニズムを説明することができる。 ・抽象的な効果や理論を実際の具体的な事例で置き換えることができる。 			
キーワード	マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ						
教授方法	授業はPowerPointを利用して講義形式で行なう。配布資料に定義や細かな表などはすべて載せているので、授業中は全体の概要をおさえたいうえで、何が重要なのかを考える。授業では事例を多く提示するとともに、積極的に履修者にも具体例を考えてもらう時間をとり、抽象的な概念をできるだけ具体化できるように支援する。						
履修条件等	特に条件はないが、マーケティングの諸科目と関連性が深いので、特に「マーケティング入門」、「マーケティングリサーチ」を履修しておくことが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、消費者行動論とは						
2	消費者行動研究の変遷						
3	知覚						
4	認知						
5	関与・動機づけ・学習						
6	態度						
7	評価						
8	個人・他者・集団						
9	社会・文化・コミュニケーション						
10	消費者タイプの分類						
11	合理的な意思決定						
12	意思決定の方略						
13	消費者タイプの分類						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	100	授業で学んだ知識をオリジナリティの高い事例にどれだけ適用できているかを問う複数回のレポートを通して、努力量と理解度を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
複数回のレポートがあり、授業で取り上げたトピックについて具体例を考えることで理解を深めてもらう。				授業中の質問はチャットで随時受け付けている（たいいていの質問はその場ですぐに回答する）。また、授業後しばらくzoomに残っているので直接質問することもできるし、メールでの質問も随時受け付けている。			
教科書・テキスト	教科書は使わず、毎回資料を配布する。			受講生に望むこと	授業で扱われたトピックについて、日々の生活の中で実例を探すこと。		
参考書・参考資料等	授業の中で参考文献の一覧を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		簿記システム論					
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>アカウントिंगが対象とするのは、企業のビジネス活動を資金の面からとらえて、これを記録し、その顛末を利害関係者（ステークホルダー）に会計情報として報告する一連のプロセスである。会計情報がどのように作成され報告されるかによって、その後の企業行動や利害関係者の行動に影響を受け、その結果、マクロ経済上のパラメータも動かされるため、アカウントINGはとても重要な役割を担っている。本講義では、アカウントINGを支える複式簿記について学ぶ。</p>				<p>講義では、次の二つの目標を設定する。 複式簿記の思考と技法を身につけること 財務諸表の構造等に関する基本事項を学習し理解すること</p>			
キーワード	複式記入 5要素 仕訳 転記 試算表 精算表						
教授方法	オンライン（木曜日のみリアルタイムによる講義、その他はオンデマンドによる音声解説付きパワーポイントファイルの配信）で実施します。						
履修条件等	アカウントING入門を履修済みであること（単位習得の可否は問わない）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	簿記一巡のプロセス						
2	現金預金取引 学習事項：現金預金取引、現金勘定、現金過不足、現金出納帳、						
3	現金預金取引 学習事項：当座預金、当座借越契約、当座預金出納帳、小口現金						
4	商品売買取引 学習事項：商品売買取引、取得と売却の会計処理、保有中の会計処理、						
5	商品売買取引 学習事項：商品有高帳、売上原価の計算						
6	手形取引 学習事項：手形、手形の会計処理、受取手形記入帳と支払手形記入帳、金融手形の会計処理						
7	その他の債権・債務 学習事項：貸付金・借入金、未収入金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、						
8	債権の回収と貸倒れ 学習事項：売上債権の性質、クレジット売掛金、貸倒れの発生と見積り、貸倒引当金の会計処理、						
9	有価証券の取引 学習事項：有価証券の分類、有価証券の会計処理、有価証券の区分と会計処理						
10	固定資産の取引 学習事項：固定資産の分類、有形固定資産の会計処理、無形固定資産の会計処理						
11	費用・収益 学習事項：費用収益の見越しと繰延べ、経過勘定の分類、費用の繰延べ、収益の繰延べ、費用の見越し、						
12	純資産と税金 学習事項：純資産の概念、個人企業の資本金勘定、個人企業の税金、株式会社の純資産、株式会社の税金						
13	決算 学習事項：決算情報のニーズ、決算予備手続き、決算本手続き、財務諸表の作成						
14	総合演習						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
スモール タスク	40	評価基準：前回学習した内容について定着度合いを評価します。			期末レポ ート	60	レポートにより理解度・習熟度等を評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストを一読してから毎回受講し、その日のうちにすぐ復習し身に付けるよう心がけること。また、企業が公表する各種情報にも日常から関心を持つこと。				方法等についてはポータルサイトでお知らせする。			
教科書・ テキスト	中村文彦『簿記の思考と技法』森山書店。			受講生に 望むこと	主体的に学習に取り組むこと		
参考書・ 参考資料等	資料についてはポータルサイトで配布方法等をお知らせします。			その他・ 特記事項	特になし。		

授業科目		管理会計					
担当教員	衣川 修平			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>主に製造業において、製品を作る場合、製品の種類も多種多様であり、製造工程も複雑であり、またヒトやモノも複数の製品や複数の工程、部門に複雑に関与しています。中、上級の工業簿記では、このような複雑性に対応した、工業簿記システムを構築することで、会計数値の側面から、コントロールとマネジメントを試みます。本講義では、これらの中、上級の工業簿記の計算システムを、問題演習によって実際に電卓をたたいて計算しながら、身につけていくものとします。</p> <p>原価計算入門に引き続き、本講義でも、電卓を叩いて、叩いて、叩きまくりませう。勇者は雄々しく剣で戦うが、賢者は電卓で戦う。</p>				<p>本講義では、企業会計で学んだ初等工業簿記の知識を前提として、中・上級の工業簿記を学ぶ。中・上級の工業簿記を学ぶことによって、主に製造業における生産活動のコントロールと、その組織をマネジメントするための実践的な能力を身につけるものとします。</p>			
キーワード	マネジメントアカウンティング、コスト、配賦						
教授方法	講義。随時、電卓を使った問題演習を行います。						
履修条件等	原価計算入門を履修していること、ないし原価計算の基礎を習得している者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	工業簿記の現代的意義とその歴史的展開						
第2回	単純個別計算						
第3回	部門別個別計算						
第4回	単純総合計算						
第5回	工程別総合計算						
第6回	組別総合原価計算						
第7回	個別原価計算						
第8回	標準原価計算						
第9回	工程別標準原価計算						
第10回	標準原価差異						
第11回	CVP分析						
第12回	直接原価計算						
第13回	品質原価計算						
第14回	セグメント別損益計算						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
正規試験（筆記）	80	定期試験では点数で評価したうえで、講義全体の理解度を勘案して評価する。			小テスト	20	講義内容を修得したかどうか、3回に一度ほど、小テストを行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
問題集を指定するので、それを解いてください。				講義中にオフィスアワーを指定します。メールでの質問も随時受け付けます。			
教科書・テキスト	随時指定します。			受講生に望むこと	会計科目は問題を解かない限り身に付きません。一緒に電卓をたたきまくりませう。		
参考書・参考資料等	岡本清著『原価計算』国元書房 廣本敏郎・挽文字著『原価計算論』中央経済社 岡本清・廣本敏郎（編集）『検定簿記ワークブック/1級工業簿記・原価計算（上・下）』中央経済社			その他・特記事項	Email: kinugawa.shuhei u-nagano.ac.jp		

授業科目		管理会計					
担当教員	衣川 修平			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>数万人の従業員と数百の関連・子会社を抱える企業の現状を把握し、経営戦略を練るにはどうした良いか。ある事業部を統廃合するときの意志決定。従業員のボーナスを決める評価。製品を作るときどの製造計画。これらのことを行うには、「測定ツール」が必要である。測定ツールにより、数値による計量化を行うことで、今まで見えなかったものが、見るようになり、私たちはマネジメントの羅針盤を手に入れることができる。その測定ツールの代表的なものが管理会計である。管理会計は、歴史的には、製造の多工程化により、社内取引が増え、コスト管理の必要に迫られて登場してきたものである。よって組織の複雑化という問題を解くのに、管理会計は非常に相性の良い学問である。本講義では、より経営学と融合した形で管理会計を学ぶものとする。</p>				<p>管理会計はmanagement accountingと英語では記され、経営のための会計と解される。管理会計では計算を多く行い、原価計算の技法を身に付ける事を目標としたが、本講義では、それらを用いて、どのように組織をマネジメントすればよいか、事例研究を取り上げながら、身につけてゆくものとする。</p>			
キーワード	マネジメントアカウンティング、組織の複雑化、測定、業績評価						
教授方法	講義形式						
履修条件等	管理会計、特に原価計算入門の履修が望ましい						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	管理会計の基礎：組織、マネジメント、管理会計						
2	経営戦略とその戦略決定としての長期利益会計						
3	プロダクトポートフォリオと会計情報						
4	戦略計画としての原価企画						
5	CVP分析						
6	限界利益分析						
7	組織と会計：事業部制会計						
8	購買・生産・販売管理会計						
9	部門別業績管理システム						
10	非財務情報とバランススコアカード						
11	事例研究：トヨタシステム						
12	事例研究 京セラアーマーバ 会計						
13	管理会計の歴史的展開						
14	日本の管理会計とグローバル化						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60	点数で評価し、小テスト・授業レポートを加点したうえで、講義全体の理解度を、1完全に理解した。2おおむね理解した。3いくつかを理解した。4あまり		小テスト	20	講義内容を修得したかどうか、3回に一度ほど、小テストを行う。評価基準は1完全に理解した。2おおむね理解した。3いくつかを理解した。4あまり理解し	
授業レポート	20	自分で企業を選んで財務分析を行う課題を1回出す。評価基準は1完全に理解した。2おおむね理解した。3いくつかを理解した。4あまり理解していない。を					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
宿題などを通じて計算問題を解くのが望ましい。				講義の前後、第1回にオフィスアワーを指定する。			
教科書・テキスト	上總康行著『ケースブック管理会計』新世社 金子智朗著『ケースで学ぶ管理会計 - ビジネスの成功と失敗の裏には管理会計の優劣がある -』同文館出版			受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	財務会計入門						
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメン	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>企業は、ビジネス活動を財務数値により捉え要約情報へと変換し、それをディスクロージャー制度を通じて、効率的・効果的にステークホルダーに供給します。一方、各ステークホルダーは、経済的な意思決定を行うために、財務情報の需要者となり、自己の利害を極大化しよう行動しようします。本講義では、財務情報に対する需給活動を適正に行うために必要となる会計ルールを考察する「財務会計」という会計領域に焦点を当て、その基礎理論を学習します。</p>				財務会計の理論と会計処理の基礎を習得することが基本目標です。			
キーワード	財務会計 会計情報 ステークホルダー 利益操作 会計ルール						
教授方法	オンライン（木曜日のみリアルタイムによる講義、オンデマンドによる音声解説付きパワーポイントファイルの配信）で実施する。						
履修条件等	アカウントング入門を履修していることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	財務会計の視点 学習事項：財務会計とは？、各種ステークホルダーとそれぞれの利害						
2	会計によるビジネス活動の描写と利益計算 学習事項：資金循環活動の描写、資金調達活動の会計描写、投下運用活動の会計描写、販売回収活動の会計描写						
3	会計に対する規制（会計基準と法規制） 学習事項：利益操作という問題、利益計算ルールへの規制の視点、会計原則と会計基準、制度会計（会社法会計、						
4	資金調達活動の会計（1）出資者からの資金調達 学習事項：会社の諸形態、会社の設立と会計処理、企業の資金調達と会計処理（1）自己資本による調達						
5	資金調達活動の会計（2）出資者以外からの資金調達 学習事項：企業の資金調達と会計処理（2）他人資本による調達（借入金、社債）						
6	投下運用・生産活動の会計（1）仕入活動と諸経費の会計処理 学習事項：商品等の仕入活動、材料等の仕入れと製造課程の記帳、人材の雇用と人件費の処理						
7	投下運用・生産活動の会計（2）設備投資と研究開発、生産活動 学習事項：固定資産への設備投資の会計処理、減価償却、減耗償却、減損会計、研究開発と無形資産の会計処理						
8	販売活動の会計 学習事項：販売の記録と売上原価の計算、売上代金の回収						
9	設備投資と研究開発 学習事項：企業における固定資産、固定資産の取得原価、減価償却、固定資産の減損						
10	設備投資と研究開発 学習事項：企業における研究開発活動、研究開発と無形固定資産、設備投資・研究開発と財務諸表						
11	税金と配当 学習事項：税金の種類、課税所得、確定決算主義、配当制限と債権者保護						
12	財務諸表の作成と見方 学習事項：財務諸表の体系、ディスクロージャー制度、各財務表の基本内容						
13	財務諸表分析 学習事項：財務諸表分析の視点と方法、収益性の分析、安全性の分析						
14	学習のまとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	30	前回学習した内容について定着度合いを評価する。		期末テストまたはレポート	40	期末試験の場合は講義全体の学習内容について試験を行い、理解度・習熟度等を評価する。期末レポートの場合は、授業の理解度やテーマの理	
スモールタスク	30	授業内容に関する簡単な演習を行い、メールで指定アドレスに送信することで提出する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストを一読してから毎回受講し、学習したことはその日のうちにすぐ復習し身に付けるよう心がけること。また、企業が公表する各種情報にも日常から関心を持つこと。				方法等については、ポータルサイトでお知らせする。			
教科書・テキスト	授業時に指定する。			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	オンデマンド教材等の配布物については、最初の講義およびポータルサイトでお知らせします。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		財務会計論					
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>企業は、ビジネス活動を財務数値により捉え要約情報へと変換し、それをディスクロージャー制度を通じて、効率的・効果的にステークホルダーに供給します。一方、各ステークホルダーは、経済的な意思決定を行うために、財務情報の需要者となり、自己の利害を極大化しよう行動しようします。本講義では、財務情報に対する需給活動を適正に行うために必要となる会計ルールを考察する「財務会計」という会計領域に焦点を当て、その中級レベルの理論と会計処理を学習します。</p>				<p>財務会計の理論と会計処理の中級レベルのスキルを習得することが基本目標です。</p>			
キーワード	会計基準 制度会計 財務諸表の構成要素 ディスクロージャー						
教授方法	オンライン（木曜日のみリアルタイムによる講義、そのほかに、オンデマンドによる音声解説付きパワーポイントファイルの配信）で実施します。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ディスクロージャーの意義と種類 学習事項：ディスクロージャーの意義、会計情報の内容と範囲（定量的情報と定性的情報、基本財務諸表と補足情報その他の外部情報）、						
2	損益計算の仕組み 学習事項：損益計算の基本原則と財務諸表、フローに基づく損益計算のルール、ストックに基づく損益計算のルールと資本維持概念						
3	損益計算の基本思考 学習事項：損益計算の前提（会計公準）、会計ルールにおける損益計算の基本思考（財産法と損益法、棚卸法と誘導法、資産負債アプローチと						
4	キャッシュ・フロー情報の必要性 学習事項：キャッシュ・フロー情報の必要性、キャッシュフロー計算書の区分表示、キャッシュフロー計算書の作成方法						
5	会計ルールの設定システム 学習事項：会計ルール設定の重要性（会計の機能）、会計基準の設定プロセス、会計基準設定の2つのアプローチ、基準設定主体の性質と						
6	資産会計 学習事項：資産会計の意義、資産の分類、流動資産（当座資産、棚卸資産、その他の流動資産）の処理と表示、						
7	資産会計 学習事項：固定資産（有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産）の処理と表示、無形資産の処理と表示、繰延資産の処理と表示						
8	負債会計 学習事項：負債会計の意義、負債の分類と負債性引当金、流動負債の処理と表示						
9	負債会計 学習事項：固定負債の処理と表示、リース債権・債務の会計						
10	純資産会計 学習事項：純資産の部の構成、株主資本に関わる会計処理（払込資本の会計、留保利益の会計処理）、評価換算差額の会計処理、新株予約権						
11	外貨換算会計の基礎 学習事項：外貨建取引の意義、決算および決済時の会計処理、為替予約取引						
12	税効果会計の基礎 学習事項：税効果会計の意義、引当金に係る税効果会計、減価償却にかかる税効果会計、						
13	連結会計の基礎 学習事項：連結財務諸表の意義、資本連結の考え方、連結会社間取引の処理の考え方						
14	全体のまとめ、振り返り						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	30	前回学習した内容について定着度合いを評価する。		期末テストまたはレポート	40	どちらの場合であっても、講義全体の学習内容について理解度・習熟度等を評価する。レポートの場合にはレポートで評価します。	
スモールタスク	30	授業内容に関する簡単な演習を行い、メールで指定アドレスに送信することで提出する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストを一読してから授業に出席し、学習したことはその日のうちにすぐ復習し身に付けるよう心がけること。また、企業が公表する各種情報にも日常から関心を持つこと。				方法等についてはポータルサイトでお知らせする。			
教科書・テキスト	授業時に指示する。			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	初回の講義およびポータルサイトでお知らせする。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		経営分析					
担当教員	衣川 修平			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>主要な財務諸表として損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書がある。これらの財務諸表によって報告された会計数値を加工することで、様々な財務指標を作ることができる。本講義では、ビジネスで多く用いられているROE、ROA、流動性比率、自己資本比率といった財務指標を用いて、実際の企業の財務分析を行う。また同業他社比較や、業種・業態別比較を行うことによって、様々な企業の特徴を捉えるようにする。講義形式であるが、実際に電卓をたたいて計算を行い、企業の特徴について考える講義としたい。</p>				<p>複式簿記に基づく会計は、企業の経営成績と財政状態を表す共通の言語である。簿記を修得することで、この会計言語を用いて会計報告を作成することができるようになるが、この会計報告を読解する能力は、経営分析に習熟しなければ習得することはできない。本講義は、基礎的な経営分析の指標を修得し、それを用いて財務分析を行うことで、営利・非営利組織を会計数値を用いてマネジメントすることができるようになることを目標とする。</p>			
キーワード	財務分析、有価証券報告書、経営指標						
教授方法	講義方式である。ただし講義中に電卓をたたいて、問題を随時解いてもらう。						
履修条件等	簿記会計の基礎を修得していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	貸借対照表の概要と各項目の意味						
2	損益計算書と概要と各項目の意味						
3	とキャッシュフロー計算書の概要と各項目の意味						
4	収益性分析 : 各利益率						
5	収益性分析 : ROA, ROE, 財務レバレッジなど						
6	安全性分析 : 流動性比率, 当座比率など						
7	安全性比率 : 自己資本比率, 固定比率など						
8	成長性分析						
9	リスクの分析と評価						
10	事例研究 : 同業他社の財務分析						
11	事例研究 : 業種・業態の特徴を財務分析で確認する						
12	事例研究 : 粉飾企業の財務分析						
13	事例研究 : M&Aと財務分析						
14	企業価値評価モデル						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験 (筆記)	60	点数で評価し、小テスト・授業レポートを加点したうえで、講義全体の理解度を、1完全に理解した。2おおむね理解した。3いくつかを理解した。4あまり			小テスト	20	講義内容を修得したかどうか、3回に一度ほど、小テストを行う。評価基準は1完全に理解した。2おおむね理解した。3いくつかを理解した。4あまり理解し
授業レポ ート	20	自分で企業を選んで財務分析を行う課題を1回出す。評価基準は1完全に理解した。2おおむね理解した。3いくつかを理解した。4あまり理解していない。を					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
適宜指示する。宿題などを通じて問題を多く解くことが望まれます。				講義の前後、第1回に指定するオフィスアワーに対応する。			
教科書・ テキスト	桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。バレー・バーナード・ヒーリ著『企業分析入門』東京大学出版会。森久他『財務分析からの会計学』森山書店			受講生に 望むこと			
参考書・ 参考資料等				その他・ 特記事項			

授業科目		金融論					
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル・リサーチメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>金融論は、経済における資金の循環を、制度や歴史、政策の観点から研究している。情報通信技術の発展により、瞬時に大規模な資金が国境を越えて取引されるようになり、ある国の金融危機が世界中に波及するようになった。金融業界の現状のみならず、日本や企業を取り巻く経済状況を理解するためにも、金融論の知識が必要になる。</p> <p>本講義では、グローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎知識や予備知識の修得を目指し、貨幣や金利、金融機関、金融市場、金融政策、国際金融等の金融論の基礎知識を学習する。</p>				<p>本講義では、貨幣や金利、金融機関、金融市場、金融政策、国際金融に関する知識を身に付け、金融関係のニュースや出来事の背景を考察し、日本や世界の金融の現状のみならず、日本経済や企業を取り巻く経済状況を理解できるようにする。これらの知識は、今後のグローバル・ビジネスコースのみならず、その他のコースの展開科目の学習に必要な基礎的・予備的知識である。</p>			
キーワード	貨幣、金利、金融政策、金融システム						
教授方法	講義形式。対面で行う予定であるが、受講者が多い場合、オンラインに変更する。授業では、キーワードを空欄にした資料を配付するので、説明を聞いてキーワードを記入すること。授業中に、計算問題や課題を解く演習時間を設ける。						
履修条件等	総合教育の経済学入門、専門教育のファイナンス入門、ミクロ経済学、マクロ経済学を受講していると、授業内容を理解しやすい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス・金融論で何を学ぶか						
2	貨幣（1）：貨幣の機能と定義						
3	貨幣（2）：新しい決済手段						
4	金利（1）：金利の概念と決定要因						
5	金利（2）：利率と債券、金融市場						
6	金融政策のためのマクロ経済学						
7	金融政策の課題と日本銀行						
8	金融政策の基本手段と新しい展開						
9	金融システムと金融仲介機関の役割（1）：金融システムと金融仲介機関の機能						
10	金融システムと金融仲介機関の役割（2）：金融システムと金融仲介機関の現状						
11	金融システムの安定化のための政策						
12	金融商品						
13	国際金融（1）：為替レートの決定理論						
14	国際金融（2）：国際収支						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記試験）	60	金融論の基礎理論の理解度に応じて評価する。オンライン形式の場合、レポートに変更する可能性もある。		小テスト	30	進捗状況に応じて2回～3回小テストを行い、理解度に応じて評価する。オンライン形式の場合、小テストを行わず、授業中の課題と宿題に変更する可能性も	
授業レポート	0			上記以外の授業評価	10	授業中の課題や宿題の成果に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業前に教科書を読んで、予習すること。授業では教科書のレベルを超える内容も取り上げるので、授業後には、教科書とノート等でしっかりと復習すること。				リアクションペーパーを配布するので、質問を記入すること。質問には次回の授業で回答する。また、授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。オンライン形式の場合、授業の最後に、質疑応答の時間を設ける。			
教科書・テキスト	家森信善（2019）『金融論』（第2版）、中央経済社。教科書に載っていない内容については、資料を配付する。			受講生に望むこと	教科書のレベルを越える内容も扱うので、参考書・参考資料等を読んだり、図書館で関連文献を探したりすること。		
参考書・参考資料等	小林照義（2020）『金融政策』（第2版）、中央経済社。 川西諭・山崎福寿（2013）『金融のエッセンス』、有斐閣。 佐々木百合（2017）『国際金融論入門』、新世社。			その他・特記事項	受講生の理解度や進捗状況に応じて授業計画と成績評価等を変更する。オンライン形式になった場合、教授法や成績評価等を変更する。		

授業科目		コーポレート・ファイナンス					
担当教員	小西 大			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルシフト	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この講義ではコーポレート・ファイナンス（企業財務、企業金融ともいいます。）を理解するために必要な基本概念やアセット・プライシング（資産価格の決定に関する考え方）について学習します。				アセット・プライシングの基礎をしっかりと学習することで、日本経済新聞のマーケット総合面掲載記事の内容や証券投資の基礎を理解できるようになることが目標です。また、3学期に開講されるコーポレートファイナンスを理解する上で必要な基本知識を習得することも目的です。			
キーワード	コーポレートファイナンス、アセットプライシング、証券投資						
教授方法	事前に配付する講義資料に基づきパワーポイントを用いて講義します。今年度は事前に録画した講義を配信することになります。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス： 授業の概要、目標、成績評価方法、その他注意事項について説明する。						
2	会社の目的： 会社の目的に関するファイナンスの考え方と現実の企業の目的について説明する。						
3	情報の経済学と金融（1）： モラルハザード・逆選択について説明する。モラルハザード・逆選択の解決方法を、マイクロファイナンス（貧困からの脱却を助ける金融サー						
4	情報の経済学と金融（2）： モラルハザード・逆選択について説明する。モラルハザード・逆選択の解決方法を、マイクロファイナンス（貧困からの脱却を助ける金融サー						
5	現在価値（1）： 現在価値の概念を説明した上で、応用例として株価や債券価格（理論価格）の求め方について説明する。						
6	現在価値（2）： 現在価値の概念を説明した上で、応用例として株価や債券価格（理論価格）の求め方について説明する。						
7	市場の効率性（1）： 市場の情報効率性に関する3つの概念について説明する。市場が効率的ではないことを示唆する現象を紹介する。						
8	市場の効率性（2）： 市場の情報効率性に関する3つの概念について説明する。市場が効率的ではないことを示唆する現象を紹介する。						
9	中間試験 試験の模範解答および解説は映像配信で行います。						
10	証券投資： 株式、債券（社債や国債）、投資信託などの投資対象について説明する。						
11	ポートフォリオ理論の基礎（1）： 分散投資のメリットを平均・分散アプローチに基づき説明する。						
12	ポートフォリオ理論の基礎（2）： 分散投資のメリットを平均・分散アプローチに基づき説明する						
13	ポートフォリオ理論の基礎（3）： 分散投資のメリットを平均・分散アプローチに基づき説明する						
14	資本資産評価モデル： リスク証券の価格がどのように決まるか説明する。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
中間試験	40	試験の得点		期末試験	40	試験の得点	
講義への参加状況	20	毎回の講義に対する感想に基づき参加状況を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
復習は必須です。復習で不明な点があったら、講義映像の該当部分を再度視聴するかメールで質問して下さい。				質問はメールで受け付けます。			
教科書・テキスト	教科書は指定しません。講義資料を用います。			受講生に望むこと	コーポレートファイナンス、アセットプライシングは現実と深く関連する学問分野です。新聞の経済面や金融面を読み、現実に行き起きている様々な現象に関心を持つように心がけて下さい。		
参考書・参考資料等	参考図書は第1回講義で紹介します。また、講義中にその都度紹介します。			その他・特記事項	中間試験の日程は変更の可能性があります。第1回講義で説明します。期末試験は試験期間に実施する予定です。		

授業科目	コーポレート・ファイナンス（応用）						
担当教員	小西 大			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>企業価値を高めるための財務戦略について講義します。資金調達（株式や社債の発行、銀行借入など）、利益還元（配当など）、設備投資の意思決定などを中心に説明します。また、財務戦略の有効性を高めるためのコーポレートガバナンス（企業統治）のあり方についても説明します。</p>				<p>企業の財務戦略に関する基本的内容を理解し、日本経済新聞の投資情報面や『東洋経済』、『エコノミスト』などの経済誌掲載記事を理解し批判的に読めるようになることが到達目標です。</p>			
キーワード	財務戦略、資金調達、利益還元、コーポレートガバナンス						
教授方法	事前に配付する講義資料に基づきパワーポイントを用いて講義します。						
履修条件等	特になし。コーポレートファイナンス を履修済みであることが望ましいですが、必ずしも履修を必要条件とはしません。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス： 授業の概要、目標、成績評価方法、その他注意事項について説明する。また、グループワークの取り組み方についても説明する。						
2	設備投資の意思決定： 投資実行の可否を判断するための意思決定基準について説明する。						
3	資本コスト（1）： 株主資本コスト、負債資本コスト、加重平均資本コストなどの概念について説明する。						
4	資本コスト（2）： 株主資本コスト、負債資本コスト、加重平均資本コストなどの概念について説明する。						
5	資金調達： 株式や社債の発行、銀行借入などの様々な資金調達方法について説明する。						
6	資本構成（1）： 最適な資本構成（負債による調達割合）に関する考え方について説明する。						
7	資本構成（2）： 最適な資本構成（負債による調達割合）に関する考え方について説明する。						
8	資本構成（2）： 最適な資本構成（負債による調達割合）に関する考え方について説明する。						
9	株式公開： 株式市場に公開する理由や株式公開の手続き、公開価格の決定方法について説明する。						
10	利益還元政策： 配当や自社株買いを通じた株主に対する利益還元方法について説明する。						
11	コーポレートガバナンス： 報酬制度や取締役会を通じたコーポレートガバナンスについて説明する。						
12	リスクマネジメント： マーケットリスクを中心に説明する。						
13	企業価値評価： DCF法を用いた企業価値評価について説明する						
14	まとめ： 講義全体をまとめる。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
第1回レポート	50%	評価基準の詳細は講義中に説明する。		第2回レポート	50%	評価基準の詳細は講義中に説明する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
復習は必須です。評価対象とはしない課題を出すことがあります。しっかり取り組んでください。				質問は基本的にメールで受け付けます。			
教科書・テキスト	教科書は指定しません。講義資料をします。			受講生に望むこと	コーポレートファイナンスは現実と深く関連する学問です。新聞の経済面や金融面を読み、現実に行き起こっている様々な現象に関心を持つように心がけて下さい。		
参考書・参考資料等	参考図書は第1回講義で紹介いたします。また、講義中にその都度紹介いたします。			その他・特記事項	リモート講義特有のわかりにくさもあると思います。分からないときはメールで問い合わせてください。		

授業科目	金融システム論						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバー	リング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>金融システムは金融機関と金融市場から構成され、金融取引を円滑にし、最適な資金（資源）配分を実現する機能を果たしている。近年の金融自由化や情報通信技術の発展により、金融システムはより効率的になったが、金融危機が生じやすくなった。金融危機により、金融システムが機能しなくなると、企業部門への資金の移転が滞り、経済が不況に陥る。金融システムの効率性と安定性を確保することは非常に難しい問題になった。</p> <p>本講義では、金融システムに関する理論研究や実証研究を取り上げ、金融システムの機能を制度や歴史、政策の観点から学習する。</p>				<p>本講義では、銀行や金融市場の概要と機能、金融危機、金融規制に関する知識を身に付け、金融システムに関するニュースや出来事の背景を考察し、日本や世界の金融の現状を理解できるようにする。金融業界への就職や企業の経理・財務スペシャリストを目指す学生にとっては必須の知識になる。</p>			
キーワード	情報の非対称性、金融仲介機関、金融市場						
教授方法	講義形式。対面で行う予定であるが、受講者が多い場合、オンラインに変更する。授業では、キーワードを空欄にした資料を配付するので、説明を聞いてキーワードを記入すること。授業中に、課題を解く演習時間を設ける。						
履修条件等	ファイナンス入門と金融論、コーポレートファイナンス、ミクロ経済学、マクロ経済学を履修していると、講義内容を深く理解できる。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	金融取引と金融システムの機能						
3	金融取引における情報の非対称性（1）：逆選択						
4	金融取引における情報の非対称性（2）：モラルハザード						
5	銀行の情報生産機能（1）						
6	銀行の情報生産機能（2）						
7	地域金融機関とリレーションシップバンキング						
8	担保と信用割当						
9	銀行の流動性供給機能						
10	銀行取付						
11	決済システム						
12	銀行中心システムと市場中心システムの比較						
13	バブルと金融危機、金融規制（1）						
14	バブルと金融危機、金融規制（2）						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記試験）	60	金融システムに関する基礎理論の理解度に応じて評価する。オンライン形式の場合、レポートに変更する可能性もある。		小テスト	30	進捗状況に応じて2回～3回小テストを行い、理解度に応じて評価する。オンライン形式の場合、小テストを行わず、授業中の課題と宿題に変更する可能性	
授業レポート	0			上記以外の授業評価	10	授業中の課題や宿題の成果に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業前に教科書を読んで、予習すること。授業では、教科書を超えるレベルの内容も取り上げるので、授業後には、教科書やノート等で復習すること。				リアクションペーパーを配布するので、質問を記入すること。質問には次回の授業で回答する。また、授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。オンライン形式の場合、授業の最後に、質疑応答の時間を設ける。			
教科書・テキスト	開講時に指定する。教科書に載っていない分野については、資料を配付する。			受講生に望むこと	教科書のレベルを越える内容も扱うので、参考書・参考資料等を読んだり、図書館で関連文献を探したりして、しっかりと自習すること。		
参考書・参考資料等	川西諭・山崎福寿（2013）『金融のエッセンス』、有斐閣。 村瀬英彰（2016）『金融』（第2版）、日本評論社。			その他・特記事項	受講生の理解度や進捗状況に応じて授業計画や成績評価等を変更する。また、オンライン形式になったときには、教授方法や成績評価等を変更する。		



授業科目	国際交通観光ビジネス入門						
担当教員	森本 全			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
日本の民間航空の概要を理解する				民間航空の基礎知識の習得 航空会社の経営状況の分析			
キーワード							
教授方法	講義と小テストを取り混ぜる						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス 観光とその歴史						
2	航空の歴史と日本のエアライン						
3	エアラインの仕事と組織						
4	エアラインの規模と経営						
5	1日目のまとめと小テスト						
6	空港について学ぶ						
7	LCCが変える空の旅						
8	マイレージとアライアンス						
9	ビジットジャパン						
10	2日目のまとめと小テスト						
11	サービスとおもてなし						
12	CSR・ESG・SDG'S-1						
13	CSR・ESG・SDG'S-2						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト ₁	10	第1回小テスト評点		小テスト ₂	20	第2回小テスト評点	
定期試験	40	定期試験評点		レポート	30	レポート評価	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
ANA・JALの統合報告書を各HPで一読しておく				質問は随時受け付ける			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	活気のある双方向授業にしたいと思います		
参考書・参考資料等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目		産業組織論					
担当教員	穴山 悌三			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>産業組織論は、ミクロ経済学やゲーム理論などを分析用具として、理論と実証の両面から産業・企業の構造や行動を明らかにして、経済厚生や政策を論じる実践的な学問です。本授業では、伝統的な産業組織論から現代に至るまでの基礎的な理論とそれらの理論の応用とを、豊富な具体的な事例を交えて学びます。主なテーマは、独占や寡占における企業行動や企業間関係、企業の戦略的行動と市場支配力、電力や電気通信等のネットワーク産業の特質と競争政策などです。授業はパワーポイントによる講義と対話の他、レポートの発表・討議も実施します。担当教員は、企業等における産業組織の分析に係る実務経験を有しており、事例を交えた考察を通して実務に応用可能な基礎的能力を習得させます。 英語表記「Industrial Organization」</p>				<p>授業では、産業組織論の基本的な理論と実証の考え方を学び、現実の産業・市場・企業行動を理解する上で有用な分析の枠組みについて理解を深めます。本科目を履修することにより、自分が関心を持つ産業について、市場構造や市場行動（企業の戦略的行動など）を分析する力が身に付きます。また主に経済厚生観点から政策を評価し、関連するテーマについて自分の意見を言うようになります。</p>			
キーワード	ミクロ経済学、ゲーム理論、産業分析						
教授方法	主にパワーポイントを用いた授業を行います。COVID-19の状況により、ライブ形式およびオンデマンド形式併用のオンライン授業か、教室での対面授業かを決定し、授業開始前に周知します。第1回授業で授業のガイダンスを実施します。第9回授業では各自のレポート（4000～6000字程度、テーマや書き方は第2回授業で指示します）を元にプレゼンテーションと討議を実施します。必要に応じてオンデマンド型の教材視聴を併用し、Forms等への回答入力求めます。各自の回答内容はライブ授業でフィードバックするなど、積極的に双方向のコミュニケーションを図ります。						
履修条件等	ミクロ経済学を履修していることが望ましく、また、簡単な微分等の計算やゲーム理論に関する基礎知識があれば授業理解に有用です。ただし講義中に平易な解説を加えるため、これらは必須ではありません。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	9/27 イントロダクション；産業組織論の基本構造（目的、対象、方法、系譜、意義と課題）						
2	9/29 理論的基礎（1）- ミクロ経済学の基礎知識（需要と供給、市場均衡、消費者余剰と生産者余剰）						
3	10/4 理論的基礎（2）- ゲーム理論の基礎知識（非協力ゲーム、ナッシュ均衡）						
4	10/6 独占企業の行動（利潤最大化、完全競争市場との比較）、理論的基礎のまとめ						
5	10/11 伝統的な基礎概念（1）- 市場構造（市場集中、参入障壁、コンテストブル市場）						
6	10/13 伝統的な基礎概念（2）- 産業の利潤と効率性（構造・行動・成果分析、価格費用マージン、X非効率、動態的効率性）						
7	10/18 寡占企業の行動（クールノー・モデル、ベルトラン・モデル、シュタッケルベルク・モデル、参入阻止）						
8	10/20 企業間関係（プライス・リーダーシップ、カルテル、暗黙の協調、合併・買収・事業提携、垂直的統合と垂直的制限）						
9	10/27 ケース・スタディとプレゼンテーション（各自がテーマを選んで報告・討議）						
10	11/1 製品差別化（製品差別化の種類、差別化製品市場での独占的競争、「ロケーション」・モデル）						
11	11/3 情報と広告（情報の非対称性、探索費用、経験財、広告の種類、広告と経済厚生）						
12	11/8 価格・マーケティング戦略（価格差別、非線形料金、抱き合わせ、アップグレード、ディーラーシップ）						
13	11/10 研究開発と知的財産（イノベーション・研究開発のインセンティブと経済厚生、ネットワーク外部性、規格・標準化競争）						
14	11/15 ネットワークと競争（ネットワーク産業の特質、スイッチング・コスト、プラットフォーム、ネットワーク産業の競争政策）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点	60	毎回オンラインで出題するクイズ、課題への回答を評価します。評価基準は、標準的な理解・記述は100点満点中70～79点、応用力が認められれば同80点			授業レポート	40	授業で発表するレポート（配点20点）。評価基準は、独自性のあるものが20点満点、一通り調べてあるものが10点です。また最終レポートを授業終了時に
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習については、リーディング・アサインメントで少なくとも1週間前の講義時に必読文献と参考文献とを指定するので該当部分を読んでください（準備学習の目安は各120分程度）。事後学習については、オンラインで出されるクイズや課題に取り組んでください。理解を深めるために各人が積極的に取り組むことを期待しています。				授業中はもちろん、メール等での質問等を歓迎します。また感想・質問等をオンライン入力に記入してもらいます。全てに目を通した上で適宜フィードバック等を行いますので積極的に活用してください（詳細は第1回授業で説明します）。			
教科書・テキスト	本授業は特定の教科書は用いませんが、準教科書として次を推薦します。 井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治著 [2010]、『入門・産業組織』、有斐閣。（ISBNコード：9784641163416）			受講生に望むこと	デジタル化が進む中、GAFAなどのプラットフォームの興隆やビジネスモデルの変化等によって、これまでの産業の境界が曖昧化しています。混沌とした時代であればあるほど、授業で学ぶ基本を応用し、問題解決を考え抜くことが新たな価値の創出につながります。好奇心を持って、積極的にチャレンジしてください。		
参考書・参考資料等	参考書として次を指定するので各人のレベルと必要に応じて自習に用いてください。一部の内容は講義で説明します。 長岡貞男・平尾由紀子著 [2013]、『産業組織の経済学（第2版）』、日本評論社。（ISBNコード：978453556676） 岡田羊祐 [2019]、『イノベーションと技術変化の経済学』、日本						

<p>参考書として次を指定するので各人のレベルと必要に応じて自習に用いてください。一部の内容は講義で説明します。</p> <p>長岡貞男・平尾由紀子著 [2013]、『産業組織の経済学（第2版）』、日本評論社。（ISBNコード:9784535556676）</p> <p>岡田羊祐 [2019]、『イノベーションと技術変化の経済学』、日本評論社。（ISBNコード:9784535559141）</p> <p>Waldman, D.E., and E. J. Jensen [2019], Industrial Organization, 5th Edition, Routledge. (ISBN:9781138394278)</p> <p>Carlton, D., and J. Perloff [2004], Modern Industrial Organization, 4th Edition, Pearson/Addison-Wesley. (ISBN:9780321180230) / [2015] Global Edition (ISBN:9781292087856)</p> <p>Niels, G., H. Jenkins, and J. Kavanagh [2016], Economics</p>	<p>その他・特記事項</p>	<p>各回のテーマや内容等は授業の進捗等に応じて一部変更することがあります。また今後の社会情勢等によっては本シラバスの内容に変更が生じる可能性がありますので、大学からの連絡等に注意してください。</p> <p>産業組織論の扱うテーマは他の学問領域とも広範に関わっています。理論的分析の基礎となるミクロ経済学、ゲーム理論、数理統計学はもとより、ビジネス・エコノミクス、規制の経済学、経営学のマネジメントやマーケティングの戦略論などとも関連を持ちます。これらの科目と併せて学ぶことで、より一層豊かな知識や応用力を得ることが期待できます。</p> <p>担当教員は、企業等における産業組織の分析に係る実務経験を有しており、授業中の事例紹介などで取り上げます。</p>
---	-----------------	--

授業科目		公共経済学					
担当教員	中条 潮			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>この講義では、「公共性が高い」とされる社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習を、経済学、特に「市場の失敗」を分析用具に検討します。</p> <p>世の中の政策には、政治家や官僚の思い付きや関心によって策定されるものも多いため、政策は、市場の失敗が存在する場合だけに実施すべきものであって、「これは大事だ」とか、「これはよいことだ」という考え方で実施すべきものではありません。</p> <p>環境問題についても、現行の政策には、社会全体の利益を考えない、市場の失敗の視点を抜きにした単純な環境至上主義の政策を唱える声が多くあります。</p> <p>この講義は、政策を考える際に必ず検討すべき「市場の失敗」について学び、現行の政策の多くが市場の失敗とかけ離れて策定されていることを知り、正しい政策形成の基礎を学ぶことを目的とします。</p>				<p>市場メカニズムの機能と市場の失敗の理解およびそれを適用しての基礎的な政策評価能力と国や自治体の限界について知る能力の基礎を形成することを目指します。具体的には、教科書の内容を他人に説明できる程度の理解が得られれば合格です。</p>			
キーワード	ミクロ経済学 総余剰の最大化 社会全体の利益の最大化 市場の失敗 市場メカニズムの役割						
教授方法	<p>講義。話の内容は固いものであることを覚悟してください。2コマ続きでこの話を聞くのは相当につらいと思います。インタラクティブな授業をしているほど暇ではないけれど、時々、あてて質問します。</p> <p>この授業の実施方法は、Covid-19の状況次第で、対面とオンライン（ライブ）の両方の可能性があります。対面授業の場合も、オンライン授業と同様の形態で教室で授業をしますので、PCとヘッドセットを持参して授業にのぞんでください。</p>						
履修条件等	『経済学入門』、『ミクロ経済学』を履修済であることを前提に授業を行います。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	1. 開題：公共政策とは						
2	2. 資源配分の適正化と市場機構の役割 (1) 資源配分の適正化とは？						
3	2. 資源配分の適正化と市場機構の役割 (2) 市場への不意な介入の問題点 (3) 政府の失敗・規制の失敗						
4	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (1) 環境汚染は小さくしなければならぬか？～SDGへの疑問～（外部不経済）						
5	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (2) 地域開発効果は税金無駄使いの大義名分（外部経済効果）						
6	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (3) 国防はなぜ税金で維持するのか？ 備兵制度ではいけないか？（社会欲求財）						
7	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (4) 無意味な価値欲求財の定義～医療、教育も市場化を～						
8	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (5) 未成年者はなぜ飲酒してはいけないのか？（情報の不完全）						
9	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (6) 防災の経済学（情報の不完全）～防災にも必要な自己責任～						
10	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (7) 盗みは倫理的な問題にあらず（所有権の不確定）						
11	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (8) 地方バスの赤字路線を補助することは正しいか？（所得再分配）						
12	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (9) 長野にはなぜ電力会社は1社しかないのか？（ゆらぐ「規模の経済性」）						
13	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (10) 社会的内部補助の問題点（所得再分配）～新幹線の黒字で篠ノ井線を補助するのは正しいか～						
14	3. 「市場の失敗」別の公共性の検討 (11) 企業の内部補助と価格規制の課題～エレベータはなぜ無料なのか～						
共通の成績評価基準							
<p>（全学共通）【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	100	授業内容を50%理解していれば合格点を与えます。講義では応用能力は求めません。ただし、Covid-19の影響により対面の試験ができません。		小テスト	不定	必要に応じて課すことがあるかもしれませんが、その際はあらかじめ指示します。	
レポート	不定	必要に応じて課すことがあるかもしれませんが、その際はあらかじめ指示します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習：教科書や県大ナビにupされた授業のレジュメを読んで、わからない用語は自分で調べておくこと。</p> <p>事後学習：授業中に登場した用語でわからなかったものがあれば自分で調べること。</p>				<p>質問は、なるべく、授業中にしてください。</p> <p>授業前後の質問は1分以内で回答できる質問だけにしてください。</p> <p>なお、上記で対応が難しい質問や相談については、メールにてアポをとっていただければ可能な限り対応します。</p>			
教科書・テキスト	中条ほか編著『経済学で読み解く交通・公共政策』（中央経済社） このほか、必要に応じて学生ポータルに資料をupします。			受講生に望むこと	学生としての基本的な遵守事項以外、特に求めません。		
参考書・参考資料等	上記教科書の範囲およびポータルにupする資料の範囲で講義します。強いていえば、「ミクロ経済学」の教科書。			その他・特記事項	「航空・公共経済プログラム」参加希望者はこの授業を履修する必要があります。		

授業科目		公共経済学（航空政策）					
担当教員	中条 潮			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>「公共経済学」における「市場の失敗・欠落」要因の理論的検討は、どの財についても適用できるものであり、すべての政策立案はそれに沿ってなされることが求められます。</p> <p>本講義では、その具体的例として航空市場をとりあげ、「公共経済学」における理論的検討を航空市場に適用した場合の具体的な政策のありかを示すことによって、他の政策においても同様のステップで議論の展開が可能となることを示します。</p> <p>したがって、本講義の目的は、航空政策そのものを論じることにはありません。公共政策の事例として航空市場を取り上げるのだという点を理解してください。</p> <p>また、本講義では、講義内容を理解するうえで必要な場合には、航空会社の経営の問題についても言及しますが、本来の目的は、社会全体の利益の視点から政策論を展開することにあるという点も理解してください。</p>				<p>「公共性（市場の失敗）」ゆえに政策介入がなされ易い一例として航空市場をとりあげ、市場メカニズムの機能と市場の失敗の理解およびそれを適用しての基礎的な政策評価能力の具体的醸成を図ることを目的とします。教科書の範囲内の理解が得られれば合格とします。</p>			
キーワード	経済学 航空輸送 空港 市場の失敗						
教授方法	<p>3学期7回と4学期7回あわせて14回で2単位1科目の講義となりますので、注意してください。と4書き講義。「公共経済学1」よりはリラックスして聞ける内容で話しますが、しよせん、講義は講義。退屈さは覚悟してください。</p> <p>余裕があれば授業中であてて発言や質問を促すことがあるかもしれません。</p> <p>この授業の実施方法は、Covid-19の状況次第で、対面とオンラインの両方の可能性があります。対面授業の場合も、オンライン授業と同様の形態で教室で授業をしますので、PCとヘッドセットを持参して授業にのぞんでください。</p>						
履修条件等	『経済学入門』、『ミクロ経済学』、『公共経済学』を履修していることを前提に授業を行います。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	開題 本講義の目的～航空分野における社会全体の利益の最大化～ 航空概観						
2	航空サービスの需要特性概観						
3	航空サービスにおける市場の失敗（1）						
4	航空サービスにおける市場の失敗（2）						
5	航空自由化政策の流れ 1. 規制緩和政策の経緯						
6	航空自由化政策の流れ 2. オープンスカイの進展						
7	航空輸送事業の経営課題と政策課題 1. LCCの攻勢						
8	航空輸送事業の経営課題と政策課題 2. 日本におけるLCCの発展可能性						
9	航空輸送事業の経営課題と政策課題 3. 既存大手航空会社の反撃～LCの経営戦略～						
10	航空輸送事業の経営課題と政策課題 4. 幻想から覚めたか日本航空						
11	空港経営と空港政策の課題 1. 空港整備運営に関する誤解						
12	空港経営と空港政策の課題 2. 空港民営化の課題						
13	空港経営と空港政策の課題 3. ハブ競争とハブ空港の課題						
14	補論：航空輸送の発展史からみる航空政策の現代的課題						
共通の成績評価基準							
<p>（全学共通）【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験 （4学期 末に1回）	100	授業内容を50%理解していれば合格点を与えます。応用能力は求めません。なお、Covid-19の影響により対面のテストが不可		小テスト	不定	必要に応じて課すことがあるかもしれませんが、その際はあらかじめ指示します。	
レポート	不定	必要に応じて課すことがあるかもしれませんが、その際はあらかじめ指示します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習：教科書および県大ナビにupされた授業のレジュメを読んで、わからない用語は自分で調べておくこと。</p> <p>事後学習：授業中に登場した用語でわからなかったものがあれば、自分で調べること。</p>				<p>質問は、なるべく、授業中にしてください。</p> <p>授業前後の質問は1分以内で回答できる質問だけにしてください。</p> <p>なお、上記で対応が難しい質問や相談については、メールにてアポをとっていただければ可能な限り対応します。</p>			
教科書・テキスト	中条潮著『航空幻想（第2版）』（中央経済社）。必要に応じて資料を学生ポータルにupします。			受講生に望むこと	学生としての基本的な礼儀以外は求めません。		

参考書・ 参考資料等	毎年版『数字でみる航空』航空振興財団。 基本的に、教科書とポータルにupする資料の範囲で講義します。	その他・ 特記事項	「航空・公共経済プログラム」参加者はこの授業 を履修する必要があります。
---------------	---	--------------	---

授業科目	マクロ経済学						
担当教員	中川 亮平			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
マクロ経済学 (Macroeconomics) の基本を講義する。マクロ経済学は、GDP、物価、雇用といった一国の経済全体 (マクロ経済) の動き (「景気」) を決めるメカニズムを分析する学問分野である。海外の大学で標準的な教科書である「マンキュー経済学IIマクロ編」を用いて、14週かけて丁寧に解説と演習を行い、理論の理解と実体経済への応用力を養う。担当教員の国内外における金融・経済調査・国際会議の実務経験を活かし、企業・家計・政府の行動原理についての理解を促す。				日々のマクロ経済に関わるニュースを批判的に理解できるようになる。公務員試験を受験するものの経済学分野の理解を促進する。			
キーワード	長期の実物経済、貨幣、物価、開放経済						
教授方法	理論の解説は講義形式で行い、課題演習は受講生同志の対話形式で進行する。						
履修条件等	経済学の基礎を理解していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション、マクロ経済学とは、経済学の十大原理						
2	マクロ経済学のデータ：国民所得の測定【第5章】						
3	マクロ経済学のデータ：生計費の測定【第6章】						
4	長期の実物経済：生産と成長【第7章】						
5	長期の実物経済：貯蓄、投資と金融システム【第8章】						
6	長期の実物経済：ファイナンスの基本的な分析手法【第9章】						
7	長期の実物経済：失業【第10章】						
8	長期における貨幣と価格【第11章】；中間試験						
9	貨幣システム、貨幣量の成長とインフレーション【第12章】						
10	開放経済のマクロ経済学：開放マクロ経済学：基本的概念【第13章】						
11	開放経済のマクロ経済学：開放経済のマクロ経済理論【第14章】						
12	開放経済のマクロ経済学：開放経済のマクロ経済理論【第14章】						
13	短期の経済変動：総需要と総供給【第15章】						
14	総括						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
試験	75	うち中間試験30%、期末試験45%			授業中の評価	25	宿題、授業内での宿題等を含む
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
内外の経済的・政治的・社会的背景とその変遷について、あらゆる分野にわたっての一定の理解が求められる。講義外でも積極的に多方面の読書や情報理解を怠らないこと。また、日本経済新聞、The Economistなど、時事的な記事に常時、目を通しておくこと。				常時受け付ける。			
教科書・テキスト	N.グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学IIマクロ編(第4版)』東洋経済新報社、2019年。(過去の版でも問題ありません。なお類似の教科書が幾つかあるため注意すること。) 他に事例研究を授業内で配布する。			受講生に望むこと	出席しただけでは「授業への貢献度」のポイントとはならない。討論への参加、発言等、授業に対して何らかの貢献があると認められてはじめて有効となる。あまり周囲の目を気にせず、しかし同時に周囲の多様な意見を理解しながら、積極的に議論に参加してほしい。		
参考書・参考資料等	大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勤草書房、2018年 内閣府『経済財政白書』日経印刷、毎年 The International Monetary Fund (IMF): World Economic Outlook 他、適宜指示する。			その他・特記事項	担当教員は国内外で金融・経済調査・国際会議企画運営の実務経験を有する。		

授業科目		医療経済学					
担当教員	増原 宏明			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>社会にとって望ましく適切な医療を提供するためには、適切な医療制度の設計が必要です。この講義では、現在の医療制度の概要を把握した上で、経済学的視点から制度の問題点を明確にし、医療制度のあり方について検討します。また現在の医療制度が、医療機関や患者に与える影響とその問題を、経済理論とデータを用いて分析します。講義を受けることで「医療制度」を把握し、患者・医療機関・医療スタッフのインセンティブとその結果を理解し、データによって検証することができるようになります。</p>				<p>医療経済学は大きく、制度、経済理論、実証研究の3つから成り立ちます。まず制度で、医療には多くの規制がかかります。これらを整理しながら、医療制度の特徴を把握します。次に、医療制度のもとでのインセンティブ構造が決まりますので、資源配分が歪むかどうか、経済理論によって確かめます。最後に、医療制度の下、経済理論によって説明される行動が実際に起こっているかについては、実際のデータを用いて検証しなければなりません。ミクロ計量経済学の手法を用いて、実証分析で確かめます。この授業を履修することで、以下の3つを修得できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療制度を経済学的思考に基づき評価し、医療の現代的問題を論理的に説明できるようになる。 ・データに基づき医療政策を判断できるようになる。 ・医療政策が与えるインセンティブを踏まえ、評価できるようになる。 			
キーワード	医療費、医療制度、医療需要、医療供給						
教授方法	講義形式で、テキストに則って行う。時間の許す範囲でディスカッションを行う。						
履修条件等	特になし。ただし、5回以上欠席したものは、評価の対象外とする。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	医療経済学と日本の医療：医療サービスの持つ特徴と、社会保険の仕組み、データを用いて医療費の実態を探ります。						
第2回	日本の医療保険制度：わが国の医療保険制度を学びます。医療保険が職業ごとであること、それによって医療保険が弱点を抱えることを理解します。						
第3回	高齢者の生活保障 - 医療と介護：後期高齢者医療制度と介護保険制度を学びます。高齢者をどのようにして支えるのか、どのような問題が生じるのかを理解することができます。						
第4回	医療経済学の分析道具箱－ミクロ経済学の基礎：医療を経済的に分析するために必要なミクロ経済学を復習し、医療の問題を考えます。						
第5回	医療サービスの需要－不確実性、保険、情報の非対称性：医療では不確実性や情報の非対称性が大きな問題となります。医療サービス需要における問題を理解します。						
第6回	供給者誘発需要と情報の非対称性：医療において情報の非対称性が存在することで、需要が誘発されてしまうかもしれないことが指摘されています。理論的フレームワークを学んだ後、データでこの仮説を検証します。						
第7回	医療提供体制－医療サービスの供給のしくみ：医療には供給者側にも様々な規制がかかります。制度を学ぶとともに、効率的な医療提供体制を実現するための、現状と問題点を理解します。						
第8回	医療における競争と規制：第7回までで説明できなかった、医療における代表的な規制を説明し、経済学的な視点からその根拠や目的を説明します。複雑な医療制度を体系的に理解できます。						
第9回	薬価基準制度と医薬品産業：医療費の25%は薬剤費が占めており、その価格は政府が薬価として決定します。薬価基準制度を学習し、薬価基準制度自体がもたらす制度的な歪みを学習します。						
第10回	経済格差と健康 - 医療の経済分析：健康状態の良し悪しは人々の幸せに影響を及ぼすでしょう。所得水準・所得格差が健康水準に果たす役割を理解し、データによって仮説を検証します。						
第11回	健康投資、健康支出、マクロ経済パフォーマンス：人的資本は経済成長のエンジンとして考えられていますが、この人的資本には健康投資を通じて蓄積される健康資本も含まれます。健康資本を取り入れた経済モデルを学習し、その実証分析結果を学習します。						
第12回	医師の労働市場と医師不足問題：地方において医師不足問題が深刻となっています。労働経済学の基礎を踏まえて、医師の労働市場と医師不足問題を分析します。						
第13回	主要国の医療環境とTPP：世界には大きく3つの医療保障制度があります。その特徴を紹介しながら、ドイツ・フランス、イギリス、アメリカの医療制度を学びます。また自由貿易協定がわが国の医療に与える影響についても分析します。						
第14回	不確実な将来と向き合う－医療制度をどう改革するか：わが国の公的医療保険制度は、諸外国と比べて高いパフォーマンスを示していますが、少子高齢化により制度の持続可能性も危ぶまれています。財政方式のあるべき姿を中心にして、医療制度改革の方向性を検証します。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	100	学期末に5,000字以上のレポートを課す。基礎的な概念を説明できれば「水準にある」、経済学思考に基づき説明できれば「やや上にある」、批判できれば					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業前に各回の該当の章を読み、理解できない用語や内容について、調べる。授業後は、講義で説明した重要な部分を見直し、ノートしてまとめること。とりわけ経済理論を用いての議論については、自ら手を動かして、数式と図表をまとめること。				授業後の対応に加えて、メールでも受け付ける。			
教科書・テキスト	細谷圭・増原宏明・林行成 『医療経済学15講』（新世社、2018年）2,640円（税込）、ISBN: 978-4883842841。			受講生に望むこと	医療は必要不可欠なものです。だれしも納得できる制度ではありません。経済的思考で医療を分析する能力を養ってください。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		グローバル経済論					
担当教員		中川 亮平		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
国内情勢・国際情勢の事象にはそれぞれあらゆる背景があり、その経済的側面を無視して真に理解することはできない。当講座では、国内および世界経済における根幹的な「なぜ？」を每週とりあげ、そのテーマについての複数の解を提示したうえで議論を進める。事前に履修を要する科目はないが、内外の経済的・政治的・歴史社会的背景とその変遷についての一定の理解が求められる。担当教員の国内外における金融・経済調査・国際会議の実務経験を活かし、企業・家計・政府の行動原理についての理解を促す。				日本を含む世界で起きている貿易・資本フロー・通貨制度・貧困や格差などの経済問題について、複眼的視点から自らの意見を述べられるようになる。			
キーワード	貿易、資本フロー、為替、通貨制度、格差						
教授方法	理論や事象の解説は講義形式で行い、主要項目においてパネルディスカッション方式で進行する。一部英文資料を用いる。						
履修条件等	経済学の基礎を理解していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロ、授業運営について、定義の共有						
2	なぜ貿易が行われるのか：絶対優位と比較優位、リカード、ヘクシャー＝オリーン【第1章】						
3	なぜ政府は貿易に介入するのか：関税、非関税障壁、小国と大国、幼稚産業保護論、世界貿易体制【第2章】						
4	なぜ地域統合が行われるのか：自由貿易協定（FTA）、地域的動向、多事総論【第3章】						
5	なぜ海外投資が行われるのか：直接投資、投資政策とルール、動向【第4章】						
6	どのように国際的に資金が流れるのか：国際収支の理解、経常収支不均衡、国際的資金移動、国際金融取引【第5章】						
7	日本の財政はなぜ危機的状況なのか：（教科書に該当する章なし。事前課題は別途指示する）						
8	為替レートはどのように決まるのか、どのように為替レートを安定化させるのか：2国間為替レート、名目・実質実効為替レート、決定メカニズム、購買力平価、為替介入、金融政策、通貨危機【第6章、第7章】						
9	どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか：国際通貨、基軸通貨、為替レート制度、通貨統合【第8章】						
10	パネル・ディスカッション大会I：テーマ：市場経済と経済政策について						
11	なぜ豊かな国と貧しい国が存在するのか：経済発展の源泉、経済発展と産業構造、経済発展と教育ジェンダー【第9章】						
12	どのようにして貧困を削減すればよいのか：経済発展と格差・貧困、人口問題、貧困削減政策【第10章】						
13	どのようにして開発援助を行えばよいのか：政府開発援助（ODA）の役割と問題点、日本のODA【第11章】						
14	パネル・ディスカッション大会II：テーマ：パンデミックと持続可能な経済発展						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	60	レポート提出（英文・和文、2回）		上記以外の授業評価	40	授業中の発言など授業への参加度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
経済学に限らず政治学/国際関係論、社会的・歴史的背景など、広範な分野にわたっての一定の理解が求められる。特に歴史的な理解はきわめて重要であり。講義外でも積極的に多方面の読書や情報理解を怠らないこと。また日本経済新聞やThe Economistなど時事的な記事に常時目を通しておくこと。				研究室、オンライン対談、メール等、常時受け付ける。			
教科書・テキスト	『はじめて学ぶ国際経済』浦田秀次郎、小川英治、澤田康幸（2010）、有斐閣アルマ ISBN: 9784641124219			受講生に望むこと	出席しただけでは「授業への貢献度」のポイントとはならない。発言等、授業に対して何らかの貢献があると認められてはじめて有効となる。あまり周囲の目を気にせず、しかし同時に周囲の多様な意見を理解しながら、積極的に議論に参加してほしい。		
参考書・参考資料等	『クルーグマン国際経済学 理論と政策』クルーグマン・オブストフエルド・メリッツ(2016)、丸善出版 ISBN: 9784621300596 『経済史-いまを知り、未来を生かすために』小野塚知二(2018)、有斐閣 ISBN: 978-4641165151 『戦後世界経済史』猪木武徳(2009)、中公新書 ISBN: 9784121020000 『Global Risk Report 2021』World Economic Forum (2021): http://www3.weforum.org/docs/WEF_Global_Risk_Report_2021.pdf			その他・特記事項	- パネル・ディスカッションでは、実施の2週間前までに当日のDiscussion Questionsを発表し、パネリストおよびクラス全員が自分の意見を準備する。モデレーターは議論において多様な意見の交通整理を行う。 - 担当教員は国内外で金融・経済調査・国際会議企画運営の実務経験を有する。		

『クルーグマン国際経済学 理論と政策』クルーグマン・オブストフ
エルド・メリッツ(2016)、丸善出版 ISBN: 9784621300596
『経済史-いまを知り、未来を生きるために』小野塚知二(2018)、
有斐閣 ISBN: 978-4641165151
『戦後世界経済史』猪木武徳(2009)、中公新書 ISBN:

授業科目		環境経済学					
担当教員	遠藤 幹夫			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルシメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義は、信州大学経済学部教授の遠藤が講師として担当します。講師は、総合職国家公務員として経済産業省・内閣官房などで20年近く勤務し、環境政策、産業政策、消費者政策などの分野で豊富な行政経験を持っています。国際交渉や国内対策の立案など、「ナマの現場」の臨場感を持った講義を行います。「なぜ、こういう制度が出来上がってきたのか？」を、制度の構築に関わった各アクターの立場・思惑を読み解いていくことにより、理解を進めていきます。</p> <p>英語表記「Environmental Economics」</p>				<p>環境政策の基本的な考え方や、地球環境対策、廃棄物処理・リサイクル対策、公害・化学物質管理対策、野生生物・自然環境保護対策など、主な環境政策の枠組みを理解する。</p> <p>環境政策に関わる、国際機関、各国政府、国内政治、行政、産業界、環境団体、世論など、各アクターの基本的な立場とその利害調整の状況を理解する。</p>			
キーワード	環境、SDGs、国際政治、公共政策						
教授方法	講義形式。講師が一方的に話すだけでなく、学生に「お題」を提示して考えてもらったり、質問時間も設けます。講義は木曜3・4限連続なので、途中休憩を2回ほど入れます。講義は、リアル授業とZoomオンライン授業の回を織り交ぜます。						
履修条件等	前知識は特に必要ありません。環境問題や社会問題に関心の高い学生であれば、誰でも大歓迎です。逆に、参加意欲が低すぎる学生（具体的には、3分の1以上の授業を正当な理由なく欠席した学生）は、成績評価の対象になりません。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス：なぜ「環境」を守る必要があるの？						
2	環境政策の歴史：江戸時代～明治～戦前～高度成長期～安定成長期～90年代以降						
3	環境政策の手法：計画的手法、規制的手法、経済的手法、情報的手法、その他の手法						
4	安全安心社会：公害問題・公害対策						
5	安全安心社会：化学物質管理対策						
6	循環型社会：日本の廃棄物処理・リサイクル政策						
7	循環型社会：廃棄物処理・リサイクル政策の評価・国際比較						
8	循環型社会：廃棄物の越境移動・国際取引、プラスチック問題						
9	地球環境対策：オゾン層保護・フロン問題						
10	地球環境対策：地球温暖化問題とは何か、温暖化国際交渉1（京都議定書まで）						
11	地球環境対策：地球温暖化に係る国内対策の枠組み						
12	地球環境対策：温暖化国際交渉2（パリ協定への道のり）						
13	地球環境対策：長期ビジョン、今後の温暖化対策						
14	自然共生社会：自然地域保護、森林・水環境保護、生物多様性保護						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	講義で説明した内容の理解度に応じて評価する。			その他	20	授業参加の積極性（お題、質問など）に応じて評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>予習：各回の授業の最後に、参考書（下記）の該当ページや、その他の参考文献、WEBで見られる参考資料を示しますので、出来るだけあらかじめ目を通してきてください。</p> <p>復習：定期試験の準備として、毎回の授業を復習し、きちんと自筆ノートを整理してください。ノートの整理は定期試験前にまとめてやるとうると作業が追いつかないので、毎回こまめに復習しましょう。</p> <p>定期試験には、「自筆ノート」のみ持ち込み可とします。講義のパワポや配布資料は自分の頭で整理したノートではないので、試験には持込み不可です。</p>				<p>・授業中の積極的な質問や発言を歓迎します。みんなの前で質問するのが苦手な人は、授業前後に個別に質問に来てくれても構いません。</p> <p>・メール（endo_mikio@shinshu-u.ac.jp）での質問も大歓迎です。</p>			
<p>教科書・テキスト</p> <p>特になし（下記参考書は準教科書的な位置づけですが、購入は必須ではありません）。</p>				<p>受講生に望むこと</p> <p>講義は受動的に聞き流すのではなく、積極的に自分で考えながら聞いてください。毎回の「お題」の答えが鋭かったりユニークだったりした場合、成績を加点していきます。</p>			
				<p>その他・特記事項</p> <p>【講師の実務経験について】 1998年、国家公務員種（現：総合職）として通商産業省（現：経済産業省）に入省。環境政策の分野では、内閣官房で地球温暖化対策の政府全体の取りまとめを担当したほか、化学物質管理政策なども担当。他に、消費者政策、中小企業政</p>			

<p>参考書・ 参考資料等</p>	<ul style="list-style-type: none">・倉坂秀史『環境政策論[第3版]』(信山社、2014)・盛山正仁編『環境政策入門』(武庫川女子大学出版部、2012)・森 晶寿/孫 穎/竹歳 一紀/在間 敬子『環境政策論 政策手段と環境マネジメント』(ミネルヴァ書房、2014)・その他の参考書、参考文献、読むとためになる文献は、授業で紹介します。	<p>【講師の実務経験について】 1998年、国家公務員 種(現:総合職)として通商産業省(現:経済産業省)に入省。 環境政策の分野では、内閣官房で地球温暖化対策の政府全体の取りまとめを担当したほか、化学物質管</p>
-----------------------	--	---

授業科目	ビジネス・エコノミクス						
担当教員	山内 弘隆			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>ビジネス・エコノミクスは、ミクロ経済学のフレームワークを用いて企業の行動、組織、戦略、マーケティング等を分析するものである。この授業では、ミクロ経済学の基本的理論、考え方について学んだ後に、企業戦略、組織についての経済学的分析について概観する。旧来ミクロ経済学は企業を1つの主体と捉えてその内部組織や行動を分析対象としてこなかったが、近年では企業の内部組織や行動を経済学的なツールによって分析する体系が構築されており、この授業ではこの組織の経済学等の分析手法を用いて講義する。</p>				<p>ミクロ経済学の基本的理論を理解する。 インセンティブ・メカニズム等の企業の分析ツールを理解する。 以上のツールを用いて、企業組織、戦略、行動について分析し評価することができる。 総合的な見地から具体的企業戦略について論じることができる。</p>			
キーワード	ミクロ経済学、組織の経済、インセンティブ・メカニズム、企業組織、企業戦略						
教授方法	基本的に講義を行うが、不定期で小レポートを課す。						
履修条件等	ミクロ経済学についてある程度の知識あるいは興味を持っていること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーションおよび「ミクロ経済学の意義」						
2	ミクロ経済学における需要と供給のとらえ方						
3	需要曲線と消費者行動						
4	供給曲線と企業行動						
5	資源配分効率						
6	消費者行動の理論						
7	利潤極大と企業行動の理論						
8	独占と不完全競争						
9	市場の失敗						
10	企業経営と組織（1）						
11	企業経営と組織（2）						
12	プラットフォームの経済学						
13	サプライチェーン						
14	授業の総括						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	70%	授業内容の理解度と問題解決能力			小レポート	30%	各回の授業の理解度（不定期）
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
ミクロ経済学、経営経済学の標準的なテキストで事前学習を行うこと。				授業中についてはチャット等を用いる。 授業外では、メールにより対応する。			
教科書・テキスト	教科書は使用しない。			受講生に望むこと	社会経済の動きに関心を持って、理論と現実を結びつける努力をすること。		
参考書・参考資料等	伊藤元重著、『ミクロ経済学第3版』、日本評論社、2018年。 丸山雅詳、『経営の経済学第3版』、有斐閣、2017年。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	規制の経済学						
担当教員	穴山 悌三			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>規制の経済学は、市場の失敗に対処するための法制度と経済システムの関わりを分析し、個々の産業の特質をふまえて社会的に望ましい制度設計について考察する学問です。本授業では、経済的規制と社会的規制を対象に、分析の基礎となる経済理論と現実社会の事例とを学びます。主なテーマは、自然独占などの市場の失敗、料金規制、インセンティブ規制、参入規制、規制改革と競争促進の理論と実際などで、事例検討として電力や電気通信等を取り上げます。授業はパワーポイントによる講義と対話の他、レポートの発表・討議も実施します。担当教員は、企業等における規制や制度の分析に係る実務経験を有しており、本科目では事例を交えながら考察して実務に応用可能な基礎的能力を習得させます。</p> <p>英語表記「Economics of Regulation」</p>				<p>本科目では、公的規制に関する経済理論の学習や事例検討を通じて、現実の産業・市場における規制システムについて理解を深め、規制分野の政策分析・問題解決に必要な能力を育てます。本科目を履修することにより、公益事業などにおける経済的規制、健康・安全・環境に関する社会的規制について、規制の意義・手法・理論的背景を理解し、規制に関する問題や社会的に望ましい規制の在り方等について考え、実際の制度や政策に関して自分の意見を言えるようになります。</p>			
キーワード	経済的規制、社会的規制、公益事業、規制改革、ミクロ経済学						
教授方法	本年度はライブ形式およびオンデマンド形式のオンライン授業で、パワーポイント資料を用いた講義を実施します。ただし、第1回にガイダンスを実施し、第9回には各自に課したレポートを元にプレゼンテーションと討議を実施します（レポートは4000～6000字程度、テーマや書き方は第2回で指示します）。なお、一方通行の講義にならないように毎回のオンライン入力回答結果をライブ授業でフィードバックするなど双方向性に留意し、またライブ授業では積極的に対話を行い、特に事例検討では能動的な授業参加を期待します。						
履修条件等	ミクロ経済学を履修していることが望ましい。なお、簡単な微分等の計算に関する基礎知識があれば授業理解に有用です。ただし授業中に平易な解説を加えるため、これらは必須ではありません。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	6/9 公的規制とは何か（公的規制の目的・対象・手段、主体とプロセス、経済的規制と社会的規制、「公益事業」）						
2	6/14 公的規制の経済理論的根拠（「市場の失敗」、自然独占、外部経済、公共財、情報偏在、リスク、「政府の失敗」）						
3	6/16 料金規制（1）- 料金水準論（料金設定方式と経済厚生、伝統的なROR規制の意義と問題）						
4	6/21 料金規制（2）- 料金体系論（料金体系の種類と考え方、ラムゼー価格、価格差別、非線型料金）						
5	6/23 インセンティブ規制（インセンティブ規制の種類、価格上限規制、ヤードスティック規制、契約理論の考え方）						
6	6/28 参入・退出規制（数量規制、免許入札制、「産業政策」と規制）、独占禁止の法と経済						
7	6/30 規制改革と競争促進（1）- 規制改革の考え方と歴史的推移（技術進歩、コンテストブル市場、規制改革の経緯）						
8	7/5 規制改革と競争促進（2）- 対等競争条件の整備（ボトルネック規制、内部相互補助、排他的行為、非対称規制）						
9	7/7 ケース・スタディとプレゼンテーション（各自がテーマを選んで報告・討議）						
10	7/12 事例検討（1）- 電力・エネルギー産業						
11	7/14 事例検討（2）- 放送・電気通信産業						
12	7/19 事例検討（3）- 運輸・交通産業						
13	7/21 社会的規制の理論と事例検討（1）- 健康と安全						
14	7/26 社会的規制の理論と事例検討（2）- 環境						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート試験	40	レポート提出形式の試験を行います。評価基準は、理論的思考・分析ができれば100点満点中70～79点、理論的根拠のある応用思考・分析ができれば80点以上			授業レポート	30	授業中の指示に従ってレポートを書きます。評価基準は、自身の考察を加えていて独自性があるものが30点満点、資料等で一通り調べたものは10～15点目
授業中の平常点	30	オンライン型の授業中に課す小テスト形式の課題などを通じた、参加態度、理解度、授業への貢献について評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習については、リーディング・アサインメントで少なくとも1週間前の授業時に必読文献と参考文献とを指定するので該当部分を読んでください（準備学習の目安は各120分程度）。事後学習については、オンライン入力形式で演習問題やクイズを出しますので必ず回答してください。				オンライン型の授業のため、授業中のチャット、メールなどによる質問等を歓迎します。またアンケートなども用意するので、積極的に活用してください（詳細は第1回授業で説明します）。			
教科書・テキスト	本授業は作成資料を中心として行うため特に教科書は使いませんが、準教科書として次を指定します。 公益事業学会編【2020】、『公益事業の変容』、関西学院大学出版会。（ISBNコード：9784862833082）			受講生に望むこと	規制について考えることは日常あまりありませんが、実は経済・社会にとっても重要な役割を果たしています。本授業では事例検討を取り入れるため、主体的で積極的な授業参加を求めます。好奇心を持ってチャレンジしてください。		

<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>参考書として次を指定するので各人のレベルと必要に応じて自習に用いてください。一部の内容は授業中に説明します。 穴山梯三著 [2005]、『電力産業の経済学』、N T T 出版。(電子書籍版、ISBN: 9784757121430) Decker, C. [2015], Modern Economic Regulation -An Introduction to Theory and Practice-, Cambridge University Press. (ISBN:9781107699069) Viscusi, W. K., J. E. Harrington, and J. M. Vernon [2005], Economics of Regulation and Antitrust, 4th Edition, MIT Press. (ISBN:9780262220750) Sherman, R. [2008], Market Regulation, Pearson/Addison-Wesley. (ISBN:9780321322326) 上記以外の文献については授業中に別途指定します。</p>	<p>その他・ 特記事項</p> <p>2学期開講科目のため、本年度はライブ形式とオンデマンド形式を併用するオンライン型の授業となります。この講義の扱うテーマは、理論的分析の基礎となるミクロ経済学、公共経済学、ビジネス・エコノミクス、産業組織論などと関連を持っています。これらの科目と併せて学ぶことで、より一層豊かな知識や応用力を得ることが期待できます。 担当教員は、企業等における規制や制度の分析に係る実務経験を有しており、事例紹介等を積極的に行います。</p>
-----------------------	--	---

授業科目	数理統計学						
担当教員	鶴田 靖人			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
統計的思考力とは、データ(という客観的事実)を分析しマネジメントの役に立つ情報を得る力であり、この授業では統計的思考力を身につけることを目指す。授業の前半ではランダムな現象を読みとけるように確率論を学ぶ。また、確率論は統計手法の性質を説明するために欠かせないものでもある。授業の後半では現象の特徴の把握・仮説の妥当性の検証・現象のモデル化のための統計分析手法を学習する。データ分析では統計分析ソフトである「R」を用いて行う。Rの操作方法を学ぶことで実際のデータを分析する力を身につけることができる。				確率論の基礎を学ぶことでランダムな現象を理解する力を身につける。仮説検定や重回帰分析などの統計分析手法を習得し、統計的思考力を養う。			
キーワード	確率、統計分析、仮説検定、重回帰分析						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式で行います。演習は7回までは計算問題を解きます。8回以降の演習では統計ソフトRを用いて分析します。						
履修条件等	履修条件はないが、経営統計学入門などの授業を履修し、統計学の基礎知識を修得した上で受講するのが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	確率とは何か 確率の定義、順列、組み合わせ						
2	確率の性質(1) 標本空間、加法定理、乗法定理						
3	確率の性質(2) ベイズの定理						
4	確率変数と確率分布(1) 確率変数、確率分布、期待値						
5	確率変数と確率分布(2) 分散、共分散、相関係数						
6	離散確率分布 二項分布、ポワソン分布						
7	連続確率分布 正規分布、t分布、カイ2乗分布						
8	標本抽出(PC演習) 記述統計量、箱ひげ図、標本抽出						
9	仮説検定(PC演習) 平均値の検定、平均値の差の検定						
10	単回帰分析(1)(PC演習) 最小2乗法、決定係数						
11	単回帰分析(2)(PC演習) パラメータの検定、パラメータの区間推定						
12	重回帰分析(1)(PC演習) 自由度調整済み決定係数、パラメータの推定、多重共線性						
13	重回帰分析(2)(PC演習) 偏相関係数、ダミー変数						
14	まとめ(PC演習)						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題	35	基礎知識の理解度に応じて評価する		期末試験	50	基礎知識の理解度および学んだ知識の応用力に応じて評価する	
平常点	15	授業に関するコメントなどを基に授業の理解度に応じて評価する					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
指定された課題に取り組んでください。 授業の理解を深めるために予習・復習に取り組むことが望ましいです。				質問はメールで行ってください。 tsuruta.yasuhi to@u-nagano.ac.jp オフィスアワーを設けます(日時は授業で説明)			
教科書・テキスト	宮川公男著「基本統計学 第4版」有斐閣			受講生に望むこと	1回目から7回目までは電卓を使用します。 8回目から14回目まではPCを使用します。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	経営統計学入門などの授業を履修し、統計学の基礎知識を修得した上で受講するのが望ましいです。 平均、分散、中位数(中央値)、相関係数などの記述統計量を理解している必要があります。		

授業科目	企業と法						
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義では、企業を取り巻く法制度に関する入門・基礎的内容を概括して学習する。 まず、法学入門の内容を学習したのちに、法領域ごとの基礎的内容を学習する。 具体的には、総論、企業の組織に関する法領域、情報開示に関する法領域、資金調達に関する法領域、企業の取引に関する法領域、企業と労働者に関する法領域、企業と市場に関する法領域、企業の知的財産権に関する法領域、企業と訴訟に関する法領域について、初歩的な理解をするための学習をする。</p>				<p>企業を取り巻く法制度の入門・基礎的内容について理解をし、説明できるようにすることを教育目標とする。</p>			
キーワード	企業と法、法学入門、会社法、金融商品取引法、知的財産法、経済法、独占禁止法、労働法、民法、消費者契約法						
教授方法	<p>オンデマンド型をメインとし、同時型でそのフォローを行う。 受講を検討、希望する学生は、Glexaにログインして「企業と法」クラスのコンテンツを参照。(1、2回目は全員アクセスOK)。 https://glexa.u-nagano.ac.jp (ログインのIDとパスワードは、大学MSN365システムと同じです。) オンデマンド型：Glexaにアップロードされた教材(講義の動画、資料等)を受講者各自が参照して学習する。 各回の視聴期間は、原則1週間とする。この期間内に、視聴して学習すること。 同時型：講義内容の理解の確認や質疑応答を行う。Zoom等を使う予定。 説明をした上で、変更をする可能性がありますので、留意すること。</p>						
履修条件等	特になし。(ただし、他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的となり得る。)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	法学入門 (総論)						
3	法学入門 (企業と法の関わり)						
4	企業と法 (企業の類型と法)						
5	企業と法 (大規模公開会社と法)						
6	企業と法 (企業情報の開示と法)						
7	企業と法 (企業の資金調達と法)						
8	企業と法 (企業による取引と法)						
9	企業と法 (企業と労働者と法)						
10	企業と法 (企業と知的財産と法)						
11	企業と法 (企業と市場)						
12	企業と法 (企業と国際取引)						
13	企業と法 (企業と訴訟)						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト	100	講義の内容(企業を取り巻く法制度の入門・基礎的内容)を正確に理解し、把握しているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
特になし。				原則として、オフィス・アワーに対応する。			
教科書・テキスト	<教科書> 特に指定しない。教員の作成するレジュメ及び資料を配布する。 <参考書> 高橋和之ほか『法律学小辞典(第5版)』(有斐閣、2016) (このほかに最新の六法を携帯することが望ましい。(有斐閣ポケット六法等))			受講生に望むこと	楽しみながら、学びましょう。法学は、現実の社会事象や事例と直結している学問領域です。要点さえつかめば、とても面白いです。		

参考書・ 参考資料等	特になし。必要時には、講義中に案内する。	その他・ 特記事項	説明した上で、授業計画及び内容を変更すること もあり得る。受講希望者は、Glexaにログインして 「企業と法」クラスのコンテンツを参照ください。 https://glexa.u-nagano.ac.jp
---------------	----------------------	--------------	---

授業科目		契約法					
担当教員		栗田 晶		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生		グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標			
<p>契約とは権利変動の発生原因となる当事者間の合意をいう。講義では、各種契約類型に共通する問題として、契約が成立するための要件、債務不履行の際の債権者の救済手段等について検討する。続いて、財産権移転型契約、使用供与型契約、役務提供契約を中心に、各種契約類型に固有の諸問題についての検討を行う。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則（第3編第1章）の一部（債権の目的、債務不履行に基づく損害賠償）と契約（第3編第2章）に相当する。歴史的背景と関連付けながら現在の解釈論を伝える。</p>				<p>この授業は、受講生が、契約法上の諸制度に関して、制度趣旨や学説判例についての正確な理解をもとに説明することができるようになることを目的とする。また、比較的簡単な事案について契約法に関する規範にそくして解決を導くことができるようになることを目的とする。</p>			
キーワード		契約、債務不履行、売買、賃貸、請負					
教授方法		講義					
履修条件等		特になし					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	契約の意義						
2	契約の成立 契約の成立と方式、申込の誘引、契約の解釈						
3	契約の効果 契約に基づく債権債務関係の発生、債権の意義と種類、債権の権能について						
4	契約不履行の場合の救済手段（1） 履行請求権、履行不能、同時履行の抗弁について						
5	契約不履行の場合の救済手段（2） 損害賠償請求権（損害賠償の要件について）						
6	契約不履行の場合の救済手段（3） 損害賠償請求権（損害賠償の範囲について）						
7	契約不履行の場合の救済手段（4） 解除の要件について						
8	債務不履行の場合の救済手段（5） 解除の効果、危険負担について						
9	財産権移転型契約（1） 売買						
10	財産権移転型契約（2） 売買、贈与、交換						
11	使用供与型契約（1） 賃貸借						
12	財産権移転型契約（2） 賃貸借、使用貸借						
13	役務提供契約 雇用契約、請負契約、委任契約						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	基本的な事柄について、最低限度の理解を示していれば60%、概ね理解できていれば70%、十分に理解していれば80%、十分に理解したうえで、深い考察		授業への取組み	10	予め配布したケースを中心に授業の中で受講者に質問を提示する。受講生の授業参加への積極性や回答内容に応じて評価する。	
期末試験	40	基本的な事柄について、最低限度の理解を示していれば60%、概ね理解できていれば70%、十分に理解していれば80%、十分に理解したうえで、深い考察					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習復習のためのケースを配布する。1回あたりに配布するケースの分量は、おおよそ1時間で検討可能な程度である。講義内でもケースについて触れるため、各自、予め検討しておくこと。				講義終了後に質問に対応する。			
教科書・テキスト	特になし(授業ではレジュメを使用する)。			受講生に望むこと	事前に配布するケースについて検討しておくこと。		
参考書・参考資料等	2017年に民法改正があったため、改正民法に対応したものか否かに注意すること。なお、窪田允見・森田宏樹編『民法判例百選II 債権』[第8版]』（有斐閣、2018年）は改正にかかわらず価値がある。改正に対応しているものとして、平野裕之『コア・テキスト民法 債権総論』（新世社、第2版、2017年）、『コア・テキスト民法 契約』（新世社、第2版、2018年）。その他については、授業において指示する。			その他・特記事項	講義は条文を手元に受講すること。条文から条文に飛ぶため、コンパクト六法など紙媒体のものを手元に置く必要がある。インターネットでも条文を入手することはできるが、その場合にもせめて民法399条-422条の2、民法521条-724条の2までについては印刷しておくことが望ましい。		

授業科目		労働法					
担当教員		弘中 章		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生		グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標			
<p>労働法とは、働く現場で発生する諸問題を扱う法分野です。本講義では、労働法の基本原則や関係法令の内容を解説します。できるだけ事例に即した説明を心がけ、受講生が労働法を具体的に理解できる形で進めます。本講義を通じて、自ら雇用され、あるいは誰かを雇用する際に、労働法を遵守する（させる）姿勢と、それに必要な知識を身につけることが目標です。</p> <p>なお、労働法といっても、「労働法」という名前の法律があるわけではなく、多種多様な法令によって構成されていますが、本講義では、このうち、労働契約法、労働基準法を重点的に勉強します。</p>				<p>労働法の基本原則・関係法令の内容を理解し、シンプルな事例について、労働法違反の有無を判断できるようになること。</p>			
キーワード	労働契約、採用内定、解雇、懲戒、労働条件、賃金、労働時間、雇用平等、ハラスメント防止、過労死・過労自殺、労働組合、労働審判						
教授方法	教員作成のレジュメ又はスライドに基づいて講義します。						
履修条件等	履修にあたっては、民法における「契約」の考え方が身につけていることが望ましいです。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	イントロダクション。労働法とは何か、労働法を学ぶ意義、労働法の全体像について解説します【教科書第1章】。						
2	雇用を取り巻くルールの種類・特徴、労働法の登場人物（当事者）を扱います。この中で、強行法規・就業規則とは何か、「労働者」や「使用者」の概念について勉強します【教科書第2章、第3章】。						
3	「入社から退職まで」（その1）。労働契約の始まりの段階である「採用」に関連する問題を勉強します【教科書第4章】。						
4	「入社から退職まで」（その2）。労働契約の終了の段階である「退職」「解雇」に関連する問題を勉強します【教科書第7章】。						
5	「入社から退職まで」（その3）。労働契約が継続している間の段階で生じる人事の問題を取り扱います。具体的には、出世（昇進・昇格）、転勤（配転）、出向、休職、懲戒の問題を取り上げます【教科書第5章、第6章のうち（6.1）】。						
6	労働条件（1）。賃金に関わる問題を勉強します【教科書第8章】。						
7	労働条件（2）。労働時間を規制するルール（原則と例外）を勉強します【教科書第9章】。						
8	労働条件（3）。休暇・休業の問題を勉強します【教科書第10章】。この中で、年休、産休・育児・介護休業を取り上げます。						
9	労働条件（4）。「労働者の安全・健康」というテーマを取り扱います。この中で、労災補償の仕組みや、過労死・過労自殺の問題を勉強します【教科書第13章】。						
10	「労働条件の変更」を取り上げます【教科書第11章】。労働条件の変更とは、例えば、当初の契約で決まっていた賃金額が減らされるといった場面を指しますが、この場面でどういった点が問題になるのか勉強します。						
11	「非正規雇用」の問題を取り上げます【教科書第12章】。契約社員、パート、アルバイト、派遣社員というように、いわゆる「正社員」ではないタイプの労働者についてどのような問題が生じるのか勉強します。						
12	人権保障・雇用平等・ハラスメントの問題を取り上げます【教科書第14章、第6章のうち（6.2）】。雇用の場面でも、人権保障や、平等、個人の尊厳の確保が求められることを勉強します。						
13	労働組合・労働協約・不当労働行為【教科書第15、第16章】。労働者が集まって結成する労働組合をめぐって、どのような問題があるのかを勉強します。						
14	労働紛争解決のための諸手続と、全体のまとめ【教科書第17章】。労働紛争にはどのような種類のものがあるか、各種紛争が起こった場合にはどのような解決制度・手続が用意されているかを見ていきます。その上で講義全体の振り返りを行い、「まとめ」とします。						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている（90点以上）。【A】基本的な到達目標を十分に達成している（80点以上）。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している（70点以上）。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している（60点以上）。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である（59点以下）。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	100	択一式問題と記述・論述問題を組み合わせた試験を実施します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 事後学習：講義で使ったレジュメ・スライドを読み返すこと。				講師にメールを下さい。 メールアドレスは、hironaka-61@islo.jp			
教科書・テキスト	原昌登「コンパクト労働法【第2版】」（新生社・2020年）			受講生に望むこと	労働法は身近な法分野であり、皆さんそれぞれに関わります。まずは、自分の問題としてとらえて下さい。法律がでてきたら、「六法」を引いて条文にあたる癖をつけて下さい。できればコンパクトな六法を購入し、毎回の講義に持参してほしいのですが、無理であれば、インターネットを活用して下さい。インターネットでも簡単に法典にあたることができます。		
参考書・参考資料等	各種六法。 その他の参考文献は講義の中で適宜案内します。						

その他・
特記事項

担当講師は現役の弁護士でもあります。現場の経験を活かした講義をしたいと思っています。

授業科目	法政策学						
担当教員	宮森 征司			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルシフト	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>公共政策の策定及び実施にあたり、法が持つ影響力を度外視することはできない。そもそも、法そのものが政策的な意味を多分に含んでいる。このような素朴な視座に立脚した上で、本講義では、法と公共政策、その相互関係に着目し、地方自治体の現場で生じている具体的な政策課題を取り上げながら、講義を行う。</p>				<p>具体的政策課題との関係において、法的問題の所在を指摘し、又は、発見するための視座を養うこと。</p>			
キーワード	法政策、政策法務、自治体、行政法						
教授方法	基本的には講義形式を想定しているが、講義の実施方法・状況を踏まえながら、双方向的な手法を取り入れる可能性がある。						
履修条件等	特になし。ただし、本講義で扱う内容みれば、行政法の講義を受講している等、行政法に関する基礎的知識があることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス;法政策学の基礎知識						
2	法政策学の基礎知識						
3	法政策学の基礎知識						
4	食品安全と法政策						
5	エネルギー政策（原子力）と法政策						
6	エネルギー政策（再生可能エネルギー）と法政策						
7	地域公共交通と法政策						
8	公の施設の設置・管理・運営と法政策						
9	上下水道の設置・管理・運営と法政策						
10	自治体電力の運営と法政策						
11	空き家の撤去・再利用と法政策						
12	タバコと法政策						
13	文化財保護と法政策						
14	講義全体の振り返り						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
コメントシート	30	毎回講義後、コメントシートを実施し、コメントの内容、コメントの積極度などを総合的に踏まえて評価する。		期末レポート	70	講義内で期末レポート課題を事前提示する。講義内のテーマに関する理解（20%）、講義内のテーマに関連した課題を論ずる力（40%）、政策課	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
新聞記事などを読んで、自分の考えをまとめてくることを予習課題とすることがある。				授業中、授業の前後に受け付ける。質問等に時間がかかるときには、事前にメール等でアポイントメントをとること。			
教科書・テキスト	指定しない。			受講生に望むこと	・自身の進路や就職活動と結び付けながら、政策問題の所在とその解決策を探ろうとする主体的・積極的なスタンスが期待される。		
参考書・参考資料等	<p>法政策学に関する理論書として、 ・平井直雄『法政策学 法制度設計の理論と技法〔第2版〕』（有斐閣、1995年）絶版のため購入は困難。</p> <p>行政法的な観点からの入門書として、 ・深澤龍一郎『公共政策を学ぶための行政法入門』（法律文化社、2018年）2,500円＋税</p>			その他・特記事項	<p>シラバスに提示した政策テーマは、シラバス作成時における講義担当者の計画である。講義実施時の社会状況、受講生の理解度、授業内で述べられた受講生の希望などによって、順序の入れ替えや内容の変更を行う可能性がある。</p> <p>担当教員の専門性との関係上、講義内容は自ずと、行政法学の学問的観点、立法者の視点、自治体職員立場に基づくものとなるものと思われる。経営</p>		

<p>法政策学に関する理論書として、 ・平井宜雄『法政策学 法制度設計の理論と技法〔第2版〕』（有斐閣、1995年）絶版のため購入は困難。 行政法的な観点からの入門書として、</p>	<p>シラバスに提示した政策テーマは、シラバス作成時における講義担当者の計画である。講義実施時の社会状況、受講生の理解度、授業内で述べられた受講生の希望などによって、順序の入れ替えや内容の変更を行う可能性がある。</p>
---	--

授業科目	商法						
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義では、今日の代表的な企業組織形態である株式会社の法制度について学習する。 学習にあたっては、法制度の趣旨（なぜ、その法制度が存在するのか）を理解することに重きを置きながら、内容（どのような法制度が存在するのか）について理解を深める。 具体的には、会社法の役割、株式、会社のガバナンス、取締役等会社役員の実務、会社法上の訴訟制度、会社の組織変更といった内容を取り扱う。このほかに、いわゆる大規模公開会社に関するルールについての理解を促すために、資本市場と会社との関係という視点からも学習をする。</p>				<p>株式会社に關する法制度を理解し、身近な生活及び時事問題の中の会社法と關連する出来事に関心及び問題意識を持ち、分析をする能力を身につけることを教育目標とする。</p>			
キーワード	会社法、会社の種類、有限責任、資金調達、設立、株式会社、株式、ガバナンス、計算、解散と清算						
教授方法	<p>オンデマンド型をメインとし、同時型でそのフォローを行う。 受講を検討、希望する学生は、Glexaにログインして「商法」クラスのコンテンツを参照。（1、2回目は全員アクセスOK）。 https://glexa.u-nagano.ac.jp（ログインのIDとパスワードは、大学MSN365システムと同じです。） オンデマンド型：Glexaにアップロードされた教材（講義の動画、資料等）を受講者各自が参照して学習する。 各回の視聴期間は、原則1週間とする。この期間内に、視聴して学習すること。 同時型：講義内容の理解の確認や質疑応答を行う。Zoom等を使う予定。 説明をした上で、変更をする可能性がありますので、留意すること。</p>						
履修条件等	特になし。（ただし、『企業と法』等の他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的になり得る。）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（本科目の履修にあたって。株式会社とは。会社法の役割。）						
2	会社の設立1（設立とは。設立の種類。発起人及び定款。）						
3	会社の設立2（設立に関する責任。会社の不成立及び設立無効の訴え。）						
4	株式1（株式とは）						
5	株式2（種類株式制度）						
6	ガバナンス1（総論、株主総会）						
7	ガバナンス2（、取締役・取締役会、監査役・監査役会）						
8	ガバナンス3（三委員会型、監査等委員会型）						
9	計算（資本金、剰余金の配当、計算書類）						
10	資金調達1（募集株式の発行とは）						
11	資金調達2（社債とは）						
12	基礎の変更1（会社の合併及び分割）						
13	基礎の変更2（株式交換・株式移転）						
14	解散と清算						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト	100	講義の内容（株式会社の法制度）を正確に理解し、把握しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
特になし。				原則として、オフィス・アワーに対応する。			
教科書・テキスト	<p><教科書> 特に指定しない。教員の作成するレジュメ及び資料を配布する。 <参考書> 江頭憲治郎『株式会社法（第7版）』（有斐閣、2017） 伊藤靖史ほか『リーガルクエスト会社法（第4版）』（有斐閣、2018）等 （必要に応じて、講義中に別途紹介する。）</p>			受講生に望むこと	<p>会社法は、現実の企業社会（特に、会社という形態を用いるビジネス全般）の動きと直結した学問領域です。普段から、経済関連の報道等に目を向けながら学習すると、理解を深めやすくなります。自身の関心（たとえば就職活動等）と絡めて情報収集しながら、楽しく学びましょう。</p>		

<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>必要に応じて、講義中に紹介する。</p>	<p>その他・ 特記事項</p>	<p>1 講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。 2 インターン・シップ参加のため、講義を欠席する場合には、大学の方針にしたがって対応するので、適宜、申し出ること。</p>
-----------------------	-------------------------	----------------------	---

授業科目	知的財産法						
担当教員	倉崎 哲矢			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
本講義では、知的財産法のうち、主として特許法及び著作権法を取り上げ、これら法律の基本的知識を学ぶと共に、実務上の問題点を検討する。また、知的財産法の理解に関し、物権、債権など民法上の財産権との比較の視点も重要と考えるので、必要に応じ、これらについても検討する。				法文及び判例の規範を正確に理解し、具体的事案に対し正確に適用し、適切に処理できる（現場で実践できる）レベルに達することを目標とする。			
キーワード	特許法、著作権法、意匠法、商標法、不正競争防止法						
教授方法	講義						
履修条件等	特に無し						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	序説として、知的財産法全体を概観する。						
2	【特許法】 発明該当性について検討した上で、特許要件について検討する。						
3	【特許法】 発明者・冒認出願・職務発明について検討する。						
4	【特許法】 出願、審査・審判について検討する。						
5	【特許法】 権利の活用について検討する。						
6	【特許法】 特許攻防について検討する。						
7	【著作権法】 著作物性について検討する。						
8	【著作権法】 著作者・職務著作について検討する。						
9	【著作権法】 著作権の内容について検討する。						
10	【著作権法】 著作権制限について検討する。						
11	【著作権法】 著作者人格権について検討する。						
12	【意匠法】 意匠制度について概観する。						
13	【商標法】 商標制度について概観する。						
14	【不正競争防止法】 不正競争防止法について概観する。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	基礎知識・法的処理能力の習熟度に応じて評価する。		授業レポート	50	基礎知識・法的処理能力の習熟度に応じて評価する（レポートは全部で2回行い、1回につき25%を配分）。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
次回講義予定の範囲について予習をする。 特許法及び著作権法について、それぞれの範囲終了頃を目安としてレポートの課題を示します（特許法及び著作権法について各1回レポート）。				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	『知的財産法入門 第3版』茶園成樹編 有斐閣 2020			受講生に望むこと	毎回、六法を持参する（判例付でないコンパクトなもので構いません。ポケット六法等）。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配付する。			その他・特記事項	約15年間弁護士業務に従事し、その間知的財産法に関しては、信州大学法科大学院で教壇に立った他、独立行政法人工業所有権情報・研修館が運営する知的財産総合支援窓口の相談担当弁護士として、様々な内容の相談に対応しております。		

授業科目		比較法制度論					
担当教員	米田 保晴			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>各国の法制度は、その国の歴史や社会的環境を反映しており、共通の課題に対して異なる対応をしている場合が多いといえます。他方、現代的課題については、類似の対応をする場合もあります。</p> <p>本講義では、日本、アメリカ、欧州(特にドイツ)の法制度について、最初に各国の法制度の歴史や特徴を概観し、次に、憲法および会社法を中心に制定の背景や内容を学び、相互に比較します。加えて、他国の影響の下に成立した日本法上の重要な法制度について、他国の法制度と比較しながら学習します。</p> <p>Comparative Study of Legal Systems</p>				<p>本講義の到達目標は、日本と外国(特にアメリカ、ドイツ)の法制度を比較しながら学ぶことにより、日本および外国の法制度を深く理解するとともに、ものごとについてのグローバルな視野を育むことです。</p>			
キーワード	法の継受、各国憲法、各国会社法、信託、基本的人権						
教授方法	本講義においては、講師が講義を行う他、適宜当てて受講生に発言を求めます。自分の意見をはっきりと述べることも、この授業で学習してください。						
履修条件等	特にありません。(ただし、他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的になりえます。)						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	授業の概要・明治以降の日本の法制度の歴史(1)：授業の全体像や受講方法について説明した後、明治時代以降の日本の法制度の歴史について学習します。						
2	明治以降の日本の法制度の歴史(2)：第1回に引き続き明治時代以降の日本の法制度の歴史について学習します。						
3	大日本帝国憲法：大日本帝国憲法(明治憲法、1889年発布)の制定過程と内容について学習します。						
4	日本国憲法：日本国憲法(1946年11月3日公布、1947年5月3日施行)の制定過程と内容について学習します。						
5	ドイツの法制度：ドイツ帝国建設(1871年)以降のドイツの法制度の歴史と内容について学習します。						
6	ドイツ憲法：ドイツ帝国憲法(1871年発布)、ドイツ連邦共和国基本法(1949年公布)を中心にドイツの憲法を学び、日本の憲法と比較します						
7	アメリカの法制度：アメリカの建国(1776年独立宣言)以降のアメリカの法制度の歴史と内容について学習します。						
8	アメリカ合衆国憲法：アメリカ合衆国憲法(1787年署名、1788年発効)を学び、日本の憲法と比較します。						
9	日本の会社法：日本の会社法の制定過程、歴史、内容を学習します。						
10	アメリカの会社法：アメリカの会社法の内容を学び、日本の会社法と比較します。						
11	ドイツ等の会社法：ドイツ等の会社法の内容を学び、日本の会社法と比較します。						
12	特定のテーマ(1)：不動産物権変動等外国法の影響の下に制定された日本の法制度について、影響を与えた国の法制度と比較しながら学習します。						
13	特定のテーマ(2)：信託等外国法の影響の下に制定された日本の法制度について、影響を与えた国の法制度と比較しながら学習します。						
14	特定のテーマ(3)：平等権等基本的人権について日本と外国の状況を比較しながら学習します。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	授業で学習した内容の理解度に応じて評価します。		小テスト	30	複数回小テストを行い、理解度に応じて評価します。	
上記以外の授業評価	30	授業への参加態度や授業中の発言内容により評価します。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>受講生は、各授業の前に教科書、レジュメ、配布資料の当該授業の部分を読み、疑問点があれば、「？」マークを付けて授業に臨んでください。また、授業の後に学んだことを復習し、疑問点があれば講師に質問(次回の授業の後またはメール)し、疑問点を残さないように努めてください。</p>				<p>疑問点は、授業の後に直接講師に質問するか、講師にメール(メールアドレス：yonedayasuharu@gmail.com)で質問してください。メールの場合は、必ず受講者名を明記してください。メールに返信するか、授業の中で話すという形で答えします。</p>			
教科書・テキスト	初宿正典・辻村みよ子編『新解説 世界憲法集 第5版』(三省堂、2020年、2700円+税)			受講生に望むこと	授業には必ず予習をして臨んでください。また、授業には教科書、レジュメ、配布資料を必ず持参してください。		
参考書・参考資料等	教科書以外に授業に必要な資料および授業のレジュメは、適宜講師が配布します。参考書については、適宜授業で紹介します。			その他・特記事項	授業では自分の意見をはっきり述べるように努めてください。		

授業科目	金融商品取引法						
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義では、金融商品取引法の内容を中心とした金融・資本市場に関する法制度について学ぶ。 学習にあたっては、法制度の趣旨（なぜ、その法制度が存在するのか）を理解することに重きを置きながら、内容（どのような法制度が存在するのか）について理解を深める。 具体的には、総論、企業の情報開示制度（発行開示・流通開示、会計・監査・内部統制、TOB制度、5%ルール制度）、不正取引の禁止（インサイダー取引等）、市場の担い手に対する規制といった内容を取り扱う。 このほかに、必要に応じて、自主規制機関（金融商品取引所、証券業協会その他）によるルールについても学び、資本市場法制全体の理解に繋げる。</p>				<p>資本市場と関連法制の仕組みについて理解をし、身近な生活及び時事問題の中の資本市場法制と関連する出来事に関心及び問題意識を持ち、分析をする能力を身につけることが本講義の教育目標である。</p>			
キーワード	金融商品取引法、金融資本市場、資本市場、取引所、有価証券、ディスクロージャー、TOB、5%ルール、インサイダー取引、相場操縦、公認会計士監査						
教授方法	<p>オンデマンド型をメインとし、同時型でそのフォローを行う。 受講を検討、希望する学生は、Glexaにログインして「金融商品取引法」クラスのコンテンツを参照。（1、2回目は全員アクセスOK）。 https://glexa.u-nagano.ac.jp（ログインのIDとパスワードは、大学MSN365システムと同じです。） オンデマンド型：Glexaにアップロードされた教材（講義の動画、資料等）を受講者各自が参照して学習する。 各回の視聴期間は、原則1週間とする。この期間内に、視聴して学習すること。 同時型：講義内容の理解の確認や質疑応答を行う。Zoom等を使う予定。 説明をした上で、変更をする可能性がありますので、留意すること。</p>						
履修条件等	特になし。ただし、商法（会社法）を履修することが望ましい。（また、他の法学系科目を履修済みであれば、学習が効率的になり得る。）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	有価証券の概念						
3	発行市場の規制（総論）						
4	発行市場の規制（開示規制と行為規制）						
5	流通市場の規制（総論）						
6	流通市場の規制（開示規制と行為規制）						
7	会計・監査・内部統制						
8	公開買付け（TOB）						
9	大量保有報告書（5%ルール）						
10	不正取引の規制						
11	金融商品取引業者の規制						
12	金融商品仲介業者の規制						
13	金融商品取引所の規制						
14	自主規制と行政監督機関の役割						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト	100	講義の内容（金融・資本市場の法制度）を正確に理解し、把握しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
特になし。				原則として、オフィス・アワーに対応する。			
教科書・テキスト	<教科書> 松岡啓祐『最新金融商品取引法講義（第5版）』（中央経済社、2019）			受講生に望むこと	金融商品取引法は、現実の企業社会（特に、上場企業と資本市場）の動きと直結した学問領域です。普段から、経済関連の報道等に目を向けながら学習すると、理解を深めやすくなります。自身の関心（たとえば就職活動等）と絡めて情報収集しながら、楽しく学びましょう。		

<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p><参考書> 黒沼悦郎 『金融商品取引法入門（第7版）』（日経文庫、2018） 近藤光男、志谷匡史ほか 『基礎から学べる金融商品取引法（第4版）』（弘文堂、2018） 松尾直彦 『金融商品取引法（第5版）』（商事法務、2018）等 （必要に応じて、講義中に別途紹介する。）</p>	<p>金融商品取引法は、現実の企業社会（特に、上場企業と資本市場）の動きと直結した学問領域です。普段から、経済関連の報道等に目を向けながら学習すると、理解を深めやすくなります。自身の関心（たとえば就職活動等）と絡めて情報</p>
		<p>1 講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。 2 インターン・シップ参加のため、講義を欠席する場合には、大学の方針にしたがって対応するので、適宜、申し出ること。</p>

授業科目	政治学						
担当教員	駒村 哲			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
政治的現実をダイナミックにかつ実証的に分析することを課題とする政治学とはいかなる学問分野であるか、説明する。				政治学とは何か、体系的に理解する力をつける。日本だけでなく、世界の政治について理解できるようになる。			
キーワード	民主主義、権威主義、独裁主義						
教授方法	講義とともにビデオをみる。						
履修条件等	歴史学及び国際関係論の科目を履修するのが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	政治の世界(1)						
2	政治の世界(2)						
3	政治体制(1)						
4	政治体制(2)						
5	政治過程(1)						
6	政治過程(2)						
7	リーダーシップと行政(1)						
8	リーダーシップと行政(2)						
9	国際政治(1)						
10	国際政治(2)						
11	近代政治の限界(1)						
12	近代政治の限界(2)						
13	政治学への期待(1)						
14	政治学への期待(2)						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	25%	論理的説明がなされている		期末試験	25%	歴史的事実を正確に理解している	
期末試験	25%	オリジナルな見解が説得力を有している		期末試験	25%	講義内容を踏まえて論述している	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前にテキストを読み、問題関心を高め、事後はテキストを読み返す。				講義の前後で対応する。			
教科書・テキスト	『政治学』（新川敏光）有斐閣			受講生に望むこと	主体的かつ積極的に取り組む。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	公共政策学						
担当教員	田村 秀			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義は、国、地方自治体などが行う公共政策に関して、その基礎となる理論及び国、地方の具体的な政策事例を紹介することを通じて、公共経営コースの学生に、政策とはどのようなものであって、どのように立案すべきかについて考えさせることを目標としており、次に開講する公共政策演習のための事前学習の性格も有するものである。具体的には国、自治体勤務の経験を踏まえ、観光政策、まちづくり、交通政策、ふるさと創生から地方創生に至る地域活性化のための政策などを取り上げ、学生の基礎的な政策形成能力の涵養を目指している。</p> <p>英語表記「Public Policy」</p>				<p>ねらい 公共政策の理論と現実の姿を理解することを通じて課題発見力や問題解決力を涵養し、基礎的な政策形成能力を修得できるようになる。</p> <p>到達目標 公共政策の手法について説明できる。 公共政策の事例について、系統立てて説明できる。 公共政策の立案プロセスについて説明できる。</p>			
キーワード	公共政策、地方創生、地域開発、まちづくり						
教授方法	オンラインと対面を併用する講義形式とし、毎回学生に複数回質問するなど双方向方式で実施する。						
履修条件等	原則として、公共経営コースに所属していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	講義内容の説明を行い、政策科学の振り返りを行うとともに、様々な政策手法について説明する。						
2	第2回から第13回まで、各回おおむね2つの政策事例を取り上げ、公共政策の実態について考察する。第2回では戦後の地域開発の歴史と新幹線整備について考察する。						
3	高速道路整備と企業誘致・工業団地整備について考察する。						
4	地方創生とその具体的な取組みとしてみなかみ町の事例について考察する。						
5	オリンピックとスポーツ政策全般について考察する。						
6	ゆとり教育と高校の魅力化など教育政策について考察する。						
7	観光政策について、国や地方自治体の取り組みを中心に考察する。						
8	観光政策について、PRや失敗事例などを中心に考察する。						
9	さまざまな地域における観光政策とアクセス向上のための取り組みを考察する。						
10	まちづくりに関する取組みを考察する（その1）。						
11	まちづくりに関する取組みを考察する（その2）。						
12	まちづくりに関する取組みを考察する（その3）。						
13	まちづくりに関する取組みを考察する（その4）。						
14	講義のまとめを行うとともに、公共政策のあるべき姿について考察する。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業レポート	50	前半の講義に関して、課題を出す。現実の政策に対して客観的な評価ができているかを基準とする。	授業レポート	50	後半の講義に関して、課題を出す。講義内容を踏まえて書かれているかを基準とする。		
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
政策科学の授業の内容を復習する。授業で扱った内容や資料について、自分なりに調べてみる。				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。 ・メールでの質問も受け付ける。 <p>なお、対面とオンラインの併用のため、進行状況によっては、講義内容を変更することが考えられるのであらかじめ承知されたい。</p>			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	公共政策や経済に関するニュースを日頃から読むこと。 行政学、地方自治論、地方行財政演習を受講していることが望ましい。		
参考書・参考資料等	田村秀『自治体崩壊』（イースト新書、2014年）。このほか、資料をWEBサイトから、事前にダウンロードして入手しておくこと。			その他・特記事項	担当教員は、国、地方自治体で実際の公共政策の立案及び実施に携わっている。		

授業科目	公共政策演習					
担当教員	田村 秀・真野 毅・宮森 征司		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>本講義は、本演習は、公共政策学で学んだ政策事例なども参考にしながら、学生がグループワークを通じて実現可能性を有する政策提案を行うことによって、政策形成能力を涵養することを目標とするものである。具体的には、文化、観光、環境の3つのテーマに関して、基調講義（1回）、グループワーク（2回ないし4回）、発表と講評（1回）の4回ないし6回を1クールとして実施する。グループの構成員はクール毎に変えることによってチームワーク力の涵養も目指している。なお、第1回から第6回までを田村が、第7回から第10回までを宮森が、第11回から第14回までを真野が担当する。このうち、田村、真野は公共政策の立案、実施に携わっており、実際に担当した事例などを講義で扱う。</p> <p>英語表記「Public Policy Seminar」</p>				<p>ねらい 実現可能性を有する政策をグループワークによって提案することによって、コミュニケーション・スキル、問題解決力、チームワーク・リーダーシップ、論理的思考力を修得する。</p> <p>到達目標 実現可能性を有する政策提案ができる。 他の学生と協力しながらグループワークをすることができる。 政策形成のプロセスを理解できる。</p>		
キーワード	公共経営、観光、文化、環境、グループワーク					
教授方法	講義と数人のグループによるグループワーク、パワーポイントのプレゼンテーションを組み合わせる。なお、グループのメンバーはテーマごとに変更する。オンラインと対面を併用し、第1回目は対面で実施する。					
履修条件等	原則として、公共経営コースに所属し、公共政策学を履修していること。グループワークを行う関係で、第1回目の講義で受講者を確定します。このため、毎週必ず参加できる学生のみとします。また、途中で履修を放棄することは他の学生の迷惑となるので認めません。、真に公共政策に強い関心を持つ学生のみとします。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	全体講義、公共政策の事例を通じて政策提案のポイントを考察するとともにグループワークの進め方に関する留意点を説明する。また、観光政策に関する現状と課題について基調講義を行う。					
2	観光をテーマにグループワークを行う（第1回）。					
3	観光をテーマにグループワークを行う（第2回）。					
4	観光をテーマにグループワークを行う（第3回）。					
5	観光をテーマにグループワークを行う（第4回）。					
6	グループワークの成果の発表と講評を行う。					
7	文化をテーマに、文化政策の現状と課題について基調講義を行う。					
8	文化をテーマにグループワークを行う（第1回）。					
9	文化をテーマにグループワークを行う（第2回）。					
10	グループワークの成果の発表と講評を行う。					
11	環境をテーマに、環境政策の現状と課題について基調講義を行う。					
12	環境をテーマにグループワークを行う（第1回）。					
13	環境をテーマにグループワークを行う（第2回）。					
14	グループワークの成果の発表と講評を行う。					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業レポート	25	3回のグループワークの内容等についてまとめる。		上記以外の授業評価	75	(グループワークでの各自の貢献10% + プレゼンテーションの内容15%) × 3回
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
グループワークのテーマに関する政策について各自で事前に調べる。必要に応じて、講義以外の時間に集まり、グループワークを行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。 ・メールでの質問も受け付ける。 		
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	公共政策に関心を持っていること。 グループワークに積極的に参画する意欲を持っていること。	

参考書・ 参考資料等	なし。資料は教室で配布する。	その他・ 特記事項	田村は国、三重県等で、真野は豊岡市で、実際の公共政策の立案及び実施に携わっている。
---------------	----------------	--------------	---

授業科目	市民参加論						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	公共経営論						
担当教員	田村 秀			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義は、公共経営コースを総括するものである。具体的には、教科書『地方都市の持続可能性』に基づいて、国、自治体勤務の経験を踏まえ、地方都市における公共経営の変遷を歴史的に概観し、現状と課題を論じるとともに、市町村合併や道州論など自治体の適正規模に関する議論も踏まえ、ガバナンスの時代における公共経営のあり方について学生が考察を深めることを目標としている。</p> <p>英語表記「Public Management」</p>				<p>ねらい 公共経営が多様なアクターで営まれるという多面性を理解することを通じて、公共経営分野の知識が体系的に理解できるようになる。</p> <p>到達目標 公共経営が持つ多面性を説明できる。 特に地方都市における公共経営の課題を説明できる。</p>			
キーワード	公共経営、都市、持続可能性、ガバナンス						
教授方法	対面式とオンライン（ズーム）の併用による講義形式とし、毎回学生に質問するなど双方向方式で進める。						
履修条件等	原則として、公共経営コースに所属していて、公共政策論及び公共政策演習の単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	講義内容の説明を行うとともに、公共経営の概念について論じる。						
2	第1章「データでみる東京のひとり勝ち」について論じる。						
3	第2章「だれが都市を殺すのか」について論じる（その1）。						
4	第2章について論じる（その2）。						
5	第3章「国策と地方都市」について論じる（その1）。						
6	第3章について論じる（その2）。						
7	第4章「都市間競争の時代へ」について論じる（その1）。						
8	第4章について論じる（その2）。						
9	第5章「人口減少時代に生き残る都市の条件」について論じる。						
10	長野県内の市町村における公共経営の現状と課題について論じる。						
11	長野県外の市町村における公共経営の現状と課題について論じる。						
12	公共経営における自治体職員の果たすべき役割について考察する。						
13	公共経営における首長や地方議員の果たすべき役割について考察する。						
14	全体の振り返りを行い、公共経営の多面性を改めて論じる。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	100	公共経営の多面性が理解できているかを基準とする。 2回実施する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
公共政策学、公共政策演習の授業の内容を復習する。 授業で扱った内容や資料について、自分なりに調べてみる。				質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前回の授業における質問や意見に対してコメントする。 ・メールでの質問も受け付ける。			
教科書・テキスト	田村秀『地方都市の持続可能性』（ちくま新書、2018年）			受講生に望むこと	地方自治に関するニュースを日頃から読むこと。 行政に関心を持つこと。		
参考書・参考資料等	資料をWEBサイトから事前にダウンロードして入手しておくこと。			その他・特記事項	担当教員は、国、地方自治体で公共経営の実務に携わっている。		

授業科目		地域社会学					
担当教員		築山 秀夫		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次		2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生		グローバルメント	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標			
<p>基本的に講義形式で行うが、後半では、学生による能動的学修も組み込む。地域社会を社会的視点でとらえることのできる能力を習得することを目標とする。地域社会学の方法論について解説し、都市・農村それぞれ地域社会の構造や変動、市町村合併による地域社会の変容などについて、地域における生活・人間関係・集団などの諸次元について、多角的に解説する。さらに、少子化・過疎化による人口減少、地域計画とまちづくり、コミュニティの変容など、現代の地域社会に起きている多様な問題群について、社会的にアプローチし、履修者間で、議論しながら、その諸問題の解決策を検討する</p>				<p>現代の地域社会に関する社会的知識を身につけるとともに、地域の課題を観察、分析し、自分なりの解決策を構築できるようになることをねらいとすることをねらいとし、以下を到達目標とする。 地域社会の構造（都市や農村の成り立ちや仕組み）や変動に関して、理解することができる。地域社会における現代的課題の構造を理解することができる。</p>			
キーワード		地域社会学、都市、農村、まちづくり・むらおこし、地域再生					
教授方法		授業は講義を中心に行うが、幾つかのテーマについて、グループに分かれて議論し、発表するなど、アクティブ・ラーニングを取り入れる。					
履修条件等		特になし。社会学を履修していることが望ましい。					
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業の概要と進め方・評価方法、学習方法などについての説明をする						
2	地域社会の現在 地域社会の定義、主要統計からみた日本の地域社会の変動について解説する						
3	地域社会学前史 農村社会学・都市社会学から地域社会学に至る背景について解説する						
4	地域社会学の方法論 地域社会学の主な理論と方法について解説する						
5	第1～4回までの内容について理解度を確認するための小テストを実施する。 地域社会の変動1 都市の構造及び都市化と地域社会の変容について解説する						
6	地域社会の変動2 農村の構造及び過疎化と地域社会の変容について解説する						
7	地域社会の変動3 市町村合併と地域社会の変容について解説する						
8	第5～7回までの内容について理解度を確認するための小テストを実施する。 地域社会の現代的課題1 人口減少に向き合う地域社会について解説する						
9	テーマに関するレポートを提出する。 グループディスカッション1 人口減少に抗う地域社会をテーマにグループで議論する						
10	地域社会の現代的課題2 国土のグランドデザイン・地域計画と地域社会について解説する						
11	地域社会の現代的課題3 まちづくり・むらおこしと地域再生に向き合う地域社会について解説する						
12	テーマに関するレポートを提出する。 グループディスカッション2 まちづくり・むらおこしと地域再生と地域社会をテーマにグループで議論する						
13	地域社会と大学 大学や学生が地域づくりに関わる意義と方法について解説する						
14	まとめ 地域社会をとらえるリテラシーについて 受講者同士のディスカッション						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	50	地域社会を社会的に分析することができ、講義内容を踏まえて、論理的に自己の考えを説明できればAとする。試験が60点以上なければ、他の成績が良		小テスト	20	第5回と第8回の講義時に小テストを実施し、理解度に応じて評価する。	
授業レポート	20	グループディスカッションを実施する第9回と第12回に、それぞれテーマに沿ったレポートを提出して頂き、評価する。全てのレポートが提出されているこ		授業参加度	10	グループディスカッションでの参加度、リアクションペーパーの内容等で評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業時に配布した資料及びノートをよく読み、復習すること。毎回のテーマに関する予習をすること。				授業後やオフィスアワー時に直接受け付ける。また、毎回、フォローアップ課題を提出していただくので、そちらに書いて頂き、次の講義時に解答する。但し、自分でできる限り調べる努力をすること。			
教科書・テキスト		テキストは使用せず、毎回資料を印刷して配布する。		受講生に望むこと		授業中は講義ノートを取ることを。	
参考書・参考資料等		地域社会学会編2011『キーワード地域社会学 新版』ハーベスト社、岩崎信彦・似田貝香門・古城利明・矢澤澄子監修2006『地域社会学講座』（全3巻）東信堂		その他・特記事項		地域社会に関する関心を持ち、新聞等で、地域社会に関する動向を理解しておくこと。	

授業科目		インターンシップ					
担当教員	穴山 悌三			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2・3学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>インターンシップは単なる「職場体験」ではなく、大学における各自の学びを基礎として、実社会においてそれらをどのように活かしていくべきかを探り、また大学で習得すべき学問のあり方についても考える機会となります。この授業は、実習先職場における実践的教育を核として、学習すべき事項や方法を学ぶ事前研修、学んだことを振り返り今後の学習に活かす事後研修とレポート提出を行います。本授業の対象とする実習先は原則として各自の選択により決定し、5～14日間にわたる現場実践プログラムを通じて様々な業務を体験します。</p>				<p>実際の企業や団体での現場・就業体験を通じて、これまでに教科等で学んだ知識・技能の活用可能性を探り、また今後の学習指針の確立等に役立てます。併せて、実務実践過程において主体的な問題発見力・問題解決力を向上させ、社会人基礎力の習得も目指します。更に、将来の進路・方向性について主体的に考え、進路決定のヒントとなる職業観や価値観を育成します。</p>			
キーワード	就業実習、社会人基礎力、問題解決						
教授方法	事前・事後研修は講義と課題への取組みを織り交ぜた形式で行います。主たる授業は実習になります。COVID-19の影響をふまえ、オンライン形式となる場合があります。						
履修条件等	受入れ先のプログラムの全日程に参加すること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	6/30(4限)オリエンテーション：授業の位置付け、事前準備の進め方						
2	7/7(4限)実習先の事前調査：報告と質疑応答						
3	7/14(4限)ビジネスマナー、目標設定、実習にあたっての心構え						
4	7/21(4限)事前準備の深掘り						
5	実習(実習日程・日数は実習先により異なる)						
6	10/12(1限)実習成果の振り返り						
7	10/26(1限)成果報告会等での報告・質疑対応等、成果のまとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
事前・事後研修の平常点	10	事前・事後研修での積極的な発言や課題への取組みなどの平常点を評価します。		実習先での成果	50	実習先ご担当者様のご意見を参考に担当教員が実習先での学習成果について評価します。	
レポート	20	実習後に提出するレポートの内容を評価します。		事後研修での振り返り・発表	20	実習成果の振り返りの内容を評価します。また成果報告会等での優秀な発表には加点します。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>実習先についてのリサーチなどの課題に取り組む。 実習時の記録をハンドブックに記入し提出する。 終了後、レポートを提出する。 成果を発表する。</p>				<p>質問は授業中や授業の前後に受け付けるほか、メールでの質問も可能です。アドレス：career-soudan@u-nagano.ac.jp</p>			
教科書・テキスト	使用しません。			受講生に望むこと	<p>授業では、主体的に課題などに取り組んでください。 実習先では、ルールを順守し、前向きに取り組んでください。 自分があまり知らなかった業界・企業等の実習先では、かえって知見が大きく広がる可能性があります。積極的にチャレンジしてみてください。</p>		
参考書・参考資料等	キャリアセンター作成のハンドブックを使用します。その他は授業中に適宜指示します。			その他・特記事項	<p>本年度は社会的情勢に鑑み、遠隔型の授業形式も用います。詳しくはガイダンス等でお知らせします。実習内容は、実習先により異なります。実習先については、原則としてキャリアセンター指定のリストより選択することになりますが、調整の結果、各自の希望に添えない場合もあります。実習期間は、概ね5日～10日を目標として、実習先プログラムにより異なります。なお本年度の特殊事情により別途同等の教育効果が見込める代案を用意する場合があります。</p>		

授業科目	ゼミナール（野口）						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
自治体に関する制度と公共政策の各国比較研究				諸外国の自治体に関する制度や公共政策について、情報を収集する力、レジュメやパワーポイントを使って発表する力、質問をするなどを身に付けるとともに、各国の制度や政策を比較して考察することで知識を深めることをめざします。			
キーワード	公共政策、比較政治制度、地域研究						
教授方法	毎回、受講生が各自担当する国の制度や公共政策（各回・指定するテーマ）について、発表（5分）を行い、その内容についてお互いに質問したり、比較検討を行ったりするというスタイルでゼミナールを進めます。						
履修条件等	諸外国の制度、政策に関心があること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス：ゼミナールで取り組む内容と進め方						
2	各国の人口・元首						
3	各国の地方自治制度						
4	各国の基礎的自治体（市町村など）						
5	各国の広域自治体（州・県など）						
6	各国の自治体間関係						
7	各国の産業						
8	3学期・4学期以降、担当する国を考える 興味がある国・政策（この回以降「自分が担当する国（ひとつ）」を決めます）						
9	各国の概要						
10	各国の歴史						
11	各国の政治体制						
12	各国の議会・政党						
13	各国の憲法						
14	各国の産業						
15	各国の税制						
16	各国の高齢者に関する福祉政策						
17	各国の子どもに関する福祉政策						
18	各国の男女平等に関する政策						
19	各国の移民政策						
20	各国の教育政策						
21	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
発表内容	70%	信頼できる情報をもとにして、レジュメやパワーポイントをまとめているか、わかりやすく伝えることができたか。			質問をする力	30%	問題意識を持って発表を聞き、わからないことを質問することができたか。
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		

<p><事前学習> 次回の発表に向け、レジメやパワーポイントを作成し、5分間で発表できるようにすること。</p> <p><事後学習> 前回のゼミナールでわからなかった点、さらに知りたい・深めたいと思った点について調べること。</p>	<p>簡単な内容はメールで質問してください。面談を希望する場合は、メールで日時を決め、研究室でお話することになります。遠隔授業の際には、Zoomのチャット機能などを使って質問をしてください。</p>		
<p>教科書・テキスト</p>	<p>なし</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<p>できないこと、したくないことは、遠慮せず、はっきりと「できません。したくありません」と言うこと。 <野口ゼミナール> がついている題名のメールには必ず返信すること。 諸外国の状況に関するニュースをみる習慣を身につけること</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>担当する国に関する書籍・論文・データなどをできるだけたくさん集めて、参考にしてください。</p>	<p>その他・特記事項</p>	<p>日頃から、世界中の社会問題に関心を持ってください。みんながみんなから学び合うゼミにしていきたいと思います。</p>

授業科目	ゼミナール（築山）						
担当教員	築山 秀夫			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>3年・4年のゼミに向けて、ゼミ活動のリテラシーを学ぶ。社会学のテキストを受講生が分担して報告し、皆で討論を行うことで、社会学の方法論及び、社会的思考とは何かについて理解を深める。後半では、まちづくりに関する文献を読み、まちづくりに関する基礎知識をつけ、「ポストコロナ時代のまちづくり」について、議論し、学ぶ。サブゼミとして、フィールドワークを体験する（コロナ禍によってできない場合もある）。門前まちづくりサロンにおいて、市民活動のアクターたちの意見を聞き、議論をする経験を積む。一年間の学びの成果として、「ゼミナール 修了論文」を各自が執筆する。</p>				<p>大学の研究室におけるゼミ活動を行うための知識や方法を身につけることが目標である。具体的には、ゼミ活動、共同活動のルールを理解する。文献を読み、要点をつかみ、聞き手にとって、分かりやすいプレゼンができるようになる。ディスカッションを行う心理的障壁を無くし、活発な討議ができるようになる。フィールドワークに出かける心理的障壁をなくし、現場の大切さを理解する。インタビュー調査を経験し、その方法を体得する。社会のなかで起きている諸問題について、自ら問いを立て、分析するという研究スタイルを理解する。</p>			

キーワード	社会的思考、ゼミ活動リテラシー、フィールドワーク、サブゼミナール、ポストコロナ時代のまちづくり						
教授方法	<p>1.ゼミナールの本ゼミでは、社会問題研究と社会学入門テキスト輪読と各自の課題研究の3本立て構成：社会問題の関心を喚起するために、NIE(Newspaper in Education)を用い、毎回、自らの意見を述べ、皆で議論をする。社会的パースペクティブや分析手法を学ぶために、社会学の入門書の輪読を行う。そして、各ゼミ生が、個々に関心のある問いを自ら設定し、「ゼミナール 修了論文」を執筆する。これは、ゼミナール・卒業研究で、卒業論文を執筆するための作法を学ぶためのものである。</p> <p>2.本ゼミとサブゼミから成る二部構成：県立大学内で実施する社会学の手法や理論を学ぶ本ゼミ以外に、学外でサブゼミを実施する。サブゼミでは、毎週水曜日夜6時から、長野市門前小路（長野市大字長野東町146-3）の東町ベースで、市民活動リーダーの皆さんや、Town Management Organizationのまちづくり長野の方々、長野市役所都市整備部の方々などと、中心市街地活性化やまちづくりなどについてのディスカッションを行う。</p>						
履修条件等	<p>1.総合教育科目「社会学」を履修していることが望ましい。未履修の場合は、2年次に履修すること。</p> <p>2.担当教員による科目「コミュニティ・デザイン概論」「社会調査論」「地域社会学」を必ず履修すること。全て2年次に開講されているので、同時並行的に学ぶことになる。</p>						

授業計画	
実施回	授業内容
1	ガイダンス：ゼミナールの進め方等について 自己紹介 事前学習：自分が興味・関心のある社会問題を一入2つ、問いの形式（論点：issueを疑問形で）にして考え、関心理由とその問いを巡る社会
2	テキスト：船橋晴俊2012『現代社会学ライブラリー2 社会学をいかに学ぶか』（弘文堂）の輪読、毎回、テキストを読み進め、担当部分のレジュメを作製して報告し、質疑応答と議論を行い、教員が解説する。
3	第2章 社会学の牽引力と社会的想像力（社会的想像力によって、何が可能となるのか） 事前学習：第2章を読み、分からない点をとらえてくる。
4	第11章 卒業論文と大学院進学（卒業論文に至る積み上げの道） 事前学習：第11章を読み、分からない点をとらえてくる。
5	第3章 環境社会学（受益圏と受苦圏） 事前学習：第3章を読み、分からない点をとらえてくる。
6	第4章 組織社会学（組織に見いだされる「経営システムと支配システムの両義性」） 事前学習：第4章を読み、分からない点をとらえてくる。
7	第5章 社会計画論（社会制御の重層性：社会制御システムと枠組み条件） 事前学習：第5章を読み、分からない点をとらえてくる。
8	第7章 中範囲の社会学理論（社会学における実証と理論） 事前学習：第7章を読み、分からない点をとらえてくる。
9	第8章 ヴェーバーの方法論と合理性への視点（科学的認識、価値、観点の関係） 事前学習：第8章を読み、分からない点をとらえてくる。
10	第10章 どのように社会調査をおこなったらよいか 事前学習：第10章を読み、分からない点をとらえてくる。
11	テキスト：石原武政・西村幸夫編2010『まちづくりを学ぶ 地域再生の見取り図』（有斐閣）の輪読、毎回、テキストを読み進め、担当部分のレジュメを作製して報告し、質疑応答と議論を行い、教員が解説する。
12	第1章 まちづくりとは何か 事前学習：第1章を読み、分からない点をとらえてくる。
13	第2章 まちづくりの枠組み 事前学習：第2章を読み、分からない点をとらえてくる。
14	第3章 まちづくりの変遷 事前学習：第3章を読み、分からない点をとらえてくる。
15	第4章 住民主体のまちづくりを進める仕組み 事前学習：第4章を読み、分からない点をとらえてくる。
16	第5章 パートナーシップによるガバナンスの形成 事前学習：第5章を読み、分からない点をとらえてくる。
17	第6章 まちを活性化させる地域産業 事前学習：第6章を読み、分からない点をとらえてくる。
18	第7章 まちに賑わいをもたらす地域商業 事前学習：第7章を読み、分からない点をとらえてくる。
19	第8章 まちを支えるインプットとアウトカム 事前学習：第8章を読み、分からない点をとらえてくる。
20	終章 まちづくりの今後に向けて 事前学習：終章を読み、分からない点をとらえてくる。
21	一年間の振り返り、次年度に向けて

共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
修了論文	50	自ら問いを立て、その問いの所在を明らかにし、エビデンスに基づき、その解答が出来ておれば、優とする。	平常点	50	口頭報告の水準、ディスカッションへの貢献、ゼミ活動全般への取り組み姿勢など
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>社会学入門書、まちづくり関連の入門書の輪読をするので、その回で進む部分に関して、テキストを読み、整理しておく必要がある。報告担当者は、しっかりとレジュメを作成し、報告する。非担当者も、当該箇所を読み、分からない部分を明らかにし、的確な質問ができるようにしておく。文献を読むに際しては、「知らないこと」「分からないこと」は、放置せずに調べて、考えておくことが求められる。「分からないこと」については、ゼミ時間中に、ゼミメンバーとともに議論し、追及すること。また、授業内容を振り返り、整理し、理解を深めておく必要がある。</p> <p>フィールドワークや門前まちづくりサロンに積極的に参加することが求められる。</p>			ゼミ時間内であればいつでも、時間外であれば、メールにて対応（24時間以内に回答）します。		
<p>教科書・テキスト</p> <p>船橋晴俊2012『現代社会学ライブラリー2 社会学をいかに学ぶか』弘文堂 石原武政・西村幸夫編2010『まちづくりを学ぶ 地域再生の見取り図』有斐閣</p>			<p>受講生に望むこと</p> <p>授業時間外の勉強時間が毎日1時間以上、週末数時間以上は必要です。皆さん、勉強しましょう！</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>船橋晴俊2010『組織の存在構造論と両義性論 社会学理論の重層的探求』東信堂 岸正彦・石岡丈昇・丸山里美2016『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』有斐閣他</p>			<p>その他・特記事項</p> <p>ゼミの仲間たちと協力しながら、ゼミを作っていくこととなりますので、積極的な取り組みを期待しております。事前・事後学習やフィールドワークなどに多くの時間を費やすこととなりますので、時間管理をしっかりと実践する必要があります。</p>		

授業科目	ゼミナール（中村文）						
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>多くの人は、企業が決算等で報告する会計数値について、おそらく「堅い」とか「動かしがたい」という印象・イメージを持っていると思われる。しかし実際には、報告の目的や、計算の仕方等、描写に際してどのようなルールを設定するかにより、描写されるビジネス活動の姿は大きく異なっている。本ゼミナールでは、企業が利害関係者との間で会計情報を授受する財務報告制度に焦点を当てて、次の二つのことを学ぶ。 企業から開示された会計情報を正しく読み取り分析するための基礎会計情報作成のルールとその設定を理解するための基礎理論</p>				<p>本ゼミナールでは、受講者が将来どのような進路に進んだ場合であっても、特定のテーマについて調査・報告という作業を一定レベルで完遂できるように、テーマの選定、資料収集、レジュメ・プレゼンテーション資料の作成、報告、討論等の基本タスクをグループあるいは各人で行ないながら、自己のスキルを高めて学習を深めていく。具体的には、2年次に業界研究と分析、3年次に企業分析を行い、4年次に各自の関心あるテーマについて調査研究を行い論文としてまとめる。</p>			
キーワード	経営 経営管理 PDCAサイクル 会計情報 財務諸表						
教授方法	オンラインによる演習形式（可能であれば対面式も併用）で行う。						
履修条件等	アカウントニング入門、財務会計入門を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミ運営方法等に関する話し合い （ゼミ長・副ゼミ長の決定、課題の決定、担当箇所・コメンテーター等の割り当て等）						
2	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
3	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
4	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
5	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
6	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
7	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
8	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
9	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
10	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
11	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
12	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
13	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
14	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
15	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
16	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
17	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
18	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
19	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
20	担当者による報告・コメンテーターによるコメント・討論、教員によるコメントおよび補足						
21	学習の振り返り・今後の方向性等						
22	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
23	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
24	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
25	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
26	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
27	論文執筆指導（論文の添削等）						
28	振り返り、講評						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
テーマの選択と調査・資料	30	テキスト等から自分の担当箇所を選択し、その内容について調査を行い資料を集める	グループワーク	20	テーマに関するグループ・ディスカッションおよびグループ・ワークへの参加態度・貢献度
レジュメ報告・プレゼンテ	30	レジュメやプレゼンテーション資料の作成と報告・プレゼンテーション			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
企業のビジネス活動に関わる情報は、日常、メディア等を通じて積極的に収集すること。特に、自己の担当した企業が属する業界や将来就職を希望する業種については、常に情報収集を欠かさないこと。			方法等については、ポータルサイトでお知らせする。		
教科書・テキスト	加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本の企業ビジネスストーリーへの招待』有斐閣。		受講生に望むこと	積極的にゼミ活動に参加すること。	
参考書・参考資料等	必要な資料はポータルサイトでお知らせします。		その他・特記事項	有価証券報告書を用いた演習は、ゼミ生の興味に応じてアレンジしていく予定である。	

授業科目	ゼミナール（東）						
担当教員	東 俊之			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>ゼミナールは、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度を身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考の向上を図ることを目的とする。そのため、1年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。授業では、教員が学生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げる課題発見能力を養成し、2年次に行う「海外実地研修」を踏まえた知見の定着を図る。</p> <p>「ゼミナール（東）」では、大きく2つの内容に分かれる。前期（1学期）は、経営組織論についての基礎的なテキストを皆さんと輪読する。各回、グループまたは個人で担当章の内容の要約をプレゼンを行う。後期（3・4学期）は「ビジネス小説」を題材に、経営組織論の基本を学ぶ。前期で勉強した知識を活用し、経営活動を組織論の視点から分析する。こうしたプロセスによって、論理的思考力やプレゼンテーション能力も涵養する。</p>				<p>「ゼミナール（東）」では、グループ活動やアクティブラーニングによって経営学や経営組織論の基本的知見を説明できる、経営組織論の知見を生かしてグローバル社会の諸課題を検討することができる、諸課題を検討する過程を通じて主体的に行動できる、ことを主目的としている。そして、問題を発見し、問題解決へとアプローチする、いわゆる「学問する力」を実践することができる、グループ活動を通じて協働力とリーダーシップ、創造的思考を身につけ実践の場で活用できる、ことも本ゼミでは到達目標の一つである。</p>			
キーワード	アクティブラーニング、テキスト輪読、ビジネス小説、協働力、合同ゼミ						
教授方法	演習。場合によっては、講義の形式の時もある。また、学外での調査も予定している。さらに、他大学ゼミとの合同ゼミも実施する予定である。						
履修条件等	特に履修条件はありません。ただし、1年次4学期に開講される「経営組織論」を履修していることが望ましいです。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	【オリエンテーションとゼミ活動準備】ゼミ活動の概要とメンバーの自己紹介、今後のスケジュール調整などを行います。また課外で個人面談を実施します。						
第2回	【ゼミ活動準備】ゼミ活動の準備として指定図書『カモメになったペンギン』を講読し、メンバーでディスカッションを行います。またプレゼンテーションの方法についても検討します。						
第3回	【経営組織論テキストの輪読（1）】：指定図書 の該当箇所を講読します。主に「組織の基本」を理解します。						
第4回	【経営組織論テキストの輪読（2）】：指定図書 の該当箇所をプレゼンしてもらいます。主に「内部組織のマネジメント」について学びます。						
第5回	【経営組織論テキストの輪読（3）】：指定図書 の該当箇所をプレゼンしてもらいます。主に「組織内外のダイナミクス」について学びます。						
第6回	【経営組織論テキストの輪読（4）】：指定図書 の該当箇所をプレゼンしてもらいます。主に「組織の変革」について学びます。						
第7回	【自己点検授業と総合演習】：1学期の授業内容を振り返り、これまで学んできたことを再度確認します。また、2学期・夏期休業中の課題や予定なども案内します。						
第8回	【3学期ガイダンス】：3・4学期の授業内容の説明、スケジュール調整、また『ビジネス小説』を使用した授業の意義と方法をレクチャーします。						
第9回	【ビジネス小説の輪読準備】：指定図書（ビジネス小説）について、グループ活動を行います。						
第10回	【ビジネス小説の輪読（1）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。毎回、該当章の内容と関連する経営組織論のキーワードを提示します。キーワードを用いて、ビジネス小説を読み解いてください。						
第11回	【ビジネス小説の輪読（2）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。合同ゼミ活動の場合あり。						
第12回	【ビジネス小説の輪読（3）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。合同ゼミ活動の場合あり。						
第13回	【ビジネス小説の輪読（4）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。合同ゼミ活動の場合あり。						
第14回	【ビジネス小説の輪読（5）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。合同ゼミ活動の場合あり。						
第15回	【4学期ガイダンス】3学期までの振り返りと4学期の授業の説明、課題の指示などを行います。また「研究計画書」の書き方についての指導を行います。						
第16回	【ビジネス小説の輪読（6）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。						
第17回	【ビジネス小説の輪読（7）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。						
第18回	【ビジネス小説の輪読（8）】：指定図書（ビジネス小説）の該当箇所をプレゼンしてもらいます。						
第19回	【ビジネス小説の振り返り】：指定図書（ビジネス小説）を振り返り、関連する事例を用いてグループでディスカッションします。						
第20回	【総合演習】：これまで学んできたことを応用し、実際の事例を取り上げてグループでディスカッションします。						
第21回	自己点検授業と総合演習：1年間の振り返りと次年度へ向けてのプランを検討します。また、課外で個人面談を行います。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	0%				小テスト	0%	

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	40%	前期レポート：10%、後期レポート：20%、その他小レポート（数回）：10% 詳細は、第1回授業時に説明	上記以外の授業評価	60%	授業内でのプレゼンテーション：30%、授業やグループ活動への参加度、また予習状況等の平常点：30%（総合的に評価する）
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
グループ討議やプレゼン準備などグループでの活動が必要です。授業時間外で集まって作業することが多々あります。グループ内で時間を調整し、多くの討議時間や作業時間を確保してください。プレゼンにあたっていない回でも、該当箇所をきちんと読んでプレゼン担当者への確かなコメントができるように準備してもらいます。そのため、わからない用語などは事前に自分で調べておくようにしましょう。			オフィスアワーを設定しますが、それ以外でも在宅しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。 オフィスアワーの予定は、授業の初回で案内します。		
教科書・テキスト	(1学期) ジョン・P・コッター著『カモメになったペンギン』ダイヤモンド社、2007年、安藤・稲水・西脇・山岡著『経営組織』中央経済社、2019年/(3・4学期) 柴田昌治著『なぜ会社は変わらないのか』日経ビジネス新書、2003年		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ活動には、なるべく積極的に参加してほしいです。 ・グループ活動も多く、課外の時間に集まって作業してもらうこともありますので、アルバイトやサークル活動を優先しないでください。 ・ゼミに入るまで(1年次)の学力や経営学に関する知識は特に問いません。ただし、ゼミ内で勉強してもらうことも多いので、向学心を持ち続けてほしいです。 	
参考書・参考資料等	参考書・参考資料は、現時点では特に指定しません。随時、ゼミ内で紹介します。また、英語文献も参照してもらっても構いません。			他大学のゼミと「合同ゼミ」を実施する予定です。その際は、Zoomをつないで遠隔で行います。学外に出かけての調査も予定しています（詳細は未定）。積極的に参加ください。	
			その他・特記事項		



授業科目		ゼミナール（大室）					
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本ゼミは、基礎理論と現実を往復しながら、それらを自分のものとすることを目的とします。内容は学生と相談しながら進めますが、教科書としてしている本は必ず読んでもらいます。また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>本ゼミでは、以下の2つの事業を展開する。第1に企業と社会に関わる基本的な知識を獲得すること。第2には学生生活内、あるいは生涯を通じて実施していきたい”マイプロジェクト”を作成・実施すること。上記のプロセスでは、思考方法、セルフマネジメントなどの基礎的なものを合わせて実施し、自立した個人の育成に力を注ぐ。最終的には、持続的な社会に貢献できる人材になってもらう。”</p>			
キーワード							
教授方法	演習を基本としますが、東京や京都等への企業訪問などを取り入れることで理論と現実を往復していきます						
履修条件等	2年次のゼミ合格者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーションおよび『入門企業と社会』の輪読						
2	輪読『なぜ世界は存在しないのか』（序章・1章）						
3	輪読『なぜ世界は存在しないのか』（2・3章）						
4	輪読『なぜ世界は存在しないのか』（4・5章）						
5	輪読『なぜ世界は存在しないのか』（6・7章）						
6	輪読『企業社会のリストラクション』（2・3章）						
7	輪読『企業社会のリストラクション』（4章）						
8	輪読『企業社会のリストラクション』（5章）						
9	輪読『企業社会のリストラクション』（6章）						
10	輪読『企業社会のリストラクション』（7章）						
11	輪読『企業社会のリストラクション』（8章）						
12	輪読『企業社会のリストラクション』（9章）						
13	輪読『企業社会のリストラクション』（10章）						
14	輪読『企業社会のリストラクション』（11章）						
15	輪読『企業社会のリストラクション』（12・13章）						
16	輪読『企業社会のリストラクション』（14・終章）						
17	輪読『ソーシャルイノベーションの創出と普及』（1・2章）						
18	輪読『ソーシャルイノベーションの創出と普及』（3・4章）						
19	輪読『ソーシャルイノベーションの創出と普及』（5・6章）						
20	マイプロ発表会						
21	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
その他	100	授業への参加と課題等の取組姿勢					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>事前学習：各自に割れあてられた課題をしっかりと読み込むこと 事後学習：授業中に議論したことを自分なりに再度まとめ直すこと</p>	<p>アポイントを入れ、研究室に相談に来ること</p>		
<p>教科書・ テキスト</p>	<p>授業中に指定する</p>	<p>受講生に 望むこと</p>	<p>しっかり考える習慣を獲得すること</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>授業中に指示する</p>	<p>その他・ 特記事項</p>	<p>これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識させる内容としたい。これまでの職務で知り合った企業を事例として授業を進めることを想定。</p>

授業科目		ゼミナール（衣川）						
担当教員		衣川 修平			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年		授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格			備考			
授業の概要					到達目標			
主に会計学を学ぶゼミです。本年度は中でも企業分析を中心に勉強していきたいと予定しています。皆さんのニーズがあれば、随時、日商簿記検定の対策や、ライト・ワールドワークも行いたいと思います。					減損会計、退職給付引当金、リース会計といった財務会計の個別分野と言われる論点を一つ一つ勉強していくことで、アカウントティング・マインド養成していきます。また、プレゼン能力やディスカッション能力の向上も図っていきます。また財務諸表作成・分析能力についても、時間の余裕に応じて、養成していきます。			
キーワード	アカウントティング・マインド，財務分析，会計学							
教授方法	演習							
履修条件等	第2学年以降							
授業計画								
実施回	授業内容							
第1回	授業内容：イントロダクション：軽く自己紹介、役職決定。 時間があれば軽くゲームを行います							
第2回	テキスト輪読A：伊藤邦雄『新・企業価値評価』を予定しています。皆さん2年生でまだ未修の内容もありますので、随時、補講的なレクチャーも入れていきたいと思います。							
第3回	テキスト輪読A：発表&ディスカッションしていきます。							
第4回	テキスト輪読A：発表&ディスカッションしていきます。							
第5回	テキスト輪読A：発表&ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。							
第6回	テキスト輪読A：発表&ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。							
第7回	テキスト輪読A：発表&ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。（1セメ終了、海外研修へ）							
第8回	海外研修報告 3・4セメの打ち合わせ							
第9回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。							
第10回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。							
第11回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。							
第12回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。							
第13回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。							
第14回	テキスト輪読B：発表&ディスカッションしていきます。							
第15回	講演：有識者の講演を考えていますが、原価計算が管理会計で講演をするかもしれません。その時はゼミ生は積極的に手伝ってください。							
第16回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。							
第17回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。							
第18回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。							
第19回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。							
第20回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。							
第21回	テキスト輪読C：発表&ディスカッションしていきます。							
共通の成績評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準	
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者の意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか			報告	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者の意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか	
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応			

課題をこなすことと、簿記に関する演習を普段から勉強することが望ましいです。またゼミ時にも、簿記の演習支援を行います。		ゼミの前後、メールでの質問を受け付けます。オフィスアワーは演習時に指定します。	
教科書・テキスト	伊藤邦雄（2014）『新・企業価値評価』日本経済新聞社、を予定しています。	受講生に望むこと	ゼミナールは、学生さんが中心になって作っていくものです。積極的に発現するなどして演習に参加し、フリーライダー、ボールウォッチャーにならないようにしましょう。おとなしい人はおとなしく、元気な人は元気に、まじめな人はまじめに、まったりとした人はまったりと、自分の資質を生かして頑張ってもらえればそれでOKです！ またなるべく学びの場が楽しくなるように、様々なイベント企画を考えていきましょう。また演習という性格上、報告時の無断欠席は厳禁です。また5回以上の欠席については、やむを得ない場合を除き、認められません。
参考書・参考資料等	随時指定します。		その他・特記事項 Email: kinugawa.shuhei u-nagano.ac.jp



授業科目		ゼミナール（金）					
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
このゼミでは、ビジネスに関する法領域を学ぶために必要となる基礎的な学習をする。領域は、主に、商法（会社法）、金融商品取引法を対象とするほか、法学と他領域（例えば、会計学、経済学）との交錯領域も射程に置く。 前半では、基礎概念を学習し、後半では事例研究を行う。				株式会社、金融・資本市場の基本的な仕組みを理解し、説明できるようになる。 株式会社、金融・資本市場に関する時事問題を理解し、説明できるようになる。 株式会社、金融・資本市場に関する法的な論点を理解し、分析（問題点の指摘、原因の解明、再発防止策の考案等）ができるようになるための基礎的知識を習得する。			
キーワード	会社法、金融商品取引法、ビジネス法						
教授方法	原則として、演習方式とする。適宜、グループ・ワークを取り入れる。大学がオンライン講義の実施の方針を探る学期については、それによる。別途、案内をしますので、確認すること。						
履修条件等	法学系の科目を履修済み又は同時履修予定であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	アイスブレイク・ゲーム 「株式会社をつくろう！～ミスターXからの挑戦状～」(日本証券業協会 教材)						
3	アイスブレイク・ゲーム 「株式会社をつくろう！～ミスターXからの挑戦状～」(日本証券業協会 教材)						
4	アイスブレイク・ゲーム 「株式会社をつくろう！～ミスターXからの挑戦状～」(日本証券業協会 教材)						
5	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
6	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
7	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
8	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
9	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
10	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
11	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
12	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
13	株式学習ゲーム、会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
14	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
15	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
16	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
17	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
18	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
19	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
20	会社法、金融商品取引法に関する事例の研究						
20	まとめとふり取り						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
プレゼンテーションの内容	70	プレゼン等の内容（正確性、創造性等）、プレゼン等の出来ばえ（当日のパフォーマンス等）を基準に評価します。		コミュニケーション能力	30	ゼミの運営、共同作業、質疑応答及びその対応等に関するコミュニケーション能力について評価します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>担当するプレゼン等の準備その他。</p>	<p>原則として、オフィス・アワーに同等する。オフィス・アワーの委細については、ガイドンスその他において案内する。</p>
<p>教科書・テキスト</p>	<p>特になし。講義中にコピー等を配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>・江頭憲治郎「株式会社法」（有斐閣、第7版、2017） ・伊藤靖史「会社法」（有斐閣、第4版、2018） ・河本一郎ほか「新・金融商品取引法読本」（有斐閣、2014） ・松岡啓佑「最新金融商品取引法講義」（中央経済社、第4版、2018） ・会社法判例百選 第3版（別冊ジュリスト 229） ・金融商品取引法判例百選（別冊ジュリスト 214） つづく</p>
<p>受講生に望むこと</p>	<p>楽しみながら、学習しましょう。 オンライン講義の実施に関して、別途連絡をするので、メール等の確認をまめに行ってください。</p>
<p>その他・特記事項</p>	<p>講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。 参考書つづき ・吉見宏「会計不正事例と監査（日本監査研究学会リサーチシリーズXVI）」（同文館出版、2018） ・長島・大野・常松法律事務所「会計不祥事対応の実務」（商事法務、2010） ・門脇徹雄ほか「ケースブック 上場ベンチャー企業の粉飾・不正会計失敗事例から学ぶ」（中央経済社、2008） その他、講義中に説明する。</p>

授業科目	ゼミナール（首藤）						
担当教員	首藤 聡一郎			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
株式会社マイナビ主催のビジネスプランコンテスト「キャリアインカレ」にチャレンジする。その後、企業・行政と連携し、問題解決案を提案する。				1) 経営にかかわる基礎的な知識の習得 2) 汎用的能力の育成			
キーワード	グループワーク、ビジネスプラン、社会人基礎力						
教授方法	グループワーク						
履修条件等	受講希望を申請し、認められている学生						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	マイナビ「課題解決プロジェクト」(1)						
3	マイナビ「課題解決プロジェクト」(2)						
4	マイナビ「課題解決プロジェクト」(3)						
5	マイナビ「課題解決プロジェクト」(4)						
6	キャリアインカレのテーマ分析・スケジュール立案						
7	情報の収集と分析(1)						
8	情報の収集と分析(2)						
9	ビジネスプランの検討(1)						
10	ビジネスプランの検討(2)						
11	プレゼンテーションとスライドの流れの検討(1)						
12	プレゼンテーションとスライドの流れの検討(2)						
13	スライドの作成とプレゼンテーション						
14	フィードバックを受けてのブラッシュアップ						
15	ビジネスプランのプレゼンテーション						
16	企業・行政に対する聞き取り調査						
17	資料の収集・分析(1)						
18	資料の収集・分析(2)						
19	提案内容の検討						
20	プレゼンテーションとスライドの流れの検討						
21	プレゼンテーション						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
ゼミへの貢献	100	発言、提案、資料収集、スライド作成、他のメンバーへの支援、リーダーシップなどを総合的に評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>期限内にプロジェクトを完遂するため、授業外でも作業やミーティングを行う必要がでできます</p>	<p>授業時に対応しますし、メールでの質問・相談も受け付けます</p>		
<p>教科書・テキスト</p>	<p>適宜紹介します</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<p>楽しく、真剣に取り組みましょう</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>適宜紹介します</p>	<p>その他・特記事項</p>	<p>プロジェクトを通じて様々なことを学びましょう！</p>

授業科目	ゼミナール（田村）						
担当教員	田村 秀			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>単に講義だけでなく、グループディスカッション、地方自治体見学や公共政策の現場でのフィールドワーク（コロナ禍がある程度収まれば）、個人研究の発表などを通じて議論する機会を数多く設け、地方自治や公共政策に関する基本的なスキルを身につけ、公共経営コースで必要な能力を養います。アクティブラーニングを通じて、コミュニケーション能力も高めます。</p> <p>研究したいテーマや実際にフィールドワークしたい場所を学生に主体的に選んでもらいます。様々な意見に耳を傾け、自分の考えを論理的に表現することができるスキルをゼミを通じて身につけてもらいます。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の基本的な仕組みが理解できる。 ・公共政策とはどのようなものかについて理解できる。 ・地域にどのような課題があるか、自ら発見することができる。 ・地域の課題の具体的内容について、データや様々な情報を用いて説明することができる。 ・地域の課題の解決策について、一定程度の提案ができる。 ・グローバル社会の中で、地域の将来像について、海外研修の成果を踏まえ、自分の言葉で語るすることができる。 ・フィールドワークに関する基本的な事項を習得できる。 			
キーワード	地方自治、地域活性化、フィールドワーク、公共政策						
教授方法	講義も行いつつ、基本は学生と教員、学生同士の議論、プレゼンとし、フィールドワーク状況が許せば行います。						
履修条件等	政策科学の単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミのオリエンテーション、自己紹介など						
2	個人研究1						
3	個人研究2						
4	地方自治講義						
5	海外の地方自治講義						
6	個人研究発表1						
7	個人研究発表2						
8	フィールドワークの準備						
9	フィールドワーク1						
10	フィールドワーク2						
11	フィールドワーク3						
12	フィールドワーク発表1						
13	フィールドワーク発表2						
14	グループワークに向けて						
15	グループワーク1						
16	グループワーク2						
17	グループワーク3						
18	グループワークの成果報告						
19	グループワークの成果報告						
20	次年度に向けての準備						
21	ゼミの総括講義						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	50	ゼミでの議論の内容を踏まえて、自分の考えをしっかりとまとめている点を重視します。		上記以外の授業評価	50	ゼミの出席、議論への参加などを総合的に加味します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>地域の様々なことに常に興味を持ってもらいたいと思います。具体的には新聞やインターネットで自分の関心のある地域の出来事、特に自治体の取組みなどについて調べておいてください。自分の出身地や長野県だけでなく、直接関係のない地域の出来事にもアンテナを張ってもらいたいものです。本に関しては、担当教員の著書について、少なくとも1冊以上は目を通しておいてください。 このほか、長野市内を自分の足で回り、自分の目で見える機会を数多く作っておいてください。このゼミのモットーの一つに現場主義があります。地域を実際に自分で回り、様々な事象を見ることを通じて、問題意識を持つきっかけにもらいたいと思います。</p>		<p>随時受け付けます。</p>	
		<p>受講生に望むこと</p>	<p>地域のことを常に意識してください。</p>
<p>教科書・テキスト</p>	<p>ゼミの最初に示します。</p>		
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>ゼミの最初に示します。</p>	<p>その他・特記事項</p>	<p>授業計画については仮置きで、計画にこだわらずに柔軟に実施します。</p>

授業科目	ゼミナール（永田）						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けるために、教科書を輪読し、その内容について議論する。また、グループに分かれて関心のある経済・社会問題を研究し、研究成果を大学生を対象にした懸賞論文（日経グランプリ、中小企業懸賞論文、日経ストックリーグ等）に応募する。</p>				<p>ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けることを目標とする。さらに、現実の経済・社会問題を分析することで、基礎知識の使い方を学ぶ。研究成果を懸賞論文に応募することで、論理的思考力と表現力を養い、発信力とともに身に付けたアカデミックスキルズを使いこなせるようにする。</p>			
キーワード	ファイナンス，金融論，経済学						
教授方法	演習形式（対面で行う予定）。						
履修条件等	1年次に経済学入門を履修していると、授業内容を理解しやすい。また、2年次以降に、ファイナンス入門，金融論，コーポレートファイナンス，金融システム論，ミクロ経済学，マクロ経済学，経営統計学入門，数理統計学を履修すると、授業内容を深く理解できるようになる。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス・懸賞論文の説明						
2	テキストの報告と討論						
3	テキストの報告と討論						
4	テキストの報告と討論						
5	懸賞論文の中間報告と討論						
6	懸賞論文の中間報告と討論						
7	懸賞論文の中間報告と討論						
8	テキストの報告と討論						
9	テキストの報告と討論						
10	テキストの報告と討論						
11	懸賞論文の中間報告と討論						
12	懸賞論文の中間報告と討論						
13	テキストの報告と討論						
14	テキストの報告と討論						
15	テキストの報告と討論						
16	懸賞論文の中間報告と討論						
17	懸賞論文の中間報告と討論						
18	懸賞論文の中間報告と討論						
19	懸賞論文の報告						
20	テキストの報告と討論						
21	テキストの報告と討論						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	0				小テスト	0	
授業レポート	20	ファイナンスや金融の基礎知識を用いて経済問題を分析しているかどうかを確認する。			上記以外の授業評価	80	日々の取組（報告や質疑応答，議論への参加，宿題等）と懸賞論文の成果。
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		

<p>テキストの予習・復習は必須。予習が不十分だと、授業内容も理解できず、授業中の議論にも参加できない。また、懸賞論文の執筆作業（資料収集と整理、研究発表の準備、論文の執筆等）にも時間をかけること。</p>	<p>授業中に質問すること。授業時間外に質問があれば、研究室に来ること。所用がない限り、いつでも対応する。日時を指定したい場合、メール等で事前に連絡すること。</p>		
<p>教科書・ テキスト</p>	<p>内田浩史（2016）『金融』，有斐閣</p>	<p>受講生に 望むこと</p>	<p>懸賞論文での好成績を目指す。</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>適宜指示する。</p>	<p>その他・ 特記事項</p>	<p>特になし。</p>

授業科目	ゼミナール（中村陽）						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>3,4年次のゼミは研究活動をメインとしながら、合同会社sigmovの経営、民間企業や自治体との共同プロジェクト、全国レベルの各種コンテストなどに取り組む。2年次のゼミはそれらの活動のために必要な専門的知識と技術を身につける期間となる。</p> <p>1セメは毎回異なるテーマを設定し、事前準備を基にディベートを行い、3セメは統計学のテキストを使って問題演習を行い、4セメは最新の論文（日本語）を使って論文の読み方、研究の進め方を学ぶ。</p>				<p>・特定のテーマについて、論点を整理して課題を設定し、必要な情報を集めて適切に整理し、主張の客観的な根拠をそろえ、効果的に相手に伝える、という一連のスキルを身につけている。</p> <p>・統計学の基礎的な力（統計検定2級程度）を身につけている。実データを統計ソフトを用いて適切に分析し、正しく解釈することができる。</p> <p>・日本語の学術論文を読み、正しく理解できる。</p>			
キーワード	マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ						
教授方法	演習						
履修条件等	マーケティング入門を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	情報収集、レジュメ作成（テーマ）						
3	ディベート（テーマ）						
4	情報収集、レジュメ作成（テーマ）						
5	ディベート（テーマ）						
6	情報収集、レジュメ作成（テーマ）						
7	ディベート（テーマ）						
8	統計学の問題演習						
9	統計学の問題演習						
10	統計学の問題演習						
11	統計学の問題演習						
12	統計学の問題演習						
13	統計学の問題演習						
14	統計学の問題演習						
15	学術論文（日本語）の精読						
16	学術論文（日本語）の精読						
17	学術論文（日本語）の精読						
18	学術論文（日本語）の精読						
19	学術論文（日本語）の精読						
20	学術論文（日本語）の精読						
21	学術論文（日本語）の精読						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	授業や課題への取り組み状況を総合的に評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		

<p>膨大な量の事前準備が前提となって授業は進められる。授業内というよりも、むしろ授業外の学習や活動がメインとなる。長期休業中も膨大な量の課題がある。</p>	<p>出張がなければ研究室にいるので、授業、会議などのない時間帯はいつでも対応する。</p>		
<p>教科書・テキスト</p>	<p>授業の中で適宜指示する。</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミの理念を理解し、共感していること。 ・ゼミ活動に全力でコミットすること。
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>授業の中で適宜指示する。</p>	<p>その他・特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のゼミとの掛け持ちはできない。 ・3年次からの入ゼミはできない。 ・4年次には卒業論文を書かなければならない。

授業科目	ゼミナール（中村稔）						
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
ゼミナールでは、単に知識を獲得するにとどまらず、ゼミ生自身が「望ましい財政の姿」を常に考えられるようにしたい。そのために、発表や議論、集団討論をする場面を多く設けるようにする。また、レポートだけでなく、春休みにゼミ合宿などもある。その他にも、各個人の意識や知識、思考力を高めるために、グローバル企業の部長や本部長、マネージャー、オーストラリアのクイーンズランド州立の日本支部のマネージャーとのワークショップやセッション、サブゼミなどを多数実施する。				本ゼミの到達目標は、専門的な知識や思考能力を高めることはもちろん、それ以外にも公務員や民間企業の面接試験や集団討論を突破するスキルや社会に出てから即戦力として活躍するための調査力、分析力、行動力、コミュニケーション力、それに優秀なリーダーになるために必要な問題点を発見する「問題意識力」とそれを解決しようとする「問題解決力」を身に付けることである。			
キーワード	少子高齢化・地方創生・地域発展・文化で町おこし						
教授方法	講義形式は一部にして、発表や議論、集団討論をする場面をできるだけ多く設けるようにする。						
履修条件等	5回欠席した者は単位を付与しない。2年の1学期に地方財政論を必ず履修すること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1回	シラバスの記載事項についての確認した上で、財政とは何か、なぜ政府は必要なのか、今求められる政府の役割は何かを考え議論する。市町村の少子化政策の事例を紹介する。						
第2回	集団討論（1）						
第3回	市町村の少子化政策の比較（1）						
第4回	集団討論（2）						
第5回	市町村の少子化政策の比較（2）						
第6回	集団討論（3）						
第7回	市町村の少子化政策の比較（3）						
第8回	集団討論（4）						
第9回	市町村の少子化政策の比較（4）						
第10回	集団討論（5）						
第11回	市町村の少子化政策の比較（5）						
第12回	市町村の高齢化政策の紹介 集団討論（6）						
第13回	レポートの課題提示 さまざまな資料の使い方について学ぶ。						
第14回	市町村の高齢化政策の比較（1）						
第15回	春休みのゼミ合宿について 行先、行程等の決定						
第16回	市町村の高齢化政策の比較（2）						
第17回	集団討論（8）						
第18回	市町村の高齢化政策の比較（3）						
第19回	集団討論（9）						
第20回	市町村の高齢化政策の比較（4）						
第21回	集団討論（10）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	40	毎回のゼミへの取り組み・熱意、課題への取り組み、発表等の点から総合的に評価する。（2点×20回 初回を除く）		集団討論	30	内容、表現力、質疑への応答等の点から総合的に評価する（3点×10回）。	
レポート	30	評価基準：問題意識、形式面、表現面、執筆の論理等の点から総合的に評価する（30点×1回）。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>予習は、各回の該当の章・節を読み、理解できない用語や内容について、自分なりに調べてみることである。 また、集団討論の課題は、討論する前の週（回）に与えるので、その課題についての事実関係と肯定派と否定派の意見をそれぞれ調べ、その上で自分なりの意見を持って討論に臨むことが重要である。 復習は、ゼミで説明した重要な部分の見直しとゼミで紹介した参考書や新聞、ホームページ等を調べることである。 これにより、幅広い経済社会・財政の一般常識を身につけることができるだろう。</p>	<p>随時対応。</p>
<p>教科書・テキスト</p> <p>持田信樹 [2009] 『財政学』東京大学出版会（税込3,080円）。 玉村雅敏他 [2016] 『東川スタイル 人口8000人のまちが共創する未来の価値基準』産学社（税込1,980円）。 写真文化都市 [2016] 「写真の町」東川町編 『東川町ものがたり』新評論（税込1,980円）。</p>	<p>受講生に望むこと</p> <p>ゼミをより充実したものにするためには、主体的にゼミに参加することである。使用するテキストをよく読んだり、テーマについて深く調べたり、問題点や改善案を真剣に考えたりすることはもちろん、議論に活発に参加したり、レポートを納得いくまでしっかりとまとめたりすることによって、専門分野での思考力を高めることができるので、常にそのような意識で取り組んでほしい。 また、就職活動にも対応できるように、集団討論の課題は、現在話題となっている経済社会の問題から与えるようにする。普段から経済社会に関するニュースへの関心度を高め、当該ニュースの背景や問題点、改善案等も調べたり、考えたりするようにしてほしい。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>持田信樹 [2013] 『地方財政論』東京大学出版会（税込3,080円）。 廣光俊昭 [2021] 『図説日本の財政（令和2年度版）』財経詳報社（税込2,860円）。 植松利夫 [2020] 『図説日本の税制（令和元年度版）』財経詳報社（税込2,310円）。 総務省 [2020] 『令和2年度版 地方財政白書』日経印刷（税込5,315円）。 総務省 『各年度 都道府県決算状況調』。 総務省 『各年度 市町村決算状況調』。 総務省 『各年度 都道府県財政指数表』。 総務省 『各年度 類似団体別市町村財政指数表』。</p>	<p>その他・特記事項</p> <p>特になし。</p>

授業科目		ゼミナール（三浦）					
担当教員	三浦 正士			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目では、多様化・複雑化を見せる地方自治の諸課題について、ゼミ生の問題関心に基づいた学習を行うため、学期ごとに異なる課題を設定することで、地方自治を理論と実践の双方から学ぶことをめざす。 1学期は、教科書を輪読して議論を行うことで、地方自治の基本的なしくみと理論について理解を深める。3学期は、ゼミ生のゆかりのある自治体の政策課題について報告を課し、議論を行うことで、自治体の多様性を理解するとともに、地域が直面する政策課題に対する多角的な視点を養う。4学期は、ゼミ生の関心が高いテーマについて、実際に自治体現場に赴き、その実態と課題解決に向けた政策を考察する。				地域社会の課題について自分の意見を持つことができる。 論文執筆に必要な読解力と思考力、文章力を身につける。 議論に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。			
キーワード	団体自治、住民自治、地方分権、参加・協働、プレゼンテーション						
教授方法	演習形式で行う。						
履修条件等	「行政学」「地方自治論」を履修することが望ましい。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：ゼミナールの進め方について説明するほか、簡単なグループワークを行い、ゼミ生の個性を知り合う。						
2	地方自治のしくみについて学ぶ（1）地方自治を考える視点、地方自治の歴史：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、地方自治の歴史に対する理解を深める。						
3	地方自治のしくみについて学ぶ（2）地方自治の基盤（住民参加、協働）：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、住民参加・協働に対する理解を深める。						
4	地方自治のしくみについて学ぶ（3）地方自治を支える機構（首長、議会、行政組織）：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、地方自治の機構に対する理解を深める。						
5	地方自治のしくみについて学ぶ（4）地方自治の課題（公民関係、自治体職員のあり方）：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、公民関係や公務員に対する理解を深める。						
6	地方自治のしくみについて学ぶ（5）欧米諸国の自治：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、欧米諸国の自治に対する理解を深める。						
7	地方自治のしくみについて学ぶ（6）人口減少社会への対応：教科書の該当する章についてゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行うことで、人口減少社会に対する考察を深める。						
8	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（1）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
9	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（2）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
10	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（3）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
11	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（4）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
12	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（5）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
13	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（6）：住んでいる自治体/ゆかりのある自治体の概要や政策課題についてゼミ生（2名程度）が報告を行い、その内容について議論を行う。						
14	自治体の多様性と直面する政策課題について考える（まとめ）：これまでの報告内容を踏まえ、自治体の直面する政策課題とその解決策について講義を行い、議論を深める。						
15	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（1）-：ゼミ生の問題関心を踏まえてひとつのテーマ（例：地方創生、観光、公共施設再編など）を取り上げ、議論を行う。						
16	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（1）-：取り上げたテーマについて、実際に自治体現場に赴き、どのような課題に直面しているのか、その実態を学ぶ。						
17	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（1）-：自治体へのヒアリング調査を踏まえ、地域課題の解決策について、ゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行う。						
18	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（2）-：ゼミ生の問題関心を踏まえthえひとつのテーマ（例：議会改革、協働、地域コミュニティなど）を取り上げ、議論を行う。						
19	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（2）-：取り上げたテーマについて、実際に自治体現場に赴き、どのような課題に直面しているのか、その実態を学ぶ。						
20	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（2）-：自治体へのヒアリング調査を踏まえ、地域課題の解決策について、ゼミ生が報告を行い、その内容について議論を行う。						
21	まとめ：これまでの内容について振り返るとともに、住民として地方自治にどのように関わるか、地域課題に対してどのように対応していくべきか等について、自分の意見を持つことができたか確認を行う。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業での報告	70	ゼミナールにおいて課した報告の内容について、地域課題の発見力、地域課題の解決に向けた企画立案力を評価する。		議論への参加度	30	ゼミナールにおける議論への参加度や貢献度から、コミュニケーションの積極性、主体性、能動的な学習の姿勢を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。 ・報告者以外は、報告が予定されている内容について、教科書を精読するとともに、自治体の政策課題に関する情報を収集する。 <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナールでの学習内容について、教科書や参考書を読み、理解を深める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。 	
教科書・テキスト	初回授業時に提示する。	受講生に望むこと	ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。	その他・特記事項	特になし。

授業科目		ゼミナール（宮崎）					
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>ゼミナールの目的は、地域社会の様々な課題に関する調査・検討を行いそのプロセスを通じて主体的に行動する態度を身につけ、協働とリーダーシップ、創造的思考の向上を図ることである。一年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力と社会の諸課題への関心を一層高める。</p> <p>「健康生活」「健康な地域づくり」「健康経営」「ヘルスビジネス」等の言葉に代表するように、人々の生活だけでなく公共経営、会社経営、企画授業に「健康」の視点があると人々は生き生きとした幸せに近づける。保健を通じて「誰一人取り残さない」SDGsの実現を分野を超えて考えてみたい。ゼミ1では、そのための基盤づくり戸して＜地域をみる＞ことを通じ、人々の日常に触れたいと考えている。</p>				<p>追究していききたい具体的なテーマは、学生自身が自ら探求し設定していく。その過程で、＜地域をみる＞方法を学び、発信力ゼミで培ったスキルを実際に用いて科学的探求方法の基礎を学ぶ。</p> <p>自身の興味関心を広げ深める 地域をみる方法を理解する（人々を知る、ソーシャル・リソースを知るなど） 科学的探求方法の基礎を理解し、追求したい課題を発見する</p>			
キーワード	健康 地域アセスメント 地域への愛着						
教授方法	ゼミナール（討議、発表、報告、演習、地区視診等）						
履修条件等	とくになし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション ゼミナール計画立案						
2	情報収集の方法と情報のありか 文献クリティーク例						
3	学生の関心事（調べた内容：既存資料）& 共通学習テーマ						
4	学生の関心事（調べた内容：既存資料）& 共通学習テーマ						
5	学生の関心事（調べた内容：既存資料）& 共通学習テーマ						
6	学生の関心事（調べた内容：既存資料）& 共通学習テーマ						
7	フィールド調査（第1次資料）の方法と計画						
8	学生の関心事とフィールド調査A計画の発表						
9	第1次資料の収集その1						
10	学生の関心事（第1次資料の調査結果）						
11	学生の関心事（第1次資料の調査結果）						
12	第1次資料の収集その2						
13	学生の関心事（第1次資料の調査結果）						
14	学生の関心事（第1次資料の調査結果）まとめ						
15	フィールド調査B計画 情報収集（第1次資料について）						
16	第1次資料の収集その3						
17	学生の関心事（試行と調査結果）						
18	第1次資料の収集その4						
19	学生の関心事（試行と調査結果）						
20	各自の成果発表 プレゼンテーション 討論会						
21	各自の成果発表 プレゼンテーション 討論会						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
提出物	50	課題レポート・成果物等の提出・内容			ゼミ内容	50	プレゼンテーションの資料・内容・発言他
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

	<p>各自のプレゼンテーションが主な授業内容となる。このため事前準備を十分に実施し授業に臨むようにしてほしい。 普段より関心事について、図書館にて文献検索、ニュース・雑誌等で情報収集したり、地域の文化等に広く触れるなどを積極的に行ってほしい。</p>	<p>授業、メール等を活用</p>
<p>教科書・ テキスト</p>	<p>特になし（ゼミ計画後テキストを使用する可能性あり）</p>	<p>受講生に 望むこと</p> <p>ゼミナールの運営は学生が主体的に準備・進行する</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>参考書・参考資料は、必要時紹介する</p>	<p>その他・ 特記事項</p> <p>ゼミ 1 では視野を広げることを心がけたい</p>

授業科目		ゼミナール（宮下）					
担当教員	宮下 清			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本授業では、基本書（テキスト）に基づき、経営学・ビジネス・マネジメントを理論的に、また地域・国内・海外の事業や企業の事例を通して、それらを実践的に学んでいく。</p> <p>経営学・ビジネス・マネジメントを学ぶ上では理論的枠組みや体系的な知識が必要であり、またそれらの学びでは、地域、国内、海外の事業や企業における実際を通して理解することが重要である。</p>				<p>本授業の第一の目標は、地域事業や経営に関するテキストや文献から、経営学、企業、ビジネス、マネジメントについて理論的に学び理解をすることであり、経営学の基本的な概念を説明できるようになることである。</p> <p>第二の目標は、地域、国内、海外事業の事例や現場の見聞から、経営学、企業、ビジネス、マネジメントを実践的に学び理解することであり、企業などの施策や戦略を経営学に基づき、説明できるようになることである。</p> <p>第三の目標は、経営学やマネジメントの分野で地域（ローカル）と国際（グローバル）の双方の視点が得られるようになることである。これは例えば企業など組織の戦略や施策について、また商品やサービスからどのような地域やグローバルを対象とするかを考えられるようになることである。</p>			
キーワード	経営学、企業、地域事業、課題の探索、質問						
教授方法	教材や課題の予習と講義、また受講生の発表と討議による演習方法による学習						
履修条件等	経営学入門を履修していることが望ましい						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	ゼミの概要「経営学とゼミでの学習」の説明、担当教員、ゼミメンバーの紹介						
2	. 経営学の理解を図る 1. 経営学の学習、2. 課題による学習、の進め方について						
3	経営学理解のための学習 企業とは何か						
4	地域事業・活動からの課題を探る						
5	経営学理解のための学習 起業プロセスと起業家						
6	経営学理解のための学習 株式会社とコーポレートガバナンス						
7	課題に関連した経営学の取り組み						
8	. 地域からはじまる経営学の学習 1. 経営学の理解を図る、2. 課題による学習						
9	地域と国内と海外の課題と経営学の関わりを探る						
10	経営学理解のための学習 経営管理を学ぶ						
11	地域事業・活動からの課題を調べる						
12	経営学理解のための学習 経営戦略を学ぶ						
13	地域事業・活動からの課題を調べる						
14	地域と国内と海外の課題と関連する経営学						
15	. 地域から発展する経営学の学習 1. 経営学の理解を図る、2. 課題による学習						
16	地域～海外の課題から自分の課題を決定する						
17	経営学理解のための学習 経営組織を学ぶ						
18	自分の課題を調べる						
19	経営学理解のための学習 国際経営を学ぶ						
20	自分の課題を調べる						
21	自分の課題をまとめる、発表する						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	数回提出する課題レポートの評価		その他	50	ゼミでの発表、討議、質疑	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>経営学を意欲的に学び、活かすことを目指すため、事業外の学習が求められる。具体的には、必要な文献を収集し、それらを精読すること、関連する現場を訪問し、事例をできるだけ現実的に体験することに取り組む。そして、それらを理解する、自分で考える、まとめるといった一連の学習サイクルを回すことが、事前学習と事後学習となる。</p>	<p>オフィスアワー、授業前後、またメールでのアポイントにより対応する</p>		
<p>教科書・テキスト</p>	<p>『新時代の経営マネジメント』創成社、中山、丹野、宮下共著、2018年。</p>	<p>受講生に望むこと</p>	<p>ゼミでは、常に問題意識を持ち、経営学・マネジメントを理論的、実践的に学びかつ活用できるようになることを目指してください。また前提となるゼミの雰囲気は大切であり、それを理解共鳴し、お互いを信頼し尊重し協力し合えるゼミとしていきたい。</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>『日本で一番大切にしたい会社』あさ出版、坂本著、2008年。 『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣、上林他著、2018年。他</p>	<p>その他・特記事項</p>	<p>スケジュールや内容は枠組みであり、実際の取り組みは、必要に応じて修正改善していく。</p>

授業科目		ゼミナール（森本）					
担当教員	森本 博行			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>・将来、社会で活躍するためには、課題発見力、論理的な理解力や説明力が必要となります。ゼミナールでは、社会人としての幅を広げる論理的思考力と説明力を養成します。</p> <p>・担当教員は、外資系企業を顧客する広告会社である（マッキンゼー・エリクソン・ワールド）においてマーケティング戦略を担当し、さらにソニーにおいて、経営戦略、広告宣伝戦略、新事業戦略を担当し、米国、英国の海外子会社での実務経験があります。ソニーを退職する時には、イノベーション戦略オフィスVP（Vice President）でした。</p>				<p>・論理的な理解力と説明力、異文化理解力の修得。</p> <p>・コミュニケーション能力の向上。</p>			
キーワード	こころの知能指数（EQ）、フェルミ推定、自分史、異文化理解力、多文化世界						
教授方法	・ゼミナールでの輪読、受講生の報告とディスカッション等、演習方式						
履修条件等	・「経営学入門」を受講していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション ・ゼミをどう進めるか、議論する。						
2	・ハーミニア・イバー「What's Your Story? 共感を生み出す自分史を語れ」を読み解く ・論理的な説明力を高めるために自分史を語る。						
3	ダニエル・コールマン「What Makes a Leader? リーダーになるために必要なことは何か」（DHBR August-Sept. 2000）を読み解く ・リーダーに必要な資質とは何か、議論する。						
4	フランチェスカ・ジュー「Learn to Love Networking 人脈づくりが好きになる方法」（DHBR Feb.2017）を読み解く ・人脈をつくるのに必要な方法を検討する。						
5	細谷功「地頭力を鍛える」（細谷功）を読み解く ・マンホールのふたは、なぜ丸いのか？論理的に推論する。						
6	フェルミ推定を修得する ・「日本にピアノ調律師は何人いるのか？」論理的に推論する。						
7	1学期のゼミナールの総括 ・倫理的な理解力と説明力は向上したのか、評価する。						
8	3学期からのゼミナール ・夏休みの体験したことを説明する。						
9	エリン・メイヤー「異文化理解力」をどう読み解くべきか、議論する。 ・異文化分析の方法論を考察する。						
10	異文化間のコミュニケーション：空気に耳を澄ます ・高コンテキスト文化と低コンテキスト文化の違いを議論する。						
11	評価する：様々な礼節のかたち ・直截的に評価すべきか、評価を避けるべきか、文化の違いを議論する。						
12	説得する：「なぜ」VS「どうやって」 ・多文化世界における説得の仕方の違いとは何か、議論する。						
13	権力格差と平等主義：敬意はどれくらい必要？ ・上級者に対する敬意や服従に対する意識をどう評価すべきか、議論する。						
14	意思決定とコンセンサス：大文字の決断か 小文字の決断か ・トップダウンか、メンバーのコンセンサスを重視すべきか、議論する。						
15	認知的信頼と感情的信頼：頭か心か ・二種類の信頼とその構築法を議論する。						
16	見解の相違、意見対立：ナイフではなく針を ・生産的に「見解」の相違を伝えるためにどうすべきか、議論する。						
17	スケジューリング：遅いってどれくらい？ ・スケジューリングと各文化の時間に対する認識とは何か、議論する。						
18	エリン・メイヤー「カルチャー・マップ：世界を8つの指標で理解する」（DHBR Feb.2015） ・なぜ組織の多様性をビジネスにいかせないのか、議論する。						
19	エリン・メイヤー「異文化交渉力：5つの原則」（DHBR May2016） ・言語以外のシグナルを理解し、状況に対応するとは何か、議論する。						
20	エリン・メイヤー「異文化適応のリーダーシップ」（DHBR Oct.2017） ・「権威」のとらえ方と「意思決定」スタイルから読み解くリーダーシップのあり方とは何か、議論する。						
21	総括 ・ゼミナールで得たことは何か、議論する。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	50	・論理的に課題について説明する能力を評価します		期末レポート	50	・ゼミナールの目的である論理的な理解力と説明力について評価します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

事前学習として課題論文を読み解き、事後学習としてレポートの提出が必要です。	・メールで質問や相談をお願いします。
教科書・テキスト	『異文化理解力』（エリン・メイヤー）
参考書・参考資料等	『異文化組織のマネジメント』（N.J.アドラー） 『多文化世界』（G.ホフステード） 『多国籍企業の異文化マネジメント』（太田正孝） 『地頭力を鍛える』（細田 功）
受講生に望むこと	・ゼミナールでは、輪読を行いますので、分担カ所についてレジユメを作成し、報告することが求められます。
その他・特記事項	・ゼミナールに参加するためには、必ず事前・事後の学習が必要です。

授業科目		ゼミナール（尹）						
担当教員		尹 大栄			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング		
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考				
授業の概要				到達目標				
<p>本ゼミのテーマは、2つある。 （前半）長い歴史の中でしぶとく生き残ってきた世界の代表的な地域・地場産業について学ぶ。「企業寿命30年」説から考えると、数百年もの長い時間を存続し、いまなおそれぞれの地域経済を支えている地域産業は経営学的にとっても面白い！長野県の地域産業の活性化についても議論する。 （後半）日本企業の海外売上高比率は6割を超え、今後も拡大傾向が続くと予想される。国内市場よりも海外市場、とりわけアジア市場でいかに競争優位性を確保できるかが極めて重要な経営課題となっている。「異文化マネジメント」や「経営の現地化」の面で課題を抱えながらも、大変元気なアジアの日系企業の事例について学ぶ。機会があれば皆さんとアジアの日系企業に現地調査に出かけたい！</p>				<p>（前半）地域・地場産業の永続性要因について理解する。地域産業の永続性は各地域が生み出してきた様々な制度的仕組みや慣行に負うところが大きい。それらの制度的仕組みや慣行というのは、それぞれの地域産業に関わる人々の知恵や工夫が長い時間をかけて集約され、煮詰められ、発酵して生み出された産物であることを理解する。 （後半）日本企業のアジア進出の歴史を踏まえたうえで、海外（アジア）ビジネス特有の課題（ex., 異文化マネジメント）について理解する。また、現地の地元企業や韓・中・欧米系企業と比べて日系企業はどのような強みと弱みを持っているのかを理解する。</p>				
キーワード	地域・地場産業、イノベーション、国際経営、現地化							
教授方法	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は、新型コロナの影響により、オンライン（Zoom、Linelほか）による授業を行う。（状況によっては、2学期もオンラインで実施する。） ・具体的なゼミの進め方については、指導教員が解説を行う（＝講義形式）こともあるが、基本的には受講生によるプレゼンとそれについての質疑応答（＝討論形式）で進めていく。 							
履修条件等	ゼミでの議論に積極的に参加し、ゼミ活動に貢献すること。							
授業計画								
実施回	授業内容							
1	イントロダクション：ゼミの進め方について説明する。							
2	テキスト『地域産業の永続性』の輪読（第1章）							
3	テキスト『地域産業の永続性』の輪読（第2章）							
4	テキスト『地域産業の永続性』の輪読（第3章）							
5	テキスト『地域産業の永続性』の輪読（第4章）							
6	テキスト『地域産業の永続性』の輪読（第5章）							
7	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。							
8	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。							
9	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。							
10	地域（地場）産業に関する研究テーマについて発表する。							
11	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。							
12	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。							
13	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。							
14	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。							
15	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。							
16	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。							
17	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。							
18	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。							
19	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。							
20	日本企業の海外事業に関する研究課題について発表する。							
21	まとめ							
共通の成績評価基準								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準		
課題発表	70	プレゼンの中身（発表者）、議論への貢献度		レポート	30	課題成果をまとめたレポート提出		
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応				

フィールドワーク（産地や企業訪問など）を行う。	研究室訪問や、メールでの質問・相談に対応する。
教科書・テキスト	・尹大栄『地域産業の持続性』（中央経済社、2014年）。
参考書・参考資料等	関連文献や資料などを適宜配布する。
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の研究課題に関する文献レビューをしっかりと行うこと。 ・ゼミの議論に積極的に参加すること。
その他・特記事項	地域を知り、グローバルに活躍できる人材に成長してほしい！

授業科目	ゼミナール（六山）						
担当教員	六山 悌三			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	1・3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
このゼミでは、基礎的な経済学理論を学びつつ、さまざまな産業（自動車などの製造業種はもちろん、小売・サービス業、エネルギー・通信・運輸等のネットワーク産業など）を取り上げ、各企業のシェアなどの市場構造や、企業の戦略的行動（たとえば価格付けや広告など）を分析します。一般の授業のような一方の説明にとどまらず、参加者が自ら行動して学ぶ機会を多くつくります。				本ゼミでは、経済学や経営などの基本的な理論と実証の考え方を学び、現実の産業・市場・企業行動を理解する上で有用な分析の枠組みについて理解を深めます。本ゼミを履修することにより、自分が関心を持つ産業について、市場構造や市場行動（企業の戦略的行動など）を分析する力が身に付きます。また一連の討議・報告等を通じて、関連するテーマについて主体的に自分の意見を言えるようになります。			
キーワード	産業組織、ミクロ経済学、産業分析						
教授方法	基本的には参加者が準備したレジュメ等を用いて演習を行います。第1回演習でガイダンスを実施します。第2回～第10回はミクロ経済学や経営の基礎、産業組織分析のいろいろなアプローチについて学びます。第11回以降は、それぞれが興味を持った産業を選び、チーム編成して初歩的な産業組織分析にチャレンジします。前半は指定されたチームで順に準備・報告を行うことが中心となり、後半は産業・テーマ別のチームによる共同研究に関する討議・報告などが中心となります。全体を通じ、ミニゲームなどのアクションラーニング要素も取り入れ、常に積極的な対話を行います。またCOVID-19の影響をふまえて、事情が許す限りにおいて、ヒアリング等の学外活動も計画します。						
履修条件等	本ゼミへの参加を希望し、担当教員が参加を認めた者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	4/12 イントロ、自己紹介、ゼミの進め方等						
2	4/19 ミクロ基礎（4章）、討議「SDGsと経営」（第1部）、レジュメ作りの練習						
3	4/26 ミクロ基礎（5章）、報告・討議「企業とSDGs」（第2部）、同上						
4	5/10 ミクロ基礎（6章）、報告・討議「ステークホルダーの変化」（6-9章）；A班						
5	5/17 ミクロ基礎（7章）、報告・討議「シフト戦略」（10-13章）；B班						
6	5/24 「価値」と「論文」						
7	5/31 1学期のまとめと今後の進め方						
8	9/27 産業組織分析のフレーム、基礎理論の復習（1-3章）						
9	10/4 参入とコンテスト市場（4章）；A班						
10	10/11 価格戦略（5章）；B班						
11	10/18 各自希望の産業分析発表と新チーム編成						
12	11/1 仮説と目次案の発表等						
13	11/8 製品差別化と広告（6-7章）；班						
14	11/15 競争・技術戦略（8-9章）；班						
15	11/22 カルテル（11章）；班						
16	11/29 企業結合（12章）；班						
17	12/6 チーム分析中間報告						
18	12/13 垂直的取引制限（13章）；班						
19	12/20 マルチサイド市場とプラットフォーム（14章）；班						
20	1/17 未定（学外活動/報告に向けた作業等）						
21	1/24 分析成果報告						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
産業分析成果	30	第11回に行う新たなチームによる産業分析の成果を評価します。評価基準は、十分な調査と独自性ある分析に優れ、新たな価値を付加している成果を最も		報告・レジュメ	30	ゼミにおける各種報告・レジュメを評価します。評価基準は、豊富な文献や先行研究、事例などを意欲的に調べるなど、十分な準備と学習成果がよく反映	
平常点	40	ゼミにおける討議や発言での貢献など、平常点を評価します。価値ある発言を積極的に行うものを高く評価します。					

授業外における学習（事前・事後学習等）		質問や相談への対応	
<p>チーム単位での討議や、授業中に報告するレポート作成などが当番制で必要になります。また自分の当番以外の回のゼミでは、あらかじめ他のチームのレポートに目を通していき、ゼミの場で積極的に発言するための用意しておくことが求められます。学外でのヒアリングなどを実施する際は、授業外での活動となります（任意参加）。また「キャリアインカレ」などの学外企画への挑戦希望がある場合は適宜サポートします。</p>		<p>質問や相談を歓迎します。メールでの質問や相談はもちろんのこと、ゼミ終了後の時間も活用ください。ゼミ開催後以外で直接話したいことなどがあれば、メールで日時約束の上、研究室を訪問してください。</p>	
教科書・テキスト	<p>以下を用いるので各自購入してください。 N・グレゴリー・マンキュー著、足立他訳[2019] 『マンキュー入門経済学[第3版]』 東洋経済新報社。（*1年時の経済学入門の教科書と同じです） モニターデロイト編[2018] 『SDGsが問いかける経営の未来』 日本経済新聞出版社。 小田切宏之[2019] 『産業組織論 - 理論・戦略・政策を学ぶ』 有斐閣。</p>	受講生に望むこと	<p>ゼミでの学習は大学における学びの中心ともなる貴重な機会です。主体的・積極的に参加して、大いに成長してください。</p>
	参考書・参考資料等	<p>ゼミの中で適宜指示します。</p>	その他・特記事項

授業科目	ゼミナール（鶴田）						
担当教員	鶴田 靖人			必修・選択	選択	単位数	3単位
履修年次	2年	開講学期	1・3・4学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
このゼミで扱う分野は、統計学、機械学習、最適化といった領域である（これらを含めてデータサイエンスという言い方もする）。データ分析に適したプログラミング言語であるpythonを学び、その後、pythonを用いたデータの処理・分析を行う方法を習得する。具体的には、データの整形（データをきれいな形に直して分析可能な状態にすること）、分析・分析結果の解釈を学んでいく。実際にプログラムを書いてデータ分析を行うことで、統計学的な素養を身につけることを目指す。				1. Pythonの基本的な構文を理解し、簡単なプログラムを書けるようになる。 1. Pythonを用いたデータの整形・集計方法を習得する。 2. データ分析の方法を身につけ、実際のデータに応用して問題を解く力を身につける。			
キーワード	データサイエンス、統計学、プログラミング、Python						
教授方法	演習形式で実施します。1回から8回までは教員の指示に従ってプログラミングの演習を行います。途中でグループワークを実施していきます。9回以降は、輪講形式で進めていき、担当者が担当する内容を発表します。						
履修条件等	履修条件は設けません。ただし、2年次に「経営統計学入門」を履修するのが望ましいです。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	プログラミングの基礎（1） Pythonの説明						
2	プログラミングの基礎（2） 値と変数						
3	プログラミングの基礎（3） Pythonの標準ライブラリとオブジェクトのメソッド						
4	プログラミングの基礎（4） 条件分岐と繰り返し						
5	プログラミングの応用（1） ファイルの読み込みと書き出し、グラフの描画方法						
6	プログラミングの応用（2） データの配列（リスト、タプル、NumPy）						
7	プログラミングの応用（3） Pythonでデータ分析を実践する						
8	プログラミングの応用（4） ユーザー定義の関数						
9	レポートのピアレビュー						
10	データサイエンス（1） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
11	データサイエンス（2） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
12	データサイエンス（3） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
13	データサイエンス（4） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
14	データサイエンス（5） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
15	データサイエンス（6） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
16	データサイエンス（7）						
17	データサイエンス（8） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
18	データサイエンス（9） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
19	データサイエンス（10） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
20	データサイエンス（11） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
21	データサイエンス（12） 輪講形式でデータサイエンスの基礎を学ぶ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題	30	授業の理解度に応じて評価する			発表	30	輪講で担当する章の報告内容・レジュメなどによって評価する
平常点	20	グループワークでの貢献、授業中に積極的に発言するなどの参加態度によって評価する			レポート	20	データサイエンスに関するレポートによって評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			

<p>指定した教科書を参考に授業の予習・復習をしてください。前回までの授業内容を理解している前提で授業を行います。</p>	<p>質問は、基本的にメールで受け付けます。 アドレス： tsuruta.yasuhito@u-nagano.ac.jp オフィスアワーを設定します（日時は授業で説明）。</p>		
<p>教科書・ テキスト</p>	<p>大重美幸著『詳細！Python 3入門ノート』ソーテック社、2017年。</p>	<p>受講生に 望むこと</p>	<p>授業に関連する内容を自分で調べ学習する積極的な学習姿勢を歓迎します。データサイエンスに関連する分野の学習に関して相談があればいつでも対応します。</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>授業で適宜指示します。</p>	<p>その他・ 特記事項</p>	<p>プログラミングを実施するためPCが必携になります。</p>

授業科目	ゼミナール（野口）						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
新潟県加茂市で行われる日本公共政策学会・公共政策フォーラム（学生政策コンペ）で実効性のある提言を行えるよう、準備し、発表する。長野市・千曲市・中野市・飯山市・飯綱町・山ノ内町などの近隣自治体への政策提言をまとめる。諸外国の公共政策について、受講生がひとり1ヶ国を担当して調査し、その内容を比較検討する。				前半は、政策コンペで意義のある発表ができるように準備する中で、情報を収集する力・決められた時間内にわかりやすく発表をする力・社会における課題を解決できる政策立案ができる力を身に付けることを目指します。また、その中で見つけた課題を近隣自治体に提案して、活用していただけることを目指します。後半は、公共政策の各国比較研究を通じて、知識の幅をひろげ、比較考察を通じて、思考を深めることを目指します。			
キーワード	公共政策、諸外国の制度、政策提言、比較政治、自治体						
教授方法	前半は、日本公共政策学会・公共政策フォーラム（学生政策コンペ）に出場し、発表する「政策提言」をまとめる。後半は、受講生ひとりひとりがひとつの国を担当し、同じテーマについて公共政策の比較検討を行う。						
履修条件等	ゼミナール（野口）の履修を認められていること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（ゼミナールの進め方など）						
2	どのような政策提言を行いたいのか（全員が1つずつアイデアを考えてくる）。						
3	第2回の発表を受けて、発表するテーマを考える。						
4	第3回で出されたテーマのいくつかについて、発表を行う。						
5	第4回で発表が行われたテーマのいくつかについて、発表を行う。						
6	発表内容の決定						
7	政策コンペでテーマとする内容について発表を行う。						
8	政策コンペでテーマとする内容について発表を行う。						
9	発表に関する調査に行く。						
10	第9回の調査のまとめ						
11	発表に関する調査に行く。						
12	第11回の調査のまとめ						
13	模擬発表会（第1回）						
14	模擬発表会（第2回）						
15	模擬発表会（最終回）						
16	受講生それぞれがどの国を担当するかを決める。						
17	諸外国の議会制度・選挙制度・政党						
18	諸外国の大統領・首相・内閣						
19	諸外国の地方自治制度						
20	諸外国の高齢者福祉政策						
21	諸外国の教育制度・教育政策						
22	諸外国の産業政策						
23	諸外国の環境政策						
24	諸外国の防衛政策						
25	諸外国の雇用政策						
26	諸外国の外国人住民に関する政策						
27	諸外国の男女平等政策						
28	今年度後半のゼミナール・まとめ						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表の内容	70	正確な情報をもとに、わかりやすく発表できたか。	質問する力	20	他の受講生の発表について、適切な質問ができたか。
政策コンペにおける役割	10	政策コンペに関して分担した役割をしっかりと果たすことができたか。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
毎回の発表に関する準備			簡単な質問や相談は学内メールアドレス宛に送ってください。会って話をしたい場合は、その旨をメールに書き、野口の学内メールアドレス宛に送ってください。遠隔授業は、Zoomを使って行います。授業内における発表については、チャット機能なども使って、積極的に質問してください。		
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと	日頃から、社会に存在する問題に関心を持ち、書籍・新聞・論文などを読んだり、映像をみたり、語り合ったりすることを心がけてください。	
参考書・参考資料等	授業内に紹介いたします。		その他・特記事項	ゼミナールを休む際には、必ず、ゼミナールが始める時間までに野口の学内メールアドレス宛に連絡をください。	

授業科目	ゼミナール（築山）						
担当教員	築山 秀夫			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバ	リング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本ゼミでは、構造的な矛盾に晒された地域社会をいかに再生し、持続可能性を担保するのかについて、地域社会学的手法を用いて、フィールドワークを通して学ぶ。</p> <p>3年次には、ゼミ生全員で共同研究・共同調査を実施し、4年次では、ゼミ生が個々に問いを立て、「持続可能な地域社会をいかにつくるか」を研究する。</p>				<p>教員およびゼミの仲間と共同の問題を設定し、共同で、フィールドワークを行うことで、資料の収集、先行研究のサーベイ、質的調査の方法などを共に学び、共同論文をそれぞれの執筆箇所を明らかにしながら完成させる。完成させた論文は、学外で発表し、外部雑誌に投稿する。</p> <p>以上の学びにより、以下のような能力を育むことを目標とする。</p> <p>一つ、ある研究テーマや社会課題に対して、それに対する処方箋を得るために、必要な資料の収集、先行研究のサーベイができ、論理的な分析ができるようになること。</p> <p>一つ、問題のある課題として、設定することができ、その問題の構造をとらえるために、新しい概念を構想することができるようになること。</p> <p>一つ、自分が分析したプロセスやそれによって得られた処方箋について、他者に分かりやすく提示することができるようになること。</p> <p>一つ、他者と連帯し、他者に対して自分を聞き、お互いをサポートしながら切磋琢磨し、一つの課題に対して、処方箋をみちびくことができるようになること。</p> <p>そして、混沌とした社会を生きるための創造的な能力を培うことを目標とする。</p>			

キーワード	フィールドワーク、共同調査、リノベーションまちづくり、持続可能性
教授方法	<p>ゼミナールは、五つの階梯に分かれる。五つの階梯に分かれるが、それぞれが一部重なりながら進められる。これらを実践を伴いながら、教授し、ゼミの皆が共に学び合う。</p> <p>第一の階梯は、調査対象を巡る資料収集と分析を行う。利用するのは、キーワードによる各種新聞検索、論文検索である。調査実施前に、調査対象の情報をできるだけ多く収集し、関心のある文献をリストアップし、自分たちだけの文献リストを作成する。現実に調査に入ると、圧倒的な情報量でこちらに迫ってくる。それを見失うことなくとらえるには、先行研究の補助線が大きな助けになる。</p> <p>第二の階梯は、フィールドワークの実施である。本年度は、長野市門前で展開されているリノベーションによるまちづくりを対象として、そこで実際に活動している人ひとりに聞き取り調査を実施し、空き家をリノベーションによって再生して、まちを創っている人ひとりの現状を把握し、そこから持続可能な地域社会をいかにつくるのかに關する処方箋を探る。調査をしながら、下位の命題を幾つか立てていく。調査を実施しながら、問いを立て、問いを立て直し、関心ある共同の問いに収斂させていく。</p> <p>第三の階梯は、フィールドワークから得られたデータを分析して、問いに対する自分たちなりの考察をする。そして、政策的な提言についても検討する。</p> <p>第四の階梯は、問いを立てて、分析・考察した結果を活字化することである。分析の課程や、そのように分析・考察することのできるエビデンスを示しながら、分かりやすく活字で表現する。活字で表現したものを外部雑誌に投稿する。</p> <p>第五の階梯は、調査対象者及び地域社会に対して、活字化した論文の内容を分かりやすく、プレゼンテーションする。プレゼンテーションをした後に、質問を受け、それに対して、分かる範囲で誠実に答え、分からない部分に関しては、次回以降の問いとする。</p> <p>今年は、新型コロナウイルスへの対応のために、遠隔授業をすることになった。基本は、ZOOMによる同期型の授業を実施する。資料は、予め配布、画面の共有で確認、学生諸君も画面を共有し、報告をして頂く。よって、フィールドワークは、夏季休暇以降となる可能性が高い。フィールドワークができない時期は、WEB上での調査や文献研究を徹底したり、まちづくりのアクターや研究者とのZOOM等による聞き取り調査を実施することを検討する。</p>
履修条件等	4年次の「卒業研究」と「ゼミナール」を履修することになります。

授業計画	
実施回	授業内容
1	ゼミナールの目的や意義について理解し、ゼミナールの年間スケジュールを確認する。学習の方法について、伝授する。サイニイによる論文検索、新聞検索、国立国会図書館デジタルコレクションなど。
2	本年度は、長野市門前で展開されているリノベーションまちづくりを対象として調査する。リノベーションまちづくりの背景について解説する。
3	長野市門前で展開されているリノベーションによるまちづくりについて、担当教員が調査して得られた知見について、解説する。分からない点、関心のある点について、教員に問い、皆で考える。
4	長野市門前のリノベーションまちづくりを問題の場として、そこから、ゼミナールのメンバーの問題関心（問題そのもの）をお互いに報告し合う。＜事前学習＞長野市門前のリノベーションまちづくりを問題の場として、「持続可能な地域社会をいかにつくるのか」をテーマに、自分の
5	ゼミメンバーそれぞれが、さらに自分の問題関心について、深めて調べてきたことについて報告を行い、質疑応答をする。＜事前学習＞自分の問題関心について、先行研究を調べて、紹介する。
6	ゼミメンバーそれぞれが、さらに自分の問題関心について、深めて調べてきたことについて報告を行い、質疑応答をする。＜事前学習＞自分の問題関心について、先行研究をさらに調べて、紹介する。
7	ゼミメンバーそれぞれが、さらに自分の問題関心について、深めて調べてきたことについて報告を行い、質疑応答をする。＜事前学習＞自分の問題関心について、先行研究をさらに調べて、紹介する。
8	ゼミメンバーそれぞれの問いを、体系化するための議論をする。＜事前学習＞自分の問題関心が、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るという問題のどこに位置づけるのかについて考え、まとめてお
9	ゼミメンバーそれぞれの問題関心をいかに調査するのか（調査の設計）について、議論する。＜事前学習＞自分の問題関心をいかに調査したらよいのかについて、自分の考えをまとめておく。
10	ゼミメンバーそれぞれの問題関心をいかに調査するのかについて、議論する。＜事前学習＞自分の問題関心をいかに調査したらよいのかについて、さらに自分の考えをまとめておく。
11	リノベーションまちづくりを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を作成する。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、問いを考え、まとめてくる。
12	リノベーションまちづくりを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を作成する。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、さらに問いを考え、まとめてくる。
13	リノベーションまちづくりを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を作成する。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、さらに問いを考え、まとめてくる。
14	リノベーションまちづくりを場として、持続可能な地域社会をつくるための処方箋を探るための調査票を完成し、印刷し、閉じる。＜事前学習＞自分の問題関心を中心に、完成した調査票を更に確認する。
15	夏季休暇中に、実施した調査結果を集計する。Excelへの入力作業を実施し、SPSSで集計する。＜事前学習＞夏季休暇中の調査結果、特に自由回答の担当部分を活字化してくる。
16	調査結果をクロス集計など、問いを解くための分析を行い、議論する。＜事前学習＞個々の問いに関する調査結果についてまとめておく。
17	調査結果で得られたことを、論文として活字化するための事前作業を行う。皆でパワーポイントで発表しあい、質疑応答を行う。＜事前学習＞調査結果で得られたことをパワーポイントにまとめて、報告してもらうので、作成しておく。
18	前回、議論した内容をふまえて、さらにパワーポイントで説明を行い、議論をする。その際に、問題をより分かりやすく把握できるような概念を構想する。その構想について、皆で考える。
19	前回、議論した内容をふまえて、さらにパワーポイントで説明を行い、議論をする。その際に、問題をより分かりやすく把握できるような概念を構想する。その構想について、皆で考える。
20	パワーポイントで説明した内容をそれぞれ活字化し、提出し、読み合う。参考文献や、註などの付け方や、論理的な展開などについても、皆で読みながら、質疑応答する。

授 業 計 画	
実施回	授業内容
21	パワーポイントで説明した内容をそれぞれ活字化し、提出し、読み合う。参考文献や、註などの付け方や、論理的な展開などについても、皆で読みながら、質疑応答する。
22	前回提出した論文をさらにブラッシュアップするために、皆で読み合い、議論する。 <事前学習>論文をさらにブラッシュアップしたものを作成してくる。
23	論文で書いた内容から、何らかの政策提言ができるか、議論する。 <事前学習>執筆した論文から、政策提言ができるか、まとめてくる。
24	前回の議論を継続して、何らかの政策提言ができるか、議論する。 <事前学習>前回の議論を参考に、さらに政策提言について、まとめてくる。
25	学園祭での報告会のための資料作成をする。 <事前学習>学園祭で報告会をするための資料をパワーポイントで作成してくる。
26	調査のインフォーマント向けの報告会資料を作成する。 <事前学習>調査のインフォーマント向けの報告会資料をパワーポイントで作成してくる。
27	外部雑誌への投稿のための共同論文を完成させる。 <事前学習>外部雑誌への投稿論文(個々の部分)を完成させて来る。
28	一年間のゼミを皆で振り返り、議論し、来年度のゼミの課題を話し合う。 <事前学習>個々のゼミ生が、一年間のゼミを振り返り、得られたこと、課題として残ったことをまとめておく。

共通の成績評価基準

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
事前学習	30%	求められていることが達成できているかについて評価する。	授業貢献度	30%	議論に積極的に参加、発言できているかを評価する。
論文、プレゼンテーション	40%	論文及びプレゼンテーションの水準、自ら問いを立て、分析をし、解答を得られたか、他者に分かりやすく説明できたかを評価する。			

授業外における学習(事前・事後学習等)

それぞれの回で課されている事前、事後学習は必ず行うこと。ゼミはゼミ以外の時間に行った学習の成果の発表の場所である。

質問や相談への対応

ゼミ時間時にはいつでも受けます。また、メールによる質問、相談をいつでも受けます。24時間以内に返信いたします。直接面談による質問、相談については、メールにてアポを取って頂ければ対応いたします。どんどん下さい。

教科書・テキスト	特にありません。	受講生に望むこと	<p>1. 事前学習、事後学習を必ず行ってください。</p> <p>2. ゼミの時間は、恥ずかしがらずに、自分の意見をどんどん述べてください。ゼミでのグラウンド・ルールは次の通りです。 Yes, and (どんな意見も受け入れる) Be Present ("今ここ"に集中する) Listen (よく聴く、傾聴する) Co-Create (共に創る) Have Fun! (楽しむ) No "む" (無理、難しいと言わない 言ってしまった時は、3秒以内に、「楽しい!」と言うこと) Make Mistakes!! (失敗を恐れない。どんどん失敗する) Ena Communication Inc. 代表榎栄ひかる氏考案のルールを一部修正したもの。</p> <p>3. ゼミでの時間を十分に取りたいので、ゼミの後にはアルバイト等の用事を入れないでください。</p>
参考書・参考資料等	特にありません。その都度、必要な文献について、ご紹介します。		
その他・特記事項		ゼミ生同士で、切磋琢磨してほしい。	

授業科目	ゼミナール（中村文）						
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>多くの人は、企業が決算等で報告する会計数値について、おそらく「堅い」とか「動かしがたい」という印象・イメージを持っていると思われる。しかし実際には、報告の目的や、計算の仕方等、描写に際してどのようなルールを設定するかにより、描写されるビジネス活動の姿は大きく異なっている。本ゼミナールでは、企業が利害関係者との間で会計情報を授受する財務報告制度に焦点を当てて、次の二つのことを学ぶ。 企業から開示された会計情報を正しく読み取り分析するための基礎会計情報作成のルールとその設定を理解するための基礎理論</p>				<p>本ゼミナールでは、受講者が将来どのような進路に進んだ場合であっても、特定のテーマについて調査・報告という作業を一定レベルで完遂できるように、テーマの選定、資料収集、レジュメ・プレゼンテーション資料の作成、報告、討論等の基本タスクをグループあるいは各人で行ないながら、自己のスキルを高めて学習を深めていく。具体的には、2年次に業界研究と分析、3年次に企業分析を行い、4年次に各自の関心あるテーマについて調査研究を行い論文としてまとめる。</p>			
キーワード	経営分析 安全性の分析 生産性の分析 収益性の分析 成長性の分析 統計利用その他の分析						
教授方法	オンラインによる演習形式（可能であれば対面式も併用）で行います。						
履修条件等	アカウントニング入門、財務会計入門を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミナールの進め方に関する説明、分担箇所の設定、レジュメの作成の仕方、有価証券報告書を用いた演習						
2	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（2章）						
3	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（3章）						
4	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（4章）						
5	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（5章）						
6	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（6章）						
7	論文執筆指導（論文の書き方、テーマの選び方等）						
8	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（7章）						
9	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（8章）						
10	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（9章）						
11	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（10章）						
12	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（11章）						
13	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（12章）						
14	論文執筆指導（論文の書き方、執筆の基本ルールについて）						
15	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
16	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
17	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
18	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
19	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
20	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
21	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
22	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
23	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
24	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
25	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
26	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
27	論文執筆指導（論文の添削等）						
28	振り返り、講評						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
テーマの選択と調査・資料	30	テキスト等から自分の担当箇所を選択し、その内容について調査を行い資料を集める	グループワーク	20	テーマに関するグループ・ディスカッションおよびグループ・ワークへの参加態度・貢献度
レジュメ報告・プレゼンテ	30	レジュメやプレゼンテーション資料の作成と報告・プレゼンテーション			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
企業のビジネス活動に関わる情報は、日常、メディア等を通じて積極的に収集すること。特に、自己の担当した企業が属する業界や将来就職を希望する業種については、常に情報収集を欠かさないこと。			ポータルサイトでお知らせします。		
教科書・テキスト	桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。		受講生に望むこと	積極的にゼミ活動に参加すること。	
参考書・参考資料等	ポータルサイトでお知らせします。		その他・特記事項	有価証券報告書を用いた演習は、ゼミ生の興味に応じてアレンジしていく予定である。	

授業科目	ゼミナール（東）						
担当教員	東 俊之			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>ゼミナールは、専門分野における特定のテーマに関する知識と調査研究に取り組むことによって、課題の設定、資料調査、分析そして研究成果の発表に至るまでの一連のプロセスを学修することを目的とする。受講生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択し、考察を深める。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につけさせることを目指す。</p> <p>「ゼミナール（東）」は、「PBL型ゼミナール」と「学術研究型ゼミナール」の2つの柱に分かれる。まず「PBL型ゼミナール」では、与えられたテーマからグループで問題を発見し、解決策を提案する。また「学術研究型ゼミナール」では、研究活動の準備段階として調査分析方法の理解と組織論の文献講読を行う。</p>				<p>「ゼミナール（東）」では、「組織論の視点を用いた調査・研究」の基礎めを行う。具体的には、組織論の文献を講読し、概要を要約し説明できる、組織論の視点を理解し、それに基づいた基礎的な分析ができる、与えられたテーマに対して、組織論の視点から問題を発見できる、他者と協力し、課題の解決策を提案できる、自身の問題意識から研究テーマを設定し、計画を立てて文章で報告することができる、という5点を到達目標とする。</p>			
キーワード	PBL、文献輪読、論文講読、研究計画書、学外調査						
教授方法	<p>演習。場合によっては、講義の形式の時もあります。また、学外での調査も必須です。なお、各学期の概要は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年次1学期：PBLの進め方と経営組織論の調査方法を理解する & 組織論の重要書籍を輪読する ・3年次2学期：PBLテーマの開示と予備調査を行う & 組織論の最近のトピックを学習する（論文講読） ・3年次3学期：PBLのグループ活動を進める（本格調査）& 「研究計画書」の作成準備を行う ・3年次4学期：PBLの課題解決策の検討とプレゼンテーションを行う & 「研究計画書」を提出する 						
履修条件等	「ゼミナール」で東ゼミの所属している者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【オリエンテーション】：ゼミナールのスケジュールの説明、自己紹介、グループ分け等を行います。また課外で個人面談を行います。						
2	【文献の読み方とPBLの進め方】：PBLの進め方と、組織論の文献の読み方を説明します。またその準備段階として、経営組織論の学説史（理論的展開）を講義します。						
3	【古典的名著の輪読】：経営組織論の重要書籍といえるH. E. オルドリッチ『組織進化論』を講読します。また、PBLについての理解を深めるために、簡単なアクティブラーニングを行います。なお、講読する書籍が変更になる場合があります。						
4	【古典的名著の輪読】：経営組織論の重要書籍といえるH. E. オルドリッチ『組織進化論』を講読します。また、経営組織論の調査のプロセスについても理解を深めます。						
5	【古典的名著の輪読】：経営組織論の重要書籍といえるH. E. オルドリッチ『組織進化論』を講読します。また、経営組織論研究のための情報収集方法を理解します。						
6	【古典的名著の輪読】：経営組織論の重要書籍といえるH. E. オルドリッチ『組織進化論』を講読します。また、実例を用いて、経営組織論の調査方法を実践します。						
7	【古典的名著の輪読 & 1学期の自己点検授業】：経営組織論の重要書籍といえるH. E. オルドリッチ『組織進化論』を講読します。を講読します。また、あらためて経営組織論の視座を学習します。さらに、1学期のまとめを行います。						
8	【プロジェクト・テーマの開示とグループ分け】：企業や行政などから提供されてプロジェクト・テーマを開示します（PBL型ゼミのテーマ）。また自身の興味関心のあるテーマを選択し、グループを作ります。先方から示されたスケジュールに従うので、テーマ開示ならびにグループ						
9	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。						
10	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。						
11	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。						
12	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（授業内・課外）。また、組織論の論文を精読し、要約した内容をプレゼンテーションします（自身の興味ある論文を選択する）。						
13	【プロジェクト活動】：プロジェクト・テーマに関して、グループで解決すべき課題を検討します（課外）。また、必要に応じて、情報収集を行います。						
14	【プロジェクト活動】：プロジェクト・テーマに関して、グループで取り組む課題を決定します（課外）。また、必要に応じて、情報収集を行います。さらに、夏期休暇中のゼミ活動を指導します。						
15	【後学期ガイダンス】：後学期（3・4学期）のスケジュールの説明、夏季休暇中のプロジェクト活動の進捗状況の確認などを行います。						
16	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成準備】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、4学期に提出する「研究計画書」を作成する方法（プロセス）を説明します。						
17	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成準備】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、「研究計画書」を作成するために（=研究を進める上で）不可欠な「問題意識と研究意義」を発見するために、						
18	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成準備】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、自身の問題意識・研究意義を研究テーマに昇華させるために、ゼミ内で発表・議論します。						
19	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成準備】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、各自の研究テーマから、結論を導くための研究方法を検討します（ゼミ内で発表・議論）。						
20	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、自身の問題意識、研究テーマ、研究方法に関連する「先行研究」を精読し、分析していきます（授業内・課外）。						
21	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せます。また、自身の問題意識、研究テーマ、研究方法に関連する「先行研究」を精読し、分析していきます（授業内・課外）。						
22	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、課題解決策の検討に入ります。また、自身の問題意識、研究テーマ、研究方法に関連する「先行研究」を精読し、分析し						
23	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、課題解決策を深く検討します。また、「研究計画書」（=自身の研究したい内容）をゼミ内で発表し、他者からコメント						
24	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、提案した課題解決策を評価します。場合によっては、受け入れ先に意見を求めます。また、「研究計画書」（=自身の研						
25	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（授業内・課外）。なお、進め方等は各グループに任せますが、課題解決策を決定する段階に入ります。また、「研究計画書」を実際に執筆します。						
26	【プロジェクト活動】：取り組んできた課題についての解決策を決定し、プレゼンテーションを行うための準備をします。						
27	【プロジェクト活動】：PBLの課題解決策について、クラス内（または、受け入れ先）でプレゼンテーションを行います。また、「研究計画書」を提出します。						

授 業 計 画					
実施回	授業内容				
28	【自己点検授業】：1年間の振り返りと次年度へ向けてのプランを検討します。また、課外で個人面談を行います。				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	実施しない	小テスト	0	実施しない
レポート	40	数回のレポートにより評価する。具体的には、「研究計画書」(4学期、20%)、グループ活動報告書(数回、10%)、文献輪読・講読レポート(数回)。	その他：授業態度点	60	ゼミ活動への参加度(出席・発言等)、グループ活動での貢献度、ゼミ内でのプレゼンテーション(発表内容・レジュメ等)、などを総合的に評価する
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
ゼミの授業時間(教室に集まっている時間)だけでは、当然のことながら不十分です。課外でのグループ活動や個人研究が求められます。特に「PBL型ゼミ」では、皆さん自身が足を運んで調査対象から情報を得ることが必要になりますので、課外でも十分なゼミ活動の時間を確保するように努めて下さい。また、「学術研究型ゼミ」でも、徹底した予習(さらに復習)が不可欠です。文献講読では、少々高いレベルの学術論文を読んでもらいますし、自身の研究を発表する際にも、十分な先行研究調査を求めます。			オフィスアワーを設定しますが、それ以外でも入室しているときは対応します。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。なおオフィスアワーの時間帯は、授業の初回で案内します。		
教科書・テキスト	H. E. オルドリッチ著(若林ほか訳)『組織進化論』東洋経済新報社、2007。 変更になる場合あり		受講生に望むこと	ゼミ全体の目標は、「『学問』するゼミ文化を構築する」ことです。その目標を実現するために、3年ゼミでは「実際の組織活動の調査分析方法を理解すること」に主眼を置いています。そのことを意識して、ゼミ活動に取り組んでください。ゼミ活動には、なるべく積極的に参加してほしいです。課外の時間に集まってグループ活動をおこなうこともあります。アルバイトやサークル活動を優先しないでください。	
参考書・参考資料等	古典的名著(文献)の講読準備として下記の書籍を通読してください。 岸田民樹・田中政光『経営学説史』有斐閣アルマ、2009。 また、組織論(広く経営学)の研究方法を理解するために、以下の書籍を用います。 田村正紀『リサーチ・デザイン』白桃書房、2006。 上記以外の参考文献・参考資料も、ゼミ内で適宜紹介します。それ以上に、皆さん自身で探し出すことが求められます。		その他・特記事項	【重要】「授業計画」はゼミ生の興味関心や、到達レベルに応じて変更する場合があります。ご了承ください。また、学外に出かけての調査も予定しています。積極的に参加ください。	

授業科目		ゼミナール (大室)					
担当教員	大室 悦賀			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本ゼミは、基礎理論と現実を往復しながら、それらを自分のものとすることを目的とします。内容は学生と相談しながら進めますが、教科書としてしている本は必ず読んでもらいます。また、これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識し、現実社会に貢献できる内容とする。</p>				<p>本ゼミでは、以下の4つの事業を展開する。第1に企業と社会に関わる基本的な知識を獲得すること。第2には学生生活内、あるいは生涯を通じて実施していきたい「マイプロジェクト」を作成・実施すること。上記のプロセスでは、思考方法、セルフマネジメントなどの基礎的なものを合わせて実施し、自立した個人の育成に力を注ぐ。最終的には、持続的な社会に貢献できる人材になってもらう。”</p>			
キーワード							
教授方法	演習を基本としますが、東京や京都等への企業訪問などを取り入れることで理論と現実を往復していきます						
履修条件等	3年次のゼミ合格者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	輪読『世界標準の経営理論』(1章・2章)						
3	輪読『世界標準の経営理論』(3章・4章)						
4	輪読『世界標準の経営理論』(5章・6章)						
5	輪読『世界標準の経営理論』(7章・8章)						
6	輪読『世界標準の経営理論』(9章・10章)						
7	輪読『世界標準の経営理論』(11章・12章)						
8	輪読『世界標準の経営理論』(12章・14章)						
9	輪読『世界標準の経営理論』(15章・16章)						
10	輪読『世界標準の経営理論』(17章・18章)						
11	輪読『世界標準の経営理論』(19章・20章)						
12	輪読『世界標準の経営理論』(21章・22章)						
13	輪読『世界標準の経営理論』(23章・24章)						
14	輪読『世界標準の経営理論』(25章・26章)						
15	輪読『世界標準の経営理論』(27章・28章)						
16	輪読『世界標準の経営理論』(29章・30章)						
17	輪読『世界標準の経営理論』(31章・32章)						
18	輪読『世界標準の経営理論』(33章・34章)						
19	輪読『世界標準の経営理論』(35章・36章)						
20	輪読『世界標準の経営理論』(37章・38章)						
21	輪読『世界標準の経営理論』(39章・40章)						
22	輪読『世界標準の経営理論』(41章・終章)						
23	輪読『「私」は脳ではない』1章						
24	輪読『「私」は脳ではない』2章						
25	輪読『「私」は脳ではない』3章						
26	輪読『「私」は脳ではない』4章						
27	輪読『「私」は脳ではない』5章						
28	輪読『「私」は脳ではない』6章						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
その他	100	授業への参加と課題等の取組姿勢			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習：各自に割れあてられた課題をしっかりと読み込むこと 事後学習：授業中に議論したことを自分なりに再度まとめ直すこと			アポイントを入れ、研究室に相談に来ること		
教科書・テキスト	授業中に指定する		受講生に望むこと		しっかりと考える習慣を獲得すること
参考書・参考資料等	授業中に指示する		その他・特記事項		これまで企業と行政で23年間実務に携わってきたので、実務と理論の橋渡しを意識させる内容としたい。これまでの職務で知り合った企業を事例として授業を進めることを想定。

授業科目	ゼミナール（衣川）						
担当教員	衣川 修平			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
主に会計学を学ぶゼミです。本年度は中でも企業分析を中心に勉強していきたいと予定しています。皆さんのニーズがあれば、ライトなフィールドワークも行いたいと思います。				減損会計、退職給付引当金、リース会計といった財務会計の個別分野と言われる論点を一つ一つ勉強していくことで、アカウントティング・マインド養成していきます。また、プレゼン能力やディスカッション能力の向上も図っていきます。また財務諸表作成・分析能力についても、時間の余裕に応じて、養成していきます。			
キーワード	アカウントティング・マインド, 会計学, 財務分析						
教授方法	演習						
履修条件等	第2学年以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	授業内容:イントロダクション:軽く自己紹介、役職決定。 時間があれば軽くゲームを行います						
第2回	テキスト輪読A : 伊藤邦雄『新・企業価値評価』を予定しています。皆さん2年生でまだ未修の内容もありますので、随時、補講的なレクチャーも入れていきたいと思います。						
第3回	テキスト輪読A : 発表&ディスカッションしていきます。						
第4回	テキスト輪読A : 発表&ディスカッションしていきます。						
第5回	テキスト輪読A : 発表&ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。						
第6回	テキスト輪読A : 発表&ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。						
第7回	テキスト輪読A : 発表&ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。(1セメ終了、海外研修へ)						
第8回	海外研修報告 3・4セメの打ち合わせ						
第9回	テキスト輪読B : 発表&ディスカッションしていきます。						
第10回	テキスト輪読B : 発表&ディスカッションしていきます。						
第11回	テキスト輪読B : 発表&ディスカッションしていきます。						
第12回	テキスト輪読B : 発表&ディスカッションしていきます。						
第13回	テキスト輪読B : 発表&ディスカッションしていきます。						
第14回	テキスト輪読B : 発表&ディスカッションしていきます。						
第15回	講演: 有識者の講演を考えていますが、原価計算が管理会計 で講演をするかもしれません。その時はゼミ生は積極的に手伝ってください。						
第16回	テキスト輪読C : 発表&ディスカッションしていきます。						
第17回	テキスト輪読C : 発表&ディスカッションしていきます。						
第18回	テキスト輪読C : 発表&ディスカッションしていきます。						
第19回	テキスト輪読C : 発表&ディスカッションしていきます。						
第20回	テキスト輪読C : 発表&ディスカッションしていきます。						
第21回	テキスト輪読C : 発表&ディスカッションしていきます。						
第22回	テキスト輪読D : 発表&ディスカッションしていきます。						
第23回	テキスト輪読D : 発表&ディスカッションしていきます。						
第24回	テキスト輪読D : 発表&ディスカッションしていきます。						
第25回	テキスト輪読D : 発表&ディスカッションしていきます。						
第26回	テキスト輪読D : 発表&ディスカッションしていきます。						
第27回	テキスト輪読D : 発表&ディスカッションしていきます。						
第28回	テキスト輪読D : 発表&ディスカッションしていきます。						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者を尊重し、その意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べることができたか	報告	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者を尊重し、意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べることができたか
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
課題をこなすことと、簿記に関する演習を普段から勉強することが望ましいです。またゼミ時にも、簿記の演習支援を行います。			ゼミの前後、メールでの質問を受け付けます。オフィスアワーは演習時に指定します。		
教科書・テキスト	伊藤邦雄（2014）『新・企業価値評価』日本経済新聞社と、その前準備のための基礎的なテキストを読むことを予定しています。		受講生に望むこと	ゼミナールは、学生さんが中心になって作っていくものです。積極的に発現するなどして演習に参加し、フリーライダー、ボールウォッチャーにならないようにしましょう。よくコミュニケーションが全く取れない人や、ゼミに参加しようとしなない人は、他者に対して敬意が見られない人は、ゼミ自体を崩壊させますので、注意してください。しかし難しいことを要求しているわけではありません。おとなしい人はおとなしく、元気な人は元気に、まじめな人はまじめに、自分の資質を生かして頑張ってもらえればそれでOKです！またなるべく学びの場が楽しくなるように、様々なイベント企画を考えていきましょう。また演習という性格上、報告時の無断欠席は厳禁です。また5回以上の欠席については、やむを得ない場合を除き、認められません。	
参考書・参考資料等	随時指定します。				
			その他・特記事項	Email: kinugawa.shuhei u-nagano.ac.jp	

授業科目		ゼミナール（金）					
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>このゼミでは、ビジネスに関する法領域での法的な論点、個別事例等の中から自身でテーマを選び、なぜそのテーマを検討する必要があるのか、具体的な問題点は何か（問題意識）を整理した上で、現状はどうなっているか、それはなぜか、法制度等に改善が必要な点はあるか、あるとすれば何か、どのように改善すればよいか、といった流れで考察を行い、論文にまとめる。</p>				<p>金融・資本市場及び会社法の専門的なテーマについて、理解し、説明できるようにする。 株式会社、金融・資本市場に関する法的な論点を理解し、分析（問題点の指摘、原因の解明、再発防止策の考案等）を行うことができるようになる。</p>			
キーワード	会社法、金融商品取引法、ビジネス法						
教授方法	原則として、演習方式とする。 大学がオンライン講義の実施の方針を採る学期については、それによる。別途、案内をするので、確認すること。						
履修条件等	法学系の科目を履修済み又は同時履修予定であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
3	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
4	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
5	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
6	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
7	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
8	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
9	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
10	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
11	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
12	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
13	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
14	ふりかえり						
15	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
16	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
17	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
18	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
19	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
20	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
21	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
22	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
23	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
24	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
25	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
26	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
27	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
28	ふちかえりとまとめ						

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表の内容と出来ばえ	70	プレゼン等の内容（正確性、創造性等）、プレゼン等の出来ばえ（当日のパフォーマンス等）を基準に評価します。	コミュニケーション能力	30	ゼミの運営、共同作業、質疑応答及びその対応等に関するコミュニケーション能力について評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
担当する発表等の準備その他。			原則として、オフィス・アワーに同等する。オフィス・アワーの委細については、ガイダンスその他において案内する。		
教科書・テキスト	特になし。講義中にコピー等を配布する。		受講生に望むこと	楽しみながら、学習しましょう。 オンライン講義の実施に関して、別途連絡をするので、メール等の確認をまめに行ってください。	
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・江頭憲治郎「株式会社法」（有斐閣、第7版、2017） ・伊藤靖史「会社法」（有斐閣、第4版、2018） ・河本一郎ほか「新・金融商品取引法読本」（有斐閣、2014） ・松岡啓佑「最新金融商品取引法講義」（中央経済社、第4版、2018） ・会社法判例百選 第3版（別冊ジュリスト 229） ・金融商品取引法判例百選（別冊ジュリスト 214） つづく 		その他・特記事項	講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。 参考書つづき ・吉見宏「会計不正事例と監査（日本監査研究学会リサーチシリーズXVI）」（同文館出版、2018） ・長島・大野・常松法律事務所その他「会計不祥事対応の実務」（商事法務、2010） ・門脇徹雄ほか「ケースブック 上場ベンチャー企業の粉飾・不正会計失敗事例から学ぶ」（中央経済社、2008） その他、講義中に説明する。	

授業科目	ゼミナール（首藤）						
担当教員	首藤 聡一郎			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
経営戦略論のロジックを通じて現実を分析していく。				1) 経営戦略のロジックを習得する 2) 経営戦略論のロジックを用いて現実をよりよく理解できるようになる 3) 自らの思考に経営戦略論のロジックを組み込むことができるようになる			
キーワード	経営戦略論、経営分析、経営企画						
教授方法	グループ、あるいは個人で課題に取り組み、プレゼンテーションする。その後、議論する。						
履修条件等	事前に履修を希望し、認められた学生						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	経営戦略論のロジック（1）						
3	経営戦略論のロジック（2）						
4	経営戦略論のロジック（3）						
5	経営戦略論のロジック（4）						
6	経営戦略論のロジック（5）						
7	経営戦略論のロジック（6）						
8	ビジネスプランコンテスト（1）						
9	ビジネスプランコンテスト（2）						
10	ビジネスプランコンテスト（3）						
11	ビジネスプランコンテスト（4）						
12	ビジネスプランコンテスト（5）						
13	ビジネスプランコンテスト（6）						
14	ビジネスプランコンテスト（7）						
15	経営分析（1）						
16	経営分析（2）						
17	経営分析（3）						
18	経営分析（4）						
19	経営分析（5）						
20	経営分析（6）						
21	経営分析（7）						
22	経営企画（1）						
23	経営企画（2）						
24	経営企画（3）						
25	経営企画（4）						
26	経営企画（5）						
27	経営企画（6）						
28	まとめ						

共通の成績評価基準

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	100	内容、表現			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
プレゼンテーションの準備			アポイントメントをとってくれば日程を調整して対応いたします		
教科書・テキスト	ありません		受講生に望むこと	一緒に頑張りましょう	
参考書・参考資料等	適宜紹介します		その他・特記事項	要望などありましたら遠慮なくお伝えいただければ幸いです。よろしくお願いします	

授業科目	ゼミナール（田村）						
担当教員	田村 秀			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>単に講義だけでなく、グループディスカッション、地方自治体見学や公共政策の現場でのフィールドワーク、個人研究の発表などを通して議論する機会を数多く設け、地方自治や公共政策に関する基本的なスキルを身につけ、公共経営コースに必要な能力を養います。アクティブラーニングを通じて、コミュニケーション能力も高めます。研究したいテーマや実際にフィールドワークしたい場所を学生に主体的に選んでもらいます。様々な意見に耳を傾け、自分の考えを論理的に表現することができるスキルをゼミを通じて身につけてもらいます。3年と4年が合同で実施するので、1,2学期は主に3年が、3,4学期は主に4年が発表を行います。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の基本的な仕組みが理解できる。 ・公共政策とはどのようなものかについて理解できる。 ・地域にどのような課題があるか、自ら発見することができる。 ・地域の課題の具体的内容について、データや様々な情報を用いて説明することができる。 ・地域の課題の解決策について、一定程度の提案ができる。 ・グローバル社会の中で、地域の将来像について、海外研修の成果を踏まえ、自分の言葉で語るすることができる。 ・フィールドワークに関する基本的な事項を習得できる。 			
キーワード	地方自治、地域活性化、地方創生、グループディスカッション、フィールドワーク						
教授方法	講義も行いつつ、基本は学生と教員、学生同士の議論、プレゼンとし、フィールドワークも随時行います。						
履修条件等	政策科学の単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミの進め方について説明						
2	グループディスカッションの準備						
3	発表1						
4	発表2						
5	発表3						
6	発表4						
7	発表5						
8	発表6						
9	発表7						
10	グループワーク1						
11	グループワーク2						
12	グループディスカッション1						
13	グループディスカッション2						
14	2学期のまとめ						
15	フィールドワーク準備						
16	フィールドワーク1						
17	フィールドワーク2						
18	フィールドワーク3						
19	フィールドワーク発表1						
20	フィールドワーク発表2						
21	3学期のまとめ						
22	講義						
23	ミニゼミ論の作成						
24	ミニゼミ論の作成						
25	ミニゼミ論の作成						
26	ミニゼミ論の発表						
27	ミニゼミ論の発表						
28	ゼミのまとめ						

共通の成績評価基準

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	ゼミでの議論の内容を踏まえて、自分の考えをしっかりとまとめている点を重視します。	上記以外の授業評価	50	ゼミの出席、議論への参加などを総合的に加味します。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>地域の様々なことに常に興味を持っていてもらいたいと思います。具体的には新聞やインターネットで自分の関心のある地域の出来事、特に自治体の取組みなどについて調べておいてください。自分の出身地や長野県だけでなく、直接関係のない地域の出来事にもアンテナを張ってもらいたいものです。本に関しては、担当教員の著書について、少なくとも1冊以上は目を通しておいてください。</p> <p>このほか、長野市内を自分の足で回り、自分の目で見える機会を数多く作っておいてください。このゼミのモットーの一つに現場主義があります。地域を実際に自分で回り、様々な事象を見ることを通じて、問題意識を持つきっかけにってもらいたいと思います。</p>			<p>随時受け付けます。</p>		
教科書・テキスト		ゼミの最初に示します。	受講生に望むこと		地域のことを常に意識してください。
参考書・参考資料等		ゼミの最初に示します。	その他・特記事項		授業計画は仮置きであり、柔軟に実施します。

授業科目	ゼミナール（永田）						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けるために、教科書を輪読し、その内容について議論する。また、グループに分かれて関心のある経済・社会問題を研究し、研究成果を大学生を対象にした懸賞論文（日銀グランプリ、中小企業懸賞論文、日経ストックリーグ等）に応募する。</p>				<p>ファイナンスと金融論の基礎知識を身に付けることを目標とする。さらに、現実の経済・社会問題を分析することで、基礎知識の使い方を学ぶ。研究成果を懸賞論文に応募することで、論理的思考力と表現力を養い、発信力ゼミで身に付けたアカデミックスキルズも使いこなせるようにする。</p>			
キーワード	ファイナンス，金融論，経済学						
教授方法	演習形式（対面で行う予定）						
履修条件等	ファイナンス入門と金融論，コーポレートファイナンス，金融システム論，ミクロ経済学，マクロ経済学，経営統計学入門，数理統計学を履修すると，授業内容を深く理解できる。これらの科目の積極的な受講を勧める。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	テキストの報告と討論						
3	テキストの報告と討論						
4	テキストの報告と討論						
5	懸賞論文の中間報告と討論						
6	懸賞論文の中間報告と討論						
7	懸賞論文の中間報告と討論						
8	テキストの報告と討論						
9	テキストの報告と討論						
10	テキストの報告と討論						
11	懸賞論文の中間報告と討論						
12	懸賞論文の中間報告と討論						
13	懸賞論文の中間報告と討論						
14	懸賞論文の中間報告と討論						
15	テキストの報告と討論						
16	テキストの報告と討論						
17	テキストの報告と討論						
18	テキストの報告と討論						
19	懸賞論文の中間報告と討論						
20	懸賞論文の中間報告と討論						
21	懸賞論文中間報告と討論						
22	テキストの懸報告と討論						
23	テキストの報告と討論						
24	懸賞論文の中間報告と討論						
25	懸賞論文の中間報告と討論						
26	懸賞論文の報告						
27	卒業論文のテーマについての報告						
28	卒業論文のテーマについての報告						

共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	0		小テスト	0	
授業レポート	20	ファイナンスや金融の基礎知識を用いて経済問題を分析しているかどうかを確認する。	上記以外の授業評価	80	日々の取組（報告や質疑応答，議論への参加，宿題等）と懸賞論文の成果。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
テキストの予習・復習は必須。予習が不十分だと，授業内容も理解できず，授業中の議論にも参加できない。また，懸賞論文の執筆作業（資料収集と整理，研究発表の準備，論文の執筆等）にも時間をかけること。			授業中に質問すること。授業時間外に質問があれば，研究室に来ること。所用がない限り，いつでも対応する。日時を指定したい場合，メール等で事前に連絡すること。		
教科書・テキスト	内田浩史（2016）『金融』，有斐閣。ゼミナールの教科書を引き続き使用する。		受講生に望むこと	懸賞論文での好成績を目指す。	
参考書・参考資料等	適宜指示する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	ゼミナール（中村陽）						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
2年次に学んだマーケティングや統計学の専門的知識とデータ分析の技術を基に、3、4年次のゼミは研究活動をメインとしながら、合同会社sigmovの経営、民間企業や自治体との共同プロジェクト、全国レベルの各種コンテストなどに取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> ・特定のテーマについて、論点を整理して課題を設定し、必要な情報を集めて適切に整理し、主張の客観的な根拠をそろえ、効果的に相手に伝える、という一連のスキルを身につけている。 ・統計学の基礎的な力（統計検定2級程度）を身につけている。実データを統計ソフトを用いて適切に分析し、正しく解釈することができる。 ・英語のトップジャーナルに掲載された学術論文を読み、正しく理解できる。 			
キーワード	マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ						
教授方法	演習						
履修条件等	マーケティングと統計学の関連科目を履修していること、あるいは同時に履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
2	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
3	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
4	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
5	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
6	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
7	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
8	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
9	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
10	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
11	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
12	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
13	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
14	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
15	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
16	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
17	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
18	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
19	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
20	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
21	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
22	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
23	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
24	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
25	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
26	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
27	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
28	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	授業や課題への取り組み状況を総合的に評価する			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
膨大な量の事前準備が前提となって授業は進められる。授業内というよりも、むしろ授業外の学習や活動がメインとなる。長期休業中も膨大な量の課題がある。			出張がなければ研究室にいるので、授業、会議などのない時間帯はいつでも対応する。		
教科書・テキスト	授業の中で適宜指示する。		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミの理念を理解し、共感していること。 ・ゼミ活動に全力でコミットすること。 	
参考書・参考資料等	授業の中で適宜指示する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・他のゼミとの掛け持ちはできない。 ・3年次からの入ゼミはできない。 ・4年次には卒業論文を書かなければならない。 	

授業科目	ゼミナール（中村 稔彦）						
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>ゼミナールでは、少子高齢化の下での社会保障や税収獲得のあり方、地域再生・活性化に向けた自治体の政策や財政運営等について、ホームページ閲覧や資料を読むなどして調べ、議論や集団討論を行うとともに論文の書き方、文献の見つけ方等について基礎から学習する。また、夏休みは全国の特徴のある自治体をいくつかピックアップし、当該自治体に全員で赴き、実地調査を行い(ゼミ合宿)、実地調査で得られた資料や情報をもとに、自治体ごとにグループを作って共同論文を作成し、発表する。実地調査で学んだことが、長野県や長野県内市町村、ゼミ生の生れ育った自治体等に反映できないか等についても議論する。その他にも、各個人の意識や知識、思考力を高めるために、グローバル企業の部長や本部長、マネージャー、オーストラリアのクイーンズランド州立の日本支部のマネージャーとのワークショップやセッション、サブゼミなどを多数実施する。</p>				<p>本ゼミの到達目標は、専門的な知識や思考能力を高めることはもちろん、それ以外にも公務員や民間企業の面接試験や集団討論を突破するスキルや社会に出てから即戦力として活躍するための調査力、分析力、行動力、コミュニケーション力、それに優秀なリーダーになるために必要な問題点を発見する「問題意識力」とそれを解決しようとする「問題解決力」を身に付けることである。</p>			
キーワード	少子高齢化、地方創生、地域再生、地域活性化、社会保障制度						
教授方法	講義形式は一部にして、与えられたテーマに対する発表や議論、集団討論、共同論文の添削、発表等をする場面をできるだけ多く設けるようにする。						
履修条件等	5回欠席した者（公欠を除く）は単位を付与しない（就職活動については要相談）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	市町村の地域発展政策の事例紹介 集団討論（1）						
第2回	集団討論（2）						
第3回	市町村の地域発展政策の比較（1）						
第4回	集団討論（3）						
第5回	市町村の地域発展政策の比較（2）						
第6回	集団討論（4）						
第7回	夏休みのゼミ合宿と共同論文の執筆について 合宿先の決定等						
第8回	市町村の地域発展政策の比較（3）						
第9回	集団討論（5）						
第10回	市町村の地域発展政策の比較（4）						
第11回	学術論文の執筆の仕方について						
第12回	共同論文への取り組み（1）テーマと目次をつくり、各節の担当を決定						
第13回	集団討論（6）						
第14回	市町村の地域発展政策の比較（5）						
第15回	共同論文への取り組み（2）各担当の執筆進捗状況の確認と添削						
第16回	集団討論（7）						
第17回	共同論文への取り組み（3）各担当の執筆進捗状況の確認と添削						
第18回	集団討論（8）						
第19回	共同論文への取り組み（4）各担当の執筆進捗状況の確認と添削						
第20回	集団討論（9）						
第21回	共同論文発表への準備（1）						
第22回	共同論文発表への準備（2）						
第23回	共同論文の発表（質疑応答含む）						
第24回	集団討論（10）						
第25回	社会保障に関する文献を読み議論する。						
第26回	集団討論（11）						
第27回	地域再生・活性化に向けた地域政策に関する文献を読み議論する。						
第28回	集団討論（12）						

共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
集団討論	30	積極性、内容、表現力、対応力等の点から総合的に評価する（3点×10回）。	政策比較発表	40	内容、分析力、表現力等の点から総合的に評価する（4点×10回）。
共同論文	30	問題意識、形式面、表現面、分析面、執筆の論理等の点から総合的に評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
各回の該当する内容、指示された内容について、事前用語や理論、背景など自分なりに調べ、理解しておくこと。調べた内容について、賛否両論がある場合は、それらを比較して自分なりの結論を導き出すようにすること。ゼミで説明した重要な部分の見直しとゼミで紹介した論文や参考書、新聞、ホームページ等は事後に必ず調べること。これにより、幅広い経済社会・財政の一般常識を身につけることができるだろう。			随時対応。		
教科書・テキスト	持田信樹〔2019〕『日本の財政と社会保障 給付と負担の将来ビジョン』東洋経済新報社。 生活経済研究所編〔2011年〕『税制改革に向けてー公平で税収調達力の高い税制をめざしてー』生活研ブックス。 神野直彦等〔2012〕『よくわかる社会保障と税制改革ー福祉の実現に向けた税制の課題と方向』イマジン出版。 佐々木茂他〔2009〕『地域政策を考える 2030年へのシナリオ』勁草書房。 戸田山和久〔2012〕『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス。		受講生に望むこと	ゼミをより充実したものにするためには、主体的にゼミに参加することである。使用するテキストをよく読んだり、テーマについて深く調べたり、問題点や改善案を真剣に考えたりすることはもちろん、議論に活発に参加したり、論文を納得いくまでしっかりとまとめたりすることによって、専門分野での思考力を高めることができるので、常にそのような意識で取り組んでほしい。 また、普段から経済社会に関するニュースへの関心度を高め、当該ニュースの背景や問題点、改善案等も調べたり、考えたりするようにしてほしい。	
参考書・参考資料等	総務省『各年度 地方財政統計年報』。 総務省『各年度 都道府県決算状況調』。 総務省『各年度 市町村決算状況調』。 総務省『各年度 都道府県財政指数表』。 総務省『各年度 類似団体別市町村財政指数表』。 その他、地域政策に関する学術論文など。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	ゼミナール（三浦）						
担当教員	三浦 正士			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>この科目では、多様化・複雑化を見せる地方自治の諸課題について、ゼミ生の問題関心に基づいた学習を行うため、学期ごとに異なる課題を設定することで、地方自治を理論と実践の双方から学ぶことをめざす。</p> <p>1学期は、教科書を輪読して議論を行うことで、地方自治の基本的なしくみと理論について理解を深める。3学期は、ゼミ生のゆかりのある自治体の政策課題について報告を課し、議論を行うことで、自治体の多様性を理解するとともに、地域が直面する政策課題に対する多角的な視点を養う。4学期は、ゼミ生の関心が高いテーマについて、実際に自治体現場に赴き、その実態と課題解決に向けた政策を考察する。</p>				<p>地域社会の課題について自分の意見を持つことができる。 論文執筆に必要な読解力と思考力、文章力を身につける。 議論に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。</p>			
キーワード	団体自治、住民自治、地方分権、参加・協働、プレゼンテーション						
教授方法	演習形式で行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：ゼミナールの進め方について説明するほか、ゼミナールでの学びの振り返りを行う。						
2	地方自治のしくみについて学ぶ（1）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
3	地方自治のしくみについて学ぶ（2）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
4	地方自治のしくみについて学ぶ（3）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
5	地方自治のしくみについて学ぶ（4）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
6	地方自治のしくみについて学ぶ（5）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
7	地方自治のしくみについて学ぶ（6）：教科書の内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
8	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（1）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
9	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（2）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
10	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（3）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
11	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（4）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
12	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（5）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
13	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（6）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
14	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（7）：これまでの議論を踏まえ、ゼミ生によるプレゼンテーションを行う。						
15	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（1）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
16	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（2）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
17	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（3）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
18	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（4）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
19	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（5）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
20	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（6）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
21	地方自治をめぐる最新の研究を学ぶ（7）：ゼミ生の問題関心を踏まえて、地方自治に関する専門書を選定し、その内容についてゼミ生による報告と議論を行うことで、最新の研究動向や研究手法を学ぶ。						
22	研究テーマとアプローチ手法を考える（1）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。						
23	研究テーマとアプローチ手法を考える（2）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。						
24	研究テーマとアプローチ手法を考える（3）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。						
25	研究テーマとアプローチ手法を考える（4）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマの選定を進めるとともに、当該テーマについてディスカッションを行う。						
26	研究テーマとアプローチ手法を考える（5）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマに対するアプローチ手法を考えるとともに、ゼミ生同士でディスカッションを行う。						
27	研究テーマとアプローチ手法を考える（6）：卒業論文の執筆に向けて、自身の研究テーマに対するアプローチ手法を考えるとともに、ゼミ生同士でディスカッションを行う。						
28	まとめ：ゼミナールの学びについて振り返りを行うとともに、卒業論文の執筆に向けた今後の課題の整理を行う。						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業での報告	70	ゼミナールにおいて課した報告の内容について、地域課題の発見力、地域課題の解決に向けた企画立案力を評価する。	議論への参加度	30	ゼミナールにおける議論への参加度や貢献度から、コミュニケーションの積極性、主体性、能動的な学習の姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習 ・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。 ・報告者以外は、報告が予定されている内容について、教科書を精読するとともに、自治体の政策課題に関する情報を収集する。 事後学習 ・ゼミナールでの学習内容について、教科書や参考書を読み、理解を深める。			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。		
教科書・テキスト	初回授業時に提示する。		受講生に望むこと	ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	ゼミナール（宮崎）						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>「健康生活」「健康な地域づくり」「健康経営」「ヘルスビジネス」等の言葉に代表するように、人々の生活だけでなく、公共経営、会社経営、企画事業に“健康”の視点があると人々は生き生きとした幸せに近づける。保健を通じて「誰一人取り残さない」SDGsの実現を、分野を超えて考える。</p> <p>ゼミでは、学生の関心事に沿って各自のテーマにおけるヘルスシステムの現状を調べ課題を抽出、どうあるべきかを議論する。同時に年間を通じて研究方法を学ぶ。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・研究方法のメソッドを理解する ・自身の関心事とテーマ設定ができ、その現状と課題を特定する ・関心事を追究する研究計画書が作成できる 			
キーワード	健康政策 ヘルシステム ヘルスビジネス						
教授方法	ゼミナール（討議、発表、報告、演習、地区視診等）一部講義						
履修条件等	3年1学期開講の「健康マネジメント論」の受講を推奨する						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション ゼミ計画 研究計画						
2	研究とは						
3	研究疑問のつくりかた						
4	研究倫理について						
5	各自の関心事とテーマ設定 文献レビュー						
6	各自の関心事とテーマ設定 情報収集の方法						
7	各自テーマの現状把握 方法と計画						
8	各自テーマの現状把握 計画と実施						
9	各自テーマの現状把握 実施（2次資料）						
10	各自テーマの現状把握 実施（2次資料）						
11	各自テーマの現状把握 実施報告と不足情報の発見						
12	各自テーマの現状把握 不足情報の把握						
13	各自テーマの現状把握 実施（1次情報）						
14	各自テーマの現状把握 実施（1次情報）						
15	データの取り扱いと分析方法						
16	各自テーマの現状分析 実施						
17	各自テーマの現状分析 実施						
18	各自テーマの現状分析 実施報告						
19	各自テーマの現状分析 実施報告						
20	各自テーマの現状分析 見えてきた課題						
21	各自テーマの現状分析 見えてきた課題						
22	研究課題の絞りかた 優先度 重要度						
23	研究計画書の書き方						
24	研究目的の設定と仮説						
25	研究目的と方法論の選び方						
26	研究計画書作成						
27	研究計画発表と修正						
28	研究計画発表と実施に向けたスケジュール						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
研究計画書	60	研究計画書（発表を含む）の提出や内容を評価する	提出物	40	ゼミ資料、レポート等の提出や内容を評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
積極的に文献検索、文献レビューを行うことを推奨する 状況が許された場合にはゼミ生全員や各自、小グループで学外活動やフィールド見学を計画する			授業時間内やメール等を活用する		
教科書・テキスト	課題研究メソッド 啓林館		受講生に望むこと	ゼミの最後には、研究計画書の完成、発表ができ、春休みには実施開始できることを目指す	
参考書・参考資料等	参考書・参考資料は、必要時紹介する		その他・特記事項	特になし	

授業科目	ゼミナール（宮下）						
担当教員	宮下 清			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本ゼミナールでは、世界標準とされるマネジメント・テキストに基づき輪読学習を行うと共に、地域・国内・海外の事業や企業の事例を通して、経営学・ビジネス・マネジメントを理論的かつ実践的に学ぶ。経営学・マネジメント・ビジネスを学ぶには、理論的枠組み、体系的な知識、事業や企業における実践を理解することが重要となる。本ゼミナールではマネジメント・テキストでの学習と共に、企業などの情報収集や現地調査など現場訪問をプロジェクトとして行い、実際の課題を通してマネジメントの本質を理解、習得を図る。また、同時にそれらの知識理解の活用につながる能力獲得を目指す。</p>				<p>・経営学の理論・歴史を学び、実践への適用・活用を試み、また理論に戻り考えるというプロセスに沿って学ぶ。経営学は広く地域・国内・海外の事業・企業そして商品・サービス、戦略・組織、人材・育成を対象とする。 ・地域、国内、海外の経営・マネジメントについて文献から学ぶと共に、情報収集や訪問など現地現物からも学ぶ。地域事業・企業、国際経営、経営戦略、組織行動、人材マネジメント、教育訓練が本ゼミのキーワード。 ・学習の場となるゼミでは、お互いを尊重し高め合える人間関係の構築が前提。ゼミ学習・活動を通してコミュニケーションやリーダーシップなどの力を高め、良好な社会性、協力関係を構築できる人間力を高める。 目標＝基礎理論の習得とプロジェクトへの取り組みができる。</p>			
キーワード	マネジメント、経営学理論、事例探求、海外参考情報、相互学習						
教授方法	・マネジメント授業 ゼミの時間で課題図書の内容を輪読。各担当レジュメ提出し発表をおよび討議。 ・プロジェクト授業 ゼミ生が主体的に進めるプロジェクト研究。学内外の調査研究活動、サブ学習、学外訪問、交流などイベント活動を随時行う。						
履修条件等	経営学入門を履修していることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミ の概要「ゼミでの学習」、 . マネジメントの理解を図る						
2	1. マネジメントの学習 2. プロジェクトによる学習						
3	マネジメントの学習						
4	マネジメントの学習						
5	プロジェクト活動（地域課題）						
6	プロジェクト活動（地域課題）						
7	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認						
8	. 集中授業 取り組みの概要、スケジュール確認						
9	マネジメントの学習						
10	マネジメントの学習						
11	マネジメントの学習						
12	プロジェクト活動（地域課題）						
13	プロジェクト活動（地域課題）						
14	プロジェクト活動（地域課題）						
15	. プロジェクトによる学習						
16	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認						
17	プロジェクト活動（地域課題）						
18	プロジェクト活動（地域課題）						
19	マネジメントの学習						
20	マネジメントの学習						
21	プロジェクト活動（地域課題）						
22	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認						
23	マネジメントの学習						
24	マネジメントの学習						
25	プロジェクト活動（地域課題）						
26	マネジメントの学習						
27	マネジメントの学習						
28	プロジェクト活動（地域課題）						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
輪読の担当レジメと発表	30	担当部分の適切なレジメ等資料の提示および説明	小レポート	20	プロジェクト等の報告レポート
発表と討議	20	プロジェクト等での発表と討議	その他	30	ゼミ活動、グループ活動への参加や取り組み
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>通常のゼミ発表のためには、テキストなどの文献を読む、理解する、考える、まとめるといった学習のため、事前学習、事後学習が求められる。またプロジェクトでは現場訪問やその準備や事後の整理などメンバーと協力し、積極的な活動が求められる。</p> <p>授業外のゼミ活動として、ビジネスコンペ、合同ゼミ・他大学交流、サブゼミ、企業等の訪問、ゼミ合宿などが考えられるが、実際の参加はゼミで検討して決定する。</p>			授業前後およびメールでのアポにより対応する。		
教科書・テキスト	S.P. ロビンズ他著、高木晴夫監訳（2014）『マネジメント入門 グローバル経営のための理論と実践』ダイヤモンド社。		受講生に望むこと	ゼミでは、常に問題意識を持ち、経営学・マネジメントを理論的、実践的に学ぶ、またプロジェクトでは主体的にかつ協力して取り組む。	
参考書・参考資料等	Stephen P. Robbins et al. Fundamentals of Management: Management Myths Debunked!, Global Edition, Pearson Education Limited., 2016. 中山、丹野、宮下『新時代の経営マネジメント』創成社, 2018。 上林他著『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣, 2018。ほか		その他・特記事項	スケジュールやおよその枠組みであり、必要に応じて修正・改善して進める。 担当教員は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有する。	

授業科目	ゼミナール（森本）						
担当教員	森本 博行			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>・ゼミナールでは、論理的な思考力の養成をめざして、経営戦略論の思考法について企業事例を踏まえて検討する。</p> <p>・担当教員は、外資系企業を顧客する広告会社である（マッキンゼー・アンド・カンパニー）においてマーケティング戦略を担当し、さらにソニーにおいて、経営戦略、広告宣伝戦略、新事業戦略を担当し、米国、英国の海外子会社での実務経験があります。ソニーを退職する時には、イノベーション戦略オフィスVP（Vice President）でした。</p>				<p>・論理的な説明力、戦略的思考力を修得する</p>			
キーワード	経営戦略、戦略的思考、グローバル戦略、新興国市場、制度的空隙						
教授方法	テキストの輪読、受講生の報告、議論する演習形式						
履修条件等	・「経営学入門」を受講していること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	経営戦略に関する5つの考え方 ・戦略思考の変遷を考察する。						
2	戦略計画学派 ・オリジナル概念と基本的な特徴について議論する。						
3	創発戦略学派 ・基本的な特徴と近年の実態について議論する。						
4	ポジショニング・ビュー ・ポジショニング概念の貢献と問題点について議論する。						
5	リソース・ベスト・ビュー ・リソース、コンピタンス、経営資源の価値について議論する。						
6	ゲーム論的アプローチ ・競争と協調について議論する。						
7	5つの戦略観がもたらす反省 ・5つの経営戦略観を位置づけて、戦略バイアスについて検討する。						
8	3つの思考法 ・カテゴリー適用法、要因列挙法、メカニズム解明法について検討する。						
9	戦略的思考法の具体例 ・思考法を身につけるための具体例を考察する。						
10	顧客ダイナミクス ・顧客個人の変化、加齢による変化、顧客の学習という視点に立って、戦略思考を検討する。						
11	顧客の声に耳を傾けていけないとき ・マーケティングでは顧客の声を聞けというのが、「イノベーションのジレンマ」は顧客の声を聞くことによって生じた問題である。誰の声を聞						
12	差別化競争の組織的基礎 ・「差別化する」ことは競争戦略の要諦であるが、果たして有効な戦略なのか検討する。						
13	競争を活用する戦略 ・モスフードサービスを事例にして競争の意義について検討する。						
14	先手の連鎖シナリオ ・先手必勝は有効な指針となるのか、ネットワーク外部性について検討する。						
15	シナジーの崩壊メカニズム ・完成品とデバイス生産を事例にしてシナジー効果を意図する戦略がもたらす問題点を検討する。						
16	選択と集中—創発的多角化戦略の問題点 ・戦略における多様性を重視することと集中することの矛盾する問題点について検討する。						
17	組織暴走の理論 ・組織的要因、心理的要因など、英断と組織の暴走について検討する。						
18	新たなグローバル戦略の必要性 ・新興国市場に向けた日本企業のグローバル戦略について問題点を検討する。						
19	グローバルビジネスに関する戦略 ・本社と現地法人との関係を通して、グローバルビジネスにおける経営戦略の意義について検討する。						
20	経済社会制度とビジネス環境 ・中国とインドの比較制度分析を通して、グローバル戦略の適用について検討する。						
21	競争優位を築く技術戦略 ・製品アーキテクチャーと技術的キャッチアップの視点で持続的競争優位について検討する。						
22	事例研究「新興国における事業環境—インドの日本企業向け工業団地」						
23	アライアンスマネジメント ・新興国における現地企業と合併会社を設立すること問題点を検討する。						
24	事例研究「日立建機による中国法人の独資化」 ・日立建機の中国市場への進出における合併会社設立の意義と独資化へ移行における問題点を検討する。						
25	マーケティング戦略と実際 ・中国とインドの市場分析を通して、マーケティング戦略の構築方法について検討する。						
26	事例研究「資生堂の中国におけるマーケティング」 ・中国の化粧品市場における資生堂のマーケティング戦略について検討する。						
27	海外における研究開発マネジメント ・日本企業の海外における研究開発活動の意義について検討する。						
28	事例研究「研究開発の国際化戦略—マルチ・スズキとインドの自動車市場」 ・インドの自動車市場におけるスズキの競争優位性について技術開発の視点から検討する。						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
報告	50	・ゼミナールの輪読における受講生の報告の論理的な説明力について評価する。	期末レポート	50	・提示した課題についての理解度および論理的な説明力を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
・事前学習としてテキストを読み解くこと。期末レポートを提出するために事後学習が必要になります。			・メール等で質問、相談を受けます。		
教科書・テキスト	『経営戦略の思考法』（沼上 幹、日本経済新聞出版社） 『グローバル経営戦略』（東京大学出版会）		受講生に望むこと	・テキストを輪読しますので、受講生は輪読担当した章についてレジユメを用意して報告することが求められます。	
参考書・参考資料等	『新興国マーケット進出戦略』（タルン・カナ、日本経済新聞出版社）		その他・特記事項	・テキストを事前に読み解くこと。	

授業科目	ゼミナール（尹）						
担当教員	尹 大栄			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
地域産業、国際経営に関連する文献を幅広くレビューし、興味あるトピックを取り挙げて研究する。研究成果についてプレゼンを行い、議論する。				各自の研究テーマを見つける。			
キーワード	文献レビュー、研究方法論、リサーチ・デザイン、フィールドワーク						
教授方法	各自の研究テーマについて発表させ、ディスカッションを中心とした指導を行う。						
履修条件等	とくになし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	研究成果のプレゼンとディスカッション						
2	研究成果のプレゼンとディスカッション						
3	研究成果のプレゼンとディスカッション						
4	研究成果のプレゼンとディスカッション						
5	研究成果のプレゼンとディスカッション						
6	研究成果のプレゼンとディスカッション						
7	研究成果のプレゼンとディスカッション						
8	研究成果のプレゼンとディスカッション						
9	研究成果のプレゼンとディスカッション						
10	研究成果のプレゼンとディスカッション						
11	研究成果のプレゼンとディスカッション						
12	研究成果のプレゼンとディスカッション						
13	研究成果のプレゼンとディスカッション						
14	研究成果のプレゼンとディスカッション						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
発表	70	プレゼンの中身に応じて評価する。		レポート	30	研究成果をまとめたレポートを課す。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：文献レビューをしっかり行うこと ・事後学習：ゼミでのディスカッションで得られた新たな視点や、他者からのコメントを文章化しておくこと 				常時対応する。			
教科書・テキスト	別途指定する。			受講生に望むこと	文献レビューの作業を怠らないこと		
参考書・参考資料等	別途指定する。			その他・特記事項	脳に汗をかく！		

授業科目	ゼミナール（六山）						
担当教員	六山 悌三			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
このゼミでは、経済学理論を学びつつ、さまざまな産業（自動車などの製造業種はもちろん、小売・サービス業、エネルギー・通信・運輸等のネットワーク産業など）を取り上げ、各企業のシェアなどの市場構造や、企業の戦略的行動（たとえば価格付けや広告など）を分析します。一般の授業のような一方の説明にとどまらず、参加者が自ら行動して学ぶ機会を多くつくります。				本ゼミでは、経済学や経営などの理論と実証の考え方を学び、現実の産業・市場・企業行動を理解する上で有用な分析を試みます。本ゼミを履修することにより、自分が関心を持つ産業について、市場構造や市場行動（企業の戦略的行動など）を調査・分析して付加価値を考察する力が身に付きます。また一連の討議・報告等を通して、関連するテーマについて建設的な議論ができるようになります。			
キーワード	産業組織、ミクロ経済学、産業分析、付加価値						
教授方法	基本的には参加者が準備したレジュメ等を用いて演習を行います。第1回演習でガイダンスを実施します。第2回～第7回は公益事業の変容について学びます。第8回以降は、それぞれが興味を持ったテーマを中心として研究を深め、特に第15回以降はチーム編成して具体的な産業組織分析を行います。前半は指定されたチームで順に準備・報告を行うことが中心となり、後半は産業・テーマ別のチームによる共同研究に関する討議・報告などが中心となります。全体を通じ、ミニゲームなどのアクションラーニング要素も取り入れ、常に積極的な対話を行います。またCOVID-19の影響をふまえて、事情が許す限りにおいて、ヒアリング等の学外活動も計画します。						
履修条件等	本ゼミへの参加を希望し、担当教員が参加を認めた者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	4/13 イントロ、公益事業の概要と規制（第1章～第2章）						
2	4/20 市場・競争時代の公益事業（第3章～第4章）						
3	4/27 イノベーションと社会変化下の公益事業（第5章、第10章）						
4	5/11 電気・ガス事業（第6章）						
5	5/18 上下水道事業（第7章）						
6	5/25 交通事業（第8章）						
7	6/1 通信・放送事業（第9章）						
8	6/15 テーマ別報告・討議（1）						
9	6/22 テーマ別報告・討議（2）						
10	6/29 テーマ別報告・討議（3）						
11	7/6 テーマ別報告・討議（4）						
12	7/13 テーマ別報告・討議（5）						
13	7/20 テーマ別報告・討議（6）						
14	7/27 前半のまとめ						
15	9/28 チャレンジしたい産業組織分析：研究計画発表						
16	10/5 「産業の変容」を考えよう						
17	10/12 「地域の変容」を考えよう						
18	10/19 中間報告と討議（1-1）						
19	10/26 中間報告と討議（1-2）						
20	11/2 中間報告と討議（1-3）						
21	11/9 学外活動（仮）						
22	11/30 中間報告と討議（2-1）						
23	12/7 中間報告と討議（2-2）						
24	12/14 中間報告と討議（2-3）						
25	12/21 学外活動（仮）						
26	1/11 最終報告と討議（1）						
27	1/18 最終報告と討議（2）						
28	1/25 最終報告と討議（3）						

共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
産業分析 成果	30	後半のチームによる産業分析の成果を評価します。評価基準は、十分な調査と独自性ある分析に優れ、新たな価値を付加している成果を最も高く評価しま	報告・レ ジюме	30	ゼミにおける各種報告・レジюмеを評価します。評価基準は、豊富な文献や先行研究、事例などを意欲的に調べるなど、十分な準備と学習成果がよく反映
平常点	40	ゼミにおける討議や発言での貢献など、平常点を評価します。価値ある発言を積極的に行うものを高く評価します。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
チーム単位での討議や、授業中に報告するレポート作成などが当番制で必要になります。また自分の当番以外の回のゼミでは、あらかじめ他のチームのレポートに目を通しておき、ゼミの場で積極的に発言するための用意をしておくことが求められます。学外でのヒアリングなどを実施する際は、授業外での活動となります（任意参加）。また「キャリアインカレ」などの学外企画への挑戦希望がある場合は適宜サポートします。			質問や相談を歓迎します。メールでの質問や相談はもちろんのこと、ゼミ終了後の時間も活用ください。ゼミ開催後以外で直接話したいことなどがあれば、メールで日時約束の上、研究室を訪問してください。		
教科書・ テキスト	ゼミの中で指示します。		受講生に 望むこと	ゼミでの学習は大学における学びの中心ともなる貴重な機会です。主体的・積極的に参加して、大いに成長してください。	
参考書・ 参考資料等	ゼミの中で適宜指示します。		その他・ 特記事項	1学期および2学期はZOOMを用いたリアルタイムのオンライン授業の実施を計画していますが、今後のCOVID-19の状況等をふまえて変更する可能性があるため、メール等の案内には十分気を付けてください。学外活動については、諸情勢の動向等も勘案し、実施有無や内容等はゼミ開始後に検討します。また相談の上、他の企画等も随時検討します。	

授業科目	ゼミナール（野口）						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
各自、ひとつの国を選定し、歴史・文化・政治制度・経済政策・公共政策などの比較研究を行う。				諸外国の歴史・文化・政治制度・経済政策・公共政策などを調べることを通じて、各自がその国に関する専門的知識の幅をひろげること。ゼミ生各自が調べた国々の比較考察を通じて、思考を深めることを目指します。			
キーワード	諸外国の公共政策、比較政治経済制度						
教授方法	ひとり1カ国を担当する。前半は、同じテーマについてそれぞれが10分程度の発表を行い、公共政策の比較検討を行う。後半は、とくに興味を持った事柄について、さらに深く調べ、各回2名ずつがその内容についての発表を行う。						
履修条件等	ゼミナール（野口）の履修を認められていること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（ゼミナールの進め方など）						
2	どの国を担当するか（全員が事前に考えてくる）。						
3	概要						
4	歴史・文化						
5	政治制度						
6	経済政策						
7	最近、話題になっている時事問題						
8	教育政策						
9	福祉政策						
10	地方自治制度						
11	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
12	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
13	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
14	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
15	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
16	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
17	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
18	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
19	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
20	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
21	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
22	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
23	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
24	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
25	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
26	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
27	興味を持ったテーマについての発表（2名）						
28	今年度のゼミナール・まとめ						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表の内容	70	正確な情報をもとに、わかりやすく発表できたか。	質問する力	30	他の受講生の発表について、適切な質問ができたか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
毎回の発表に関する準備			簡単な質問や相談は学内メールアドレス宛に送ってください。会って話をしたい場合は、その旨をメールに書き、野口の学内メールアドレス宛に送ってください。遠隔授業は、Zoomを使って行います。授業内における発表については、チャット機能なども使って、積極的に質問してください。		
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと	日頃から、社会に存在する問題に関心を持ち、書籍・新聞・論文などを読んだり、映像をみたり、語り合ったりすることを心がけてください。	
参考書・参考資料等	授業内に紹介いたします。		その他・特記事項	ゼミナールを休む際には、必ず、ゼミナールが始める時間までに野口の学内メールアドレス宛に連絡をください。	

授業科目	ゼミナール（築山）					
担当教員	築山 秀夫		必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>本ゼミでは、構造的な矛盾に晒された地域社会をいかに再生し、持続可能性を担保するのかについて、地域社会学的手法を用いて、フィールドワークを通して学ぶ。</p> <p>3年次には、ゼミ生全員で共同研究・共同調査を実施し、4年次では、ゼミ生が個々に問いを立て、「持続可能な地域社会をいかにつくるか」を研究する。ゼミナールと共同で学ぶ。</p> <p>本年度は、リノベ・ブックの作成を通して、持続可能な地域社会についての処方箋を学ぶ。</p>				<p>教員およびゼミの仲間と共同の問題を設定し、共同で、フィールドワークを行うことで、資料の収集、先行研究のサーベイ、質的調査の方法などを共に学び、共同論文をそれぞれの執筆箇所を明らかにしながら完成させる。完成させた論文は、学外で発表し、外部雑誌に投稿する。</p> <p>以上の学びにより、以下のような能力を育むことを目標とする。</p> <p>一つ、ある研究テーマや社会課題に対して、それに対する処方箋を得るために、必要な資料の収集、先行研究のサーベイができ、論理的な分析ができるようになること。</p> <p>一つ、問題のある課題として、設定することができ、その問題の構造をとらえるために、新しい概念を構想することができるようになること。</p> <p>一つ、自分が分析したプロセスやそれによって得られた処方箋について、他者に分かりやすく提示することができるようになること。</p> <p>一つ、他者と連帯し、他者に対して自分を聞き、お互いをサポートしながら切磋琢磨し、一つの課題に対して、処方箋をみちびくことができるようになること。</p> <p>そして、混沌とした社会を生きるための創造的な能力を培うことを目標とする。</p>		

キーワード	フィールドワーク、共同調査、リノベーションまちづくり、持続可能性、リノベ・ブック
教授方法	<p>ゼミナールは、五つの階梯に分かれる。五つの階梯に分かれるが、それぞれが一部重なりながら進められる。これらを実践を伴いながら、教授し、ゼミの皆が共に学び合う。</p> <p>第一の階梯は、調査対象を巡る資料収集と分析を行う。利用するのは、キーワードによる各種新聞検索、論文検索である。調査実施前に、調査対象の情報をできるだけ多く収集し、関心のある文献をリストアップし、自分たちだけの文献リストを作成する。現実調査に入ると、圧倒的な情報量でこちらに迫ってくる。それを見失うことなくとらえるには、先行研究の補助線が大きな助けになる。</p> <p>第二の階梯は、フィールドワークの実施である。本年度は、長野市門前で展開されているリノベーションによるまちづくりを対象として、そこで実際に活動している人ひとりに聞き取り調査を実施し、空き家をリノベーションによって再生して、まちを創っている人ひとりの現状を把握し、そこから持続可能な地域社会をいかにつくるのかに関する処方箋を探る。調査をしながら、下位の命題を幾つか立てていく。調査を実施しながら、問いを立て、問いを立て直し、関心ある共同の問いに収斂させていく。</p> <p>第三の階梯は、フィールドワークから得られたデータを分析して、問いに対する自分たちなりの考察をする。そして、政策的な提言についても検討する。</p> <p>第四の階梯は、問いを立てて、分析・考察した結果を活字化することである。分析の課程や、そのように分析・考察することのできるエビデンスを示しながら、分かりやすく活字で表現する。活字で表現したものを外部雑誌に投稿する。</p> <p>第五の階梯は、調査対象者及び地域社会に対して、活字化した論文の内容を分かりやすく、プレゼンテーションする。プレゼンテーションをした後に、質問を受け、それに対しても、分かる範囲で誠実に答え、分からない部分に関しては、次回以降の問いとする。</p> <p>今年は、新型コロナウイルスへの対応のために、遠隔授業をすることになった。基本は、ZOOMによる同期型の授業を実施する。資料は、予め配布、画面の共有で確認、学生諸君も画面を共有し、報告をして頂く。よって、フィールドワークは、夏季休暇以降となる可能性が高い。フィールドワークができない時期は、WEB上での調査や文献研究を徹底したり、まちづくりのアクターや研究者とのZOOM等による聞き取り調査を実施することを検討する。</p>
履修条件等	4年次の「卒業研究」を履修することになります。

授 業 計 画	
実施回	授業内容
1	ゼミナールの目的や意義について理解し、ゼミナールの年間スケジュールを確認する。 本年度はリノベ・ブックの作成・完成を目標とする。リノベ・ブックについて、新ゼミ生に説明する。
2	リノベ・ブックの作成方法、スケジュール等を検討する。 <事前学習>リノベ・ブックの企画について、検討してくる。
3	リノベ・ブックの作成のための半構造化インタビューのための質問項目を検討する。 <事前学習>質問項目を検討してくる。
4	リノベ・ブック作成のためのリノベーションの定義を行う。 <事前学習>リノベーションの定義を検討してくる。
5	リノベ・ブックの作成のための調査対象を確定する。 <事前学習>長野市門前のリノベ主体をできるだけ全て探してくる。
6	リノベ主体の基礎的情報をできるだけ収集する <事前学習>リノベ主体の情報を、WEB等で調べてくる。
7	リノベ主体の基礎的情報をできるだけ収集する <事前学習>リノベ主体の情報を、WEB等で調べてくる。
8	代表的なリノベ主体の確定 <事前学習>ジャンル別等の代表的なリノベ主体を確定する。
9	フィールドワーク 代表的なリノベ主体への聞き取り調査 <事前学習>事前に当該リノベ主体の情報をできるだけ収集し、まとめておく。
10	フィールドワーク 代表的なリノベ主体への聞き取り調査 <事前学習>事前に当該リノベ主体の情報をできるだけ収集し、まとめておく。
11	フィールドワーク 代表的なリノベ主体への聞き取り調査 <事前学習>事前に当該リノベ主体の情報をできるだけ収集し、まとめておく。
12	フィールドワーク 代表的なリノベ主体への聞き取り調査 <事前学習>事前に当該リノベ主体の情報をできるだけ収集し、まとめておく。
13	フィールドワーク 代表的なリノベ主体への聞き取り調査 <事前学習>事前に当該リノベ主体の情報をできるだけ収集し、まとめておく。
14	フィールドワーク結果のまとめ
15	フィールドワーク結果のまとめ
16	聞き取り調査の調査員の調査方法に関するレクチャーの検討
17	聞き取り調査の調査員のレクチャーの実施
18	聞き取り調査の調査員から調査結果を回収
19	リノベ・ブックの編集作業
20	リノベ・ブックの編集作業

授 業 計 画					
実施回	授業内容				
21	リノベ・ブックの編集作業				
22	リノベ・ブックの編集作用				
23	リノベ・ブックの編集作業				
24	リノベ主体の特徴の分析				
25	リノベ主体の特徴の分析				
26	リノベ主体の特徴の分析				
27	リノベ・ブックの作成				
28	一年間のゼミを皆で振り返り、後輩のために、来年度のゼミについて検討する。				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
事前学習	30%	求められていることが達成できているかについて評価する。	授業貢献度	30%	議論に積極的に参加、発言できているかを評価する。
論文、プレゼンテーション	40%	論文及びプレゼンテーションの水準、自ら問いを立て、分析をし、解答を得られたか、他者に分かりやすく説明できたかを評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
それぞれの回で課されている事前、事後学習は必ず行うこと。ゼミはゼミ以外の時間に行った学習の成果の発表の場所である。			ゼミ時間時にはいつでも受けます。また、メールによる質問、相談をいつでも受けます。24時間以内に返信いたします。直接面談による質問、相談については、メールにてアゴを取って頂ければ対応いたします。どんどん下さい。		
教科書・テキスト	特にありません。		受講生に望むこと	1. 事前学習、事後学習を必ず行ってください。 2. ゼミの時間は、恥ずかしながら、自分の意見をどんどん述べてください。ゼミでのグラウンド・ルールは次の通りです。 Yes, and (どんな意見も受け入れる) Be Present(“今ここ”に集中する) Listen(よく聴く、傾聴する) Co-Create(共に創る) Have Fun!(楽しむ) No“む”(無理、難しいと言わない。言ってしまった時は、3秒以内に、「楽しい!」と言うこと) Make Mistakes!!(失敗を恐れない。どんどん失敗する) Ena Communication Inc. 代表榎栄ひかる氏考案のルールを一部修正したもので。 3. ゼミでの時間を十分に取りたいので、ゼミの後にはアルバイト等の用事を入れしないでください。	
参考書・参考資料等	特にありません。その都度、必要な文献について、ご紹介します。			その他・特記事項	ゼミは大学生活において最も重要な場である。ゼミ生同士で切磋琢磨してほしい。

授業科目	ゼミナール（中村文）						
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>多くの人は、企業が決算等で報告する会計数値について、おそらく「堅い」とか「動かしたい」という印象・イメージを持っていると思われる。しかし実際には、報告の目的や、計算の仕方等、描写に際してどのようなルールを設定するかにより、描写されるビジネス活動の姿は大きく異なっている。本ゼミナールでは、企業が利害関係者との間で会計情報を授受する財務報告制度に焦点を当てて、次の二つのことを学ぶ。 企業から開示された会計情報を正しく読み取り分析するための基礎会計情報作成のルールとその設定を理解するための基礎理論</p>				<p>本ゼミナールでは、受講者が将来どのような進路に進んだ場合であっても、特定のテーマについて調査・報告という作業を一定レベルで完遂できるように、テーマの選定、資料収集、レジュメ・プレゼンテーション資料の作成、報告、討論等の基本タスクをグループあるいは各人で行ないながら、自己のスキルを高めて学習を深めていく。具体的には、2年次に業界研究と分析、3年次に企業分析を行い、4年次に各自の関心あるテーマについて調査研究を行い論文としてまとめる。</p>			
キーワード	経営分析 統計的な分析 総合評価						
教授方法	オンラインによる演習形式（可能であれば対面式も併用）で行う。						
履修条件等	アカウントニング入門、財務会計入門を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミナールの進め方に関する説明、分担箇所の設定、レジュメの作成の仕方、有価証券報告書を用いた演習						
2	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（2章）						
3	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（3章）						
4	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（4章）						
5	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（5章）						
6	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（6章）						
7	論文執筆指導（論文の書き方、テーマの選び方等）						
8	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（7章）						
9	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（8章）						
10	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（9章）						
11	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（10章）						
12	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（11章）						
13	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（12章）						
14	論文執筆指導（論文の書き方、執筆の基本ルールについて）						
15	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
16	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
17	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
18	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
19	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
20	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
21	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
22	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
23	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
24	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
25	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
26	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
27	論文執筆指導（論文の添削等）						
28	振り返り、講評						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
テーマの選択と調査・資料	30	テキスト等から自分の担当箇所を選択し、その内容について調査を行い資料を集める	グループワーク	20	テーマに関するグループ・ディスカッションおよびグループ・ワークへの参加態度・貢献度
レジュメ報告・プレゼンテ	30	レジュメやプレゼンテーション資料の作成と報告・プレゼンテーション			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
企業のビジネス活動に関わる情報は、日常、メディア等を通じて積極的に収集すること。特に、自己の担当した企業が属する業界や将来就職を希望する業種については、常に情報収集を欠かさないこと。			ポータルサイトでお知らせする。		
教科書・テキスト	桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。		受講生に望むこと	就職活動と卒業研究に役立つ幅広い知識を身につけてほしい。	
参考書・参考資料等	ポータルサイトでお知らせする。		その他・特記事項	有価証券報告書を用いた演習は、ゼミ生の興味に応じてアレンジしていく予定である。	

授業科目	ゼミナール（東）						
担当教員	東 俊之			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
ゼミナールは、ゼミナールに引き続き、専門テーマに基づく課題研究に取り組む。各自のテーマに関連する文献調査や考察を通して、各自の課題研究を深めていく。各自の課題の研究・考察にあたっては、授業での報告や討論を通して、検討に必要な具体的な課題を明確にし、調査・分析発表といった一連のプロセスを行う能力と道筋を立てて考える力を向上させる。学士課程における学修の締めくくりとして、教員の指導のもとで研究成果を完成させる。				「ゼミナール（東）」は、「組織論の視点をを用いた調査・研究」を実際に進めていく。とくに、これまでに修得した、課題の設定、資料調査、分析そして研究成果の発表に至るまでの一連のプロセスを、さらに発展させて研究能力向上を行うとともに、「ゼミナール（東）」の受講生に指導することで確実に身につけていく。また「ゼミナール（東）」の受講生とともにグループ活動を行い、他者と協働する素地を涵養することを目的としている。具体的には、組織論の文献を精読し、先行研究の系譜をまとめることができる。組織論の視点を理解し、それに基づいて実際の事例を詳細に分析ができる。自身で研究テーマを発見し、組織論の視点から解決策を提案できる。学年を超えた他者と協力し、また下級生に助言しながら課題の解決策を提案できる。他者の研究概要を聴講し、適切なアドバイスを送ることができる、という点を到達目標とする。			
キーワード	グループ活動、研究発表、3・4年合同ゼミ、組織論の視点、組織論研究						
教授方法	基本的に演習。場合によっては、講義の形式の時もあります。また、学外での調査も必須です。なお、各学期の概要は以下のとおりです。 ・4年次前期（1・2学期）：各自研究計画と研究進捗状況を発表する（3年次ゼミ受講生からも助言を得る） & 重要書籍を輪読（3年次ゼミ受講生に対してコメントする） ・4年次後期（3・4学期）：各自研究の研究調査ゼミ内で発表する（3年次ゼミ受講生からも助言を得る） & グループ活動（3年次ゼミ受講生のPBL活動のサポートする）						
履修条件等	「ゼミナール」で東ゼミの所属している者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	【オリエンテーション】：ゼミナールのスケジュールの説明、自己紹介、グループ分け等を行います。また課外で個人面談を行います。						
第2回	【文献の読み方とPBLの進め方】：教員が行うPBLの進め方と、組織論の文献の読み方を説明をサポートし、3年生ゼミ生に対して、「ゼミナール」で実際に行ったPBL活動を説明します。						
第3回	【古典的名著の輪読】：経営組織論の重要書籍といえるH. E. オルドリッチ『組織進化論』を講読します。主に3年次ゼミ受講生が発表しますが、その発表に対するコメントを行います（場合によっては、担当箇所を発表しても構わない）。なお、講読する書籍が変更になる場合が						
第4回	【古典的名著の輪読】：経営組織論の重要書籍といえるH. E. オルドリッチ『組織進化論』を講読します。主に3年次ゼミ受講生が発表しますが、その発表に対するコメントを行います（場合によっては、担当箇所を発表しても構わない）。						
第5回	【古典的名著の輪読】：経営組織論の重要書籍といえるH. E. オルドリッチ『組織進化論』を講読します。主に3年次ゼミ受講生が発表しますが、その発表に対するコメントを行います（場合によっては、担当箇所を発表しても構わない）。						
第6回	【古典的名著の輪読】：経営組織論の重要書籍といえるH. E. オルドリッチ『組織進化論』を講読します。主に3年次ゼミ受講生が発表しますが、その発表に対するコメントを行います（場合によっては、担当箇所を発表しても構わない）。						
第7回	【古典的名著の輪読】と1学期の自己点検授業】：経営組織論の重要書籍といえるH. E. オルドリッチ『組織進化論』を講読します。主に3年次ゼミ受講生が発表しますが、その発表に対するコメントを行います（場合によっては、担当箇所を発表しても構わない）。また後半は1学期の						
第8回	【プロジェクト・テーマの開示とグループ分け】：主として3年次ゼミ受講生が行うグループ活動をサポートするメンバーを指定します（グループメンバーとして参加してもよい）。さらに、次週から始まる3年次ゼミ受講生による論文講読の参考にするために、4年次ゼミ受講生の先行						
第9回	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が、組織論の論文を精読し要約した内容をプレゼンテーションするので、そのコメントーターを務						
第10回	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が、組織論の論文を精読し要約した内容をプレゼンテーションするので、そのコメントーターを務						
第11回	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が、組織論の論文を精読し要約した内容をプレゼンテーションするので、そのコメントーターを務						
第12回	【プロジェクト活動 & 組織論の論文講読】：プロジェクト・テーマに関する予備調査をグループで行います（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が、組織論の論文を精読し要約した内容をプレゼンテーションするので、そのコメントーターを務						
第13回	【プロジェクト活動】：プロジェクト・テーマに関して、グループで解決すべき課題を検討します（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、4年次ゼミ受講生は、3年次ゼミ受講生に向けて自身の研究内容を紹介します。						
第14回	【プロジェクト活動】：プロジェクト・テーマに関して、グループで解決すべき課題を検討します（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、4年次ゼミ受講生は、3年次ゼミ受講生に向けて自身の研究内容を紹介します。						
第15回	【後学期ガイダンス】：後学期（3・4学期）のスケジュールの説明、夏季休暇中の研究活動の進捗状況の確認などをゼミ内で報告します。						
第16回	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成サポート】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が提出する「研究計画書」の参考となるように、各自の研究の骨子をプレゼンします。						
第17回	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成サポート】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が提出する「研究計画書」の参考となるように、各自の問題意識と研究意義をゼミ内で発表します。						
18	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成サポート】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が発表する問題意識や研究意義に対してコメントを行います。						
第19回	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成サポート】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、各自が行っている研究手法について、自身の状況をゼミ内で発表します。						
第20回	【プロジェクト活動 & 研究発表】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、各自の卒業研究の概要をゼミ内で発表し、3年次ゼミ受講生からコメントを得ます。						
第21回	【プロジェクト活動 & 研究発表】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、各自の卒業研究の概要をゼミ内で発表し、3年次ゼミ受講生からコメントを得ます。						
第22回	【プロジェクト活動 & 研究発表】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、各自の卒業研究の概要をゼミ内で発表し、3年次ゼミ受講生からコメントを得ます。						
第23回	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成サポート】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生がプレゼンする「研究計画書」の内容について、コメントを行います。						
第24回	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成サポート】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生がプレゼンする「研究計画書」の内容について、コメントを行います。						
第25回	【プロジェクト活動 & 「研究計画書」の作成サポート】：プロジェクト活動を本格的に進めていきます（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。また、3年次ゼミ受講生が執筆している「研究計画書」に対して助言を行います。						
第26回	【プロジェクト活動】：取り組んできた課題についての解決策を決定し、プレゼンテーションを行うための準備をします（4年次ゼミ受講生は主としてサポートを行う）。						
第27回	【プロジェクト活動】：PBLの課題解決策について、クラス内（または、受け入れ先）でプレゼンテーションを行います。4年次ゼミ受講生は、主としてグループ活動に対するコメントを行います。						

授 業 計 画					
実施回	授業内容				
第28回	【自己点検授業】：1年間の振り返り、ならびに大学生活4年間を振り返り、自身のキャリアを検討します。また、課外で個人面談を行います。				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	実施しない	発表	30	ゼミ内でのプレゼンテーションを評価する（発表内容・レジュメ等）。
レポート	40	数回のレポートにより評価する。具体的には、「グループ活動サポート報告書」（数回。20%）、文献輪読・講読レポート（数回。20%）。	その他：授業態度点	30	ゼミ活動への参加度（出席・発言等）、グループ活動での貢献度、などを総合的に評価する 詳細は、第1回授業時に明らかにする
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
ゼミの授業時間（教室に集まっている時間）だけでは、当然のことながら不十分です。課外でのグループ活動や個人研究が求められます。特に3年次ゼミ生のサポートをすることがありますので、学外でも協力し合える体制を整えてください。また自身の研究を発表する回もありますので、授業外できちんと準備してもらうことが必要です。			オフィスアワーを設定しますが、それ以外でも在室しているときは対応します。また必要でしたらZoomによる面談等で質問・相談を受け付けます。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。 オフィスアワーの時間帯は、初回授業時に案内します。		
教科書・テキスト	H. E. オルドリッチ著（若林ほか訳）『組織進化論』東洋経済新報社、2007。 変更になる場合あり		受講生に望むこと	ゼミ全体の目標は、「『学問』するゼミ文化を構築すること」です。その目標を実現するために、3年ゼミでは「実際の組織活動の調査分析方法を理解すること」に主眼を置いています。そのことを意識して、ゼミ活動に取り組んでください。 ゼミ活動には、なるべく積極的に参加してほしいです。就職活動等でゼミ活動に参加できない場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。	
参考書・参考資料等	組織論の研究方法を理解するために、以下の書籍を参考資料として用います。 ・田尾・若林編『組織調査ガイドブック』有斐閣、2001。 またその他の参考文献・参考資料は、ゼミ内で適宜紹介します。それ以上に、皆さん自身で探し出すことが求められます。			その他・特記事項	【重要】「授業計画」はゼミ生の興味関心や、到達レベルに応じて変更する場合があります。ご了承ください。また、学外に出かけての調査も予定しています。積極的に参加ください。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
教科書・テキスト			受講生に望むこと		
参考書・参考資料等			その他・特記事項		

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
教科書・テキスト			受講生に望むこと		
参考書・参考資料等			その他・特記事項		

授業科目	ゼミナール（衣川）						
担当教員	衣川 修平			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
主に会計学を学ぶゼミです。本年度は中でも企業分析を中心に勉強していきたいと予定しています。皆さんのニーズがあれば、ライトなフィールドワークも行いたいと思います。				減損会計、退職給付引当金、リース会計といった財務会計の個別分野と言われる論点を一つ一つ勉強していくことで、アカウントティング・マインド養成していきます。また、プレゼン能力やディスカッション能力の向上も図っていきます。また財務諸表作成・分析能力についても、時間の余裕に応じて、養成していきます。			
キーワード	アカウントティング・マインド，会計学，財務分析						
教授方法	演習						
履修条件等	第2学年以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	授業内容：イントロダクション：軽く自己紹介、役職決定。 時間があれば軽くゲームを行います						
第2回	テキスト輪読A：伊藤邦雄『新・企業価値評価』を予定しています。皆さん2年生でまだ未修の内容もありますので、随時、補講的なレクチャーも入れていきたいと思います。						
第3回	テキスト輪読A：発表＆ディスカッションしていきます。						
第4回	テキスト輪読A：発表＆ディスカッションしていきます。						
第5回	テキスト輪読A：発表＆ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。						
第6回	テキスト輪読A：発表＆ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。						
第7回	テキスト輪読A：発表＆ディスカッションしていきます。 ないし海外研修前の準備をしたいと思います。（1セメ終了、海外研修へ）						
第8回	海外研修報告 3・4セメの打ち合わせ						
第9回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第10回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第11回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第12回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第13回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第14回	テキスト輪読B：発表＆ディスカッションしていきます。						
第15回	講演：有識者の講演を考えていますが、原価計算が管理会計で講演をするかもしれません。その時はゼミ生は積極的に手伝ってください。						
第16回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第17回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第18回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第19回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第20回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第21回	テキスト輪読C：発表＆ディスカッションしていきます。						
第22回	テキスト輪読D：発表＆ディスカッションしていきます。						
第23回	テキスト輪読D：発表＆ディスカッションしていきます。						
第24回	テキスト輪読D：発表＆ディスカッションしていきます。						
第25回	テキスト輪読D：発表＆ディスカッションしていきます。						
第26回	テキスト輪読D：発表＆ディスカッションしていきます。						
第27回	テキスト輪読D：発表＆ディスカッションしていきます。						
第28回	テキスト輪読D：発表＆ディスカッションしていきます。						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者を尊重し、その意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べることができたか	報告	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者を尊重し、意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べることができたか
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
課題をこなすことと、簿記に関する演習を普段から勉強することが望ましいです。またゼミ時にも、簿記の演習支援を行います。			ゼミの前後、メールでの質問を受け付けます。オフィスアワーは演習時に指定します。		
教科書・テキスト	伊藤邦雄（2014）『新・企業価値評価』日本経済新聞社と、その前準備のための基礎的なテキストを読むことを予定しています。		受講生に望むこと	ゼミナールは、学生さんが中心になって作っていくものです。積極的に発現するなどして演習に参加し、フリーライダー、ボールウォッチャーにならないようにしましょう。よくコミュニケーションが全く取れない人や、ゼミに参加しようとしなない人は、他者に対して敬意が見られない人は、ゼミ自体を崩壊させますので、注意してください。しかし難しいことを要求しているわけではありません。おとなしい人はおとなしく、元気な人は元気に、まじめな人はまじめに、自分の資質を生かして頑張ってもらえればそれでOKです！またなるべく学びの場が楽しくなるように、様々なイベント企画を考えていきましょう。また演習という性格上、報告時の無断欠席は厳禁です。また5回以上の欠席については、やむを得ない場合を除き、認められません。	
参考書・参考資料等	随時指定します。				
			その他・特記事項	Email: kinugawa.shuhei u-nagano.ac.jp	

授業科目		ゼミナール（金）					
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>このゼミでは、ビジネスに関する法領域での法的な論点、個別事例等の中から自身でテーマを選び、なぜそのテーマを検討する必要があるのか、具体的な問題点は何か（問題意識）を整理した上で、現状はどうなっているか、それはなぜか、法制度等に改善が必要な点はあるか、あるとすれば何か、どのように改善すればよいか、といった流れで考察を行い、論文にまとめる。</p>				<p>ビジネスに関する法領域の専門的なテーマについて、理解し、説明できるようになる。 株式会社、金融・資本市場に関する法的な論点を理解し、分析（問題点の指摘、原因の解明、再発防止策の考案等）を行うことができるようになる。</p>			
キーワード	会社法、金融商品取引法、ビジネス法						
教授方法	原則として、演習方式とする。 大学がオンライン講義の実施の方針を採る学期については、それによる。別途、案内をするので、確認すること。						
履修条件等	法学系の科目を履修済み又は同時履修予定であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
3	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
4	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
5	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
6	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
7	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
8	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
9	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
10	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
11	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
12	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
13	会社法、金融商品取引法の基礎概念の研究						
14	ふりかえり						
15	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
16	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
17	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
18	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
19	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
20	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
21	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
22	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
23	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
24	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
25	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
26	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
27	会社法、金融商品取引法に関する自身の論文テーマの研究						
28	ふちかえりとまとめ						

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表の内容と出来ばえ	70	プレゼン等の内容（正確性、創造性等）、プレゼン等の出来ばえ（当日のパフォーマンス等）を基準に評価します。	コミュニケーション能力	30	ゼミの運営、共同作業、質疑応答及びその対応等に関するコミュニケーション能力について評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
担当する発表等の準備その他。			原則として、オフィス・アワーに同等する。オフィス・アワーの委細については、ガイダンスその他において案内する。		
教科書・テキスト	特になし。講義中にコピー等を配布する。		受講生に望むこと	楽しみながら、学習しましょう。 オンライン講義の実施に関して、別途連絡をするので、メール等の確認をまめに行ってください。	
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・江頭憲治郎「株式会社法」（有斐閣、第7版、2017） ・伊藤靖史「会社法」（有斐閣、第4版、2018） ・河本一郎ほか「新・金融商品取引法読本」（有斐閣、2014） ・松岡啓佑「最新金融商品取引法講義」（中央経済社、第4版、2018） ・会社法判例百選 第3版（別冊ジュリスト 229） ・金融商品取引法判例百選（別冊ジュリスト 214） つづく 		その他・特記事項	<p>講義中に説明を行った上で、授業計画及び内容を変更することもあり得る。</p> <p>参考書つづき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉見宏「会計不正事例と監査（日本監査研究学会リサーチシリーズXVI）」（同文館出版、2018） ・長島・大野・常松法律事務所その他「会計不祥事対応の実務」（商事法務、2010） ・門脇徹雄ほか「ケースブック 上場ベンチャー企業の粉飾・不正会計失敗事例から学ぶ」（中央経済社、2008） その他、講義中に説明する。 	

授業科目	ゼミナール（首藤）						
担当教員	首藤 聡一郎			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
経営戦略論のロジックを通じて現実を分析していく。				1) 経営戦略のロジックを習得する 2) 経営戦略論のロジックを用いて現実をよりよく理解できるようになる 3) 自らの思考に経営戦略論のロジックを組み込むことができるようになる			
キーワード	経営戦略論、経営分析、経営企画						
教授方法	グループ、あるいは個人で課題に取り組み、プレゼンテーションする。その後、議論する。						
履修条件等	事前に履修を希望し、認められた学生						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	経営戦略論のロジック（1）						
3	経営戦略論のロジック（2）						
4	経営戦略論のロジック（3）						
5	経営戦略論のロジック（4）						
6	経営戦略論のロジック（5）						
7	経営戦略論のロジック（6）						
8	ビジネスプランコンテスト（1）						
9	ビジネスプランコンテスト（2）						
10	ビジネスプランコンテスト（3）						
11	ビジネスプランコンテスト（4）						
12	ビジネスプランコンテスト（5）						
13	ビジネスプランコンテスト（6）						
14	ビジネスプランコンテスト（7）						
15	経営分析（1）						
16	経営分析（2）						
17	経営分析（3）						
18	経営分析（4）						
19	経営分析（5）						
20	経営分析（6）						
21	経営分析（7）						
22	経営企画（1）						
23	経営企画（2）						
24	経営企画（3）						
25	経営企画（4）						
26	経営企画（5）						
27	経営企画（6）						
28	まとめ						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	100	内容、表現			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
プレゼンテーションの準備			アポイントメントをとってくれば日程を調整して対応いたします		
教科書・テキスト	ありません		受講生に望むこと	一緒に頑張りましょう	
参考書・参考資料等	適宜紹介します		その他・特記事項	要望などありましたら遠慮なくお伝えいただければ幸いです。よろしくお願いします	

授業科目	ゼミナール（田村）						
担当教員	田村 秀			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>単に講義だけでなく、グループディスカッション、地方自治体見学や公共政策の現場でのフィールドワーク、個人研究の発表などを通して議論する機会を数多く設け、地方自治や公共政策に関する基本的なスキルを身につけ、公共経営コースに必要な能力を養います。アクティブラーニングを通じて、コミュニケーション能力も高めます。</p> <p>研究したいテーマや実際にフィールドワークしたい場所を学生に主体的に選んでもらいます。様々な意見に耳を傾け、自分の考えを論理的に表現することができるスキルをゼミを通じて身につけてもらいます。</p> <p>3年と4年が合同で実施するので、1,2学期は主に3年が、3,4学期は主に4年が発表を行います。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の基本的な仕組みが理解できる。 ・公共政策とはどのようなものかについて理解できる。 ・地域にどのような課題があるか、自ら発見することができる。 ・地域の課題の具体的内容について、データや様々な情報を用いて説明することができる。 ・地域の課題の解決策について、一定程度の提案ができる。 ・グローバル社会の中で、地域の将来像について、海外研修の成果を踏まえ、自分の言葉で語るすることができる。 ・フィールドワークに関する基本的な事項を習得できる。 			
キーワード	地方自治、地域活性化、地方創生、グループディスカッション、フィールドワーク						
教授方法	講義も行いつつ、基本は学生と教員、学生同士の議論、プレゼンとし、フィールドワークも随時行います。						
履修条件等	政策科学の単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミの進め方について説明						
2	グループディスカッションの準備						
3	発表1						
4	発表2						
5	発表3						
6	発表4						
7	発表5						
8	発表6						
9	発表7						
10	グループワーク1						
11	グループワーク2						
12	グループディスカッション1						
13	グループディスカッション2						
14	2学期のまとめ						
15	フィールドワーク準備						
16	フィールドワーク1						
17	フィールドワーク2						
18	フィールドワーク3						
19	フィールドワーク発表1						
20	フィールドワーク発表2						
21	3学期のまとめ						
22	講義						
23	ミニゼミ論の作成						
24	ミニゼミ論の作成						
25	ミニゼミ論の作成						
26	ミニゼミ論の発表						
27	ミニゼミ論の発表						
28	ゼミのまとめ						

共通の成績評価基準

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50	ゼミでの議論の内容を踏まえて、自分の考えをしっかりとまとめている点を重視します。	上記以外の授業評価	50	ゼミの出席、議論への参加などを総合的に加味します。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>地域の様々なことに常に興味を持っていてもらいたいと思います。具体的には新聞やインターネットで自分の関心のある地域の出来事、特に自治体の取組みなどについて調べておいてください。自分の出身地や長野県だけでなく、直接関係のない地域の出来事にもアンテナを張ってもらいたいものです。本に関しては、担当教員の著書について、少なくとも1冊以上は目を通しておいてください。</p> <p>このほか、長野市内を自分の足で回り、自分の目で見える機会を数多く作っておいてください。このゼミのモットーの一つに現場主義があります。地域を実際に自分で回り、様々な事象を見ることを通じて、問題意識を持つきっかけにってもらいたいと思います。</p>			<p>随時受け付けます。</p>		
教科書・テキスト		ゼミの最初に示します。	受講生に望むこと		地域のことを常に意識してください。
参考書・参考資料等		ゼミの最初に示します。	その他・特記事項		授業計画は仮置きであり、柔軟に実施します。

授業科目	ゼミナール（中条）						
担当教員	中条 潮			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>中条研究会は、2019年の県大学園祭で研究発表を展示した唯一の2年ゼミであり、2020年度にCovid-19により中止となった学祭で唯一、学祭に代わる展示と発表を対面とオンラインで実施したゼミです。</p> <p>この「エグサ」は、30期以上にもわたる中条研究会の伝統です。4年次も、時間割に拘束されることなく、「ゼミナール」と「卒業研究」を併せて週6コマのゼミ活動を実施します。</p> <p>4年生での主たる活動は10万語にわたる卒業論文の執筆です。研究テーマは自由です。様々な社会・経済問題について、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、問題の改善案（政策）を社会全体の利益の視点から議論します。</p> <p>過去のゼミ論文テーマは、航空自由化、観光立国、教育自由化、医療保険の民営化、農業保護の撤廃、自然保護、ゴミ処理、刑罰の経済学的考察、芸術保護、性表現、ナポレオンの経済学等々多岐に。</p> <p>論文作成の基礎として「公共経済学」の考え方を応用して、社会全体の利益の最大化について政策提言をしますが、最終的には、制度を壊すためのビジネスモデルの提示も求められます。</p> <p>併せて、大学に寄与する様々な活動（特に航空公共経済プログラムを通じての後輩の就活指導や、学外組織との連携研究活動）を行います。</p>				<p>卒業時の最終目標は、「中条ゼミ34期生」として恥ずかしくない、全国ベース、世界ベースで活躍する組織のリーダーとなる人材、すなわち、経済経営の基本的メカニズムを理解した、論理的思考能力を有する、自分の言葉で話せる人材の養成です。</p> <p>このために、2年次から論文の書き方を学び、3年の共同論文を経て、4年次での卒論作成へとつなぎます。後輩を指導する能力も求められます。</p>			
キーワード	社会全体の利益 総余剰の最大化 nobless oblige notorious						
教授方法	毎回の発表とディスカッション						
履修条件等	中条研究会34期生として先行された者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	論文発表						
2	論文発表						
3	論文発表						
4	論文発表						
5	論文発表						
6	論文発表						
7	論文発表						
8	論文発表						
9	論文発表						
10	論文発表						
11	論文発表						
12	論文発表						
13	論文発表						
14	論文発表						
15	論文発表						
16	論文発表 なお、後輩への就活指導、インターンシップの案内などを適宜各回で実施する。						
17	論文発表						
18	論文発表						
19	論文発表						
20	論文発表						
21	論文発表						
22	論文発表						
23	論文発表						
24	論文発表						
25	論文発表						
26	論文発表						

授 業 計 画					
実施回	授業内容				
27	論文発表				
28	論文発表				
共通の成績評価基準					
(全学共通)【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
形式上、ゼミナールと卒	100	中条研究会の伝統にのっとり恥ずかしくない発信力	後輩に対する指導力	100	非常に優秀な場合はこれだけで100%評価することもあり得る
先輩への気遣いやOB会の運	100	非常に優秀な場合はこれだけで100%評価することもあり得る	ゼミの運営能力	100	非常に優秀な場合はこれだけで100%評価することもあり得る
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
自己責任			いつでも		
教科書・テキスト	自分で探すことが勉強		受講生に望むこと	中条研究会の伝統を守り発展させること。	
参考書・参考資料等	自分で探すことが勉強		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	ゼミナール（永田）						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
ゼミナールとで身に付けたファイナンスや金融論、経済学の知識を使い、各自の興味のあるテーマについて報告する。また、グループに分かれて関心のある経済・社会問題を研究し、研究成果を大学生を対象にした懸賞論文（日銀グランプリ、中小企業懸賞論文、日経ストックリーグ等）に応募する。				ファイナンスや金融論、経済学の知識を使いこなし、現実の経済・社会問題を分析できるようにする。また、グループでの研究成果を懸賞論文に応募することで、論理的思考力や表現力を身に付ける。			
キーワード	ファイナンス、金融論、経済学						
教授方法	演習形式（対面で行う予定）。						
履修条件等	ファイナンス入門と金融論、コーポレートファイナンス、金融システム論、ミクロ経済学、マクロ経済学、経営統計学入門、数理統計学を履修していると、授業内容を深く理解できる。これらの科目の積極的な受講を勧める。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	受講生の報告と討論						
3	受講生の報告と討論						
4	受講生の報告と討論						
5	受講生の報告と討論						
6	受講生の報告と討論						
7	受講生の報告と討論						
8	受講生の報告と討論						
9	受講生の報告と討論						
10	受講生の報告と討論						
11	受講生の報告と討論						
12	受講生の報告と討論						
13	受講生の報告と討論						
14	受講生の報告と討論						
15	受講生の報告と討論						
16	受講生の報告と討論						
17	受講生の報告と討論						
18	受講生の報告と討論						
19	受講生の報告と討論						
20	受講生の報告と討論						
21	受講生の報告と討論						
22	受講生の報告と討論						
23	受講生の報告と討論						
24	受講生の報告と討論						
25	受講生の報告と討論						
26	受講生の報告と討論						
27	受講生の報告と討論						
28	受講生の報告と討論						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	0		小テスト	0	
授業レポート	20	ファイナンスや金融，経済学を用いた研究成果を評価する。	上記以外の授業評価	80	日々の取組（報告や質疑応答，議論への参加，宿題等）と懸賞論文の成果。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
各自の研究や懸賞論文の執筆作業（資料収集と整理，研究発表の準備，論文の執筆等）にも時間をかけること。			授業中に質問すること。授業時間外に質問があれば，研究室に来ること。所用がない限り，いつでも対応する。日時を指定したい場合，メール等で事前に連絡すること。		
教科書・テキスト	適宜指示する。		受講生に望むこと	懸賞論文での好成績を目指す。	
参考書・参考資料等	適宜指示する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	ゼミナール（中村陽）						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>2年次に学んだマーケティングや統計学の専門的知識とデータ分析の技術を基に、3、4年次のゼミは研究活動をメインとしながら、合同会社sigmovの経営、民間企業や自治体との共同プロジェクト、全国レベルの各種コンテストなどに取り組む。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・特定のテーマについて、論点を整理して課題を設定し、必要な情報を集めて適切に整理し、主張の客観的な根拠をそろえ、効果的に相手に伝える、という一連のスキルを身につけている。 ・統計学の基礎的な力（統計検定2級程度）を身につけている。実データを統計ソフトを用いて適切に分析し、正しく解釈することができる。 ・英語のトップジャーナルに掲載された学術論文を読み、正しく理解できる。 			
キーワード	マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ						
教授方法	演習						
履修条件等	マーケティングと統計学の関連科目を履修していること、あるいは同時に履修すること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
2	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
3	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
4	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
5	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
6	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
7	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
8	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
9	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
10	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
11	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
12	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
13	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
14	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
15	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
16	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
17	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
18	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
19	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
20	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
21	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
22	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
23	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
24	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
25	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
26	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
27	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
28	・トップジャーナルに掲載された学術論文を精読する。 ・適宜、グループ研究、産官学連携のプロジェクト、各種コンテストなどの進捗状況を報告する。						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業評価	100	授業や課題への取り組み状況を総合的に評価する			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
膨大な量の事前準備が前提となって授業は進められる。授業内というよりも、むしろ授業外の学習や活動がメインとなる。長期休業中も膨大な量の課題がある。			出張がなければ研究室にいるので、授業、会議などのない時間帯はいつでも対応する。		
教科書・テキスト	授業の中で適宜指示する。		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミの理念を理解し、共感していること。 ・ゼミ活動に全力でコミットすること。 	
参考書・参考資料等	授業の中で適宜指示する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・他のゼミとの掛け持ちはできない。 ・3年次からの入ゼミはできない。 ・4年次には卒業論文を書かなければならない。 	

授業科目	ゼミナール（中村稔彦）						
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>ゼミナールでは、興味関心のある財政の様々な問題や各自治体の様々な政策等について、それぞれで調査し、発表し合うとともに、今後の我が国と各自治体の発展について、議論や集団討論を行う。その他にも、各個人の意識や知識、思考力を高めるために、グローバル企業の部長や本部長、マネージャー、オーストラリアのクイーンズランド州立の日本支部のマネージャーとのワークショップやセッション、サブゼミなどを多数実施する。</p>				<p>本ゼミの到達目標は、専門的な知識や思考能力を高めることはもちろん、それ以外にも公務員や民間企業の面接試験や集団討論を突破するスキルや社会に出てから即戦力として活躍するための調査力、分析力、行動力、コミュニケーション力、それに優秀なリーダーになるために必要な問題点を発見する「問題意識力」とそれを解決しようとする「問題解決力」を身に付けることである。</p>			
キーワード	少子高齢化・地方創生・地域再生・地域活性化・社会保障制度						
教授方法	講義形式は最少にして、発表や議論、集団討論をする場面をできるだけ多く設けるようにする。						
履修条件等	1年に5回欠席した者（公欠を除く）は単位を付与しない（就職活動については要相談）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	市町村の政策課題とその対応策の紹介						
第2回	集団討論（1）						
第3回	市町村の政策課題とその対応策（1）						
第4回	集団討論（2）						
第5回	市町村の政策課題とその対応策（2）						
第6回	集団討論（3）						
第7回	市町村の政策課題とその対応策（3）						
第8回	集団討論（4）						
第9回	市町村の政策課題とその対応策（4）						
第10回	集団討論（5）						
第11回	市町村の政策課題とその対応策（5）						
第12回	集団討論（6）						
第13回	都道府県の政策課題とその対応策の紹介						
第14回	集団討論（7）						
第15回	都道府県の政策課題とその対応策（6）						
第16回	集団討論（8）						
第17回	都道府県の政策課題とその対応策（7）						
第18回	集団討論（9）						
第19回	都道府県の政策課題とその対応策（8）						
第20回	集団討論（10）						
第21回	都道府県の政策課題とその対応策（9）						
第22回	集団討論（11）						
第23回	都道府県の政策課題とその対応策（10）						
第24回	集団討論（12）						
第25回	主要各国の自治体の政策の紹介						
第26回	主要各国の自治体の政策に関する議論（1）						
第27回	主要各国の自治体の政策に関する議論（2）						
第28回	主要各国の自治体の政策に関する議論（3）						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
集団討論	60%	積極性、内容、表現力、対応力等の点から総合的に評価する(5点×12回)。	調査発表	40%	問題意識、分析力、表現力、質疑への応答等の点から総合的に評価する(4点×10回)。
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
各回の該当する内容、指示された内容について、事前に用語や理論、背景など自分なりに調べ、理解しておくこと。調べた内容について、賛否両論がある場合は、それらを比較して自分なりの結論を導き出すようにすること。ゼミで説明した重要な部分の見直しとゼミで紹介した論文や参考書、新聞、ホームページ等は事後に必ず調べる。これにより、幅広い経済社会・財政の一般常識を身につけることができるだろう。			随時対応。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	ゼミをより充実したものにするためには、主体的にゼミに参加することである。使用するテキストをよく読んだり、テーマについて深く調べたり、問題点や改善案を真剣に考えたりすることはもちろん、議論に活発に参加したり、論文を納得いくまでしっかりとまとめたりすることによって、専門分野での思考力を高めることができるので、常にそのような意識で取り組んでほしい。 また、普段から経済社会に関するニュースへの関心度を高め、当該ニュースの背景や問題点、改善案等も調べたり、考えたりするようにしてほしい。	
参考書・参考資料等	総務省『各年度 地方財政統計年報』。 総務省『各年度 都道府県決算状況調』。 総務省『各年度 市町村決算状況調』。 総務省『各年度 都道府県財政指数表』。 総務省『各年度 類似団体別市町村財政指数表』。 その他、地域政策に関する学術論文など。			その他・特記事項	特になし。

授業科目	ゼミナール（真野）						
担当教員	真野 毅			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
前半は、多様なアクターによる地域協働マネジメントを学び、持続可能な社会の実現のために企業が貢献している事例を学ぶ。後半は、実際に学生が興味を持つ会社が、どのような社会の課題解決に取り組めるかについて発表してもらう。				到達目標は、どのようにすれば持続可能な社会の実現のために企業が貢献できるかを理解し、学生が企業にその方法を提案できるようになること。			
キーワード	協働、共創、コレクティブインパクト、ソーシャルマーケティング						
教授方法	グループ、あるいは個人で課題に取り組み、プレゼンテーションをし、グループで議論する。						
履修条件等	事前に履修を希望し、認められた学生						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	地域協働のマネジメント 2章 地域企業の戦略的地域貢献						
2	地域協働のマネジメント 5章 行政が主導する協働事例						
3	地域協働のマネジメント 6章 地域密着思考の事業型NPOの協働戦略						
4	地域協働のマネジメント 7章 NPOと企業と行政の協働						
5	地域協働のマネジメント 4章 地域協働推進のための新しいガバナンス体制						
6	GOOD WORKS！ イントロダクション						
7	GOOD WORKS！ 3章 コーズ・プロモーション						
8	GOOD WORKS！ 4章 コーズ・リレイティド・マーケティング						
9	GOOD WORKS！ 5章 企業のソーシャル・マーケティング						
10	GOOD WORKS！ 6章 企業の社会貢献活動						
11	GOOD WORKS！ 7章 地域ボランティア						
12	GOOD WORKS！ 8章 社会的責任のある事業の実践						
13	GOOD WORKS！ 4部 まとめ						
14	GOOD WORKS！ 15章 非営利企業と公共セクターへ						
15	学生による発表						
16	学生による発表						
17	学生による発表						
18	学生による発表						
19	学生による発表						
20	学生による発表						
21	学生による発表						
22	学生による発表						
23	学生による発表						
24	学生による発表						
25	学生による発表						
26	学生による発表						
27	学生による発表						
28	全体のまとめ						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	内容、表現	授業に対する貢献	50	積極的な授業への参加（発言、議論、支援）
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
プレゼンテーションの準備、ゼミ生が選んだ輪読書の発表準備			メールで連絡をください。		
教科書・テキスト	フィリップス・コトラー（2014）『グッドワークス』東洋経済新報社 佐々木利廣（2018）『地域協働のマネジメント』中央経済社		受講生に望むこと	積極的な授業への参加	
参考書・参考資料等	フィリップス・コトラー（2017）『コトラーのマーケティング4.0』朝日新聞出版		その他・特記事項	学生が学びたい書物があれば、遠慮なく提案ください。上記以外についてもゼミ生が学びたいことがあれば、対応したい。	

授業科目	ゼミナール（三浦）						
担当教員	三浦 正士			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目では、多様化・複雑化を見せる地方自治の諸課題について、ゼミ生の問題関心に基づいた学習を行うため、学期ごとに異なる課題を設定することで、地方自治を理論と実践の双方から学ぶことをめざす。				地域社会の課題について自分の意見を持つことができる。 論文執筆に必要な読解力と思考力、文章力を身につける。 議論に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。			
キーワード	団体自治、住民自治、地方分権、参加・協働、プレゼンテーション						
教授方法	演習形式で行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：ゼミナールの進め方について説明するほか、ゼミナールでの学びの振り返りを行う。						
2	地方自治のしくみについて学ぶ（1）：ゼミ生が選定した課題図書に関する報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
3	地方自治のしくみについて学ぶ（2）：ゼミ生が選定した課題図書に関する報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
4	地方自治のしくみについて学ぶ（3）：ゼミ生が選定した課題図書に関する報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
5	地方自治のしくみについて学ぶ（4）：ゼミ生が選定した課題図書に関する報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
6	地方自治のしくみについて学ぶ（5）：ゼミ生が選定した課題図書に関する報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
7	地方自治のしくみについて学ぶ（6）：ゼミ生が選定した課題図書に関する報告と議論を行うことで、地方自治に対する理解を深める。						
8	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（1）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
9	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（2）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
10	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（3）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
11	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（4）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
12	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（5）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
13	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（6）：ゼミ生の問題関心を踏まえてテーマ（例：地方創生、住民参加など）を取り上げ、議論を行う。						
14	自治体の現場と政策の実践について学ぶ（7）：これまでの議論を踏まえ、ゼミ生によるプレゼンテーションを行う。						
15	地域課題の解決策を考える（1）：実際に地域の現場に出向き、地域の抱える多様な課題を認識するとともに、その解決策がどのようにあるべきかについて議論を行う。						
16	地域課題の解決策を考える（2）：実際に地域の現場に出向き、地域の抱える多様な課題を認識するとともに、その解決策がどのようにあるべきかについて議論を行う。						
17	地域課題の解決策を考える（3）：実際に地域の現場に出向き、地域の抱える多様な課題を認識するとともに、その解決策がどのようにあるべきかについて議論を行う。						
18	地域課題の解決策を考える（4）：実際に地域の現場に出向き、地域の抱える多様な課題を認識するとともに、その解決策がどのようにあるべきかについて議論を行う。						
19	地域課題の解決策を考える（5）：実際に地域の現場に出向き、地域の抱える多様な課題を認識するとともに、その解決策がどのようにあるべきかについて議論を行う。						
20	地域課題の解決策を考える（6）：実際に地域の現場に出向き、地域の抱える多様な課題を認識するとともに、その解決策がどのようにあるべきかについて議論を行う。						
21	地域課題の解決策を考える（7）：実際に地域の現場に出向き、地域の抱える多様な課題を認識するとともに、その解決策がどのようにあるべきかについて議論を行う。						
22	地域課題の解決策を考える（8）：実際に地域の現場に出向き、地域の抱える多様な課題を認識するとともに、その解決策がどのようにあるべきかについて議論を行う。						
23	地域課題の解決策を考える（9）：実際に地域の現場に出向き、地域の抱える多様な課題を認識するとともに、その解決策がどのようにあるべきかについて議論を行う。						
24	総括（1）：ゼミナールで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。						
25	総括（2）：ゼミナールで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。						
26	総括（3）：ゼミナールで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。						
27	総括（4）：ゼミナールで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。						
28	総括（5）：ゼミナールで学んだことをまとめ、各自の意見を整理し、成果をとりまとめる。						

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業での報告	70	ゼミナールにおいて課した報告の内容について、地域課題の発見力、地域課題の解決に向けた企画立案力を評価する。	議論への参加度	30	ゼミナールにおける議論への参加度や貢献度から、コミュニケーションの積極性、主体性、能動的な学習の姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習 ・報告者は、報告内容について主体的な問題関心を持ち、適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して報告に備える。 ・報告者以外は、報告が予定されている内容について、教科書を精読するとともに、自治体の政策課題に関する情報を収集する。 事後学習 ・ゼミナールでの学習内容について、教科書や参考書を読み、理解を深める。			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。		
教科書・テキスト	初回授業時に提示する。		受講生に望むこと	ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	ゼミナール（宮崎）						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>「健康生活」「健康な地域づくり」「健康経営」「ヘルスビジネス」等の言葉に代表するように、人々の生活だけでなく、公共経営、会社経営、企画事業に“健康”の視点があると人々は生き生きとした幸せに近づける。保健を通じて「誰一人取り残さない」SDGsの実現を、分野を超えて考える。</p> <p>ゼミでは、学生の関心を持ったヘルスシステムの課題に対し、新たな提案をするための視点と、アイデアを創出するために、議論を中心に展開していく。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・関心あるヘルスシステムの現状と課題を把握できる ・課題に対し多角的視点から議論できる ・新たなヘルスシステム（政策や事業）が提案できる ・後輩の学習支援を経験しメンターとしての心構えを学ぶ 			
キーワード	健康政策 ヘルスシステム ヘルスビジネス						
教授方法	ゼミナール（討議、発表、報告、演習、地区視診等）一部講義						
履修条件等	ゼミナール を修了していること 卒業研究を履修していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション ゼミ計画の確認						
2	研究の基礎を確認する						
3	研究方法を確認する						
4	関心のあるヘルスシステムの現状と課題						
5	関心のあるヘルスシステムの現状と課題						
6	コミュニティのヘルスシステムのあるべき姿						
7	コミュニティのヘルスシステムのあるべき姿						
8	議論の視野を広げる						
9	議論の視野を広げる						
10	議論の視野を広げる						
11	事例と対応						
12	事例と対応						
13	事例と対応						
14	コーチングについて考える						
15	学生の関心事と議論						
16	学生の関心事と議論						
17	学生の関心事と議論						
18	学生の関心事と議論						
19	学生の関心事と議論						
20	学生の関心事と議論						
21	学生の関心事と議論						
22	新システムの実現可能性を考える						
23	新システムの実現可能性を考える						
24	新システム・新事業の提案と議論						
25	新システム・新事業の提案と議論						
26	学修を深める助言の実際						
27	学修を深める助言の実際						
28	学修を深める助言の実際						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
提出物	50%	レポート、資料等の各種提出物	議論・助言	50%	授業内における発言、議論への参加（30%）後輩支援（20%）
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
関心事のヘルスシステムの現状を把握するための情報収集、課題抽出など事前に準備し、ゼミで議論後に加筆修正すること			時間内、時間外、メール等で質問・相談に対応		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと		積極的に関心事に向き合ってください
参考書・参考資料等		学生自身の関心事に合わせ提示する	その他・特記事項		特になし

授業科目	ゼミナール（宮下）						
担当教員	宮下 清			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本ゼミナールでは、世界標準とされるマネジメント・テキストに基づき輪読学習を行うと共に、地域・国内・海外の事業や企業の事例を通して、経営学・ビジネス・マネジメントを理論的かつ実践的に学ぶ。</p> <p>経営学・マネジメント・ビジネスを学ぶには、理論的枠組み、体系的な知識、事業や企業における実践を理解することが重要となる。本ゼミナールではマネジメント・テキストでの学習と共に、企業などの情報収集や現地調査など現場訪問をプロジェクトとして行い、実際の課題を通してマネジメントの本質を理解、習得を図る。また、同時にそれらの知識理解の活用につながる能力獲得を目指す。</p>				<p>・経営学の理論・歴史を学び、実践への適用・活用を試み、また理論に戻り考えるというプロセスに沿って学ぶ。経営学は広く地域・国内・海外の事業・企業そして商品・サービス、戦略・組織、人材・育成を対象とする。</p> <p>・地域、国内、海外の経営・マネジメントについて文献から学ぶと共に、情報収集や訪問など現地現物からも学ぶ。地域事業・企業、国際経営、経営戦略、組織行動、人材マネジメント、教育訓練が本ゼミのキーワード。</p> <p>・学習の場となるゼミでは、お互いを尊重し高め合える人間関係の構築が前提。ゼミ学習・活動を通してコミュニケーションやリーダーシップなどの力を高め、良好な社会性、協力関係を構築できる人間力を高める。</p> <p>目標＝基礎理論の習得とプロジェクトへの取り組みができる。</p>			
キーワード	マネジメント、経営学理論、事例探求、海外参考情報、相互学習						
教授方法	<p>・マネジメント授業 ゼミの時間で課題図書の内容を輪読。各担当レジュメ提出し発表をおよび討議。</p> <p>・プロジェクト授業 ゼミ生が主体的に進めるプロジェクト研究。学内外の調査研究活動、サブ学習、学外訪問、交流などイベント活動を随時行う。</p> <p>これらの授業は原則として、ゼミ 共同で行われる。</p>						
履修条件等	経営学入門を履修していることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミ の概要「ゼミでの学習」、 . マネジメントの理解を図る						
2	1 . マネジメントの学習、 2 . プロジェクトによる学習						
3	マネジメントの学習						
4	マネジメントの学習						
5	プロジェクト活動（地域課題）						
6	プロジェクト活動（地域課題）						
7	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認						
8	. 集中授業 取り組みの概要、スケジュール確認						
9	マネジメントの学習						
10	マネジメントの学習						
11	マネジメントの学習						
12	プロジェクト活動（地域課題）						
13	プロジェクト活動（地域課題）						
14	プロジェクト活動（地域課題）						
15	. プロジェクトによる学習						
16	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認						
17	プロジェクト活動（地域課題）						
18	プロジェクト活動（地域課題）						
19	マネジメントの学習						
20	マネジメントの学習						
21	プロジェクト活動（地域課題）						
22	マネジメントとプロジェクトの取り組み確認						
23	マネジメントの学習						
24	マネジメントの学習						
25	プロジェクト活動（地域課題）						
26	マネジメントの学習						
27	マネジメントの学習						
28	プロジェクト活動（地域課題）						

共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
輪読の担当レジメと発表	30	担当部分の適切なレジメ等資料の提示および説明	小レポート	20	プロジェクト等の報告レポート
発表と討議	20	プロジェクト等での発表と討議	その他	30	ゼミ活動、グループ活動への参加や取り組み
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<p>通常のゼミ発表のためには、テキストなどの文献を読む、理解する、考える、まとめるといった学習のため、事前学習、事後学習が求められる。またプロジェクトでは現場訪問やその準備や事後の整理などメンバーと協力し、積極的な活動が求められる。</p> <p>授業外のゼミ活動として、ビジネスコンペ、合同ゼミ・他大学交流、サブゼミ、企業等の訪問、ゼミ合宿などが考えられるが、実際の参加はゼミで検討して決定する。</p>			授業前後およびメールでのアポにより対応する。		
教科書・テキスト	S.P. ロビンズ他著、高木晴夫監訳（2014）『マネジメント入門 グローバル経営のための理論と実践』ダイヤモンド社。		受講生に望むこと	ゼミでは、常に問題意識を持ち、経営学・マネジメントを理論的、実践的に学ぶ、またプロジェクトでは主体的にかつ協力して取り組む。	
参考書・参考資料等	Stephen P. Robbins et al. Fundamentals of Management: Management Myths Debunked!, Global Edition, Pearson Education Limited., 2016. 中山、丹野、宮下『新時代の経営マネジメント』創成社, 2018. 上林他著『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣, 2018。ほか		その他・特記事項	スケジュールやおよその枠組みであり、必要に応じて修正・改善して進める。 担当教員は企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有する。	

授業科目	ゼミナール（森本）						
担当教員	森本 博行			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルマネジメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>・ゼミナールでは、卒業研究をするにあたって、受講生がみずからの問題意識にもとづいて研究課題を設定し、先行研究の検討、研究内容、研究成果についてゼミナールで報告・議論します。</p> <p>・担当教員は、外資系企業を顧客する広告会社である（マッキンゼイ・クワン博報堂）においてマーケティング戦略を担当し、さらにソニーにおいて、経営戦略、広告宣伝戦略、新事業戦略を担当し、米国、英国の海外子会社での実務経験があります。ソニーを退職する時には、イノベーション戦略オフィスVP（Vice President）でした。</p>				<p>課題発見能力、探索研究能力、情報収集能力を修得する。</p>			
キーワード	日系企業 新興国市場 グローバル戦略 海外生産 マーケティング戦略						
教授方法	・受講生各自の研究課題に応じて、先行研究になる論文等の提示、研究方法を検討し、研究成果を導く演習方式で行う。						
履修条件等	・ゼミナールを受講していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	論文の検討「日系企業の新興国市場における事業革新－エプソン「インクタンク」の導入過程－」（赤門マネジメント・レビュー） ・論文を読み解き、自ら研究課題について検討する。						
2	論文の検討「海外現地生産の進展と国内製造業への影響」（赤門マネジメント・レビュー） ・論文を読み解き、自ら研究課題について検討する。						
3	論文の検討「縮小市場における成長セグメントの取り込み－大和ハウス賃貸住宅事業の二重のマーケティング戦略」 ・論文を読み解き、自ら研究課題について検討する。						
4	論文の検討「エコシステム全体をとらえるマーケティング戦略－食器用洗剤および衣料用洗剤を事例として」 ・論文を読み解き、自ら研究課題について検討する。						
5	論文の検討「ネット通販の普及による利益ポテンシャルの変化－宅配業界を事例にして」 ・論文を読み解き、自ら研究課題について検討する。						
6	論文の検討「顧客のトレンドの変化と市場動向－生命保険業界の深層構造」 ・論文を読み解き、自ら研究課題について検討する。						
7	論文の検討「コンビニエンスストア業界の二極化要因－セブン・イレブン優位の構造分析から」 ・論文を読み解き、自ら研究課題について検討する。						
8	研究課題について確認する。 ・受講生は、研究課題とリサーチ・クエスチョンを発表する。						
9	研究課題について確認する。 ・受講生は、研究課題とリサーチ・クエスチョンを発表する。						
10	研究課題について確認する。 ・受講生は、研究課題とリサーチ・クエスチョンを発表する。						
11	研究課題について確認する。 ・受講生は、研究課題とリサーチ・クエスチョンを発表する。						
12	研究課題について確認する。 ・受講生は、研究課題とリサーチ・クエスチョンを発表する。						
13	研究課題を確認する。 ・受講生は、研究課題とリサーチ・クエスチョンを発表する。						
14	研究課題を確認する。 ・受講生は、研究課題とリサーチ・クエスチョンを発表する。						
15	中間報告 ・受講生は、自らの研究について進捗状況と研究について中間報告を行い、研究内容について議論する。						
16	中間報告 ・受講生は、自らの研究について進捗状況と研究について中間報告を行い、研究内容について議論する。						
17	中間報告 ・受講生は、自らの研究について進捗状況と研究について中間報告を行い、研究内容について議論する。						
18	中間報告 ・受講生は、自らの研究について進捗状況と研究について中間報告を行い、研究内容について議論する。						
19	中間報告 ・受講生は、自らの研究について進捗状況と研究について中間報告を行い、研究内容について議論する。						
20	中間報告 ・受講生は、自らの研究について進捗状況と研究について中間報告を行い、研究内容について議論する。						
21	中間報告 ・受講生は、自らの研究について進捗状況と研究について中間報告を行い、研究内容について議論する。						
22	研究成果の報告 ・受講生は、自らの研究について報告する。						
23	研究成果の報告 ・受講生は、自らの研究について報告する。						
24	研究成果の報告 ・受講生は、自らの研究について報告する。						
25	研究成果の報告 ・受講生は、自らの研究について報告する。						
26	研究成果の報告 ・受講生は、自らの研究について報告する。						
27	研究成果の報告 ・受講生は、自らの研究について報告する。						
28	研究成果の総括 ・受講生の研究内容について総評する。						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
研究成果の内容	50	研究課題の設定と探索研究的確度を評価します。	研究成果の論理性	50	研究課題に対する研究内容の論理性を評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前・事後の学習において、受講生は研究課題を設定して、探索研究を行うこと。			メールおよび卒業研究の時間で質問や相談に応じます。		
教科書・テキスト	『リサーチ・マインド 経営学研究法』（藤本 隆宏，新宅 純二郎，粕谷 誠，高橋 伸夫ほか、有斐閣アルマ）		受講生に望むこと	受講生は、研究課題を設定し、リサーチ・クエスションのもとついで、探索研究を行い、ゼミナールで研究内容を発表することが求められます。	
参考書・参考資料等	「赤門マネジメント・レビュー」 「一橋MBA戦略ケースブック」		その他・特記事項	受講生は、各自の問題意識から研究課題を設定すること。	

授業科目	ゼミナール（尹）						
担当教員	尹 大栄			必修・選択	選択	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
関心を持ったテーマに沿って研究を進める。				発表、レポート作成を通じ、論理的・創造的思考能力やプレゼンテーション能力を向上させる。			
キーワード	プレゼンテーション、論文の書き方、先行研究のサーベイ（文献レビュー）、フィールドワーク						
教授方法	研究成果を発表させ、ディスカッションを中心とした指導を行う。						
履修条件等	ゼミナール（コンゼミ）を履修していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	研究成果のプレゼンとディスカッション						
2	研究成果のプレゼンとディスカッション						
3	研究成果のプレゼンとディスカッション						
4	研究成果のプレゼンとディスカッション						
5	研究成果のプレゼンとディスカッション						
6	研究成果のプレゼンとディスカッション						
7	研究成果のプレゼンとディスカッション						
8	研究成果のプレゼンとディスカッション						
9	研究成果のプレゼンとディスカッション						
10	研究成果のプレゼンとディスカッション						
11	研究成果のプレゼンとディスカッション						
12	研究成果のプレゼンとディスカッション						
13	研究成果のプレゼンとディスカッション						
14	研究成果のプレゼンとディスカッション						
15	研究成果のプレゼンとディスカッション						
16	研究成果のプレゼンとディスカッション						
17	研究成果のプレゼンとディスカッション						
18	研究成果のプレゼンとディスカッション						
19	研究成果のプレゼンとディスカッション						
20	研究成果のプレゼンとディスカッション						
21	研究成果のプレゼンとディスカッション						
22	研究成果のプレゼンとディスカッション						
23	研究成果のプレゼンとディスカッション						
24	研究成果のプレゼンとディスカッション						
25	研究成果のプレゼンとディスカッション						
26	研究成果のプレゼンとディスカッション						
27	研究成果のプレゼンとディスカッション						
28	研究成果のプレゼンとディスカッション						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表	70	発表の中身に応じて評価する。	レポート	30	研究成果をまとめたレポートを課す。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：関連文献や先行研究のレビューをしっかりと行う。 ・事後学習：研究発表を行いながら、その成果を文章（論文）にまとめていく。 			常時対応する。		
教科書・テキスト	別途指定する。		受講生に望むこと	文献レビューを丹念に行うこと	
参考書・参考資料等	別途指定する。		その他・特記事項	各自、フィールド（企業や産地）に出かけ、自分の足で集めたオリジナルデータに基づいた研究（論文）を期待したい！	

授業科目	卒業研究（野口）						
担当教員	野口 暢子			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
各自、ひとつの国におけるひとつのテーマを選定し、卒業論文を完成できるように、指導を行う。執筆の際には、日本や取り上げた国以外の国や地域との比較も意識するようにする。				A4・40枚のきちんとした学術論文を卒業論文として仕上げること			
キーワード	諸外国の公共政策、比較政治						
教授方法	卒業論文の執筆方法について、教授したのち、各回、3名が各自15分程度の発表を行い、その内容に関する質疑応答を行う。						
履修条件等	卒業研究（野口）の履修を認められていること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（卒業研究のテーマについて）						
2	論文の作法（参考文献の探し方・脚注のつけ方など）						
3	テーマの選定						
4	目次（仮）の作成						
5	発表と質疑応答						
6	発表と質疑応答						
7	発表と質疑応答						
8	発表と質疑応答						
9	発表と質疑応答						
10	発表と質疑応答						
11	発表と質疑応答						
12	発表と質疑応答						
13	発表と質疑応答						
14	発表と質疑応答						
15	発表と質疑応答						
16	発表と質疑応答						
17	発表と質疑応答						
18	発表と質疑応答						
19	発表と質疑応答						
20	発表と質疑応答						
21	個別指導						
22	個別指導						
23	個別指導						
24	個別指導						
25	個別指導						
26	個別指導						
27	卒業論文発表会						
28	卒業論文発表会						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業論文	80	正確に、わかりやすく執筆できたか。	質問	20	他の受講生の発表について、適切な質問ができたか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
卒業論文の執筆に関する調査			簡単な質問や相談は学内メールアドレス宛に送ってください。会って話をしたい場合は、その旨をメールに書き、野口の学内メールアドレス宛に送ってください。遠隔授業は、Zoomを使って行います。授業内における発表については、チャット機能なども使って、積極的に質問してください。		
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと		卒業論文が「大学時代にもっとも力を入れたもの」になるよう、力を尽くしてください。
参考書・参考資料等		受講生のテーマに関する文献を随時、紹介いたします。	その他・特記事項		卒業研究を休む際には、必ず、授業が始める時間までに野口の学内メールアドレス宛に連絡をください。

授業科目	卒業研究（築山）						
担当教員	築山 秀夫			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>大学生生活の集大成としての卒業論文の執筆法を学び、卒業論文を完成させ、卒論報告会で発表を行う。卒業論文執筆のプロセスで、問いを立てる力、その問いを考察する力と論理的に表現する文章表現力を養う。卒業後自ら学び、自らの考えを論じることのできる力を培う。</p>				<p>調査に立脚した卒業論文を完成させ、執筆内容についての口頭試問に回答することができる。およその目安は原稿用紙100枚以上である。</p>			
キーワード	卒業論文、卒論報告、口頭試問、フィールドワーク、フィードバック						
教授方法	各自の進捗状況に応じて、研究室あるいはオンラインでの1対1ないし2対1で実施する。教室あるいはオンラインでの3・4年生合同の中間報告会と最終報告会を実施し、卒論を完成させて提出する。卒論完成後、研究室主催の卒論発表会を開催し、PPTを使つての発表と質疑応答を行う。						
履修条件等	ゼミナール（築山）を履修していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	卒論のテーマの確定						
2	卒論テーマの確定						
3	先行研究のサーベイ						
4	先行研究のサーベイ 参考文献リストの作成						
5	先行研究のサーベイ キーとなる文献の確定と読書ノートの作成						
6	卒論テーマの確定						
7	卒論テーマの分節化						
8	卒論テーマの分節化						
9	卒論テーマの問題群の体系化						
10	卒論テーマの問題群の体系化 アウトラインの決定						
11	卒論の中間報告会の準備						
12	卒論の中間報告						
13	フィールドワーク 調査対象の決定						
14	フィールドワーク 調査対象の情報収集						
15	フィールドワーク 調査対象の情報収集						
16	フィールドワーク 実査						
17	フィールドワーク 実査						
18	フィールドワークのまとめ 分析						
19	フィールドワークのまとめ 分析						
20	分析に基づく考察						
21	分析に基づく考察						
22	第一段階の完成						
23	卒論最終報告会						
24	最終の完成						
25	最終の完成						
26	引用文献、注の確認 引用文献が網羅されているのかを確認						
27	卒業論文の完成 卒論全体の見直し・修正 今後の課題						
28	卒業論文報告会における報告						

共通の成績評価基準

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業論文	80	論文の質を評価する	日常点	20	日常的な実践を評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前・事後学習に、それぞれ5時間ずつ以上を書けることが必要である。			授業時間は直接、授業外ではメール等で質問に答える。		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと		大学生生活の集大成として、最大限の努力をしてほしい。
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項		特になし

授業科目	卒業研究（中村文）						
担当教員	中村 文彦			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
卒業研究では、これまでゼミにおいて焦点を当てて学習してきた財務報告制度の知識と分析手法を用いて、実際に次の二つのことを行う。 企業から開示された会計情報を読み取り分析する。 企業が、会計情報作成のルールを用いてどのような情報開示行動を行うのかを、具体的に把握し理解する。				ゼミナールでは、受講者が将来どのような進路に進んだ場合であっても、特定のテーマについて調査・報告という作業を一定レベルで完遂できるように、テーマの選定、資料収集、レジュメ・プレゼンテーション資料の作成、報告、討論等の基本タスクをグループあるいは各人で行ないながら、自己のスキルを高めて学習を深めてきた。具体的には、2年次に業界研究と分析、3年次に企業分析を行い、4年次に各自の関心あるテーマについて調査研究を行ってきた。ここでは身につけたそれらのスキルを用いて、具体的な分析を行い、その結果を論文にまとめることを目指す。			
キーワード	論文の書き方						
教授方法	オンライン（可能であれば対面併用）による演習形式で行います。						
履修条件等	アカウントニング入門、財務会計入門を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ゼミナールの進め方に関する説明、分担箇所の設定、レジュメの作成の仕方、有価証券報告書を用いた演習						
2	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（2章）						
3	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（3章）						
4	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（4章）						
5	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（5章）						
6	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（6章）						
7	論文執筆指導（論文の書き方、テーマの選び方等）						
8	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（7章）						
9	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（8章）						
10	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（9章）						
11	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（10章）						
12	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（11章）						
13	分担箇所の報告および討論、有価証券報告書等を使った演習（12章）						
14	論文執筆指導（論文の書き方、執筆の基本ルールについて）						
15	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
16	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
17	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
18	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）1回目						
19	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
20	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
21	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
22	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）2回目						
23	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
24	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
25	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
26	論文テーマに関する報告（対象企業の分析に関する進捗状況、論文の執筆状況等）3回目						
27	論文執筆指導（論文の添削等）						
28	振り返り、講評						

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
テーマの選択と調査・資料	30	テキスト等から自分の担当箇所を選択し、その内容について調査を行い資料を集める	グループワーク	20	テーマに関するグループ・ディスカッションおよびグループ・ワークへの参加態度・貢献度
レジュメ報告・プレゼンテ	30	レジュメやプレゼンテーション資料の作成と報告・プレゼンテーション			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
企業のビジネス活動に関わる情報は、日常、メディア等を通じて積極的に収集すること。特に、自己の担当した企業が属する業界や将来就職を希望する業種については、常に情報収集を欠かさないこと。			ポータルサイトでお知らせします。		
教科書・テキスト	桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。		受講生に望むこと	積極的にゼミ活動に参加すること。	
参考書・参考資料等	ポータルサイトでお知らせします。		その他・特記事項	有価証券報告書を用いた演習は、ゼミ生の興味に応じてアレンジしていく予定である。	

授業科目	卒業研究（東）						
担当教員	東 俊之			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
研究方法についての知識とスキルを修得する。各自が設定するテーマ・課題について、専門分野を担当する各教員の指導・助言の下に、先行研究の精読、課題設定、適切な研究手法の選定を行い、卒業論文の基礎固めを行う。また、設定したテーマ・課題について卒業論文にまとめることで、課題発見力、企画力、実践力、分析力、考察力を身につける。				「卒業研究（東）」では、卒業論文（2万字以上）の執筆を目指す。卒業論文の執筆および完成に至るプロセスの中で、論理的に文章を作成することができる、自らの興味関心や社会的要請から、研究テーマを設定できる、文献研究や実証研究を通じて、自身のオリジナルな考えを理論を構築することができる、関連する先行研究をまとめることで、既存研究の限界を示すことができる、研究活動を通じて、問題解決策を提案することができる、という5点を涵養することを到達目標とする。			
キーワード	卒業研究、研究論文、文献研究、実証研究、研究報告（プレゼンテーション）						
教授方法	演習（講義ならびに講演の場合あり。また外部での調査等も必要である）。また授業外で、個別に担当教員との研究相談・研究指導が必要になる。						
履修条件等	「ゼミナール（東）」を履修している者。						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1回	【オリエンテーションと研究活動準備】卒業論文の概要・フォーマット、今後のスケジュール調整などを行います。また課外で個人面談を実施します。						
第2回	【研究方法について】経営学の論文をまとめるための研究方法を指導します。また、研究スケジュールについて検討します。						
第3回	【研究方法について】研究論文の書き方、とくに研究論文をまとめるうえで注意すべき引用方法、参考文献の使用方法などを学びます。						
第4回	【研究指導】3年次に提出した研究計画書をもとに、今後の研究方法・研究受けジュール等を個別に指導します。						
第5回	【研究指導】3年次に提出した研究計画書をもとに、今後の研究方法・研究受けジュール等を個別に指導します。						
第6回	【研究活動】研究を進めるために必要な文献を複数収集を行います。またその文献を精読し、卒業論文に必要な「先行研究」をまとめます。						
第7回	【研究活動】研究を進めるために必要な文献を複数収集を行います。またその文献を精読し、卒業論文に必要な「先行研究」をまとめます。						
第8回	【研究活動 & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。						
第9回	【研究活動 & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。						
第10回	【研究活動 & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。						
第11回	【研究活動 & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。						
第12回	【研究活動 & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。						
第13回	【研究活動 & 夏季休暇中の研究活動】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。また、長期休暇（夏季休暇）に行うべき研究活動についても指導します。						
第14回	【1・2学期の自己点検授業】1・2学期の研究活動の進捗状況を振り返り、夏季休暇中、3・4学期の研究計画をもう一度練り直します。また学外で個人面談を実施します。						
第15回	【中間発表】1・2学期および夏季休暇までの研究状況をゼミ内で報告し、教員ならびに他のゼミメンバーとのディスカッションによって今後の方向性を定めます。場合によっては、ゼミ担当教員およびゼミメンバー以外からコメントを得る場合があります。						
第16回	【中間発表】1・2学期および夏季休暇までの研究状況をゼミ内で報告し、教員ならびに他のゼミメンバーとのディスカッションによって今後の方向性を定めます。場合によっては、ゼミ担当教員およびゼミメンバー以外からコメントを得る場合があります。						
第17回	【中間発表後の振り返り】中間発表で得られたコメントにより、これまでの研究活動をどのように修正・変更し、深化させるかを各自検討します。						
第18回	【研究活動 & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。						
第19回	【研究活動 & クラス内発表】自身の研究テーマに関する文献調査、事例調査等を進めます。またこれまで進めてきた研究内容をクラス内で発表し、他者の意見を踏まえて自身の研究をより精緻にします。						
第20回	【卒業論文 第1稿（草稿）の執筆】卒業論文の第1稿（草稿）を実際に執筆します。必要に応じて適宜担当教員からの指導を受けます。なお、第1稿（草稿）の提出は11月末です。						
第21回	【卒業論文 第1稿（草稿）の執筆】卒業論文の第1稿（草稿）を実際に執筆します。必要に応じて適宜担当教員からの指導を受けます。なお、第1稿（草稿）の提出は11月末です。						
第22回	【卒業論文 第1稿の提出およびフィードバックの確認】卒業論文の第1稿（草稿）を提出し、教員からのコメントを踏まえて、修正ならびに使い調査等を考えます。						
第23回	【卒業論文 第2稿（完成稿）の執筆および追加調査】卒業論文の第2稿（完成稿）を執筆します。また必要に応じて追加の調査を行います。なお、第2稿の提出は12月末です。						
第24回	【卒業論文 第2稿（完成稿）の執筆および追加調査】卒業論文の第2稿（完成稿）を執筆します。また必要に応じて追加の調査を行います。なお、第2稿の提出は12月末です。						
第25回	【卒業論文 第2稿（完成稿）の執筆および追加調査】卒業論文の第2稿（完成稿）を執筆します。また必要に応じて追加の調査を行います。なお、第2稿の提出は12月末です。						
第26回	【卒業論文 第2稿のフィードバックの確認】卒業論文の第2稿（完成稿）に対する教員の査読コメントを確認し、必要な箇所を修正します。また必要に応じて追加の調査を行います。						
第27回	【クラス内発表 & 最終稿執筆】卒業研究（卒業論文）の内容をクラス内で発表し、他者からのコメントを踏まえて、卒業論文の最終稿を執筆します。なお、最終稿の提出期限は1月末です。						
第28回	【卒業研究発表会準備 & 最終稿提出準備】クラス外で実施される卒業研究発表会（複数のゼミによる合同発表会）の準備を行います。また卒業論文の最終稿を執筆します。						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	0	実施しない	小テスト	0	実施しない
レポート (卒業論文)	60%	卒業論文を採点。具体的な評価項目・割合(卒業論文=100点の内訳)は、研究の独創性:20点、先行研究のまとめ:25点、書式の正確さ:10点、	その他: 授業態度点	40%	「卒業研究」への貢献度(他者に対する助言等)、ゼミ内でのプレゼンテーション(発表内容・レジュメ等)、などを総合的に評価する
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
自身の定めた研究テーマを完成させるために、学外での調査、授業時間外での文献収集、論文執筆等が求められます。また授業時間外に、個別に研究指導をする時間を設定しますので、予めご承知おきください。			オフィスアワーを設定しますが、それ以外でも在宅しているときは対応します。また必要でしたらZoomによる面談等で質問・相談を受け付けます。ただし、不在の場合や先約がある場合もありますので、なるべくアポイントメールをお送りください。また簡易な質問でしたらメールでも対応します。オフィスアワーの時間帯は、初回授業時に案内します。		
教科書・テキスト	特に指定しません(自身の研究テーマに関連する書籍・論文を精読することを求める)		受講生に望むこと	「卒業研究」は大学生活の集大成となるものです。自らが満足できる内容になるように努めてください。また、個人での研究活動が多くなりますが、ゼミ全体が良い卒業研究が仕上げられるような「場」になるように、頑張ってください。	
参考書・参考資料等	特に指定しません(自身の研究テーマに関連する書籍・論文を複数収集し、熟読することを求めます)		その他・特記事項	【重要】「授業計画」はゼミ生の興味関心や、到達レベルに応じて変更する場合があります。ご了承ください。また、学外に出かけての調査も予定しています。積極的に参加ください。	

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
教科書・テキスト			受講生に望むこと		
参考書・参考資料等			その他・特記事項		

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
教科書・テキスト			受講生に望むこと		
参考書・参考資料等			その他・特記事項		

授業科目	卒業研究(衣川)						
担当教員	衣川 修平			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
卒業論文を作成するための演習です。論文というと皆さん、かなりなじみがないと思います。それは作文とはかなり異なるものです。それはプログラミングに似ているという人もいます。プログラミングは一つバグがあれば、全て台無しになります。論文もかなり厳密なルールなものと、一つのことを論証していきます。本演習ではその方法を学びながら、一つのテーマを掘り下げていきます。				テーマは会計学を主として、事情に応じて様々な分野を認めていきたいと思えます。一定のアカデミックな方法論やアプローチに基づき、先行研究を参照しながら、一つのテーマについて考究することを目標とします。			
キーワード	アカウントティング・マインド, 会計学, 財務分析						
教授方法	演習						
履修条件等	第4学年以降						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	テーマの相談・決定						
第2回	章立て						
第3回	文献読み込み&発表						
第4回	文献読み込み&発表						
第5回	文献読み込み&発表						
第6回	文献読み込み&発表						
第7回	リサーチメソッドの紹介&輪読1						
第8回	リサーチメソッドの紹介&輪読2						
第9回	リサーチメソッドの紹介&輪読3						
第10回	リサーチメソッドの紹介&輪読4						
第11回	リサーチメソッドの紹介&輪読5						
第12回	中間発表1						
第13回	中間発表2						
第14回	中間発表3						
第15回	中間発表4						
第16回	中間発表5						
第17回	文献輪読&発表1						
第18回	文献輪読&発表2						
第19回	文献輪読&発表3						
第20回	文献輪読&発表4						
第21回	文献輪読&発表5						
第22回	プレ発表1						
第23回	プレ発表2						
第24回	プレ発表3						
第25回	プレ発表4						
第26回	プレ発表5						
第27回	体裁, フォーマットの確認						
第28回	最終発表会						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
平常点	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者を尊重し、その意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか	報告	50	1. 積極的にゼミに参加したか 2. 他者を尊重し、意見を理解したか 3. 自己の意見を説得的に述べる事ができたか
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
課題をこなすことと、簿記に関する演習を普段から勉強することが望ましいです。またゼミ時にも、簿記の演習支援を行います。			ゼミの前後、メールでの質問を受け付けます。オフィスアワーは演習時に指定します。		
教科書・テキスト	随時指定します		受講生に望むこと	ゼミナールは、学生さんが中心になって作っていくものです。積極的に発現するなどして演習に参加し、フリーライダー、ボールウォッチャーにならないようにしましょう。よくコミュニケーションが全く取れない人や、ゼミに参加しようとしなない人は、他者に対して敬意が見られない人は、ゼミ自体を崩壊させますので、注意してください。しかし難しいことを要求しているわけではありません。おとなしい人はおとなしく、元気な人は元気に、まじめな人はまじめに、自分の資質を生かして頑張ってもらえればそれでOKです！またなるべく学びの場が楽しくなるように、様々なイベント企画を考えていきましょう。また演習という性格上、報告時の無断欠席は厳禁です。また5回以上の欠席については、やむを得ない場合を除き、認められません。	
参考書・参考資料等	石井一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社				
			その他・特記事項	Email: kinugawa.shuhei u-nagano.ac.jp	

授業科目	卒業研究（金）						
担当教員	金 賢仙			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>このゼミでは、ビジネスに関する法領域での法的な論点、個別事例等の中から自身でテーマを選び、なぜそのテーマを検討する必要があるのか、具体的な問題点は何か（問題意識）を整理した上で、現状はどうなっているか、それはなぜか、法制度等に改善が必要な点はあるか、あるとすれば何か、どのように改善すればよいか、といった流れで考察を行い、卒業研究を行う。</p>				<p>金融・資本市場及び会社法の専門的なテーマについて、理解し、説明できるようにする。 株式会社、金融・資本市場に関する法的な論点を理解し、分析（問題点の指摘、原因の解明、再発防止策の考案等）を行うことができるようになる。</p>			
キーワード	会社法、金融商品取引法、ビジネス法						
教授方法	原則として、演習方式とする。 大学が遠隔での実施の方針を採る学期については、それによる。別途、案内をするので、確認すること。						
履修条件等	法学系の科目を履修済み又は同時履修予定であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	卒業研究の実施と指導						
3	卒業研究の実施と指導						
4	卒業研究の実施と指導						
5	卒業研究の実施と指導						
6	卒業研究の実施と指導						
7	卒業研究の実施と指導						
8	卒業研究の実施と指導						
9	卒業研究の実施と指導						
10	卒業研究の実施と指導						
11	卒業研究の実施と指導						
12	卒業研究の実施と指導						
13	卒業研究の実施と指導						
14	ふりかえり						
15	卒業研究の実施と指導						
16	卒業研究の実施と指導						
17	卒業研究の実施と指導						
18	卒業研究の実施と指導						
19	卒業研究の実施と指導						
20	卒業研究の実施と指導						
21	卒業研究の実施と指導						
22	卒業研究の実施と指導						
23	卒業研究の実施と指導						
24	卒業研究の実施と指導						
25	卒業研究の実施と指導						
26	卒業研究の実施と指導						
27	卒業研究の実施と指導						
28	ふりかえりとまとめ						

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表の内容と出来ばえ	70	プレゼン等の内容（正確性、創造性等）、プレゼン等の出来ばえ（当日のパフォーマンス等）を基準に評価します。	コミュニケーション能力	30	ゼミの運営、共同作業、質疑応答及びその対応等に関するコミュニケーション能力について評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
卒業研究の実施。			原則として、オフィス・アワーに同等する。オフィス・アワーの委細については、ガイダンスその他において案内する。		
教科書・テキスト	別途、指示する。		受講生に望むこと	真剣に取り組みましょう。	
参考書・参考資料等	別途、指示する。		その他・特記事項	<p><卒業研究のスケジュールイメージ> 第1、第2学期（+夏季休暇） 各自が研究を実施し、プレゼンと指導。論文執筆を進める。 第3学期（+冬期休暇） 最終稿に向けた準備を段階的に行う。 第4学期 最終稿を仕上げる。 委細については、ガイダンス等にて説明します。</p>	

授業科目	卒業研究（首藤）						
担当教員	首藤 聡一郎			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
卒業論文作成				1) 卒業論文作成に有用な知識を身につける 2) 卒業論文を作成する			
キーワード	経営戦略論、卒業論文作成、アカデミック・ライティング						
教授方法	卒業論文に関して発表してもらい、適宜議論していく。						
履修条件等	事前に履修を希望し、認められた学生						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	卒業論文中間発表（1）						
3	卒業論文中間発表（2）						
4	卒業論文中間発表（3）						
5	卒業論文中間発表（4）						
6	先行研究の整理について（1）						
7	先行研究の整理について（2）						
8	データ分析について（1）						
9	データ分析について（2）						
10	データ分析について（3）						
11	卒業論文中間発表（5）						
12	卒業論文中間発表（6）						
13	卒業論文中間発表（7）						
14	卒業論文中間発表（8）						
15	卒業論文中間発表（9）						
16	卒業論文中間発表（10）						
17	卒業論文中間発表（11）						
18	卒業論文中間発表（12）						
19	アカデミック・ライティング（1）						
20	アカデミック・ライティング（2）						
21	アカデミック・ライティング（3）						
22	卒業論文中間発表（13）						
23	卒業論文中間発表（14）						
24	卒業論文中間発表（15）						
25	卒業論文中間発表（16）						
26	卒業論文最終発表						
27	卒業論文についてのフィードバック						
28	まとめ						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	内容			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
卒業論文作成のため、授業外でも学習が求められることもあります			アポイントメントをとってくれば日程を調整して対応いたします		
教科書・テキスト	ありません		受講生に望むこと	卒業論文作成という目標をしっかりと見据えて一緒に頑張りましょう	
参考書・参考資料等	適宜紹介します		その他・特記事項	要望などありましたら遠慮なくお伝えいただければ幸いです。よろしく願います	

授業科目	卒業研究(田村)						
担当教員	田村 秀			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルシフト	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
卒業論文作成のための準備、中間報告、最終報告を通じて、公共経営コースの締めくくりとします。				<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方自治の基本的な仕組みが理解できる。 ・ 公共政策とはどのようなものかについて理解できる。 ・ 地域にどのような課題があるか、自ら発見することができる。 ・ 地域の課題の具体的内容について、データや様々な情報を用いて説明することができる。 ・ 地域の課題の解決策について、一定程度の提案ができる。 ・ グローバル社会の中で、地域の将来像について、海外研修の成果を踏まえ、自分の言葉で語るすることができる。 ・ フィールドワークに関する基本的な事項を習得できる。 			
キーワード	地方自治、地域活性化、地方創生、グループディスカッション、卒業論文						
教授方法	卒業論文の作成を行う。						
履修条件等	政策科学の単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	卒論の書き方その1						
2	卒論の書き方その2						
3	卒論の書き方その3						
4	卒論の書き方その4						
5	卒論の書き方その5						
6	卒論の書き方その6						
7	卒論の書き方その7						
8	卒論の書き方その8						
9	卒論の書き方その9						
10	卒論の書き方その10						
11	中間報告その1						
12	中間報告その2						
13	中間報告その3						
14	中間報告その4						
15	中間報告その5						
16	中間報告その6						
17	中間報告の振り返り						
18	論文指導その1						
19	論文指導その2						
20	論文指導その3						
21	論文指導その4						
22	論文指導その5						
23	論文指導その6						
24	最終報告その1						
25	最終報告その2						
26	最終報告その3						
27	最終報告その4						
28	ゼミのまとめ						

共通の成績評価基準

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
中間報告	50	卒論として一定程度の水準に達しているか。	最終報告	50	卒論として十分な水準に達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
卒業論文を書くために参考となる文献をしっかりと読んでおくこと。			随時受け付けます。		
教科書・テキスト	ゼミの最初に示します。		受講生に望むこと	地域のことを常に意識してください。	
参考書・参考資料等	ゼミの最初に示します。		その他・特記事項	授業計画は仮置きであり、柔軟に実施します。	

授業科目	卒業研究(中条)						
担当教員	中条 潮			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
卒業研究とゼミナール が別々である意味はないので、両者を一体的に運用する。内容はゼミナール に記述済み。				ゼミナール に同じ。			
キーワード	ゼミナール に同じ。						
教授方法	ゼミナール に同じ。						
履修条件等	ゼミナール に同じ。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	卒論発表						
2	卒論発表						
3	卒論発表						
4	卒論発表						
5	卒論発表						
6	卒論発表						
7	卒論発表						
8	卒論発表						
9	卒論発表						
10	卒論発表						
11	卒論発表						
12	卒論発表						
13	卒論発表						
14	卒論発表						
15	卒論発表						
16	卒論発表						
17	卒論発表						
18	卒論発表						
19	卒論発表						
20							
21	卒論発表						
22	卒論発表						
23	卒論発表						
24	卒論発表						
25	卒論発表						
26	卒論発表						
27	卒論発表						
28	卒論発表						
共通の成績評価基準							

(全学共通)【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	経済学にのっとった社会全体の利益の最大化を目標とした論文であること、計量分析あるいはフィールドワークを含むこと、制度改革のための経営論を			
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
自己責任			いつでも		
教科書・テキスト	自分で探すこと		受講生に望むこと		ゼミナールに同じ。
参考書・参考資料等	自分で探すこと。		その他・特記事項		特になし。

授業科目	卒業研究（永田）						
担当教員	永田 邦和			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
ゼミナール～や講義で身に付けたファイナンスや金融論、経済学の知識を使い、各自の興味のあるテーマについて報告し、研究成果を卒業研究にまとめる。				ファイナンスや金融論、経済学の知識を使いこなし、現実の経済・社会問題を分析できるようにする。また、口頭発表や論文の執筆を通じて、論理的思考力や表現力を身に付ける。			
キーワード	ファイナンス，金融論，経済学						
教授方法	演習形式（対面で行う予定）。						
履修条件等	ファイナンス入門と金融論，コーポレートファイナンス・金融システム論，ミクロ経済学，マクロ経済学，経営統計学入門，数理統計学を履修していると，専門的でアカデミックな研究をすることができる。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス						
2	受講生の報告と討論						
3	受講生の報告と討論						
4	受講生の報告と討論						
5	受講生の報告と討論						
6	受講生の報告と討論						
7	受講生の報告と討論						
8	受講生の報告と討論						
9	受講生の報告と討論						
10	受講生の報告と討論						
11	受講生の報告と討論						
12	受講生の報告と討論						
13	受講生の報告と討論						
14	受講生の報告と討論						
15	受講生の報告と討論						
16	受講生の報告と討論						
17	受講生の報告と討論						
18	受講生の報告と討論						
19	受講生の報告と討論						
20	受講生の報告と討論						
21	受講生の報告と討論						
22	受講生の報告と討論						
23	受講生の報告と討論						
24	受講生の報告と討論						
25	受講生の報告と討論						
26	受講生の報告と討論						
27	受講生の報告と討論						
28	受講生の報告と討論						

共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験	0		小テスト	0	
授業レポート	0		上記以外の授業評価	100	卒業研究の成果と日々の取組（報告や質疑応答，議論への参加等）。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
各自の研究の執筆作業（資料収集と整理，研究発表の準備，論文の執筆等）に時間をかけること。			授業中に質問すること。授業時間外に質問があれば，研究室に来ること。所用がない限り，いつでも対応する。日時を指定したい場合，メール等で事前に連絡すること。		
教科書・テキスト	適宜指示する。		受講生に望むこと	大学4年間の集大成になるように取り組むこと。	
参考書・参考資料等	適宜指示する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	卒業研究(中村陽)						
担当教員	中村 陽人			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>先行研究のレビューに基づいて設定された仮説について、定量的なアプローチで検証し論文にまとめる。授業の中で最低でも2週間に1度は進捗状況を発表し、内容を精錬させていく。 本ゼミでは卒業研究をゼミ活動の集大成に位置付けている。したがって少なくとも大学の専門教育を受けてきたことが明確にわかるような水準の成果が求められる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題についてトップジャーナルを中心に先行研究のレビューができていいる。 ・先行研究を踏まえ適切な仮説設定ができていいる。 ・厳密な仮説検証に耐えうるようなデータを準備できている(一次データでも二次データでも可)。 ・適切で正確なデータ分析が行われている。 ・データ分析の結果が正しく解釈され、そこから研究課題に関する深い考察がなされている。 			
キーワード	マーケティング、消費者行動、マーケティングリサーチ						
教授方法	演習						
履修条件等	マーケティングと統計学の関連科目を履修していること、あるいは同時に履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
2	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
3	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
4	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
5	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
6	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
7	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
8	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
9	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
10	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
11	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
12	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
13	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
14	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
15	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
16	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
17	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
18	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
19	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
20	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
21	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
22	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
23	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
24	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
25	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
26	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
27	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
28	担当者が進捗状況を発表する。少なくとも2回に1回は担当がまわってくる。						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	新規性、有用性、信頼性、一貫性、完成度の5項目で評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
膨大な量の事前準備が前提となって授業は進められる。授業内というよりも、むしろ授業外の取り組みがメインとなる。			出張がなければ研究室にいるので、授業、会議などのない時間帯はいつでも対応する。		
教科書・テキスト	授業の中で適宜指示する。		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ゼミの理念を理解し、共感していること。 ゼミ活動に全力でコミットすること。 	
参考書・参考資料等	授業の中で適宜指示する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文を書かなければ単位は与えられない。最低限求められている水準に届かない場合も単位は与えられない。 	

授業科目	卒業研究（中村稔）						
担当教員	中村 稔彦			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
卒業研究では、各個人でテーマを決定し、卒業論文の作成を行い、冬のゼミ合宿で発表を行う。卒業研究は、公務員志望者は、これまでの学習の中で興味を持った財政や自治体の政策に関するものを、民間企業志望者は、志望する業界や企業に関するものをテーマとする。どちらにしても、テーマの範囲はとても幅広い。また分析手法についても、理論分析や実証分析の他、制度の歴史分析等もある。そのため、卒業研究のテーマや分析手法の決定には、多くの試行錯誤が予想される。できるだけ多くの文献にあたり、問題提起を明確にするように努める必要がある。テーマと分析手法、内容の構成が適当であるかどうかは適宜アドバイスする。分析や執筆の段階では、2週間に1回程度のペースで進捗状況を報告してもらう。				卒業研究の到達目標は、1つのテーマを決めて、関連文献の学習や資料収集を行い、論点を整理して、ある程度の分量（30,000字以上）の文章に体系的にまとめることである。			
キーワード	少子高齢化・地方創生・地域再生・地域活性化・社会保障制度						
教授方法	講義形式は最少にして、発表や議論、集団討論をする場面をできるだけ多く設けるようにする。						
履修条件等	1年に5回欠席した者（公欠を除く）は単位を付与しない（就職活動については要相談）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	卒業研究のテーマや分析手法の決定（1）						
第2回	卒業研究のテーマや分析手法の決定（2）						
第3回	卒業研究のテーマや分析手法の決定（3）						
第4回	卒業論文の進捗状況の報告（1）						
第5回	卒業論文の進捗状況の報告（2）						
第6回	卒業論文の進捗状況の報告（3）						
第7回	卒業論文の進捗状況の報告（4）						
第8回	卒業論文の進捗状況の報告（5）						
第9回	卒業論文の進捗状況の報告（6）						
第10回	卒業論文の進捗状況の報告（7）						
第11回	卒業論文の進捗状況の報告（8）						
第12回	卒業論文の進捗状況の報告（9）						
第13回	卒業論文の進捗状況の報告（10）						
第14回	卒業論文の進捗状況の報告（11）						
第15回	卒業論文の進捗状況の報告（12）						
第16回	卒業論文の進捗状況の報告（13）						
第17回	卒業論文の進捗状況の報告（14）						
第18回	卒業論文の進捗状況の報告（15）						
第19回	卒業論文の進捗状況の報告（16）						
第20回	卒業論文の進捗状況の報告（17）						
第21回	冬のゼミ合宿（論文発表会）について						
第22回	冬のゼミ合宿（論文発表会）（1）						
第23回	冬のゼミ合宿（論文発表会）（2）						
第24回	冬のゼミ合宿（論文発表会）（3）						
第25回	卒業論文の進捗状況の報告（18）						
第26回	卒業論文の進捗状況の報告（19）						
第27回	卒業論文の進捗状況の報告（20）						
第28回	卒業論文の進捗状況の報告（21）						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	問題意識、形式面、表現面、分析面、執筆の論理等の点から総合的に評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
調べた内容について、賛否両論がある場合は、それらを比較して自分なりの結論を導き出すようにすること。紹介した論文や参考書、新聞、ホームページ等は事後に必ず調べること。これにより、地域及び業界の課題やその対応策についても、理解が深まるであろう。			随時対応。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	ある程度の分量（30,000字以上）の文章に体系的にまとめるのは、学生時代の貴重な経験となるだけでなく、大きな自信や就職する際の公官庁や企業への大きなアピールに繋がるので、必ず提出してもらいたい。	
参考書・参考資料等	総務省『各年度 地方財政統計年報』。 総務省『各年度 都道府県決算状況調』。 総務省『各年度 市町村決算状況調』。 総務省『各年度 都道府県財政指数表』。 総務省『各年度 類似団体別市町村財政指数表』。 その他、地域政策に関する学術論文など。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	卒業研究（真野）						
担当教員	真野 毅			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
卒業論文の作成を行う。				読者が理解できる論理的な文章を、論文の様式に従い、卒業論文を完成させることが到達目標である。卒論執筆のプロセスをつつして、自ら問いを設定し、その問いに対する主張を行い、論証をすることができることを目指している。			
キーワード	アカデミックライティング、論証、協働						
教授方法	卒業論文について発表してもらい、議論を通じて、論文を完成させていく。						
履修条件等	事前に履修を希望し、認められた学生						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	論文のアウトラインと先行研究についての報告、議論						
2	論文のアウトラインと先行研究についての報告、議論						
3	論文のアウトラインと先行研究についての報告、議論						
4	論文のアウトラインと先行研究についての報告、議論						
5	論文のアウトラインと先行研究についての報告、議論						
6	論文のアウトラインと先行研究についての報告、議論						
7	論文のアウトラインと先行研究についての報告、議論						
8	論証についての検討（具体的な分析、考察に関する報告、議論）						
9	論証についての検討（具体的な分析、考察に関する報告、議論）						
10	論証についての検討（具体的な分析、考察に関する報告、議論）						
11	論証についての検討（具体的な分析、考察に関する報告、議論）						
12	論証についての検討（具体的な分析、考察に関する報告、議論）						
13	論証についての検討（具体的な分析、考察に関する報告、議論）						
14	論証についての検討（具体的な分析、考察に関する報告、議論）						
15	論文中間発表						
16	論文中間発表						
17	論文中間発表						
18	論文中間発表						
19	論文中間発表						
20	論文中間発表						
21	論文中間発表						
22	論文中間発表						
23	論文中間発表						
24	卒業論文発表						
25	卒業論文発表						
26	卒業論文発表						
27	卒業論文に対するフィードバック						
28	まとめ						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	論文の内容、形式			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
卒論に必要な先行文献の学習ならびにフィールドワークによるデータ収集			メールで連絡があれば、速やかに対応する。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	とにかく書き進めること。	
参考書・参考資料等	戸田山和久（2019）『新版 論文の教室』NHK出版		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	卒業研究（三浦）						
担当教員	三浦 正士			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目では、多様化・複雑化を見せる地方自治の諸課題について、ゼミ生の問題関心にに基づき、卒業論文の執筆に向けた学習を行う。				地域社会の課題について自分の意見を持つことができる。論文執筆に必要な読解力と思考力、文章力を身につける。			
キーワード	団体自治、住民自治、地方分権、参加・協働、プレゼンテーション						
教授方法	演習形式で行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：論文の執筆に必要な知識について確認を行う。						
2	卒業論文のテーマ設定（1）：ゼミ生の関心に基づき、卒業論文のテーマ、目次、アプローチ方法などを議論する。						
3	卒業論文のテーマ設定（2）：ゼミ生の関心に基づき、卒業論文のテーマ、目次、アプローチ方法などを議論する。						
4	先行研究の分析（1）：卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。						
5	先行研究の分析（2）：卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。						
6	先行研究の分析（3）：卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。						
7	先行研究の分析（4）：卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。						
8	先行研究の分析（5）：卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。						
9	先行研究の分析（6）：卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。						
10	先行研究の分析（7）：卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。						
11	先行研究の分析（8）：卒業論文のテーマに係る先行研究の要約を報告し、それに関する議論を行う。						
12	事例研究（1）：卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、企業、住民の取組み状況を調査し、それに関する議論を行う。						
13	事例研究（2）：卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、企業、住民の取組み状況を調査し、それに関する議論を行う。						
14	事例研究（3）：卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、企業、住民の取組み状況を調査し、それに関する議論を行う。						
15	事例研究（4）：卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、企業、住民の取組み状況を調査し、それに関する議論を行う。						
16	事例研究（5）：卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、企業、住民の取組み状況を調査し、それに関する議論を行う。						
17	事例研究（6）：卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、企業、住民の取組み状況を調査し、それに関する議論を行う。						
18	事例研究（7）：卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、企業、住民の取組み状況を調査し、それに関する議論を行う。						
19	事例研究（8）：卒業論文のテーマに係る先進事例や自治体行政、企業、住民の取組み状況を調査し、それに関する議論を行う。						
20	論文の取りまとめ（1）：これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。						
21	論文の取りまとめ（2）：これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。						
22	論文の取りまとめ（3）：これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。						
23	論文の取りまとめ（4）：これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。						
24	論文の取りまとめ（5）：これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。						
25	論文の取りまとめ（6）：これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。						
26	論文の取りまとめ（7）：これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。						
27	論文の取りまとめ（8）：これまで進めてきた調査研究を論文として取りまとめる。各ゼミ生から進捗状況の報告を受け、論文の内容に関する議論を行う。						
28	成果発表						

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準

評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	完成した卒業論文から、地域社会の課題について自分の意見を持つことができたか、読解力と思考力、文章力を身につけたかを評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習 ・適宜レジュメやパワーポイント等の資料を作成して卒業論文の経過報告に備える。 事後学習 ・卒業論文のテーマについて、自発的に学習・研究を進め、理解を深める。			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・上記のほか、相談等は適宜メール等で受け付ける。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと		ゼミナールの活動や授業内の議論に積極的に参加するとともに、不明な点があれば、教員に質問すること。
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。		その他・特記事項		特になし。

授業科目	卒業研究（宮崎）						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルシフト	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>学生の関心事について、先行研究の精読、社会の現状把握、課題を発見し、研究疑問を立てる。各自が設定するテーマの研究目的に沿って、研究方法の選定を行い、データ収集、データ分析を行い、結果、考察、新たな提案を考えると一連の研究プロセスを経験する。その過程で、様々な研究方法を学び、学生同士の議論を深め、事象への理解を深めていくとともに、課題発見力、分析力、考察力を身につける。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身の関心事の現状を把握できる ・関心事の現状を研究疑問に沿って分析できる ・追究できた事実と課題に対し新たな提案ができる ・論文としてまとめることができる 			
キーワード	ヘルスシステム 研究						
教授方法	ゼミナール形式 個別面談 合同ゼミ等 複数の方法を用いる						
履修条件等	ゼミナール ・ を履修していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	研究計画の見直し						
2	研究計画の見直し						
3	研究計画の確認						
4	データ収集						
5	データ収集						
6	データ収集						
7	データ収集						
8	データ分析						
9	データ分析						
10	データ分析						
11	データ分析						
12	データ分析						
13	データ分析						
14	データ分析						
15	中間発表						
16	中間発表						
17	論文作成						
18	論文作成						
19	論文作成						
20	論文作成						
21	発表準備						
22	研究討論						
23	研究討論						
24	発表準備						
25	卒業研究発表会						
26	卒業研究発表会						
27	卒業研究まとめ						
28	卒業研究まとめ						
共通の成績評価基準							

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業研究	100%	卒業研究評価表を用いて、研究のプロセス、論文作成から発表までを、自己評価50% 教員評価50%で評価する			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
文献検討、論文作成、発表資料準備等			個別相談や面談により対応		
教科書・テキスト	特になし		受講生に望むこと	学生が関心を持っている事項を深めてほしい	
参考書・参考資料等	ゼミナール で使用した教科書を参照 その他の参考書・資料は学生の関心事に合わせて提示する		その他・特記事項	特になし	

授業科目	卒業研究(宮下)						
担当教員	宮下 清			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>卒業研究では、各自が経営学や関連する領域から取り組みたいテーマを設定し、学習・研究を進めていき、定期的に発表、討議と質疑によるプロセス、また教員による指導により、卒業論文の執筆につなげていく。これまで学んできた経営学(マネジメント)を中心に、関心のある領域についての文献研究や事例研究を行うことになる。「国際経営」「経営戦略」「組織行動」「人材マネジメント」「教育訓練」等の領域から卒業研究(卒業論文)のテーマを選んでいただきたい。</p> <p>まずはテーマの検討と決定、文献調査と発表、事例の探求や現場の訪問、調査による情報収集を経て、自らの問い(命題: RQリサーチクエスト)に答えること、エビデンス(証拠)をもってその正しさを証明することが、卒業論文で論じることとなる。</p>				<p>・経営学の理論を学び、それらの実践への適用・活用を試み、また理論に戻り考えるというプロセスを実行すること</p> <p>・学習の場となるゼミで、お互いを尊重し高め合える人間関係を構築し、相互に学習できる環境を作ること、さらにゼミ、ゼミ生とも連携・協力して、コミュニケーションやリーダーシップの力を高め、良好な社会性、協力関係を構築すること、</p> <p>・事例研究・学術的分析を実施し、卒業研究を行い、卒業論文を執筆すること、以上を目標とする。</p>			
キーワード	研究テーマ、理論と実践、研究方法論、データ収集と分析、文章の執筆						
教授方法	<ul style="list-style-type: none"> ・全体授業: 教員による資料提示と説明、各グループでの討議と発表。 ・プロジェクト授業: ゼミ生が卒業研究の進捗などの中間発表を行い、質疑から課題を探り、理解を深める。 						
履修条件等	経営学入門をはじめとするマネジメント科目を履修していること。さらに関連科目となる担当教員の専門科目(組織行動論、リーダーシップ論、人材マネジメント論)を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	卒業研究の概要、1. 研究と論文について(1)						
2	2-3. テーマの決定(1)(2) 4月下旬: テーマの決定						
3	2-3. テーマの決定(1)(2) 4月下旬: テーマの決定						
4	4-5. 関連情報の収集(1)(2)						
5	4-5. 関連情報の収集(1)(2)						
6	6-7. 関連情報の収集(3)(4) 5月下旬: 参考文献の発表						
7	6-7. 関連情報の収集(3)(4) 5月下旬: 参考文献の発表						
8	ガイダンス: -1. 研究枠組みと文献収集						
9	2-3. 研究枠組み検討、文献情報 6月下旬: 研究枠組みの決定						
10	2-3. 研究枠組み検討、文献情報 6月下旬: 研究枠組みの決定						
11	4-5. 文献・現場の情報(1)(2)						
12	4-5. 文献・現場の情報(1)(2)						
13	6-7. 現地調査の準備 7月下旬: 調査など夏季予定						
14	6-7. 現地調査の準備 7月下旬: 調査など夏季予定						
15	ガイダンス: -1. 論文の執筆について						
16	2-3. 調査結果の整理(1)(2) 10月中旬: 中間発表						
17	2-3. 調査結果の整理(1)(2) 10月中旬: 中間発表						
18	4-5. 論文枠組みの構築(1)(2)						
19	4-5. 論文枠組みの構築(1)(2)						
20	6-7. 論文の執筆(3)(4)						
21	6-7. 論文の執筆(3)(4)						
22	ガイダンス: -1. 論文の完成と推敲						
23	2-3. 論文の執筆(1)(2) 11月中旬: 第一稿と論文要旨の提出						
24	2-3. 論文の執筆(1)(2) 11月中旬: 第一稿と論文要旨の提出						
25	4-5. 論文の推敲(1)(2) 12月中旬: 第二稿(修正版)の提出						
26	4-5. 論文の推敲(1)(2) 12月中旬: 第二稿(修正版)の提出						
27	6-7. 論文の完成(3)(4) 1月中旬: 最終稿の提出と論文要旨の提出						

授 業 計 画					
実施回	授業内容				
28	6-7. 論文の完成(3)(4) 1月中旬：最終稿の提出と論文要旨の提出				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業論文	60	事前に提示される卒業論文の要件を満たすこと	中間など経過発表	20	中間発表など途中の進捗発表を行っていること
事前原稿	10	原稿（一稿、二稿、要旨など）が期日に提出される	その他	10	ゼミの参加、発表、討議、質疑
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
卒業研究のためには、テーマに関連した文献を収集することが必須である。それらを読む、理解する、考える、まとめるといったプロセスも重要となる。またテーマに沿った事例の探索や現場の訪問など計画的かつ積極的な活動が求められる。授業外でも、随時、卒業研究や論文の相談を受け付ける。またグループでの相互学習も有効である。			授業前後およびメールでのアポにより、必要な対応（オンライン面談を含む）を行う。		
教科書・テキスト	藤本隆宏、新宅純二郎他著（2005）『リサーチ・マインド 経営学研究法』有斐閣。		受講生に望むこと	常に問題意識を持ち、経営学・マネジメントを理論的、実践的に学ぶ、またプロジェクトでは主体的にかつ協力して取り組む。これらを常に考え、世の中の事象に疑問を持つことで、取り組みたいテーマが見つかる。	
参考書・参考資料等	田村正紀『リサーチ・デザイン：経営知識創造の基本技術』（2006）白桃書房。 ダン レメニイ Dan Remenyi（原著）『社会科学系大学院生のための研究の進め方』（2002）同文館出版。 伊丹敬之『創造的論文の書き方』（2001）有斐閣。		その他・特記事項	本科目の履修には卒業論文の執筆・提出が求められる。スケジュールや内容は進み具合などから、必要に応じて改善のため変更することがある。担当教員は国際企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有する。	

授業科目	卒業研究（森本）						
担当教員	森本 博行			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>・受講生は各自の研究課題を設定して、課題について文献調査等の探索研究を行い、卒業研究について、先行研究や研究内容について検討を行い、最終的に15名の受講生は卒業研究の発表を行います。</p> <p>・担当教員は、外資系企業を顧客とする広告会社である（マッキンゼー・ソニー博報堂）においてマーケティング戦略を担当し、さらにソニーにおいて、経営戦略、広告宣伝戦略、新事業戦略を担当し、米国、英国の海外子会社での実務経験があります。ソニーを退職する時には、イノベーション戦略オフィスVP（Vice President）でした。</p>				<p>・課題発見能力、探索研究能力、情報収集能力を修得する。</p>			
キーワード	研究計画、研究課題、先行研究、リサーチ・クエスチョン						
教授方法	・ゼミナールでの議論と合わせて、受講生の設定した研究課題、研究方法、論文執筆の方法等についての助言、指導を行う。						
履修条件等	ゼミナールを受講していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	卒業研究論文の書き方「日系企業の新興国市場における事業革新—エプソン「インクタンク」の導入過程—」（赤門マネジメント・レビュー16巻6号）						
2	論文「海外現地生産の進展と国内製造業への影響」（赤門マネジメント・レビュー15巻5号） ・論文を読み解き、自ら研究課題について検討する。						
3	先行研究の検討 ・受講生の研究課題に対応して、先行研究について検討する。						
4	先行研究の検討 ・受講生の研究課題に対応して、先行研究について検討する。						
5	先行研究の検討 ・受講生の研究課題に対応して、先行研究について検討する。						
6	先行研究の検討 ・受講生の研究課題に対応して、先行研究について検討する。						
7	先行研究の検討 ・受講生の研究課題に対応して、先行研究について検討する。						
8	論文研究 ・受講生の研究課題に対応して、研究方法や論文内容について検討する。						
9	論文研究 ・受講生の研究課題に対応して、研究方法や論文内容について検討する。						
10	論文研究 ・受講生の研究課題に対応して、研究方法や論文内容について検討する。						
11	論文研究						
12	論文研究 ・受講生の研究課題に対応して、研究方法や論文内容について検討する。						
13	論文研究 ・受講生の研究課題に対応して、研究方法や論文内容について検討する。						
14	論文研究 ・受講生の研究課題に対応して、研究方法や論文内容について検討する。						
15	卒業研究 中間発表 ・受講生は卒業研究の中間発表を行い、研究内容について検討する。						
16	卒業研究 中間発表 ・受講生は卒業研究の中間発表を行い、研究内容について検討する。						
17	卒業研究 中間発表 ・受講生は卒業研究の中間発表を行い、研究内容について検討する。						
18	卒業研究 中間発表 ・受講生は卒業研究の中間発表を行い、研究内容について検討する。						
19	卒業研究 中間発表 ・受講生は卒業研究の中間発表を行い、研究内容について検討する。						
20	卒業研究 中間発表 ・受講生は卒業研究の中間発表を行い、研究内容について検討する。						
21	卒業研究 中間発表 ・受講生は卒業研究の中間発表を行い、研究内容について検討する。						
22	卒業研究の発表 ・受講生は、随時、完成した卒業研究を発表する。						
23	卒業研究の発表 ・受講生の研究課題に対応して、研究方法や論文内容について検討する。						
24	卒業研究の発表 ・受講生は、随時、完成した卒業研究を発表する。						
25	卒業研究の発表 ・受講生は、随時、完成した卒業研究を発表する。						
26	卒業研究の発表 ・受講生は、随時、完成した卒業研究を発表する。						
27	卒業研究の発表 ・受講生は、随時、完成した卒業研究を発表する。						
28	・受講生の卒業研究について総括する						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
課題設定	30	問題意識の深さ	研究過程	20	情報収集度
研究結果	50	研究内容と研究成果			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
・研究課題を設定して、先行研究を検討して、独自の理論を検証することを各自が行う、研究報告を行うこと。			・ゼミナール とメールで随時、質問、相談に対応します。		
教科書・テキスト	『リサーチ・マインド 経営学研究法』（藤本 隆宏，新宅 純二郎，粕谷 誠，高橋 伸夫ほか、有斐閣アルマ） 『一橋MBA戦略ケースブック』（東洋経済新報社）		受講生に望むこと	・自ら研究課題を設定し、研究計画を立てて研究活動を行うこと。	
参考書・参考資料等	赤門マネジメント・レビュー等に掲載論文		その他・特記事項	15名の受講生の発表スケジュールは、別途定める。	

授業科目	卒業研究(尹)						
担当教員	尹 大栄			必修・選択	選択	単位数	8単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
卒論作成に必要な知識(研究方法やデータ分析手法、文献レビューの方法など)を身に付ける。				卒業論文を完成する。			
キーワード	文献レビュー、フィールドワーク、ピアディスカッション、プレゼンテーション、論文						
教授方法	研究成果の発表とディスカッションを中心とする。						
履修条件等	ゼミナール(コンゼミ)を履修していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	卒論作成に取り組む。						
2	卒論作成に取り組む。						
3	卒論作成に取り組む。						
4	卒論作成に取り組む。						
5	卒論作成に取り組む。						
6	卒論作成に取り組む。						
7	卒論作成に取り組む。						
8	卒論作成に取り組む。						
9	卒論作成に取り組む。						
10	卒論作成に取り組む。						
11	卒論作成に取り組む。						
12	卒論作成に取り組む。						
13	卒論作成に取り組む。						
14	研究成果の中間発表を行う。						
15	卒論作成に取り組む。						
16	卒論作成に取り組む。						
17	卒論作成に取り組む。						
18	卒論作成に取り組む。						
19	卒論作成に取り組む。						
20	卒論作成に取り組む。						
21	卒論作成に取り組む。						
22	卒論作成に取り組む。						
23	卒論作成に取り組む。						
24	卒論作成に取り組む。						
25	卒論作成に取り組む。						
26	卒論作成に取り組む。						
27	卒論作成に取り組む。						
28	卒論成果の発表(論文提出)						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
発表	30	ゼミでの発表内容に応じて評価する。	卒論	70	論文のレベルで評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：関連文献のレビューをしっかりと行うこと ・事後学習：ゼミでのディスカッションで得られた新たな視点や、他者からのコメントを文章化しておくこと 			メールなどで常時対応する。		
教科書・テキスト	別途指定する。		受講生に望むこと	主体的に取り組むこと	
参考書・参考資料等	別途指定する。		その他・特記事項	将来、自分の子供に読ませたいような卒業論文を作成してほしい。	

授業科目		Foundations of English (G1)					
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第1段階(No. 1-700)の語彙を正しく運用することができる。</p>			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	毎回各教材の指定範囲の予習を前提に、授業時にはグループワークや教員の解説による重要ポイントの確認、演習、質疑応答などを行います。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	文法：Unit 1 文の基本パーツ、Core Reading 第1段落						
3	文法：Unit 1 文の基本パーツ、音声：母音(1-5)						
4	文法：Unit 2 名詞、音声：母音(6-10)						
5	文法：Unit 2 名詞、音声：母音(11-14)						
6	文法：Unit 1-2 小テスト、音声：母音(15-19)、Core Reading 第2段落						
7	文法：Unit 3 動詞、音声：母音(20-23)						
8	文法：Unit 4 現在・過去・未来、音声：子音(24-26)						
9	文法：Unit 5 進行形・完了形、音声：子音(27-30)						
10	文法：Unit 3-5 小テスト、音声：子音(31-34)、Core Reading 第3-5段落						
11	文法：Unit 6 形容詞、音声：子音(35-39)						
12	文法：Unit 7 副詞、音声：子音(40-44)						
13	文法：Unit 6-7 小テスト、音声：子音(45-48)、Core Reading 第6-7段落						
14	まとめ・確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	35	予習・課題提出状況、授業時のグループワーク等への取り組みにより評価。		文法小テスト	15	第6, 10, 13回の文法小テストの成績により評価。	
確認テスト	40	第14回の確認テストの成績により評価。		NGSL共通課題	10	NGSL共通課題への取り組みにより評価。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回指定された範囲の予習。 ・小テスト、確認テストに向けた復習。 ・NGSL（語彙）学習。 				授業時に直接、またはメールで連絡してください。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Vitamin G』CENGAGE Learning ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方（基礎編）』研究社 			受講生に望むこと	予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨んでください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	オンライン授業		

授業科目	Foundations of English (G6)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第1段階 (No. 1-700) の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	毎回各教材の指定範囲の予習を前提に、授業時にはグループワークや教員の解説による重要ポイントの確認、演習、質疑応答などを行います。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	文法：Unit 1 文の基本パーツ、Core Reading 第1段落						
3	文法：Unit 1 文の基本パーツ、音声：母音(1-5)						
4	文法：Unit 2 名詞、音声：母音(6-10)						
5	文法：Unit 2 名詞、音声：母音(11-14)						
6	文法：Unit 1-2 小テスト、音声：母音(15-19)、Core Reading 第2段落						
7	文法：Unit 3 動詞、音声：母音(20-23)						
8	文法：Unit 4 現在・過去・未来、音声：子音(24-26)						
9	文法：Unit 5 進行形・完了形、音声：子音(27-30)						
10	文法：Unit 3-5 小テスト、音声：子音(31-34)、Core Reading 第3-5段落						
11	文法：Unit 6 形容詞、音声：子音(35-39)						
12	文法：Unit 7 副詞、音声：子音(40-44)						
13	文法：Unit 6-7 小テスト、音声：子音(45-48)、Core Reading 第6-7段落						
14	まとめ・確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	35	予習・課題提出状況、授業時のグループワーク等への取り組みにより評価。		文法小テスト	15	第6, 10, 13回の文法小テストの成績により評価。	
確認テスト	40	第14回の確認テストの成績により評価。		NGSL共通課題	10	NGSL共通課題への取り組みにより評価。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回指定された範囲の予習。 ・小テスト、確認テストに向けた復習。 ・NGSL（語彙）学習。 				授業時に直接、またはメールで連絡してください。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Vitamin G』CENGAGE Learning ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方（基礎編）』研究社 			受講生に望むこと	予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨んでください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	オンライン授業		

授業科目	Foundations of English (G3)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第1段階 (No. 1-700) の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	読解中心の Coping with Culture Shock と文法・作文中心の Keystone:Grammar-based English Writing の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。NGSLの語彙テストを適宜行う。また英語音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Coping with Culture Shock , Chapter 1: Accepting Favors Openly						
2	Coping with Culture Schock, Chapter 2: Being Friendly Keystone:Grammar-based English Writing, Chapter 1: Be 動詞						
3	Chapter 3: Aren't We Friends? Chapter 2: Have 動詞						
4	Chapter 4: Ping-pong Conversation Chapter 3: 一般動詞						
5	Chapter 5: Dynamic Compliments Chapter 4: 名詞と冠詞						
6	Chapter 6: Reacting Compliments Chapter 5: 代名詞						
7	Self-Introduction, Discussion						
8	Chapter 7: Being Productive Core Reading						
9	Chapter 8: Being Frank Chapter 7: 時制 (1)						
10	Chapter 9: Invasion of Privacy Chapter 8: 時制 (2)						
11	Chapter 10: Purposeless Gifts Chapter 9: 時制 (3)						
12	Chapter 11: Expressing Ourselves Clearly Chapter 10: 時制 (4)						
13	Chapter 12: Varying Sense of Money Chapter 11: 疑問詞						
14	Chapter 13: Not Overusing "I'm Sorry" Chapter 12:						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加	45%	授業への積極的な参加・意欲・態度を評価に加える			期末試験	45%	授業内容全般に対する理解度
NGSL	10%	NGSL第1段階の語彙テストの成績					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習・復習をして授業に臨む。NGSL については、原則として各自の自習とします。				何時でも質問・相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	小林純子・Jason B. Alter, Coping with Culture Schock (成美堂) Noboru Nagasawa, Gordon Bobson, Keystone:Grammar-based English Writing (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	岩村圭南『英語の正しい発音の仕方 (基礎編) (リズム・イントネーション編)』(研究社) English Program for Global Mobility: 2021 Student Handbook			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Foundations of English (G5)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第1段階 (No. 1-700) の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	読解中心の Coping with Culture Shock (成美堂) と文法・作文中心の Keystone: Grammar-based English Writing の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。NGSLの語彙テストを適宜行う。また英語音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Coping with Culture Shock , Chapter 1: Accepting Favors Openly						
2	Coping with Culture Schock, Chapter 2: Being Friendly Keystone: Grammar-based English Writing, Chapter 1: Be 動詞						
3	Chapter 3: Aren't We Friends? Chapter 2: Have 動詞						
4	Chapter 4: Ping-pong Conversation Chapter 3: 一般動詞						
5	Chapter 5: Dynamic Compliments Chapter 4: 名詞と冠詞						
6	Chapter 6: Reacting Compliments Chapter 5: 代名詞						
7	Self-Introduction, Discussion						
8	Chapter 6: Being Productive Core Reading						
9	Chapter 8: Being Frank Chapter 6: 時制 (1)						
10	Chapter 9: Invasion of Privacy Chapter 7: 時制 (2)						
11	Chapter 10: Purposeless Gifts Chapter 8: 時制 (3)						
12	Chapter 11: Expressing Ourselves Clearly Chapter 9: 時制 (4)						
13	Chapter 12: Varying Sense of Money Chapter 10: 疑問詞						
14	Chapter 13: Not Overusing "I'm Sorry" 総復習						
共通の成績評価基準							
<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正しく構成することができるか。 ・文の構造や文と文のつながりを読み取ることができるか。 ・英語の発音に関する基礎事項が身についているか。 							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加	45%	授業への積極的な参加・意欲・態度を評価に加える		期末試験	45%	授業内容全般に関する理解度を問う問題を出題	
NGSL	10%	NGSL第1段階の語彙力のテストの成績					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習・復習をして授業に臨む。NGSL については、原則として各自の自習とします。				何時でも質問・相談に応じます。メールも可。			
教科書・テキスト	小林純子・Jason B. Alter, Coping with Culture Shock (成美堂) Noboru Nagasawa, Gordon Bobson, Keystone: Grammar-based English Writing (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	岩村圭南 『英語の正しい発音の仕方 (基礎編) (リズム・イントネーション編)』 (研究社) English Program for Global Mobility: 2021 Student Handbook			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Foundations of English (G7)					
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第1段階(No. 1-700)の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	事前のテキスト学習によるインプットおよび授業内アウトプット活動によるフリップラーニング、アクティブラーニングを実践する						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(授業内容・使用教材・課題・評価方法等)						
2	文法: Unit 1 文の基本パーツ(1), NGSL1-50, Core Reading (第1段落)						
3	文法: Unit 1 文の基本パーツ(2), NGSL51-100, 音声: 母音(1-5)						
4	文法: Unit 2 名詞(1) NGSL101-15, 音声: 母音(6-10)						
5	文法: Unit 2 名詞(2), NGSL151-200, 音声: 母音(11-14)						
6	文法: Unit 1-2 演習/小テスト(1), 音声: 母音(15-19), Core Reading (第2段落)						
7	文法: Unit 3 動詞, NGSL201-300, 音声: 母音(20-23)						
8	文法: Unit 4 現在・過去・未来, NGSL301-400, 音声: 子音(24-26)						
9	文法: Unit 5 進行形・完了形, NGSL401-500, 音声: 子音(27-30)						
10	文法: Unit 3-5 演習/小テスト(2), 音声: 子音(31-34), Core Reading (第3-5段落)						
11	文法: Unit 6 形容詞, NGSL501-600, 音声: 子音(35-39)						
12	文法: Unit 7 副詞, NGSL601-700, 音声: 子音(40-44)						
13	文法: Unit 6-7 演習/小テスト(3), 音声: 子音(45-48), Core Reading (第6-7段落)						
14	総復習/確認テスト, 確認問題(NGSL_1-700), 演習(補助教材)						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	基本的な文法・音声についての理解・運用力を測る		小テスト	30	授業内テスト3回で学習した項目を正確に運用できる理解力を測る	
ライティングおよび音読課	20	学習した項目を応用できる表現力を測る		NGSL共通課題	10	NGSL対象語彙の習熟度を測る	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された教科書の問題を解き、事後学習として反復練習および応用練習が求められる。適宜、学習成果をOneNote/Glaxaに管理することが求められる。				大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。			
教科書・テキスト	・Vitamin G(『書ける・話せる実践英文法』) CENGAGE Learning ・『改訂版 英語の正しい発音の仕方(基礎編)』 研究社 [以上2冊]			受講生に望むこと	復習や反復練習にしっかり取り組んでください。		
参考書・参考資料等	適宜紹介			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Foundations of English (G2)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第1段階(No. 1-700)の語彙を正しく運用することができる。</p>			
キーワード	英文法、語彙、発音						
教授方法	ZOOMによるリアルタイム配信。ペアワーク、討論なども含む。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	現在形と過去形						
3	現在完了形と過去形、Core Reading1						
4	未来形						
5	発音 母音1 NGSL1～350						
6	法助動詞						
7	発音 母音2 NGSL351～700						
8	ifとwish						
9	Core Reading2 発音 子音P1						
10	受動態						
11	間接話法 発音 子音P2						
12	疑問文と繰り返しを避ける助動詞						
13	総括						
14	総復習確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	50	授業で学んだ事柄を試験で確認。		課題	30	授業で課された宿題の提出。	
平常点	10	授業での発表、討論など。		その他	10	NGSL	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
十分な予習復習を行う。				授業前後及びメールでの対応。			
教科書・テキスト	『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)第4版』ケンブリッジ大学出版、『改訂版英語の正しい発音の仕方(基礎編)』研究社			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	随時授業時に配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Foundations of English (G4)						
担当教員	境 奈津希			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第1段階(No. 1-700)の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	授業はzoomによるオンライン形式で実施する。また、Glexaにて課題の提出を求める。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	Unit1、発音練習						
3	Unit1、発音練習						
4	Unit2、発音練習						
5	Unit3、発音練習						
6	Unit1-3小テスト、読解						
7	Unit4、発音練習						
8	Unit5、発音練習						
9	Unit4-5小テスト、読解						
10	Unit6、発音練習						
11	Unit7、発音練習						
12	Unit6-7小テスト、読解						
13	Unit1-7復習						
14	確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	40	授業への参加度、課題の提出状況より評価。		確認テスト	30	第14回の確認テストの成績により評価。	
小テスト	20	小テストの成績により評価。		NGSL	10	学年末のNGSL共通テストの成績により評価。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>授業で学んだ文法や発音を繰り返し学習すること。 各小テストに真剣に臨むこと。 NGSLの語彙を継続的に学習すること。</p>				大学のOfficeアカウントからEmailで連絡をください。			
教科書・テキスト	<p>文法：Vitamin G(『書ける・話せる実践英文法』) CENGAGE Learning 音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方(基礎編)』 研究社</p>			受講生に望むこと	授業へ積極的に参加し、課題に真面目に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Basic English Communication (G5)				
担当教員	Cheryl Kirchoff		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches students how to make conversation with English speakers about university life, daily life, hometown, and travel. A writing unit will teach writing English emails. Extensive reading is explained and students begin to reading simpler texts for fluency. A Core Reading, "The Purpose of a University Education" is studied. Studying the first 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn 1-700 in the NGSL		
キーワード	Fluency, conversation, email writing, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, classmates and textbook				
2	Unit 1.1, How to study NGSL				
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails				
4	Unit 1.3, Writing Unit				
5	Unit 2.1, Writing Unit				
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading				
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site				
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit				
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk				
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit				
11	Unit 4.1 Book Talk				
12	Unit 4.2, Writing Unit				
13	Unit 4.3 Book Talk				
14	Conversation recording				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	recorded conversations and other assignments	Writing	40	English emails and other assignments
Reading	10	fluency reading	Vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.		受講生に望むこと	willingness to talk with classmates	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Basic English Communication (G2)						
担当教員	Jean-Pierre Richard			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches students how to make conversation with English speakers about university life, daily life, hometown, and travel. A writing unit will teach writing English emails. Extensive reading is explained and students begin to reading simpler texts for fluency. A Core Reading, "The Purpose of a University Education" is studied. Studying the first 700 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn 1-700 in the NGSL			
キーワード	Fluency, conversation, email writing						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, classmates and textbook						
2	Textbook Unit 1.1 "Where are you from?" + How to study NGSL						
3	Unit 1.2 "What's your major?" + Writing Unit: English Emails						
4	Unit 1.3 "Do you have a part-time job?" + Writing Unit & NGSL						
5	Unit 2.1 "What time did you go to bed last night?" + Writing Unit & NGSL						
6	Unit 2.2 "What's your easiest day of the week?" + Core Reading						
7	Unit 2.3 "How much time do you spend studying?", Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site						
8	Unit 3.1 "What's your hometown famous for?" + Core Reading & Writing Unit						
9	Unit 3.2 "Do you like living there?" + Book Talk & NGSL						
10	Unit 3.3 "Where would you like to live in the future?" + Core Reading & Writing Unit						
11	Unit 4.1 "Have you ever been abroad?" + Book Talk & NGSL						
12	Unit 4.2 "Where would you like to go next?" + Book Talk & NGSL						
13	Unit 4.3 What's the best way to go there?" + Review						
14	Conversation recording + NGSL						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	various recorded conversations		Writing	40	English emails and other assignments	
Reading	10	fluency reading (Xreading)		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Contact me by email or on Microsoft Teams.			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			受講生に望むこと	Willingness to talk with classmates		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G4)						
担当教員	Jean-Pierre Richard			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches students how to make conversation with English speakers about university life, daily life, hometown, and travel. A writing unit will teach writing English emails. Extensive reading is explained and students begin to reading simpler texts for fluency. A Core Reading, "The Purpose of a University Education" is studied. Studying the first 700 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn 1-700 in the NGSL			
キーワード	Fluency, conversation, email writing						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, classmates and textbook						
2	Textbook Unit 1.1 "Where are you from?" + How to study NGSL						
3	Unit 1.2 "What's your major?" + Writing Unit: English Emails						
4	Unit 1.3 "Do you have a part-time job?" + Writing Unit & NGSL						
5	Unit 2.1 "What time did you go to bed last night?" + Writing Unit & NGSL						
6	Unit 2.2 "What's your easiest day of the week?" + Core Reading						
7	Unit 2.3 "How much time do you spend studying?", Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site						
8	Unit 3.1 "What's your hometown famous for?" + Core Reading & Writing Unit						
9	Unit 3.2 "Do you like living there?" + Book Talk & NGSL						
10	Unit 3.3 "Where would you like to live in the future?" + Core Reading & Writing Unit						
11	Unit 4.1 "Have you ever been abroad?" + Book Talk & NGSL						
12	Unit 4.2 "Where would you like to go next?" + Book Talk & NGSL						
13	Unit 4.3 What's the best way to go there?" + Review						
14	Conversation recording + NGSL						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	various recorded conversations		Writing	40	English emails and other assignments	
Reading	10	fluency reading (Xreading)		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Contact me by email or on Microsoft Teams.			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			受講生に望むこと	Willingness to talk with classmates		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G3)					
担当教員	Dawn Lucovich		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
This course teaches students how to make conversation with English speakers about university life, daily life, hometown, and travel. A writing unit will teach writing English emails. Extensive reading is explained and students begin to reading simpler texts for fluency. A Core Reading, "The Purpose of a University Education" is studied. Studying the first 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn 1-700 in the NGSL			
キーワード	Fluency, conversation, email writing, NGSL					
教授方法	Every class is active and will include speaking with classmates about textbook topics. There will activities to use and practice NGSL words every week. Writing will be taught by the process of examining a model, writing a draft, editing in pairs and then revising. Students learn to write emails to classmates and instructors in English.					
履修条件等	No pre-requisites (特になし)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	Self-introductions, class orientation, textbook orientation					
2	Unit: Let's get started, email writing					
3	Unit 1, NGSL, email writing					
4	Unit 1, Reading, Core Reading					
5	Unit 1, NGSL, Core Reading, email writing					
6	Unit 2, Reading, Core Reading					
7	Unit 2, NGSL, email writing					
8	Unit 2, Reading					
9	Unit 3, NGSL, email writing					
10	Unit 3, Reading					
11	Unit 4, NGSL					
12	Unit 4, Reading					
13	Unit 4, NGSL					
14	Course evaluation and review					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Recorded speeches, conversations, and tests	Writing	40	Writing, email, and other assignments	
Reading	10	Fluency reading, book talk	Vocabulary	10	NGSL tests	
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応			
Students need to prepare and participate actively, both in class and before/after class.			Contact by contact form, email, or Zoom office hours			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.		受講生に望むこと	Students should be willing to speak in class, volunteer answers, and ask questions.		
参考書・参考資料等	Dictionary, notebook		その他・特記事項	Welcome to the University of Nagano!		

授業科目	Basic English Communication (G1)				
担当教員	Miguel Alberto Mision	必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches students how to make conversation with English speakers about university life, daily life, hometown, and travel. A writing unit will teach writing English emails. Extensive reading is explained and students begin to reading simpler texts for fluency. A Core Reading, "The Purpose of a University Education" is studied. Studying the first 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn 1-700 in the NGSL		
キーワード	Fluency, conversation, email writing, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, classmates and textbook				
2	Unit 1.1, How to study NGSL				
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails				
4	Unit 1.3, Writing Unit				
5	Unit 2.1, Writing Unit				
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading				
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site				
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit				
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk				
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit				
11	Unit 4.1 Book Talk				
12	Unit 4.2, Book Talk				
13	Unit 4.3				
14	Conversation recording				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	40	assignments and recorded conversations	writing	40	writing
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.		受講生に望むこと	willingness to talk with classmates	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Basic English Communication (G6)						
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
<p>This course teaches students how to make conversation with English speakers about university life, daily life, hometown, and travel. A writing unit will teach writing English emails. Extensive reading is explained and students begin to reading simpler texts for fluency. A Core Reading, "The Purpose of a University Education" is studied. Studying the first 700 words of the NGSL is independent study.</p>			<p>Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn 1-700 in the NGSL</p>				
キーワード	Fluency, conversation, email writing, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, classmates and textbook						
2	Unit 1.1, How to study NGSL						
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails						
4	Unit 1.3, Writing Unit						
5	Unit 2.1, Writing Unit						
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading						
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site						
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit						
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk						
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit						
11	Unit 4.1 Book Talk						
12	Unit 4.2, Book Talk						
13	Unit 4.3						
14	Conversation recording						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	40	assignments and recorded conversations		writing	40	writing	
reading	10	fluency reading		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			受講生に望むこと	willingness to talk with classmates		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G7)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches students how to make conversation with English speakers about university life, daily life, hometown, and travel. A writing unit will teach writing English emails. Extensive reading is explained and students begin to reading simpler texts for fluency. A Core Reading, "The Purpose of a University Education" is studied. Studying the first 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn 1-700 in the NGSL		
キーワード	Fluency, conversation, email writing, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, classmates and textbook				
2	Unit 1.1, How to study NGSL				
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails				
4	Unit 1.3, Writing Unit				
5	Unit 2.1, Writing Unit				
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading				
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site				
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit				
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk				
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit				
11	Unit 4.1 Book Talk				
12	Unit 4.2, Book Talk				
13	Unit 4.3				
14	Conversation recording				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	40	assignments and recorded conversations	writing	40	writing
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.		受講生に望むこと	willingness to talk with classmates	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Foundations of English (G1)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第2段階(No. 701-1400)の語彙を正しく運用することができる。</p>			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	毎回各教材の指定範囲の予習を前提に、授業時にはグループワークや教員の解説による重要ポイントの確認、演習、質疑応答などを行います。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、Foundations of English I の振り返り						
2	文法：Unit 8 その他の修飾表現、音声：リズム						
3	文法：Unit 8 その他の修飾表現、音声：リズム						
4	文法：Unit 8 小テスト、Core Reading 第1-2段落						
5	文法：Unit 9 仮定法、音声：イントネーション						
6	文法：Unit 10 法助動詞、音声：イントネーション						
7	文法：Unit 9-10 小テスト、Core Reading 第3-4段落						
8	文法：Unit 11 能動態と受動態、音声：ストレス・アクセント						
9	文法：Unit 12 前置詞、音声：音声変化						
10	文法：Unit 11-12 小テスト、Core Reading 第5-6段落						
11	文法：Unit 13 可算名詞と不可算名詞、音声：音声変化						
12	文法：Unit 14 定冠詞、音声：総合復習						
13	文法：Unit 13-14 小テスト、Core Reading 第7段落						
14	まとめ・確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習・課題提出状況、授業時のグループワーク等への取り組みにより評価。		文法小テスト	20	第4,7,10,13回の文法小テストの成績により評価。	
確認テスト	40	第14回の確認テストの成績により評価。		NGSL共通課題	10	NGSL共通課題への取り組みにより評価。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回指定された範囲の予習。 ・小テスト、確認テストに向けた復習。 ・NGSL(語彙)学習。 				授業時に直接、またはメールで連絡してください。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Vitamin G』CENGAGE Learning ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方(リズム・イントネーション編)』研究社 			受講生に望むこと	予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨んでください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	オンライン授業		

授業科目	Foundations of English (G6)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取るこの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第2段階(No. 701-1400)の語彙を正しく運用することができる。</p>			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	毎回各教材の指定範囲の予習を前提に、授業時にはグループワークや教員の解説による重要ポイントの確認、演習、質疑応答などを行います。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、Foundations of English I の振り返り						
2	文法：Unit 8 その他の修飾表現、音声：リズム						
3	文法：Unit 8 その他の修飾表現、音声：リズム						
4	文法：Unit 8 小テスト、Core Reading 第1-2段落						
5	文法：Unit 9 仮定法、音声：イントネーション						
6	文法：Unit 10 法助動詞、音声：イントネーション						
7	文法：Unit 9-10 小テスト、Core Reading 第3-4段落						
8	文法：Unit 11 能動態と受動態、音声：ストレス・アクセント						
9	文法：Unit 12 前置詞、音声：音声変化						
10	文法：Unit 11-12 小テスト、Core Reading 第5-6段落						
11	文法：Unit 13 可算名詞と不可算名詞、音声：音声変化						
12	文法：Unit 14 定冠詞、音声：総合復習						
13	文法：Unit 13-14 小テスト、Core Reading 第7段落						
14	まとめ・確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	30	予習・課題提出状況、授業時のグループワーク等への取り組みにより評価。			文法小テスト	20	第4,7,10,13回の文法小テストの成績により評価。
確認テスト	40	第14回の確認テストの成績により評価。			NGSL共通課題	10	NGSL共通課題への取り組みにより評価。
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回指定された範囲の予習。 ・小テスト、確認テストに向けた復習。 ・NGSL(語彙)学習。 				授業時に直接、またはメールで連絡してください。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Vitamin G』CENGAGE Learning ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方(リズム・イントネーション編)』研究社 			受講生に望むこと	予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨んでください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	オンライン授業		

授業科目	Foundations of English (G3)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の理解をさらに確実なものに加えて、英語の文章における段落の展開や、著者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第2段階 (No. 701-1400) の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	Reading, Listening 中心の Coping with Globalization と Syntax, Writing の中心の Keystone: Grammar-based English Writingの2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語の音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Coping with Globalization, Chapter 1: What Non-Japanese Expect from Japan Keystone: Grammar-based English Writing: Chapter 11: 助動詞 (1)						
2	Chapter 2: What Inbound Tourists Expect from Japanese People Chapter 12: 助動詞 (2)						
3	Chapter 2: Productive Intercultural Interaction Chapter 13: 形容詞と副詞						
4	Chapter 4: Utilizing Silence and Space in Japanese Culture Chapter 14: 受け身						
5	Chapter 5: The Needs of Hotel Guests Chapter 15: 比較						
6	Chapter 6: Clear Messages in a Lawsuit Society Chapter 16: 不定詞 (1)						
7	Chapter 8: A Victor in Information Wars (1) Chapter 17: 不定詞 (2)						
8	Chapter 9: A Victor in Information Wars (2) Chapter 18: 分詞						
9	Chapter 10: Falling Occupations and rising Occupations Chapter 19: 動名詞						
10	Chapter 11: Fair Survey Chapter 20: 接続詞						
11	Chapter 12: Diversifying Risks Chapter 21: 関係詞 (1)						
12	Chapter 13: Fusion of Different Cultures in Education Chapter 22: 関係詞 (2)						
13	Chapter 14: Focusing One's Country's Merits Chapter 23: 仮定法						
14	Chapter 15: Western Interpretations of Creativity Chapter 24: 話法						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加	45%	授業への積極的な参加・意欲・態度を評価に加える		期末試験	45%	授業内容全般に対する理解度を問う問題を出題	
NGSL	10%	NGSL第2段階の語彙力のテストの成績					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習・復習をして授業に臨む。NGSL については、原則として各自の自習とします。				何時でも質問・相談に応じます。メールも可。			
教科書・テキスト	Junko Kobayashi・Brian Bond, Coping with Globalization (三修社) Noboru Nagasawa, Gordon Bobson, Keystone: Grammar-based English Writing (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	岩村圭南『英語の正しい発音の仕方 (基礎編) (リズム・イントネーション編)』(研究社) English Program for Global Mobility: 2021 Student Handbook			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Foundations of English (G5)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の理解をさらに確実なものにすることに加えて、英語の文章における段落の展開や、著者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第2段階 (No. 701-1400) の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	Reading, Listening 中心の Coping with Globalization と Syntax, Writing の中心の Keystone: Grammar-based English Writing Building up English Skills! の2種類のテキストを使用し、学生を主体とした演習形式で読解、Exercises などに取り組んでもらう。また英語の音声に慣れ、発音の基礎を学ぶ。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Coping with Globalization, Chapter 1: What Non-Japanese Expect from Japan Keystone: Grammar-based English Writing, Chapter 11: 助動詞 (1)						
2	Chapter 2: What Inbound Tourists Expect from Japanese People Chapter 12: 助動詞 (2)						
3	Chapter 2: Productive Intercultural Interaction Chapter 13: 形容詞と副詞						
4	Chapter 4: Utilizing Silence and Space in Japanese Culture Chapter 14: 受け身						
5	Chapter 5: The Needs of Hotel Guests Chapter 15: 比較						
6	Chapter 6: Clear Messages in a Lawsuit Society Chapter 16: 不定詞 (1)						
7	Chapter 8: A Victor in Information Wars (1) Chapter 17: 不定詞 (2)						
8	Chapter 9: A Victor in Information Wars (2) Chapter 18: 分詞						
9	Chapter 10: Falling Occupations and rising Occupations Chapter 19: 動名詞						
10	Chapter 11: Fair Survey Chapter 20: 接続詞						
11	Chapter 12: Diversifying Risks Chapter 21: 関係詞 (1)						
12	Chapter 13: Fusion of Different Cultures in Education Chapter 22: 関係詞 (2)						
13	Chapter 14: Focusing One's Country's Merits Chapter 23: 仮定法						
14	Chapter 15: Western Interpretations of Creativity Chapter 24: 話法						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加	45%	授業への積極的な参加・意欲・態度を評価に加える。	期末試験	45%	授業内容全般に対する理解度を問う問題を出題。		
NGSL	10%	NGSL第2段階のテストの成績					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習・復習をして授業に臨む。NGSL については、原則として各自の自習とします。				何時でも質問・相談に応じます。メールも可。			
教科書・テキスト	Junko Kobayashi・Brian Bond, Coping with Globalization (三修社) Noboru Nagasawa, Gordon Bobson, Keystone: Grammar-based English Writing (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	岩村圭南『英語の正しい発音の仕方 (基礎編) (リズム・イントネーション編)』(研究社) English Program for Global Mobility: 2021 Student Handbook			その他・特記事項	特になし		

授業科目		Foundations of English (G7)					
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の理解をさらに確かなものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声の特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第2段階(No. 701-1400)の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	事前のテキスト学習によるインプットおよび授業内アウトプット活動によるフリッパーニング、アクティブラーニングを実践する						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション・Foundations of English I の振り返り						
2	文法: Unit 8 その他の修飾表現(1)、NGSL701-800、音声: イントネーション						
3	文法: Unit 8 その他の修飾表現(2)、NGSL801-900、音声: 母音・子音の復習						
4	演習/小テスト(1) Unit 8; イントネーション、Core Reading (第1-2段落)						
5	文法: Unit 9 仮定法、NGSL901-1000、音声: 音の短縮(1)						
6	文法: Unit 10 法助動詞、NGSL1001-1100 音声: 音の短縮(2)						
7	演習/小テスト(2) Unit 9-10; 音の短縮、Core Reading (第3-4段落)						
8	文法: Unit 11 能動態と受動態、NGSL1101-1200、音声: 音の弱化・脱落(1)						
9	文法: Unit 12 前置詞、NGSL1201-1300、音声: 音の弱化・脱落(2)						
10	演習/小テスト(3) Unit 11-12; 音の同化、Core Reading (第5-6段落)						
11	文法: Unit 13 可算名詞と不可算名詞、NGSL1301-1400、音声: 音の同化・連結(1)						
12	文法: Unit 14 定冠詞 the、音声: 音の同化・連結(2)						
13	演習/小テスト(4) Unit 13-14; 音変化、Core Reading (第7段落)						
14	文法および音声の総復習/確認テスト、NGSL確認問題(701-1400)						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	基本的な文法・音声についての理解・運用力を測る		ライティングおよび音読課	20	学習した項目を応用できる表現力を測る	
小テスト	30	授業内テスト3回で学習した項目を正確に運用できる理解力を測る		NGSL共通課題	10	NGSL対象語彙の習熟度を測る	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された教科書の問題を解き、事後学習として反復練習および応用練習が求められる。適宜、学習成果をOneNote/Glaxaに管理することが求められる。				大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Vitamin G(『書ける・話せる実践英文法』) CENGAGE Learning ・『改訂版 英語の正しい発音の仕方(基礎編)』研究社 [以上1学期Foundations Iと同じ2冊]			受講生に望むこと	復習や反復練習にしっかり取り組んでください。		
参考書・参考資料等	適宜紹介			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Foundations of English (G2)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の理解をさらに確実なものにすることに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第2段階(No. 701-1400)の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	ZOOMによるリアルタイム配信。ペアワーク、討論なども含む。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Foundations of English Iの振り返り						
2	動名詞と不定詞						
3	Core Reading3 NGSL701～1050						
4	冠詞と名詞						
5	Core Reading4 発音 強弱リズム						
6	代名詞と限定詞						
7	発音 イントネーション NGSL 1051～1400						
8	関係詞節 発音 基本のチェック						
9	形容詞と副詞						
10	接続詞と前置詞						
11	前置詞						
12	句動詞						
13	総括						
14	総復習確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
試験	50	授業で学んだ事柄を試験で確認。	課題	30	授業で課された宿題の提出。		
平常点	10	授業での発表、討論など。	その他	10	NGSL		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
十分な予習復習を行う。				授業前後、及びメールでの対応。			
教科書・テキスト	『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)第4版』ケンブリッジ大学出版、『改訂版英語の正しい発音の仕方(リズム・イントネーション編)』研究社			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	随時授業時に配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Foundations of English (G4)				
担当教員	境 奈津希		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習 科目ナンバリング
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
<p>英文法の理解をさらに確実なものにすることに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第2段階(No. 701-1400)の語彙を正しく運用することができる。 		
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙				
教授方法	授業はzoomによるオンライン形式で実施する。また、Glexaにて課題の提出を求める。				
履修条件等	特になし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション				
2	Unit8、発音練習				
3	Unit8、発音練習				
4	Unit8小テスト、読解				
5	Unit9、発音練習				
6	Unit10、発音練習				
7	Unit9-10小テスト、読解				
8	Unit11、発音練習				
9	Unit11小テスト、読解				
10	Unit12、発音練習				
11	Unit13、Unit14				
12	Unit12-14小テスト、読解				
13	Unit8-14復習				
14	確認テスト				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	40	授業への参加度、課題の提出状況より評価。	確認テスト	30	第14回の確認テストの成績により評価。
小テスト	20	小テストの成績により評価。	NGSL	10	学期末のNGSL共通テストの成績により評価。
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
<p>授業で学んだ文法や発音を繰り返し学習すること。 各小テストに真剣に臨むこと。 NGSLの語彙を継続的に学習すること。</p>			大学のOfficeアカウントからEmailで連絡をください。		
教科書・テキスト	<p>文法：Vitamin G(『書ける・話せる実践英文法』) CENGAGE Learning 音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方(基礎編)』 研究社</p>		受講生に望むこと	授業へ積極的に参加し、課題に真面目に取り組むこと。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	特になし。	

授業科目	Basic English Communication (G5)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches students to make conversation with English speakers about free time, entertainment, food and the future. Paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) are taught, followed by assignments to write one paper describing an event and one describing a place. There are fluency reading assignments to lead students to increase their reading ability and speed. A Core Reading, "Self-Regulation and Autonomous Learning" will be studied. Studying the second group of 700 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions, 2. write paragraphs about their own experiences, 3. type an English paper, 4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1, 5. learn the second 700 words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, conversation, paragraph writing, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs						
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity						
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading						
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media						
6	Unit 6.3, Core Reading assignment						
7	Conversation tests, writing unit						
8	Unit 7.1, conversations about food						
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity						
10	Unit 7.3 conversations on food culture						
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans						
12	Unit 8.2 conversations about life issues						
13	Unit 8.3 conversations about life issues						
14	conversation recordings						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	recorded conversations and other assignments		Writing	40	1-paragraphs paper, 2-paragraph typed paper	
Reading	10	fluency reading assignments		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			受講生に望むこと	willingness to talk with classmates		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G2)						
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
This course teaches students to make conversation with English speakers about free time, entertainment, food and the future. Paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) are taught, followed by assignments to write one paper describing an event and one describing a place. There are fluency reading assignments to lead students to increase their reading ability and speed. A Core Reading, "Self-Regulation and Autonomous Learning" will be studied. Studying the second group of 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions, 2. write paragraphs about their own experiences, 3. type an English paper, 4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1, 5. learn the second 700 words of the NGSL.				
キーワード	Fluency, conversation, paragraph writing						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Unit 5.1 "Good to see you again" + Paragraph writing						
2	Unit 5.2 "What do you do in your free time?" + mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3 "Do you have any hobbies?" + writing						
4	Unit 6.1 "What kind of music do you like?" + Core Reading						
5	Unit 6.2 "What kind of movies are you into?" + writing						
6	Unit 6.3 "Do you watch a lot of TV?" + Core Reading assignment						
7	Conversation tests, writing unit						
8	Unit 7.1 "What did you have for breakfast?" + Core reading						
9	Unit 7.2 "What are some foods you don't like?" 2-paragraph writing activity						
10	Unit 7.3 "Have you ever tried ...?" + writing						
11	Unit 8.1 "Will you still be living in Nagano...?" + Core reading						
12	Unit 8.2 "Do you think it's okay to ...?" + writing						
13	Unit 8.3 "What's your dream job" + review						
14	Conversation recordings						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Various recorded conversations		Writing	40	Various writing and other activities	
Reading	10	Fluency reading (Xreading)		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Contact me by email or by Teams.			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			受講生に望むこと	Willingness to communicate.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G4)				
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches students to make conversation with English speakers about free time, entertainment, food and the future. Paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) are taught, followed by assignments to write one paper describing an event and one describing a place. There are fluency reading assignments to lead students to increase their reading ability and speed. A Core Reading, "Self-Regulation and Autonomous Learning" will be studied. Studying the second group of 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions, 2. write paragraphs about their own experiences, 3. type an English paper, 4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1, 5. learn the second 700 words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, conversation, paragraph writing				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 5.1 "Good to see you again" + Paragraph writing				
2	Unit 5.2 "What do you do in your free time?" + mind maps for paragraph writing				
3	Unit 5.3 "Do you have any hobbies?" + writing				
4	Unit 6.1 "What kind of music do you like?" + Core Reading				
5	Unit 6.2 "What kind of movies are you into?" + writing				
6	Unit 6.3 "Do you watch a lot of TV?" + Core Reading assignment				
7	Conversation tests, writing unit				
8	Unit 7.1 "What did you have for breakfast?" + Core reading				
9	Unit 7.2 "What are some foods you don't like?" 2-paragraph writing activity				
10	Unit 7.3 "Have you ever tried ...?" + writing				
11	Unit 8.1 "Will you still be living in Nagano...?" + Core reading				
12	Unit 8.2 "Do you think it's okay to ...?" + writing				
13	Unit 8.3 "What's your dream job" + review				
14	Conversation recordings				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	Various recorded conversations	Writing	40	Various writing and other activities
Reading	10	Fluency reading (Xreaing)	Vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Contact me by email or by Teams.		
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.		受講生に望むこと	Willingness to communicate.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Basic English Communication (G3)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches students to make conversation with English speakers about free time, entertainment, food and the future. Paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) are taught, followed by assignments to write one paper describing an event and one describing a place. There are fluency reading assignments to lead students to increase their reading ability and speed. A Core Reading, "Self-Regulation and Autonomous Learning" will be studied. Studying the second group of 700 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions, 2. write paragraphs about their own experiences, 3. type an English paper, 4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1, 5. learn the second 700 words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, conversation, writing paragraphs, NGSL						
教授方法	Every class will be active and include speaking with classmates about textbook topics. There will activities to use NGSL words every week. Writing will be taught by the process of examining a model, writing a draft, editing in pairs and then revising.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Quarter 2 introduction, class orientation, NGSL, textbook, M-reader						
2	Unit 5, Reading, mind maps						
3	Unit 5, NGSL						
4	Unit 5, Core Reading 2						
5	Unit 6, NGSL						
6	Unit 6, Reading, Core Reading 2						
7	Unit 6, NGSL, Core Reading 2						
8	Unit 7, Reading						
9	Unit 7, NGSL						
10	Unit 7, Reading						
11	Unit 8, NGSL						
12	Unit 8, Reading						
13	Unit 8, NGSL						
14	Course evaluation and review						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Recorded speeches, conversations, and tests		Writing	40	1-paragraph and 2-paragraph writing and other assignments	
Reading	10	Fluency reading		Vocabulary	10	NGSL tests	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Students need to prepare and participate actively, both in class and before/after class.				Contact by contact form, email, or Zoom office hours			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talendis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			受講生に望むこと	Students should be willing to speak in class, volunteer answers, and ask questions.		
参考書・参考資料等	Dictionary, notebook			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G1)						
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
This course teaches students to make conversation with English speakers about free time, entertainment, food and the future. Paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) are taught, followed by assignments to write one paper describing an event and one describing a place. There are fluency reading assignments to lead students to increase their reading ability and speed. A Core Reading, "Self-Regulation and Autonomous Learning" will be studied. Studying the second group of 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions, 2. write paragraphs about their own experiences, 3. type an English paper, 4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1, 5. learn the second 700 words of the NGSL.				
キーワード	Fluency, conversation, writing paragraphs, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs						
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity						
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading						
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media						
6	Unit 6.3, Core Reading assignment						
7	Conversation tests, writing unit						
8	Unit 7.1, conversations about food						
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity						
10	Unit 7.3 conversations on food culture						
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans						
12	Unit 8.2 conversations about life issues						
13	Unit 8.3 conversations about life issues						
14	Conversation recording						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	40	assignments and recorded conversations		writing	40	1-paragraph paper, 2-paragraph paper	
reading	10	fluency reading		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			受講生に望むこと	willingness to talk with classmates		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Basic English Communication (G6)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches students to make conversation with English speakers about free time, entertainment, food and the future. Paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) are taught, followed by assignments to write one paper describing an event and one describing a place. There are fluency reading assignments to lead students to increase their reading ability and speed. A Core Reading, "Self-Regulation and Autonomous Learning" will be studied. Studying the second group of 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions, 2. write paragraphs about their own experiences, 3. type an English paper, 4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1, 5. learn the second 700 words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, conversation, writing paragraphs, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs				
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing				
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity				
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading				
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media				
6	Unit 6.3, Core Reading assignment				
7	Conversation tests, writing unit				
8	Unit 7.1, conversations about food				
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity				
10	Unit 7.3 conversations on food culture				
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans				
12	Unit 8.2 conversations about life issues				
13	Unit 8.3 conversations about life issues				
14	Conversation recording				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	40	assignments and recorded conversations	writing	40	1-paragraph paper, 2-paragraph paper
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.		受講生に望むこと	willingness to talk with classmates	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Basic English Communication (G7)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches students to make conversation with English speakers about free time, entertainment, food and the future. Paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) are taught, followed by assignments to write one paper describing an event and one describing a place. There are fluency reading assignments to lead students to increase their reading ability and speed. A Core Reading, "Self-Regulation and Autonomous Learning" will be studied. Studying the second group of 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions, 2. write paragraphs about their own experiences, 3. type an English paper, 4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1, 5. learn the second 700 words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, conversation, writing paragraphs, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs				
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing				
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity				
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading				
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media				
6	Unit 6.3, Core Reading assignment				
7	Conversation tests, writing unit				
8	Unit 7.1, conversations about food				
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity				
10	Unit 7.3 conversations on food culture				
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans				
12	Unit 8.2 conversations about life issues				
13	Unit 8.3 conversations about life issues				
14	Conversation recording				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	40	assignments and recorded conversations	writing	40	1-paragraph paper, 2-paragraph paper
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.		受講生に望むこと	willingness to talk with classmates	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Comprehensive English (G2)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自主学習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・300語程度の英文から、正確に内容を汲み取ることができる。 ・目の前にある事柄や想定可能な事柄について、英語で正確に表現できる。 ・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。 ・NGSL第3段階（No. 1401-1900）の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング、語彙						
教授方法	現代の世界情勢：文化・社会・テクノロジー・環境・経済についての英文テキスト Understanding Our New Challenges を使用する。学生を主体にした演習形式で英文の読解、Listening の訓練、Exercices を行う。一つの Unit を前後に分けて2回行う。また英文表現用のテキスト Building up English Skills! を用いて Writing に取り組み、自分の意見を英語でまとめる訓練を行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Understanding Our New Challenges, Section 1: Issues in Culture, Unit 1: Super Language Learners (前半)						
2	Super Language Learners (後半) Building up English Skills!, Step 1: Chapter 1: 第1・第2文型						
3	Unit 2: Flat Organizations (前半) Chapter 2: 第2・第3文型						
4	Flat Organizations (後半) Chapter 3: 第3・第4文型						
5	Unit 3: Culture Shock (前半) Chapter 4: 第4・第5文型						
6	Culture Shock (後半) Chapter 5: Step 1 総復習						
7	Unit 4: Social Media (前半) Chapter 6, Step 2: 形容詞句(1)						
8	Social Media (後半) Chapter 7: 副詞句(1)						
9	Section 3: Unit 9: Science Fiction (前半) Chapter 8: 名詞句(1)						
10	Science Fiction (後半) Chapter 9: 形容詞句(2)						
11	Unit 10: Medical Technology (前半) Chapter 10: 副詞句(2)						
12	Medical Technology (後半) Chapter 11: 名詞句(2)						
13	Unit 12: Robot Revolution (前半) Chapter 12: Step 2 総復習						
14	Robot Revolution (後半) 総復習						
共通の成績評価基準							
<p>・自分の意見を英文で表現することが出来ているか。 【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業への参加意欲・態度	45%	授業への積極的な参加意欲・態度・出席状況・提出物などを評価などの対象にします。	期末試験	40%	授業内容全般に関する理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象にします。		
語彙テスト	10%	NGSL第3段階の語彙力テストの成績	e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照。		
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習、復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、原則として各自の自習とします。				何時でも質問や相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	Dave Rear・Hisashi Sugito, Understanding Our New Challenges (成美堂, 2018) 徳永守儀・田本健一・網代敦 Building up English Skills! (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	岩村圭南『英語の正しい発音の仕方（基礎編）（リズム・イントネーション編）』（研究社） English Program for Global Mobility: 2021 Student Handbook			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Comprehensive English (G6)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自主学習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・300語程度の英文から、正確に内容を汲み取ることができる。 ・目の前にある事柄や想定可能な事柄について、英語で正確に表現できる。 ・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。 ・NGSL第3段階（No. 1401-1900）の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング、語彙						
教授方法	衛星放送で放映された日本に関する時事的問題を扱っている英文テキスト NHK Newsline 2 を使用する。学生を主体にした演習形式で、DVDの映像で内容を確認してから Exercises に取り組み、英文の精読を行う。一つの Unit を前後に分けて2回行う。また 文法・作文用のテキスト Keystone: Grammar-based English Writing を用いて Writing に取り組み、英語表現の訓練を行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション NHK Newsline 2, Unit 1: Sprouting New Sushi Ideas (前半)						
2	Sprouting New Sushi Ideas (後半) Keystone: Grammar-based English Writing, Chapter 1: Be 動詞						
3	Unit 2: In the Pole Position (前半) Chapter 2: Have 動詞						
4	In the Pole Position (後半) Chapter 3: 一般動詞						
5	Unit 3: Easing Off (前半) Chapter 4: 名詞と冠詞						
6	Easing Off (後半) Chapter 5: 代名詞						
7	Unit 4: In Memory of Monty (前半) Chapter 6: 時制 (1)						
8	In Memory of Monty (後半) Chapter 7: 時制 (2)						
9	Unit 5: Dating the AI Way (前半) Chapter 8: 時制 (3)						
10	Dating the AI Way (後半) Chapter 9: 時制 (4)						
11	Unit 6: Floating on a Dream (前半) Chapter 10: 疑問詞						
12	Floating on a Dream (後半) Chapter 11: 助動詞 (1)						
13	Unit 7: Japan Adventure Completes Grand Slam (前半) Chapter 12: 助動詞 (2)						
14	Japan Adventure Completes Grand Slam (後半) 総復習						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業への参加意欲・態度	45%	授業への積極的な参加意欲・態度、出席状況、提出物などを評価の対象にします。	期末テスト	40%	授業内容全般についての理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象にします。		
語彙テスト	10%	NGSL第3段階の語彙力テストの成績	e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照		
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習、復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、試験準備は原則として各自の自習とします。				何時でも質問や相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	Tetsuroh Yamazaki, NHK Newsline 2 (金星堂, 2019) Noboru Nagasawa, Gordon Bobson, Keystone: Grammar-based English Writing (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	岩村圭南『英語の正しい発音の仕方（基礎編）（リズム・イントネーション編）』（研究社） English Program for Global Mobility: 2021 Student Handbook			その他・特記事項	特になし。		



授業科目	Comprehensive English (G4)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			



授業科目	Comprehensive English (G5)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			



授業科目	Comprehensive English (G7)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授業計画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	Comprehensive English (G3)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。更には、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・300語程度の英文から、正確に内容を汲み取ることができる。 ・目の前にある事物や想定可能な事柄について、英語で正確に表現できる。 ・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。 ・NGSL第3段階（No.1401-1900）の語彙を正しく運用することができる。 ・2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの基礎力を身に付けるための訓練を行い、英語のプレゼンテーションの簡単なやり方も学習してもらう。 			
キーワード	Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング、語彙						
教授方法	授業は演習形式で、授業の前半は、テキストを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方、学習方法、評価方法を説明する。）						
2	Textbook Unit 1 と イギリス英語とアメリカ英語の違いを学ぶ。						
3	Textbook Unit 2 と 英国紹介についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
4	Textbook Unit 3 と 英語のプレゼンテーションのやり方を説明する。						
5	Textbook Unit 4 と 日本紹介についてのプレゼンテーション						
6	Textbook Unit 5 と 英国の大学についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
7	Textbook Unit 6 と 日本の大学についてのプレゼンテーション						
8	Textbook Unit 7 と 英国の教育制度についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
9	Textbook Unit 8 と 英国並びに日本の教育制度の長所と短所についてのプレゼンテーション						
10	Textbook Unit 9 と 英国の肥満問題についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
11	結婚についての記事の講読（内容確認）						
12	国際結婚の長所と短所についてのプレゼンテーション						
13	日本の結婚問題についてのプレゼンテーション						
14	総括						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な目標を十分に達成している。【B】基本的な目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
提出物、テスト	30%	提出物によって評価する。		英語のプレゼンテーション	30%	英語のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。	
授業貢献	25%	授業貢献度によって評価する。		上記以外の授業評価	15%	NGSL10%とe-learning 5%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。 予習を十分してから授業に臨むこと。 授業後も復習を最低1時間はすること。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Shogo Mitsutomi & Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2 ・John H. Randle & Atsushi Mukuhira, Britain at a Watershed (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-3415-7 			受講生に望むこと	<p>受講生の積極的な授業参加を期待する。毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可） スマートフォンや携帯電話は授業中に使わないこと。 遅刻はしないこと。 予習、復習をよくすること。</p>		
参考書・参考資料等	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			その他・特記事項	<p>各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取る。遅刻は30分までは出席とみなす。</p>		

授業科目	Comprehensive English (G1)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>				<p>・ 300語程度の英文から、正確に内容を汲み取ることができる。 ・ 目の前にある事柄や想定可能な事柄について、英語で正確に表現できる。 ・ 英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。 ・ NGSL第3段階（No. 1401-1900）の語彙を正しく運用することができる。</p>			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	演習型のインタラクティブな授業。ペアワーク、討論を通してプレゼンテーション力を身につかせる。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	自己紹介						
3	性格についての作文						
4	パラグラフの書き方 NGSL1401～1650						
5	持ち物について話す Core Reading1						
6	住む町についての作文						
7	道案内をする NGSL1651～1900						
8	Unit1～3復習						
9	イベントの計画 Core Reading 2						
10	人助けをしたことについての作文						
11	問題解決について話す						
12	Unit4～6復習						
13	総括						
14	総復習確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	授業で学んだ事柄を試験で確認。		授業レポート	25	授業で課された宿題の提出。	
小テスト	10	授業での発表。		上記以外の授業評価	15	NGSL(10) e-learning(5)	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
十分な予習復習を行う。				授業前後及びメールでの対応。			
教科書・テキスト	EVOLVE3 ケンブリッジ大学出版			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	随時授業時に配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Academic English Communication (G2)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to write a 3-paragraph report in which they gather information from websites and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Willingness to Communicate" will be studied. Studying the third group of 500 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2. write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3. cite sources in a report, 4. continue fluency reading, and 5. learn the third group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, write a report, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? Define and practice discussion,						
3	Unit 1, Connect and Add assignment, practice discussion, Writing Unit - a report						
4	Unit 1, practice discussion with Discussion Card, Writing Unit						
5	Unit 1 Discussion Test, begin Core Reading A, Writing unit						
6	Core Reading B, Writing Unit						
7	Core Reading C, Writing Unit						
8	Unit 3, Writing Unit						
9	Unit 3, Writing Unit						
10	Unit 3, Writing Unit						
11	Unit 3 Discussion Test, Writing Unit						
12	Unit 4, Writing Unit						
13	Unit 4, Writing Unit pair editing, Final Steps						
14	Unit 4						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	35	recorded group discussions on textbook content		writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments	
reading	10	fluency reading assignments		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G6)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to write a 3-paragraph report in which they gather information from websites and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Willingness to Communicate" will be studied. Studying the third group of 500 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2. write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3. cite sources in a report, 4. continue fluency reading, and 5. learn the third group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, write a report, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? Define and practice discussion						
3	Unit 1, Connect and Add and practice discussion, Writing Unit - a report						
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit						
5	Unit 1 Discussion Test, Core Reading A, Writing unit						
6	Core Reading B, Writing Unit						
7	Core Reading C, Writing Unit						
8	Unit 3, Writing Unit						
9	Unit 3, Writing Unit						
10	Unit 3, Writing Unit						
11	Unit 3 Discussion Test, Writing Unit						
12	Unit 4, Writing Unit						
13	Unit 4, Writing Unit pair edit, Final Steps						
14	Unit 4						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	35	recorded group discussions on textbook content		writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments	
reading	10	fluency reading assignments		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G1)				
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to write a 3-paragraph report in which they gather information from websites and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Willingness to Communicate" will be studied. Studying the third group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2. write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3. cite sources in a report, 4. continue fluency reading, and 5. learn the third group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, report writing				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, Unit 1 "The effects of advertising" + What is discussion?				
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion				
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card + Writing Unit - writing a report				
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit				
5	Unit 1 discussion test, Writing unit				
6	Unit 3, Writing Unit				
7	Unit 3 "Our aging population" + Writing Unit				
8	Unit 3, Writing Unit				
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A				
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit				
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit				
12	Unit 4 "Robots in the home" + Writing Unit				
13	Unit 4				
14	Unit 4				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	Various recorded discussions	Writing	40	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
Reading	10	Fluency reading	Vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Contact me by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G3)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to write a 3-paragraph report in which they gather information from websites and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Willingness to Communicate" will be studied. Studying the third group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2. write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3. cite sources in a report, 4. continue fluency reading, and 5. learn the third group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, write a report, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained				
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion				
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report				
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit				
5	Unit 1 discussion test, Writing unit				
6	Unit 3, Writing Unit				
7	Unit 3, Writing Unit				
8	Unit 3, Writing Unit				
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A				
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit				
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit				
12	Unit 4, Writing Unit				
13	Unit 4				
14	Unit 4				
共通の成績評価基準					
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	recorded group discussions	writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G4)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to write a 3-paragraph report in which they gather information from websites and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Willingness to Communicate" will be studied. Studying the third group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2. write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3. cite sources in a report, 4. continue fluency reading, and 5. learn the third group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, write a report, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained				
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion				
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report				
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit				
5	Unit 1 discussion test, Writing unit				
6	Unit 3, Writing Unit				
7	Unit 3, Writing Unit				
8	Unit 3, Writing Unit				
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A				
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit				
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit				
12	Unit 4, Writing Unit				
13	Unit 4				
14	Unit 4				
共通の成績評価基準					
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	recorded group discussions	writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G5)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to write a 3-paragraph report in which they gather information from websites and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Willingness to Communicate" will be studied. Studying the third group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2. write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3. cite sources in a report, 4. continue fluency reading, and 5. learn the third group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, write a report, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained				
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion				
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report				
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit				
5	Unit 1 discussion test, Writing unit				
6	Unit 3, Writing Unit				
7	Unit 3, Writing Unit				
8	Unit 3, Writing Unit				
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A				
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit				
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit				
12	Unit 4, Writing Unit				
13	Unit 4				
14	Unit 4				
共通の成績評価基準					
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	recorded group discussions	writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G7)						
担当教員	Keff Kenner			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to write a 3-paragraph report in which they gather information from websites and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Willingness to Communicate" will be studied. Studying the third group of 500 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2. write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3. cite sources in a report, 4. continue fluency reading, and 5. learn the third group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, write a report, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report						
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit						
5	Unit 1 discussion test, Writing unit						
6	Unit 3, Writing Unit						
7	Unit 3, Writing Unit						
8	Unit 3, Writing Unit						
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A						
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit						
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit						
12	Unit 4, Writing Unit						
13	Unit 4						
14	Unit 4						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	35	recorded group discussions		reading	10	fluency reading	
writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Comprehensive English (G2)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいてディスカッションを行うことで自分の意見を英語で述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎的をより確かなものにする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自主学習を通じて、NGSL第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。 自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。 自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。 NGSL第4段階（No. 1901-2400）の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	現代の世界情勢：文化・社会・テクノロジー・環境・経済についての英文テキスト Understanding Our New Challenges を使用する。Online 形式で学生を主体にした演習形式で英文の読解、Listening の訓練、Exercises を行う。一つの Unit を前後に分けて2回行う。また英文表現用のテキスト Building up English Skills! を用いて Writing に取り組み、自分の意見を英語でまとめる訓練を行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Understanding Our New Challenges, Section 4: Issues in the Environment, Unit 13: Genetically Modified Food						
2	Genetically Modified Food (後半) Building up English Skills!, Step 3: Chapter 13: 等位節						
3	Unit 14: Climate Change (前半) Chapter 14: 形容詞節 (1)						
4	Climate Change (後半) Chapter 15: 名詞節 (1)						
5	Unit 15: Green Cities (前半) Chapter 16: 副詞節 (1)						
6	Green Cities (後半) Chapter 17: Step 3 総復習						
7	Section 5: Issues in the Economy, Unit 17: Free Trade (前半) Chapter 18: 形容詞節 (2)						
8	Free Trade (後半) Chapter 19: 名詞節 (2)						
9	Unit 18: Social Inequality (前半) Chapter 20: 副詞節 (2)						
10	Social Inequality (後半) Chapter 21: 副詞節 (3)						
11	Unit 19: Guns, Germs and Steel (前半) Chapter 22: 副詞節 (4)						
12	Guns, Germs and Steel (後半) Paragraph Writing (1)						
13	Unit 20: Aid and Development (前半) Paragraph Writing (2)						
14	Aid and Development (後半) Paragraph Writing (3)						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加意欲・態度	45%	授業への積極的な参加意欲・態度・出席状況・提出物などを評価などの対象にします。		期末試験	40%	授業内容全般に関する理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象にします。	
語彙テスト	10%	NGSL第3段階の語彙力テストの成績		e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習、復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、試験準備は原則として各自の自習とします。				何時でも質問や相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	Dave Rear・Hisashi Sugito, Understanding Our New Challenges (成美堂, 2018) 徳永守儀・田本健一・綱代敦 Building up English Skills! (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	岩村圭南『英語の正しい発音の仕方（基礎編）（リズム・イントネーション編）』（研究社） English Program for Global Mobility: 2021 Student Handbook			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Comprehensive English (G6)						
担当教員	高梨 良夫			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力を確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自主学習を通じて、NGSL第4段階の約500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。 自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。 自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。 NGSL第4段階（No. 1901-2400）の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	3学期と同様、衛星放送で放映された日本に関する時事的問題を扱っている英文テキスト NHK Newsline 2 を使用する。学生を主体とした演習形式で、DVDの映像で内容を確認してから、Exercises に取り組み、英文の精読を行う。一つの Unit を前後に分けて2回行う。また文法・作文用のテキスト Keystone: Grammar-based English Writing を用いて Writing に取り組み、英語表現の訓練を行う。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	NHK Newsline 2, Unit 8: Sorting It Out (前半) Keystone: Grammar-based English Writing, Chapter 13: 形容詞と副詞						
2	Sorting It Out (後半) Chapter 14: 受け身						
3	Unit 9: Haircut for Charity (前半) Chapter 15: 比較						
4	Haircut for Charity (後半) Chapter 16: 不定詞 (1)						
5	Unit 10: Peer Group Consumption (前半) Chapter 17: 不定詞 (2)						
6	Peer Group Consumption (後半) Chapter 18: 分詞						
7	Unit 11: Taste of Temple Life (前半) Chapter 19: 動名詞						
8	Taste of Temple Life (後半) Chapter 20: 接続詞						
9	Unit 12: New Take on Tatami (前半) Chapter 21: 関係詞 (1)						
10	New Take on Tatami (後半) Chapter 22: 関係詞 (2)						
11	Unit 13: Traveling with Confidence (前半) Chapter 23: 仮定法						
12	Traveling with Confidence (後半) Chapter 24: 話法						
13	Unit 14: Tanzanian Students Discover Japan (前半) Chapter 25: 否定・強意・倒置・省略						
14	Tanzanian Students Discover Japan (後半) 総復習						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加意欲・態度	45%	授業への積極的な参加意欲・態度、出席状況、提出物などを評価の対象にします。		期末テスト	40%	授業内容全般に関する理解を問う問題を出題し、理解度を評価の対象にします。	
語彙テスト	10%	NGSL第4段階の語彙テストの成績		e-learning	5%	e-learning の成績評価については配布プリント参照	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習、復習をして授業に臨む。NGSL と e-learning については、原則として各自の自習とします。				何時でも質問や相談に応じます。メール可。			
教科書・テキスト	Tetsuro Yamazaki 他編, NHK Newsline 2 (金星堂, 2019) Noboru Nagasawa, Gordon Bobson, Keystone: Grammar-based English Writing (成美堂)			受講生に望むこと	必ず予習・復習をして授業に臨んで欲しい。授業は学生全員の予習・出席を前提に進めますので、毎回の授業が試験と思って出席して下さい。		
参考書・参考資料等	岩村圭南『英語の正しい発音の仕方(基礎編)(リズム・イントネーション編)』(研究社) English Program for Global Mobility: 2021 Student Handbook			その他・特記事項	特になし		



授業科目	Comprehensive English (G4)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			



授業科目	Comprehensive English (G5)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			



授業科目	Comprehensive English (G7)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	Comprehensive English (G3)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで、自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。更には、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。 ・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。 ・自分の意見や考えについての英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。 ・NGSL第4段階（No.1901-2400）の語彙を正しく運用することができる。 ・2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの力を更にレベルアップしてもらう。 			
キーワード	Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング、語彙						
教授方法	授業は演習形式で、授業の前半は、テキストやプリントを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Textbook Unit 10 と 「英国女性の足跡」の記事の講読（内容確認）						
2	Textbook Unit 11 と 「英国女性の足跡」の記事の内容についての英語によるディスカッション						
3	Textbook Unit 12 と 「現代英国女性の開放度」の記事の講読（内容確認）						
4	Textbook Unit 13 と 「現代英国女性の開放度」の記事の内容についての英語によるディスカッション						
5	Textbook Unit 14 と 英国王室についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
6	英国王室の記事の内容についての英語によるディスカッションと英国の王室と日本の皇室を英語で比較する。						
7	英国の主なフェスティバルの記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
8	日本のフェスティバルについてのプレゼンテーション 1						
9	日本のフェスティバルについてのプレゼンテーション 2						
10	英国のクリスマスの記事の講読（内容確認）						
11	英国のクリスマスの記事の内容についての英語によるディスカッション						
12	英国の移民問題についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
13	英国の移民問題についての記事の内容についての英語によるディスカッション						
14	総括						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な目標を十分に達成している。【B】基本的な目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
提出物、テスト	30%	提出物によって評価する。		英語によるプレゼンテーション	30%	英語のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。	
授業貢献	25%	授業貢献度によって評価する。		上記以外の授業評価	15%	NGSL10%とe-learning 5%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。予習を十分してから授業に臨むこと。授業後も復習を最低1時間はすること。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Shogo Mitsutomi & Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2 ・John H. Randle & Atsushi Mukuhira, Britain at a Watershed (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-3415-7 			受講生に望むこと	<p>受講生の積極的な授業参加を期待する。毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可）スマートフォンや携帯電話は授業中に使わないこと。予習、復習をよくすること。</p>		
参考書・参考資料等	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			その他・特記事項	各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。		

授業科目	Comprehensive English (G1)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。 ・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。 ・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。 ・NGSL第4段階（No. 1901-2400）の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	演習型のインタラクティブな授業。ペアワーク、討論を通してプレゼンテーション力を身につけさせる。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Comprehensive English I の振り返り						
2	音楽、TV番組について話す						
3	映画についての作文						
4	パラグラフからプレゼンテーションへ						
5	時間の使い方について考える NGSL1901～2150						
6	大学の授業について話す						
7	ビジネス文書を書く NGSL2151～2400						
8	Unit7～9復習						
9	様々な職業について話す						
10	金銭感覚について考える						
11	尊敬する人物についての作文						
12	人生経験について話す Unit10～12復習						
13	総括						
14	総復習確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	50	授業で学んだ事柄を試験で確認		授業レポート	25	授業で課された宿題の提出	
小テスト	10	授業での発表		上記以外の授業評価	15	NGSL（10） e-learning（5）	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
十分な予習復習を行う。				授業で前後及びメールでの対応。			
教科書・テキスト	EVOLVE3 ケンブリッジ大学出版			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	随時授業時に配布する			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Academic English Communication (G2)						
担当教員	Cheryl Kirchoff		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to outline a report, write a thesis statement for a multiple -paragraph essay in which they search for information and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Communication with People of Other Cultures" will be studied. Studying the fourth group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.				
キーワード	Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 7, practice discussion with new phrases						
2	Unit 7, Writing Unit an essay, Outline assignment						
3	Unit 7, Writing Unit						
4	Unit 7, practice discussion with new phrases						
5	Unit 7, Writing Unit Thesis Statements						
6	Unit 7, Discussion Test						
7	Writing Unit, outline and topic sentences						
8	Unit 8, Writing Unit						
9	Unit 8, Writing Unit						
10	Unit 8, Writing Unit						
11	Unit 8 Discussion Test, introduce Core Reading						
12	Core Reading Assignment A discussion						
13	Core Reading Assignment B discussion						
14	Core Reading Assignment C discussion						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	2 discussion tests		Writing	45	an expository essay, Core Reading assignments	
Reading	10	fluency reading		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G6)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to outline a report, write a thesis statement for a multiple -paragraph essay in which they search for information and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Communication with People of Other Cultures" will be studied. Studying the fourth group of 500 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.			
キーワード	Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 7, practice discussion with new phrases						
2	Unit 7, Writing Unit an essay, Outline assignment						
3	Unit 7, Writing Unit						
4	Unit 7, practice discussion with new phrases						
5	Unit 7, Writing Unit Thesis Statements						
6	Unit 7, Discussion Test						
7	Writing Unit, outline and topic sentences						
8	Unit 8, Writing Unit						
9	Unit 8, Writing Unit						
10	Unit 8, Writing Unit						
11	Unit 8 Discussion Test, introduce Core Reading						
12	Core Reading Assignment A discussion						
13	Core Reading Assignment B discussion						
14	Core Reading Assignment C discussion						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Speaking	35	2 Discussion Tests			Writing	45	an expository essay, Core Reading assignments
Reading	10	fluency reading			Vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G1)				
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to outline a report, write a thesis statement for a multiple-paragraph essay in which they search for information and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Communication with People of Other Cultures" will be studied. Studying the fourth group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, report writing				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, Unit 7 "Online advertising: Makin our lives better" + discussion-phrase practice				
2	Unit 7+ essay writing				
3	Unit 7 + essay writing				
4	Unit 7 + practice discussion				
5	Unit 7 + writing				
6	Unit 7 + discussion test				
7	Essay writing				
8	Unit 9 "Do you want to live forever?" + writing				
9	Unit 9 + writing				
10	Unit 9 + writing				
11	Unit 9 discussion test + Core Reading				
12	Core reading				
13	Core reading				
14	Core reading + Review				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Speaking	40	Various recorded discussions	Writing	40	an essay + Core Reading assignments
Reading	10	Fluency reading	Vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Contact me by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G3)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to outline a report, write a thesis statement for a multiple-paragraph essay in which they search for information and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Communication with People of Other Cultures" will be studied. Studying the fourth group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, writing an essay, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 7, practice discussion with new phrases				
2	Unit 7, Writing Unit an essay				
3	Unit 7, Writing Unit				
4	Unit 7, practice discussion with new phrases				
5	Unit 7, Writing Unit				
6	Unit 7, discussion test				
7	Writing Unit				
8	Unit 8 Writing Unit				
9	Unit 8 Writing Unit				
10	Unit 8, Writing Unit				
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading				
12	Core Reading Assignment A				
13	Core Reading Assignment B				
14	Core Reading Assignment C				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	discussion skills	writing	45	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G4)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to outline a report, write a thesis statement for a multiple-paragraph essay in which they search for information and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Communication with People of Other Cultures" will be studied. Studying the fourth group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, writing an essay, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 7, practice discussion with new phrases				
2	Unit 7, Writing Unit an essay				
3	Unit 7, Writing Unit				
4	Unit 7, practice discussion with new phrases				
5	Unit 7, Writing Unit				
6	Unit 7, discussion test				
7	Writing Unit				
8	Unit 8 Writing Unit				
9	Unit 8 Writing Unit				
10	Unit 8, Writing Unit				
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading				
12	Core Reading Assignment A				
13	Core Reading Assignment B				
14	Core Reading Assignment C				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	discussion skills	writing	45	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G5)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to outline a report, write a thesis statement for a multiple-paragraph essay in which they search for information and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Communication with People of Other Cultures" will be studied. Studying the fourth group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, writing an essay, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 7, practice discussion with new phrases				
2	Unit 7, Writing Unit an essay				
3	Unit 7, Writing Unit				
4	Unit 7, practice discussion with new phrases				
5	Unit 7, Writing Unit				
6	Unit 7, discussion test				
7	Writing Unit				
8	Unit 8 Writing Unit				
9	Unit 8 Writing Unit				
10	Unit 8, Writing Unit				
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading				
12	Core Reading Assignment A				
13	Core Reading Assignment B				
14	Core Reading Assignment C				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	discussion skills	writing	45	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G7)				
担当教員	Keff Kenner		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to outline a report, write a thesis statement for a multiple-paragraph essay in which they search for information and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Communication with People of Other Cultures" will be studied. Studying the fourth group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, writing an essay, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 7, practice discussion with new phrases				
2	Unit 7, Writing Unit an essay				
3	Unit 7, Writing Unit				
4	Unit 7, practice discussion with new phrases				
5	Unit 7, Writing Unit				
6	Unit 7, discussion test				
7	Writing Unit				
8	Unit 8 Writing Unit				
9	Unit 8 Writing Unit				
10	Unit 8, Writing Unit				
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading				
12	Core Reading Assignment A				
13	Core Reading Assignment B				
14	Core Reading Assignment C				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	discussion skills	writing	45	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Comprehensive English (G7)						
担当教員	坂 淳一			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。 ・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。 ・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。 ・NGSL第5段階(No. 2401-2801)の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	テキストに基づいて、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能演習を行い、音読を行う。また、300語の英語エッセイを書き、TEDのスピーチによるリスニングを行い、プレゼンテーション動画も作成する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業に関する説明、テキスト Unit 1、Core Reading (1)、語彙学習についての説明						
2	Unit 1(続き)、Core Reading (2)、NGSL(1)						
3	Unit 2、Core Reading (3)、NGSL(2)						
4	Unit 3、Core Reading (4)、NGSL(3)						
5	Unit 4、エッセイライティングについて(1)、NGSL(4)、TEDリスニング(1)						
6	Unit 5、エッセイライティングについて(2)、NGSL(5)						
7	Unit 6、エッセイライティングについて(3)、NGSL(6)						
8	Unit 7、プレゼンテーションの技術(1)、NGSL(7)						
9	Unit 9、プレゼンテーションの技術(2)、NGSL(8)						
10	Unit 10、プレゼンテーションの技術(3)、NGSL(9)、TEDリスニング(2)						
11	Unit 11、ディスカッションの表現(1)、NGSL(10)						
12	Unit 12、ディスカッションの表現(2)、NGSL(11)						
13	Unit 13、ディスカッションの表現(3)、NGSL(12)						
14	Unit 14、NGSL(13)、TEDリスニング(3)						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(面接)	20	プレゼン動画に基づく英語の口頭試問		授業レポート	30	300語エッセイの出来栄	
プレゼンテーション動画	30	プレゼン動画の出来栄		上記以外の授業評価	20	音読10%、NGSL10%	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
指示された予習・復習を必ず行い、NGSL課題にしっかりと取り組んでください。また、期限までにライティングやプレゼンテーションの課題を提出すること。				質問は出来るだけ授業中に行ってください。相談はまずは e-mail で、必要ならばアポイントを取って Zoom でも行えます。			
教科書・テキスト	『CLIL 英語で考えるSDGs—持続可能な開発目標』(三修社)			受講生に望むこと	授業外でもたくさん英語に接して下さい。		
参考書・参考資料等	必要に応じてオンラインで配信します。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Comprehensive English (G4)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。 ・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。 ・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。 ・NGSL第5段階(No. 2401-2801)の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	リーディングによるインプットを事前に行い、授業にてアウトプットの機会を充実させるフリッパーニング						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(シラバス、学習方法の確認)、Core ReadingとReaction paper						
2	テキストU1(Cause & Effect), U2(Comparison & Contrast), U3(Giving an Opinion)						
3	テキストU1(Cause & Effect), U2(Comparison & Contrast), U3(Giving an Opinion) , NGSL2401-2480						
4	テキストU4(Classification), U5(Describing a Process), U6(Descriptive Writing)						
5	テキストU4(Classification), U5(Describing a Process), U6(Descriptive Writing) , NGSL2481-2560						
6	300-word Essay と プレゼンテーション						
7	テキストU7(Persuasive Writing), U8(Writing to Evaluate), U9(Pros & Cons) , NGSL2561-2640						
8	テキストU7(Persuasive Writing), U8(Writing to Evaluate), U9(Pros & Cons)						
9	テキストU10(Writing to Advise), U11(Writing to Clarify), U12(Reflective Writing) , NGSL2641-2720						
10	テキストU10(Writing to Advise), U11(Writing to Clarify), U12(Reflective Writing)						
11	テキストU13(Problem Solving), U11(Writing to Entertain), U12(Writing to Inspire) , NGSL2721-2801						
12	テキストU13(Problem Solving), U11(Writing to Entertain), U12(Writing to Inspire)						
13	300-word Essay と プレゼンテーション						
14	500-word Essayのラフドラフト作成と発表						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	4技能融合型の設問における英語運用力を測る		プレゼンテーション	20	所定の条件下における情報発信力を測る	
提出課題	30	効果的に主張を展開するためのライティング力を測る		NGSL共通課題	10	NGSL対象範囲の学習過程・習熟度を評価する	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料の要点を理解し、事後学習として授業で行ったパフォーマンス(スピーキング・ライティング等)をより洗練させようとしてOneNoteへの投稿などが求められる。また適宜、語彙学習および英語トレーニングが指示される。				大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。			
教科書・テキスト	Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing (Hickling, R., & Yashima, J., Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-369-4) [以上1冊]			受講生に望むこと	自分で書いた英文を見直す機会を積極的に作ってください。		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・『国際学会Englishスピーキング・エクササイズ口演・発表・応答』(Langham, C.S. 医歯薬出版) ・1年次前期使用した英語音声のテキスト 			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Comprehensive English (G6)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。 ・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。 ・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。 ・NGSL第5段階(No. 2401-2801)の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	リーディングによるインプットを事前に行い、授業にてアウトプットの機会を充実させるフリッパーニング						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(シラバス、学習方法の確認)、Core ReadingとReaction paper						
2	テキストU1(Cause & Effect), U2(Comparison & Contrast), U3(Giving an Opinion)						
3	テキストU1(Cause & Effect), U2(Comparison & Contrast), U3(Giving an Opinion) , NGSL2401-2480						
4	テキストU4(Classification), U5(Describing a Process), U6(Descriptive Writing)						
5	テキストU4(Classification), U5(Describing a Process), U6(Descriptive Writing) , NGSL2481-2560						
6	300-word Essay と プレゼンテーション						
7	テキストU7(Persuasive Writing), U8(Writing to Evaluate), U9(Pros & Cons) , NGSL2561-2640						
8	テキストU7(Persuasive Writing), U8(Writing to Evaluate), U9(Pros & Cons)						
9	テキストU10(Writing to Advise), U11(Writing to Clarify), U12(Reflective Writing) , NGSL2641-2720						
10	テキストU10(Writing to Advise), U11(Writing to Clarify), U12(Reflective Writing)						
11	テキストU13(Problem Solving), U11(Writing to Entertain), U12(Writing to Inspire) , NGSL2721-2801						
12	テキストU13(Problem Solving), U11(Writing to Entertain), U12(Writing to Inspire)						
13	300-word Essay と プレゼンテーション						
14	500-word Essayのラフドラフト作成と発表						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	4技能融合型の設問における英語運用力を測る		プレゼンテーション	20	所定の条件下における情報発信力を測る	
提出課題	30	効果的に主張を展開するためのライティング力を測る		NGSL共通課題	10	NGSL対象語彙の学習過程・習熟度を評価する	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
基本的なサイクルとして、授業時間と同等な時間を授業外学習に充て、事前学習として指定された資料の要点を理解し、事後学習として授業で行ったパフォーマンス(スピーキング・ライティング等)をより洗練させようとしてOneNoteへの投稿などが求められる。また適宜、語彙学習および英語トレーニングが指示される。				大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。			
教科書・テキスト	Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing (Hickling, R., & Yashima, J., Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-369-4) [以上1冊]			受講生に望むこと	自分で書いた英文を見直す機会を積極的に作ってください。		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・『国際学会Englishスピーキング・エクササイズ口演・発表・応答』(Langham, C.S. 医歯薬出版) ・1年次前期使用した英語音声のテキスト 			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Comprehensive English (G2)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。 ・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。 ・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。 ・NGSL第5段階(No. 2401-2801)の語彙を正しく運用することができる。 ・物事をクリティカルに考えて、プレゼンテーションで発表することができる。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	この授業はオンライン授業とする。前半の60分をZoomを使ったリアルタイム型、後半の40分をGlexaを使ったオンデマンド型とする。 リアルタイム型：リーディングやライティングなどの活動をWordファイルを共有しながらグループでおこなう。 オンデマンド型：動画で説明などを視聴したり、読解問題に取り組んだりする。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Guidance, Unit 1 (Reading 1)						
2	Unit 1 (Writing), プレゼン説明 (1)						
3	Unit 2 (Reading 2), プレゼン説明 (2)						
4	Unit 2 (Writing), Video						
5	Unit 3 (Reading 1), パラグラフ・ライティング説明 (1)						
6	Unit 3 (Reading 2), パラグラフ・ライティング説明 (2)						
7	Unit 3 (Writing), Video						
8	Unit 4 (Reading 1), プレゼンテーション (Unit 2)						
9	Unit 4 (Reading 2), プレゼンテーション (Unit 3)						
10	Unit 4 (Writing), Video						
11	Unit 5 (Reading 1), プレゼンテーション (Unit 4)						
12	Unit 5 (Writing), プレゼンテーション (Unit 5)						
13	Core Reading (1), Video						
14	Core Reading (2), 要約						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ライティング課題	20	英語力だけでなく構成なども含めて、その完成度により評価する。		プレゼンテーション	20	声の大きさ、発音、構成、視覚資料などから完成度により評価する。	
期末試験	40	リーディング・スキルを使ってどれだけ読解できるかにより評価する。		その他	20	NGSL 10%, MyELT 10%	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習：リーディングの音読、単語調べ、プレゼン準備など。 事後学習：MyELTを使って、リーディングやライティングの復習をする。				Zoomの後に15分程度質問タイムを作ります。 メールでも対応可(初回授業でアドレスをお知らせします)。			
教科書・テキスト	Pathways 2A: Reading, Writing, and Critical Thinking (2nd Edition) Cengage Learning			受講生に望むこと	洋楽を発音に注意しながら一緒に歌う、ドラマや映画などを字幕なし(または英語字幕)で見ると、面白そうな英字新聞の記事を毎日一つ見つけて音読するなど、日ごろから英語を身近な存在にしてください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoomにアクセスできない場合はメールをください ・各種お知らせは Glexa に載せます。 		

授業科目	Comprehensive English (G5)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。 ・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。 ・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。 ・NGSL第5段階(No. 2401-2801)の語彙を正しく運用することができる。 ・物事をクリティカルに考えて、プレゼンテーションで発表することができる。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	この授業はオンライン授業とする。前半の60分をZoomを使ったリアルタイム型、後半の40分をGlexaを使ったオンデマンド型とする。リアルタイム型：リーディングやライティングなどの活動をWordファイルを共有しながらグループでおこなう。オンデマンド型：動画で説明などを視聴したり、読解問題に取り組んだりする。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Guidance, Unit 1 (Reading 1)						
2	Unit 1 (Writing), プレゼン説明 (1)						
3	Unit 2 (Reading 2), プレゼン説明 (2)						
4	Unit 2 (Writing), Video						
5	Unit 3 (Reading 1), パラグラフ・ライティング説明 (1)						
6	Unit 3 (Reading 2), パラグラフ・ライティング説明 (2)						
7	Unit 3 (Writing), Video						
8	Unit 4 (Reading 1), プレゼンテーション (Unit 2)						
9	Unit 4 (Reading 2), プレゼンテーション (Unit 3)						
10	Unit 4 (Writing), Video						
11	Unit 5 (Reading 1), プレゼンテーション (Unit 4)						
12	Unit 5 (Writing), プレゼンテーション (Unit 5)						
13	Core Reading (1), Video						
14	Core Reading (2), 要約						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ライティング課題	20	英語力だけでなく構成なども含めて、その完成度により評価する。		プレゼンテーション	20	声の大きさ、発音、構成、視覚資料などから完成度により評価する。	
期末試験	40	リーディング・スキルを使ってどれだけ読解できるかにより評価する。		その他	20	NGSL 10%, MyELT 10%	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習：リーディングの音読、単語調べ、プレゼン準備など。 事後学習：MyELTを使って、リーディングやライティングの復習をする。				Zoomの後に15分程度質問タイムを作ります。 メールでも対応可(初回授業でアドレスをお知らせします)。			
教科書・テキスト	Pathways 2A: Reading, Writing, and Critical Thinking (2nd Edition) Cengage Learning			受講生に望むこと	洋楽を発音に注意しながら一緒に歌う、ドラマや映画などを字幕なし(または英語字幕)で見ると、面白そうな英字新聞の記事を毎日一つ見つけて音読するなど、日ごろから英語を身近な存在にしてください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoomにアクセスできない場合はメールをください ・各種お知らせは Glexa に載せます。 		

授業科目	Comprehensive English (G1)						
担当教員	福岡 真知子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。 ・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。 ・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。 ・NGSL第5段階(No. 2401-2801)の語彙を正しく運用することができる。 ・将来に活かせる英語力の基礎固めが確実になり、応用に入る段階に達する。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	CLILアプローチで、語彙・表現習得、多様な現代情報文読解、論理的思考をし、調査、Group Discussion、発表から、形式に適合した論理的、客観的なEssay が書けるようにする。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業ガイダンス(シラバス・学習方法・NGSL等の確認)。テストとアンケート。Self-Introduction。						
2	基本的展開： NGSL テキストの、環境問題やビジネスや国際関係に関するReading部の読解 全体で解答確認 Discussion, Step 2までは予習で用意し、Step 3-5はpair で、Step 6 はgroup で行う。統計、図表、グラフなども読めるようにする。						
3	～ 。 は前回までの語彙のミニテスト。 加えて、 Presentation (2分間)とEssay Writing (5パラグラフ)を学期末に、という事項に向けて、Essay Writing の基本を押さえる。(はその他)						
4	～ 。加えて、 のPresentation (2分間)との事項に向けて、Presentation の基本を押さえる。						
5	～ 。						
6	、 テキストの中間復習。テキストUnits 1-7の試験。Essay Writing の学び(2)						
7	～ 。						
8	～ 。 調査資料の書き方(1)						
9	～ 。 調査資料の書き方(2)						
10	～ 。 groupで PresentationとEssay Writing の試行						
11	～ 。						
12	～ 。 ペアで、 のためのPeer Edit (Presentation Scriptと Essay)						
13	テキストUnits 8-15の試験。 Presentation						
14	Essay とPresentation script を提出 講評。フォローアップ。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	40%	筆記試験とPresentationで到達目標達成度を評価		英文レポート	20%	読解から既定の形式で論理的に書いたEssayを評価	
授業内活動・貢献	30%	授業への参加・活動・貢献度を評価		上記以外の授業評価	10%	NGSL共通試験において対象語彙の習熟度を測る	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習・復習は必須。提出課題とNGSLに取り組みを。				授業時の質問タイム利用、あるいは、メールでどうぞ。			
教科書・テキスト	仲谷都ほか『CLIL: Discuss the Changing World』(成美堂)と配布教材			受講生に望むこと	予習復習は必須です。将来役立つ英語力をつけるよう、授業に積極的に取り組んでください。		
参考書・参考資料等	授業中に提示します。			その他・特記事項	ポータルを通じたお報せに注意。配布資料のダウンロードを。課題提出はメールで。		

授業科目	Comprehensive English (G3)						
担当教員	福岡 真知子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。 ・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。 ・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。 ・NGSL第5段階(No. 2401-2801)の語彙を正しく運用することができる。 ・将来に活かせる英語力の基礎固めが確実になり、応用に入る段階に達する。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	CLILアプローチで、語彙・表現習得、多様な現代情報文読解、論理的思考をし、調査、Group Discussion、発表から、形式に適合した論理的、客観的なEssay が書けるようにする。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業ガイダンス(シラバス・学習方法・NGSL等の確認)。テストとアンケート。Self-Introduction。						
2	基本的展開： NGSL テキストの、環境問題やビジネスや国際関係に関するReading部の読解 全体で解答確認 Discussion, Step 2までは予習で用意し、Step 3-5はpair で、Step 6 はgroup で行う。統計、図表、グラフなども読めるようにする。						
3	～ 。 は前回までの語彙のミニテスト。 加えて、 Presentation (2分間)とEssay Writing (5パラグラフ)を学期末に、という事項に向けて、Essay Writing の基本を押さえる。(はその他)						
4	～ 。加えて、 のPresentation (2分間)という事項に向けて、Presentation の基本を押さえる。						
5	～ 。						
6	、 テキストの中間復習。テキストUnits 1-7の試験。Essay Writing の学び(2)						
7	～ 。						
8	～ 。 調査資料の書き方(1)						
9	～ 。 調査資料の書き方(2)						
10	～ 。 groupで PresentationとEssay Writing の試行						
11	～ 。						
12	～ 。 ペアで、 のためのPeer Edit (Presentation Scriptと Essay)						
13	テキストUnits 8-15の試験。 Presentation						
14	Essay とPresentation script を提出 講評。フォローアップ。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	40%	筆記試験とPresentationで到達目標達成度を評価		英文レポート	20%	読解から既定の形式で論理的に書いたEssayを評価	
授業内活動・貢献	30%	授業への参加・活動・貢献度を評価		上記以外の授業評価	10%	NGSL共通試験において対象語彙の習熟度を測る	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習・復習は必須。提出課題とNGSLに取り組みを。				授業時の質問タイム利用、あるいは、メールでどうぞ。			
教科書・テキスト	仲谷都ほか『CLIL: Discuss the Changing World』(成美堂)と配布教材			受講生に望むこと	予習復習は必須です。将来役立つ英語力をつけるよう、授業に積極的に取り組んでください。		
参考書・参考資料等	授業中に提示します。			その他・特記事項	ポータルを通じたお報せに注意。配布資料のダウンロードを。課題提出はメールで。		

授業科目	Academic English Communication (G1)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentations and language for individual and group presentations. A Core Reading, "Making the Most of Your Study Abroad" will be studied. Studying the last group of 400 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. outline a presentation, 2. use academic presentation language for individual and group presentations, 3. discuss how to make the most of an overseas experience, 4. use the fifth group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, presentation skills, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment						
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines						
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity						
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading						
5	Core Reading I discussion, destination groups decide theme and individual topics						
6	Core Reading II discussion, use NGSL						
7	Core Reading III discussion, review citing sources for Presentation B Planning Sheet						
8	Presentation B done in destination groups, Introduction to In Focus Unit 10						
9	Unit 10, page 74, 75, Introduction to Presentation C, destination groups talk about presenter order, use NGSL						
10	Unit 10, page 78, 79, Introduction to TED Talks and CNBC assignment						
11	CNBC assignment discussion, Presentation Phrases practice						
12	Arai TED Talk discussion, explanation of discussion test, Presentation C planning						
13	Unit 10 Discussion test, Presentation C rehearsal						
14	Presentation C						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Presentations	50	3 presentations, outline assignments			Discussion	15	In Focus Unit 10 discussion and assignments
4 skills	25	Core Reading and other assignments			Vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Assignments must be turned in on time, before class.				If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to send the instructor an email at any time. If you want to make an appointment to meet, ask during class or send an email.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.		
参考書・参考資料等	A dictionary with good English sample sentences. Please bring an appropriate notebook to class.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G3)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (400) of the NGSL will be used.				Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.			
キーワード	Fluency, listening, writing, reading, NGSL, discussions, presentations						
教授方法	Students will have listening comprehension exercises, do pair practices, and have group and class discussions in English. They will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction, course overview, class policies and procedures						
2	Textbook Unit 1 and useful knowledge for English presentations						
3	Textbook Unit 2 and group presentations about students' study abroad programmes						
4	Textbook Unit 3 and group presentations about students' study abroad programmes						
5	Textbook Unit 4 and discussions about a 'global' person						
6	Textbook Unit 5 and discussions about global businessmen/businesswomen Case study 1: Anita Roddick						
7	Textbook Unit 6 and giving a presentation about a global businessman/businesswoman particularly respected by a student						
8	Textbook Unit 7 and giving a presentation about a global businessman/businesswoman particularly respected by a student						
9	Textbook Unit 8 and discussions about global companies Case study 1: The Body Shop						
10	Textbook Unit 9 and giving a presentation about a global company that interests a student most						
11	Textbook Unit 10 and giving a presentation about a global company that interests a student most						
12	Textbook Unit 11 and discussions about multiculturalism						
13	Textbook Unit 12 and discussions about foreign workers						
14	Textbook Unit 13 and Review						
共通の成績評価基準							
Target grade spread is as follows: S grade for 25% or less of the students per class: A grade combined with S grade for 75% or less of students: no limits for B, C and F grades.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Discussions and presentations	50%	Discussions and presentations			listening tests,	40%	I will evaluate students' listening, reading and writing skills of English.
NGSL test	10%	80% pass or fail of the NGSL					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Students are expected to prepare and review lessons. They also need to study the fifth group of 400 words of the NGSL.				I will be available for students before and after class for questions.			
教科書・テキスト	Takayuki Ishii & Joe Ciunci, All-Powerful Steps for The TOEIC Listening and Reading Test (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-6029-3.			受講生に望むこと	Students need to use their English-English dictionary constantly. The working language of the class is English.		
参考書・参考資料等	The teacher will distribute other handouts as well. She will supply students with a list of relevant and useful articles and books.			その他・特記事項	Any student, who fails to submit his/her assignments, cannot get a credit for this course. Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.		

授業科目	Academic English Communication (G5)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentation language, how to make the most of an overseas experience, and reviewing conversation strategies. Fluency in reading and speaking will be practiced. The fifth group of words (400) of the NGSL will be used.				Students will learn academic presentation language for individual and group presentations, discuss how to make the most of an overseas experience, practice conversation strategies, and learn the fifth group of words of the NGSL. Students will practice fluency in reading and speaking.			
キーワード	Fluency, listening, writing, reading, NGSL, discussions, presentations						
教授方法	Students will have listening comprehension exercises, do pair practices, and have group and class discussions in English. They will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction, course overview, class policies and procedures						
2	Textbook Unit 1 and useful knowledge for English presentations						
3	Textbook Unit 2 and group presentations about students' study abroad programmes						
4	Textbook Unit 3 and group presentations about students' study abroad programmes						
5	Textbook Unit 4 and discussions about a 'global' person						
6	Textbook Unit 5 and discussions about global businessmen/businesswomen Case study 1: Anita Roddick						
7	Textbook Unit 6 and giving a presentation about a global businessman/businesswoman particularly respected by a student						
8	Textbook Unit 7 and giving a presentation about a global businessman/businesswoman particularly respected by a student						
9	Textbook Unit 8 and discussions about global companies Case study 1: The Body Shop						
10	Textbook Unit 9 and giving a presentation about a global company that interests a student most						
11	Textbook Unit 10 and giving a presentation about a global company that interests a student most						
12	Textbook Unit 11 and discussions about multiculturalism						
13	Textbook Unit 12 and discussions about foreign workers						
14	Textbook Unit 13 and Review						
共通の成績評価基準							
Target grade spread is as follows: S grade for 25% or less of the students per class: A grade combined with S grade for 75% or less of students: no limits for B and C grades.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
Discussions and presentations	50%	Discussions and presentations			listening tests,	40%	I will evaluate students' listening, reading and writing skills of English.
NGSL test	10%	80% pass or fail of the NGSL					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Students are expected to prepare and review lessons. They also need to study the fifth group of 400 words of the NGSL.				I will be available for students before and after class for questions.			
教科書・テキスト	Takayuki Ishii & Joe Ciunci, All-Powerful Steps for The TOEIC Listening and Reading Test (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-6029-3.			受講生に望むこと	Students need to use their English-English dictionary constantly. The working language of the class is English.		
参考書・参考資料等	The teacher will distribute other handouts as well. She will supply students with a list of relevant and useful articles and books.			その他・特記事項	Any student, who fails to submit his/her assignments, cannot get a credit for this course. Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.		

授業科目	Academic English Communication (G2)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentations and language for individual and group presentations. A Core Reading, "Making the Most of Your Study Abroad" will be studied. Studying the last group of 400 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. outline a presentation, 2. use academic presentation language for individual and group presentations, 3. discuss how to make the most of an overseas experience, 4. use the fifth group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, presentation skills, NGSL						
教授方法	Every class will be active and include speaking with classmates about textbook topics. There will activities to use and practice NGSL words every week. The ability to summarize readings and discussions effectively will be emphasized.						
履修条件等	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, presentation A, language card and template						
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk						
3	Presentation A slide explanation, conversation strategies I, NGSL review						
4	Presentation A, fluency reading, and book talk						
5	Presentations phrases test, conversation strategies II, Core Reading discussion						
6	Core Reading discussion, fluency reading, and book talk						
7	Core Reading discussion, conversation strategies III, Presentation B						
8	Presentation B outline, fluency reading and book talk						
9	Overseas Program destination group explanation, conversation strategies IV						
10	Overseas Program destination group, fluency reading and book talk						
11	Overseas Program destination group work, presentation phrases, conversation strategies V						
12	Presentation C						
13	Presentation C						
14	Course evaluation and review						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Presentations	50	Group and 2 individual		Four Skills	25	Conversation Strategies, Core Reading, and other assignments	
Discussion	15	Tests on conversation strategies and presentation phrases		Vocabulary	10	NGSL tests	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Before class, read, write, and prepare materials. This includes the text, relevant vocabulary, reports, and online documents. After class, review material that we have learned, and reflect on what you can and cannot do yet. Studying in pairs or small groups is highly encouraged.				Contact by Google Form, email and Zoom office hours.			
教科書・テキスト	Instructor- and student-provided materials			受講生に望むこと	Work hard, complete all tasks, collaborate with classmates, formulate and ask questions, be curious and critical and creative.		
参考書・参考資料等	Digital literacy skills and cloud-based computing will be used.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (G4)				
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentations and language for individual and group presentations. A Core Reading, "Making the Most of Your Study Abroad" will be studied. Studying the last group of 400 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. outline a presentation, 2. use academic presentation language for individual and group presentations, 3. discuss how to make the most of an overseas experience, 4. use the fifth group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, presentation skills, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment				
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines				
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity				
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading				
5	Core Reading I discussion, destination groups decide theme and individual topics				
6	Core Reading II discussion, use NGSL				
7	Core Reading III discussion, review citing sources for Presentation B Planning Sheet				
8	Presentation B done in destination groups, Introduction to In Focus Unit 10				
9	Unit 10, page 74, 75, Introduction to Presentation C, destination groups talk about presenter order, use NGSL				
10	Unit 10, page 78, 79, Introduction to TED Talks and CNBC assignment				
11	CNBC assignment discussion, Presentation Phrases practice				
12	Arai TED Talk discussion, explanation of discussion test, Presentation C planning				
13	Unit 10 Discussion test, Presentation C rehearsal				
14	Presentation C				
共通の成績評価基準					
presentations【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
presentations	50%	3 presentations, outline assignments	4 skills	25%	Core Reading and other assignments
discussion	15%	In Focus Unit 10 discussion and assignments	vocabulary	10%	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and participate in class discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G6)				
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentations and language for individual and group presentations. A Core Reading, " Making the Most of Your Study Abroad" will be studied. Studying the last group of 400 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. outline a presentation, 2. use academic presentation language for individual and group presentations, 3. discuss how to make the most of an overseas experience, 4. use the fifth group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, presentation skills, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment				
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines				
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity				
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading				
5	Core Reading I discussion, destination groups decide theme and individual topics				
6	Core Reading II discussion, use NGSL				
7	Core Reading III discussion, review citing sources for Presentation B Planning Sheet				
8	Presentation B done in destination groups, Introduction to In Focus Unit 10				
9	Unit 10, page 74, 75, Introduction to Presentation C, destination groups talk about presenter order, use NGSL				
10	Unit 10, page 78, 79, Introduction to TED Talks and CNBC assignment				
11	CNBC assignment discussion, Presentation Phrases practice				
12	Arai TED Talk discussion, explanation of discussion test, Presentation C planning				
13	Unit 10 Discussion test, Presentation C rehearsal				
14	Presentation C				
共通の成績評価基準					
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
presentations	50%	3 presentations, outline assignments	4 skills	24%	Core Reading and other assignments
discussion	15%	In Focus Unit 10 discussion and assignments	vocabulary	10%	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and participate in class discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (G7)						
担当教員	Keff Kenner			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentations and language for individual and group presentations. A Core Reading, "Making the Most of Your Study Abroad" will be studied. Studying the last group of 400 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. outline a presentation, 2. use academic presentation language for individual and group presentations, 3. discuss how to make the most of an overseas experience, 4. use the fifth group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, presentation skills, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment						
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines						
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity						
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading						
5	Core Reading I discussion, destination groups decide theme and individual topics						
6	Core Reading II discussion, use NGSL						
7	Core Reading III discussion, review citing sources for Presentation B Planning Sheet						
8	Presentation B done in destination groups, Introduction to In Focus Unit 10						
9	Unit 10, page 74, 75, Introduction to Presentation C, destination groups talk about presenter order, use NGSL						
10	Unit 10, page 78, 79, Introduction to TED Talks and CNBC assignment						
11	CNBC assignment discussion, Presentation Phrases practice						
12	Arai TED Talk discussion, explanation of discussion test, Presentation C planning						
13	Unit 10 Discussion test, Presentation C rehearsal						
14	Presentation C						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
presentations	50	3 presentations, outline assignments			discussion	15	In Focus Unit 10 discussion and assignments
4 skills	25	Core Reading and other assignments			vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Career English (G5)						
担当教員	坂 淳一			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことにより、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。				<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC L&Rにおいて500点程度を取る実力が身に付いている。 ・英語で履歴書を書くことが出来る。 ・英文手紙やカヴァーレターを書くことが出来る。 			
キーワード	Accuracy、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	TOEICの練習問題、リスニング演習や音読、語彙の小テスト、e-learning なども活用して4技能を鍛えてゆく。履歴書と英文手紙は実際に書きながらポイントを学ぶ。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業のオリエンテーション、TOEIC L&R の構成と時間配分、『切り取り式』 Listening Scene 1 "Travel"、Reading Scene 1 "Business World"						
2	『戦略的トレーニング』 Unit L-1 (Part 1: 人物が写っている写真)、Unit R-1 (Part 5: 品詞)、(文法ポイント)基本5文型と名詞・形容詞・副詞						
3	Unit L-2 (part 1:人物が写っていない写真)、Unit L-3 (Part 2: 疑問詞疑問文)、(文法ポイント)疑問文の種類について(1)、語彙の小テスト(1)						
4	Unit R-2 (Part 5: 動詞の形(1))、(文法ポイント)能動態と受動態、語彙の小テスト(2)						
5	Unit L-4 (Part 2: YES/NO 疑問文・その他の疑問文)、(文法ポイント)疑問文の種類について(2)、語彙の小テスト(3)						
6	Unit L-5 (part 2:平叙文・意外な応答)、Unit L-6 (Part 2: 機能別疑問文)、語彙の小テスト(4)						
7	Unit R-3 (Part 5: 動詞の形(2))、(文法ポイント)時制と不定詞、語彙の小テスト(5)						
8	Unit R-4 (Part 5: 前置詞・接続詞)、(文法ポイント)前置詞と接続詞の使い方、語彙の小テスト(6)						
9	Part 3 の解説、Unit L-7 (Part 3: 次の行動)、英文履歴書と英文手紙の書き方(1)、語彙の小テスト(7)						
10	Part 6 の解説、Unit R-6 (Part 6: 長文穴埋め問題)、英文履歴書と英文手紙の書き方(2)、語彙の小テスト(8)						
11	Unit L-8 (Part 3: 問題点・提案・申し出)、英文履歴書と英文手紙の書き方(3)、語彙の小テスト(9)						
12	Part 7 の解説、Unit R-7 (Part 7: 広告・チャット)、英文履歴書と英文手紙の書き方(4)、語彙の小テスト(10)						
13	Unit R-8 (Part 7: Eメール・手紙)、語彙の小テスト(11)						
14	Unit L-9 (Part 3: 目的・依頼・意図)、Unit R-9 (Part 7: 告知・社内回覧)、語彙の小テスト(12)						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(筆記)	25	期末試験の点数で評価		授業レポート	25	英文履歴書、英文手紙、カヴァーレターの出来栄で評価	
小テスト	30	毎回の語彙の小テストの合計点で評価		上記以外の授業評価	20	e-learning 課題	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
指示された予習・復習と動画の視聴を必ず行い、e-learning に取り組んでください。また、期限までにビジネスライティングの課題を提出すること。				質問は出来るだけ授業中に行って欲しいと思いますが、メールでも結構です。相談はまずは e-mail で、必要ならばアポイントを取って Zoom で行うことも出来ます。			
教科書・テキスト	『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル500』(朝日出版社)、切り取り提出式 スコア別TOEIC L&R 徹底対策ドリル600 リスニング編(松柏社)、切り取り提出式 スコア別TOEIC L&R 徹底対策ドリル600 リーディング編(松柏社)			受講生に望むこと	日頃から様々な形で出来るだけたくさん英語に接して下さい。		
参考書・参考資料等	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集(1~7)(図書館にあります)			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English (G1)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことによって、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。				・TOEIC L&Rにおいて500点程度を取る実力が身についている。 ・英語で履歴書を書くことが出来るなど、英語圏での就職活動に必要な基本的事項を理解する。			
キーワード	Accuracy、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、受講生の積極的なアウトプットが求められる						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(シラバス、TOEIC L&R、S&W等)、カバーレターと履歴書、eLearningなど						
2	「精選模試R2」[1] Part 5の問題演習、eLearning Reading Part 5の問題検討、語彙確認テスト(No. 1-40)						
3	「精選模試R2」[1]Part 6の問題演習、eLearning Reading Part 6の問題検討、語彙確認テスト(No. 41-80)						
4	「精選模試R2」[1]Part 7の問題演習(1)、eLearning Listening Part 1-2の問題検討、語彙確認テスト(No. 81-120)						
5	「精選模試R2」[1]Part 7の問題演習(2)、eLearning Listening Part 3の問題検討、語彙確認テスト(No. 121-160)						
6	「精選模試R2」[1]Part 7の問題演習(3)、eLearning Listening Part 4の問題検討、語彙確認テスト(No. 161-200)						
7	TOEIC L&Rのミニテスト(1)と解説、eLearning Reading Part 7の問題検討、カバーレターと履歴書						
8	「精選模試R2」[2] Part 5の問題演習、eLearning Reading Part 5の問題検討、語彙確認テスト(No. 201-240)						
9	「精選模試R2」[2] Part 6の問題演習、eLearning Reading Part 6の問題検討、語彙確認テスト(No. 241-280)						
10	「精選模試R2」[2]Part 7の問題演習(1)、eLearning Listening Part 1-2の問題検討、語彙確認テスト(No. 281-320)						
11	「精選模試R2」[2]Part 7の問題演習(2)、eLearning Listening Part 3の問題検討、語彙確認テスト(No. 321-360)						
12	「精選模試R2」[2]Part 7の問題演習(3)、eLearning Listening Part 4の問題検討						
13	「精選模試R2」[3]Part 5-6の問題演習(3)、eLearning Reading Part 7の問題検討						
14	TOEIC L&Rのミニテスト(2)と解説						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	30	TOEIC L&Rへの対応力を測定する		ミニテスト	30	2回のミニテストにおいてTOEIC L&Rに必要な聴解力および文法理解・読解力を測定する	
語彙確認テスト	20	指定テキストにおける対象語彙の習熟度を測る		eLearning(共通課題)	20	eLearningにおけるTOEIC L&Rの学習の取り組みを評価する	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
・毎回の授業内容について、テキストを中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。さらにeLearningは、授業内容と連動させるため指示された順番とスケジュールで概ね取り組むこと。				大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。			
教科書・テキスト	・TOEIC®テスト新形式精選模試リーディング2(中村紳一郎 監修、ジャパンタイムズ出版、ISBN 978-4-7890-1720-6) ・TOEIC®L&R TEST出る単特急 金のセンテンス(TEX 加藤、朝日新聞出版、ISBN 978-4-02-331765-9) [以上2冊]			受講生に望むこと	2022年2月および将来におけるTOEIC L&RおよびS&Wの受験を見据え、授業期間終了後の自学習を充実させるために必要な学習サイクルを身につけてください。		
参考書・参考資料等	適宜紹介			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English (G4)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことによって、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。				<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC L&Rにおいて500点程度を取る実力が身についている。 ・英語で履歴書を書くことが出来る。 ・英字新聞の記事を読み、要旨をつかむことができる。 ・シャドーイングのスキルを身に付けて、長いトークの聴解に対応できる。 			
キーワード	Accuracy、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	グループ・ワークで英文記事を読んだり、関連した記事を各自が探して紹介したりする。TOEIC L&R の各パートのコツを理解したり(1~7回目)、シャドーイング練習をしたり(8~13回目)しながら、練習問題を数多く経験する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Guidance, 英文記事を読む(1-1), Units L-1&2						
2	英文記事を読む(1-2), Units R-1&2						
3	英文記事を紹介する(1-3), Units L-3&4						
4	英文記事を読む(2-1), Units R-7&8						
5	英文記事を読む(2-2), Units L-7&8						
6	英文記事を紹介する(2-3), Units R-3&4						
7	英語履歴書の書き方, Units L-10&11						
8	英文記事を読む(3-1), Units R-5&6						
9	英文記事を読む(3-2), Units L-5&6						
10	英文記事を紹介する(3-3), Units R-9&10						
11	英文記事を読む(4-1), Units L-9&12						
12	英文記事を読む(4-2), Units R-11&12						
13	英文記事を紹介する(4-3), Units L-13&14						
14	面接対応について, Reviews R-13&14						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。</p> <p>【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。</p> <p>【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。</p> <p>【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。</p> <p>【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
TOEIC L&R課題	20	目標スコア500~600に近づいたかどうかにより評価する。		NetAcademy	20	NetAcademy 500点突破コースの学習状況に応じて評価する。	
小テスト	10	語彙テストをして、理解度に応じて評価する。		期末試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践(発展)できるかに応じて評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習: 英文記事の音読、単語調べなど。 事後学習: 関連記事を探す、NetAcademyを学習する。				授業後に質問してください。 メールでも対応可(初回授業でアドレスをお知らせします)。			
教科書・テキスト	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test (Level 600) 朝日出版社			受講生に望むこと	洋楽を発音に注意しながら一緒に歌う、ドラマや映画などを字幕なし(または英語字幕)で見る、面白そうな英字新聞の記事を毎日一つ見つけて音読するなど、日ごろから英語を身近な存在にしてください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoomにアクセスできない場合はメールをください ・各種お知らせは Glexa に載せます。 		

授業科目	Career English (G3)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル履修メント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことによって、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。				<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC L&Rにおいて500点程度を取る実力が身についている。 ・英語で履歴書を書くことが出来る。 ・英字新聞の記事を読み、要旨をつかむことができる。 ・シャドーイングのスキルを身に付けて、長いトークの聴解に対応できる。 			
キーワード	Accuracy、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	グループ・ワークで英文記事を読んだり、関連した記事を各自が探して紹介したりする。TOEIC L&R の各パートのコツを理解したり(1~7回目)、シャドーイング練習をしたり(8~13回目)しながら、練習問題を数多く経験する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Guidance, 英文記事を読む(1-1), Units L-1&2						
2	英文記事を読む(1-2), Units R-1&2						
3	英文記事を紹介する(1-3), Units L-3&4						
4	英文記事を読む(2-1), Units R-7&8						
5	英文記事を読む(2-2), Units L-7&8						
6	英文記事を紹介する(2-3), Units R-3&4						
7	英語履歴書の書き方, Units L-10&11						
8	英文記事を読む(3-1), Units R-5&6						
9	英文記事を読む(3-2), Units L-5&6						
10	英文記事を紹介する(3-3), Units R-9&10						
11	英文記事を読む(4-1), Units L-9&12						
12	英文記事を読む(4-2), Units R-11&12						
13	英文記事を紹介する(4-3), Units L-13&14						
14	面接対応について, Reviews R-13&14						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。</p> <p>【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。</p> <p>【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。</p> <p>【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。</p> <p>【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
TOEIC L&R課題	20	目標スコア500~600に近づいたかどうかにより評価する。		NetAcademy	20	NetAcademy 500点突破コースの学習状況に応じて評価する。	
小テスト	10	語彙テストをして、理解度に応じて評価する。		期末試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践(発展)できるかに応じて評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習: 英文記事の音読、単語調べなど。 事後学習: 関連記事を探す、NetAcademyを学習する。				授業後に質問してください。 メールでも対応可(初回授業でアドレスをお知らせします)。			
教科書・テキスト	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test (Level 600) 朝日出版社			受講生に望むこと	洋楽を発音に注意しながら一緒に歌う、ドラマや映画などを字幕なし(または英語字幕)で見る、面白そうな英字新聞の記事を毎日一つ見つけて音読するなど、日ごろから英語を身近な存在にしてください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoomにアクセスできない場合はメールをください ・各種お知らせは Glexa に載せます。 		

授業科目	Career English (G6)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことによって、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。				<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC L&Rにおいて500点程度を取る実力が身についている。 ・英語で履歴書を書くことが出来る。 ・英字新聞の記事を読み、要旨をつかむことができる。 ・シャドーイングのスキルを身に付けて、長いトークの聴解に対応できる。 			
キーワード	Accuracy, TOEIC, ビジネス英語						
教授方法	グループ・ワークで英文記事を読んだり、関連した記事を各自が探して紹介したりする。TOEIC L&R の各パートのコツを理解したり(1-7回目)、シャドーイング練習をしたり(8-13回目)しながら、練習問題を数多く経験する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Guidance, 英文記事を読む(1-1), Units L-1&2						
2	英文記事を読む(1-2), Units R-1&2						
3	英文記事を紹介する(1-3), Units L-3&4						
4	英文記事を読む(2-1), Units R-7&8						
5	英文記事を読む(2-2), Units L-7&8						
6	英文記事を紹介する(2-3), Units R-3&4						
7	英語履歴書の書き方, Units L-10&11						
8	英文記事を読む(3-1), Units R-5&6						
9	英文記事を読む(3-2), Units L-5&6						
10	英文記事を紹介する(3-3), Units R-9&10						
11	英文記事を読む(4-1), Units L-9&12						
12	英文記事を読む(4-2), Units R-11&12						
13	英文記事を紹介する(4-3), Units L-13&14						
14	面接対応について, Reviews R-13&14						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。</p> <p>【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。</p> <p>【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。</p> <p>【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。</p> <p>【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
TOEIC L&R課題	20	目標スコア500～600に近づいたかどうかにより評価する。		NetAcademy	20	NetAcademy 500点突破コースの学習状況に応じて評価する。	
小テスト	10	語彙テストをして、理解度に応じて評価する。		期末試験	50	授業で学んできたことを確実に理解および実践(発展)できるかに応じて評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習: 英文記事の音読、単語調べなど。 事後学習: 関連記事を探す、NetAcademyを学習する。				授業後に質問してください。 メールでも対応可(初回授業でアドレスをお知らせします)。			
教科書・テキスト	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test (Level 600) 朝日出版社			受講生に望むこと	洋楽を発音に注意しながら一緒に歌う、ドラマや映画などを字幕なし(または英語字幕)で見ると、面白そうなど英字新聞の記事を毎日一つ見つけて音読するなど、日ごろから英語を身近な存在にしてください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoomにアクセスできない場合はメールをください ・各種お知らせは Glexa に載せます。 		

授業科目	Career English (G2)						
担当教員	福岡 真知子		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバー	リング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことにより、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。			<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC L&Rにおいて500点程度を取る実力が身についている。 ・ 英語で履歴書を書くことが出来る。 ・ ビジネス英語を理解し、英語で自己PRが口頭でも手紙でもできる。 ・ E-learning を活用する。 				
キーワード	Accuracy, TOEIC, ビジネス英語						
教授方法	予習を前提に、授業では、四技能、特にL&RとSの実力増進法 答え合わせ 解説とQ&A(双方向) Peer Edit、Discussion等メンバー相互の活動 確認テストによる定着 履歴書と英文レターの書き方習得 をします。E-learning も活用します。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(シラバス・Textbook A, Bと授業内外の学習方法・E-learning等の確認)。履修者把握のテストとアンケート。Self-Introduction。【以下の内容は、基本的予定で、状況等に応じて変更があるのでご了承ください。】						
2	AのL1, L2, R1。毎回、基本的に以下の流れで実施：○E-learning、課題提出、予習 ○Greetings, Q&A 語彙チェック Step 2 確認、答え合わせ、要点解説とQ&A Step 3 各自再解答(制限時間内)し、答え合わせ 自己採点スリット提出(真、日付、正答率○/ も記)						
3	L3, R2。英文履歴書 (CV/ resume) の書き方(1)						
4	L4, R3, R4。CVの書き方(2)						
5	L5, L6, R5。CV 相互チェック。E-mail Writingの基本を学ぶ。第6回の前日までに CVをメールで提出。						
6	L7, R6, R7。						
7	L1~L7, R1~R7 からの試験。英文ビジネス・レターの書き方の基本も学びます。自己採点スリットをメールで提出。E-learningの奨励。夏季休暇中のTOEIC対策(特に、Textbook Bと『金のフレーズ』)。						
8	E-learning の確認。A Short Speech on My Summer Vacation。英文レターの相互チェック。L8, R8。						
9	L9, L10, R9。英文レターの提出。						
10	L11, R10, R11。						
11	L12, L13, R12。						
12	L14, R13, R14。						
13	総復習と試験。自己採点スリットをメールで提出。						
14	模擬テスト。講評。フォローアップ。4学期に向けて。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	30%	2回の試験の結果を評価		授業レポート	30%	提出課題への取り組みと成果を評価	
授業への取り組み	20%	授業時の活動と予習状況等の評価		上記以外の授業評価	20%	E-learningの取り組み度	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習は必須。提出課題に取り組み、e-learningを継続し、(TOEIC受検にむけても)復習を。				授業時の質問タイム利用、あるいは、メールでどうぞ。			
教科書・テキスト	A: 西谷敦子ほか著『TOEIC® L&Rテスト戦略的トレーニング: レベル600』(朝日出版社, 2019) B: Bruce Rogers『Complete Guide to the TOEIC® Test』(National Geographic Learning, 2018)			受講生に望むこと	予習・復習は必須。授業中は協力を。積極的に取り組むこと。ポータルのお知らせに注意し、配布資料のダウンロードを。課題提出はメールで。		
参考書・参考資料等	TEX 加藤『TOEIC® L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』(朝日新聞出版, 2021)。ETS『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 7』(国際ビジネスコミュニケーション協会, 2020)ほか			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English (G7)						
担当教員	福岡 真知子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEIC、英検その他の英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことにより、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。				<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC L&Rにおいて500点程度を取る実力が身についている。 ・英語で履歴書を書くことが出来る。 ・ビジネス英語を理解し、英語で自己PRが口頭でも手紙でもできる。 ・E-learning を活用する。 			
キーワード	Accuracy, TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	予習を前提に、授業では、四技能、特にL&RとSの実力増進法 答え合わせ 解説とQ&A(双方向) Peer Edit、Discussion等メンバー相互の活動 確認テストによる定着 履歴書と英文レターの書き方習得 をします。E-learning も活用します。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(シラバス・学習方法・E-learning等の確認)。履修者把握(テストとアンケート)。Self-Introduction。【以下の内容は、基本的な予定です。状況等に応じて変更がありますので承ください。】						
2	Unit 1-2。毎回、基本的に以下の流れで実施：○E-learning、課題提出、予習 ○Greetings、Q&A 語彙チェック Step 2 確認、答え合わせ、要点解説とQ&A Step 3 各自再解答(制限時間内)し、答え合わせ 自己採点スリット提出(正答率○/20 も記入し、各学期の						
3	Unit 2-3。英文履歴書(CV/ resume)の書き方(1)						
4	Unit 4-5。CVの書き方(2)						
5	Unit 5-6。CV 相互チェック。E-mail Writingの基本を学ぶ。第6回の前日までに CVをメールで提出。						
6	Unit 7-8。						
7	Unit 1-8 からの試験。英文ビジネス・レターの書き方の基本も学びます。自己採点スリットをメールで提出。						
8	E-learning の確認。A Short Speech on My Summer Vacation。英文レターの相互チェック。Unit 8-9。						
9	Unit 10-11。英文レターの提出。						
10	Unit 11-12。						
11	Unit 13-14。						
12	Unit 14-15。						
13	総復習と試験。自己採点スリットをメールで提出。						
14	模擬テスト。講評。フォローアップ。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	30%	2回の試験の結果を評価		授業レポート	30%	提出課題への取り組みと成果を評価	
授業への取り組み	20%	授業時の活動と予習状況等の評価		上記以外の授業評価	20%	E-learningの取り組み度	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
予習は必須。提出課題に取り組み、e-learningを継続し、(TOEIC受検にむけても)復習を。				授業時の質問タイム利用、あるいは、メールでどうぞ。			
教科書・テキスト	番場直之・小山克明 『SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST: INTERMEDIATE』(金星堂)			受講生に望むこと	予習・復習は必須。授業中は協力を。積極的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	ETS 『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 7』ほか			その他・特記事項	ポータルのお知らせに注意し、配布資料のダウンロードを。課題提出はメールで。		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G2)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and advertising. A student trade show project will lead students to describe a product, give an Elevator Pitch and make a group slide presentation. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.				Students will be able to 1. talk about business situations, 2. plan a product to solve a problem, 3. write and perform an Elevator Pitch, 4. prepare a group presentation about a product, and 5. understand TOEIC S & W questions.			
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English						
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to course, Trade Show and textbook Unit 2						
2	Textbook Unit 2, Crowdfunding assignment						
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment						
4	Textbook Unit 2, Product development assignment						
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products						
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch explained						
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice						
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting						
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice						
10	Textbook Unit 4, begin product teams						
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation						
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback						
13	Product teams use feedback to finish presentation						
14	Product team presentations						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
4 skills	40	textbook assignments (listening, writing, grammar) and test		Speaking and presenta	40	Trade Show preparation, describe a product, Elevator Pitch, group presentation	
TOEIC	20	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Students will turn assignments in on time, before class.				If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to contact the instructor at any time using email. If you want to make an appointment to meet, ask during class or send an email.			
教科書・テキスト	Business Plus 2, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.		
参考書・参考資料等	A dictionary with good English sample sentences. Please bring an appropriate notebook to class.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G4)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and advertising. A student trade show project will lead students to describe a product, give an Elevator Pitch and make a group slide presentation. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.				Students will be able to 1. talk about business situations, 2. plan a product to solve a problem, 3. write and perform an Elevator Pitch, 4. prepare a group presentation about a product, and 5. understand TOEIC S & W questions.			
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English						
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to course, Trade Show and textbook Unit 2						
2	Textbook Unit 2, Crowdfunding assignment						
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment						
4	Textbook Unit 2, Product development assignment						
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products						
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch explained						
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice						
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting						
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice						
10	Textbook Unit 4, begin product teams						
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation						
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback						
13	Product teams use feedback to finish presentation						
14	Product team presentations						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
4 skills	40	textbook assignments (listening, writing, grammar) and test		Speaking and presenta	40	Trade Show preparation, describe a product, Elevator Pitch, group presentation	
TOEIC	20	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Students will turn assignments in on time, before class.				If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Please feel free to contact the instructor at any time using email. If you want to make an appointment to meet, ask during class or send an email.			
教科書・テキスト	Business Plus 2, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.		
参考書・参考資料等	A dictionary with good English sample sentences. Please bring an appropriate notebook to class.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G6)				
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3学期	授業形態	演習 科目ナハリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and advertising. A student trade show project will lead students to describe a product, give an Elevator Pitch and make a group slide presentation. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.			Students will be able to 1. talk about business situations, 2. plan a product to solve a problem, 3. write and perform an Elevator Pitch, 4. prepare a group presentation about a product, and 5. understand TOEIC S & W questions.		
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English				
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to course, Trade Show and textbook Unit 2				
2	Textbook Unit 2, Crowdfunding assignment				
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment				
4	Textbook Unit 2, Product development assignment				
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products				
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch explained				
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice				
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting				
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice				
10	Textbook Unit 4, begin product teams				
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation				
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback				
13	Product teams use feedback to finish presentation				
14	Product team presentations				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Language skills	40	textbook assignments (listening, writing, grammar) and test	Trade show	40	Trade Show preparation, describe a product, elevator pitch, group presentation
TOEIC S&W	20	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments			
授業外における学習 (事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class.			Contact me by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Business Plus 2 "Preparing for the workplace", Cambridge University Press (Margaret Helliwell)		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English for Global Mobility (G3)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and advertising. A student trade show project will lead students to describe a product, give an Elevator Pitch and make a group slide presentation. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.				Students will be able to 1. talk about business situations, 2. plan a product to solve a problem, 3. write and perform an Elevator Pitch, 4. prepare a group presentation about a product, and 5. understand TOEIC S & W questions.			
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English						
教授方法	Students' academic English language skills (speaking, listening, reading, writing) and pragmatic skills will be developed. By the end of this course, students will be able to: communicate and repair communication effectively; read about and discuss current global issues and product development; locate and use resources for independent learning.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, trade show						
2	Trade Show Crowdfunding discussion, product development explanation						
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment						
4	Textbook Unit 2, Product development assignment						
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products						
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch						
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice						
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch (part 2)						
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice						
10	Textbook Unit 4, product teamwork						
11	Textbook Unit 4, product teams presentation						
12	Textbook Unit 4, product teams presentation						
13	Textbook review, TOEIC						
14	TOEIC, course evaluation and review						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook assignments	40	Recorded speeches, discussion, and listening tests		Trade show preparation	40	Product proposal, elevator pitch, group presentation	
TOEIC Speaking and	20			-	-	-	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Before class, read, write, and prepare materials. This includes the text, relevant vocabulary, reports, trade show assignments, and online documents. After class, review material that we have learned, and reflect on what you can and cannot do yet.				Contact by Google Form, email and Zoom office hours.			
教科書・テキスト	Instructor- and student-provided materials			受講生に望むこと	Work hard, complete all tasks, collaborate with classmates, formulate and ask questions, be curious and critical and creative.		
参考書・参考資料等	Digital literacy skills and cloud-based computing will be used.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G7)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and advertising. A student trade show project will lead students to describe a product, give an Elevator Pitch and make a group slide presentation. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.				Students will be able to 1. talk about business situations, 2. plan a product to solve a problem, 3. write and perform an Elevator Pitch, 4. prepare a group presentation about a product, and 5. understand TOEIC S & W questions.			
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English						
教授方法	Students' academic English language skills (speaking, listening, reading, writing) and pragmatic skills will be developed. By the end of this course, students will be able to: communicate and repair communication effectively; read about and discuss current global issues and product development; locate and use resources for independent learning.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, trade show						
2	Trade Show Crowdfunding discussion, product development explanation						
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment						
4	Textbook Unit 2, Product development assignment						
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products						
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch						
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice						
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch (part 2)						
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice						
10	Textbook Unit 4, product teamwork						
11	Textbook Unit 4, product teams presentation						
12	Textbook Unit 4, product teams presentation						
13	Textbook review, TOEIC						
14	TOEIC, course evaluation and review						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook assignments	40	Recorded speeches, discussion, and listening tests		Trade show preparation	40	Product proposal, elevator pitch, group presentation	
TOEIC Speaking and	20			-	-	-	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Before class, read, write, and prepare materials. This includes the text, relevant vocabulary, reports, trade show assignments, and online documents. After class, review material that we have learned, and reflect on what you can and cannot do yet.				Contact by Google Form, email and Zoom office hours.			
教科書・テキスト	Instructor- and student-provided materials			受講生に望むこと	Work hard, complete all tasks, collaborate with classmates, formulate and ask questions, be curious and critical and creative.		
参考書・参考資料等	Digital literacy skills and cloud-based computing will be used.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G1)				
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and advertising. A student trade show project will lead students to describe a product, give an Elevator Pitch and make a group slide presentation. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.			Students will be able to 1. talk about business situations, 2. plan a product to solve a problem, 3. write and perform an Elevator Pitch, 4. prepare a group presentation about a product, and 5. understand TOEIC S & W questions.		
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English				
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to course, Trade Show and textbook Unit 2				
2	Textbook Unit 2, Crowdfunding assignment				
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment				
4	Textbook Unit 2, Product development assignment				
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products				
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch explained				
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice				
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting				
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice				
10	Textbook Unit 4, begin product teams				
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation				
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback				
13	Product teams use feedback to finish presentation				
14	Product team presentations				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
4 skills	40%	textbook assignments (listening, writing, grammar) and test	4 skills	40%	Trade Show preparation, describe a product, Elevator Pitch, group presentation
4 skills	20%	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Business Plus 2, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and participate in class discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English for Global Mobility (G5)				
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches English communication for business situations such as video conferences, describing products and advertising. A student trade show project will lead students to describe a product, give an Elevator Pitch and make a group slide presentation. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.			Students will be able to 1. talk about business situations, 2. plan a product to solve a problem, 3. write and perform an Elevator Pitch, 4. prepare a group presentation about a product, and 5. understand TOEIC S & W questions.		
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English				
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to course, Trade Show and textbook Unit 2				
2	Textbook Unit 2, Crowdfunding assignment				
3	Textbook Unit 2, Problems and solutions assignment				
4	Textbook Unit 2, Product development assignment				
5	Textbook Unit 3, product proposal draft, describing products				
6	Textbook Unit 3, Elevator Pitch explained				
7	Textbook Unit 3, TOEIC S&W practice				
8	Textbook Unit 3, Elevator Pitch viewing and voting				
9	Textbook Unit 4, TOEIC S & W practice				
10	Textbook Unit 4, begin product teams				
11	Textbook Unit 4, product teams prepare presentation				
12	Textbook Unit 4, teams give presentations and then feedback				
13	Product teams use feedback to finish presentation				
14	Product team presentations				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
4 skills	40%	textbook assignments (listening, writing, grammar) and test	4 skills	40%	Trade Show preparation, describe a product, Elevator Pitch, group presentation
4 skills	20%	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Business Plus 2, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and participate in class discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Career English (G5)						
担当教員	坂 淳一			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメン	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC L&Rにおいて600点程度を取る実力が身についている。 ・英語でビジネスメールを書くことが出来る。 ・英語での面接に対応できる。 			
キーワード	Accuracy, TOEIC, ビジネス英語						
教授方法	TOEICの練習問題、リスニング演習や音読、語彙の小テスト、e-learning なども活用して4技能を鍛えてゆく。ビジネスメールは実際に書きながらポイントを学ぶ。面接はモデル動画を見て学び、その後に実践訓練を行う。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	『戦略的トレーニング』続き Unit L-9 (Part 3: 目的・依頼・意図)、Unit R-9 (Part 7: 告知・社内回覧)						
2	Part 4 解説、Unit L-10 (Part 4: 録音メッセージ・アナウンス)、語彙の小テスト(1)						
3	Unit L-11 (part 4: トーク・会議・ニュース)、Unit R-10 (Part 7: 記事)、語彙の小テスト(2)						
4	Unit L-12 (Part 4:) グラフィック(図表)問題、Unit L-13 (Review: Parts 1&2)、語彙の小テスト(3)						
5	Unit R-11 (Part 7: ダブルパッセージ)、Unit L-14 (Review: Parts 3&4)、語彙の小テスト(4)						
6	Unit R-12(Part 7: トリプルパッセージ)、語彙の小テスト(5)						
7	Unit R-13 (Part 7: Review(Parts 5&6))、文法の復習、ビジネスメール演習、語彙の小テスト(6)						
8	Unit R-14 (Part 7: Review(Part 7))、語彙の小テスト(7)						
9	『切り取り式』 Listening Scene 2 "Human Resources", Reading Scene 2 "Education", TOEIC 小テスト(1)						
10	『切り取り式』 Listening Scene 3 "Education", Reading Scene 3 "Daily Life", 語彙の小テスト(8)						
11	『切り取り式』 Listening Scene 4 "Office Life", Reading Scene 4 "Health", 語彙の小テスト(9)、英語面接演習(1)						
12	『切り取り式』 Listening Scene 5 "Celebrations", Reading Scene 5 "Job Interviews", 語彙の小テスト(10)、英語面接演習(2)						
13	『切り取り式』 Listening Scene 6 "Job Interviews", Reading Scene 6 "Meetings", 英語面接演習(3)						
14	総復習、TOEIC 小テスト(2)						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
定期試験(面接)	20	英語面接の出来栄	授業内テスト	30	TOEIC 小テスト2回の合計		
小テスト	30	毎回の授業での語彙の小テスト合計	上記以外の授業評価	20	ビジネスメール 12%, e-learning 課題 8%		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
指示された予習・復習と動画の視聴を必ず行い、e-learning に取り組んでください。また、期限までにビジネスライティングの課題を提出すること。				質問は出来るだけ授業中に行って欲しいと思いますが、メールでも結構です。相談はまずは e-mail で、必要ならばアポイントを取って Zoom で行うことも出来ます(対面授業に戻っていたら教室で)。			
教科書・テキスト	『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング: レベル500』(朝日出版社)、切り取り提出式 スコア別TOEIC L&R 徹底対策ドリル600 リスニング編(松柏社)、切り取り提出式 スコア別TOEIC L&R 徹底対策ドリル600 リーディング編(松柏社)			受講生に望むこと	日頃から様々な形で出来るだけたくさん英語に接して下さい。		
参考書・参考資料等	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集(1~7)(図書館にあります)			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English (G1)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC L&Rにおいて600点程度を取る実力が身についている。 ・英語でビジネスメールを書くことが出来る。 			
キーワード	Accuracy、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、受講生の積極的なアウトプットが求められる						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	「精選模試R2」[3]Part 7の問題演習(1)						
2	「精選模試R2」[3]Part 7の問題演習(2)						
3	「精選模試R2」[3]Part 7の問題演習(3)						
4	「精選模試R2」[4]Part 5-6の問題演習						
5	TOEIC L&R、Writing (Eメール) のミニテスト(1)と解説						
6	「精選模試R2」[4]Part 7の問題演習(1)						
7	「精選模試R2」[4]Part 7の問題演習(2)						
8	「精選模試R2」[4]Part 7の問題演習(3)						
9	「精選模試R2」[5]Part 5-6の問題演習						
10	TOEIC L&R、Writing (Eメール) のミニテスト(2)と解説						
11	「精選模試R2」[5]Part 7の問題演習(1)						
12	「精選模試R2」[5]Part 7の問題演習(2)						
13	「精選模試R2」[5]Part 7の問題演習(3)						
14	TOEIC L&R 解法ポイントの整理						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	36	TOEIC L&Rへの対応力を測定する		ミニテスト	30	2回のミニテストにおいてTOEIC L&Rに必要な聴解力および文法理解・読解力、TOEIC WritingのEメール作成形式への対応力を測定する	
語彙テスト	20	指定テキストにおける対象語彙の習熟度を測る		eLearning	14	eLearning(学科共通) 8%、eLearning(G1独自) 6%における学習の取り組みを評価する	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
・毎回の授業内容について、テキストを中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。さらにeLearningは、授業内容と連動させるため指示された順番とスケジュールで概ね取り組むこと。				大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC®テスト新形式精選模試リーディング2(中村紳一郎 監修、ジャパンタイムズ出版、ISBN 978-4-7890-1720-6) ・TOEIC®L&R TEST出る単特急 金のセンテンス(TEX 加藤、朝日新聞出版、ISBN 978-4-02-331765-9) [2-3学期Career I (G1)で使用した同じ2冊]			受講生に望むこと	2022年2月および将来におけるTOEIC L&RおよびS&Wの受験を見据え、授業期間終了後の自学習を充実させるために必要な学習サイクルを身につけてください。		
参考書・参考資料等	適宜紹介			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English (G4)				
担当教員	宮崎 ひろ美		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。			<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC L&Rにおいて600点程度を取る実力が身に付いている。 ・ 英語でビジネスメールを書くことが出来る。 ・ シャドーイングを使って長いスピーチ(3分程度)を聴解できる。 		
キーワード	Accuracy、TOEIC、ビジネス英語				
教授方法	リーディング：さまざまな分野のリーディングをスラッシュ・リーディングで読み進め、リーディング・スキルを意識して内容読解をする。 スピーチを視聴：リーディングのトピックに関するスピーチを視聴してシャドーイング練習をする。 TOEIC L&R：問題を解いて、自分の弱点を知る。				
履修条件等	特になし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 1 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)				
2	Unit 1 (Lesson B)、TOEIC (Part 5)				
3	Unit 2 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)				
4	Unit 2 (Lesson B)、TOEIC (Part 6)				
5	Unit 3 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)				
6	Unit 3 (Lesson B)、TOEIC (Part 7)				
7	Unit 4 (Lesson A)、ビジネス e-mailの書き方				
8	Unit 4 (Lesson B)、TOEIC (Part 5)				
9	Unit 5 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)				
10	Unit 5 (Lesson B)、TOEIC (Part 6)				
11	Unit 6 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)				
12	Unit 6 (Lesson B)、TOEIC (Part 7)				
13	Unit 7 (Lesson A)、TOEIC (リスニングパートのまとめ)				
14	Unit 7 (Lesson B)、TOEIC (リーディングパートのまとめ)				
共通の成績評価基準					
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
TOEIC課題	30	TOEIC L&R課題により、目標スコア600～700に近いかどうか評価する。	音読課題	12	発音やイントネーションなどに留意してシャドーイングできるかにより評価する。
NetAcademy	8	NetAcademy 600点突破コースの学習状況に応じて評価する。	期末試験	50	リスニングとリーディングの理解度により評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
事前学習：リーディングの音読、単語調べなど。 事後学習：TED Talksをシャドーイングする。NetAcademyを学習する。			授業後(教室)や昼休み(非常勤講師控室)、またはメールで対応します。		
教科書・テキスト	21st Century Reading 2, Cengage Learning *3学期の教科書も引き続き使います。		受講生に望むこと	洋楽を発音に注意しながら一緒に歌う、ドラマや映画などを字幕なし(または英語字幕)で見る、面白そうな英字新聞の記事を毎日一つ見つけて音読するなど、日ごろから英語を身近な存在にしてください。	
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項	各種お知らせは Glexa に載せます。	

授業科目	Career English (G6)					
担当教員	宮崎 ひろ美		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。			<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC L&Rにおいて600点程度を取る実力が身に付いている。 ・ 英語でビジネスメールを書くことが出来る。 ・ シャドーイングを使って長いスピーチ(3分程度)を聴解できる。 			
キーワード	Accuracy、TOEIC、ビジネス英語					
教授方法	リーディング：さまざまな分野のリーディングをスラッシュ・リーディングで読み進め、リーディング・スキルを意識して内容読解をする。 スピーチを視聴：リーディングのトピックに関係するスピーチを視聴してシャドーイング練習をする。 TOEIC L&R：問題を解いて、自分の弱点を知る。					
履修条件等	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	Unit 1 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)					
2	Unit 1 (Lesson B)、TOEIC (Part 5)					
3	Unit 2 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)					
4	Unit 2 (Lesson B)、TOEIC (Part 6)					
5	Unit 3 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)					
6	Unit 3 (Lesson B)、TOEIC (Part 7)					
7	Unit 4 (Lesson A)、ビジネス e-mailの書き方					
8	Unit 4 (Lesson B)、TOEIC (Part 5)					
9	Unit 5 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)					
10	Unit 5 (Lesson B)、TOEIC (Part 6)					
11	Unit 6 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)					
12	Unit 6 (Lesson B)、TOEIC (Part 7)					
13	Unit 7 (Lesson A)、TOEIC (リスニングパートのまとめ)					
14	Unit 7 (Lesson B)、TOEIC (リーディングパートのまとめ)					
共通の成績評価基準						
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。</p> <p>【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。</p> <p>【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。</p> <p>【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。</p> <p>【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
TOEIC課題	30	TOEIC L&R課題により、目標スコア600～700に近いかどうか評価する。	音読課題	12	発音やイントネーションなどに留意してシャドーイングできるかにより評価する。	
NetAcademy	8	NetAcademy 600点突破コースの学習状況に応じて評価する。	期末試験	50	リスニングとリーディングの理解度により評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応			
事前学習：リーディングの音読、単語調べなど。 事後学習：TED Talksをシャドーイングする。NetAcademyを学習する。			授業後(教室)や昼休み(非常勤講師控室)、またはメールで対応します。			
教科書・テキスト	21st Century Reading 2, Cengage Learning *3学期の教科書も引き続き使います。		受講生に望むこと	洋楽を発音に注意しながら一緒に歌う、ドラマや映画などを字幕なし(または英語字幕)で見る、面白そうな英字新聞の記事を毎日一つ見つけて音読するなど、日ごろから英語を身近な存在にしてください。		
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項	各種お知らせは Glexa に載せます。		

授業科目	Career English (G3)						
担当教員	宮崎 ひろ美		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。			<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC L&Rにおいて600点程度を取る実力が身に付いている。 ・ 英語でビジネスメールを書くことが出来る。 ・ シャドーイングを使って長いスピーチ(3分程度)を聴解できる。 				
キーワード	Accuracy、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	リーディング：さまざまな分野のリーディングをスラッシュ・リーディングで読み進め、リーディング・スキルを意識して内容読解をする。 スピーチを視聴：リーディングのトピックに関するスピーチを視聴してシャドーイング練習をする。 TOEIC L&R：問題を解いて、自分の弱点を知る。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 1 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)						
2	Unit 1 (Lesson B)、TOEIC (Part 5)						
3	Unit 2 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)						
4	Unit 2 (Lesson B)、TOEIC (Part 6)						
5	Unit 3 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)						
6	Unit 3 (Lesson B)、TOEIC (Part 7)						
7	Unit 4 (Lesson A)、ビジネス e-mailの書き方						
8	Unit 4 (Lesson B)、TOEIC (Part 5)						
9	Unit 5 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)						
10	Unit 5 (Lesson B)、TOEIC (Part 6)						
11	Unit 6 (Lesson A)、TOEIC (リスニング訓練)						
12	Unit 6 (Lesson B)、TOEIC (Part 7)						
13	Unit 7 (Lesson A)、TOEIC (リスニングパートのまとめ)						
14	Unit 7 (Lesson B)、TOEIC (リーディングパートのまとめ)						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
TOEIC課題	30	TOEIC L&R課題により、目標スコア600～700に近いかどうか評価する。	音読課題	12	発音やイントネーションなどに留意してシャドーイングできるかにより評価する。		
NetAcademy	8	NetAcademy 600点突破コースの学習状況に応じて評価する。	期末試験	50	リスニングとリーディングの理解度により評価する。		
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応				
事前学習：リーディングの音読、単語調べなど。 事後学習：TED Talksをシャドーイングする。NetAcademyを学習する。			授業後(教室)や昼休み(非常勤講師控室)、またはメールで対応します。				
教科書・テキスト	21st Century Reading 2, Cengage Learning *3学期の教科書も引き続き使います。		受講生に望むこと	洋楽を発音に注意しながら一緒に歌う、ドラマや映画などを字幕なし(または英語字幕)で見る、面白そうな英字新聞の記事を毎日一つ見つけて音読するなど、日ごろから英語を身近な存在にしてください。			
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項	各種お知らせは Glexa に載せます。			

授業科目	Career English (G2)						
担当教員	福岡 真知子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC L&Rにおいて600点程度を取る実力が身についている。 ・ 英語でビジネスメールを書くことが出来る。 ・ 英文ビジネスレターを読み書き出来る。 ・ 英語による面接に対応できる。 ・ E-learningを活用する。 			
キーワード	Accuracy、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	<p>予習を前提に、L&R力のさらなる増強のために、Shadowing、Dictationに力を入れ、速読即解演習をする。E-learning活用を促す。また、英語面接対策、英文ビジネスレター作成練習を行う。</p>						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(シラバス・学習方法・E-learning等の確認)。英語面接対策の応答練習に導入。応答文をメールで提出。Textbook A の Guide 頁から学ぶ。【以下の内容は、基本的な予定です。状況等に応じて変更がありますので了承ください。】						
2	Lesson 6 (Part 6 の演習)。応答練習(口頭。身近な話題に素早く応答できる力をつける)。						
3	Lesson 7 (Part 7 の演習) (1)。Text message、online chat を速読して把握する力をつける。応答練習(自己PR)。						
4	Lesson 7 (Part 7 の演習) (2)。特に、社内メール、事務連絡、求人広告、登録用紙を速読して把握し、反応する力をつける。						
5	Lesson 7 (Part 7 の演習) (3)。復習(ミニテスト)。ビジネスレター、記事、広告、放送文が速読できるようにする。						
6	Lesson 6-7 の復習試験。英文メール(課題に従ったもの)を書いてメールで提出する。						
7	Lesson 1 (Part 1 の演習)						
8	Lesson 2 (Part 2 の演習)。E-learning、TOEIC-IPの確認。						
9	Lesson 3 (Part 3 の演習)。英文メール(課題文への返信)を作成、提出する。						
10	Lesson 4 (Part 4 の演習)。応答練習。						
11	Lesson 5 (Part 5 の演習) (1)。英文ビジネス文書(案内、掲示、仕様書、きまり、募集要項など)作成、提出。						
12	Lesson 5 (Part 5 の演習) (2)。Textbook B 『金のフレーズ』 「730点レベル」の語彙テスト。						
13	Lesson 1-5 の復習試験。英語模擬面接試験。						
14	模擬テスト。講評。フォローアップ。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験(筆記)	30%	2回の復習試験の結果を評価		Writing 課題	30%	4回の課題提出(メールによる)の形式・内容を評価	
授業への取り組み	32%	英語応答を含め、授業への積極的参加、貢献、発表を評価		上記以外の授業評価	8%	E-learning の取り組み度	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
能動的な予習、語彙力増強が必須です。E-learningの活用も。				授業時の質問タイム利用、あるいは、メールでどうぞ。			
教科書・テキスト	<p>A: Bruce Rogers 『Complete Guide to the TOEIC® Test』 (National Geographic Learning, 2018) B: TEX 加藤 『TOEIC® L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 (朝日新聞出版, 2021)</p>			受講生に望むこと	<p>予習・復習は必須。授業中は協力し、積極的に取り組むこと。 ポータルのお知らせに注意し、配布資料のダウンロードを。課題提出はメールで。</p>		
参考書・参考資料等	ETS 『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 7』 (国際ビジネスコミュニケーション協会, 2020)ほか			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English (G7)						
担当教員	福岡 真知子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEIC、英検その他の英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る実力を養成する。TOEICにおいては、おおむね600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC L&Rにおいて600点程度を取る実力が身についている。 ・ 英語でビジネスメールを書くことが出来る。 ・ 英文ビジネスレターを読み書き出来る。 ・ 英語による面接に対応できる。 ・ E-learningを活用する。 			
キーワード	Accuracy、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	予習を前提に、L&R力のさらなる増強のために、Shadowing、Dictationに力点を置き、演習をする。E-learning活用を促す。また、英語面接対策、英文ビジネスレター作成練習を行う。						
履修条件等	特になし						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション(シラバス・学習方法・E-learning等の確認)。英語面接対策の応答練習に導入。応答文をメールで提出。Unit 1。【以下の内容は、基本的な予定です。状況等に応じて変更がありますので承ください。】						
2	Unit 2-3。応答練習(口頭。身近な話題に素早く応答できる力をつける)。						
3	Unit 4。特に、ビジネスレターとビジネス文書を速読して把握する力をつける。応答練習(自己PR)。						
4	Unit 5-6。特に、英文メールを速読して把握し、反応する力をつける。						
5	Unit 7。復習(ミニテスト)。英文メール(課題に従ったもの)を書いてメールで提出する。						
6	Unit 1-7の復習試験。Unit 8。英文掲示、Chat が速読できるようにする。						
7	Unit 9-10。催し案内、社内メールが速読できるようにする。自作練習も。						
8	Unit 11-12。ビジネス連絡が速読できるようにする。E-learning、TOEIC-IPの確認。						
9	Unit 12-13。指示書、e-mail の速読力を増す。						
10	Unit 14。復習(ミニテスト)。英文メール(課題文への返信)を作成、提出する。応答練習。						
11	Unit 15 (Mini Test)。英文ビジネス文書(案内、掲示、仕様書、きまり、募集要項など)作成、提出。						
12	TOEIC® 過去問に学ぶ。						
13	Unit 8-14の復習試験。英語模擬面接試験。						
14	模擬テスト。講評。フォローアップ。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験(筆記)	30%	2回の復習試験の結果を評価		Writing課題	30%	4回の課題提出(メールによる)の形式・内容を評価	
授業への取り組み	32%	英語応答を含め、授業への積極的参加、貢献、発表を評価		上記以外の授業評価	8%	E-learning の取り組み度	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
授業の予習、復習は必須。E-learningも積極的に活用を。				授業時の質問タイム利用、あるいは、メールでどうぞ。			
教科書・テキスト	松本恵美子ほか『Progressive Strategy for the TOEIC® L&R Test』(成美堂、2021)			受講生に望むこと	予習・復習して授業に取り組むだけでなく、積極的に検定試験・就職対策を。		
参考書・参考資料等	ETS 『公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 7』ほか			その他・特記事項	ポータルのお知らせに注意し、配布資料のダウンロードを。課題提出はメールで。		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G2)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches English communication for business situations such as presenting figures, bank services, and dealing with complaints. A student trade show project will lead students to write a script for a presentation, perform a group presentation about a product, and respond to questions about the product. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.				Students will be able to 1. talk about business situations, 2. write a script for a product presentation, 3. perform a group presentation including answering listeners' questions, and 4. understand TOEIC S & W questions.			
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English						
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases						
2	Textbook Unit 5, Trade Show Q & A language						
3	Textbook Unit 5, product teams prepare answers to questions about product						
4	Textbook Unit 5, practice Q & A about product presentations						
5	Textbook Unit 5, Trade Show simulation, feedback to another team						
6	Textbook Unit 6, teams respond to feedback						
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations						
8	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
9	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
10	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
11	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
12	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
13	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
14	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
4 skills	40	textbook assignments and test			Speaking and presenta	40	Trade Show group presentation and preparation
TOEIC	20	TOEIC Speaking & Writing assignments					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Assignments will be turned in on time, before class begins.				If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Feel free to email the instructor at any time. If you want to make an appointment ask during class or send an email.			
教科書・テキスト	Business Plus 2, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.		
参考書・参考資料等	A dictionary with good English sample sentences. Please bring an appropriate notebook to class.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G4)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches English communication for business situations such as presenting figures, bank services, and dealing with complaints. A student trade show project will lead students to write a script for a presentation, perform a group presentation about a product, and respond to questions about the product. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.				Students will be able to 1. talk about business situations, 2. write a script for a product presentation, 3. perform a group presentation including answering listeners' questions, and 4. understand TOEIC S & W questions.			
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English						
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases						
2	Textbook Unit 5, Trade Show Q & A language						
3	Textbook Unit 5, product teams prepare answers to questions about product						
4	Textbook Unit 5, practice Q & A about product presentations						
5	Textbook Unit 5, Trade Show simulation, feedback to another team						
6	Textbook Unit 6, teams respond to feedback						
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations						
8	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
9	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
10	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
11	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
12	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
13	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
14	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
4 skills	40	textbook assignments and test			Speaking and presenta	40	Trade Show group presentation and preparation
TOEIC	20	TOEIC Speaking & Writing assignments					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Assignments will be turned in on time, before class begins.				If students have any questions for the instructor, they should feel free to ask at any time. Feel free to email the instructor at any time. If you want to make an appointment ask during class or send an email.			
教科書・テキスト	Business Plus 2, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Students should participate in all class activities and have homework fully prepared before class begins. Students must have strong willingness to communicate.		
参考書・参考資料等	A dictionary with good English sample sentences. Please bring an appropriate notebook to class.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G6)				
担当教員	Jean-Pierre Richard		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習 科目ナハリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches English communication for business situations such as presenting figures, bank services, and dealing with complaints. A student trade show project will lead students to write a script for a presentation, perform a group presentation about a product, and respond to questions about the product. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.			Students will be able to 1. talk about business situations, 2. write a script for a product presentation, 3. perform a group presentation including answering listeners' questions, and 4. understand TOEIC S & W questions.		
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English				
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases				
2	Textbook Unit 5, Trade Show Q & A language				
3	Textbook Unit 5, product teams prepare answers to questions about product				
4	Textbook Unit 5, practice Q & A about product presentations				
5	Textbook Unit 5, Trade Show simulation, feedback to another team				
6	Textbook Unit 6, teams respond to feedback				
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations				
8	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice				
9	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice				
10	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice				
11	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice				
12	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice				
13	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice				
14	TOEIC S & W practice + Review				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
Language skills	40	textbook assignments (listening, writing, grammar) and test	Trade show	40	Trade Show preparation, describe a product, elevator pitch, group presentation
TOEIC S&W	20	TOEIC Speaking & Writing test preparation assignments			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class.			Contact me by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Business Plus 2 "Preparing for the workplace", Cambridge University Press (Margaret Helliwell)		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English for Global Mobility (G3)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches English communication for business situations such as presenting figures, bank services, and dealing with complaints. A student trade show project will lead students to write a script for a presentation, perform a group presentation about a product, and respond to questions about the product. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.				Students will be able to 1. talk about business situations, 2. write a script for a product presentation, 3. perform a group presentation including answering listeners' questions, and 4. understand TOEIC S & W questions.			
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English						
教授方法	Students' academic English language skills (speaking, listening, reading, writing) and pragmatic skills will be developed. By the end of this course, students will be able to: communicate and repair communication effectively; read about and discuss current global issues and product development; locate and use resources for independent learning.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, trade show						
2	Textbook Unit 5, Trade Show Q & A language						
3	Textbook Unit 5, product teams prepare answers to questions about product						
4	Textbook Unit 5, practice Q & A about product presentations						
5	Textbook Unit 5, Trade Show simulation, feedback to another team						
6	Textbook Unit 6, teams respond to feedback						
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations						
8	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
9	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
10	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
11	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
12	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
13	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
14	TOEIC, course evaluation and review						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook assignments	40	Recorded speeches, discussion, and listening tests		Trade show preparat	40	Product presentation	
TOEIC Speaking and	20			-	-	-	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Before class, read, write, and prepare materials. This includes the text, relevant vocabulary, reports, trade show assignments, and online documents. After class, review material that we have learned, and reflect on what you can and cannot do yet.				Contact by Google Form, email and Zoom office hours.			
教科書・テキスト	Instructor- and student-provided materials			受講生に望むこと	Work hard, complete all tasks, collaborate with classmates, formulate and ask questions, be curious and critical and creative.		
参考書・参考資料等	Digital literacy skills and cloud-based computing will be used.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G7)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches English communication for business situations such as presenting figures, bank services, and dealing with complaints. A student trade show project will lead students to write a script for a presentation, perform a group presentation about a product, and respond to questions about the product. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.				Students will be able to 1. talk about business situations, 2. write a script for a product presentation, 3. perform a group presentation including answering listeners' questions, and 4. understand TOEIC S & W questions.			
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English						
教授方法	Students' academic English language skills (speaking, listening, reading, writing) and pragmatic skills will be developed. By the end of this course, students will be able to: communicate and repair communication effectively; read about and discuss current global issues and product development; locate and use resources for independent learning.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, trade show						
2	Textbook Unit 5, Trade Show Q & A language						
3	Textbook Unit 5, product teams prepare answers to questions about product						
4	Textbook Unit 5, practice Q & A about product presentations						
5	Textbook Unit 5, Trade Show simulation, feedback to another team						
6	Textbook Unit 6, teams respond to feedback						
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations						
8	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
9	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
10	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
11	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
12	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
13	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
14	TOEIC, course evaluation and review						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Textbook assignments	40	Recorded speeches, discussion, and listening tests		Trade show preparat	40	Product presentation	
TOEIC Speaking and	20			-	-	-	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Before class, read, write, and prepare materials. This includes the text, relevant vocabulary, reports, trade show assignments, and online documents. After class, review material that we have learned, and reflect on what you can and cannot do yet.				Contact by Google Form, email and Zoom office hours.			
教科書・テキスト	Instructor- and student-provided materials			受講生に望むこと	Work hard, complete all tasks, collaborate with classmates, formulate and ask questions, be curious and critical and creative.		
参考書・参考資料等	Digital literacy skills and cloud-based computing will be used.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English for Global Mobility (G1)				
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches English communication for business situations such as presenting figures, bank services, and dealing with complaints. A student trade show project will lead students to write a script for a presentation, perform a group presentation about a product, and respond to questions about the product. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.			Students will be able to 1. talk about business situations, 2. write a script for a product presentation, 3. perform a group presentation including answering listeners' questions, and 4. understand TOEIC S & W questions.		
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English				
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases				
2	Textbook Unit 5, Trade Show Q & A language				
3	Textbook Unit 5, product teams prepare answers to questions about product				
4	Textbook Unit 5, practice Q & A about product presentations				
5	Textbook Unit 5, Trade Show simulation, feedback to another team				
6	Textbook Unit 6, teams respond to feedback				
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations				
8	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice				
9	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice				
10	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice				
11	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice				
12	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice				
13	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice				
14	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
4 skills	40%	textbook assignments and test	speaking	40%	Trade Show group presentation
4 skills	20%	TOEIC Speaking & Writing preparations			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Business Plus 2, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and participate in class discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English for Global Mobility (G5)						
担当教員	Geoffrey Ivorson Killy			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	グローバル専攻	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches English communication for business situations such as presenting figures, bank services, and dealing with complaints. A student trade show project will lead students to write a script for a presentation, perform a group presentation about a product, and respond to questions about the product. TOEIC Speaking and Writing will be explained and practiced.				Students will be able to 1. talk about business situations, 2. write a script for a product presentation, 3. perform a group presentation including answering listeners' questions, and 4. understand TOEIC S & W questions.			
キーワード	Fluency, product presentation, TOEIC S & W, business English						
教授方法	Classes are active. Students discuss textbook topics with classmates and prepare a product presentation for the Trade Show.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Explain Trade Show Day, presentation script assignment, review presentation phrases						
2	Textbook Unit 5, Trade Show Q & A language						
3	Textbook Unit 5, product teams prepare answers to questions about product						
4	Textbook Unit 5, practice Q & A about product presentations						
5	Textbook Unit 5, Trade Show simulation, feedback to another team						
6	Textbook Unit 6, teams respond to feedback						
7	Trade Show Day, groups give presentation and view other presentations						
8	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
9	Textbook Unit 6, TOEIC S & W practice						
10	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
11	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
12	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
13	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
14	Textbook Unit 8, TOEIC S & W practice						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
4 skills	40%	textbook assignments and test			speaking	40%	Trade Show group presentation
4 skills	20%	TOEIC Speaking & Writing preparations					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 2, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and participate in class discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	情報リテラシー (G2)						
担当教員	萱津 理佳			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>コンピュータやネットワークを知的ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
キーワード	ICT,情報演習,Officeソフト						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件等	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピング Office365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
6	PowerPoint編(2) スライドの作成						
7	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
8	PowerPoint編(4) 課題作成						
9	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践						
10	Word編(1) 基本操作						
11	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
12	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
13	Word編(4) 画像や図形						
14	Word編(5) 表とグラフ						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。	授業課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。 全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp 		
教科書・テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 ・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう! 	

授業科目	情報リテラシー (G4)						
担当教員	菅津 理佳			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
キーワード	ICT,情報演習,Officeソフト						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件等	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピング Office365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
6	PowerPoint編(2) スライドの作成						
7	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
8	PowerPoint編(4) 課題作成						
9	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践						
10	Word編(1) 基本操作						
11	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
12	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
13	Word編(4) 画像や図形						
14	Word編(5) 表とグラフ						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。	授業課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。 全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp 		
教科書・テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 ・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう! 	

授業科目	情報リテラシー (G5)						
担当教員	菅津 理佳			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
キーワード	ICT,情報演習,Officeソフト						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件等	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピング Office365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
6	PowerPoint編(2) スライドの作成						
7	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
8	PowerPoint編(4) 課題作成						
9	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践						
10	Word編(1) 基本操作						
11	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
12	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
13	Word編(4) 画像や図形						
14	Word編(5) 表とグラフ						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。	授業課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。 全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp 		
教科書・テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 ・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう! 	

授業科目	情報リテラシー (G1)						
担当教員	宮尾 秀俊			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
キーワード	ICT,情報演習,Officeソフト						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件等	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピング Office365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
6	PowerPoint編(2) スライドの作成						
7	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
8	PowerPoint編(4) 課題作成						
9	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践						
10	Word編(1) 基本操作						
11	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
12	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
13	Word編(4) 画像や図形						
14	Word編(5) 表とグラフ						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。	授業課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。 全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： miyao@cs.shinshu-u.ac.jp 		
教科書・テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 ・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう! 	

授業科目	情報リテラシー (G3)						
担当教員	宮尾 秀俊			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>コンピュータやネットワークを知的ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
キーワード	ICT,情報演習,Officeソフト						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件等	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピング Office365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
6	PowerPoint編(2) スライドの作成						
7	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
8	PowerPoint編(4) 課題作成						
9	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践						
10	Word編(1) 基本操作						
11	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
12	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
13	Word編(4) 画像や図形						
14	Word編(5) 表とグラフ						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。	授業課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。 全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： miyao@cs.shinshu-u.ac.jp 		
教科書・テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 ・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう! 	

授業科目	情報リテラシー (G7)						
担当教員	浦上 法之			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
キーワード	ICT,情報演習,Officeソフト						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件等	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピング Office365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
6	PowerPoint編(2) スライドの作成						
7	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
8	PowerPoint編(4) 課題作成						
9	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践						
10	Word編(1) 基本操作						
11	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
12	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
13	Word編(4) 画像や図形						
14	Word編(5) 表とグラフ						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。	授業課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。 全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： urakami@shinshu-u.ac.jp 		
教科書・テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 ・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう! 	

授業科目	情報リテラシー (G6)						
担当教員	川原 琢也			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
キーワード	ICT,情報演習,Officeソフト						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件等	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピング Office365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
6	PowerPoint編(2) スライドの作成						
7	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
8	PowerPoint編(4) 課題作成						
9	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践						
10	Word編(1) 基本操作						
11	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
12	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
13	Word編(4) 画像や図形						
14	Word編(5) 表とグラフ						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						
共通の成績評価基準							

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。	授業課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。 全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kawahara@cs.shinshu-u.ac.jp 		
教科書・テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 ・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう! 	

授業科目	健康と運動科学 (G)						
担当教員	張 勇		必修・選択	選択	単位数	1単位	
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
本講義では講義・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。			様々なスポーツを体験し、心身共に充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り創っていくさまざまな方法や技能を学ぶ。また生活に運動を取り入れる喜びを味わい、積極的な健康づくりの態度を養う。生涯スポーツの基礎づくりとなる授業である。				
キーワード	健康観、健康づくり、身体技法、スポーツ、						
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件等	定員：30名 毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	(講義) 授業の概要と進め方(課題説明) 東西身体の多様な見方を理解する						
第2回	(講義) エスニックスポーツと近代化を考える 実技：インディアカ(遊戯の原点を理解する)						
第3回	授業内容：(実技) インディアカ(遊戯における現在を考える)						
第4回	授業内容：講義：東洋の身体技法原点・東洋ウエルネスを考える 実技：体操・カパディ・呼吸法						
第5回	講義：生涯スポーツを理解する 実技：スロー運動・太極拳・呼吸法・瞑想法						
第6回	講義：健康と運動を考える 実技：バレ-ボール						
第7回	授業内容：講義：生活習慣病と運動を理解する 実技：バレ-ボール						
第8回	授業内容：講義：肥満について理解する 実技：バスケットボール						
第9回	講義：有酸素運動と無酸素運動 運動効果について理解する 実技：バスケットボール						
第10回	講義：肥満について理解する 実技：バスケットボール						
第11回	講義：気をめぐる身体文化を理解する 実技：卓球						
第12回	授業内容：講義：健康づくりについて考える 実技：卓球						
第13回	授業内容：講義：スポーツを理解する 実技：卓球						
第14回	授業内容：授業のまとめ						
共通の成績評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
積極的な授業参加姿勢	30	講義・実技5回以上出席すること		授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと	
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
【実践】最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 【理論】理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。				e-mailで対応：zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	(受講者6名以下の場合は、休講とする)		



授業科目	健康と運動科学 (G2)						
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目		健康と運動科学 (G)					
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
本講義では講義・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。				様々なスポーツを体験し、心身共に充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り創っていくさまざまな方法や技能を学ぶ。また生活に運動を取り入れる喜びを味わい、積極的な健康づくりの態度を養う。生涯スポーツの基礎づくりとなる授業である。			
キーワード	健康観、健康づくり、身体技法、スポーツ						
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件等	<p>履修条件 定員：30名 【実践】 毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。</p> <p>【理論】 毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には5回以上の出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。</p>						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1回	(講義) 授業の概要と進め方(課題説明) 東西身体の多様な見方を理解する						
第2回	講義：エスニックスポーツと近代化を考える 実技：インディアカ(遊戯の原点を理解する)						
第3回	実技：インディアカ(遊戯における現在を考える)						
第4回	講義：東洋の身体技法原点・東洋ウエルネスを考える 実技：体操・カパディ・呼吸法						
第5回	講義：生涯スポーツを理解する 実技：スロー運動・太極拳・呼吸法・瞑想法						
第6回	講義：健康と運動を考える 実技：バレ-ボール						
第7回	講義：生活習慣病と運動を理解する 実技：バレ-ボール						
第8回	講義：ダイエットと健康を理解する 実技：バスケットボール						
第9回	講義：肥満について理解する 実技：バスケットボール						
第10回	講義：有酸素運動と無酸素運動 運動効果について理解する 実技：バスケットボール						
第11回	講義：気をめぐる身体文化を理解する 実技：卓球・パドミントン						
第12回	講義：健康づくりについて考える 実技：卓球・パドミントン						
第13回	講義：スポーツを理解する 実技：卓球・パドミントン						
第14回	授業内容：授業のまとめ						
共通の成績評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
積極的な授業参加姿勢	30	評価基準：講義・実技5回以上出席すること		授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと	
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>【実践】最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。</p> <p>【理論】理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。</p>				e-mailで対応する。E-mail: zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		

参考書・ 参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月	その他・ 特記事項	受講生6名以下の場合は、休講とする
---------------	---	--------------	-------------------



授業科目	健康と運動科学 (G2)						
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	グローバルメント	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	健康発達概論				
担当教員	中澤 弥子・稲山 貴代・加藤 孝士・太田 光洋・中	必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	講義
対象学生	健康発達	関連資格		備考	科目ナンバリング
授業の概要			到達目標		
<p>人間の発達について社会・文化的な文脈の中で身体的、精神的な健康を基盤として生涯にわたって発達するという観点から、各ライフステージに注目して、基礎的な知識を学ぶ。具体的には、社会文化的アプローチから各発達段階における発達の主導的活動、人間関係を中心とする社会的環境の機能と役割について学ぶとともに、発達の基礎をつくる幼児期の教育と環境のあり方、健康発達の基盤となる食と栄養、健康を増進する支援、メンタルヘルスのあり方についてディベートを通じて自身の経験を振り返りながら学びを深める。また、エコロジカルな観点から健康で豊かな発達を保证する地域コミュニティのあり方について考える。担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。</p> <p>英語表記「Introduction to Health and Human Development」</p>			<p>健康発達についての基本的知識を習得する。 事例にもとづくグループディスカッション等を通し、各発達段階における健康発達を支える要件について理解する。</p>		
キーワード	健康 発達 食 ライフステージ				
教授方法	講義を中心とするが、テーマに応じて、身近な事例をもとにしたグループによるディスカッションを取り入れる。				
履修条件等	特になし				
授業計画					
実施回	授業内容				
1	健康発達とは何か (太田)				
2	発達と環境 (太田)				
3	妊娠授乳期の発達、環境と支援のあり方、メンタルヘルス (中山)				
4	乳幼児期の発達、環境と保育、支援のあり方、メンタルヘルス (中山)				
5	学童期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)				
6	思春期・青年期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)				
7	成人期・高齢期の発達、環境と支援のあり方、メンタルヘルス (加藤)				
8	特別な支援を必要とする人の環境と支援 (加藤)				
9	妊娠授乳期・乳幼児期における食と健康 (稲山)				
10	学童期・思春期・青年期における食と健康 (稲山)				
11	成人期における食と健康 (稲山)				
12	高齢期における食と健康 (稲山)				
13	特別な支援を必要とする人・家族の食と健康 (稲山)				
14	長野県の食と健康、まとめ (中澤)				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	80	授業担当者ごとに評価する。レポート課題等の詳細については授業時に担当者が説明する。	授業態度	20	授業での主体的参加度によって評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
<ul style="list-style-type: none"> 各担当者から提示された課題に各自取り組む。 前の授業内容を理解した上で、授業に臨むこと。 			オムニバス形式であるため、担当者ごとに質問等は授業中や授業の前後に受け付ける。		
教科書・テキスト	教科書は指定しない。担当者ごとに必要に応じて資料を配付する。		受講生に望むこと	主体的に課題やディスカッションに取り組むこと	
参考書・参考資料等	担当者ごとに、授業内で紹介する。		その他・特記事項	オムニバス形式で、授業内容により講義担当者は変わる。担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めるなどの実務経験を有している。	

授業科目	健康発達実習					
担当教員	小笠原 明子・草間 かおる・上延 麻耶・白澤 舞・		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2・3学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング
対象学生	健康発達	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>本実習では、健康発達概論の学修内容を踏まえ、本学の存する長野県における健康発達の状況と特色について、フィールドワークおよび調査を通して学ぶ。</p> <p>フィールドワークでは、長野県の食文化を切り口に自然環境やそこで築かれてきた生活様式や文化について主に農業体験を通して学び、フィールド調査では、近年の乳幼児・小学生およびその親、高齢者の生活や発達の状況の特色について調べ、健康発達の増進の課題について考える。担当教員の小笠原は、保育現場における保育の実務経験を有しており、子どもの発達状況や保育士のかかわり方など、実践での事例を交えながら授業を展開し、学生自身が様々な面から子どもを考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p> <p>担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>				<p>ねらい： 健康発達概論で学んだ知識を基礎として、健康の増進や発達の支援に資する活動を実践する力を育む。また、食と栄養、健康を増進する支援や幼児期の発達理解を学び、活動を計画・立案、実践するための基礎的な技能を身につける。</p> <p>達成目標： 中山間地域の自然環境と農業の重要性を理解する。 健康発達の状況に応じたコミュニケーションの重要性を理解する。</p>		
キーワード	フィールドワーク、フィールド調査、健康発達の状況と特色					
教授方法	教員の指導の下で健康発達とその増進について学び、地域文化に根ざした健康発達を支える要件についての理解を深める。					
履修条件等	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション（本授業のねらいと内容）					
2	フィールドワーク事前講義					
3	フィールドワーク（農作業体験）					
4	フィールドワーク（農作業体験）					
5	フィールドワーク（農作業体験）					
6	フィールド調査（保育所）					
7	フィールド調査（保育所）					
8	フィールド調査（小学校）					
9	フィールド調査（小学校）					
10	フィールド調査（高齢者施設）					
11	フィールド調査（高齢者施設）					
12	フィールドワーク（大学祭）					
13	報告会準備					
14	報告会・まとめ					
共通の成績評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業レポート	80	記録のまとめ、プレゼンテーション		取り組み	20	主体的態度・協調性、ディスカッションの積極性
授業外における学習（事前・事後学習等）						
<p>実習先の施設について事前に調べ、自身の考えを整理する。 フィールドワーク・調査で学んだ内容を記録する。 プレゼンテーションの準備を行う。</p>				<p>質問は、授業中や授業前後に受け付ける。</p>		
教科書・テキスト	適宜、授業内に資料を配付する。			受講生に望むこと	主体的に体験やディスカッションに取り組むこと。	
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	<p>担当教員の小笠原は、保育現場における保育の実務経験を有しております。 担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しております。</p>	

授業科目		長野県健康社会史					
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
日本の公衆衛生の歴史や健康の考え方の変遷等を基盤として、長野県で展開されてきた健康長寿に向けた活動を学ぶ。健康の定義、公衆衛生の概念、保健医療福祉や組織活動の変遷と、その健康生活を支援する様々な職種の役割を、先人の活躍と共に理解する。授業を通し、長寿県とされる長野県の強み、弱み、これからの課題を知り、自らの専門性と結びつけ発展へつなげる礎を築く。				<ul style="list-style-type: none"> ・基本となる健康の捉え方・考え方（健康の定義、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション）、公衆衛生の変遷を学ぶ。 ・長野県の健康長寿に向けた活動の変遷とその特徴が理解できる。 ・健康や病気が生活に及ぼす影響、健康を支えるための住民組織や活動の変遷を学び、未来に向けた自身の役割について考えることができる。 			
キーワード	長野県 健康長寿 組織づくり						
教授方法	講義、グループワーク・学生発表						
履修条件等	とくになし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 公衆衛生の歴史と健康の考え方						
2	公衆衛生の歴史と健康の考え方						
3	グループワーク 病気と差別・偏見の歴史						
4	発表 病気や健康が人々の生活に及ぼす影響 差別・偏見含む						
5	長野県の健康の歴史（保健活動）						
6	長野県の健康の歴史（保健指導員活動）						
7	グループワーク こどもの健康関係 保健行動関係						
8	長野県の健康の歴史（長野県と地域医療）						
9	発表 こどもの健康の歴史（政策の変遷、生活リズムの変化など）						
10	発表 こどもに関する組織活動の歴史（ボランティア：愛育班 母子保健推進員など）						
11	発表 保健行動（組織活動）の変遷（ボランティア：食生活推進協議会、保健指導員会など）						
12	発表 保健行動（生活習慣）の変遷（減塩活動、運動習慣、睡眠等）						
13	グループワーク 発表 未来に向けた自分たちの役割とは						
14	まとめ 自分自身の健康を考えよう						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
最終レポート	30	内容（課題に沿っているか 意見と事実を分けているかなど） 参考文献 期日厳守等は減点対象		グループ発表	70	発表：20% 発表：30% 発表：20% 資料内容 発表内容	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
課題について、調べるための時間や発表準備の時間が必要となる。（適宜授業時間内でも確保する予定）				授業終了時に質問や相談の対応をする。MLを利用する予定。			
教科書・テキスト	必要に応じ資料を提示します			受講生に望むこと	先人の課題解決の方法を学ぶつもりで調べてみてください		
参考書・参考資料等	必要に応じ紹介します			その他・特記事項	感染状況に合わせて、長野県立歴史館見学あるいは健康まつりへの参加を検討する。この場合は、一部のグループワークと発表時間を、見学時間と報告に変更する予定		

授業科目	Foundations of English (H3)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第1段階 (No. 1-700) の語彙を正しく運用することができる。</p>			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	毎回各教材の指定範囲の予習を前提に、授業時にはグループワークや教員の解説による重要ポイントの確認、演習、質疑応答などを行います。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	文法：Unit 1 文の基本パーツ、Core Reading 第1段落						
3	文法：Unit 1 文の基本パーツ、音声：母音(1-5)						
4	文法：Unit 2 名詞、音声：母音(6-10)						
5	文法：Unit 2 名詞、音声：母音(11-14)						
6	文法：Unit 1-2 小テスト、音声：母音(15-19)、Core Reading 第2段落						
7	文法：Unit 3 動詞、音声：母音(20-23)						
8	文法：Unit 4 現在・過去・未来、音声：子音(24-26)						
9	文法：Unit 5 進行形・完了形、音声：子音(27-30)						
10	文法：Unit 3-5 小テスト、音声：子音(31-34)、Core Reading 第3-5段落						
11	文法：Unit 6 形容詞、音声：子音(35-39)						
12	文法：Unit 7 副詞、音声：子音(40-44)						
13	文法：Unit 6-7 小テスト、音声：子音(45-48)、Core Reading 第6-7段落						
14	まとめ・確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	35	予習・課題提出状況、授業時のグループワーク等への取り組みにより評価。		文法小テスト	15	第6, 10, 13回の文法小テストの成績により評価。	
確認テスト	40	第14回の確認テストの成績により評価。		NGSL共通課題	10	NGSL共通課題への取り組みにより評価。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回指定された範囲の予習。 ・小テスト、確認テストに向けた復習。 ・NGSL（語彙）学習。 				授業時に直接、またはメールで連絡してください。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Vitamin G』CENGAGE Learning ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方（基礎編）』研究社 			受講生に望むこと	予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨んでください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	オンライン授業		

授業科目	Foundations of English (H2)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第1段階(No. 1-700)の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	英文法、語彙、発音						
教授方法	ZOOMによるリアルタイム配信。ペアワーク、討論なども含む。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	現在形と過去形						
3	現在完了形と過去形、Core Reading1						
4	未来形						
5	発音 母音1 NGSL1～350						
6	法助動詞						
7	発音 母音2 NGSL351～700						
8	ifとwish						
9	Core Reading2 発音 子音P1						
10	受動態						
11	間接話法 発音 子音P2						
12	疑問文と繰り返しを避ける助動詞						
13	総括						
14	総復習確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	50	授業で学んだ事柄を試験で確認。		課題	30	授業で課された宿題の提出。	
平常点	10	授業での発表、討論など。		その他	10	NGSL	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
十分な予習復習を行う。				授業前後及びメールでの対応。			
教科書・テキスト	『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)第4版』ケンブリッジ大学出版、『改訂版英語の正しい発音の仕方(基礎編)』研究社			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	随時授業時に配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Foundations of English (H1)						
担当教員	境 奈津希			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声の特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、簡単な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、単語を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第1段階(No. 1-700)の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	授業はzoomによるオンライン形式で実施する。また、Glexaにて課題の提出を求める。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	Unit1、発音練習						
3	Unit1、発音練習						
4	Unit2、発音練習						
5	Unit3、発音練習						
6	Unit1-3小テスト、読解						
7	Unit4、発音練習						
8	Unit5、発音練習						
9	Unit4-5小テスト、読解						
10	Unit6、発音練習						
11	Unit7、発音練習						
12	Unit6-7小テスト、読解						
13	Unit1-7復習						
14	確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業への取り組み	40	授業への参加度、課題の提出状況より評価。	確認テスト	30	第14回の確認テストの成績により評価。		
小テスト	20	小テストの成績により評価。	NGSL	10	学年末のNGSL共通テストの成績により評価。		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>授業で学んだ文法や発音を繰り返し学習すること。 各小テストに真剣に臨むこと。 NGSLの語彙を継続的に学習すること。</p>				大学のOfficeアカウントからEmailで連絡をください。			
教科書・テキスト	<p>文法：Vitamin G(『書ける・話せる実践英文法』) CENGAGE Learning 音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方(基礎編)』 研究社</p>			受講生に望むこと	授業へ積極的に参加し、課題に真面目に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Basic English Communication (H2)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches students how to make conversation with English speakers about university life, daily life, hometown, and travel. A writing unit will teach writing English emails. Extensive reading is explained and students begin to reading simpler texts for fluency. A Core Reading, "The Purpose of a University Education" is studied. Studying the first 700 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn 1-700 in the NGSL			
キーワード	Fluency, conversation, email writing, NGSL						
教授方法	Conversation models from the textbook will be practiced online by students in pairs and in larger groups. There will be short presentation activities using a variety of online resources. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students. In addition to using textbook material to talk with classmates, students will email classmates in English, read easy-to-read books, and practice NGSL vocabulary.						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to Conversations in Class (Alma Publishing) and class goals; self-introductions						
2	Unit 1.1: Conversation about hometown; how to write an email; written introductions						
3	Unit 1.2: Majors, school years, and clubs; book club; Core Reading activity (1)						
4	Unit 1.3: Part-time jobs; short student presentations; writing (ideal future job)						
5	Unit 2.1: Group conversation about ideal jobs in the future; conversations about daily routines						
6	Unit 2.2: Conversations about how students spend their everyday time; first NGSL quiz; speaking assessment						
7	Unit 3.1: Introductions of student hometowns; Core Reading Activity (2)						
8	Unit 3.2: Students talk about where they would like to live in the future; book club						
9	Hobbies and enthusiasms; short assignment related to hobbies and enthusiasms (1); second NGSL quiz						
10	Unit 4.1: Conversation about travel experience; Core Reading Activity (3)						
11	Unit 4.2: Future travel plans; book and discussion activities						
12	Unit 4.3: Students plan trip in small groups or pairs; travel writing assignment; mini presentation						
13	Conversations about presentations; travel assignment; book club						
14	Conversation based on travel assignments; final class conversations						
共通の成績評価基準							
Students can smoothly introduce self and hometown. Students can smoothly read graded readers. Students can write English emails, copy and attach files.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40%	Conversations will be recorded and graded		Writing, email, and	40%	Students must complete all homework assignments and writing assignments on time	
Fluency reading	10%	Students will read graded readers and discuss them		NGSL test	10%	80% pass or fail	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation practice outside of class. There will be reading assignments, outside assignments, and email assignments.				If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email.			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talendis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			受講生に望むこと	Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class.		
参考書・参考資料等	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Basic English Communication (H1)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the first 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about themselves and their hometown and read graded readers at their level smoothly.			
キーワード	Fluency, listening, speaking, writing, reading, NGSL, communication						
教授方法	Students will have listening comprehension exercises, do pair practices for dialogues, and have group and class discussions in English. They will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction, course overview, class policies and procedures						
2	Unit 1 It's nice to meet you. Let's get to know each other.						
3	Unit 2 Introducing yourself.						
4	Unit 3 Exchanging personal information and finding out about your classmates						
5	Unit 4 Describing personal appearances and personalities						
6	Unit 5 People - Talking about your family and friends						
7	Mini-presentation about your family						
8	Free time - Talking about your hobbies and interests						
9	Unit 6 Daily activities. Describing your daily routine and schedules						
10	Unit 7 Talking about cities and recommending places						
11	Mini-presentation about your hometown						
12	Unit 8 Food and drink - Describing eating habits						
13	Food around the world - Describing traditional meals						
14	Review						
共通の成績評価基準							
Target grade spread is as follows: S grade for 25% or less of the students per class; A grade combined with S grade for 75% or less of students; no limits for B and C grades.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking & Listenin	40%	Speaking and listening activities		Reading	10%	Students will read graded readers.	
Writing	40%	Writing and other assignments		NGSL test	10%	80% pass or fail	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Students are expected to prepare and review lessons. They also need to study the first 700 words of the NGSL by themselves.				I will be available for students before and after class for questions.			
教科書・テキスト	Shogo Mitsutomi, My First TOEIC Test [New Version] (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-19-255-15473-2			受講生に望むこと	Students need to use their English-English dictionary. The working language of the class will be English.		
参考書・参考資料等	The teacher will distribute other handouts as well. The teacher will supply students with a list of relevant and useful articles and books.			その他・特記事項	Welcome to the University of Nagano. Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.		

授業科目	Basic English Communication (H3)						
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
This course teaches students how to make conversation with English speakers about university life, daily life, hometown, and travel. A writing unit will teach writing English emails. Extensive reading is explained and students begin to reading simpler texts for fluency. A Core Reading, "The Purpose of a University Education" is studied. Studying the first 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. speak and write about basic conversation topics 2. write English emails, copy and attach files 3. practice reading for fluency 4. learn 1-700 in the NGSL				
キーワード	Fluency, conversation, email writing, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, email classmates in English, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, classmates and textbook						
2	Unit 1.1, How to study NGSL						
3	Unit 1.2, Writing Unit: English Emails						
4	Unit 1.3, Writing Unit						
5	Unit 2.1, Writing Unit						
6	Unit 2.2 Introduce Core Reading						
7	Unit 2.3, Conversation recording, introduce fluency reading and Xreading site						
8	Unit 3.1 Core Reading, Writing Unit						
9	Unit 3.2 Core Reading , Book Talk						
10	Unit 3.3, Core Reading, Writing Unit						
11	Unit 4.1 Book Talk						
12	Unit 4.2, Book Talk						
13	Unit 4.3						
14	Conversation recording						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	40	assignments and recorded conversations		writing	40	writing	
reading	10	fluency reading		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.			受講生に望むこと	willingness to talk with classmates		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Foundations of English (H3)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取るこの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第2段階(No. 701-1400)の語彙を正しく運用することができる。</p>			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	毎回各教材の指定範囲の予習を前提に、授業時にはグループワークや教員の解説による重要ポイントの確認、演習、質疑応答などを行います。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、Foundations of English I の振り返り						
2	文法：Unit 8 その他の修飾表現、音声：リズム						
3	文法：Unit 8 その他の修飾表現、音声：リズム						
4	文法：Unit 8 小テスト、Core Reading 第1-2段落						
5	文法：Unit 9 仮定法、音声：イントネーション						
6	文法：Unit 10 法助動詞、音声：イントネーション						
7	文法：Unit 9-10 小テスト、Core Reading 第3-4段落						
8	文法：Unit 11 能動態と受動態、音声：ストレス・アクセント						
9	文法：Unit 12 前置詞、音声：音声変化						
10	文法：Unit 11-12 小テスト、Core Reading 第5-6段落						
11	文法：Unit 13 可算名詞と不可算名詞、音声：音声変化						
12	文法：Unit 14 定冠詞、音声：総合復習						
13	文法：Unit 13-14 小テスト、Core Reading 第7段落						
14	まとめ・確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への取り組み	30	予習・課題提出状況、授業時のグループワーク等への取り組みにより評価。			文法小テスト	20	第4,7,10,13回の文法小テストの成績により評価。
確認テスト	40	第14回の確認テストの成績により評価。			NGSL共通課題	10	NGSL共通課題への取り組みにより評価。
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回指定された範囲の予習。 ・小テスト、確認テストに向けた復習。 ・NGSL(語彙)学習。 				授業時に直接、またはメールで連絡してください。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文法：『Vitamin G』CENGAGE Learning ・音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方(リズム・イントネーション編)』研究社 			受講生に望むこと	予習の段階で疑問点を明確にして授業に臨んでください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	オンライン授業		

授業科目	Foundations of English (H2)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の理解をさらに確実なものにすることに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<p>・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第2段階(No. 701-1400)の語彙を正しく運用することができる。</p>			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	ZOOMによるリアルタイム配信。ペアワーク、討論なども含む。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Foundations of English Iの振り返り						
2	動名詞と不定詞						
3	Core Reading3 NGSL701～1050						
4	冠詞と名詞						
5	Core Reading4 発音 強弱リズム						
6	代名詞と限定詞						
7	発音 イントネーション NGSL 1051～1400						
8	関係詞節 発音 基本のチェック						
9	形容詞と副詞						
10	接続詞と前置詞						
11	前置詞						
12	句動詞						
13	総括						
14	総復習確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
試験	50	授業で学んだ事柄を試験で確認。	課題	30	授業で課された宿題の提出。		
平常点	10	授業での発表、討論など。	その他	10	NGSL		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
十分な予習復習を行う。				授業前後、及びメールでの対応。			
教科書・テキスト	『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)第4版』ケンブリッジ大学出版、『改訂版英語の正しい発音の仕方(リズム・イントネーション編)』研究社			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	随時授業時に配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Foundations of English (H1)						
担当教員	境 奈津希			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>英文法の理解をさらに確実なものにすることに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・英文法の基礎的な事項を理解し、複雑な英文を正確に理解・産出することができる。 ・英語の発音に関する基礎事項を理解し、英文を正確に発音・聴解することができる。 ・NGSL第2段階(No. 701-1400)の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、英文法、英語音声、語彙						
教授方法	授業はzoomによるオンライン形式で実施する。また、Glexaにて課題の提出を求める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	Unit8、発音練習						
3	Unit8、発音練習						
4	Unit8小テスト、読解						
5	Unit9、発音練習						
6	Unit10、発音練習						
7	Unit9-10小テスト、読解						
8	Unit11、発音練習						
9	Unit11小テスト、読解						
10	Unit12、発音練習						
11	Unit13、Unit14						
12	Unit12-14小テスト、読解						
13	Unit8-14復習						
14	確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業への取り組み	40	授業への参加度、課題の提出状況より評価。	確認テスト	30	第14回の確認テストの成績により評価。		
小テスト	20	小テストの成績により評価。	NGSL	10	学期末のNGSL共通テストの成績により評価。		
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>授業で学んだ文法や発音を繰り返し学習すること。 各小テストに真剣に臨むこと。 NGSLの語彙を継続的に学習すること。</p>				大学のOfficeアカウントからEmailで連絡をください。			
教科書・テキスト	<p>文法：Vitamin G(『書ける・話せる実践英文法』) CENGAGE Learning 音声：『改訂版 英語の正しい発音の仕方(基礎編)』 研究社</p>			受講生に望むこと	授業へ積極的に参加し、課題に真面目に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Basic English Communication (H2)						
担当教員	Trane DeVore			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches students to make conversation with English speakers about free time, entertainment, food and the future. Paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) are taught, followed by assignments to write one paper describing an event and one describing a place. There are fluency reading assignments to lead students to increase their reading ability and speed. A Core Reading, "Self-Regulation and Autonomous Learning" will be studied. Studying the second group of 700 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions, 2. write paragraphs about their own experiences, 3. type an English paper, 4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1, 5. learn the second 700 words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, conversation, writing paragraphs, NGSL						
教授方法	Conversation models from the textbook will be practiced in class by students in pairs and in larger groups. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practice vocabulary. Students will be expected to do reading outside of class and be prepared to discuss these readings with other students. There will also be writing activities related to discussion activities. A variety of activities will give students the opportunity to use their NGSL vocabulary in class.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to Quarter 2; introduction to NGSL 701-1400; Unit 5.1; Xreading						
2	Unit 5.2: Conversation about free time; mind maps for paragraph writing						
3	Unit 5.3: Group conversations related to likes and dislikes; students practice language patterns related to opinions; writing activity						
4	Unit 6.1: Conversations about music; song lyrics; Core Reading activity						
5	Unit 6.2: Conversations about movies, TV, games, manga or other media; students write short Amazon review and share						
6	Unit 6.3: Book club; Core Reading activity (the habits of successful people)						
7	Conversation tests and student discussion; writing topic sentences in a paragraph						
8	Unit 7.1: Conversation about favorite and least favorite foods						
9	Unit 7.2: Paragraph writing activity						
10	Unit 7.3: Conversations on food culture						
11	Unit 8.1: Students talk about their near-future plans						
12	Unit 8.2: Conversations about life issues; clothes and culture						
13	Unit 8.3: Clothes and culture (2)						
14	NGSL review; conversation activities; class wrap-up						
共通の成績評価基準							
Students can smoothly describe elements of their culture and ask about another's culture. Students can write an essay describing an element of their culture. Students will be able to smoothly read graded readers at a higher level than 1st quarter.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	40	Conversations and presentations will be recorded and graded		Writing and other	40	1-paragraph paper and 2-paragraph typed paper, plus other assignments	
Fluency reading	10	Students will read graded readers and take tests		NGSL test	10	80% pass or fail	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
There will be homework assignments to do before every class. Students will be expected to do conversation exercises outside of class in both pairs and groups. Students must complete homework and writing assignments on time or there will be penalties.				If students have any questions for the teacher at any time, they should feel free to ask. If students would like to meet with the teacher outside of class, please ask the teacher directly, or set up an appointment by sending an email.			
教科書・テキスト	Conversations in Class (3rd Edition), Talandis & Vannieu, Alma Publishing, 2015.			受講生に望むこと	Students should participate actively in all class activities and have homework assignments fully prepared at the beginning of class.		
参考書・参考資料等	Electronic English-Japanese dictionary with English sentence models.			その他・特記事項	—		

授業科目	Basic English Communication (H1)						
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country, culture and opinions. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to use the second 700 words of the NGSL.				Students will be able to speak and write about their own culture and other people's culture, and read graded readers smoothly at a higher level than the first quarter.			
キーワード	Fluency, listening, speaking, writing, reading, NGSL test, communication						
教授方法	Students will have listening comprehension exercises, do pair practices for dialogues, and have group and class discussions in English. Students will be asked to give presentations in English, and the teacher will give feedback, correcting mistakes and making some suggestions to improve their spoken skills.						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction						
2	Unit 9 Travel and tourism - Describing past trips and discussing famous places						
3	Mini-presentation about your most memorable trip						
4	Unit 10 Talking about your own country and culture						
5	Mini-presentation about important festivals in your country						
6	Unit 11 Famous people - Talking about celebrities and their achievements						
7	Unit 12 How do I get there? Asking for and giving directions.						
8	Unit 13 Health - Discussing healthy lifestyles						
9	Good advice - Discussing problems and giving advice						
10	Unit 14 Occupations - Talking about types of jobs, job skills and qualifications						
11	Discussing your ambitions and future plans						
12	Mini-presentation about your future						
13	Mini-presentation about your summer holiday						
14	Review						
共通の成績評価基準							
Target grade spread is as follows: S grade for 25 % or less of the students per class: A grade combined with S grade for 75 % or less of students: no limits for B, C and F grades.							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking & Listenin	40%	I will evaluate students' listening and speaking skills.		Reading	10%	Students will read graded readers.	
Writing	40%	Writing and other assignments		NGSL test	10%	80% pass or fail	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Students are expected to prepare and review lessons. They also need to study the second 700 words of the NGSL.				I will be available for students before and after class for questions.			
教科書・テキスト	Shogo Mitsutomi, My First TOEIC Test [New Version] (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-19-255-15473-2			受講生に望むこと	Students need to use their English-English dictionary. The working language of the class will be English.		
参考書・参考資料等	The teacher will distribute other handouts as well. The teacher will supply students with a list of relevant and useful articles and books.			その他・特記事項	Perfect or near perfect attendance and active participation in class discussions are vital. Students are also expected to attend this class on time.		

授業科目	Basic English Communication (H3)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	健康発達	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches students to make conversation with English speakers about free time, entertainment, food and the future. Paragraphs and their elements (topic sentences, supporting sentences, format) are taught, followed by assignments to write one paper describing an event and one describing a place. There are fluency reading assignments to lead students to increase their reading ability and speed. A Core Reading, "Self-Regulation and Autonomous Learning" will be studied. Studying the second group of 700 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. make conversation about their lifestyle and opinions, 2. write paragraphs about their own experiences, 3. type an English paper, 4. read graded readers smoothly at a higher level than Quarter 1, 5. learn the second 700 words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, conversation, writing paragraphs, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, do writing activities, read easy-to-read books, and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 5.1, introduce Writing Unit on paragraphs				
2	Unit 5.2, conversations about free time, learn mind maps for paragraph writing				
3	Unit 5.3 conversations about likes and dislikes, writing activity				
4	Unit 6.1 conversations about music, introduce Core Reading				
5	Unit 6.2 conversations about movies, TV, games and other media				
6	Unit 6.3, Core Reading assignment				
7	Conversation tests, writing unit				
8	Unit 7.1, conversations about food				
9	Unit 7.2 2-paragraph writing activity				
10	Unit 7.3 conversations on food culture				
11	Unit 8.1 conversations about near-future plans				
12	Unit 8.2 conversations about life issues				
13	Unit 8.3 conversations about life issues				
14	Conversation recording				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	40	assignments and recorded conversations	writing	40	1-paragraph paper, 2-paragraph paper
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	Conversations in Class 3rd Edition, Talandis & Vannieu, Alma, 2015.		受講生に望むこと	willingness to talk with classmates	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	



授業科目	Comprehensive English (H3)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目		Comprehensive English (H2)					
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。更には、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・300語程度の英文から、正確に内容を汲み取ることができる。 ・目の前にある事物や想定可能な事柄について、英語で正確に表現できる。 ・英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。 ・NGSL第3段階（No.1401-1900）の語彙を正しく運用することができる。 ・2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの基礎力を身に付けるための訓練を行い、英語のプレゼンテーションの簡単なやり方も学習してもらう。 			
キーワード	Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング、語彙						
教授方法	授業は演習形式で、授業の前半は、テキストを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方、学習方法、評価方法を説明する。）						
2	Textbook Unit 1 と イギリス英語とアメリカ英語の違いを学ぶ。						
3	Textbook Unit 2 と 英国紹介についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
4	Textbook Unit 3 と 英語のプレゼンテーションのやり方を説明する。						
5	Textbook Unit 4 と 日本紹介についてのプレゼンテーション						
6	Textbook Unit 5 と 英国の大学についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
7	Textbook Unit 6 と 日本の大学についてのプレゼンテーション						
8	Textbook Unit 7 と 英国の教育制度についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
9	Textbook Unit 8 と 英国並びに日本の教育制度の長所と短所についてのプレゼンテーション						
10	Textbook Unit 9 と 英国の肥満問題についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
11	結婚についての記事の講読（内容確認）						
12	国際結婚の長所と短所についてのプレゼンテーション						
13	日本の結婚問題についてのプレゼンテーション						
14	総括						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な目標を十分に達成している。【B】基本的な目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
提出物、テスト	30%	提出物によって評価する。		英語のプレゼンテーション	30%	英語のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。	
授業貢献	25%	授業貢献度によって評価する。		上記以外の授業評価	15%	NGSL10%とe-learning 5%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。 予習を十分してから授業に臨むこと。 授業後も復習を最低1時間はすること。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Shogo Mitsutomi & Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2 ・John H. Randle & Atsushi Mukuhira, Britain at a Watershed (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-3415-7 			受講生に望むこと	<p>受講生の積極的な授業参加を期待する。毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可） スマートフォンや携帯電話は授業中に使わないこと。 遅刻はしないこと。 予習、復習をよくすること。</p>		
参考書・参考資料等	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			その他・特記事項	<p>各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取る。遅刻は30分までは出席とみなす。</p>		

授業科目	Comprehensive English (H1)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>				<p>・ 300語程度の英文から、正確に内容を汲み取ることができる。 ・ 目の前にある事柄や想定可能な事柄について、英語で正確に表現できる。 ・ 英文法や発音の基礎を踏まえて、1分程度の英語でのスピーチ（発表）を経験する。 ・ NGSL第3段階（No. 1401-1900）の語彙を正しく運用することができる。</p>			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	演習型のインタラクティブな授業。ペアワーク、討論を通してプレゼンテーション力を身につけさせる。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	自己紹介						
3	性格についての作文						
4	パラグラフの書き方 NGSL1401～1650						
5	持ち物について話す Core Reading1						
6	住む町についての作文						
7	道案内をする NGSL1651～1900						
8	Unit1～3復習						
9	イベントの計画 Core Reading 2						
10	人助けをしたことについての作文						
11	問題解決について話す						
12	Unit4～6復習						
13	総括						
14	総復習確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	授業で学んだ事柄を試験で確認。			授業レポート	25	授業で課された宿題の提出。
小テスト	10	授業での発表。			上記以外の授業評価	15	NGSL(10) e-learning(5)
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
十分な予習復習を行う。				授業前後及びメールでの対応。			
教科書・テキスト	EVOLVE3 ケンブリッジ大学出版			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	随時授業時に配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Academic English Communication (H1)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to write a 3-paragraph report in which they gather information from websites and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Willingness to Communicate" will be studied. Studying the third group of 500 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2. write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3. cite sources in a report, 4. continue fluency reading, and 5. learn the third group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, write a report, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report						
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit						
5	Unit 1 discussion test, Writing unit						
6	Unit 3, Writing Unit						
7	Unit 3, Writing Unit						
8	Unit 3, Writing Unit						
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A						
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit						
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit						
12	Unit 4, Writing Unit						
13	Unit 4 Writing Unit						
14	Unit 4						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	35	recorded group discussions on textbook content		writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments	
reading	10	fluency reading assignments		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (H2)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	健康発達	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to write a 3-paragraph report in which they gather information from websites and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Willingness to Communicate" will be studied. Studying the third group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2. write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3. cite sources in a report, 4. continue fluency reading, and 5. learn the third group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, write a report, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained				
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion				
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report				
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit				
5	Unit 1 discussion test, Writing unit				
6	Unit 3, Writing Unit				
7	Unit 3, Writing Unit				
8	Unit 3, Writing Unit				
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A				
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit				
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit				
12	Unit 4, Writing Unit				
13	Unit 4				
14	Unit 4				
共通の成績評価基準					
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	recorded group discussions	writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (H3)						
担当教員	Keff Kenner			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to write a 3-paragraph report in which they gather information from websites and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Willingness to Communicate" will be studied. Studying the third group of 500 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics, 2. write a 3-paragraph report supporting their opinions, 3. cite sources in a report, 4. continue fluency reading, and 5. learn the third group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, write a report, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to class, Unit 1, What is discussion? assignment explained						
2	Unit 1, What is discussion? Practice discussion						
3	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit - a report						
4	Unit 1, practice discussion with Discussion card, Writing Unit						
5	Unit 1 discussion test, Writing unit						
6	Unit 3, Writing Unit						
7	Unit 3, Writing Unit						
8	Unit 3, Writing Unit						
9	Unit 3 discussion test, Core Reading Assignment A						
10	Core Reading Assignment B, Writing Unit						
11	Core Reading Assignment C, Writing Unit						
12	Unit 4, Writing Unit						
13	Unit 4						
14	Unit 4						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
speaking	35	recorded group discussions		reading	10	fluency reading	
writing	45	a report analyzing an advertisement, Core Reading assignments		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		



授業科目	Comprehensive English (H3)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目		Comprehensive English (H2)					
担当教員	富田 裕子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで、自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。更には、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。 ・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。 ・自分の意見や考えについての英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。 ・NGSL第4段階（No.1901-2400）の語彙を正しく運用することができる。 ・2年次の海外プログラムに備えて、リスニングやスピーキングの力を更にレベルアップしてもらう。 			
キーワード	Accuracy、英語4技能、リーディング、ライティング、語彙						
教授方法	授業は演習形式で、授業の前半は、テキストやプリントを用いてリスニングの練習を行う。後半は、担当教員が事前に配布した英文の記事の内容を確認し、記事について英語によるディスカッションを行う。また英語によるプレゼンテーションのやり方を受講生に教授する。更に正確で洗練された英語を書くことも伝授する。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Textbook Unit 10 と 「英国女性の足跡」の記事の講読（内容確認）						
2	Textbook Unit 11 と 「英国女性の足跡」の記事の内容についての英語によるディスカッション						
3	Textbook Unit 12 と 「現代英国女性の開放度」の記事の講読（内容確認）						
4	Textbook Unit 13 と 「現代英国女性の開放度」の記事の内容についての英語によるディスカッション						
5	Textbook Unit 14 と 英国王室についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
6	英国王室の記事の内容についての英語によるディスカッションと英国の王室と日本の皇室を英語で比較する。						
7	英国の主なフェスティバルについての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
8	日本のフェスティバルについてのプレゼンテーション 1						
9	日本のフェスティバルについてのプレゼンテーション 2						
10	英国のクリスマスの記事の講読（内容確認）						
11	英国のクリスマスの記事の内容についての英語によるディスカッション						
12	英国の移民問題についての記事の講読（内容確認と英語によるディスカッション）						
13	英国の移民問題についての記事の内容についての英語によるディスカッション						
14	総括						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な目標を十分に達成している。【B】基本的な目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
提出物、テスト	30%	提出物によって評価する。		英語によるプレゼンテーション	30%	英語のプレゼンテーションをしてもらい、評価を行う。	
授業貢献	25%	授業貢献度によって評価する。		上記以外の授業評価	15%	NGSL10%とe-learning 5%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回、教員から授業中に出された課題にしっかり取り組むこと。 予習を十分してから授業に臨むこと。 授業後も復習を最低1時間はすること。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Shogo Mitsutomi & Yuko Ikeda, My First TOEIC Test, New Version (Tokyo: Asahi Press, 2018). ISBN978-4-255-15473-2 ・John H. Randle & Atsushi Mukuhira, Britain at a Watershed (Tokyo: Seibido, 2018). ISBN978-4-7919-3415-7 			受講生に望むこと	<p>受講生の積極的な授業参加を期待する。毎回授業には必ず英英辞典を持参すること。（電子辞書可） スマートフォンや携帯電話は授業中に使わないこと。 予習、復習をよくすること。</p>		
参考書・参考資料等	プリント教材を配布する。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。			その他・特記事項	各学期とも全授業の3分の1を欠席した受講生には、単位を認定しない。理由のない欠席は、評価を下げるので、注意すること。しかし、怪我、事故、急引きの場合は考慮するので、所定の手続きを必ず取ること。		

授業科目	Comprehensive English (H1)						
担当教員	中澤 はるみ			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・500語程度の英文エッセイについて、各段落の内容を正確に読み取るとともに、段落構成についても正確に理解することができる。 ・自分の意見や考えを、100語程度の正確な英文にまとめることができる。 ・自分の意見や考えについて英語でのスピーチ（発表）を経験し、理由や根拠の示し方について確認する。 ・NGSL第4段階（No. 1901-2400）の語彙を正しく運用することができる。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	演習型のインタラクティブな授業。ペアワーク、討論を通してプレゼンテーション力を身につけさせる。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション Comprehensive English I の振り返り						
2	音楽、TV番組について話す						
3	映画についての作文						
4	パラグラフからプレゼンテーションへ						
5	時間の使い方について考える NGSL1901～2150						
6	大学の授業について話す						
7	ビジネス文書を書く NGSL2151～2400						
8	Unit7～9復習						
9	様々な職業について話す						
10	金銭感覚について考える						
11	尊敬する人物についての作文						
12	人生経験について話す Unit10～12復習						
13	総括						
14	総復習確認テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	50	授業で学んだ事柄を試験で確認		授業レポート	25	授業で課された宿題の提出	
小テスト	10	授業での発表		上記以外の授業評価	15	NGSL（10） e-learning（5）	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
十分な予習復習を行う。				授業で前後及びメールでの対応。			
教科書・テキスト	EVOLVE3 ケンブリッジ大学出版			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	随時授業時に配布する			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	Academic English Communication (H1)						
担当教員	Cheryl Kirchoff		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to outline a report, write a thesis statement for a multiple -paragraph essay in which they search for information and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Communication with People of Other Cultures" will be studied. Studying the fourth group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.				
キーワード	Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.						
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Unit 7, practice discussion with new phrases						
2	Unit 7, Writing Unit an essay, Outline assignment						
3	Unit 7, Writing Unit						
4	Unit 7, practice discussion with new phrases						
5	Unit 7, Writing Unit Thesis Statements						
6	Unit 7, Discussion Test						
7	Writing Unit, outline and topic sentences						
8	Unit 8, Writing Unit						
9	Unit 8, Writing Unit						
10	Unit 8, Writing Unit						
11	Unit 8 Discussion Test, introduce Core Reading						
12	Core Reading Assignment A discussion						
13	Core Reading Assignment B discussion						
14	Core Reading Assignment C discussion						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Speaking	35	2 discussion tests		Writing	45	an expository essay, Core Reading assignments	
Reading	10	fluency reading		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (H2)				
担当教員	Miguel Alberto Mision		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	健康発達	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to outline a report, write a thesis statement for a multiple -paragraph essay in which they search for information and cite the sources. Fluency reading continues.A Core Reading, "Communication with People of Other Cultures" will be studied. Studying the fourth group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, writing an essay, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 7, practice discussion with new phrases				
2	Unit 7, Writing Unit an essay				
3	Unit 7, Writing Unit				
4	Unit 7, practice discussion with new phrases				
5	Unit 7, Writing Unit				
6	Unit 7, discussion test				
7	Writing Unit				
8	Unit 8 Writing Unit				
9	Unit 8 Writing Unit				
10	Unit 8, Writing Unit				
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading				
12	Core Reading Assignment A				
13	Core Reading Assignment B				
14	Core Reading Assignment C				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	discussion skills	writing	45	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Academic English Communication (H3)				
担当教員	Keff Kenner		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	1年	開講学期	4学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	健康発達	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
This course teaches small group discussion skills in which students support their opinions and exchange opinions. Students will learn to outline a report, write a thesis statement for a multiple-paragraph essay in which they search for information and cite the sources. Fluency reading continues. A Core Reading, "Communication with People of Other Cultures" will be studied. Studying the fourth group of 500 words of the NGSL is independent study.			Students will be able to, 1. participate in small group discussion in which they support opinions, and exchange opinions including disagreeing. 2. write a multiple-paragraph essay supporting their opinions, 3. write an outline for an essay, 4. continue fluency reading, and 5. learn the fourth group of words of the NGSL.		
キーワード	Fluency, discussion, writing an essay, NGSL				
教授方法	Classes are active. Students use textbook material to talk with classmates, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.				
履修条件等	-				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	Unit 7, practice discussion with new phrases				
2	Unit 7, Writing Unit an essay				
3	Unit 7, Writing Unit				
4	Unit 7, practice discussion with new phrases				
5	Unit 7, Writing Unit				
6	Unit 7, discussion test				
7	Writing Unit				
8	Unit 8 Writing Unit				
9	Unit 8 Writing Unit				
10	Unit 8, Writing Unit				
11	Unit 8 discussion test, introduce Core Reading				
12	Core Reading Assignment A				
13	Core Reading Assignment B				
14	Core Reading Assignment C				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
speaking	35	discussion skills	writing	45	an expository essay, Core Reading assignments
reading	10	fluency reading	vocabulary	10	NGSL test
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
There are assignments to prepare for every class. Fluency reading and vocabulary study are done at the student's own pace.			Students can contact the instructor by email or on Teams.		
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press		受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.	
参考書・参考資料等	-		その他・特記事項	-	

授業科目	Comprehensive English (F)						
担当教員	坂 淳一		必修・選択	必修	単位数	1単位	
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。			<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。 ・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。 ・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。 ・NGSL第5段階(No. 2401-2801)の語彙を正しく運用することができる。 				
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	テキストに基づいて、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能演習を行い、音読を行う。また、300語の英語エッセイを書き、TEDのスピーチによるリスニングを行い、プレゼンテーション動画も作成する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業に関する説明、テキスト Unit 1、Core Reading (1)、語彙学習についての説明						
2	Unit 1(続き)、Core Reading (2)、NGSL(1)						
3	Unit 2、Core Reading (3)、NGSL(2)						
4	Unit 3、Core Reading (4)、NGSL(3)、TEDリスニング(1) "Calorie"						
5	Unit 4、エッセイライティングについて(1)、NGSL(4)						
6	Unit 5、エッセイライティングについて(2)、NGSL(5)						
7	Unit 6、エッセイライティングについて(3)、NGSL(6)						
8	Unit 7、プレゼンテーションの技術(1)、NGSL(7)						
9	Unit 9、プレゼンテーションの技術(2)、NGSL(8)、TEDリスニング(2) "Fat"						
10	Unit 10、プレゼンテーションの技術(3)、NGSL(9)						
11	Unit 11、ディスカッションの表現(1)、NGSL(10)						
12	Unit 12、ディスカッションの表現(2)、NGSL(11)						
13	Unit 13、ディスカッションの表現(3)、NGSL(12)						
14	Unit 14、NGSL(13)、TED リスニング(3) "Carbohydrates"						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験(面接)	20	プレゼン動画に基づく英語の口頭試問		授業レポート	30	300語エッセイの出来栄	
プレゼンテーション動画	30	プレゼン動画の出来栄		上記以外の授業評価	20	音読10%、NGSL 10%	
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応				
指示された予習・復習を必ず行い、NGSL課題にしっかりと取り組んでください。また、期限までにライティングやプレゼンテーションの課題を提出すること。			質問は出来るだけ授業中に行ってください。相談はまずは e-mail で、必要ならばアポイントを取って Zoom でも行えます。				
教科書・テキスト	『CLIL 英語で考えるSDGsー持続可能な開発目標』(三修社)		受講生に望むこと	授業外でもたくさん英語に接して下さい。			
参考書・参考資料等	必要に応じてオンラインで配信します。		その他・特記事項	特になし			

授業科目	Comprehensive English (C2)						
担当教員	宮崎 ひろ美			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。 ・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。 ・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。 ・NGSL第5段階(No. 2401-2801)の語彙を正しく運用することができる。 ・物事をクリティカルに考えて、プレゼンテーションで発表することができる。 			
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙						
教授方法	この授業はオンライン授業とする。前半の60分をZoomを使ったリアルタイム型、後半の40分をGlexaを使ったオンデマンド型とする。 リアルタイム型：リーディングやライティングなどの活動をWordファイルを共有しながらグループでおこなう。 オンデマンド型：動画で説明などを視聴したり、読解問題に取り組んだりする。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Guidance, Unit 1 (Reading 1)						
2	Unit 2 (Reading 1), プレゼン説明 (1)						
3	Unit 2 (Reading 2), プレゼン説明 (2)						
4	Unit 2 (Writing), Video						
5	Unit 3 (Reading 1), パラグラフ・ライティング説明 (1)						
6	Unit 3 (Reading 2), パラグラフ・ライティング説明 (2)						
7	Unit 3 (Writing), Video						
8	Unit 4 (Reading 1), Video						
9	Unit 4 (Writing), プレゼンテーション (Unit 2)						
10	Unit 5 (Reading 1), プレゼンテーション (Unit 3)						
11	Unit 5 (Reading 2), プレゼンテーション (Unit 4)						
12	Unit 5 (Writing), プレゼンテーション (Unit 5)						
13	Core Reading (1), 要約						
14	Core Reading (2), 要約						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
ライティング課題	20	英語力だけでなく構成なども含めて、その完成度により評価する。		プレゼンテーション	20	声の大きさ、発音、構成、視覚資料などから完成度により評価する。	
期末試験	40	リーディング・スキルを使ってどれだけ読解できるかにより評価する。		その他	20	NGSL 10%, MyELT 10%	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
事前学習：リーディングの音読、単語調べ、プレゼン準備など。 事後学習：MyELTを使って、リーディングやライティングの復習をする。				Zoomの後に15分程度質問タイムを作ります。 メールでも対応可(初回授業でアドレスをお知らせします)。			
教科書・テキスト	Pathways 1A: Reading, Writing, and Critical Thinking (2nd Edition) Cengage Learning			受講生に望むこと	洋楽を発音に注意しながら一緒に歌う、ドラマや映画などを字幕なし(または英語字幕)で見ると、面白そうな英字新聞の記事を毎日一つ見つけて音読するなど、日ごろから英語を身近な存在にしてください。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoomにアクセスできない場合はメールをください ・各種お知らせは Glexa に載せます。 		

授業科目	Comprehensive English (C1)				
担当教員	福岡 真知子		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	健康発達	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。			<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな話題や学部学科の専門に関する英文を正確に読むことができる。 ・やや専門的な内容においても、英語で意見を聞き、自分の意見を話すことができる。 ・自分の意見を論理的、説得的に英語で書くことができる。 ・NGSL第5段階(No. 2401-2801)の語彙を正しく運用することができる。 ・将来、現場で活かせる英語力の基礎固めが確実になり、応用に入る段階に達する。 		
キーワード	Accuracy、リーディング、ライティング、英語4技能、語彙				
教授方法	多様なメディアを利用し、語彙習得、Dictation、Phonics定着訓練、英会話とGroup Discussion、専門分野のReadingと読解、Essay Writingの基礎固めをする。				
履修条件等	特になし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	授業ガイダンス(シラバス・学習方法・NGSL等の確認)。履修者把握(テストとアンケート)。Self-Introduction。				
2	基本的に、毎回、次の順に展開： NGSL 前回の復習(雪だるま式ミニテスト《口頭》) ShadowingからDictation、答え合わせ テキスト 1回にUnits 1~2章。*第2回は、 Unit 1-2(入園関係)。				
3	～ 、 テキストUnit 3-4 (入園関係、案内)				
4	～ 、 テキストUnit 5-6 (紹介、遊び、登園)				
5	～ 、 テキストUnit 7 (保育者の仕事)				
6	～ 、 テキストの中間復習 テキストUnit 1-7の試験 Essay Writing の学び(資料の書き方を含む)				
7	、 、 Essay Reading, Group Discussion, Writing				
8	、 前回のEssayのPeer Edit、清書、提出 テキストUnit 8-9 (食事、連絡帳、英文コミュニケーション)				
9	～ 、 テキストUnit 10-11(けがと病気)				
10	～ 、 テキストUnit 12-13(電話、園行事への招待、お知らせ)				
11	～ 、 テキストUnit 14-15(成長・発達、卒園、感謝)				
12	～ 、 Essay Reading, Group Discussion, Writing				
13	～ 、 テキストの総復習 テキストUnit 8-15の試験 Essay Writing のPeer Edit				
14	口頭試験 Essay 提出 講評 フォロー				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
試験	40%	筆記と口頭の試験で到達目標達成度を評価	英文レポート	20%	英文を読み既定の形式で論理的に書いたEssayを評価
授業内活動・貢献	30%	授業への参加・活動・貢献度を評価	上記以外の授業評価	10%	NGSL共通試験において対象語彙の習熟度を測る
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応		
予習・復習は必須。提出課題とNGSLに取り組むこと。			授業時の質問タイム利用、あるいは、メールでどうぞ。		
教科書・テキスト	赤松直子・久富陽子『保育の英会話(第2版)』(萌文書林)と配布教材		受講生に望むこと	予習復習は必須です。将来役立つ英語力をつけるよう、授業に積極的に取り組んでください。	
参考書・参考資料等	『幼保英検2級テキスト(改訂版)』(ブックフォレ)		その他・特記事項	ポータルを通じたお報せに注意。配布資料のダウンロードを。提出はメールで。	

授業科目	Academic English Communication (F)						
担当教員	Cheryl Kirchoff			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
his class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentations and language for individual and group presentations. A Core Reading, " Making the Most of Your Study Abroad" will be studied. Studying the last group of 400 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. outline a presentation, 2. use academic presentation language for individual and group presentations, 3. discuss how to make the most of an overseas experience, 4. use the fifth group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, presentation skills, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment						
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines						
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity						
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading						
5	Core Reading I discussion, destination groups decide theme and individual topics						
6	Core Reading II discussion, use NGSL						
7	Core Reading III discussion, review citing sources for Presentation B Planning Sheet						
8	Presentation B done in destination groups, Introduction to In Focus Unit 10						
9	Unit 10, page 74, 75, Introduction to Presentation C, destination groups talk about presenter order, use NGSL						
10	Unit 10, page 78, 79, Introduction to TED Talks and CNBC assignment						
11	CNBC assignment discussion, Presentation Phrases practice						
12	Arai TED Talk discussion, explanation of discussion test, Presentation C planning						
13	Unit 10 Discussion test, Presentation C rehearsal						
14	Presentation C						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Presentations	50	outline and plan of presentation, 3 presentations		Reading	25	Core Reading and other assignments	
Discussion	15	In Focus Unit 10 discussion test		Vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and participate in class discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (C2)						
担当教員	Dawn Lucovich			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentations and language for individual and group presentations. A Core Reading, "Making the Most of Your Study Abroad" will be studied. Studying the last group of 400 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. outline a presentation, 2. use academic presentation language for individual and group presentations, 3. discuss how to make the most of an overseas experience, 4. use the fifth group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, presentation skills, NGSL						
教授方法	Every class will be active and include speaking with classmates about textbook topics. There will activities to use and practice NGSL words every week. The ability to summarize readings and discussions effectively will be emphasized.						
履修条件等	-						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	Course orientation, syllabus, introductions, textbook, presentation A, language card and template						
2	Practice presentation language with outline, fluency reading and book talk						
3	Presentation A slide explanation, conversation strategies I, NGSL review						
4	Presentation A, fluency reading, and book talk						
5	Presentations phrases test, conversation strategies II, Core Reading discussion						
6	Core Reading discussion, fluency reading, and book talk						
7	Core Reading discussion, conversation strategies III, Presentation B						
8	Presentation B outline, fluency reading and book talk						
9	Overseas Program destination group explanation, conversation strategies IV						
10	Overseas Program destination group, fluency reading and book talk						
11	Overseas Program destination group work, presentation phrases, conversation strategies V						
12	Presentation C						
13	Presentation C						
14	Course evaluation and review						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Presentations	50	Group and 2 individual		Four Skills	25	Conversation Strategies, Core Reading, and other assignments	
Discussion	15	Tests on conversation strategies and presentation phrases		Vocabulary	10	NGSL tests	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
Before class, read, write, and prepare materials. This includes the text, relevant vocabulary, reports, and online documents. After class, review material that we have learned, and reflect on what you can and cannot do yet. Studying in pairs or small groups is highly encouraged.				Contact by Google Form, email and Zoomoffice hours.			
教科書・テキスト	Instructor- and student-provided materials			受講生に望むこと	Work hard, complete all tasks, collaborate with classmates, formulate and ask questions, be curious and critical and creative.		
参考書・参考資料等	Digital literacy skills and cloud-based computing will be used.			その他・特記事項	-		

授業科目	Academic English Communication (C1)						
担当教員	Keff Kenner			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	1学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
This class will prepare students for their overseas study trip by teaching academic presentations and language for individual and group presentations. A Core Reading, "Making the Most of Your Study Abroad" will be studied. Studying the last group of 400 words of the NGSL is independent study.				Students will be able to, 1. outline a presentation, 2. use academic presentation language for individual and group presentations, 3. discuss how to make the most of an overseas experience, 4. use the fifth group of words of the NGSL.			
キーワード	Fluency, discussion, presentation skills, NGSL						
教授方法	Classes are active. Students prepare for presentations related to their overseas program, practice conversation strategies, practice discussion, do writing activities and practicing vocabulary.						
履修条件等	-						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	Introduction to course and classmates, Presentation A explanation and model, Presentation Outline assignment						
2	Introduction to Presentation Phrases, Presentation A template timing, share outlines						
3	Presentation Phrases practice, Presentation A pair practice, NGSL activity						
4	Presentation A to partner, Introduction to Presentation B, destination groups talk about theme, Core Reading						
5	Core Reading I discussion, destination groups decide theme and individual topics						
6	Core Reading II discussion, use NGSL						
7	Core Reading III discussion, review citing sources for Presentation B Planning Sheet						
8	Presentation B done in destination groups, Introduction to In Focus Unit 10						
9	Unit 10, page 74, 75, Introduction to Presentation C, destination groups talk about presenter order, use NGSL						
10	Unit 10, page 78, 79, Introduction to TED Talks and CNBC assignment						
11	CNBC assignment discussion, Presentation Phrases practice						
12	Arai TED Talk discussion, explanation of discussion test, Presentation C planning						
13	Unit 10 Discussion test, Presentation C rehearsal						
14	Presentation C						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
presentations	50	3 presentations, outline assignments		discussion	15	In Focus Unit 10 discussion and assignments	
4 skills	25	Core Reading and other assignments		vocabulary	10	NGSL test	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
There are assignments to prepare for every class.				Students can contact the instructor by email or on Teams.			
教科書・テキスト	In Focus, Student Book 1, Cambridge University Press			受講生に望むこと	Prepare for every class and actively participate in discussions.		
参考書・参考資料等	-			その他・特記事項	-		

授業科目		Career English for Global Mobility (C2)					
担当教員	坂 淳一			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEICなどの英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、ビジネス英語の語彙や表現、学科の専門分野の語彙や表現を身につけ、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶ。さらには、英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力の基礎を固める。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC L&Rにおいて500点程度を取る実力が身につけている。 ・ Uni 9 までの幼保現場で必要とされるが英語が身につけている。 ・ 英語でカバーレターと履歴書を書くことが出来る。 ・ 英語の歌を歌い、英語の物語を朗読することが出来る。 ・ 英文法、発音、表現の力が身につけている。 			
キーワード	幼保英語、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	幼保英語については、テキストに基づく練習問題やペアワークなどを行う。TOEICに関しては、主にテキストと e-learning を用いて学習する。また、Glexaを用いた復習課題によって学んだ内容の定着を図る。その他、ライティングや録音の課題もあります。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（シラバス、テキスト、e-learning について）、TOEIC L&R テストについて（設問の構成、時間配分など）、基本5文型と名詞・形容詞・副詞						
2	幼保英語 Unit 1、TOEIC テキスト Unit R-1と品詞の区別						
3	幼保英語 Unit 2、TOEIC テキスト Unit L-1、L-2 と時制・態（1）						
4	幼保英語 Unit 3、TOEIC テキスト Unit R-2 と時制・態（2）						
5	幼保英語 Unit 4、TOEIC テキスト Unit R-3 と時制・態（3）						
6	就職活動の基本（カバーレター・履歴書・自己PRスピーチ、自己PRスピーチ）、幼保現場に役立つ英語活動（英語の歌と物語）						
7	就職活動の基本（カバーレター・履歴書・自己PRスピーチ、自己PRスピーチ）、幼保現場に役立つ英語活動（英語の歌と物語）						
8	就職活動の基本（カバーレター・履歴書・自己PRスピーチ）、幼保現場に役立つ英語活動（英語の歌と物語）						
9	就職活動の基本（カバーレター・履歴書・自己PRスピーチ）、幼保現場に役立つ英語活動（英語の歌と物語）						
10	幼保英語 Unit 5、TOEIC テキスト Unit L-3と疑問文（1）、第5回までの語彙テスト						
11	幼保英語 Unit 6、TOEIC テキスト Unit L-4と疑問文（2）						
12	幼保英語 Unit 7、TOEIC テキスト Unit L-5						
13	幼保英語 Unit 8、TOEIC テキスト Unit R-4と前置詞・接続詞						
14	幼保英語 Unit 9、TOEIC テキスト Unit R-5と代名詞、関係代名詞、第10-14回までの語彙テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	40	幼保英語およびTOEICに関するテストの点数		授業レポート	20	カバーレター・履歴書・自己PRスピーチ10%、歌と物語10%	
Glexa 課題	20	幼保英語およびTOEICに関する課題の消化率		上記以外の授業評価	20	2回の語彙テスト合計 10%、e-learning 10%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指示された予習・復習を毎回きちんと行い、様々な課題にしっかりと取り組むこと。				質問は出来るだけ授業中に行って欲しいと思いますが、メールでも結構です。相談はまずは e-mail で、必要ならばアポイントを取って Zoom で行うことも出来ます。			
教科書・テキスト	Speaking of Childcare（南雲堂）、TOEIC L&Rテスト戦略的トレーニング：レベル500（朝日出版社）			受講生に望むこと	専門分野に生かすことが出来る英語力を身につけて欲しい。		
参考書・参考資料等	必要に応じてオンラインで配信する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English for Global Mobility (F)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEICなどの英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、ビジネス英語の語彙や表現、学科の専門分野の語彙や表現を身につけ、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶ。さらには、英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力の基礎を固める。</p>				<p>・TOEIC(L&R)において500点以上を取る力を身につけること。 ・専門分野に関連する語彙や表現を身につけ、英文を正しく読み取ることが出来ること。</p>			
キーワード	TOEIC(L&R)、栄養英語						
教授方法	TOEICについてはe-learning教材による自学自習を中心とし、授業では栄養英語のテキストを中心に扱います。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、TOEIC(L&R)について						
2	Unit 1 Nutrition for Good Health、TOEIC Part 1						
3	Unit 2 Carbohydrates、TOEIC Part 2						
4	Unit 3 Fats and Proteins、TOEIC Part 3,4						
5	Unit 4 Vitamins and Minerals、TOEIC Part 5						
6	Unit 5 The Importance of Balance、TOEIC Part 6,7						
7	まとめ・中間テスト(栄養英語・TOEIC)						
8	Unit 6 Diets for Different Needs、TOEIC Part 1						
9	Unit 7 The Dangers of an Unbalanced Diet、TOEIC Part 2						
10	Unit 8 Managing Body Weight、TOEIC Part 3,4						
11	Unit 9 Our Food Choices、TOEIC Part 5						
12	Unit 10 Eating Disorders、TOEIC Part 6						
13	Unit 11 Foods that Can Make You Sick、TOEIC Part 7						
14	まとめ・期末テスト(栄養英語・TOEIC)						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習・課題提出状況、授業時の発表やグループワークへの取り組み等により評価する。		中間・期末テスト	50	TOEIC(L&R)形式の問題の得点力と専門分野に関する英語の理解度により評価する。	
e-learning	20	別途通知します。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養英語テキストの予習・復習 ・e-learning(『TOEIC L&Rテスト 500点突破コース』、『同 600点突破コース』アルク) 				授業時に直接、またはメールで連絡してください。			
教科書・テキスト	Simply Nutrition(『栄養系学生のための総合英語』)南雲堂			受講生に望むこと	今学期は英語の授業が週1回だけになります。引き続き英語力を伸ばしていくため、(専門科目で忙しいとは思いますが)授業外でもできるだけ多く英語に触れるようにしましょう。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English for Global Mobility (C1)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEICなどの英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、ビジネス英語の語彙や表現、学科の専門分野の語彙や表現を身につけ、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶ。さらには、英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力の基礎を固める。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC L&Rにおいて500点程度を取る実力が身につけている。 ・ TOEIC S&Wの出題傾向と基本的な解答方法を把握する。 ・ 幼保現場用の基本的な英語活動を実践できる。 ・ 英語圏での就職活動に必要な基本的事項を理解する。 			
キーワード	幼保英語、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、受講生の積極的なアウトプットが求められる						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス(シラバスおよび『Mastery Drills for the TOEIC® L&R Test All in One [New Edition] 』(TOEICマスタードリル), 『TOEIC L&R TEST 英単語スピードマスター』(英単語スピマス)の2冊やeLearningの使い方, TOEIC S&Wの概要など)						
2	TOEICマスタードリル U1.人物の動作と状態、表・用紙、幼保現場の英語(会話文)、TOEIC S&W(写真描写)						
3	TOEICマスタードリル U2.疑問詞を使った疑問文、広告、幼保現場の英語(会話文)、TOEIC S&W(写真描写)						
4	TOEICマスタードリル U3.日常場面での会話、品詞、幼保現場の英語(会話文)、TOEIC S&W(写真描写)						
5	TOEICマスタードリル U4.アナウンス ツアー、動詞、幼保現場の英語(会話文)、TOEIC S&W(写真描写)						
6	就職活動の基本(カバーレターと履歴書、自己PRスピーチ) 幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)						
7	就職活動の基本(カバーレターと履歴書、自己PRスピーチ) 幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)						
8	就職活動の基本(カバーレターと履歴書、自己PRスピーチ) 幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)						
9	就職活動の基本(カバーレターと履歴書、自己PRスピーチ) 幼保現場に役立つ英語活動(英語の歌と物語)						
10	TOEICマスタードリル U5.物の状態と位置、チャット、幼保現場の英語(インストラクション)、TOEIC S&W(Sp.応答問題, Wr.Eメール)						
11	TOEICマスタードリル U6.基本構文と応答の決まり文句、手紙・Eメール、幼保現場の英語(インストラクション)、TOEIC S&W(Sp.応答問題, Wr.Eメール)						
12	TOEICマスタードリル U7.電話での会話、代名詞・関係代名詞、幼保現場の英語(インストラクション)、TOEIC S&W(Sp.応答問題, Wr.Eメール)						
13	TOEICマスタードリル U8.ラジオ放送・宣伝、接続詞・前置詞、幼保現場の英語(インストラクション)、TOEIC S&W(Sp.応答問題, Wr.Eメール)						
14	TOEIC L&R, S&Wの確認問題と解説						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	30	TOEIC L&Rへの対応力を測定する		提出課題	30	カバーレターと履歴書、自己PRスピーチに必要な対応力10%、幼保現場用の歌と物語の実践力10%、幼保現場に必要な基本的な英語発信力(会話文、イ	
語彙確認テスト	15	TOEIC L&Rに必要な語彙の習得を測定する		その他課題	25	eLearning 10%(学科共通)、eLearningガイド付き学習ノート作成5% TOEIC S&W確認問題10%	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
・毎回の授業内容について、テキストを中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。さらにeLearningは、授業内容と連動させるため指示された順番とスケジュールで概ね取り組むこと。				授業時に確認できなかったことは大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Mastery Drills for the TOEIC® L&R Test All in One [New Edition] (桐原書店、ISBN 978-4342550157) ・TOEIC(R)L&R TEST英単語スピードマスター(第3版)(Jリサーチ出版、ISBN 978-4863923744) [以上2冊] 			受講生に望むこと	2022年2月および将来におけるTOEIC L&RおよびS&Wの受験を見据え、授業期間終了後の自学習を充実させるために必要な学習サイクルを身につけてください。またTOEIC以外にも幼保英検など他の英語資格にも興味を持ちましょう。		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・『保育の英会話 第2版』(赤松直子・久富陽子、萌文書林、2004) ...1学期Comprehensive III (C1)で指定された幼保英語のテキスト ・その他、適宜、有益なサイト等を紹介 			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English for Global Mobility (C2)						
担当教員	坂 淳一			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEICなどの英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC600点台から700点台以上のスコアを取ることを目標とする。また、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行うほか、国際的な話題に関する英文を読み、ディスカッションやレポート作成を行うなど、これまでに学んだ英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力を完成させる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC L&Rにおいて600点程度を取る実力が身についている。 ・ テキストで学んだ、幼保現場で必要とされるが英語が身についている。 ・ 英文メールを書くことが出来る。 ・ 英文で300語程度のエッセイを書くことが出来る。 ・ 4技能の力がバランスよく身についている。 			
キーワード	幼保英語、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	幼保英語については、テキストに基づく練習問題やペアワークなどを行う。TOEICに関しては、主にテキストと e-learning を用いて学習する。また、Glexaを用いた復習課題によって学んだ内容の定着を図る。その他、ライティングや録音の課題もあります。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	幼保英語 Unit 10、TOEIC テキスト Unit L-6、文法の復習（1）						
2	幼保英語 Unit 11、TOEIC テキスト Unit R-6、文法の復習（2）						
3	幼保英語 Unit 12、TOEIC テキスト Unit L-7						
4	幼保英語 Unit 13、TOEIC テキスト Unit R-7						
5	幼保英語 Unit 14、TOEIC テキスト Unit L-8						
6	幼保英語 Unit 15、TOEIC テキスト Unit R-8						
7	TOEIC Speaking & Writing TEST について、エッセイライティングの復習と課題、第6回までの語彙テスト						
8	TOEIC テキスト Unit L-9、Unit R-9、TOEIC S&W 演習（1）						
9	TOEIC テキスト Unit L-10、Unit R-10、TOEIC S&W 演習（2）						
10	TOEIC テキスト Unit L-11、Unit R-11、TOEIC S&W 演習（3）						
11	TOEIC テキスト Unit L-12、Unit R-12、TOEIC S&W 演習（4）						
12	TOEIC テキスト Unit L-13・14 Review、TOEIC S&W 演習（5）						
13	TOEIC テキスト Unit R-13・14 Review、TOEIC S&W 演習（6）						
14	総復習、TOEIC S&W 演習（7）、第13回までの語彙テスト						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	30	幼保英語およびTOEICに関するテストの点数		授業レポート	20	英文メール10%、英文エッセイ10%	
Glexa 課題	20	幼保英語およびTOEICに関する課題の消化率		上記以外の授業評価	30	2回の語彙テスト合計 16%、e-learning 14%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指示された予習・復習を毎回きちんと行い、様々な課題にしっかりと取り組むこと。				質問は出来るだけ授業中に行って欲しいと思いますが、メールでも結構です。相談はまずは e-mail で、必要ならばアポイントを取って Zoom で行うことも出来ます（対面授業に戻っていたら教室で）。			
教科書・テキスト	Speaking of Childcare（南雲堂）、TOEIC L&Rテスト戦略的トレーニング：レベル500（朝日出版社）（2学期のテキストを引き続き使用）			受講生に望むこと	専門分野に生かすことが出来る英語力を身につけて欲しい。		
参考書・参考資料等	必要に応じてオンラインで配信する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English for Global Mobility (F)						
担当教員	中島 基樹			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEICなどの英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC600点台から700点台以上のスコアを取ることを目標とする。また、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行うほか、国際的な話題に関する英文を読み、ディスカッションやレポート作成を行うなど、これまでに学んだ英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力を完成させる。</p>				<p>・TOEIC(L&R)において600点以上を取る力を身につけること。 ・専門分野に関連する英語文献を正しく読み取り、要点を整理して発表できること。</p>			
キーワード	TOEIC(L&R)、栄養英語						
教授方法	TOEICについては時間配分を意識した実戦演習を中心に、栄養英語についてはテキストによる学習に加え、より専門的な英語文献のグループ発表を行います。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、TOEIC(S&W)について						
2	Unit 12 Safe Food Preparation						
3	TOEIC問題演習						
4	Unit 13 Water and Other Drinks						
5	TOEIC問題演習						
6	Unit 14 The Changing Japanese Diet						
7	TOEIC問題演習						
8	Unit 15 The Work of a Dietitian						
9	TOEIC問題演習						
10	中間テスト(栄養英語)、グループ発表準備						
11	グループ発表						
12	グループ発表						
13	グループ発表						
14	まとめ・期末テスト(TOEIC)						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への取り組み	30	予習・課題提出状況、授業時の発表やグループワークへの取り組み等により評価する。		中間・期末テスト	50	TOEIC(L&R)形式の問題の得点力と専門分野に関する英語の理解度により評価する。	
グループ発表	10	英語文献の内容の理解度と発表のわかりやすさにより評価する。		e-learning	10	別途通知します。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養英語テキストの予習・復習 ・グループ発表の準備 ・e-learning(『TOEIC L&Rテスト 600点突破コース』アルク) 				授業時に直接、またはメールで連絡してください。			
教科書・テキスト	Simply Nutrition(『栄養系学生のための総合英語』)南雲堂			受講生に望むこと	2年間の英語学習の成果を示す1つの指標として、TOEICスコアを入学時から大きく伸ばせるよう、(専門科目で忙しいとは思いますが)授業外でもe-learningや問題集に積極的に取り組みましょう。		
参考書・参考資料等	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-7』国際ビジネスコミュニケーション協会			その他・特記事項	特になし		

授業科目	Career English for Global Mobility (C1)						
担当教員	加藤 貴之			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	健康発達	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEICなどの英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC600点台から700点台以上のスコアを取ることを目標とする。また、英文ビジネスレターの書き方や英語による面接についての練習も行うほか、国際的な話題に関する英文を読み、ディスカッションやレポート作成を行うなど、これまでに学んだ英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力を完成させる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC L&Rにおいて600点程度を取る実力が身についている。 ・TOEIC S&Wにおいて明確に意図を伝えることができる。 ・幼児教育に関する基本書を読み、サマリーとコメントを英文で作成できる。 			
キーワード	幼保英語、TOEIC、ビジネス英語						
教授方法	ペア・グループワークへの参加やメディアシステムへの録音等、受講生の積極的なアウトプットが求められる						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス、TOEIC L&R確認問題と解説						
2	TOEICマスタードリル U9.Yes/No疑問文、ダブルパッセージ、幼児教育の基本書、TOEIC S&W(復習)						
3	TOEIC L&R確認問題と解説						
4	TOEICマスタードリル U10.オフィスでの会話、幼児教育の基本書、TOEIC S&W(復習)						
5	TOEICマスタードリル U11.留守番電話、トリプルパッセージ、幼児教育の基本書、TOEIC S&W(Sp.解決策の提案)						
6	TOEICマスタードリル U12.留守番電話、トリプルパッセージ、幼児教育の基本書、TOEIC S&W(Sp.解決策の提案)						
7	TOEICマスタードリル U13.Part 1とPart 2の復習、時制・代名詞・語彙問題、幼児教育の基本書、TOEIC S&W(Sp.意見)						
8	TOEICマスタードリル U14.トーク・スピーチ・会議の一部、つなぎ言葉・文の挿入、幼児教育の基本書、TOEIC S&W(Sp.意見)						
9	TOEICマスタードリル U15.Part 3とPart 4の復習、Part 6の復習、幼児教育の基本書、TOEIC S&W(Sp.全タイプ復習)						
10	幼児教育の基本書、TOEIC S&W(Sp.全タイプ復習、Wr.エッセー)						
11	テキストおよびeLearningポイント整理、TOEIC S&W(Sp.確認問題、Wr.エッセー)						
12	テキストおよびeLearningポイント整理、TOEIC S&W(Wr.確認問題)						
13	TOEIC L&R確認問題と解説						
14	TOEIC L&R確認問題と解説						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	TOEIC L&Rの対応力を測定する		提出課題	15	幼児教育の基本書に関してリアクションペーパー10%とプレゼン5%によって読解力および発信力を測定する	
語彙確認テスト	15	TOEIC L&Rに必要な語彙の習得度合を測定する		その他課題	30	eLearning 14%(学科共通)、eLearningガイド付き学習ノート作成6% TOEIC S&W確認問題10%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>・毎回の授業内容について、テキストを中心に事前・事後学習を1時間程度行うこと。さらにeLearningは、授業内容と連動させるため指示された順番とスケジュールで概ね取り組むこと。</p>				<p>大学メール/Teamsチャットで問い合わせをしてください。</p>			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Mastery Drills for the TOEIC® L&R Test All in One [New Edition] (桐原書店、ISBN 978-4342550157) ・TOEIC(R)L&R TEST英単語スピードマスター(第3版)(Jリサーチ出版、ISBN 978-4863923744) [2学期Career Mobility Iで使用した同じ2冊] 			受講生に望むこと	<p>2022年2月および将来におけるTOEIC L&RおよびS&Wの受験を見据え、授業期間終了後の自学習を充実させるために必要な学習サイクルを身につけてください。またTOEIC以外にも幼保英検など他の英語資格にも興味を持ちましょう。</p>		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・『保育の英会話 第2版』(赤松直子・久富陽子、萌文書林、2004) ...1学期Comprehensive III (C1)で指定された幼保英語のテキスト ・その他、適宜、有益なサイト等を紹介 			その他・特記事項	<p>特になし</p>		

授業科目	海外プログラム（アメリカ）						
担当教員	中澤 弥子・草間 かおる			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>管理栄養士として先駆的な活動を推進している海外（アメリカ合衆国）に滞在し、その養成制度と活躍の現状を理解する。また、海外の食習慣や生活習慣を体験するとともに、日本食の海外での普及の現状を知り、視野を広げる。その事前指導として、研修国の概要を学び、管理栄養士制度、日本文化、日本食などについての英語プレゼンテーションの準備を行う。英語クラス、現地学生との交流等を通してコミュニケーション能力を向上させる。事後指導では、滞在先で学んだ学習内容の省察と個人課題について整理と検討を行い、報告会での発表や意見交換を通して、専門領域への理解を深め、さらなる関心を高める。担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。 英語表記「Overseas program」</p>				<p>海外の栄養士・管理栄養士の活動の現状を説明できる。 海外と日本の食習慣や生活習慣の違いを説明できる。 英語プレゼンテーション能力を向上する。</p>			
キーワード	アメリカ合衆国 管理栄養士 英語プレゼンテーション能力						
教授方法	事前事後指導（第1回～第5回、第13回、第14回）は演習形式で随時ディスカッションを行う。現地研修（第6回～第12回）では、ミズーリ大学コロンビア校での講義や大学施設の見学、実習や管理栄養士が活躍する現場でのフィールドワークを行う。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	海外プログラムの概要と意義						
2	英語プレゼンテーション準備1：管理栄養士制度の紹介						
3	英語プレゼンテーション準備2：日本文化の紹介						
4	英語プレゼンテーション準備3：日本食の紹介						
5	個人課題の計画・文化交流活動の準備						
6	ミズーリ大学コロンビア校のオリエンテーション・施設見学						
7	ミズーリ大学コロンビア校の英語学習						
8	現地講義（管理栄養士制度と活動の現状）						
9	現地講義（食文化、健康・栄養問題、スポーツ栄養学など）						
10	フィールドワーク（アメリカ合衆国の食体験）						
11	フィールドワーク（小学校、高齢者施設等見学）						
12	ミズーリ大学コロンビア校の学生との文化交流活動						
13	現地での体験の振り返りと個人課題の整理と検討、グループでの検討会・意見交換会						
14	体験報告会						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
提出物	50	事前指導、現地研修、事後指導で課された提出物の提出状況及び内容に応じて評価する。		英語の評定	30	ミズーリ大学コロンビア校による評価を参考にして評価する。	
授業への積極的な参加度	20	事前指導、現地研修、事後指導への参加度に応じて評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前指導、現地研修、事後指導で課された課題に取り組む。				質問等は授業中や授業の前後に受け付け、回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。 中澤 弥子 nakazawa.hi.rocko@u-nagano.ac.jp 草間 かおる kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	随時知らせる。			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では積極的に課題やディスカッションに取り組むこと。 ・説明会やメール等による連絡内容をきちんと確認すること。 ・課題の提出締め切りを厳守すること。 		
参考書・参考資料等	随時知らせる。			その他・特記事項	全学のオリエンテーションや説明会には必ず参加すること。 担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。		

授業科目	海外プログラム（ニュージーランド）						
担当教員	中澤 弥子・草間 かおる			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>管理栄養士として先駆的な活動を推進している海外（ニュージーランド）に滞在し、その養成制度と活躍の現状を理解する。また、海外の食習慣や生活習慣を体験するとともに、日本食の海外での普及の現状を知り、視野を広げる。その事前指導として、研修国の概要を学び、管理栄養士制度、日本文化、日本食などについての英語プレゼンテーションの準備を行う。英語クラス、現地学生との交流等を通してコミュニケーション能力を向上させる。事後指導では、滞在先で学んだ学習内容の省察と個人課題について整理と検討を行い、報告会での発表や意見交換を通して、専門領域への理解を深め、さらなる関心を高める。担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。 英語表記「Overseas Program」</p>				<p>海外の栄養士・管理栄養士の活動の現状を説明できる。 海外と日本の食習慣や生活習慣の違いを説明できる。 英語プレゼンテーション能力を向上する。</p>			
キーワード	ニュージーランド 管理栄養士 英語プレゼンテーション能力						
教授方法	事前事後指導（第1回～第5回、第13回、第14回）は演習形式で随時ディスカッションを行う。現地研修（第6回～第12回）では、Ara クライストチャーチ工科大学の英語学習とHealth Careの教員によるセミナーや大学施設の見学、実習や管理栄養士が活躍する現場でのフィールドワークを行う。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	海外プログラムの概要と意義						
2	英語プレゼンテーション準備1：管理栄養士制度の紹介						
3	英語プレゼンテーション準備2：日本文化の紹介						
4	英語プレゼンテーション準備3：日本食の紹介						
5	個人課題の計画・文化交流活動の準備						
6	Ara クライストチャーチ工科大学のオリエンテーション・施設見学						
7	Ara クライストチャーチ工科大学の英語学習						
8	現地講義（管理栄養士制度と活動の現状）						
9	現地講義（基礎栄養学、マオリ食文化、健康・栄養問題など）						
10	フィールドワーク（ニュージーランドの食体験）						
11	フィールドワーク（高齢者施設等見学）						
12	Ara クライストチャーチ工科大学の学生との文化交流活動						
13	現地での体験の振り返りと個人課題の整理と検討、グループでの検討会・意見交換会						
14	体験報告会						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
提出物	50	事前指導、現地研修、事後指導で課された提出物の提出状況及び内容に応じて評価する。		英語の評定	30	Ara クライストチャーチ工科大学による評価を参考にして評価する。	
授業への積極的な参加度	20	事前指導、現地研修、事後指導への参加度に応じて評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前指導、現地研修、事後指導で課された課題に取り組む。				質問等は授業中や授業の前後に受け付け、回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。 中澤 弥子 nakazawa.hi.rock@u-nagano.ac.jp 草間 かおる kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	随時知らせる。			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では積極的に課題やディスカッションに取り組むこと。 ・説明会やメール等による連絡内容をきちんと確認すること。 ・課題の提出締め切りを厳守すること。 		
参考書・参考資料等	随時知らせる。			その他・特記事項	全学のオリエンテーションや説明会には必ず参加すること。 担当教員の草間は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。		

授業科目	管理栄養士活動論						
担当教員	笠原 賀子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>保健・医療・介護・福祉ならびに教育分野など、さまざまな職種で専門職として活躍する、次代を担う管理栄養士を養成するための導入科目である。社会のニーズに応えるための管理栄養士の役割と使命、関連法規、職業倫理、歴史的背景、他職種との連携など、多岐にわたる内容について理解を深めるとともに、管理栄養士の職務に対する学びの意欲を醸成する。</p> <p>さらに、各職種で活躍する管理栄養士の生の声を聞いて、これからの時代に活躍する、新しい管理栄養士の可能性を模索し、理想の管理栄養士像を構築する。</p>				<p>到達目標 管理栄養士の職務と役割、使命を理解する。 自分なりの理想の管理栄養士像を構築することができる。</p>			
キーワード	管理栄養士の職務と役割、管理栄養士の使命、理想の管理栄養士像						
教授方法	zoom による遠隔授業とする。 講義、プレゼンテーション、ディスカッション（事前学習に基づいたゲストスピーカーとのディスカッションと振り返り）。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション「管理栄養士の職務の基本」 企業で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
2	海外で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション） スポーツ界で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
3	他職種連携により活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
4	行政（県・市町村）で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
5	学校で活躍する管理栄養士（栄養教諭）の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
6	医療施設で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
7	幼稚園・保育所等で活躍する管理栄養士の役割と使命、連携（ゲストスピーカーとのディスカッション） まとめ「管理栄養士課程で学ぶということ」						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	80	・栄養計算表の提出と内容 ・レポートの内容（事前学習の度合い、知識習得の度合い、理解度）、文体及び構成（論理性、解り易			授業態度	20	主体的態度（他者の意見の聴き方、積極的な発言、課題の発見と取り組み方）について評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・事前：それぞれのゲストスピーカーの活躍する分野について調べる。 ・事後：レポートをまとめる（締切厳守）。 				<ul style="list-style-type: none"> ・授業中や授業の前後に随時受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 メールアドレス 笠原賀子：kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	「管理栄養士・栄養士必携」（公社）日本栄養士会編 第一出版 「八訂 食品成分表2020」女子栄養大学出版部 「日本人の食事摂取基準（2020年度版）」第一出版			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストスピーカーの話や、クラスメートの意見・考えをもとに、自らの生き方や管理栄養士としてのキャリア形成について思考を深めましょう。 ・必ず1度は、ゲストスピーカーに質問すること。 		
参考書・参考資料等	・随時、資料、レポート用紙を配布する。			その他・特記事項	・授業の順番は、ゲストスピーカーの都合により前後することがある。		

授業科目		食文化論					
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録される等、日本の伝統的な食文化への関心が高まっている。食文化論では、日本の食文化とはなにか、外国からきた食材や料理を巧みに日本化して取り入れていった歴史、米と魚を軸に、多様な発酵技術を生かした独自性、郷土料理の広がり等、日本の食文化について学ぶ。食品の種類別にその歴史を通史的に学び、世界や地域の食文化や家庭内・家庭外の食文化について、その特徴とともに、食と健康との関係について学ぶ。自らの食生活や食文化について理解する。 英語表記「Introduction to Food Culture」</p>				<p>日本の食文化の特徴とはなにか、世界や地域の食文化についても事例を通して理解を深め、多様な食文化の背後にあるものの見方・考え方を修得する。 食と健康との関係についての理解を深め、異文化を柔軟に受けとめる姿勢を養い、多文化共生時代に必要な基礎知識を修得する。</p>			
キーワード	和食 歴史 異文化 多文化共生						
教授方法	講義において、教科書のみならず、参考書、新聞、映像資料等食文化に関する様々な情報を補足資料として使い、パワーポイントによる視覚資料を活用し、食文化についての理解を深める。講義の前半で学生各自の育ってきた食生活・食文化についてまとめるレポート課題を課しておき、第7回の報告会で発表し意見交換を行い、食文化についての理解や関心を深める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、食文化の定義、食文化研究、「和食」日本人の伝統的な食文化、日本料理の形成と発展、異文化接触と受容						
2	世界の食文化形成、食に関する思想、主食の文化						
3	主食と副食の文化						
4	副食の文化、台所・食器・食卓の文化						
5	調味料・油脂・香辛料・菓子・茶・酒の文化						
6	和食と健康、日常の食生活、非常の食生活、外食文化の成立と変化						
7	行事と地域の食文化、食生活・食文化についての報告会とまとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	60	講義で学んだ日本や世界の食文化の特徴に関する基本的知識の理解度に応じて評価する。		提出物	40	毎回の授業の中で学んだ食文化に関する基本的知識について課された提出物の提出状況及び内容に応じて	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としては、毎回指定する課題（教科書等の関係する資料を確認する）に取り組む。 事後学習としては、授業で学んだ内容について教科書や資料を使用して整理し、理解を深める。				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の後に受け付ける。 ・毎回の小テストに感想・意見・質問等も記して提出してもらう。 ・メールでの質問についても受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。 			
教科書・テキスト	『日本の食文化 新版「和食」の継承と食育』江原絢子・石川尚子編著 アイ・ケイ コーポレーション 2016 ISBN：978-4-87492-343-6			受講生に望むこと	日本や世界や地域の食文化について、各自がこれまでに知ってきた知識や事例と比較し、多様な食文化の背後にあるものの見方・考え方について理解を深め主体的に学んでほしい。		
参考書・参考資料等	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、適宜、資料等を配布・紹介する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		経営学入門					
担当教員	森本 博行			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>・経営学とは、ビジョンの実現に向けてPDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルを回して、人や組織を効率的かつ効果的に動かすために、何をすべきか研究する学問です。経営学入門では、PDCAサイクルを構成する経営戦略や経営組織などの経営学の専門分野を具体的に概説します。</p> <p>・担当教員は、外資系企業を顧客とする広告会社である（マッキンゼー・ソニー）においてマーケティング戦略を担当し、さらにソニーにおいて、経営戦略、広告宣伝戦略、新事業戦略を担当し、米国、英国の海外子会社での実務経験があります。ソニーを退職する時には、イノベーション戦略オフィスVP（Vice President）でした。</p>				<p>・経営学全般について、経営学を学ぶ意義について学修する。</p>			
キーワード	経営発想、経営戦略、経営組織、意思決定、財務管理、マーケティング、技術戦略、国際経営、異文化マネジメント						
教授方法	・パワーポイントを利用した講義形式で授業を行います。						
履修条件等	・課題についてレポートを出す意欲を持つこと。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	経営学とは何か ・経営学とは、ビジョンの実現に向けて人や組織を効率的かつ効果的に動かすために何をすべきか研究する学問です。						
2	不確実性と経営発想 ・新しいビジョンや新事業の実行には、必ず不確実性とリスクが存在します。						
3	意思決定論 ・われわれの日常は、意思決定の連続であるが、意思決定が「優れた意思決定」なのだろうか。						
4	ミクロ組織論 （組織行動論、ミクロ組織論）						
5	マクロ組織論 （経営組織論）						
6	財務管理論 （財務会計、管理会計）						
7	競争戦略論 （事業戦略論）						
8	資源ベースの経営戦略論 （企業戦略論）						
9	創発戦略論 ・戦略の本質は何か、について考察する。						
10	マーケティング・マネジメント （マーケティング論）						
11	技術戦略論 ・イノベーションは、経済成長の原動力となるばかりでなく、企業にとって競争優位の源泉となるが、イノベーションを生み出すために何を						
12	国際経営論 ・グローバルをめざす企業は、進出国で競争優位を獲得するためにどのような経営をすべきか、考察する。						
13	異文化マネジメント論 ・企業買収した異文化組織をどのように経営すべきか、考察する。						
14	総括 経営学とは何か ・経営学とは、ビジョンの実現に向けて人や組織を効率的かつ効果的に動かすために何をすべきか研究する学問であり、経営学入門では、						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	50	経営学の各学問分野についての理解度を評価します。		期末レポート	50	経営学についての理解度を評価します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では、パワーポイント資料をあらかじめ読み、事後学習では提示された課題について考察することが求められる。				メールで質問や相談に応じます。			
教科書・テキスト	マネジメント入門（スティーブ P. ロビンズ、ダイヤモンド社）			受講生に望むこと	課題レポートを必ず提出すること		
参考書・参考資料等	ゼミナール経営学入門（伊丹敬之、加護野忠男、日本経済新聞社）			その他・特記事項	経営学入門は主要な専門科目の概説ですが、関心のある専門科目を今後さらに深く学修することも求められます。		

授業科目		アカウントティング入門							
担当教員		中村 文彦		必修・選択		必修	単位数	1単位	
履修年次		2年	開講学期		3 学期	授業形態		講義	科目ナバリング
対象学生		食健康	関連資格			備考			
授業の概要					到達目標				
<p>変容し続ける現代の社会生活では、食の視点から人の健康を管理することがますます重要になっています。本授業では、受講生の皆さんが、将来携わる様々な領域において、運営計画から評価までの一連のプロセスをマネジメントするのに役立つ「会計」というスキルを学びます。</p>					<p>給食等の運営を行うに際して必要となる一連の基礎的な会計知識を身につけることを目標とします。具体的には、原価管理、損益分岐点分析、利益管理と予算管理、その他の管理手法、簿記と財務諸表、経営分析、それぞれの論点について基本的な事項を学びます。これらを学ぶことによって、様々な領域における運営計画から評価までの一連のプロセスを財務的な視点から効果的にマネジメントし得るようになります。</p>				
キーワード		特定給食施設の運営（経営） 経営管理 フード・ビジネス 原価 損益分岐点							
教授方法		オンラインで行います。一方的に講ずるのではなく、適宜、ケーススタディーやスモールタスク等を織り交ぜながら授業を進める予定です。							
履修条件等		特に指定しない。							
授 業 計 画									
実施回		授業内容							
1		学習事項：食と健康に関わる事業における会計の重要性：ケーススタディー							
1		食と健康を考える上で、会計の知識がなぜ必要となるのかを理解する。							
2		学習事項：食の提供施設の運営業務：マネジメントの基本：ケーススタディー							
2		給食をはじめ、食を提供する活動において必要となるマネジメント（PDCAサイクルやポジショニング戦略）について学ぶ							
3		学習事項：採算を維持するための原価管理：原価の種類を知ろう：ケーススタディー							
3		食の提供事業を行う事業所が、採算性を確保するために必要な原価管理の考え方、手法について学ぶ							
4		学習事項：食堂経営の事業計画（1）：学生ベンチャー食堂の経営をシミュレートしてみよう、ケーススタディー							
4		学生ベンチャー食堂を題材とし、食の提供事業のPDCAサイクルにおけるマネジメントとアカウントティングの関係を学習する。							
5		学習事項：食堂経営の事業計画（2）：市場調査、販売計画、仕入計画：ケーススタディー							
5		PDCAサイクルの計画段階で行われるマーケティング（市場調査、販売計画、仕入計画）とアカウントティングについて学ぶ							
6		学習事項：復習と問題演習							
6		これまで学習した事項を整理しながら、問題演習を行う							
7		学習事項：財務諸表の仕組み：損益計算書と貸借対照表について							
7		食の提供事業の顛末を示す財務諸表について、仕組みを理解する。							
共通の成績評価基準									
成績評価方法と基準									
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準		
出席等	50	出席および受講態度			スモールタスク	50	学習事項の理解度等		
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応				
日々のニュース、新聞等の経済領域に関心を持つようにして下さい。					ポータルサイトでお知らせします。				
教科書・テキスト	特に指定しない				受講生に望むこと	楽しみながらしっかり学んで将来役立てて下さい。			
参考書・参考資料等	特になし				その他・特記事項	予習は不要ですが、学習したことは、その日のうちにすぐ復習し、次回までに身に付けるよう心がけて下さい。			

授業科目		リーダーシップ論					
担当教員	宮下 清			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>授業では、リーダーとリーダーシップの意味、リーダーシップ研究、リーダーシップのスタイル、経営環境とリーダーシップ、メンバーとフォロワー、現在と今後のリーダーシップのあり方などのリーダーシップの論点を取り上げる。</p> <p>対面でもオンラインでもライブ講義に加え、課題や事例のグループ討議、コメントや質疑とそのフィードバックを行うことで、主体的かつ双方向的な学びができるよう配慮して進める。担当教員は国際企業での人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有しており、リーダーシップの発揮などの説明や事例で実務経験を活かしていきたい。</p>				<p>リーダーシップとは「組織の目的や目標の達成に向けて、個人および集団を働かせるための影響力」を意味する。マネジメント分野で関心が高く、重要な分野であるリーダーシップの働きや理論を学び、リーダー、マネジャー、フォロワーやメンバーの働きや関係を理解できる、リーダーシップ持論を自分の言葉で他者に話せるようになる、ことを目標とする。リーダーシップで組織の問題や課題への対応力も高め、実践的に社会生活に応用できる、活用できることも目指している。</p>			
キーワード	マネジャー、リーダー、リーダーシップ、フォロワーシップ						
教授方法	講義に演習的な授業形態を加え、課題・事例研究、グループ討議、発表・質疑等により双方向の授業とする。読書や講義で知識・概念を、共同学習やグループ討議から多様で実践的な理解が得られるようにしたい。						
履修条件等	経営学入門、組織論、組織行動論を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	第1回：ガイダンス・リーダーシップとは：マネジメントとリーダーシップを学ぶ意義、ドラッカーの考え方						
2	第2回：マネジメントは：マネジメントについての誤解、組織とは、組織の共通目的、貢献意欲、コミュニケーション						
3	第3回：マネジャーの人間観：合理的経済人モデル、社会人モデル、自己実現モデル、複雑人モデル						
4	第4回：リーダーシップの基本：リーダーとは、リーダーシップの定義、サーバントリーダーシップ						
5	第5回：リーダーシップの持論：演習：持論としてのリーダーシップを探る						
6	第6回：リーダーシップ論の展開(1)：リーダーシップの資質、リーダーシップの行動特性、リーダーシップと状況						
7	第7回：リーダーシップ論の展開(2)：カリスマ的リーダーシップ、変革型リーダーシップ						
8	第8回：フォロワーからのリーダーシップ：リーダーとフォロワーの信頼関係、フォロワーのリーダーシップ、リーダーシップの幻想						
9	第9回：フォロワーシップとは何か(1)：フォロワーのルーツ、フォロワーシップの定義、ボス・マネジメント						
10	第10回：フォロワーシップとは何か(2)：模範的フォロワー、勇敢なフォロワー、頼れるフォロワー、フォロワーシップの定性的研究						
11	第11回：リーダーシップを高める：演習：自分のリーダーシップをどう高めるか						
12	第12回：マネジャーに求められるもの(1)：ゼネラル・マネジャーの行動、マネジャーの仕事						
13	第13回：マネジャーに求められるもの(2)：マネジャーの実像、マネジャーの3つの課題						
14	第14回：総合事例：リーダーシップの事例と総合課題（期末レポートの課題）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験 または期末	40	授業全体の理解度の評価		授業での 課題	30	授業課題の提出やレポートの評価	
上記以外 の評価	30	授業への積極的な参加（質疑、討議、コメント等）による評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し再度考察する「事後学習」を行うことで、学習を定着させることができる。				授業中のチャットによる質問にはできるだけ授業中に答える。また授業後に個別に質問を受ける。またメールでも対応したい。			
教科書・ テキスト	小野善生『リーダーシップ徹底講座』中央経済社、2018年。			受講生に 望むこと	リーダーシップについて学び、考え、実践してみようというスタンスによって、理解につながる。		
参考書・ 参考資料等	『リーダーシップの名著を読む（日経文庫）』日経新聞、2015。『HBRリーダーシップの教科書』ダイヤモンド社、2018。金井 壽宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社、2005。			その他・ 特記事項	自分の体験や記事からリーダーシップに関する知見や情報が、多面的かつ興味深い理解につながる。担当教員は国際企業における人事教育、商品企画、営業管理の実務経験を有している。		

授業科目	公衆衛生学						
担当教員	高橋 東生			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>個及び集団において、疾病を予防し健康の増進をいかに図っていくか、という公衆衛生的な知識と考え方を身につけることを目的とする。目的達成のため、1)健康、疾病、障害などの基本的な概念、2)人を取り巻く社会状況、環境がどのように健康に影響するか、3)環境や社会にあるリスクと健康との因果関係を明らかにする疫学的方法、4)疾病の予防と健康を増進するための具体的、実践的な方法について学修する。</p>				<p>個及び集団において、疾病を予防し健康の増進をいかに図っていくか、という公衆衛生学の基本的知識と考え方を理解する。</p>			
キーワード	公衆衛生, 疾病対策, 環境, 生活習慣, 疫学						
教授方法	各回、講義テキスト、事前配布または当日配布プリントを元にスライド、P Pを併用して講義を実施する。						
履修条件等	全講義の2 / 3以上(10回以上)の出席者を履修者として期末試験受験を可とする						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	公衆衛生学とは						
第2回	社会と健康						
第3回	環境と健康						
第4回	健康、疾病、行動に関わる統計資料						
第5回	健康状態・疾病の測定と評価						
第6回	生活週間(ライフスタイル)の現状と対策						
第7回	主要疾患の疫学と予防対策						
第8回	保健・医療・福祉の制度						
第9回	地域保健						
第10回	母子保健						
第11回	成人保健						
第12回	高齢者保健・介護						
第13回	産業保健						
第14回	学校保健						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	試験(筆記及び選択肢)の採点による		授業レポート	20	公衆衛生学の理解を深めるため、不定期でレポートを課して評価を行う。	
小テスト	10	不定期に実施する小テスト(回数未定)の点数。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。 苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集(指定図書のカギ参照)に取り組む。</p>				<p>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・メールでの質問も受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康(南江堂)			受講生に望むこと	教科書、参考書以外のメディア媒体等からも公衆衛生学の実態を知り、学習する姿勢。		
参考書・参考資料等	国民衛生の動向(厚生労働統計協会)最新版			その他・特記事項	特になし		

授業科目	公衆衛生学実習						
担当教員	高橋 東生			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
公衆衛生学で学修した、環境・産業保健、地域保健等の領域から、テーマを選択し調査実習を行う。その際、社会の中での栄養学や関連する保健の位置づけを考えたテーマを設定する。調査実習では、1)文献調査を行い、現在の状況把握と今後の展望について公衆衛生的視点でまとめること、2)実態を把握するための調査を行い、公衆衛生的な観点で今後の対策を考えること、3)疫学的な調査を行い原因と結果の因果関係を明らかにすること、とする。				公衆衛生学で学修した各領域について、より理解を深めるため、実践をまとめた文献について触れ、公衆衛生学をテーマとした調査を実践する。			
キーワード	公衆衛生，環境，疫学						
教授方法	演習、実習：文献検索、文献のまとめと考察、調査（疫学的手法を用いて）とまとめ						
履修条件等	全実習の3 / 4 以上（10 回以上）の出席者を履修者としてレポートの評価を実施する						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	疫学調査の実際						
第2回	文献調査（1）興味のある領域について、どのような実践活動がなされているか、文献を検索する。						
第3回	文献調査（2）						
第4回	文献調査（3）						
第5回	現状と今後の展望（1）興味のある領域について、調べた文献を元に現状と今後の展望をまとめる						
第6回	統計学の基本（1）統計学の基本を学ぶ						
第7回	統計学の基本（2）統計学の基本を学ぶ						
第8回	統計学の基本（3）統計学を応用し、分析をする						
第9回	統計学の基本（4）						
第10回	統計学の基本（5）						
第11回	調査研究（1）現状を今後の展望に関するテーマで、今後必要な疫学調査計画を立案する						
第12回	調査研究（2）						
第13回	調査研究発表（1）調査研究で立案した計画を発表する						
第14回	調査研究発表（2）						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	80	文献検索とそのまとめ、調査研究のまとめを評価する			授業内小テスト	20	授業内容について理解度を評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。 苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集（指定図書のカギ参照）に取り組む。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・メールでの質問も受け付ける。 			
教科書・テキスト	健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康（南江堂）			受講生に望むこと	教科書、参考書以外のメディア媒体等からも公衆衛生学の実践を知り、学習する姿勢。		
参考書・参考資料等	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）最新版			その他・特記事項	特になし		

授業科目		食事調査法					
担当教員	草間 かおる			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>対象者（個人および集団）の栄養評価を行う際の基本的な情報となる、食事摂取量の測定としての食事調査法を学ぶ。食事記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法等についての意義、目的、特徴（長所・短所）について、さらに各種食事調査法の妥当性や精度について学修する。講義と演習を通して、食事調査法の基礎技術や留意点を理解し、対象者を取り巻く社会・環境や目的に合わせた食事調査を選択することができるようになるとともに、食事を通して人間や生活について理解を深めることを目的とする。</p> <p>担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>				<p>食事記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法等についての意義、目的、特徴が説明できる。</p> <p>対象者の状況や目的に合わせた食事調査を選択することができる。</p>			
キーワード	食事調査 食事調査法、栄養評価						
教授方法	講義および小グループによる演習、食事調査を実際に行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、食事調査の意義・目的						
2	食事調査法(1) 食物摂取頻度調査法						
3	食事調査法(2) 24時間思い出し法						
4	食事調査法(3) 食事記録法						
5	食事調査データの収集・処理						
6	食事調査結果による評価						
7	食事調査法のまとめ						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	到達目標が達成できたか		課題	20	丁寧に取り組んでいるか、分かりやすいか、論理的か	
上記以外の授業評価	20	授業への積極的な参加状況、課題の提出状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された事前課題（食事調査）に取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス：kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	食事調査マニュアル、日本栄養改善学会監修、南江堂			受講生に望むこと	積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。		
参考書・参考資料等	授業において随時知らせる。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。		

授業科目		栄養疫学					
担当教員	高橋 東生			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>栄養疫学の講義では、科学的根拠に基づいた栄養学（EBN）とは何かを理解し、「社会・環境と健康」ならびに「公衆栄養学」分野で学んだ疫学研究を実施する際に考慮すべき問題点を理解し、その具体的な克服方法について学修する。</p>				<p>具体的な内容は、 1) 栄養疫学研究の概要を理解し、栄養疫学方法論の基礎を理解する。 2) 栄養疫学研究に必要な基礎ならびに応用統計を駆使することができる。 3) 実際に行われている栄養疫学研究の論文を読んで内容が理解できるようになる。</p>			
キーワード	栄養疫学，生活習慣，EBN						
教授方法	講義および小グループによる演習を予定していたが、Web上での講義を中心に行う。						
履修条件等	履修制限はないが、今まで学んだ「社会・環境と健康」分野および「公衆栄養学」分野の復習をしておくこと。						
授業計画							
実施回	授業内容						
01	ガイダンス・疫学の概要						
02	栄養疫学の概要 EBNの概念						
03	栄養疫学の概要 EBNの概念						
04	栄養疫学の概要 健康情報の信頼性						
05	栄養疫学の概要 健康情報の信頼性						
06	栄養疫学の指標						
07	栄養疫学の方法						
08	食事摂取基準と栄養疫学						
09	食事摂取基準と栄養疫学						
10	演習：食事摂取基準2020年版のエビデンスレベル						
11	栄養疫学と食事アセスメント						
12	栄養疫学と食事アセスメント						
13	演習：栄養疫学に関する論文抄読						
14	演習：栄養疫学に関する論文抄読						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業内演習	80	授業内容（重要・重点項目）の理解および演習に対する取り組み姿勢（理解度・積極性）		授業内小テスト	20	必要に応じて、講義の予習・復習を行っているかを確認します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
初回の予習については、今まで学習してきた「公衆栄養学」分野および「社会・環境と健康」分野の教科書をよく読んでおくこと。毎回の進捗状況に合わせて指示します。また毎回事後の復習を課します。				Web上での質問を受け付けます。			
教科書・テキスト	必要に応じて、指示します。			受講生に望むこと	巷の健康・栄養関連情報に興味を持ってください。		
参考書・参考資料等	必要に応じて、指示します。			その他・特記事項	管理栄養士としての情報リテラシーを身につけてください。		

授業科目	社会福祉学						
担当教員	尾島 豊			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>広い範囲に渡る社会福祉の各分野の現状と制度の概要を学ぶ。まず社会保障制度の中で、医療保障、所得保障、公衆衛生と並んで社会福祉を位置づける。次に社会福祉の戦後の流れを押さえた上で、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉の各分野の概要を整理する。制度としての社会福祉の意義を理解し、利用者の保護に関わる制度(情報提供、第三者評価、権利擁護、苦情解決)を学ぶ。</p>				<p>講義の目的は、福祉施設や病院などで管理栄養士として仕事をする上で必要最低限の知識を修得すること。</p>			
キーワード	社会保障、社会福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉						
教授方法	講義形式で、広範囲の社会福祉の各分野をダイジェスト版で紹介していく。各回にポイントと簡潔なまとめを示したレジュメを用意する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	社会保障と社会福祉の概念						
2	社会福祉の歴史 - イギリス・戦前日本						
3	社会福祉の歴史 - 戦後の社会福祉の沿革						
4	児童家庭福祉 - 児童福祉から児童家庭福祉へ						
5	障害者福祉 - 発達障害・知的障害・身体障害・精神障害						
6	高齢者福祉 - 介護保険制度を中心に						
7	地域福祉と利用者保護・権利擁護						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	80	自らの関心領域に関する現状や課題をまとめて整理する			出席等	20	出欠状況、授業への参加度
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
自らの関心分野の探求				リアクションペーパーに記載して、翌週に回答する。			
教科書・テキスト	社会福祉概論 [第5版]: 現代社会と福祉			受講生に望むこと	自らの関心分野を調べておくこと		
参考書・参考資料等	社会福祉概論 [第5版]: 現代社会と福祉			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	臨床医学概論						
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の導入として、疾病の概要を学修し、段階的に理解を深めていく。健康の維持・増進、疾病の予防・治療の中で食事・栄養が果たす役割の概要を理解する。管理栄養士が適切な栄養管理を行い、チーム医療の一員として積極的に医療現場で活躍できるように臨床医学の基礎を修得する。医療人に必要な生命・医療倫理の基礎を学修する。</p>				代表的な疾病の概要を理解する。			
キーワード	疾病の概要、現代医療の課題						
教授方法	講義・討論・演習						
履修条件等	健康発達学部・食健康学科の学生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	序論：医療における管理栄養士の役割						
2	生活習慣病、WHO 非感染性疾患（NCDs: Non-communicable diseases）						
3	糖尿病						
4	脂質異常症、メタボリックシンドローム、肥満症						
5	メタボリックドミノと関連疾患						
6	検査値の読み方の基本と演習						
7	生活習慣病とチーム医療						
8	免疫・感染症概論						
9	食物アレルギー						
10	がんの概論 1						
11	がんの概論 2						
12	生命・医療倫理 1						
13	生命・医療倫理 2						
14	まとめ、復習						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	60	学修のねらい・到達目標の達成度、構成・論理性を評価する。			演習	30	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する。
その他	10	課題や授業における主体的態度など。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習すること。提出物の期限を守ること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「臨床医学 疾病の成り立ち（改訂第2版）」 田中明・宮坂京子・藤岡由夫著 羊土社			受講生に望むこと	主体的に課題や討論に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「臨床医学 疾病の成り立ち」は、2年次の病理学でも用いる。		

授業科目	人体機能（生理）学						
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
生命現象において調和のとれた個体を作り上げている細胞、組織、器官などの各要素の機能と、それらの相互の関係について学修する。人体における恒常性の維持機構を、神経性調節、内分泌性調節、免疫による生体防御機構などの観点から学ぶ。疾病の病理・病態を学ぶための基本となる人体の機能を学習し、恒常性の破綻が疾病へ発展することや、恒常性維持に対する食事・栄養の役割を理解する。				人体の細胞、組織、器官などの各要素の機能と、恒常性の維持機構を理解する。			
キーワード	人体の機能、恒常性の維持機構						
教授方法	講義・演習						
履修条件等	健康発達学部・食健康学科の学生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	細胞、遺伝子						
2	消化器系の機能						
3	血液の機能						
4	免疫系の機能						
5	循環器系の機能						
6	呼吸器系の機能						
7	腎・尿路系の機能						
8	内分泌系の機能						
9	生殖器系の機能						
10	神経系の機能						
11	骨格系の機能						
12	筋肉と運動機能						
13	皮膚組織・感覚系の機能						
14	まとめ、復習						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
試験	60	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する			課題	30	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する
レポート	10	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習し、確認課題にて到達点を確認すること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「解剖生理学 人体の構造と機能（改訂第3版）」志村二三夫・岡純・山田和彦著 羊土社 「解剖生理学ノート 人体の構造と機能（第3版）」羊土社			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「解剖生理学 人体の構造と機能」、「解剖生理学ノート」は人体構造（解剖）学でも使用する。		

授業科目	生理学実習						
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>人体機能（生理）学で学修した知識を実習を通して確認し、理解を深める。人体の基本的な生理機能に関する臨床検査、栄養状態の評価方法を体験し、その意義を理解する。</p>				<p>人体の基本的な生理機能を、実習を通して理解する。</p>			
キーワード	生理機能、臨床検査						
教授方法	実習						
履修条件等	健康発達学部・食健康学科の学生であること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：記録・解析方法、レポートの書き方						
2	各種の測定：心拍数、経皮的動脈血酸素飽和度、血圧、聴診（心音・呼吸音・腹部音）、反射（対光反射・膝蓋腱反射）						
3	栄養状態の評価方法とその意義：身体計測・体組成測定・骨密度測定						
4	血糖測定：簡易血糖測定器の使用法、注意点						
5	血糖測定：食物摂取前後の変化 1						
6	血糖測定：食物摂取前後の変化 2						
7	血糖測定：食物摂取と運動負荷前後の変化						
8	心電図検査、AED（自動体外式除細動器）トレーニング						
9	呼吸機能検査						
10	視野計測、皮膚知覚機能検査						
11	唾液の機能、齲歯リスク評価方法						
12	嚥下機能評価方法、オーラルフレイル評価方法						
13	誤嚥防止方法：ポジショニング、嚥下補助食品						
14	各種計測記録のまとめ・発表						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習記録・課題	80	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。		その他	20	主体的授業態度、グループ実習における貢献度等について評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習し、実習にて確認すること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「解剖生理学 人体の構造と機能（改訂第3版）」志村二三夫・岡純・山田和彦著 羊土社 「臨床医学 疾病の成り立ち（改訂第2版）」 田中明・宮坂京子・藤岡由夫著 羊土社			受講生に望むこと	主体的に課題に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「解剖生理学 人体の構造と機能」と「臨床医学 疾病の成り立ち」は、1年次に人体構造学（解剖学）、人体機能学（生理学）、臨床医学概論にて使用した。		

授業科目	人体構造（解剖）学						
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>人体の形態・構造を、細胞、組織、器官のレベルで学び、またそれらの相互の関係について理解する。肉眼による観察を主とする肉眼解剖学と、顕微鏡を用いて組織や細胞を観察する組織学との両方のレベルで学び、巧妙かつ精緻につくられた身体のしくみを学ぶ。人体の生理機能や疾病の病態生理を学ぶための基本となる人体の構造を理解する。</p>				<p>人体の形態・構造を細胞、組織、器官のレベルで理解する。</p>			
キーワード	人体の構造、解剖学						
教授方法	講義・演習						
履修条件等	健康発達学部・食健康学科の学生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：細胞・組織・器官の概要						
2	消化管						
3	肝臓・膵臓・胆嚢						
4	血液・造血器						
5	免疫系						
6	循環器：心臓・血管						
7	呼吸器：気管支・肺						
8	腎・尿路系						
9	内分泌系						
10	生殖器官系						
11	神経系						
12	感覚器系						
13	骨格系・運動系						
14	まとめ、復習						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
試験	60	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する。		課題	40	学修のねらい・到達目標の達成度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習し、確認課題にて到達点を確認すること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「解剖生理学 人体の構造と機能（改訂第3版）」志村二三夫・岡純・山田彦著 羊土社 「解剖生理学ノート 人体の構造と機能（第3版）」羊土社			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「解剖生理学 人体の構造と機能」「解剖生理学ノート」は人体機能（生理）学でも使用する。		

授業科目		解剖学実習					
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>人体構造（解剖）学で学んだ知識を、実習を通して確認し、理解を深める。マクロ解剖学実習として、人体解剖モデルを用いて各臓器・器官の形態、体内での位置を確認する。ミクロ解剖学実習として、主要臓器（肝臓、腎臓、心臓、消化器、内分泌腺など）の組織像を顕微鏡にて観察する。正常組織像と病理組織像とを比較することにより、臨床医学概論で学んだ疾患について正常から逸脱した病的構造変化をとらえ、病態理解につなげる。</p>				<p>人体の基本的な構造を、実習を通して理解する。</p>			
キーワード	人体の構造、解剖学						
教授方法	実習						
履修条件等	健康発達学部・食健康学科の学生であること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：課題の取り組み方、人体解剖モデルによる臓器・器官の観察						
2	人体解剖モデルによる臓器・器官の観察						
3	人体骨格模型の作成（1）						
4	人体骨格模型の作成（2）						
5	人体骨格模型の作成（3）						
6	人体模型対比による主な臨床検査画像の学習						
7	マクロ解剖学まとめ：復習・確認						
8	顕微鏡の使い方・観察方法						
9	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（1）						
10	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（2）						
11	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（3）						
12	顕微鏡による正常組織・細胞の観察（4）						
13	顕微鏡による病理組織・細胞の観察						
14	ミクロ解剖学まとめ：復習・確認						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習記録ノート	40	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。			到達目標確認のための課題	40	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。
その他	20	授業態度、グループ実習における貢献度等について評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習し、実習課題にて確認すること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「解剖生理学 人体の構造と機能（改訂第3版）」志村二三夫・岡純・山田和彦著 羊土社 「解剖生理学ノート 人体の構造と機能（第3版）」羊土社			受講生に望むこと	主体的に課題に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書 「臨床医学 人体の構造と機能」は、人体構造学（解剖学）、人体機能学（生理学）でも使用する。		

授業科目	病理学						
担当教員	石井 陽子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>疾病の原因、発症機序、病態生理を学修し、疾病の症候に関連づけて理解する。細胞レベルから組織レベルにおける構造変化および機能破綻が器官から個体に及び、疾病として顕在化するしくみを学修する。人体構造（解剖）学と人体機能（生理）学で学修した知識をもとに疾病の病態生理を理解し、医学概論で学修した臨床医学の基礎的知識を補充する。病状に応じて適切な栄養教育・栄養指導を行うために、主要な疾患の治療指針に対する基礎的知識および、主な医薬品と栄養・食事との相互作用について学修する。</p>				<p>疾病の原因、発症機序、病態生理を理解する。</p>			
キーワード	疾病学、病態生理学						
教授方法	講義・演習						
履修条件等	健康発達学部・食健康学科の学生であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	病理学的概念：死・適応・炎症・損傷・修復						
2	栄養・代謝性疾患						
3	内分泌系疾患						
4	消化管疾患						
5	肝・胆・膵疾患						
6	循環器系疾患						
7	腎・尿路系疾患						
8	神経・精神系疾患						
9	呼吸器系疾患						
10	血液・造血器系疾患						
11	免疫・アレルギー性疾患						
12	運動器系疾患、皮膚疾患						
13	生殖器系疾患、乳腺疾患						
14	検査・薬・感染症						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
試験	60	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。			課題	40	学修のねらい・到達目標が達成できているかについて評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書等を用いて自主学習し、演習・小テストにて到達点を確認すること。				質問は授業中や授業の前後に随時受け付ける。			
教科書・テキスト	「臨床医学 疾病の成り立ち（改訂第2版）」 田中明・宮坂京子・藤岡由夫著 羊土社			受講生に望むこと	主体的に学習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、参考資料を配布する。			その他・特記事項	教科書「臨床医学 疾病の成り立ち」は、1年次に臨床医学概論にて使用した。		

授業科目	生化学						
担当教員	杉山 英子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>生物を構成する糖質、脂質、タンパク質、核酸など代表的な生体成分の化学的特徴や構造、及び分析法の概略を学修する。そして、それら生体分子の細胞や組織・器官における“ふるまい”や様々な調節機能を理解する。具体的には、発生、分化、細胞内・細胞間情報伝達、免疫などのヒトの健康と密接に関わる生命現象を分子レベルで学修する。また、生体内化学反応に欠かせない機能タンパク質としての酵素の一般的性質についての理解を深める。</p>				<p>生体の細胞、組織、器官を構成する物質の構造と機能を理解し、栄養素を含めた生体物質と個体の恒常性維持（ホメオスタシス）との関わりを的確に説明できる。</p>			
キーワード	細胞、糖質、脂質、タンパク質・アミノ酸、核酸、酵素、ホメオスタシス						
教授方法	講義。スライドを使用する。授業の冒頭に、前回の復習と当日の予習となる内容のクイズを実施。授業終了後にワークシートの穴埋めや課題（Glexa 小テスト）を終了させる。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（生命の成り立ち、細胞構造と細胞内小器官の機能、細胞を構成する主な生体物質）						
2	糖質の構造と機能（糖質の定義、糖質の分類とそれぞれの機能）						
3	脂質の構造と機能（脂質の定義、脂質の分類とそれぞれの機能）						
4	アミノ酸・タンパク質の構造と機能（アミノ酸・タンパク質の定義、アミノ酸・タンパク質の分類とそれぞれの機能）						
5	核酸の構造と機能（核酸、DNA、RNA分子の特徴と機能）						
6	生体成分の分析（細胞分画、糖、脂質、タンパク質、核酸の抽出・精製・定量法）						
7	酵素の構造と機能及びその調節						
8	生体の恒常性維持（ホメオスタシス）の重要性と細胞内・細胞間情報伝達						
9	恒常性維持（ホメオスタシス）とホルモン						
10	恒常性維持（ホメオスタシス）と消化・吸収						
11	恒常性維持（ホメオスタシス）と体液の調節						
12	免疫系の成り立ち						
13	免疫系の異常（アレルギーと免疫不全）						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	理解力、思考力、表現力			課題（小テスト）	40	主体的態度、理解力、表現力
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義前に教科書や講義資料に目を通しておくこと。課題をやっておくこと。				メールや学習支援システム(Glexa等)で受け付けます。			
教科書・テキスト	石堂一巳・福渡 努編 健康・栄養科学シリーズ『生化学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち』（南江堂）			受講生に望むこと	不明な点は遠慮なく質問してください。		
参考書・参考資料等	随時紹介する。			その他・特記事項	遅刻厳禁。		

授業科目	生化学						
担当教員	杉山 英子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>栄養の基盤である生体物質の代謝とその調節のしくみ、物質代謝における酵素反応の重要性を理解する。すなわち、酵素反応速度論や酵素活性調節機構、生体エネルギー学、糖代謝（解糖、TCA回路、電子伝達系と酸化的リン酸化、糖新生、グリコーゲン合成・分解等）、脂質代謝（脂肪酸の合成・分解、ケトン体産生、トリアシルグリセロールの合成・分解、コレステロール代謝等）、タンパク質・アミノ酸代謝、核酸代謝、薬物代謝ならびに代謝制御機構や生体調節機構について分子レベルで学び、病態理解の礎とする。</p>				<p>栄養の基盤である三大栄養素（糖質、脂質、タンパク質）や関連生体物質の代謝とその調節機構及び、物質代謝における酵素反応の重要性を理解し、代謝経路相互の連関の概要を説明できる。</p>			
キーワード	糖質代謝、脂質代謝、タンパク質・アミノ酸代謝、ヌクレオチド代謝						
教授方法	講義。スライドを使用する。授業の冒頭に、前回の復習と当日の予習となる内容のクイズを実施。授業終了後には、ワークシートの穴埋めや課題（Glexaの小テスト）を完了させる。						
履修条件等	生化学 を習得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（物質代謝とは）						
2	酵素反応と補酵素						
3	エネルギー産生と調節機構						
4	糖質の代謝（解糖、TCA回路）						
5	糖質の代謝（電子伝達系と酸化的リン酸化、酸化ストレス）						
6	糖質の代謝（糖新生、グリコーゲン合成・分解）						
7	糖質の代謝IV（ペントースリン酸経路、ウロン酸経路等）						
8	脂質の代謝（脂肪酸の酸化とケトン体産生）						
9	脂質の代謝（脂肪酸の合成、伸長、不飽和化、トリアシルグリセロールの合成・分解）						
10	脂質の代謝（脂肪酸の合成、伸長、不飽和化、トリアシルグリセロールの合成・分解）						
11	生理活性物質の合成（エイコサノイドの代謝）						
12	タンパク質・アミノ酸代謝						
13	ヌクレオチドの代謝、糖質、脂質、アミノ酸代謝の相互連関						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	70	理解力、思考力、表現力			課題（小テスト）	30	理解力、思考力、表現力、主体的態度
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
予習、復習に努めること。				授業時の他、学習支援システム（Glexa）やメールでも受け付ける。			
教科書・テキスト	石堂一巳・福渡 努編 健康・栄養科学シリーズ『生化学 人体の構造と機能呼び疾病の成り立ち』（南江堂）			受講生に望むこと	代謝は生化学の中でも難しい内容かもしれないが、わかるようになると、疾病の成り立ちを理解できるようになります。根気よく付き合ってください。		
参考書・参考資料等	授業時に適宜紹介する。			その他・特記事項	遅刻厳禁。		

授業科目		生化学実験					
担当教員	杉山 英子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>生化学の講義で学習した知識の理解を深めるため、基本的な生体成分分子（糖質、脂質、タンパク質、核酸、ミネラル）の化学的性質及び扱い方（抽出、分離、精製）について、実験を通して修得する。また、物質代謝において重要な役割を果たす酵素の生化学的特徴や性質に関する実験を行い、生体内における酵素の代謝調節について学修するため、代表的な栄養素の消化過程を試験管内で再現する。これらの実験を通じて、栄養という生命現象についての理解を深める。</p>				<p>生化学の講義で学んだ生体成分分子の化学的性質や機能的特徴を実験を通じて深く理解するとともに、それらを扱う基本的な技術を修得する。科学的思考に基づくミニ科学論文としての実験レポートを書くことができるようになる。</p>			
キーワード	糖、脂質、タンパク質、抽出、定量、分析法、ラット肝臓、電気泳動、酵素反応						
教授方法	実験						
履修条件等	生化学 を習得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（生化学実験のねらい、授業の進め方、実験レポートの書き方説明・実験で汎用する器具とその操作法 など）						
2	糖の分析：清涼飲料中の糖の定量（還元法）						
3	糖の分析：グルコースC テストワコーキットによる血糖の定量（酵素法）						
4	脂質の分析：トリグリセリドの抽出						
5	脂質の分析：トリグリセリドの定量						
6	肝臓タンパク質の抽出と定量（紫外吸収法とローリー法）						
7	肝臓タンパク質の抽出と定量（紫外吸収法とローリー法）						
8	タンパク質の分離精製法（電気泳動法）						
9	タンパク質の分離精製法（電気泳動法）						
10	酵素に関する実験 トリプシン活性に及ぼす pH, 温度の影響						
11	酵素に関する実験 トリプシン活性に及ぼす基質濃度, 時間の影響						
12	酵素に関する実験 唾液アミラーゼの活性測定						
13	核酸の分析：核酸の抽出・精製（ゲノムDNAの抽出・精製）						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	60	論理構成、文章表現、データ処理・提示など		Glaxa小テスト	20	生体物質についての知識理解、実験法の原理解	
上記以外の授業評価	20	主体的態度、実験ノート					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前：次回の実験の教科書やプリントの該当箇所を読み、概要を把握しておくこと 実験の手順をあらかじめノートに記載しておくこと良い。 事後：レポート作成のために、文献で調べる習慣をつけること。</p>				随時受け付ける。			
教科書・テキスト	田代操編著『生化学実験』（化学同人）、プリント			受講生に望むこと	失敗を恐れずに、積極的に手を出すこと 化学系の実験には、事故の危険がつきまとうので、白衣、かかとのある靴を着用し、実験中は適度な緊張感を保つこと 実験中に観察したことをノートに記録すること		
参考書・参考資料等	適宜紹介する。			その他・特記事項	レポートの締め切りを守ること。		

授業科目	運動生理学						
担当教員	吉武 康栄			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
身体活動、運動に伴い変化する人の身体特性（形態、生理、機能、精神）や生理学的応答について学修し、健康と運動について理解する。 英語表記「Exercise Physiology」				運動器系（骨格系、筋系）の構造と機能を説明できる。 運動によって生じる身体の生理学的適応について説明できる。 運動による健康効果を説明できる。			
キーワード	骨格筋、エネルギー消費、身体活動						
教授方法	主に、pptファイルの映写を行いながら、教科書を活用して、講義形式で授業をすすめる。 その前の回の授業で提示する「事前学習のポイント」の理解の確認を兼ね、講義の中でも質疑応答等、積極的に行う。						
履修条件等	1年次の基礎栄養学、人体機能（解剖）学、人体機能（生理）学を復習し、確実に理解しておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 健康と運動						
2	運動と骨格筋（1）						
3	運動と骨格筋（2）						
4	運動と神経・ホルモン						
5	運動と循環・呼吸（1）						
6	運動と循環・呼吸（2）						
7	運動とエネルギー（1）						
8	運動とエネルギー（2）						
9	運動と身体組成						
10	運動と筋肉づくり						
11	運動と骨づくり						
12	運動と体温調節・水分補給						
13	身体活動と健康						
14	総括						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	60	学習のねらい・目標（学習のポイント）が達成できているかについて評価する。詳細は授業時に説明する。教科書ならびに講義ノートを参考に復習しておく。		上記以外の授業評価	40	授業への主体的な参加度などで評価する。第1回のオリエンテーションで説明する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では、授業の最後に、次の回での学習に必要な「事前学習のポイント」を提示するので、必要な学習をしておく。 事後学習では、毎回の授業開始時に提示する「学習のポイント」の習得に努める。 詳細は第1回授業で説明する。				質問・相談は、授業終了後に対応します。			
教科書・テキスト	『運動生理学』麻見直美、川中健太郎／編 羊土社 ISBN：978-4-7581-1356-4			受講生に望むこと	1年次の基礎栄養学、人体機能（解剖）学、人体機能（生理）学を復習し、確実に理解しておくこと。		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は、応用栄養学 と関連する科目である。 本科目の理解は、運動生理学実習の基礎となる。		

授業科目	運動生理学実習				
担当教員	吉武 康栄・小林 裕央・佐藤 耕平	必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2学期	授業形態	実験・実習
対象学生	食健康	関連資格		備考	科目ナバリング
授業の概要			到達目標		
<p>運動によって生じる身体の生理学的適応や運動機能について、自らの測定を通して評価し、考究する。また、健康づくりや体力の維持増進を目的とした日常の身体活動、トレーニング、運動処方について、実習を通して、学習する。それらの成果をまとめて、身体活動・運動の効果について情報発信し、議論する技術を習得する。 英語表記「Practice in Exercise Physiology」</p>			<p>運動によって生じる身体の生理学的適応について、運動生理学の知識と自らの測定を通して、説明できる。 トレーニング効果、運動処方について説明できる。</p>		
キーワード	生理学的応答、身体活動、運動処方				
教授方法	グループ単位での実習である。講義にもとづき、学生が主体となって測定を行い、考察し、客観的に評価し、まとめる。				
履修条件等	運動生理学を履修していること。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション：身体活動・運動を科学する				
2	運動負荷によって生じる生理学的応答の理解（1）				
3	運動負荷によって生じる生理学的応答の理解（2）				
4	運動負荷によって生じる生理学的応答の理解（3）				
5	身体の評価と身体活動量				
6	身体活動量の評価（1）				
7	身体活動量の評価（2）				
8	身体活動量の評価（3）				
9	中間のまとめ				
10	運動処方とトレーニング（1）				
11	運動処方とトレーニング（2）				
12	運動処方とトレーニング（3）				
13	実習成果のまとめ				
14	実習成果のまとめ発表と質疑応答、総括				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
授業レポート	40	実習の学習のねらいの達成度について実習成果のまとめ発表で評価する	上記以外の授業評価	60	実習課題への取り組み状況について評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
事前学習，事後学習の詳細は第1回授業で説明する。			質問・相談は、授業中や授業の前後に受け付ける。		
教科書・テキスト	『運動生理学』麻見直美，川中健太郎／編 羊土社 ISBN：978-4-7581-1356-4		受講生に望むこと		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配付する。		その他・特記事項	実習の詳細（実習にあたっての準備も含む）については、第1回の授業で説明する。本科目は、運動生理学を基盤とし、応用栄養学実習と関連する科目である。	

授業科目		食品学					
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
食品成分、特に五大栄養素である炭水化物、タンパク質（アミノ酸、ペプチド、酵素）、油脂、水溶性及び脂溶性ビタミン、ミネラルに対し、その構造を含めた化学的特徴、機能、性質を重点的に学修するとともに、それらの基本的な分析方法について学修する。また、食品の嗜好性成分について学修し、食品中の水の役割や食品中成分の成分変化から食品の保存方法についても学修する。				食の基本は、安全で嗜好性に富み、かつ、栄養学的にバランスの取れた食事ができることである。ここでは、食品成分の化学的性質や加工・調理に伴う物理的、化学的、生物学的変化を学習することで、食物の本質を正しく理解することを目標とする。 食品の代表的な化合物の化学特性を理解でき、構造を書くことができる。食品の安全性、嗜好性について説明できる。 加工・調理における変化を化学的に説明できる。			
キーワード	五大栄養素、化学構造、機能、食品の嗜好性、食品の安全性、加工調理						
教授方法	講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。						
履修条件等	特になし						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（基礎的な化学、食品とは何か？食品の種類と分類）						
2	食品成分表と食品の分析法						
3	食品中の水の役割と食品衛生						
4	糖類の構造と化学的性質（単糖類、少糖類）						
5	糖類の構造と化学的性質（多糖類、誘導糖類等）						
6	アミノ酸の構造と化学的性質（アミノ酸とペプチド）						
7	タンパク質・酵素、役割とその構造						
8	脂肪酸・各種脂質の構造と化学的性質						
9	油脂の乳化、酸化、加工油脂食品						
10	ビタミンの構造と化学的性質						
11	ミネラルの化学的性質						
12	食品の嗜好性成分（味、香り、色）						
13	食品の成分変化（酵素的褐変、非酵素的褐変）と保存方法						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。			小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
化学構造が前提の講義となるため、化学が苦手な方は事前、事後に学習を望む。指定された課題・問題に取り組む。苦手な分野の克服に向けて努力する。				質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	「栄養管理と生命科学シリーズ 食品の科学総論」川上美智子・高野克己編著、理工図書社 適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	高校の化学・生物の教科書あるいは参考書を用意し、復習しておくことが望ましい。		
参考書・参考資料等	高校の化学・生物の教科書あるいは参考書			その他・特記事項	特になし		

授業科目	食品学					
担当教員	小木曾 加奈		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>本講義では食品学を踏まえた上での応用的学問として、各種食品の成分特徴と種類、加工方法や貯蔵方法等について学修する。主食である穀物（米、小麦、トウモロコシ）から始まり、植物性食品（豆、芋、野菜、果実、海藻類）、動物性食品（卵、畜肉、鶏肉、乳、水産品）、嗜好飲料や嗜好食品、アルコール飲料、油脂、調味料、発酵食品、新しい加工食品までを網羅的にその特性と利用方法について学修する。またこれらの食品の機能性のほか、表示や規格基準についても学修する。</p>			<p>食品学で学んだ食品成分の化学的性質に対し、本講義では具体的な食品の種類や化学的特徴について学修する。また、食品の物性、加工方法や機能性食品についても触れ、食品の本質を正しく理解することを目標とする。 具体的な食品の種類や化学的特徴を説明できる。 食品中に有する成分を踏まえながら、それぞれに合わせた加工方法や機能性を説明できる。</p>			
キーワード	食品の成分的特徴、利用特性、加工、機能性、表示・規格基準					
教授方法	講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。					
履修条件等	食品学を習得していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション：日本の食生活（歴史的な背景）と食糧自給率、地産地消					
2	植物性食品の成分特性と利用方向（穀物・芋類）					
3	植物性食品の成分特性と利用方向（豆類・種実類）					
4	植物性食品の成分特性と利用方向（野菜類・果実類）					
5	植物性食品の成分特性と利用方向（海藻類、きのこ類）					
6	動物性食品の成分特性と利用方向（卵・肉類）					
7	動物性食品の成分特性と利用方向（乳類・水産品）					
8	嗜好食品と嗜好飲料、調味料、油脂、香辛料等の成分特性と利用方向					
9	微生物利用食品の成分特性と利用方向					
10	食品の物性					
11	食品の加工方法と新しい加工食品					
12	食品の機能性（一次機能・二次機能）					
13	食品の機能性（三次機能）					
14	食品の表示と規格基準、まとめ					
共通の成績評価基準						
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。	小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。	
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
指定された課題・問題に取り組む。 苦手な分野の克服に向けて努力する。			質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。 毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	「栄養管理と生命科学シリーズ 食品の科学総論」川上美智子・高野克己編著、理工図書社 適宜印刷物を配布。		受講生に望むこと	食品学の内容が頻出するので復習をしながら食品学に励むこと。		
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項	特になし		

授業科目		食品学実験					
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本実験では、食品成分の化学的・物理的性質を理解するために、それぞれ具体的な食品を用いて定量及び定性実験、ならびに物性に関する実験を行う。まず試薬調製法、試薬濃度の表し方について学修し、その知識や技術を身につけた上で、食品成分の分析を行い、食品成分表と比較検討する等、考察を深める。</p>				<p>食品学実験は、食品成分についての化学実験である。食品学 〃 の講義をふまえて、食品成分の化学的・物理的性質を実験を通して理解し、自ら説明することができるようになることを目標とする。 器具類や、試薬の性質を踏まえながら取り扱うことができる。 文献を引用しながら科学系のレポートの作成ができる。 レポートを通じて各食品成分の特徴を化学的に説明できる。</p>			
キーワード	食品成分、試薬調製、定性実験、定量実験、物性実験						
教授方法	講義（説明）、実験はグループ（2人または4人）で行う。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：実験上の留意事項（実験に際しての諸注意）						
2	実験の基本操作について（実験器具の使用上の注意、試薬の調製法）						
3	糖質の定性（フェーリング反応ほか）						
4	デンプンの定量（ヨウ素比色法）						
5	タンパク質の定性（ビウレット反応ほか）						
6	タンパク質の定量（Bradford法）						
7	脂質の定性（アクロレイン反応ほか）						
8	脂肪酸の分析（GC分析または薄層クロマトグラフィ）						
9	油脂の酸化（過酸化価、TBA値の測定）						
10	油脂の酸化と分子量（酸価、ケン化価の測定）						
11	食品の物性（ウペローデ型毛细管粘度計による粘度測定）						
12	有機酸の定量（牛乳と食酢の酸度）						
13	沈殿滴定（醤油の食塩濃度の定量）						
14	ポリフェノールの定量（Folin-Denis法）、まとめ						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実験レポート	80	書いたレポートをA+～Cまで評価し、点数化を行う。			上記以外の授業評価	20	積極的に実験に取り組んだかなどの貢献度を点数化する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>化学の基礎が必要となるため、事前に基礎知識（濃度、構造）を予習すること。事後は図書館などで文献を引用しながらレポートを作成すること。</p>				<p>質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。</p>			
教科書・テキスト	「要説 栄養・食品学実験 - 50」大西正三編 医歯薬出版 適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	一番は事故がないようにすること。危険な試薬などを扱うため、慎重に手際よく進めること。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	食品衛生学					
担当教員	小木曾 加奈		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>食品を衛生的に取り扱うために必要な手段について学修する。食品を安全に摂取するためには、その安全性を確保しなければならない。食品衛生行政、食中毒、食品添加物、器具・容器包装、食品成分の有毒化などを学ぶことで、自らの食の安全を検討する機会となる。さらに、各人が実際に食品を扱うとき、何が危険か危険でないのか、何をどうすると危険なのかを理解できるようになる。食の安全性を守るのは我々自身である、と常に念頭に置くことで安全管理（食のリスクマネジメント）を学修する。</p>				<p>本講義では食品の安全性という、人類にとって非常に重要な項目を取り扱う。食品は安全を確保しなければ、食べられないものや毒が混入する可能性がある。では一体誰が私達を守るのか？それは政府（法律）であり、企業（会社）であり、消費者（我々自身）なのである。これらを認識し、食の安全性とリスク、許容性を学ぶことが本講義の目標である。実際に食品を扱うとき、何が危険か危険でないのかわかる。の危険性から食品の衛生が理解できる。食のリスクマネジメントができる。</p>		
キーワード	食品衛生行政、食中毒(菌・ウイルス・寄生虫・化学性物質)、食品添加物、器具・容器包装、食品成分の有毒化					
教授方法	講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。					
履修条件等	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション：分野で活躍している方のお話、総論					
2	食品衛生関連法規、HACCP方式、食中毒の概略と食中毒の分類					
3	細菌性食中毒 1：サルモネラ、腸炎ビブリオ等					
4	細菌性食中毒 2：ブドウ球菌、病原大腸菌等					
5	ウイルス性食中毒					
6	寄生虫・衛生動物					
7	自然毒食中毒 1：動物性自然毒					
8	自然毒食中毒 2：植物性自然毒					
9	化学性食中毒 1：有害化学物質、重金属等					
10	化学性食中毒 2：農薬、カビ毒、毒性学					
11	食品添加物 1：甘味料、着色料、保存料					
12	食品添加物 2：その他の食品添加物					
13	器具・容器包装					
14	食品成分の変性・有毒化、まとめ					
共通の成績評価基準						
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。	小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。	
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
<p>化合物がここでも頻出するため、化学が苦手な方は努力しよう。 指定された課題・問題に取り組む。 苦手な分野の克服に向けて努力する。</p>				<p>質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。 毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。</p>		
教科書・テキスト	「新訂原色食品衛生図鑑」細貝祐太郎編 建帛社 適宜印刷物を配布。		受講生に望むこと	身の回りのことをよく観察し、自分自身の食の安全性を鑑みてみよう。		
参考書・参考資料等	特になし		その他・特記事項	特になし		

授業科目		食品衛生学実験					
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
前半に微生物試験を連続して行う。その試験特性を理解し、食品や調理器具、自らの手や空間における汚染の現状を把握する。後半は水道水の汚染や、食品中の食品添加物や食品の鮮度を把握するために、それぞれ具体的な食品を用いて化学実験を行う。これらの実験によって実際に試薬や器具の適切な取り扱いができ、自ら試薬調製が可能になると共に、食品の安全性を確保するのに必要な手段を学修する。				本実験は微生物の取り扱いや試薬の調製法から始まり、さらに、食品中の食品添加物の定量、食品の鮮度について取り上げる。これら食品の安全性と健全性を確保するために必要な手段について、実験を通じ考えることを目標としている。 手技を通じて微生物の取り扱いができる。食品の鮮度がわかる。試薬の調製ができ、化学分析ができる。			
キーワード	微生物検査、食品添加物分析、食品の鮮度検査、水質検査						
教授方法	講義（説明）、実験はグループ（4人）で行う。						
履修条件等	食品衛生学を習得していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：実験上の留意事項（実験に際しての諸注意）						
2	実験の基本操作について（滅菌と消毒、微生物の取り扱い）						
3	一般生菌の検査：標準寒天培地						
4	コロニーカウンターの使用法と大腸菌群の検査1（デスオキシコーレート培地）						
5	大腸菌群の検査2（BGLB培地）						
6	大腸菌群の検査3（確認試験としてのEMB培地）						
7	グラム染色法・検鏡						
8	調理器具の検査：空中落下菌・手指の細菌検査・調理器具（まな板）の汚染検査						
9	飲料水の検査：酸化還元滴定						
10	食品添加物の検査：発色剤の定量						
11	食品添加物の検査：着色料の抽出						
12	食品添加物の検査：着色料の同定						
13	食品の鮮度検査1：揮発性塩基窒素の定量						
14	食品の鮮度検査2：ヒスタミンの検出/皿の汚染検査、まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実験レポート	80	書いたレポートをA+～Cまで評価し、点数化を行う。		上記以外の授業評価	20	積極的に実験に貢献したかなど貢献度を点数として加味する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
自分の調べてみたいこと、ものを持ってきてもらうかもしれませんが、事前によく内容を把握しよう。化学の基礎が必要となるため、事前に基礎知識（濃度、構造）を予習すること。事後は図書館などで文献を引用しながらレポートを作成すること。				質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	「新訂原色食品衛生図鑑」細貝祐太郎編 建帛社 適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	積極的に実験に参加し、手技を身につけよう。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	食品開発・品質管理論						
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2・3学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>実際の企業ではどのような組織活動が行われているかを筆頭に食品開発の研究から工場での品質管理、価格の算出、製品販売までの立ち上げ、営業と販売促進方法など今までの加工食品から今後の目的まで概説する。後半では特に作成された製品をどのようにして安心安全に品質良く届けられるかについて品質管理の手法について解説する。データの取り方や統計に至るまでどのように品質を管理しているか、また管理方法についても学修する。</p>				<p>食の外部化とともに食品産業は日本人の食生活に重要な位置を占めている。食品学、食品衛生学を踏まえた上でのさらなる応用的学問として説明し、食品産業と、生活者である消費者との両方の立場から食品開発に関連する知識を深め、品質管理に関わる諸課題を学び理解することを本講義の目標とする。</p> <p>日本の食品産業について概要を述べることができる。 食品開発について説明できる。 品質管理について説明できる。</p>			
キーワード	食品産業、工業化、知的所有権、QC7つ道具、新QC7つ道具						
教授方法	講義と演習を取り混ぜた形式、随時意見を問う形とする。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：分野で活躍している方のお話、企業とその組織活動						
2	「食品開発」の研究から製造販売までの過程						
3	先人の知恵を利用した食品						
4	食品開発の目的						
5	マーケティングとは？						
6	食品開発の実践方法1：工業化と実例						
7	食品開発の実践方法2：商品化のための基本価格の算出と製品販売まで						
8	知的所有権						
9	食品の安全性と工場での品質管理（HACCP、ISO、TQM）、管理と改善、工程と検査、標準化：データの取り方の基礎						
10	QC7つ道具1（グラフ、パレート図等）						
11	QC7つ道具2（管理図、チェックシート等）						
12	新QC7つ道具1（親和図法、連関図法等）						
13	新QC7つ道具2（マトリックス図法、PDPC法等）						
14	より良い製品づくりのための心構えと行動（工場見学等含む。）、まとめ						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	テスト100点中60点以上を合格とする。			小テスト	20	毎回講義の最後に小テストを行い配分する。
授業レポート	20	毎回講義の最後に小レポートを書かせ配分する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題・問題に取り組む。苦手な分野の克服に向けて努力する。				質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	大学生・新入社員・主婦のための食品開発ガイドブック（片岡榮子、片岡二郎）地人書館 適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	自分が社会人になったときのことを考えて積極的に講義に取り組んで欲しい。現在販売されているものを良く見てみよう。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	食品・メニュー開発実習						
担当教員	小木曾 加奈			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本実習では、大学生を中心としたニーズ調査を行い、その意見から食品の対象を目標として設定する。その食品を実際に試作し、最終製品として作成すると共に、パッケージデザインや内容（栄養表示）も全て自分たちで検討を行う。実際に既製品に近い製品を開発、プレゼンテーションを行い、投票で最優秀製品を決定する。</p>				<p>これまで食品開発に関連する基礎知識、開発の実際と背景、消費者ニーズ等を広範囲にわたり学び、食品の諸性質を生かした安全で健康的な調理加工食品について学習してきた。これらの知識を生かし実際に「売れる」商品開発を行うことを目標とする。 販売するための内容表示やパッケージデザインを作成できる。 実際の商品を最終製品として作成・販売できる。</p>			
キーワード	ニーズ調査、衛生試験、調理加工、新製品開発						
教授方法	講義（説明）、実習はグループ（4人）で行う。ニーズの調査等で学外に出ることもある。						
履修条件等	食品開発・品質管理論を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、県内で活躍している方のお話						
2	目標の検討とニーズ調査（学外での活動を含む）						
3	調査（実現可能か等の検討）/開発のための基礎知識1（衛生試験を含む）						
4	開発食品の対象・目標設定/開発のための基礎知識2（衛生試験を含む）						
5	試作1/開発のための基礎知識3（衛生試験を含む）						
6	試作2						
7	試作3と試作の改良点抽出、品質保持のための工夫						
8	改良						
9	パッケージ等（シズル）・内容表示の決定、販売促進方法の検討						
10	最終商品の決定						
11	プレゼンテーションの検討と最終製品の制作						
12	プレゼンテーション1・試食会（前半）、投票						
13	プレゼンテーション2・試食会（後半）、投票						
14	総括と反省（コンテスト等に提出/販売も含む。）、まとめ						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習レポート	80	書いたレポートをA+～Cまで評価し、点数化を行う。			上記以外の授業評価	20	積極的に取り組んだかなどの貢献度を点数化する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>作成する品について予習すること。ニーズ調査を行う。 事後は図書館などで文献などを引用しながらレポートを作成すること。</p>				<p>質問は、講義中や講義の前後に受け付ける。 毎回講義のはじめに、前回の講義における質問や意見に対するコメントをする。</p>			
教科書・テキスト	特になし、適宜印刷物を配布。			受講生に望むこと	一番は事故がないようにすること。安全のための食品づくりを基本に手際よく進めること。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	特になし		

授業科目	調理学						
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
理論体系に裏付けされた講義を通して、食品の衛生・安全面、栄養面、嗜好面の各特性を高める食品の調理理論及び調理操作の方法を理解する。おいしい料理を作ることに役立つ食品の調味や、非加熱調理と加熱調理の原理、代表的な調理器具・設備の使用法、調理操作過程における食品の物理化学的変化、調理による食品の栄養特性の変化、食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食に関する知識や技術を修得する。また、食品のレオロジーやおいしさの評価について学修する。 英語表記「Culinary Arts」				食品の調味や、非加熱調理と加熱調理の原理、代表的な調理器具・設備の使用法、調理操作過程における食品の物理化学的変化、調理による食品の栄養特性の変化に関する基本的知識や技術について理解する。 食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食に関する基本的知識や技術について修得する。 健康や食文化に関する幅広い知識を修得する。			
キーワード	調理操作 調味 調理理論 調理性						
教授方法	講義において、パワーポイントや映像資料等による視覚資料を活用して、日常生活において見知っている調理の現象と、トピックとして学んでいる食品の調理に関する知識や基本技術を結びつけ、食品の調味や調理性、調理操作中の成分の変化、代表的な調理器具の使用法等、調理についての理解を深める。毎回の授業で小テストを実施し、感想・意見・疑問等も記して提出してもらい、関心や理解度を確認しながら授業を進める。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、食事の意義、調理の意義と目的、食品成分表について学ぶ。						
2	食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食について学ぶ。						
3	食べ物の嗜好性と官能評価について学ぶ。						
4	調理操作の分類、非加熱調理操作と調理器具について学ぶ。						
5	加熱調理操作と調理用熱源、調理器具、調理設備について学ぶ。						
6	調理操作と調味、食具・食器の種類と特徴について学ぶ。						
7	炭水化物の種類と調理性、米類の調理性について学ぶ。						
8	小麦類の調理性について学ぶ。						
9	イモ類、豆類、砂糖類の調理性について学ぶ。						
10	たんぱく質の種類と調理性、食肉類、魚介類の調理性について学ぶ。						
11	卵類、牛乳・乳製品、大豆類の調理性について学ぶ。						
12	ビタミン、無機質の種類と調理性、野菜・果実類の調理性について学ぶ。						
13	きのこ・藻類、種実類、成分抽出素材、デンプンの調理性について学ぶ。						
14	油脂類、ゲル化食品、新食品類、調味料、嗜好飲料、嗜好食品の調理について学ぶ。まとめ。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験 (筆記)	60	食品の調理理論や調理操作等に関する基礎的知識や技術についての理解度および知識や技術を正しく用い、理論的に考え、表現することができるかに応じ			小テスト ・提出物	40	毎回の授業の中で確認、整理した食品の調理理論や調理操作等の基礎的知識や重要事項についての理解度に応じて評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としては、毎回指定する課題（授業に関係する食品の調理性や調理操作の特徴を教科書で確認する）に取り組む。 事後学習としては、毎回指定する課題に取り組む。				・質問は、授業中や授業の後に受け付ける。 ・毎回の小テストに感想・意見・質問等も記して提出してもらう。 ・メールでの質問については随時受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。			
教科書・テキスト	『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN : 978-4-8446-0894-3 『八訂 食品成分表 2 0 2 1』女子栄養大学出版部 2021 ISBN : 978-4-7895-1021-9 『日本の食文化 新版「和食」の継承と食育』アイ・ケイコーポレーション 2016 ISBN : 978-4-87492-343-6			受講生に望むこと	「調理学」で学ぶ知識と調理の基本技術と、各自が日常生活において見知っている調理の現象、さらに「調理学実習」で取り扱う食品の調理性および調理操作等と結びつけながら理解を深めるとともに知識や技術を応用できるよう主体的に学んで欲しい。		
参考書・参考資料等	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、適宜、資料等を配布・紹介する。			その他・特記事項	教科書『八訂 食品成分表 2 0 2 1』と電卓を使用して授業中または事前・事後学習において栄養計算等を行うことがある。		

授業科目		調理科学実験					
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
調理学の理論の根拠について実験を通して科学的に理解する。調理の過程で生じる食品の様々な科学的変化について観察し、物理化学的性質の測定や組織学的方法および統計学的手法を用いて、食品組織や成分の変化について学修する。調理科学に関する基礎実験、基礎調理操作に関する実験および食品の調理性に関する実験を通して、科学的に調理理論について理解する。食品素材や加工品の品質評価や嗜好性の評価について、機器測定と官能評価による総合的な分析方法を修得する。 英語表記「Laboratory Work Experience for Culinary Arts」				調理科学に関する基礎実験、基礎調理操作に関する実験および食品の調理性に関する実験方法を理解する。 食品素材や加工品の品質評価や嗜好性の評価について、機器測定と官能評価による総合的な分析方法を修得する。			
キーワード	調理性 機器測定 官能評価						
教授方法	オンラインによる説明および実演の後、教科書と実験プリントに沿って実験を行う。第9回には中間報告会、第14回に最終報告会とまとめを行う。記録用プリントの提出や、報告会での発表や質疑応答を通して、実験の目的や方法、結果、考察についての理解を深める。						
履修条件等	「調理学」および「調理学実習」の履修を終えていること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション。調理科学に関する基礎実験の説明、水の品質評価を通して、調理科学の基礎的事項について学ぶ。						
2	味覚に関する実験、五味、だしと汁物の官能評価を通して、味覚と官能評価の手法について学ぶ。						
3	米の調理性に関する実験を通して、米の調理性について学ぶ。						
4	米粉の調理性に関する実験を通して、米粉の調理性について学ぶ。						
5	千曲市内食品工場見学により、食品素材や加工品の品質評価（機器分析、官能評価）について学ぶ。						
6	千曲市内食品工場見学により、食品素材や加工品の品質評価（機器分析、官能評価）について学ぶ。						
7	小麦粉の調理性に関する実験を通して、小麦粉の調理性について学ぶ。						
8	ゲル化剤・とろみ調整食品の調理性に関する実験を通して、ゲル化剤・とろみ調整食品の調理性について学ぶ。						
9	中間報告会。第1回～第6回の実験についてグループ発表とまとめを行う。						
10	砂糖の調理性に関する実験を通して、砂糖の調理性について学ぶ。						
11	卵と牛乳の調理性に関する実験を通して、卵と牛乳の調理性について学ぶ。						
12	野菜と豆類の調理性に関する実験を通して、野菜と豆類の調理性について学ぶ。						
13	米の調理に関するビデオ視聴と最終報告会の準備。						
14	最終報告会。第7回～第13回の実験について発表とまとめを行う。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
提出物	60	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。		プレゼンテーション	40	中間・最終報告会でのプレゼンテーションの内容（課題を理解し、適切に説明しているか）に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としては、実験記録用プリントに実験に必要な備品や機器名を記載し、およびその実験手順を理解しておく。 事後学習としては、実験記録用プリントに実験結果や考察をまとめる。				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問についても受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。			
教科書・テキスト	『調理科学実験 第2版』長尾慶子・香西みどり著 建帛社 2019 ISBN: 978-4-7679-0623-2 『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN: 978-4-8446-0894-3 『八訂 食品成分表 2 0 2 1』女子栄養大学出版部 2021 ISBN: 978-4-7895-1021-9			受講生に望むこと	「調理科学実験」で学ぶ食品の調理性等と各自が日常生活において見知っている調理の現象と「調理学」、「調理学実習」および「調理学実習」で学んだ食品の調理性や調理操作等とを結びつけながら理解を深めるとともに、知識や技術を応用できるよう主体的に学んで欲しい。		
	参考書・参考資料等				特になし。		
授業の中で随時紹介する。必要に応じて、印刷資料等を配布する。				その他・特記事項			

授業科目		調理学実習					
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
調理の基礎的な知識と技術を系統的に修得する。日常用いられる非加熱調理操作、加熱調理操作に関する基礎的事項を理解し、さらに、調味、食器の取り扱い、盛りつけ等の基本調理を系統的に学修する。日本料理様式、西洋料理様式および中国料理様式の系統の実習によって、必要な調理の知識や基本技術について実践を通して修得する。また、安全面・衛生面に関する正しい知識、さらに環境を配慮したエコクッキングの実践力を修得する。 英語表記「Practice in Culinary Arts」				日本料理様式、西洋料理様式および中国料理様式の系統の実習によって、必要な調理の知識や基本技術を修得する。 基本調理における安全面・衛生面に関する正しい知識を修得し、さらに環境を配慮したエコクッキングの実践力を養う。			
キーワード	調理操作 調味 調理性 基本調理						
教授方法	オンラインによる説明および実演の後、実習プリントに沿って調理実習、片付けを行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、実習班の確認、調理器具・食器の種類と取り扱い、各調理台の調理器具の確認、計量、日本料理様式実習1（煮干しだしの取り方、炊飯とおにぎり、味噌汁、厚焼き卵、青菜のお浸し、日本茶）の要点について学ぶ。						
2	調理様式別調理器具・食器の種類と取り扱い、盛り付けと配膳、日本料理様式実習2（えんどう豆ご飯、かきたまご汁、いり鶏、きゅうりとわかめの酢の物）の要点を学ぶ。						
3	計量実習と日本料理様式実習1（和風だしの取り方、炊飯とおにぎり、味噌汁、厚焼き卵、青菜のお浸し、日本茶）の調理について学ぶ。						
4	日本料理様式実習2（えんどう豆ご飯、かきたまご汁、いり鶏、きゅうりとわかめの酢の物）の調理について学ぶ。						
5	日本料理様式実習3（親子どんぶり、鰯のつみれ入りすまし汁、菊花かぶ、水ようかん、鰯の付け焼き）の調理について学ぶ。						
6	日本料理様式実習4（赤飯、吉野鶏のすまし汁、煮魚、あさりとわけぎの辛子酢味噌和え）の調理について学ぶ。						
7	西洋料理様式実習1（クリームスープ、魚のムニエル、ワインゼリー、サラダ）の調理について学ぶ。						
8	西洋料理様式実習2（コンソメスープ、ハンバーグステーキ、ブランマンジェ、サラダ）の調理について学ぶ。						
9	西洋料理様式実習3（オードブル、バターライスと魚介のクリームソース、魚のプレゼのラビゴットソース添え、紅茶）の調理について学ぶ。						
10	中華料理様式実習1（冷拌什錦、醬蒸魚、青梗菜豆腐湯、折口棗、中国茶）の調理について学ぶ。						
11	中華料理様式実習2（古肉酢、玉米湯、鶏蛋糕）の調理について学ぶ。						
12	中華料理様式実習3（魚丸子湯、蕃茄溜魚片、花形蒸しパン）の調理について学ぶ。						
13	実技試験（野菜の煮物、中華風和え物）の説明と練習、実習のまとめ1						
14	実技試験（野菜の煮物、中華風和え物）、実習のまとめ2						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実技試験	60	日常用いられる調理操作、調味、食器の取り扱い、盛りつけなどの基本調理の知識と技術および安全面・衛生面に関する正しい知識や環境を配慮したエコ		提出物	40	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としては、実習記録用プリントに使用材料名と量を記載する。事後学習としては、調理過程や調理のポイント等を実習記録用プリントにまとめ、実施献立について食品成分表を用いて栄養計算を行う。				・質問は、授業中や授業後に受け付ける。 ・メールでの質問については随時受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。			
教科書・テキスト	『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN: 978-4-8446-0894-3 『八訂 食品成分表 2021』女子栄養大学出版部 2021 ISBN: 978-4-7895-1021-9 『日本の食文化 新版 「和食」の継承と食育』アイ・ケイコーポレーション 2016 ISBN: 978-4-87492-343-6			受講生に望むこと	「調理学実習」で身に付ける調理の知識と基本技術と、各自が日常生活において見知っている調理の現象、さらに「調理学」で学んだ食品の調理性等の知識とを結びつけながら理解を深めるとともに、知識や技術を応用できるよう主体的に学んで欲しい。		
参考書・参考資料等	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、資料等を配布・紹介する。			その他・特記事項	教科書『八訂 食品成分表 2021』と電卓を使用して授業中または事前・事後学習において栄養計算等を行うことがある。		

授業科目		調理学実習					
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>調理学や調理学実習 で学修した調理に関する基礎知識や基礎的な調理技術を基に、食の嗜好性や地域性など多角的な視点から食事をとらえ、それらを取り扱うための総合的でより高度な応用技術や知識について学修し、創造力を養成する。日本や諸外国の供応食、行事食、郷土食等の調理実習や食事マナーの学修を通して、世界の食事文化や食事形式について文化的理解を深め、調理操作と調味、献立構成など、種々の知識を実践に活用する総合的な応用力を修得する。</p> <p>英語表記「Practice in Culinary Arts 」</p>				<p>食の嗜好性や地域性など多角的な視点から食事をとらえ、調理に関する総合的でより高度な応用技術と知識および創造力を修得する。日本および世界の食事文化や食事形式について文化的理解を深め、調理操作と調味、献立構成などの種々の知識を実践に活用する総合的な応用力を修得する。</p>			
キーワード	供応食 行事食 郷土食 応用調理						
教授方法	オンラインによる説明および実演の後、実習プリントに沿って調理実習、片付けを行う。						
履修条件等	「調理学実習」の履修を終えていること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	日本の行事食実習 1 饅頭、 類類、 餅類の調理、 刃物の手入れ（包丁研ぎ）について学ぶ。						
2	日本の行事食実習 2 おはぎ、 土瓶蒸し、 白和えの調理について学ぶ。						
3	日本の供応食実習 1 ちらし寿司、 パラの花巻き寿司、 いなり寿司、 吸い物の調理について学ぶ。						
4	西洋料理のコース料理とテーブルマナーについて学ぶ。						
5	西洋の朝食実習 オムレツ、 オートミールのポリッジ、 マフィン、 コーヒーの調理および西洋の朝食の食文化について学ぶ。						
6	西洋の供応食実習 1 ミネストローネ、 マカロニグラタン、 ワルドルフ風サラダの調理について学ぶ。						
7	西洋の供応食実習 2 ビーフシチュー、 ジュリエンヌサラダ、 シュークリームの調理について学ぶ。						
8	日本の供応食実習 2 沢煮椀、 魚の照焼き、 炊き合わせ、 塩いかの黄味酢和え、 淡雪かんの調理について学ぶ。						
9	日本の供応食実習 3 天ぷら、 茶碗蒸し、 かぼちゃのそばろあんかけ、 さつまいもご飯の調理について学ぶ。						
10	韓国と東南アジア料理の調理実習 ビビムバブ ゴイ・クオン、 トム・ヤン・クンの調理について学ぶ。						
11	西洋の行事食実習（クリスマス料理） ブッシュドノエル、 クラレットパンチの調理およびクリスマスの食文化について学ぶ。						
12	日本の行事食実習 3（正月料理） 松笠肉団子、 ごまめ、 五色なます、 梅花かん、 雑煮、 黒豆、 昆布巻きの調理について学ぶ。						
13	長野県の郷土料理の調理実習 五平餅、 凍み豆腐料理、 いもなます、 大根びき、 ひんのべの調理と松花堂弁当について学ぶ。						
14	実技試験とまとめ。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実技試験	40	調理操作と調味に関するより高度な応用技術の修得度、知識を実践に活用する力および創造力の修得度に応じて評価する。		提出物	60	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としては、実習記録用プリントに使用材料名と量を記載する。事後学習としては、調理過程や調理のポイント等を実習記録用プリントにまとめ、実施献立について食品成分表を用いて栄養計算を行う。行事食に関するレポートに取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問についても受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。 			
教科書・テキスト	『栄養管理と生命科学シリーズ 新版 調理学』吉田恵子・綾部園子編著 理工図書株式会社 2020 ISBN: 978-4-8446-0894-3 『八訂 食品成分表 2.0 2.1』女子栄養大学出版部 2021 ISBN: 978-4-7895-1021-9 『日本の食文化 新版 「和食」の継承と食育』アイ・ケイコーポレーション 2016 ISBN: 978-4-87492-343-6			受講生に望むこと	「調理学実習」で身に付ける総合的でより高度な調理の応用技術や知識と、各自が日常生活において見知っている調理の現象、「調理学」や「調理学実習」で学んだ調理の知識や基礎技術等および「調理科学実験」で学ぶ食品の調理性等とを結びつけながら理解を深めるとともに、知識や技術を応用できるよう主体的に学んで欲しい。		
参考書・参考資料等	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、印刷資料等を配布する。			その他・特記事項	教科書『八訂 食品成分表 2.0 2.1』と電卓を使用して授業中または事前・事後学習において栄養計算等を行うことがある。		

授業科目		国際食文化論実習					
担当教員	中澤 弥子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
世界中の人々が風土や歴史の中で、どのような食べ物をどのように食べてきたか（産物の入手・準備、調理法・調理技術、調理道具、食器、食具、供食：食卓構成・演出、食事習慣など）を、地域ごとに文献資料や統計資料、DVDを通して学び、世界の食文化に関する基礎知識を身につける。代表的な外国料理の調理実習や報告会での発表および意見交換を通して、時代とともに多面的に展開してきた世界の食文化についての理解を深め、多文化共生時代に必要な基礎知識を身につける。 英語表記「Seminar and Practice in World Food Culture and Cuisine」				ねらい 世界の人々が風土や歴史の中で、どのような食べ物をどのように食べてきたか（産物の入手・準備、調理法・調理技術、調理道具、食器、食具、供食、食卓構成、食事習慣など）を、地域ごとに文献資料や統計資料、映像資料を通して学修する。代表的な外国料理の調理実習をグループで行い、世界各国の料理によるビュッフェパーティーの計画・実施を通して、諸外国の多彩な食文化の特徴について理解を深める。報告会での発表や意見交換を通して、世界の多様な食文化について幅広い視点から理解し、多文化共生時代に必要な基礎知識を修得する。 到達目標 世界の多様な食文化について幅広い視点から理解する。 多文化共生時代に必要な食文化に関する基礎知識を修得する。			
キーワード	風土、歴史、食文化						
教授方法	調理実習は3～5名のグループで行う。第11回～13回ではビュッフェパーティーの計画・実施をクラス全体で協力して行う。第14回には報告会とまとめを行う。						
履修条件等	「調理学実習」、「調理学実習」および「食文化論」の履修を終えていること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、世界と日本の食文化について学ぶ。						
2	西ヨーロッパ、南ヨーロッパの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。						
3	西ヨーロッパ、南ヨーロッパの代表的な料理の実習。						
4	北ヨーロッパ、東ヨーロッパの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。						
5	北ヨーロッパ、東ヨーロッパの代表的な料理の実習。						
6	アメリカ、オセアニアの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。						
7	アメリカ、オセアニアの代表的な料理の実習。						
8	東アジア、東南アジア、南アジアの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。実習準備。						
9	東アジア、東南アジア、南アジアの代表的な料理の実習。						
10	中央アジア・西アジア・アフリカの風土と産物、食べ物と飲み物、歴史と食文化について学ぶ。						
11	ビュッフェ形式の食事の計画、グループ毎に取り組む外国料理の準備。						
12	ビュッフェ形式の食事会の準備、グループ毎に外国料理を試作・試食。						
13	ビュッフェ形式の食事会の実施、グループ毎に外国料理を調理・配膳・立食（または持ち帰り容器に詰める）・片付け。						
14	世界の食文化についての報告会とまとめ。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点（取り組み度）	40	実習への主体的な参加度合いに応じて評価する。			提出物	40	提出物の内容（課題を理解し、適切に表現しているか）に応じて評価する。
プレゼンテーション	20	報告会などでのプレゼンテーションの内容（課題を理解し、適切に説明しているか）に応じて評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としては、毎回指定する課題（配布プリントや教科書等の関係する資料を確認する）に取り組む。 事後学習としては、授業で学んだ内容について教科書や配布プリントを使用して整理し、理解を深める。実習内容について調理過程や調理のポイントなどを実習記録用プリントにまとめる。				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問についても受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対しコメントする。			
教科書・テキスト	『日本の食文化 新版 「和食」の継承と食育』江原純子・石川尚子編著 アイ・ケイ コーポレーション 2016 ISBN：978-4-87492-343-6			受講生に望むこと	多様な食文化の特徴とその背後にあるものの見方・考え方について、各自がこれまでに見知ってきた知識や事例と比較し理解を深め、主体的に学んでほしい。		
参考書・参考資料等	授業の中で随時紹介する。必要に応じて、適宜、印刷資料等を配布する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		食ビジネス概論					
担当教員		田中 浩子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目では、外食・中食産業および卸売業、食品を扱う小売業を取り上げる。食品消費の変化や中食産業や小売業の発展の基礎となった「チェーンストア理論」を説明し、前半では、外食・中食産業の各業態の特徴、シェアやトップ企業の戦略について取り上げ、後半では食品を取り扱う小売業の業態特性、卸売市場と卸売業の役割、食品製造業と流通の関係を解説する。この科目を通じて日本の食ビジネスの第二次産業、第三次産業の全体像が把握できるようになる。				食品流通の変化が食生活にどのような影響を与えているかを理解する。 流通に関する基本的な用語や役割・仕組みを理解し、商業統計などの資料を基に、各業態の動向を把握する。 食品・飲料製造業の役割や商品の市場占有率について理解する。			
キーワード	食品流通 マーケティング 日本型食生活						
教授方法	講義						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	食市場の発展と食生活の変化 / チェーンストア理論						
2	外食産業 ファストフード・ファミリーレストラン						
3	外食産業 居酒屋・回転寿司・高価格業態						
4	外食産業 給食・定食屋						
5	中食産業 持ち帰り						
6	中食産業 宅配						
7	小売業 食品スーパーマーケットと総合スーパーマーケット						
8	小売業 コンビニエンスストア						
9	小売業 百貨店						
10	小売業 生活協同組合						
11	小売業 無店舗販売						
12	卸売市場・卸売業						
13	食品製造業						
14	飲料製造業						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	100	基本的な到達目標の到達度					
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		
毎回の授業にて提示					メール		
教科書・テキスト	特に指定せず、毎回講義資料を配布する。				受講生に望むこと	提出物の期限厳守	
参考書・参考資料等	田中浩子編『食生活のソーシャルイノベーション 2050年の食をめぐる暮らし・地域・社会』晃洋書房、2020年。				その他・特記事項	管理栄養士のマネジメント会社の起業経験	

授業科目		基礎栄養学					
担当教員		白神 俊幸		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次		1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生		食健康	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標			
<p>栄養の概論に始まり、食物の摂取（中枢制御、日内リズム）、消化・吸収と栄養素の体内動態（消化器系の構造・機能、栄養素の消化・吸収過程と調節、栄養素の体内動態、生物学的利用度）、たんぱく質の栄養（たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、アミノ酸の臓器間輸送、たんぱく質の量と質の評価、他の栄養素との関係）、炭水化物の栄養（糖質の体内代謝、血糖調節、エネルギー源としての作用、他の栄養素との関係、食物繊維・難消化性糖質）について理解する。</p> <p>英語表記 「Basic Nutrition I」</p>				<p>摂取された食物（食品）は消化を受けて吸収され、その後体内で代謝されて成長や生命・健康の維持に用いられている。本講義では、栄養の大まかな全体像を掴んだうえで、まずエネルギー産生（三大）栄養素のうちたんぱく質・糖質に関するこれら一連の過程について理解することを目標とする。</p> <p>栄養の基本に始まり、エネルギー産生栄養素のたんぱく質と糖質の消化・吸収のメカニズム、食物繊維に関して説明できる。</p>			
キーワード		栄養の基本、たんぱく質、糖質、消化・吸収、食物繊維・難消化性糖類					
教授方法		講義（毎回ランダムに質疑応答を実施） 小テストの実施後に、質疑応答による復習を実施する。					
履修条件等		特になし。					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、栄養の概念						
2	栄養素と健康・疾患						
3	遺伝子と栄養						
4	空腹と食欲						
5	食事のリズムとタイミング						
6	消化器系の構造と機能						
7	消化・吸収過程と調節						
8	栄養素別の消化・吸収（たんぱく質、炭水化物）						
9	栄養素別の消化・吸収（脂質、ビタミン、ミネラル）						
10	栄養素の体内動態と生物学的利用度						
11	たんぱく質・アミノ酸の体内代謝とアミノ酸の臓器間輸送						
12	たんぱく質の質・量の評価、他の栄養素との関係						
13	糖質の体内代謝、臓器間輸送、血糖調節						
14	糖質のエネルギー源としての作用、他の栄養素との関係、食物繊維・難消化性糖類、まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。		小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。	
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。				オフィスパワーは、別途指示する。			
教科書・テキスト	木戸康博・桑波田雅士・原田永勝 編 『栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学 第4版』 講談社			受講生に望むこと	食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学の内容と関連付けて考えること。		
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。			その他・特記事項	小テストは、必ずすべて受けておくこと。		

授業科目		基礎栄養学					
担当教員		白神 俊幸		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次		1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生		食健康	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標			
<p>基礎栄養学の後編としての位置づけである。脂質の栄養（脂質の体内代謝、臓器間輸送、貯蔵エネルギーとしての作用、コレステロール代謝、脂質の量と質の評価、他の栄養素との関係）、ビタミンの栄養（ビタミンの構造・機能、栄養学的機能、生物学的利用度、他の栄養素との関係）、ミネラル（無機質）の栄養（ミネラルの分類と栄養学的機能、生体機能の調節作用、生物学的利用度、他の栄養素との関係）、水・電解質の栄養学的意義（水分・電解質の出納、電解質代謝と栄養）、エネルギー代謝（概念、エネルギー消費量、臓器別エネルギー代謝、エネルギー代謝の測定法）、分子栄養学について理解する。</p> <p>英語表記 「Basic Nutrition II」</p>				<p>本講義では、基礎栄養学 に続き、エネルギー産生栄養素の脂質のほか、各種ビタミンやミネラルの吸収・代謝および成長や生命・健康の維持との関わりについて理解するとともに、水分・電解質、エネルギー代謝、各種栄養素による遺伝子発現調節や遺伝子多型に起因する個人差等を考慮した栄養管理の重要性についても理解することを目標とする。</p> <p>脂質の消化・吸収のメカニズム、各種ビタミンやミネラルの吸収・代謝・生理作用、水分・電解質調節、エネルギー代謝、遺伝子と栄養に関して説明できる。</p>			
キーワード		脂質、ビタミン、ミネラル、水・電解質、エネルギー代謝、遺伝子					
教授方法		講義（毎回ランダムに質疑応答を実施） 小テストの実施後に、質疑応答による復習を実施する。					
履修条件等		基礎栄養学 を修得済みであること。					
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	脂質の体内代謝、臓器間輸送、貯蔵エネルギー源としての作用						
2	コレステロール代謝の調節、脂質の質・量の評価、他の栄養素との関係						
3	ビタミンの構造と機能（脂溶性ビタミン）						
4	ビタミンの構造と機能（水溶性ビタミン）						
5	ビタミンの栄養学的機能・生物学的利用度、他の栄養素との関係						
6	ミネラルの分類と栄養学的機能、硬組織とミネラル						
7	ミネラルの生体調節作用、酵素の賦活作用、鉄代謝、生物学的利用度、他の栄養素との関係						
8	水分・電解質の出納と代謝						
9	エネルギー代謝の概念、エネルギー消費量						
10	臓器別エネルギー代謝、エネルギー代謝の測定法						
11	分子栄養学（個人差と栄養）						
12	分子栄養学（生活習慣病と遺伝子多型）						
13	分子栄養学（栄養素による遺伝子発現調節）						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。		小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。	
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。				オフィスアワーは、別途指示する。			
教科書・テキスト	木戸康博・桑波田雅士・原田永勝 編 『栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学 第4版』 講談社（基礎栄養学 で購入済）			受講生に望むこと	食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、人体機能（生理）学の内容と関連付けて考えること。		
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。			その他・特記事項	小テストは、必ずすべて受けておくこと。		

授業科目	基礎栄養学実験				
担当教員	白神 俊幸		必修・選択	必修	単位数 1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
大きく3つのテーマに関して実施する。具体的には、遺伝子多型と体内栄養素代謝能の差異（アルコール代謝関連遺伝子を例に）、食事内容（たんぱく質の質と量）の違いによる尿中代謝マーカー（尿中尿素窒素および尿酸）排泄への影響、尿中塩分濃度測定による一日塩分摂取量の把握について、実験を通して日常の食生活・個人差と体内栄養素代謝との関わりを学修する。 英語表記 「Experiments in Basic Nutrition」			本実験では、遺伝子多型と体内代謝能の差異、たんぱく質の消化吸収後の体内代謝と尿中に排泄された窒素代謝産物の関係、尿中塩分量と一日塩分摂取量の関係、味覚の感受メカニズムと変化について理解することを目標とする。 遺伝子多型と体内代謝の関係、食事内容と尿中排泄物質の関係、味覚の感受メカニズムと変化について説明できる。		
キーワード	遺伝子多型、栄養素代謝、食事内容、尿中成分、味覚				
教授方法	実験 毎回実験前に説明を十分行い、意義と実施内容について理解度を確認する。 実験中も適宜質疑応答により、疑問点を解消する。				
履修条件等	特になし。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション				
2	アルコール代謝関連遺伝子の遺伝子多型と体内代謝能の差異（内容把握、実験手法とステップの確認、実験準備）				
3	試料調整とPCR反応				
4	PCR増幅産物の確認（電気泳動、染色、画像撮影）				
5	試料調整と制限酵素消化反応				
6	電気泳動、染色、画像撮影				
7	データ解析と評価、まとめ				
8	食事中たんぱく質の質・量と尿中窒素代謝マーカーの評価（被検食の立案）				
9	実験手法とステップの確認、実験準備				
10	試料調整と測定				
11	評価とまとめ				
12	尿中塩分濃度測定による一日塩分摂取量の算出（内容把握、実験手法とステップの確認、被検食の立案）				
13	尿中塩分濃度測定と一日塩分摂取量の算出、データ解析と評価、まとめ				
14	味覚実験、総まとめ				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	40	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。	実験レポート	40	実施した実験に関するレポートの内容を評価する。
平常点	20	取り組み度を平常点として評価する。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
実験内容の理解を深めるために、毎回事前学習として実験書を読んで下調べをしておき、事後学習として各回の実施内容を整理し、実験レポート作成のための文献調査・情報収集などを行う。			オフィシアワーは、別途指示する。		
教科書・テキスト	実験書を配布する。		受講生に望むこと	興味をもって実験すること。 何が明らかになるのか予測しながら実験を行うこと。 出てきた結果から何が考えられるか、自分なりの考察をすること。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	実験に関する手引きと実験書を熟読すること。	

授業科目		食事摂取基準					
担当教員	稲山 貴代			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
管理栄養士が個人および集団に対して栄養アセスメントや適切な栄養計画、食事計画を立てる際の科学的根拠となる食事摂取基準について学ぶ。その策定の背景や基礎的理論を学ぶとともに、各指標の科学的根拠を理解し、対象者に応じた栄養管理プロセスの活用方法を学修する。				食事摂取基準の策定について基礎的理論・総論を説明できる。 科学的根拠に基づき、食事摂取基準（各論）を正しく理解し、説明できる。 食事摂取基準の活用について理解し、栄養マネジメントで活用できる。			
キーワード	推定平均必要量，推奨量，目安量，耐容上限量，目標量，科学的根拠，PDCAサイクル						
教授方法	教科書にそって、pptファイルの映写やホワイトボードを用い、講義形式で授業をすすめる。 事前学習・事後学習の課題の理解の確認を兼ね、講義の中でも質疑応答を積極的に行う。 食事摂取基準の活用のためのワークシートを使った学習やグループディスカッションを取り入れる。						
履修条件等	1年次の基礎栄養学を理解しておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	食事摂取基準の策定の基礎的理論・総論（1）策定方針						
2	食事摂取基準の策定の基礎的理論・総論（2）策定の基本的事項						
3	食事摂取基準の策定の基礎的理論・総論（3）策定の留意事項。中間評価（1）						
4	食事摂取基準の科学的根拠・各論：エネルギー（1）基本的事項と体重管理						
5	エネルギー（2）発症予防の根拠と目標とするBMI						
6	エネルギー必要量（1）基本的な考え方と必要量の推定						
7	エネルギー必要量（2）推定エネルギー必要量の算定と身体活動レベル						
8	たんぱく質						
9	脂質						
10	炭水化物とエネルギー産生栄養素バランス。中間評価（2）						
11	脂溶性ビタミン・水溶性ビタミン						
12	多量ミネラル・微量ミネラル						
13	ビタミン・ミネラルの振り返り						
14	食事摂取基準の活用。総括						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	20	授業内で課すワークの取り組み状況などで評価する。		中間評価（試験）	50	1回目は食事摂取基準の策定について基礎的理論・総論を説明できるか、2回目は科学的根拠に基づき、各論のエネルギーならびにたんぱく質・脂質・炭水化	
期末評価（試験）	30	提示された事例をもとに、到達目標に明示している食事摂取基準の活用について理解できているかを評価基準とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では、その前の回の授業の最後に、「次回の講義のための事前学習」の課題を提示するので、学習しておくこと。 事後学習では、その回の授業の最後に、その回の授業のねらいにあわせた事後学習の「課題」を提示するので、学習しておくこと。 詳細は授業時に説明する。				授業中・終了後に対応します。後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとってください。			
教科書・テキスト	『日本人の食事摂取基準〔2020年版〕』伊藤・佐々木監修（第一出版），2020年。			受講生に望むこと	1年次の基礎栄養学を理解しておくこと。		
参考書・参考資料等	基礎栄養学の指定教科書。 授業中に適宜資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は、栄養管理の実践のための基礎科学を学ぶものである。 本科目は、応用栄養学、給食経営管理論、公衆栄養学での食事摂取基準の活用で展開される。		

授業科目	応用栄養学						
担当教員	稲山 貴代			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>栄養管理の意義や、栄養管理プロセス（PDCAマネジメントサイクル）を学修し、食事摂取基準の活用、ライフステージ別の栄養管理につなげて考えることを理解する。青年期、妊娠・授乳期、新生児期・乳児期をとりあげ、加齢（成長・発達）に伴い変化する人の身体特性（形態、生理機能、精神）、ライフステージの変化に伴う環境やライフスタイルの変化について学修し、栄養アセスメントから、健康・栄養・生活・食生活の課題、栄養管理プロセスについて理解する。</p>				<p>栄養マネジメントと栄養ケアのプロセス（PDCAサイクル）について、正しく理解し、説明できる。ライフステージに応じた身体的・生理的特徴、ライフスタイルと食生活、健康課題（病態）・栄養課題について説明できる。ライフステージに応じた個人や集団の栄養アセスメントを理解し、健康・栄養・食生活の課題・介入目標を設定し、評価できる。</p>			
キーワード	栄養マネジメント、栄養ケア、PDCAサイクル、ライフステージ、加齢						
教授方法	教科書にそって、pptファイルの映写やホワイトボードを用い、講義形式で授業をすすめる。事前学習・事後学習の課題の理解の確認を兼ね、講義の中でも質疑応答を積極的に行う。各ライフステージの栄養ケアでは、ワークシートや実践事例を用いたグループワークやグループディスカッションを取り入れる。						
履修条件等	「食事摂取基準」の単位を取得しておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	栄養マネジメント（1）概要、栄養スクリーニング						
2	栄養マネジメント（2）栄養アセスメント						
3	栄養マネジメント（3）栄養ケアの課題抽出と目標設定						
4	栄養マネジメント（4）栄養ケアの計画と実施						
5	栄養マネジメント（5）栄養ケアの実施と評価						
6	食事摂取基準の活用。中間評価（1）						
7	加齢、成長・発達、老化						
8	成人期（青年期）の栄養管理						
9	妊娠期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
10	妊娠期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
11	授乳期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
12	授乳期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア。中間評価（2）						
13	新生児期・乳児期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴、ライフスタイル、健康・栄養課題						
14	新生児期・乳児期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	20	授業内で課すワークの取り組み状況などで評価する。		中間評価（試験）	50	1回目は栄養マネジメントについて正しく理解し、説明できるか、2回目は妊娠期・授乳期の栄養管理について、主に身体的・生理的特徴、健康・栄養課題	
期末評価（レポート）	30	ケーススタディのレポートから、到達目標に明示している身体的・生理的特徴、ライフスタイルと食生活、健康課題・栄養課題、栄養アセスメント、栄養					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では、その前の回の授業の最後に、「次回の講義のための事前学習」の課題を提示するので、学習をしておくこと。事後学習では、その回の授業の最後に、その回の授業のねらいにあわせた事後学習の「課題」を提示するので、学習をしておくこと。				授業中・終了後に対応します。後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとってください。			
教科書・テキスト	『ライフステージ栄養学』稲山貴代・小林三智子編著、建帛社、2021年。 『日本人の食事摂取基準〔2020年版〕』伊藤・佐々木監修（第一出版）、2020年。			受講生に望むこと	1年次の基礎栄養学、2年次の食事摂取基準を理解しておくこと。		
参考書・参考資料等	基礎栄養学の指定教科書。授業中に適宜資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は応用栄養学実習に展開される。本科目の理解は、特に、栄養教育、公衆栄養学、ライフステージ別の臨床栄養管理の基礎となる。		

授業科目	応用栄養学						
担当教員	稲山 貴代			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>幼児期，学童期，思春期，成人期，更年期，高齢期をとりあげ，加齢（成長・発達，老化）に伴い変化する人の身体特性（形態，生理，機能，精神），ライフステージの変化に伴う環境やライフスタイルの変化について学修し，栄養アセスメントから，健康・栄養・生活・食生活の課題，栄養管理プロセスについて理解する。そのうえで，望ましい栄養状態・食生活の実現，生活の質（QOL）の向上を目指した栄養管理について総合的に考える。</p>				<p>ライフステージに応じた身体的・生理的特徴，ライフスタイルと食生活，健康課題（病態）・栄養課題について説明できる。ライフステージに応じた個人や集団の栄養アセスメントを理解し，健康・栄養・食生活の課題・介入目標を設定し，評価できる。</p>			
キーワード	栄養マネジメント，栄養ケア，ライフステージ，成長，老化						
教授方法	教科書にそって，pptファイルの映写やホワイトボードを用い，講義形式で授業をすすめる。事前学習・事後学習の課題の理解の確認を兼ね，講義の中でも質疑応答を積極的に行う。各ライフステージの栄養ケアでは，ワークシートや実践事例を用いたグループワークやグループディスカッションを取り入れる。						
履修条件等	「応用栄養学」の単位を取得しておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	応用栄養学 振り返り						
2	幼児期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴，ライフスタイル，健康・栄養課題						
3	幼児期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
4	学童期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴，ライフスタイル，健康・栄養課題						
5	学童期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
6	思春期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴，ライフスタイル，健康・栄養課題						
7	思春期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア。中間評価（1）						
8	成人期（中年期）の栄養管理（1）身体的・生理的特徴，ライフスタイル，健康・栄養課題						
9	成人期（中年期）の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
10	更年期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴，ライフスタイル，健康・栄養課題						
11	更年期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア。中間評価（2）						
12	高齢期の栄養管理（1）身体的・生理的特徴，ライフスタイル，健康・栄養課題						
13	高齢期の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
14	応用栄養学 総括						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し，極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点	20	授業内で課すワークの取り組み状況などで評価する。詳細は，授業時に説明する。			中間評価（試験）	50	1回目は幼児期・学童期・思春期の栄養管理，2回目は成人期・更年期の栄養管理について，それぞれ主に身体的・生理的特徴，健康・栄養課題，栄養アセ
期末評価（レポート）	30	ケーススタディのレポートから，到達目標に明示している身体的・生理的特徴，ライフスタイルと食生活，健康課題・栄養課題，栄養アセスメント，栄養					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では，その前の回の授業の最後に，「次回の講義のための事前学習」の課題を提示するので，学習をしておくこと。事後学習では，その回の授業の最後に，その回の授業のねらいにあわせた事後学習の「課題」を提示するので，学習をしておくこと。				授業中・終了後に対応します。後日，対応を要する場合は，事前にメールでアポイントメントをとってください。			
教科書・テキスト	『ライフステージ栄養学』稲山貴代・小林三智子編著，建帛社，2021年。 『日本人の食事摂取基準 [2020年版]』伊藤・佐々木監修（第一出版），2020年。			受講生に望むこと	1年次の基礎栄養学，2年次の食事摂取基準，応用栄養学を理解しておくこと。		
参考書・参考資料等	基礎栄養学の指定教科書。授業中に適宜資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は応用栄養学実習に展開される。本科目の理解は，特に，栄養教育，公衆栄養学，ライフステージ別の臨床栄養管理の基礎となる。		

授業科目	応用栄養学						
担当教員	稲山 貴代			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
精神的ストレス、低温・高温環境などの特殊環境や運動などによって生じる人の身体特性（形態、生理、機能、精神）の反応や適応について学び、栄養アセスメントから、健康・栄養・生活・食生活の課題、栄養管理プロセスについて理解する。さらには、災害時、傷病、障がいに関連する栄養管理プロセスについて学ぶ。				ストレス下、特殊環境下、身体活動に応じた身体的・生理的特徴の変化、ライフスタイルと食生活、健康課題（病態）・栄養課題について説明できる。ストレス下、特殊環境下、身体活動に応じた個人や集団の栄養アセスメントを理解し、健康・栄養・食生活の課題・介入目標を設定し、評価できる。災害時、特別な配慮が必要な人に応じた身体的・生理的特徴の変化、健康課題（病態）・栄養課題、栄養アセスメントと栄養ケアについて説明できる。			
キーワード	栄養マネジメント、栄養ケア、身体活動、特殊環境、障がい、災害栄養						
教授方法	教科書にそって、pptファイルの映写やホワイトボードを用い、講義形式で授業をすすめる。事前学習・事後学習の課題の理解の確認を兼ね、講義の中でも質疑応答を積極的に行う。各ライフステージの栄養ケアでは、ワークシートや実践事例を用いたグループワークやグループディスカッションを取り入れる。						
履修条件等	2年次の応用栄養学 ・ の単位を取得しておくこと。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	応用栄養学 ・ （栄養マネジメント）振り返り						
2	身体活動と栄養管理（1）身体活動時における身体的・生理的变化						
3	身体活動と栄養管理（2）身体活動と健康						
4	身体活動と栄養管理（3）栄養アセスメントと栄養ケア：スタミナづくり						
5	身体活動と栄養管理（4）栄養アセスメントと栄養ケア：体づくりとタイミング						
6	身体活動と栄養管理振り返り。中間評価（1）						
7	ストレス条件下における栄養管理、生体リズムと健康						
8	特殊条件下における栄養管理（1）高温環境下における身体的・生理的变化と健康障害、栄養ケア						
9	特殊条件下における栄養管理（2）低温環境下における身体的・生理的变化と健康障害、栄養ケア						
10	特殊環境条件下における栄養管理（3）高圧・低圧、宇宙環境下における身体的・生理的变化と健康障害、栄養ケア。中間評価（2）						
11	災害時の栄養管理（1）災害時における身体的・生理的变化、健康・栄養課題						
12	災害時の栄養管理（2）栄養アセスメントと栄養ケア						
13	特別な配慮が必要な人への栄養管理						
14	応用栄養学総括						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
平常点	20	授業内で課すワークの取り組み状況などで評価する。		中間評価（試験）	50	1回目は身体活動と栄養管理、2回目はストレス下、特殊環境下の栄養管理について、それぞれ主に身体的・生理的特徴、健康・栄養課題、栄養アセスメント	
期末評価（レポート）	30	ケーススタディのレポートから、到達目標に明示している身体的・生理的特徴、ライフスタイルと食生活、健康課題・栄養課題、栄養アセスメント、栄養					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習では、その前の回の授業の最後に、「次回の講義のための事前学習」の課題を提示するので、学習しておくこと。事後学習では、その回の授業の最後に、その回の授業のねらいにあわせた事後学習の「課題」を提示するので、学習しておくこと。				授業中・終了後に対応します。別日の対応を希望する場合は、事前にメールでアポイントメントをとってください。			
教科書・テキスト	『ライフステージ栄養学』稲山貴代・小林三智子編著、建帛社、2020年。			受講生に望むこと	1年次の基礎栄養学、2年次の食事摂取基準、応用栄養学 ・ を理解しておくこと。		
参考書・参考資料等	基礎栄養学ならびに運動生理学の指定教科書。『日本人の食事摂取基準〔2020年版〕』伊藤・佐々木監修（第一出版）、2020年。授業中に適宜資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は、ライフステージ別の栄養管理の実践のための基礎となるものである。本科目の理解は、特に、栄養教育、公衆栄養学、ライフステージ別の臨床栄養管理の基礎となる。また、運動生理学と関連する。		

授業科目	応用栄養学実習					
担当教員	稲山 貴代		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
乳児期, 幼児期, 学童期, 思春期, 青年期, 妊娠期, 授乳期, 成人期, 高齢期等, ライフステージ別に提示された事例について, 栄養アセスメント項目の選定と方法, 栄養・食生活課題の抽出と選定, 栄養介入のための計画・立案を演習で学修する。計画に基づき, 具体的な栄養計画・食事計画をたて, 調理・供食し, 評価する実習を行い, プロセスを学修する。さらに, 栄養管理計画を修正し, 多職種理解を促し連携を推進する文書作成, プレゼンテーションスキルを習得する。			ライフステージ別に提示された事例について, 栄養マネジメントのプロセスにそって, 栄養アセスメントから改善目標を選定し, 栄養ケアプランをたてることできる。栄養介入の実践について, 食事計画や調理, 多領域との連携も含め, 説明できる。栄養ケアプランを評価し, 次のプランの改善について説明できる。			
キーワード	食事計画, 栄養計画, 栄養ケア, PDCAサイクル, ライフステージ, ライフスタイル					
教授方法	グループに分かれ, 提示された課題について, PDCAサイクルにそって, 実習を行う。 Plan: その課題に必要なアセスメントを考え, 評価項目を設定し, 栄養ケアプランを作成する。 Do: 献立と作業指示書を作成し, 調理, 供食を行う。または, 模擬実践をする。 Check・Action: 評価を行い, その結果から栄養ケアプランを修正し, グループ発表する。					
履修条件等	応用栄養学 . . . の単位が取得できていること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	ライフステージ別の栄養管理について					
2	妊娠・授乳期, 新生児・乳児期の栄養マネジメント(1) 摂食機能の発達に応じた栄養管理					
3	妊娠・授乳期, 新生児・乳児期の栄養マネジメント(2) 離乳食の栄養管理					
4	幼児期の栄養マネジメント(1) 食事計画・栄養計画					
5	幼児期の栄養マネジメント(2) 食事計画の実践(調理)と評価					
6	学童期・思春期の栄養マネジメント(1) 食事計画・栄養計画					
7	学童期・思春期の栄養マネジメント(2) 食事計画の実践(調理)と評価					
8	成人期の栄養マネジメント(1) 食事計画・栄養計画					
9	成人期の栄養マネジメント(2) 食事計画の実践(調理)と評価					
10	高齢期の栄養マネジメント(1) 食事計画・栄養計画					
11	高齢期の栄養マネジメント(2) 食事計画の実践(調理)と評価					
12	災害時の栄養マネジメント(1) 食事計画・栄養計画					
13	災害時の栄養マネジメント(2) 食事計画の実践(調理)と評価					
14	総括: ライフステージ別の栄養管理の実践					
共通の成績評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
平常点	75	提示された課題について, PDCAサイクルに沿った実習ができているか, 食事計画や調理, 多領域との連携も含め説明できるかを, ワークの取り組み状況や		期末評価(試験)	25	ケーススタディから, 到達目標に明示している栄養マネジメントのプロセスにそった栄養アセスメント, 改善目標の選定, 栄養ケアプランとその評価および
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応			
事前学習では, その前の回の授業の最後に, 「次回の講義のための事前学習」の課題を提示するので, 学習をしておくこと。 事後学習では, その回の授業の最後に, その回の授業のねらいにあわせた事後学習の「課題」を提示するので, 学習をしておくこと。			授業中・終了後に対応します。後日, 対応を要する場合は, 事前にメールでアポイントメントをとってください。			
教科書・テキスト	『四訂 応用栄養学実習』五関正江・小林三智子編著, 建帛社, 2020年。 『ライフステージ栄養学』稲山貴代・小林三智子編著, 建帛社, 2021年(応用栄養学の指定教科書)。			受講生に望むこと	食事摂取基準, 食事計画論, 給食経営管理論, 応用栄養学 . . . を理解しておくこと。 課題に取り組む時間が多くなるので, 体調管理, スケジュール管理をしっかり行うこと。	
参考書・参考資料等	『日本人の食事摂取基準[2020年版]』伊藤・佐々木監修(第一出版), 2020年。 授業中に適宜資料を配付する。			その他・特記事項	本科目は, ライフステージ別の栄養管理の実践のための科目である。	

授業科目		栄養教育論					
担当教員		新保 みさ・笠原 賀子		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次		2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生		食健康	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標			
<p>本講義では、栄養や食に関する知識を学修するだけでなく、科学的根拠に基づいた栄養教育を実践するための栄養教育の定義や目的、行動科学の理論やモデルを学修する。</p> <p>さらに、栄養教育をマネジメントするために、栄養教育のアセスメント・計画・実施・評価の方法を栄養ケア・プロセスにおける栄養介入に基づいて学修する。</p>				<p>栄養教育とはなにかを理解する。 行動科学の理論やモデルの基礎的知識を習得する。 栄養教育のアセスメント、計画、実施、評価の方法を理解する。</p>			
キーワード		栄養教育、行動科学、PDCA					
教授方法		講義。グループディスカッションを含む。					
履修条件等		栄養教育論 の単位を取得していない者は、栄養教育論 を受講できない。					
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、栄養教育の概念（定義、目的・目標、対象と機会）						
2	栄養教育と行動科学（1）行動変容、刺激 - 反応理論						
3	栄養教育と行動科学（2）社会的認知理論、計画的行動理論						
4	栄養教育と行動科学（3）ソーシャルサポート、ヘルスピリフモデル						
5	栄養教育と行動科学（4）トランスセオレティカルモデル、行動変容技法など						
6	栄養教育と行動科学（5）認知行動療法、動機づけ面接法						
7	栄養教育と行動科学（6）コミュニケーション理論、イノベーション普及理論など						
8	栄養教育と行動科学（7）グループダイナミクス、エンパワメントなど						
9	栄養教育に関する生活指導（1）栄養（食環境整備）、運動、休養、歯・口腔						
10	栄養教育に関する生活指導（2）適正飲酒、喫煙防止 栄養教育マネジメント（1）NCPの概要						
11	栄養教育マネジメント（2）PDCAとアセスメント・目標設定・評価						
12	栄養教育マネジメント（3）栄養教育の方法と計画・実施						
13	学校における食育の評価と経済評価						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	定期テストを行い、授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかを評価する。		課題・レポート	30	課題・レポートを通して、授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかを評価する。	
小テスト	20	小テストを行い、授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかを評価する。		授業態度	10	主体的態度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> 指定された課題・レポートに取り組むこと。 小テストや定期試験に向けて復習すること。 				<ul style="list-style-type: none"> 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 メールでの質問も受け付ける。 アドレス： 笠原賀子 (kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp)、 新保みさ (shimpo.misa@u-nagano.ac.jp)			
教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論第4版」笠原賀子、斎藤トシ子編（講談社）			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションへ主体的に取り組むこと。 積極的に質問や意見などを発言すること。 		
参考書・参考資料等	適宜、指示・配布する。			その他・特記事項	栄養教育論、栄養教育論実習、栄養カウンセリング演習においてもテキストを継続して使用する。		

授業科目	栄養教育論				
担当教員	新保 みさ・笠原 賀子		必修・選択	必修	単位数 2単位
履修年次	3年	開講学期	1学期	授業形態	講義 科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
生涯を通じた健康づくりには、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育が必要である。対象者に応じた栄養教育を実施するために、各ライフステージ・ライフスタイル別の特徴を把握し、実践と結びつけながら栄養教育を行う際のポイントを学修する。さらに、栄養教育論で履修した行動科学の理論やモデルを、個人や集団の対象者に応じた栄養教育に活用する方法について理解する。			各ライフステージ・ライフスタイルの特徴を理解する。対象者に応じた栄養教育の内容や方法を選択できる。対象者に応じた栄養教育に行動科学の理論やモデルを活用できる。		
キーワード	栄養教育、ライフステージ				
教授方法	講義。グループディスカッションを含む。				
履修条件等	栄養教育論 の単位を取得していること。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション、栄養教育のPDCAと教育方法				
2	栄養教育の教材作成				
3	ライフステージごとの栄養教育の検討				
4	ライフステージごとの栄養教育の検討				
5	栄養教育実施のための書き方、話し方、プレゼンテーション技術				
6	特定健康診査・特定保健指導における栄養教育				
7	乳幼児期における栄養教育の実践例				
8	学童期における栄養教育の実践例				
9	味覚教育				
10	障がい者に対する栄養教育の実践例				
11	高齢者における栄養教育の実践例				
12	傷病者に対する栄養教育の実践例				
13	ライフステージ別の栄養教育の実践				
14	ライフステージ別の栄養教育の実践 ・まとめ				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
課題・レポート	80	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかを評価する。	授業態度	20	主体的態度を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
<ul style="list-style-type: none"> 指定された課題・レポートに取り組むこと。 テキストや配付資料をもとに予習すること。 			<ul style="list-style-type: none"> 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 メールでの質問も受け付ける。 アドレス： 笠原賀子(kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp)、 新保みさ(shimpo.misa@u-nagano.ac.jp)		
教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論第4版」笠原賀子、斎藤トシ子編（講談社）		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションへ主体的に取り組むこと。 積極的に質問や意見などを発言すること。 	
参考書・参考資料等	適宜、指示・配布する。		その他・特記事項	栄養教育論実習においてもテキストを継続して使用する。	

授業科目	栄養教育論実習						
担当教員	新保 みさ・笠原 賀子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>栄養教育論、で得た知識をもとに、栄養教育プログラムの作成や対象者や場面に適した栄養教育のアセスメント、計画、実施、評価の実施を通して、栄養教育の実践力を養う。また、栄養アセスメントの結果のまとめ方に関する実習や栄養教育プログラムごとの教材作成を通して、栄養教育を実施するための総合的なスキルを習得する。</p>				<p>栄養教育における栄養アセスメントを実践できる。 栄養教育プログラムの計画、実施、評価を実践できる。 栄養教育を行うための総合的なスキルを習得する。</p>			
キーワード	栄養教育、模擬授業						
教授方法	グループワーク、模擬授業						
履修条件等	栄養教育論、栄養教育論の単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、栄養教育における栄養アセスメント（食事調査の計画・実施・まとめ方）						
2	栄養教育における教材作成（食事調査結果のまとめ）						
3	調理デモンストレーションの実践						
4	大学生を対象とした栄養教育プログラム 模擬授業及び調理デモ準備						
5	大学生を対象とした栄養教育プログラム 模擬授業及び調理デモ準備						
6	大学生を対象とした栄養教育プログラム 模擬授業及び調理デモ準備						
7	大学生を対象とした栄養教育プログラム 模擬授業及び調理デモ						
8	大学生を対象とした栄養教育プログラム 模擬授業及び調理デモ						
9	妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、成人期（疾病有り無し）、高齢期の栄養教育プログラムの計画・立案・教材作成 模擬授業準備						
10	妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、成人期（疾病有り無し）、高齢期の栄養教育プログラムの計画・立案・教材作成 模擬授業準備						
11	妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、成人期（疾病有り無し）、高齢期の栄養教育プログラムの計画・立案・教材作成 模擬授業準備						
12	個別面談・電話面談の演習						
13	妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、成人期（疾病有り無し）、高齢期の栄養教育プログラム 模擬授業						
14	妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、成人期（疾病有り無し）、高齢期の栄養教育プログラム 模擬授業						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題・レポート	80	課題・レポート、グループワークや模擬授業の内容とその成果（学んだことなど）を評価する。		授業態度	20	主体的態度、グループにおける貢献度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> 指定された課題・レポートに取り組むこと。 模擬授業の準備をすること。 				<ul style="list-style-type: none"> 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 メールでの質問も受け付ける。 アドレス： 笠原賀子(kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp)、 新保みさ(shimpo.misa@u-nagano.ac.jp)			
教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論第4版」笠原賀子、斎藤トシ子編（講談社）			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> グループワークへ主体的に取り組むこと。 積極的に質問や意見などを発言すること。 		
参考書・参考資料等	適宜、指示・配付する。			その他・特記事項	なし		

授業科目	栄養カウンセリング演習						
担当教員	笠原 賀子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>管理栄養士の職務は、「人」を対象として、人々が望ましい食行動や生活習慣へと自発的に変容することを支援し、協働して歩むものであり、修得した食に関する高度な専門的知識や技術を真に生かすためには、対象者と豊かなコミュニケーションを構築することが不可欠である。そのため、コーチングを中心とした基礎理論を学修しつつ、演習やロールプレイを通して、個々の対象者に応じた、きめ細かな対応ができる栄養指導スキルを身につける。さらに、職務を円滑に遂行するための多職種との連携に必要なコミュニケーション能力を高める。</p>				<p>到達目標 栄養教育・指導におけるコミュニケーションの大切さについて理解する。 栄養教育・指導を実施する際の栄養カウンセリング（コーチング）のスキルについて説明できる。 対象者に寄り添った栄養カウンセリング（コーチング）ができるようになる。</p>			
キーワード	栄養カウンセリング、コーチング、コミュニケーション						
教授方法	状況により、ZOOMによる遠隔授業となる場合がある。 講義、演習、グループワーク、ゲストスピーカーとのディスカッション。 基礎理論の修得とロールプレイを組み合わせて実践的に実施する。						
履修条件等	栄養教育論 の単位を修得していること。 総合教育科目群の「心理学」「コミュニケーション論」等を受講していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、自己の振り返りと気づき						
2	いのちに向き合う（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
3	カウンセリング・コーチングの基本と環境設定						
4	ラボールの形成と傾聴						
5	抵抗のサインと傾聴						
6	動機づけ面接法と傾聴（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
7	タイプ別コーチング						
8	承認（1）自分の強みの発見						
9	承認（2）他者からの承認						
10	質問のスキル						
11	栄養カウンセリング実践編（1）ケーススタディ（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
12	GROWモデルと提案						
13	栄養カウンセリング実践編（2）ケーススタディ（ゲストスピーカーとのディスカッション）						
14	リフレ ミングとまとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	80	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかについて評価する。			主体的態度	20	主体的に授業に取り組んでいるかについて評価する（レポートの締切順守、提出回数なども含む）。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 シラバスにそって必ず予習をし、疑問点や不明な事項を把握して授業に臨む。 事後学習 本時の学びを日常生活に活かすことを意識し、実践する。 				<ul style="list-style-type: none"> 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 メールでの質問も受け付ける。 メールアドレス 笠原賀子：kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp 			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 栄養科学NEXTシリーズ「栄養教育論 第4版」笠原賀子、斎藤トシ子編（講談社サイエンティフィック） 			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 予習・復習に積極的に臨むこと。 ロールプレイやディスカッションへ主体的に参加すること。 		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、資料を配布する 			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 毎回、グループ分けをしてロールプレイを実施するため、遅刻厳禁。 レポートは締切厳守のこと。 		

授業科目	臨床栄養管理学						
担当教員	白神 俊幸・川島 由起子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>臨床栄養学がなぜ大切なのか、どのような知識が必要なのか、臨床の現場で何が必要とされているのかなど、臨床栄養学を学ぶにあたっての心構えを学修する。総論として、臨床栄養の概念（意義と目的、医療・介護制度、医療・福祉・介護と臨床栄養）、傷病者・要介護者（要支援者）の栄養管理、栄養管理プロセス（栄養ケアプロセス）〔栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入（栄養ケアプラン）、栄養・食事療法と栄養補給法、栄養教育、栄養カウンセリング〕、モニタリングと（再）評価、食事・栄養成分と医薬品の相互作用について理解する。</p> <p>川島は、大学病院における臨床栄養管理の実務経験を有しており、事例を挙げながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p> <p>英語表記 「Clinical Nutrition I」</p>				<p>本講義では、臨床栄養学への導入に始まり、総論として、臨床栄養学の概念、傷病者・要介護者（要支援者）の栄養管理、栄養スクリーニング・アセスメント、栄養管理プロセス、食事・栄養成分と医薬品の相互作用について理解することを目標とする。</p> <p>臨床栄養学の基本、傷病者・要介護者（要支援者）の栄養管理、栄養スクリーニング・アセスメント、栄養管理プロセス、食事・栄養成分と医薬品の相互作用について説明できる。</p>			
キーワード	傷病者・要介護者、栄養管理、栄養スクリーニング・アセスメント、食事・栄養成分、医薬品						
教授方法	講義（毎回ランダムに質疑応答を実施） 小テスト時には、直後に質疑応答による復習を実施する。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（臨床栄養とは？～意義と目的～）（白神）						
2	医療・福祉・介護における臨床栄養と管理栄養士の役割（川島）						
3	医療制度・介護制度、診療報酬体系（川島）						
4	栄養スクリーニング、栄養アセスメント						
5	臨床検査値と栄養マーカーの読み方・考え方（白神）						
6	臨床兆候と栄養障害（白神）						
7	栄養補給法の選択、経口栄養法（川島）						
8	経腸栄養法、経静脈栄養法、モニタリング（川島）						
9	薬物の吸収・代謝・作用（白神）						
10	食事・栄養素と医薬品の相互作用（白神）						
11	傷病者・要介護者の栄養管理（川島）						
12	クリニカルパスと栄養管理プロセスの記録（川島）						
13	NSTと栄養サポート（川島）						
14	まとめ（白神）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。			小テスト	30	複数回実施し、その合計を30点分とする。
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。				オフィスアワーは、別途指示する。			
教科書・テキスト	竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・坂上浩 編 『栄養科学シリーズ NEXT 新・臨床栄養学』 講談社			受講生に望むこと	食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、基礎栄養学、人体機能（生理）学、生化学、応用栄養学等の内容と関連付けて考えること。		
参考書・参考資料等	適宜指示、または配布する。			その他・特記事項	小テストは、必ずすべて受けておくこと。 川島は、大学病院における臨床栄養管理の実務経験を有している。		

授業科目	臨床栄養管理学					
担当教員	白神 俊幸		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>疾患・病態別栄養管理の前編として、栄養・代謝・内分泌系疾患（栄養障害、肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）、甲状腺・副甲状腺・副腎等の機能亢進症・低下症）、消化器系疾患（口腔、食道、胃・十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の各疾患）、循環器系疾患（高血圧、動脈硬化症、脳心血管疾患）について理解する。特に、成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法をそれぞれ関連付けて理解する。</p> <p>英語表記 「Clinical Nutrition 」</p>			<p>本講義では、各論の病態別栄養管理の前編として、栄養・代謝・内分泌系疾患、消化器系疾患、循環器系疾患について、それぞれ成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法を関連付けて理解することを目標とする。</p> <p>。各種疾患における成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法について説明できる。</p>			
キーワード	各種疾患、病態、栄養アセスメント、栄養・食事療法					
教授方法	講義（毎回ランダムに質疑応答を実施） 小テスト時には、直後に質疑応答による復習を実施する。					
履修条件等	臨床栄養管理学 を修得済みであること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	栄養障害、ビタミン・ミネラルの欠乏と過剰、電解質異常					
2	肥満症、メタボリックシンドローム、糖尿病					
3	脂質異常症、高尿酸血症、痛風					
4	甲状腺、副甲状腺、副腎、下垂体の内分泌異常					
5	口内炎・舌炎、消化性潰瘍					
6	胃炎、胃食道逆流症					
7	胃切除後症候群					
8	炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）、たんぱく漏出性胃腸症					
9	下痢、便秘、過敏性腸症候群					
10	肝炎、肝硬変					
11	脂肪肝、アルコール性肝障害、非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）					
12	胆石症、胆のう炎、膵炎					
13	高血圧症、動脈硬化症、脳血管障害					
14	虚血性心疾患、心不全、妊娠高血圧症候群、まとめ					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。	小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。	
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。			オフィスパワーは、別途指示する。			
教科書・テキスト	竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・坂上浩 編 『栄養科学シリーズNEXT 新・臨床栄養学』 講談社（臨床栄養管理学 で購入済）		受講生に望むこと	食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、基礎栄養学、人体機能（生理）学、生化学、応用栄養学等の内容と関連付けて考えること。		
参考書・参考資料等	適宜指示、または配布する。		その他・特記事項	小テストは、必ずすべて受けておくこと。		

授業科目	臨床栄養管理学					
担当教員	白神 俊幸		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>疾患・病態別栄養管理の後編として、腎・尿路系疾患（腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、糖尿病性腎症、慢性腎臓病、透析）、精神・神経疾患（認知症、神経性食欲不振症・大食症等）、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、喘息、肺炎）、血液系疾患（貧血等）、筋・骨格系疾患（骨粗鬆症、サルコペニア等）、免疫・アレルギー疾患（食物アレルギー、自己免疫疾患等）、癌・術前術後、クリティカルケア、摂食機能障害、ライフステージ別の疾患について理解する。特に、成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法をそれぞれ関連付けて理解する。</p> <p>英語表記 「Clinical Nutrition」</p>			<p>本講義では、各論の病態別栄養管理の後編として、腎・尿路系疾患、精神・神経疾患、呼吸器疾患、血液系疾患、筋・骨格系疾患、免疫・アレルギー疾患、悪性腫瘍、術前・術後、クリティカルケア、ライフステージ別の疾患について、それぞれ成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法を関連付けて理解することを目標とする。</p> <p>各種疾患における成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法について説明できる。</p>			
キーワード	各種疾患、病態、栄養アセスメント、栄養・食事療法					
教授方法	講義（毎回ランダムに質疑応答を実施） 小テスト時には、直後に質疑応答による復習を実施する。					
履修条件等	臨床栄養管理学 を修得済みであること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	急性・慢性糸球体腎炎					
2	ネフローゼ症候群					
3	急性・慢性腎不全					
4	糖尿病性腎症、慢性腎臓病（CKD）					
5	尿路結石、血液透析、腹膜透析					
6	精神・神経疾患					
7	呼吸器疾患、血液系疾患					
8	筋・骨格系疾患					
9	v免疫・アレルギー疾患					
10	悪性腫瘍、術前・術後、クリティカルケア、摂食機能障害					
11	乳幼児・小児疾患（消化不良症、周期性嘔吐症、先天性代謝異常症）					
12	乳幼児・小児疾患（肥満、糖尿病、腎疾患）					
13	妊産婦疾患					
14	老年症候群、まとめ					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	60	定期試験とその他の評価を合わせて60点以上を合格とする。	小テスト	30	3回程度実施し、その合計を30点分とする。	
平常点	10	取り組み度を平常点として評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
講義内容の理解を深めるために、毎回事前学習として教科書を読んで分からない箇所を調べておき、事後学習として教科書と講義プリントを見直して知識を整理しておくこと。			オフィシアワーは、別途指示する。			
教科書・テキスト	竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・坂上浩 編 『栄養科学シリーズNEXT 新・臨床栄養学』 講談社（臨床栄養管理学 で購入済）		受講生に望むこと	食品学、臨床医学概論、人体構造（解剖）学、基礎栄養学、人体機能（生理）学、生化学、応用栄養学等の内容と関連付けて考えること。		
参考書・参考資料等	適宜指示、または配布する。		その他・特記事項	小テストは、必ずすべて受けておくこと。		

授業科目		臨床栄養管理学実習					
担当教員	川島 由起子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
臨床栄養管理学の基礎として、傷病者・要支援者に対する栄養管理を行うための栄養ケアプランに基づき、栄養介入に必要な栄養補給法、特に経口栄養法について理解する。モデル献立の調理実習を踏まえて、献立作成、作成献立の調理実習を通して、医療施設や介護施設で行われている知識や技術を習得する。				臨床栄養管理学の基礎として、傷病者・要支援者に対する栄養管理を行うための栄養ケアプランに基づき、栄養介入に必要な栄養補給法、特に経口栄養法について理解する。			
キーワード	栄養ケアプラン 一般治療食 特別治療食 展開食						
教授方法	個人及びグループによる実習（調理実習含む）						
履修条件等	臨床栄養管理学						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	オリエンテーション 実習の進め方、栄養ケアの概要、栄養介入、栄養補給法（経口栄養法）の選択、一般治療食・特別治療食の分類、常食献立からの展開食について						
2回	調理実習 / モデル献立 一般治療食 / 形態別：常食、軟菜食（全粥、5分粥、3分粥）の形態の違いを理解する。						
3回	献立作成 一般治療食の献立作成：常食の献立から、軟菜食（全粥、5分粥、3分粥）へ展開させ、献立を作成する。						
4回	調理実習 / 学生作成献立 各班で、3回目に作成した軟菜食（全粥、5分粥、3分粥）の献立から代表献立を選び、調理実習する。						
5回	調理実習 / モデル献立 特別治療食のエネルギー調整食を調理実習する。						
6回	献立作成 常食の献立から特別治療食のエネルギー調整食へ展開させ、献立を作成する。						
7回	調理実習 / 学生作成献立 各班で、6回目に作成した特別治療食のエネルギー調整食の献立から代表献立を選び、調理実習する。						
8回	調理実習 / モデル献立 特別治療食の脂質調整食（脂質20g）を調理実習する。						
9回	献立作成 常食の献立から特別治療食の脂質調整食（脂質20g）へ展開させ、献立を作成する。						
10回	調理実習 / 学生作成献立 各班で、9回目に作成した特別治療食の脂質調整食（脂質20g）の献立から代表献立を選び、調理実習する。						
11回	調理実習 / モデル献立 特別治療食のたんぱく質・塩分調整食で使われる治療用特殊食品を使った1品料理を調理実習し、その特徴を理解する。						
12回	調理実習 / モデル献立：腎臓病食品交換表第9版を使用 特別治療食のたんぱく質・塩分調整食を調理実習する。						
13回	献立作成 常食の献立から特別治療食たんぱく質・塩分調整食へ展開させ、献立を作成する。						
14回	調理実習 / 学生作成献立 各班で、13回目に作成したたんぱく質・塩分調整食の献立から代表献立を選び、調理実習する。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習への取り組み	50	実習班内での取り組み（積極性、協調性）、理解力		課題への取り組み	30	課題への理解、提出内容、提出時間、提出方法	
主体的態度	20	実習に主体的に取り組んでいるか否か					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
各実習内容に沿った臨床栄養管理学の理解、特に栄養療法について理解しておく。				授業時間内および時間外での対応可能			
教科書・テキスト	・臨床栄養管理学実習 傷病者の栄養管理プロセス演習 第6巻/医歯薬出版 ・糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編・著/日本糖尿病協会・文光堂 ・腎臓病食品交換表 治療食の基準 第9版/医歯薬出版			受講生に望むこと	各実習内容に沿った疾患の病態や病院食、食事療法を理解しておくこと		
参考書・参考資料等	・給食経営管理論実習/建帛社 ・給食経営管理論、 で使用の教科書			その他・特記事項	特になし		

授業科目		臨床栄養管理学実習					
担当教員	川島 由起子			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
臨床栄養管理実習 で習得した知識を踏まえ、臨床栄養管理学、で対応する各種病態やライフステージ別の栄養管理を行うための栄養ケアプランに基づき、栄養補給法（経口栄養法・経腸栄養法）について理解する。モデル献立の調理実習、献立作成（展開食・食品交換表）、作成献立の調理実習を通して、医療施設や介護施設で行われている知識や技術を習得する。				臨床栄養管理実習 で習得した知識を踏まえ、臨床栄養管理学、で対応する各種病態やライフステージ別の栄養管理を行うための栄養ケアプランに基づき、栄養補給法（経口栄養法・経腸栄養法）について理解する。			
キーワード	栄養ケアプラン 栄養補給法（経口栄養法・経腸栄養法） 特別治療食 摂食嚥下障害 頻回食						
教授方法	個人およびグループによる実習（調理実習含む）						
履修条件等	臨床栄養管理学、						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	オリエンテーション / 授業の進め方 糖尿病食品交換表の使い方について理解する。						
2回	献立作成（糖尿病食事療法のための食品交換表を使用） 常食の献立から特別治療食のエネルギー調整食（1,600kcal）へ展開させ、献立を作成する。						
3回	調理実習 / モデル献立（糖尿病食事療法のための食品交換表を使用） 糖尿病食事療法のための食品交換表記載の特別治療食エネルギー調整食（1,600kcal）を調理実習し、糖尿病食事療法について理解する。						
4回	調理実習 / 学生成成献立（糖尿病食事療法のための食品交換表を使用） 各班で、2回目に作成した特別治療食のエネルギー調整食の献立から代表献立を選び、調理実習する。						
5回	調理実習 / モデル献立（腎臓病食品交換表 長期透析療法） 腎臓病食品交換表記載の特別治療食たんぱく質・塩分調整食（長期透析療法）を調理実習し、長期透析療法について理解する。						
6回	献立作成（腎臓病食品交換表 長期透析療法を使用） 常食の献立から特別治療食のたんぱく質・塩分調整食（長期透析療法）へ展開させ、献立を作成する。						
7回	調理実習 / 学生成成献立（腎臓病食品交換表を使用） 各班で、6回目に作成した特別治療食のたんぱく質・塩分調整食（長期透析療法）の献立から代表献立を選び、調理実習する。						
8回	調理実習 / モデル献立（慢性閉塞性肺疾患:COPDの食品構成例を使用） COPDの食品構成例を使用した高エネルギー・高たんぱく質調整・頻回食を調理実習し、慢性閉塞性肺疾患食について理解する。						
9回	献立作成（慢性閉塞性肺疾患:COPDの食品構成例を使用） 常食の献立からCOPD食（高エネルギー・高たんぱく質調整・頻回食）へ展開させ、献立を作成する。						
10回	調理実習 / 学生成成献立（慢性閉塞性肺疾患:COPDの食品構成例を使用） 各班で、9回目に作成したCOPD食（高エネルギー・高たんぱく質調整・頻回食）の献立から代表献立を選び、調理実習する。						
11回	調理実習 / モデル献立（小児疾患 食物アレルギーの構成例を使用） 小児疾患 食物アレルギー（鶏卵・牛乳・小麦）食を調理実習し、食物アレルギー（鶏卵・牛乳・小麦）について理解する。						
12回	調理実習 / モデル献立（摂食嚥下障害） 摂食嚥下障害に対応する嚥下障害調整食を調理実習し、摂食嚥下障害について理解する。						
13回	調理実習 / モデル献立（経腸（経管）栄養法） 経腸栄養製品を試飲することにより、経腸（経管）栄養補給法について理解する。						
14回	臨床栄養管理学実習 のまとめを行う。						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習への取り組み	50	学習班内での取り組み方（積極性、協調性）			課題への取り組み	30	課題への理解、提出内容、提出期日、提出方法
主体的態度	20	主体的に取り組んでいるか否か					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
臨床栄養管理学、を理解しておく				授業時間内および時間外			
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 臨床栄養管理学実習 傷病者の栄養管理プロセス / 建帛社 糖尿病療養のための糖尿病食品交換表第7版 日本糖尿病学会編・著 / 日本糖尿病協会・文光堂 腎臓病食品交換表第9版治療食の基準 / 医歯薬出版 			受講生に望むこと	各実習内容に沿った臨床栄養管理学、の栄養療法を理解しておく。		
参考書・参考資料等	給食経営管理論実習 建帛社			その他・特記事項	料理本などを参考に、アレンジすることも可能		

授業科目		臨床栄養管理学演習					
担当教員	川島 由起子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
臨床栄養管理学実習、および臨床栄養管理実習で習得した知識を踏まえ、医療施設で実施されている栄養管理を行うために必要な「栄養ケア・マネジメント」「栄養ケアプロセス」の実際について理解する。各疾患の症例を題材として栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入（計画と実施）、栄養モニタリング・評価、アウトカム管理システム、栄養食事指導の知識や技術を習得する。				臨床栄養管理学実習、および臨床栄養管理実習で習得した知識を踏まえ、医療施設で実施されている栄養管理を行うために必要な「栄養ケア・マネジメント」「栄養ケアプロセス」の実際について理解する。			
キーワード	栄養ケア・マネジメント 栄養ケアプロセス 栄養評価 栄養診断 栄養介入 栄養モニタリング・評価 アウトカム管理システム						
教授方法	個人およびグループによる実習						
履修条件等	臨床栄養管理学						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	オリエンテーション 授業の進め方 栄養ケア・マネジメント 栄養ケアプロセスの概要						
2回	栄養評価/食事調査のロールプレイ(2名/組) 聴き取りによる(24時間思い出し法・食事摂取状況調査票) 食事調査・・・栄養摂取量の算出						
3回	栄養評価/身体計測(2名/組)/ビデオ視聴 身体計測:器具・機器を用いた身体計測を行い、測定部位、測定方法について理解する。						
4回	栄養評価/身体計測(2名/組)測定方法の確認 身体計測:器具・機器を用いた身体計測を行い、測定部位、測定方法について理解する。						
5回	栄養管理記録の作成/メタボリックシンドロームの栄養管理 問題志向型システム(POS)の活用						
6回	栄養管理記録の作成/糖尿病の栄養管理 問題志向型システム(POS)の活用						
7回	栄養管理記録の作成/低栄養・褥瘡の栄養管理 問題志向型システム(POS)の活用						
8回	食事調査・栄養管理記録の作成 24時間思い出し法・食事摂取状況調査法						
9回	高齢者の栄養ケアマネジメント/高齢者疑似体験 まなび体(高齢者用)を用いた疑似体験を行い、高齢者への対応について考察する。						
10回	栄養食事指導/ロールプレイ 2名/組 栄養食事指導の進め方、食事調査、身体計測、臨床検査、臨床診査の使い方を理解する。						
11回	栄養管理記録の作成 問題志向型システム(POS)の活用						
12回	栄養食事指導/ロールプレイ 2名/組 演習症例の栄養診断・PES報告の作成						
13回	栄養食事指導/ロールプレイ 2名/組 演習症例の聴き取り、栄養診断・P E S 報告の作成						
14回	演習のまとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
演習への取り組み	50	演習班内での取り組み(積極性、協調性)		課題への取り組み	30	課題に対する理解、提出内容、提出方法、提出期日、提出方法	
主体的態度	20	演習に主体的に取り組んでいるか否か					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
臨床栄養管理学、を理解しておく。				授業時間内および時間外			
教科書・テキスト	・臨床栄養管理実習 傷病者の栄養管理プロセス/医歯薬出版 ・糖尿病食糧法のための食品交換表/文光堂			受講生に望むこと	演習内容に沿った臨床栄養管理学、の栄養療法を理解しておく。		
参考書・参考資料等	各種疾患のガイドライン(最新版) 臨床栄養管理学の教科書			その他・特記事項	カウンセリング演習で学んだことを活かして行う		

授業科目		公衆栄養学					
担当教員	草間 かおる			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>国・地域レベルでの健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した栄養政策について理解する。地域や集団の健康・栄養問題の現状と課題の理解として、国民健康・栄養調査結果、食育に関する意識調査などから国民の健康状態、食生活、食環境について学修する。さらに健康・栄養問題解決の方向に向けた健康・栄養政策として、管理栄養士・栄養士制度、行政栄養士の役割、健康増進、食育および関連法規を理解する。担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>				<p>公衆栄養学の意義と目的について説明できる。 日本や諸外国の健康・栄養問題について説明できる。 日本や諸外国の健康・栄養政策について説明できる。</p>			
キーワード	公衆栄養、健康・栄養問題、栄養政策						
教授方法	講義および小グループによる演習						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 公衆栄養学の概念						
2	健康・栄養問題の現状と課題 (1) 国民健康・栄養調査結果						
3	健康・栄養問題の現状と課題 (2) 健康状態の変化						
4	健康・栄養問題の現状と課題 (3) 食事・食生活の変化						
5	健康・栄養問題の現状と課題 (4) 食環境の変化						
6	健康・栄養問題の現状と課題 (5) 世界が直面する健康・栄養問題						
7	健康づくり施策と公衆栄養活動 (1) 公衆栄養活動の歴史、管理栄養士・栄養士制度						
8	健康づくり施策と公衆栄養活動 (2) 地域保健法と地域における栄養・食生活の改善の基本指針						
9	健康づくり施策と公衆栄養活動 (3) 食生活指針と食事バランスガイド						
10	健康づくり施策と公衆栄養活動 (4) 食育基本法と食育推進基本計画						
11	健康づくり施策と公衆栄養活動 (5) 健康増進法と健康増進計画						
12	健康づくり施策と公衆栄養活動 (6) 生活習慣病対策と特定健康診査・特定保健指導						
13	健康づくり施策と公衆栄養活動 (7) 母子保健法と母子保健事業						
14	健康づくり施策と公衆栄養活動 (7) 母子保健法と母子保健事業						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	到達目標が達成できたか		小テスト・課題	30	知識の理解度	
上記以外の授業評価	20	授業への積極的な参加状況、課題の提出状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された事前課題に取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス：kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	社団法人全国栄養士養成施設協会・公益財団法人日本栄養士会監修、井上浩一、草間かおる、村山伸子著：サクセス管理栄養士講座教科書・公衆栄養学。第一出版株式会社			受講生に望むこと	積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。		
参考書・参考資料等	授業内で随時知らせる。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。		

授業科目	公衆栄養学						
担当教員	草間 かおる			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>地域社会の健康・栄養問題の解決に向けて、関係者や関係機関の横断的な連携・協働を促し、地域の状況に即した計画の立案、実践、評価、フィードバックを行うために必要な一連のマネジメントについて学修する。具体的には、地域診断、プログラムの課題抽出、目標設定、計画策定、事業計画作成、プログラムの実施、評価を学修する。また地域における健康・栄養活動の実践と展開として、母子保健、危機管理と食支援、食環境整備、介護予防支援についても学修する。担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>				<p>公衆栄養マネジメントについて説明できる。 公衆栄養プログラム計画で目標設定ができる。 地域の健康・栄養活動の実践と展開について説明できる。</p>			
キーワード	公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラム、食環境整備						
教授方法	講義および小グループによる演習						
履修条件等	公衆栄養学 を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション・地域における健康・栄養・食生活改善活動事例から学ぶ						
2	公衆栄養マネジメントとは						
3	公衆栄養マネジメント（１） アセスメント・地域診断						
4	公衆栄養マネジメント（２） プログラムの課題抽出						
5	公衆栄養マネジメント（３） プログラムの目標設定						
6	公衆栄養マネジメント（４） プログラムの計画策定						
7	公衆栄養マネジメント（５） プログラムの事業計画作成						
8	公衆栄養マネジメント（６） プログラムの実施						
9	公衆栄養マネジメント（７） プログラムの評価						
10	食事摂取基準の地域集団への活用						
11	地域における健康・栄養活動の実践と展開（１） 母子保健						
12	地域における健康・栄養活動の実践と展開（２） 危機管理と食支援						
13	地域における健康・栄養活動の実践と展開（３） 食環境整備						
14	地域における健康・栄養活動の実践と展開（４） 介護予防支援						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標が達成できたかどうか			課題	20	丁寧に取り組んでいるか、わかりやすいか、論理的か
上記以外の授業評価	20	授業への積極的な参加状況、課題の提出状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された事前課題に取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス：kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	公衆栄養学 に同じ。			受講生に望むこと	積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。		
参考書・参考資料等	授業において随時知らせる。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。		

授業科目		公衆栄養学実習					
担当教員	草間 かおる			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
公衆栄養学 および公衆栄養学 等において学んだことを基盤として、実践への展開（臨地実習）のための具体的な技能や姿勢を身に付ける。食事調査に関わる技能の修得と地域集団の評価を目的とした解析（食事摂取基準の活用を含む）、地域における健康・栄養に関する計画の立案などを中心に、グループ演習、発表（口頭、レポート）等を通して学修する。				国民健康・栄養調査方式の食事調査（調査員として）を理解し、実際に行動することができる。集団の食事摂取量データを適切に処理・解析することができる。地域における健康・栄養活動計画が立てられる。			
キーワード	食事調査、地域診断、事業計画						
教授方法	パソコン演習、グループ演習、口頭発表						
履修条件等	食事調査法、栄養疫学、公衆栄養学 および を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション / 保健統計情報の収集						
2	管轄市町村の地域診断						
3	質問票調査の企画・設計						
4	コード化のための食品成分表の活用						
5	食事記録法による記録票（例）のコード化練習						
6	食事調査の確認面接とコード化および栄養計算						
7	データ処理と分析方法						
8	食事記録法による記録票データのエラーチェック						
9	食事摂取基準による栄養素等の摂取量の評価						
10	集団の摂取量データを用いた分析						
11	優先課題の検討						
12	事業計画作成（目標・評価含む）						
13	対象者及び関係者・関係機関などへの説明（発表）						
14	まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題	30	丁寧に取り組んでいるか、わかりやすいか、論理的か		口頭試問	50	公衆栄養学分野の知識の理解度	
上記以外の授業評価	20	授業への積極的な参加状況、課題の提出状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された事前課題（食事調査等）に取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス：kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	鈴木三枝、中谷弥栄子編、公衆栄養学実習、第一出版			受講生に望むこと	積極的に課題やグループワークに取り組むこと。事前課題は必ず取り組んでくること。		
参考書・参考資料等	授業において随時知らせる。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。		

授業科目		給食経営管理論					
担当教員	松崎 政三			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>特定給食施設の意義、特定給食における関連法規、特定給食施設の対象者別、経営形態別、規模や食事回数などの給食施設の特性を理解し、給食施設の目標に沿った栄養・食事計画、栄養アセスメント、給与目標栄養量の設定などの計画立案と評価などの運営方法について学習する</p>				<p>給食運営や給食の提供に関わる資源を総合的に判断し、評価して安全面、栄養面、経済面など全般的なマネジメントを行う実践能力を養い、特定給食施設の栄養・食事管理と経営管理を学ぶ。</p>			
キーワード	特定給食施設 マネジメント 栄養管理						
教授方法	給食経営管理の教科書を中心に現場で実践している帳票を使い事例などを紹介して、現場に対応出来る実践的な知識を修得する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	特定給食における関連法規、その他、業務に関連する法規、医療、保健、福祉、教育に関する法規について、給食施設と関係する監督官庁について解説する。						
2回	管理栄養士が活躍する場はどのような施設があるか。給食の概念、病院医療施設などの管理栄養士の役割と業務について解説する。						
3回	管理栄養士が活躍する場はどのような施設があるのか。給食の概念、高齢者介護福祉施設などの管理栄養士の業務について解説する。						
4回	管理栄養士が活躍する場はどのような施設があるか。給食の概念、学校給食施設などの管理栄養士の業務について解説する。						
5回	管理栄養士が活躍する場はどのような施設があるか。給食の概念、事業所給食施設などの管理栄養士の業務について解説する。						
6回	特定給食施設における給食経営管理の概要について、給食業務全般を理解し給食における資源の管理、マーケティングの役割。経営管理と組織について解説する。						
7回	PDCAサイクルに基づいた栄養・食事管理の基礎を学ぶ。給食の内容を示す献立がどのように作成されているのか、給食施設における食事提供では、2020年日本人の食事摂取基準に基づいた給与栄養目標量を算定し、献立作成にどのように活用するのかについて解説する。						
8回	PDCAサイクルに基づいた栄養・食事管理の基礎を学ぶ。給食の内容を示す献立がどのように作成されているのか、給食施設における食事提供では、2020年日本人の食事摂取基準に基づいた給与栄養目標量を算定し、献立作成にどのように活用される						
9回	栄養・食事管理は、利用者のアセスメントに基づいた栄養計画を作成し、給食施設のシステムの中で具体的な食事計画に従って行う。食品構成表、食品群別荷重平均成分表、献立作成について学ぶ。						
10回	栄養・食事管理は、利用者のアセスメントに基づいた栄養計画を作成し、給食施設のシステムの中で具体的な食事計画に従って行う。食品構成表、食品群別荷重平均成分表、献立作成について学ぶ。						
11回	栄養・食事管理は、利用者のアセスメントに基づいた栄養計画を作成し、給食施設のシステムの中で具体的な食事計画に従って行う。食品構成表、食品群別荷重平均成分表、献立作成について学ぶ。						
12回	給食の品質とは何を指すのか、その定義や種類を理解した上で、品質はどのような基準で評価されるべきなのか、規格基準などについて具体的に解説する。						
13回	食材料管理のポイントは、必要なときに、必要なものを、必要な量を、適正な価格で購入し、適切に保管し、無駄なく使用することである。その手法について解説する。						
14回	授業全体についてまとめをする。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
テスト	100	授業内容の理解度、目標達成度を評価する。		テスト	100	授業内容の理解度、目標達成度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
シラバスに従い事前学習をする。				授業のはじめと終わりに質問時間を設ける。			
教科書・テキスト	Nブックス給食経営管理論 第5版 編著 松崎政三その他 建帛社 給食経営管理用語辞典 日本給食経営管理学会編 第一出版 日本人の食事摂取基準（2020年）の運用・実践 第一出版			受講生に望むこと	管理栄養士を目指す学生にとって実践的な授業となり、給食経営管理は栄養管理と並ぶ管理栄養士の業務の柱の1つです。前向きに取り組んでほしいと思います。		
参考書・参考資料等	映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス 編著 松崎政三 その他 学際企画			その他・特記事項	なし		

授業科目		給食経営管理論					
担当教員	松崎 政三			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>特定給食施設運営について、生産管理、大量調理の特性、生産工程における標準化と管理を学ぶ。衛生管理については、大量調理施設管理マニュアルに基づく安全、食中毒予防、発生時対応など給食施設における給食運営、計画、実施、評価まで学ぶ。</p>				<p>給食運営や資源、食品流通の状況を把握し、給食提供に関わる組織や経費を総合的に判断し、安全面、栄養面、経済面等全般的なマネジメントを行う実践的な能力を養う。本講義では生産管理、大量調理による食事計画・栄養管理・衛生管理を中心とした給食サービスのための基礎的な知識を学ぶ。</p>			
キーワード	特定給食施設 マネジメント 栄養管理						
教授方法	給食経営管理の教科書を中心に現場で実践している帳票を使い事例などを紹介して、現場に対応出来る実践的な知識を修得する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	生産管理は予定献立により示された品質を、喫食者に効率よく安全・衛生性に留意して給食を提供する業務である。その生産システムについて解説する。						
2回	集団給食においても給食のサービス方法は変遷を遂げている。適時・適温で配食・配膳する特徴について解説する。						
3回	給食の安全・衛生管理とは、給食施設内の事故や災害などの発生を防止し、給食従業員が安全に業務を行えることである。給食運営の安全・衛生管理について解説する。						
4回	衛生管理についてHACCPに基づく衛生管理について事例を挙げて解説する。						
5回	給食施設における施設・整備管理について解説する。						
6回	給食運営における事務管理について、必要な帳票類、取り扱い、保管管理について解説する。						
7回	献立立案について、集団給食施設における献立の種類、安全面、栄養面、経済面を考慮した献立作成の方法を解説する。						
8回	マネジメントの階層と役割について、また、マネジメントに求められる能力、5つのマネジメント機能について解説する。						
9回	給食管理におけるトータルシステムと機能単位で分割されたサブシステムについて解説する。						
10回	マネジメントの目的は、組織目標の達成に向けて経営資源の有効活用とその運用の効率化にある。マネジメントの理論とリーダーシップについて解説する。						
11回	マネジメントの目的は、組織目標の達成に向けて経営資源の有効活用とその運用の効率化にある。マネジメントの理論とリーダーシップについて解説する。						
12回	マーケティングは事業戦略に欠かせない重要な項目である。マーケティングの原理、種類と特徴について、給食におけるマーケティングの活用について解説する。						
13回	危機管理対策は給食を安全・安心に運営するためには重要な対策である。リスクマネジメントについて解説する。						
14回	まとめ						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
テスト	100	授業内容の理解度、目標達成度を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
シラバスに従い事前学習を行う				授業のはじめと終わりに質問時間を設ける			
教科書・テキスト	Nブックス給食経営管理論 第5版 編著 松崎政三他 建帛社 給食経営管理用語辞典 日本給食経営管理学会編 第一出版 日本人の食事摂取基準（2020年）の実践・運用 第一出版			受講生に望むこと	管理栄養士を目指す学生にとって実践的な授業となり、給食経営管理は栄養管理と並ぶ管理栄養士の業務の1つの柱です。前向きに取り組んでほしいと思います。		
参考書・参考資料等	映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス 編著 松崎政三 その他 学際企画			その他・特記事項	なし		

授業科目		食事設計論					
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
年齢、性別、身体および栄養状態の異なる個人や集団を対象に、目的に応じて適切な食事設計を行い、管理栄養士の関わる給食経営において、食事設計に必要な事項を専門的に深め、実践することを目的とする。食事設計の目的、給与栄養目標量の設定、食品構成表、献立と作業指示書の作成、食事の提供および食事環境の整備、評価の具体的方法、食事摂取基準および食品成分表の活用方法を学修する。				<p>ねらい 食事摂取基準、食品成分表の活用方法、食事設計の目的、給与栄養目標量の設定、食品構成表・献立表の作成など基礎的な知識と技術を修得し、個々に応じた適切な食事設計ができる力を養う。また、計画に基づき実施、評価・検討するために必要な基本的事項を理解し、実践につなげる力を養う。</p> <p>到達目標 給与栄養目標量、喫食者の嗜好等をふまえ、給食の条件に応じた食品構成と献立および作業指示書を作成できる。 対象者の栄養評価に基づいた食事管理の目標について説明できる。 食事摂取基準を活用して、個人および特定給食施設の給与栄養目標量を決定する方法を説明できる。 食環境整備における給食の意義とその機能を説明し、具体的な方法を説明できる。 ライフステージ別（給食施設別）の食事計画や具体的な調理特性を概説できる。</p>			
キーワード	栄養計画、献立計画、給食						
教授方法	教科書および配布資料を用いて講義形式で行う。授業内容に応じて、個人またはグループに分かれて献立作成課題に取り組む。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	食事設計の目的						
2	食事摂取基準の活用による個人を対象とした栄養計画						
3	食事摂取基準の活用による個人を対象とした栄養計画						
4	食事摂取基準の活用による個人を対象とした栄養計画						
5	食事摂取基準の活用による集団を対象とした栄養・食事計画						
6	食事摂取基準の活用による集団を対象とした栄養・食事計画						
7	食事摂取基準の活用による集団を対象とした栄養・食事計画						
8	食事設計における食品構成の役割と作成方法						
9	献立作成の実際						
10	献立作成の実際						
11	献立作成の実際						
12	献立作成の実際 食事設計の評価						
13	対象者のライフステージ、特定給食施設の種類に応じた食事設計						
14	対象者のライフステージ、特定給食施設の種類に応じた食事設計						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	基礎知識の理解度に応じて評価する。			小テスト	20	小テストを行い、理解度に応じて評価する。
提出課題	10	課題の提出状況に応じて評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題に取り組む。				授業のはじめに、前時の講義内容に関する質疑応答をおこなう。			
教科書・テキスト	給食経営管理論実習，石田裕実他，建帛社，2018 新版 給食経営管理論，岩井達他，建帛社，2020			受講生に望むこと	分からない点や疑問点は授業毎に解決する。		

<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>日本人の食事摂取基準（2020年版）の実践・運用，食事摂取基準の実践・運用を考える会，第一出版，2020 日本人の食事摂取基準（2020年版），伊藤 貞嘉、佐々木 敏監修，第一出版，2020 給食経営管理用語辞典，日本給食経営管理学会監修，第一出版，2020 調理のためのベーシックデータ第5版，松本 仲子，女子栄養大学出版部，2018 その他、授業中に適宜、参考書を紹介する。</p>	<p>その他・ 特記事項</p>	<p>特異になし</p>
-----------------------	--	----------------------	--------------

授業科目	給食経営管理実習						
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>PDCAサイクルに基づく給食の全体業務を理解し、給食経営を総合的にマネジメントできる基本的知識と技術を獲得する。給食経営管理論・、その他各分野で学習した理論を応用し、給食の計画・実施・評価に至る一切の業務を学生が主体的に実践する。グループは調理、配膳、食堂、洗浄班に分かれ、給食のテーマに基づき班ごとに給食を計画し、調理班の給食計画に基づき、給食を生産、喫食、評価する。</p>				<p>ねらい 給食経営管理論・、その他各分野で学習した理論を応用し、給食の計画・実施・評価に至る一連の業務を学生が主体的に実践することにより、PDCAサイクルに基づく給食経営の全体業務を理解する。また、給食施設のレイアウト、大量調理機器の特徴や扱い方、大量調理や衛生管理の手法を理解し、安全・衛生的に給食を実施できる技術を体得する。</p> <p>到達目標 「給食の運営」の評価のために必要なデータ収集と帳票の作成ができる。 献立と食数に応じた食材料の発注・購入・検収・保管ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好等をふまえ、給食の条件（設備、食材料費、調理従事者の技術と人数）に応じた食品構成の立案、期間献立の作成ができる。 摂取量を把握し、食事計画の改善案を作成できる。 衛生管理の方法を理解し、実施とその記録（帳票管理）が作成できる。 設備条件および献立に応じた重要管理点（critical control point; CCP）の設定と管理ができる。 定められた作業区域・時間・作業人員内で献立内容と食数（100食以上）に応じた調理作業を計画できる。 生産および提供サービスにおける品質管理ができる。 給食施設の種類の給食経営管理の特徴を理解し、運営計画を立てることができる。 給食施設の種類の栄養管理の特徴を理解し、食事提供ができる。</p>			
キーワード	給食経営管理、大量調理、衛生管理						
教授方法	実習形式で実施する。グループに分かれ、給食の対象者・テーマに応じた給食計画を立案し、学内給食施設において生産、喫食、評価を行う。食事設計論で実施した内容を踏まえて進める。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、栄養・献立計画						
2	栄養・献立計画						
3	栄養・献立計画						
4	栄養・献立計画						
5	計画に基づく給食の実施						
6	計画に基づく給食の実施						
7	計画に基づく給食の実施						
8	計画に基づく給食の実施						
9	評価・検討（前半）・計画						
10	計画に基づく給食の実施						
11	計画に基づく給食の実施						
12	計画に基づく給食の実施						
13	計画に基づく給食の実施						
14	評価・検討（後半）、報告会						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	60	実習記録（帳票類）40%、課題20%			上記以外の授業評価	40	実習への参加態度30%、報告会での発表・討論10%
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
情報収集、帳票類の記録、資料作成				実習のおわりに、前時および当日の実習内容に関する質問や意見を受けつける。			

教科書・ テキスト	給食経営管理論実習，石田裕実他，建帛社，2018	受講生に 望むこと	給食経営管理論 ・ 、食事設計論の内容を復習し ておく。 大量調理施設衛生管理マニユア ルを復習しておく。 主体的に取り組む。
参考書・ 参考資料等	Nブックス給食経営管理論 第5版，君羅満 他，建帛社，2015 改訂新版大量調理 第5版，殿塚婦美子 他，学建書院，2020 給食経営管理用語辞典 第2版，日本給食経営管理学会編，第一出版， 2015 イラストでみるはじめての大量調理，殿塚婦美子 他，学建書院 ，2014 調理のためのベーシックデータ第5版，松本 仲子，女子栄養大学出 版部，2018	その他・ 特記事項	特になし

授業科目	給食経営管理実習						
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
給食経営管理に関わる一連の業務を学生が主体的に実践することにより、PDCAサイクルに基づく給食経営の総合的マネジメント能力と技術を体得する。給食経営管理論実習で獲得した基本的知識と技術を応用し、想定給食施設に応じた給食を計画し、学内の教職員や学生を対象に提供サービス業務を行う。対象集団の特性を理解した給食の提供について、高度な実践力と、臨機応変に対応できる応用力を涵養する。喫食者に対して給食を媒体とした栄養教育を行う。給食利用者からの評価をもとに、喫食者の満足のいく給食のあり方、給食サービスの方法について考察する。				定められた作業区域・時間・作業人員内で献立内容と食数（100食以上）に応じた調理作業を計画し実施できる。モデル施設の対象集団および経営資源に合わせた給食の計画、生産・提供、評価（判定）のサイクルを一巡することができる。顧客管理（サービスと情報提供）ができる。給食施設の想定条件に応じて、給食の目的、目標を理解するためにマーケティングの手法を用いた分析、給食運営に関わる費用分析ができる。基本食から目的に応じた献立展開ができ、複数の食種の生産管理と品質管理の計画ができる。			
キーワード	給食経営管理、大量調理、衛生管理						
教授方法	実習形式で実施する。グループに分かれ、給食の対象者・テーマに応じた給食計画を立案し、学内給食施設において給食を生産、提供する。						
履修条件等	給食経営管理実習 を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 栄養・献立計画						
2	栄養・献立計画						
3	栄養・献立計画						
4	計画に基づく給食の実施						
5	計画に基づく給食の実施						
6	計画に基づく給食の実施						
7	計画に基づく給食の実施						
8	評価・検討・報告会						
9	栄養・献立計画						
10	計画に基づく給食の実施						
11	計画に基づく給食の実施						
12	計画に基づく給食の実施						
13	計画に基づく給食の実施						
14	評価・検討・報告会						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習態度	60%	実習態度、取り組み状況を評価する。			授業レポート	40%	帳票類、課題の内容と提出状況を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
帳票類の記録、資料作成				実習のおわりに、前時および当日の実習内容に関する質問や意見を受けつける。			
教科書・テキスト	給食経営管理論実習、石田裕実他、建帛社、2018			受講生に望むこと	主体的に取り組む。		
参考書・参考資料等	Nブックス給食経営管理論 第5版、君羅満 他、建帛社、2015 改訂新版大量調理 第5版、殿塚婦美子 他、学建書院、2020 給食経営管理用語辞典 第2版、日本給食経営管理学会編、第一出版、2015 イラストでみるはじめての大量調理、殿塚婦美子 他、学建書院、2014 調理のためのベーシックデータ第5版、松本 伸子、女子栄養大学出版部、2018			その他・特記事項	特になし		

授業科目	総合演習				
担当教員	中澤 弥子・石井 陽子・稲山 貴代・川島 由起子・	必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習
対象学生	食健康	関連資格		備考	科目ナバリング
授業の概要			到達目標		
<p>管理栄養士として必要な基本的知識の整理、統合を目指し、4年間の学修の総まとめを行う。そのため、設定したテーマに沿って各分野から分析・考察を行うことにより、対象者に応じた栄養評価・管理を行うための知識・技術を習得する。さらに、新しい法制度やガイドライン等、最新の知識を学修することにより、実践的な応用力を高める。また、新しい法制度やガイドラインについても重点的に取り上げ、最新の知識を補足して理解を深める。 英語表記「Comprehensive Seminar」</p>			<p>食健康学科の各分野で学んできた内容を縦横にわたって復習することにより、獲得してきた知識を深化・定着させ、管理栄養士になるための力を身につける。 社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、および給食経営管理論の各分野の内容を、管理栄養士になるために必要な水準で理解する。</p>		
キーワード	基本的知識の整理と統合、学修の総まとめ、実践的応用力				
教授方法	演習				
履修条件等	特になし。				
授業計画					
実施回	授業内容				
1	食品学のまとめと最新動向（担当：小木曾）				
2	調理学、給食経営管理論のまとめと最新動向（担当：中澤・上延）				
3	食品衛生学、調理学、給食経営管理論のまとめと応用（担当：小木曾・中澤・上延）				
4	基礎栄養学のまとめと最新動向（担当：白神）				
5	応用栄養学（食事摂取基準を含む）のまとめと最新動向（担当：稲山）				
6	基礎栄養学、応用栄養学（食事摂取基準を含む）のまとめと応用（担当：白神・稲山）				
7	解剖学、生理学のまとめと最新動向（担当：石井）				
8	生化学のまとめと最新動向（担当：杉山）				
9	臨床栄養学のまとめと最新動向（担当：川島）				
10	解剖学、生理学、生化学、臨床栄養学のまとめと応用（担当：石井・杉山・川島）				
11	公衆栄養学のまとめと最新動向（担当：草間）				
12	栄養教育論のまとめと最新動向（担当：新保）				
13	公衆栄養学、栄養教育論のまとめと応用（担当：草間・新保）				
14	全体のまとめと応用（担当：中澤他 担当教員）				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60	管理栄養士として必要な各分野の基本的知識、重要事項、最新の知識について理解しているか、また、各分野の知識を統合し、実践的な応用力を修得して	小テスト・レポート	40	毎回の授業の中で確認、整理した各分野の基本的知識や重要事項について正しく理解しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
各担当者から提示された課題に各自取り組む。			オムニバス形式であるため、質問や相談等は担当者ごとに原則として授業中や授業の前後に受け付ける。やむを得ない場合は、担当者へのメールで受け付ける。		
教科書・テキスト	特になし。		受講生に望むこと	主体的に問題意識をもって授業に取り組むこと。	
参考書・参考資料等	特になし。		その他・特記事項	オムニバス方式・共同（一部）	

授業科目	臨地実習（学校給食センター）						
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>学校給食センターにおいて、栄養食事管理、食材管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理、原価管理、事務管理等の給食経営管理に関わる実務の実際を体験し学修する。また、組織管理等マネジメントの基本的な考え方や方法、給食従事者の役割やコミュニケーションの取り方などを学修するとともに、給食の関連資源を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。</p>				<p>ねらい：給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。また、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。</p> <p>到達目標</p> <p>管理栄養士の使命や役割、協働する関連職種との関わりを説明できる。 協働する関連職種を例挙し、それぞれの役割を説明できる。 社会人として適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀について、実践できる。 HACCP システム等に基づく大量調理の理論と実際に食事が提供されるまでの一連のプロセスを理解できる。 業務日誌、報告書作成等の基本事項を理解し、作成できる。 学校における食育の一環としての給食の意義、目的等を説明できる。 子どもの発育段階に応じた栄養介入のための献立作成ができる。</p>			
キーワード	給食の運営、大量調理、学校給食、給食経営管理						
教授方法	学校給食センターにおいて、グループごとに実習を行う。						
履修条件等	給食経営管理論 ・ 、給食経営管理実習 ・ 、食事設計論、食事摂取基準の単位を修得していること（一部見込み含む）。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	実習施設の概要						
3	実習課題の計画						
4	実習施設での課題への取り組み1						
5	実習施設での課題への取り組み2						
6	実習施設での課題への取り組み3						
7	実習施設での課題への取り組み4						
8	実習施設での課題への取り組み5						
9	実習施設での課題への取り組み6						
10	実習施設での課題への取り組み7						
11	実習施設での課題への取り組み8						
12	まとめ・自己評価						
13	実習報告会1						
14	実習報告会2						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	30%	実習先および実習課題に関する事前学習（15%）、実習の事後学習（15%）		上記以外の授業評価	70%	実習先からの評価（30%）、巡回指導教員からの評価（20%）、報告会での発表・討論（20%）	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題に取り組む。				実習事前事後指導の時間に質問や意見を受けつける。			
教科書・テキスト	管理栄養士・栄養士になるための国語表現、田上 貞一郎、萌文書林(2017)			受講生に望むこと	主体的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	臨地実習（病院）				
担当教員	川島 由起子・白神 俊幸		必修・選択	必修	単位数 2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習 科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
医療施設において管理栄養士等の指導・監督のもと、医療における栄養ケアマネジメントを理解し、症例検討をとおして、栄養ケアに関わる知識・技術を体験することにより、医療現場の管理栄養士の専門性を学ぶ。また、NSTや褥瘡回診、カフアルシ等に参加し、多職種とのコミュニケーションや他職種連携による栄養ケアについて理解する。			臨床現場における管理栄養士の業務を観察・体験することにより、医療における栄養ケアマネジメントを理解し、管理栄養士の役割および対象者に適した栄養管理の意義や方法を学ぶ。現場の業務を一つのシステムとして理解し、栄養管理と給食管理の相互関係、各種疾患の食事療法、栄養補給法、栄養・食品と薬剤の相互作用、栄養食事指導等の方法を学習し、それぞれの業務が果たす役割と機能を理解する。		
キーワード	医療施設 栄養ケアマネジメント 栄養食事指導 チーム医療 多職種連携				
教授方法	臨地実習事前・事後指導 医療施設における管理栄養士等による講義・実践				
履修条件等	臨床栄養管理学、給食経営管理論、栄養教育論				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1回	医療施設の概要 現場における基本的な態度 実習内容の説明等				
2回	医療施設における管理栄養士その他スタッフの役割について解説				
3回	他職種連携、チーム医療について解説				
4回	給食管理の実際				
5回	栄養管理の実際				
6回	栄養管理の実際				
7回	栄養管理の実際				
8回	栄養管理の実際				
9回	栄養管理の実際				
10回	栄養管理の実際				
11回	栄養管理の実際				
12回	栄養管理の実際				
13回	栄養管理の実際				
14回	栄養管理の実際				
共通の成績評価基準					
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
実習の出席状況	80	医療施設の管理栄養士による評価	臨地実習ノート	10	自己評価も含め総合的に評価する
実習への取り組み	10	医療施設の管理栄養士による評価			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
臨床栄養管理学、給食経営管理論、栄養教育論、事前・事後指導			臨地実習ノートに記載の大学担当者の連絡先で対応		
教科書・テキスト	臨床栄養管理学、給食経営管理論、栄養教育論関連の教科書		受講生に望むこと	医療現場における栄養管理と給食管理の相互関係の実際を観察・体験し、その連携方法について理解すること	
参考書・参考資料等	施設からの配布資料		その他・特記事項	実習期間が長いので、体調管理に十分注意すること	

授業科目	臨地実習（保健所）					
担当教員	草間 かおる		必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2・3学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>保健所または保健センターなどにおいて、地域におけるQOLの向上や健康状態の改善を考えた公衆栄養活動や栄養改善事業を理解し、管理栄養士の役割および業務について実習する。また、栄養・食生活情報を収集・分析し、総合的な評価・判定について学ぶ。担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>			<p>地域等の健康・栄養問題およびそれらを取り巻く要因を説明できる。地域診断（地域等の健康・栄養問題の把握）の方法を説明できる。地域の栄養プログラム等について、関連する健康・栄養問題や法的根拠を説明できる。地域の栄養プログラム等の計画・実施・評価がどのように行われているか説明できる。地域の健康・栄養に関連する組織と社会資源が説明できる。行政管理栄養士の業務と役割を説明できる。連携・協働するために、他職種の役割と専門性を説明できる。</p>			
キーワード	地域診断、社会資源、行政管理栄養士					
教授方法	各実習施設において講義、見学、演習等を行う。					
履修条件等	公衆栄養学、公衆栄養学実習、食事調査法、社会福祉学、公衆衛生学、公衆衛生学実習、栄養疫学を履修した者					
授業計画						
実施回	授業内容					
1	組織体制・管内の現況					
2	公衆衛生行政の概要（保健所、保健センターの役割）					
3	管理栄養士の業務の概要、関連法規					
4	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（1） 地域における実態把握、分析、課題の明確化					
5	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（2） 課題の解決に向けた計画の立案・施策化					
6	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（3） 政策を評価するための目標設定・評価の実施					
7	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（1） 専門的な栄養指導、食生活支援					
8	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（2） 食生活改善推進員等に係るボランティア組織の育成や活動の支援					
9	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（3） 関係機関および団体との連携					
10	食を通じた社会環境の整備（1） 特定給食施設における栄養管理状況の把握および評価に基づく指導・支援					
11	食を通じた社会環境の整備（2） 飲食店におけるヘルシーメニューの提供等の促進（食環境整備）					
12	食を通じた社会環境の整備（3） 地域栄養ケア等の拠点の整備					
13	食を通じた社会環境の整備_保健、医療、福祉および介護用域における管理栄養士・栄養士の育成					
14	実習指導者を招いての実習報告会					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習ノート	60	丁寧に取り組んでいるか、わかりやすいか、論理的か		実習指導者による評価	40	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
実習先からの事前課題への取り組みなど				質問は授業中および授業前後に受け付ける。質問の回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。 kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	随時知らせる。			受講生に望むこと	積極的な態度で臨むこと。	
参考書・参考資料等	随時知らせます。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。	

授業科目	臨地実習（福祉施設）						
担当教員	川島 由起子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
福祉施設において管理栄養士の指導・監督のもと、現場における栄養ケアマネジメントを理解し、実際の症例検討をとおして、栄養ケアに関わる知識・技術を体験することにより、福祉施設の管理栄養士の専門性を学ぶ。また、NST、カワルナ等に参加し、多職種とのコミュニケーションや他職種連携による栄養ケアについて理解する。				福祉施設における管理栄養士の業務を観察・体験することにより、福祉施設の栄養ケアマネジメントを理解し、管理栄養士の役割および対象者に適した栄養管理の意義や方法を学ぶ。現場の業務を一つのシステムとして理解し、栄養管理と給食管理の相互関係、栄養管理方法、栄養・食事提供方法、栄養食事指導等の方法を学習し、それぞれの業務が果たす役割と機能を理解する。			
キーワード	福祉施設 栄養ケアマネジメント						
教授方法	福祉施設における管理栄養士等の講義・実践 他職種連携						
履修条件等	臨床栄養管理学、給食経営管理論、栄養教育論						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1回	福祉施設の概要、現場における基本的な態度・心構え、実習内容の説明等						
2回	福祉施設における管理栄養士その他スタッフの役割について説明						
3回	他職種連携、チーム医療について説明						
4回	給食管理の実際						
5回	給食管理の実際						
6回	給食管理の実際						
7回	給食管理の実際						
8回	給食管理の実際						
9回	給食管理の実際						
10回	栄養管理の実際						
11回	栄養管理の実際						
12回	栄養管理の実際						
13回	栄養管理の実際						
14回	栄養管理の実際						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習の出席状況	80	福祉施設の管理栄養士による評価		臨地実習ノート	10	自己評価も含め総合的に評価する	
実習への取り組み	10	福祉施設の管理栄養士の評価					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
臨床栄養管理学、給食経営管理論、栄養教育論、事前・事後指導				臨地実習ノートに記載の大学担当者の連絡先で対応			
教科書・テキスト	臨床栄養管理学、給食経営管理論、栄養教育論関連の教科書 臨地実習ノート			受講生に望むこと	福祉施設における栄養管理と給食管理の相互関係の実際を観察・体験し、その連携方法等について理解すること。管理栄養士の役割について学ぶ。		
参考書・参考資料等	施設側からの資料			その他・特記事項	対象者が高齢者となるので、自身の体調管理に十分注意すること。		

授業科目	臨地実習（保育所・特別支援学校）						
担当教員	新保 みさ			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
保育所または特別支援学校において、保育や教育・食育活動の参観、給食の調理・配膳、喫食状況の参観などの実習を通して、子どもの発達段階や障がいに応じた食育を行うための能力を養う。				子どもの心身の発達と生活に基づいた食の提供と食育について理解する。食育における管理栄養士・栄養士の役割を理解する。家庭、地域、他職種等と連携しながら食育を推進する能力を高める。			
キーワード	臨地実習、食育、保育園、特別支援学校						
教授方法	実習						
履修条件等	臨地実習 と の 単 位 を 修 得 し て い る こ と。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	施設の概要（教育方針や特色）						
3	管理栄養士・栄養士の業務の概要						
4	保育や教育活動の参観						
5	発達段階や障がいに応じた給食の実態						
6	発達段階や障がいに応じた給食の実態						
7	発達段階や障がいに応じた給食の実態						
8	発達段階や障がいに応じた給食の実態						
9	給食の喫食状況の参観						
10	食育活動の参観						
11	食育活動の検討・教材作成						
12	食育活動の検討・教材作成						
13	食育活動の実施						
14	実習の振り返り						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習ノート	50	臨地実習ノートや課題への取り組みを評価する。		実習施設の評価	50	実習施設からの評価を点数化する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組む。 ・臨地実習ノートを記入する。 				質問や相談は随時受け付ける。 新保みさ(居室：H408、メールアドレス：shimpo.misa@u-nagano.ac.jp)			
教科書・テキスト	臨地実習ノート、臨地実習の手引きを配布する。			受講生に望むこと	積極的な姿勢で実習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	適宜、指示・配付する。			その他・特記事項	実習内容や課題は実習受け入れ施設によって異なる。		

授業科目	臨地実習（給食施設）						
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
給食施設において、栄養食事管理、食材管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理、原価管理、事務管理等の給食経営管理に関わる実務の実践を体験し学習する。組織管理等マネジメントの基本的な考え方、給食施設における管理栄養士の役割や業務について理解を深め、給食の関連資源を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントできる能力を養う。				給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。また、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。 到達目標 ・給食施設における管理栄養士の使命や役割、業務を説明できる。 ・協働する関連職種との関わりとそれぞれの役割を説明できる。 ・業務日誌、報告書作成等の基本事項を理解し、作成できる。			
キーワード	給食経営管理、事業所給食、給食サービス						
教授方法	給食施設において、グループごとに実習を行う。						
履修条件等	臨地実習 ～ の単位を取得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	実習施設の概要						
3	実習課題の計画						
4	実習施設での課題への取り組み1						
5	実習施設での課題への取り組み2						
6	実習施設での課題への取り組み3						
7	実習施設での課題への取り組み4						
8	実習施設での課題への取り組み5						
9	実習施設での課題への取り組み6						
10	実習施設での課題への取り組み7						
11	実習施設での課題への取り組み8						
12	まとめ・自己評価						
13	実習報告会1						
14	実習報告会2						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	30%	実習先および実習課題に関する事前学習（15%）、実習の事後学習（15%）		上記以外の授業評価	70%	実習先からの評価（30%）、巡回指導教員からの評価（20%）、報告会での発表・討論（20%）	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題に取り組む。				実習事前事後指導の時間に質問や意見を受けつける。			
教科書・テキスト	管理栄養士・栄養士になるための国語表現、田上 貞一郎、萌文書林（2017）			受講生に望むこと	主体的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		臨地実習（保健所）					
担当教員	草間 かおる			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2・3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
保健所等において、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報の一つである国民健康・栄養調査や国民健康・栄養調査の計画・実施・評価より、それらを総合的に評価、判定（地域診断）することについて学ぶ。担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有しており、事例を交えながら考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。				地域における健康・栄養問題の現状が説明できる。 国民健康・栄養調査や国民健康・栄養調査の計画・実施・評価について説明できる。			
キーワード	健康・栄養問題、国民健康・栄養調査、地域診断						
教授方法	各実習施設において講義、見学、演習等を行う。						
履修条件等	臨地実習 ・ を履修した者						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	組織体制・管内の現況						
2	管理栄養士の業務の概要、関連法規						
3	管理栄養士の業務の概要、関連法規						
4	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（1） 地域における実態把握、分析、課題の明確化						
5	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（2） 課題の解決に向けた計画の立案・施策化						
6	健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル（3） 政策を評価するための目標設定・評価の実施						
7	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（1） 専門的な栄養指導、食生活支援						
8	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（2） 食生活改善推進員等に係るボランティア組織の育成や活動の支援						
9	生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上（3） 関係機関および団体との連例						
10	食を通じた社会環境の整備（1） 特定給食施設における栄養管理状況の把握および評価に基づく指導・支援						
11	食を通じた社会環境の整備（2） 飲食店におけるヘルシーメニューの提供等の促進（食環境整備）						
12	食を通じた社会環境の整備（3） 地域栄養ケア等の拠点の整備						
13	食を通じた社会環境の整備_保健、医療、福祉および介護用域における管理栄養士・栄養士の育成						
14	実習のまとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習ノート	60	丁寧に取り組んでいるか、わかりやすいか、論理的か		実習担当者による評	40		
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先からの事前課題への取り組みなど				質問は授業中および授業前後に受け付ける。質問の回答は授業時もしくは個別にコメントする。メールでの質問も受け付ける。 kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	随時知らせる。			受講生に望むこと	積極的な態度で臨むこと。		
参考書・参考資料等	随時知らせる。			その他・特記事項	担当教員は、国内外の地域等における栄養評価に関する実務経験を有している。		

授業科目	ゼミナール						
担当教員	中澤 弥子・石井 陽子・稲山 貴代・川島 由起子・	必修・選択	必修	単位数	1単位		
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
3年次3学期からの卒業研究の準備のため、担当教員の指導のもと、少人数のゼミ形式により、学生同士・教員の交流を深めるとともに、さまざまなスタディスキルを修得する。具体的には、ゼミごとに、一定のテーマに沿って、ディスカッションやプレゼンテーションを行い、論理的思考を涵養し、コミュニケーション能力を高める。また、状況によって卒業研究に向けた事前の予備研究や予備調査を実施する。 英語表記「Seminar」				研究テーマに沿って調査研究、実験研究、文献研究等を行うための基本を修得する。 基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成できる。 聞き手にわかりやすい図表や発表スライドを作成できるとともに、わかりやすく説明できる。 論理的思考に基づき、意見や質問を積極的に述べる力を養う。			
キーワード	スタディスキル 論理的思考 コミュニケーション能力						
教授方法	演習形式。一部時間割上での実施ができない場合は、担当教員とゼミ生との間で日程を柔軟に調整して実施する。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	3年次3学期からの卒業研究に向けて、準備のための基本的な学修を行う。オリエンテーションとして、自分の研究に対する考えをアピールするとともに、相手のことを知る。また、ゼミナールの意義・位置づけ、進め方、何を学ぶか、卒業研究の入り口までの流れを知る。						
2	研究題材の選び方、学術論文等の検索の仕方、実験・調査の方法、まとめ方、上手なスライド作成・プレゼンテーションの仕方について学ぶ。						
3	論文抄読とディスカッション（基礎編）						
4	論文抄読とディスカッション（応用編）						
5	担当教員が指示するテーマについて論文等を検索し、情報収集を行う。						
6	テーマに関して収集した情報について、まとめる。						
7	プレゼンテーションの準備						
8	まとめた内容に関してプレゼンテーションし、ディスカッションする。						
9	個人で興味のあるテーマについて論文等を検索し、情報収集を行う。あるいは、予備実験・調査の立案・計画						
10	テーマに関して収集した情報について、まとめる。あるいは、予備実験・調査の実施準備						
11	プレゼンテーションの準備、あるいは、予備実験・調査の実施						
12	まとめた内容に関してプレゼンテーションし、ディスカッションする（前半）。あるいは、予備実験・調査の実施						
13	まとめた内容に関してプレゼンテーションし、ディスカッションする（後半）。あるいは、予備実験・調査の結果の解析とまとめ、プレゼンテーションの準備						
14	総まとめ、あるいは、プレゼンテーションとディスカッション、総まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
平常点（取り組み度）	40	実施内容やディスカッションへの主体的な参加度合いをみる。			課題	60	担当教員からの提示課題や個人の課題に対する取り組みとその内容、また提出状況等を総合的に判断する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
担当教員から適宜提示された事前・事後の課題に、個人またはグループで取り組む。				質問や相談は、原則として授業中（前後を含む）に受け付ける。担当教員が必要に応じた対応を指示する。			
教科書・テキスト	担当教員が必要に応じて指定する、あるいはプリントの配布を行う。			受講生に望むこと	主体的に課題に取り組み、ディスカッション等に積極的に参加すること。また、一部実施日程が変則的になる場合があることを理解しておくこと。		
参考書・参考資料等	担当教員が必要に応じて指定する、あるいはプリントの配布を行う。			その他・特記事項	正当な理由を除き、学生の個人的な理由により極端に参加度が低いとみなされる場合、評価対象外になり、単位が不認定になる場合がある。		

授業科目	学校栄養教育論					
担当教員	笠原 賀子・市場 祥子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>栄養教諭としての職務を行うために必要な知識を身につけ、実践的な指導力の必要性を学ぶ。児童および生徒を取り巻く食環境や食生活の実態を把握して、栄養教諭に期待される使命と役割や食に関する指導の教材となる学校給食の献立作成を中核とした管理の重要性を理解し、学校や学校と家庭・地域が連携して取り組む望ましい食習慣を培う食に関する指導及び健康課題を抱える児童生徒に対する個別的相談指導の必要性やその指導方法について正しく学修する。</p>			<p>栄養教諭創設の歴史と職務を理解する。 栄養教諭として必要な知識や技術を身につける。 栄養教諭としての強い使命感と向上心を高める。</p>			
キーワード	栄養教諭、学校給食、食に関する指導					
教授方法	ZOOMによる遠隔授業と対面授業の組み合わせ。 講義、グループワーク、ゲストスピーカーとのディスカッション。					
履修条件等	栄養教育論 〃 の単位を取得していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション、栄養教諭制度創設と法的根拠、栄養教諭の職務と役割、使命					
2	学校組織の理解と栄養教諭の位置づけ					
3	子どもの発育・発達と食生活の諸課題、社会的事情					
4	食生活の変遷と学校給食の歴史、教育的意					
5	学校給食の管理と実際（COVID-19における新方式）					
6	生きた教材としての学校給食の活用					
7	学校給食における地場産物の活用と地域の食文化 ゲストスピーカーとのディスカッション					
8	学習指導要領の徹底理解					
9	食に関する指導の全体計画の必要性と作成方法					
10	食に関する指導の実際と展開・推進					
11	給食の時間における食に関する指導					
12	個別的な相談指導の基本（食物アレルギーを中心として） ゲストスピーカーとのディスカッション					
13	食育の教材として活かすための献立作成の配慮					
14	まとめ					
共通の成績評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
筆記試験	60	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているかについて評価する。		レポート	30	課題の意図を理解し、自分の言葉で、的確にまとめることができているかについて評価する。
主体的態度	10	主体的に授業に取り組んでいるかについて評価する。 （レポートの締め切り順守、提出回数等も含む）				
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 シラバスにそって必ず予習をして、疑問点や不明な事項を把握して授業に臨む。 事後学習 栄養教諭資格取得のための必須科目である。授業内容の復習に取り組み、知識や実践力を培う。 				<ul style="list-style-type: none"> 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 メールでの質問も随時、受け付ける。 メールアドレス 笠原賀子：kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp 市場祥子：sachiko26@po11.ueda.ne.jp 		
教科書・テキスト	『四訂栄養教諭-理論と実際』金田雅代編（建帛社） 『食に関する指導の手引 -第2次改訂版-』（文部科学省）			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 予習・復習に積極的に取り組むこと。 ディスカッションへ積極的に参加すること。 	
参考書・参考資料等	食に関する指導に係る『学習指導要領解説』（文部科学省） 食に関する指導に係る『教科書』（文部科学省）			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> レポートの提出締め切りは厳守のこと。 	

授業科目	学校栄養教育実践論					
担当教員	笠原 賀子・市場 祥子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生	食健康	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
食に関する指導の具体的な指導内容について実践演習し、その手法を取得する。栄養教諭に課せられている食に関する3つの職務のうち、児童生徒への教科、特別活動等における教育指導については、指導案（年間計画、関連教科、特別活動等）を作成し（plan）、模擬授業を行い（do）、相互評価を行う（check、act）。また、連携指導（校内と家庭・地域等）についての食に関する指導のスキルを学修する。			食に関する指導の具体的な内容について理解する。 食に関する指導に必要な様々な手法について説明できる。 発達段階に応じた食に関する指導を実施することができる。			
キーワード	栄養教諭、食に関する指導、学習指導案					
教授方法	講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーション。					
履修条件等	学校栄養教育論の単位を取得していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	オリエンテーション・学校教育の仕組みと学校教育計画					
2	教科における食に関する指導（小中学校 家庭科・保健など）					
3	教科外の教育活動における食に関する指導（小・中学校 特別活動など）					
4	学習指導案の作成方法（教科及び教科外指導について）					
5	1単位時間の授業の進め方と留意事項					
6	栄養教諭が取り組む学校、家庭、地域の連携指導の進め方 グループディスカッション					
7	実践演習（模擬授業と相互評価）1					
8	実践演習（模擬授業と相互評価）2					
9	実践演習（模擬授業と相互評価）3					
10	実践演習（模擬授業と相互評価）4					
11	実践演習（模擬授業と相互評価）5					
12	実践演習（模擬授業と相互評価）6					
13	実践演習（模擬授業と相互評価）7					
14	プレゼンテーション「理想の栄養教諭をめざして～学校栄養教育の学習を終了して思うこと」・まとめ					
共通の成績評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
レポート	90	各自作成全体計画及び学習指導案、演習記録（教科、特別活動等）、職場産物活用献立、連携指導への取り組み等）	主体的態度	10	主体的に授業に取り組んでいるかについて評価する（レポートの締切順守、提出回数等も含む）。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 レポートの作成等、期日を守って仕上げ、授業に臨む。 事後学習 授業内容の復習を徹底し、自律した実践力を培う。 			<ul style="list-style-type: none"> 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 メールでの質問も随時、受け付ける。 メールアドレス 笠原賀子：kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp 市場祥子：sachiko26@po11.ueda.ne.jp			
教科書・テキスト	『四訂栄養教諭-理論と実際』金田雅代編（建帛社） 『食に関する指導の手引 -第2次改訂版-』（文部科学省） 小学校学習指導要領解説（家庭科・体育科・特別活動） 中学校学習指導要領解説（技術家庭科（家庭分野）・保健体育科（保健分野）・特別活動） 小・中学校児童生徒用教科書（家庭科・技術家庭科 家庭分野） 小学校児童用教科書（体育科）3・4年用及び5・6年用 中学校生徒用教科書（保健体育科）：東京書籍		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭資格取得のための必須科目である。事前事後の学習に積極的に取り組むこと。 ディスカッションへ積極的に参加すること。 		
参考書・参考資料等	適宜、資料を配布する。		その他・特記事項	レポートの提出締切は厳守のこと。		

授業科目		学校栄養教育実習					
担当教員	新保 みさ			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	4年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>学校栄養教育論実習では、実際の教育現場である小・中学校において、教育実習生として児童・生徒と接する。実習中は、各学校の教員による講話や学級担任の指導を受け、授業参観、児童・生徒の観察を行う。その内容は栄養教育実習記録に記載し、教育の実践を学び、児童・生徒への理解を深める。また、給食指導の観察・参加や食に関する指導案の作成を行い、研究授業を実施する。研究授業は学級担任や栄養教諭の指導を経て実施し、授業分析を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校での教育実習を通して、学校教育について学び、児童・生徒への理解を深めること。 ・栄養教諭としての実践的な能力を身に付けること。 			
キーワード	栄養教諭、教育実習						
教授方法	小・中学校での教育実習						
履修条件等	栄養教諭養成課程における教育実習履修条件に該当する科目を全て修得していること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション						
2	教育実習 [講話(副校長)：学校の概要、教育目標や校務分掌など]						
3	教育実習 [講話(各学級担任)：学級経営、学習指導(指導計画や授業の進め方)など]						
4	教育実習 [講話(養護教諭)：児童・生徒の生活と健康に関すること]						
5	教育実習 [講話(栄養教諭)：給食および食に関する指導に関すること]						
6	教育実習 [授業参観、児童・生徒の観察、学級活動への参加]						
7	教育実習 [授業参観、児童・生徒の観察、学級活動への参加]						
8	教育実習 [授業参観、児童・生徒の観察、学級活動への参加]						
9	教育実習 [給食指導の検討]						
10	教育実習 [給食指導の実施]						
11	教育実習 [研究授業の指導案・教材作成]						
12	教育実習 [研究授業の指導案・教材作成]						
13	教育実習 [研究授業の実施・分析]						
14	まとめ [実習の振り返り・課題の抽出]						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習記録	50			実習校の評価	50	実習校からの評価を点数化する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業等の準備をする。 ・実習記録を記入する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・質問や相談は随時メールで受け付ける。 新保みさ(メールアドレス: shimpo.misa@u-nagano.ac.jp) 			
教科書・テキスト	栄養教諭論 理論と実際(金田昌代(編著)、建帛社) 食に関する指導の手引			受講生に望むこと	積極的な姿勢で実習に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	適宜、指示・配付する。			その他・特記事項	実習内容は実習校によって異なる。		

授業科目		学校栄養教育実習事前事後指導					
担当教員	新保 みさ			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	4年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>学校栄養教育論実習事前事後指導は、栄養教諭免許取得に必須の科目である。学校栄養教育論実習では、実際の学校教育現場で、栄養教諭としての実務を学び、食に関する指導案を作成し、研究授業を行う。学校栄養教育論実習事前事後指導では、実習の前に、実習の目的や意義を学び、実習に臨む心構えを養う。実習後は、報告会を行い、相互の体験を共有して、成果や課題の分析を行う。これらの授業を通して、学校における食に関する指導への理解を深め、栄養教諭として必要な資質を身に付ける。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・学校栄養教育論実習の目的や意義を理解し、実習に臨む心構えを養うこと。 ・実習後、成果や課題を分析し、栄養教諭として必要な資質を身に付けること。 			
キーワード	栄養教諭、指導案、教育実習						
教授方法	演習、グループディスカッション						
履修条件等	栄養教諭養成課程における教育実習履修条件に該当する科目を全て修得していること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、事前指導 [学校栄養教育論実習の目的・意義・心構え]						
2	事前指導 [給食指導へ向けた準備]						
3	事前指導 [給食指導へ向けた準備]						
4	事前指導 [栄養教育実習記録の書き方]						
5	事前指導 [実習受け入れ校との打ち合わせ]						
6	事前指導 [実習受け入れ校との打ち合わせ]						
7	事前指導 [研究授業へ向けた準備（発達段階の理解と教材の検討）]						
8	事前指導 [研究授業へ向けた準備（発達段階の理解と教材の検討）]						
9	事前指導 [研究授業へ向けた準備（発達段階の理解と教材の検討）]						
10	事前指導 [研究授業へ向けた準備（発達段階の理解と教材の検討）]						
11	事後指導 [学校栄養教育論実習の振り返り・報告会準備]						
12	事後指導 [学校栄養教育論実習の報告会準備]						
13	事後指導 [学校栄養教育論実習の報告会]						
14	事後指導 [学校栄養教育論実習の報告会 ・まとめ]						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
指導案や発表内容	80	学習のねらいを達成できているかを評価する。		授業態度	20	主体的態度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導や研究授業の準備を行うこと。 ・実習記録に記入すること。 				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は授業中や授業前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 新保みさ 居室：H408 メールアドレス：shimpo.misa@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	栄養教諭論 理論と実際（金田昌代（編著）、建帛社） 食に関する指導の手引			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にディスカッションに取り組むこと。 ・積極的に質問や意見を発言すること。 		
参考書・参考資料等	適宜、指示・配付する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目		教職論					
担当教員	木山 徹哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本授業は主に3つの内容で構成する。第一に、日本における教職の歴史を辿りながら教職の意義・職責・専門性について考える。第二に、教師の日常の仕事をも具体的に描きつつ、子どもや保護者、あるいは他の教師との関係性、授業・活動の企画立案・運営・評価、授業・活動における教師の表現力、教師集団あるいは教師文化の在りよう、について考える。そして第三に、これらのことを踏まえつつ教師養成の現状と課題、並びに今後の養成の在り方を考える。</p>				<p>本授業は、以下の目標に到達するために授業を展開する。第一に、教職の意義や職責・専門性を簡潔に述べることができる。第二に、教師の具体的教育活動を明示できる。第三に、授業実践について、指導計画、指導案作成、授業実践、及び評価の流れを理解する。そして第四に子どもや保護者、さらにはほかの教師との関係構築の方法について基本的な事柄を理解する。</p>			
キーワード	教職への眼差し、教育公務員、教師の仕事、教師 - 子ども関係、教師集団、教育と他領域の協働						
教授方法	講義を中心に展開するが、適宜質疑応答や討論を取り入れる。						
履修条件等	栄養教諭の免許状を取得希望の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション:授業の概要、評価方法などを説明する。						
2	教職の意義、法令で定められる教師の職責、教師の専門性を中心に解説する。						
3	日本の社会の変化と教師の歴史について解説する。						
4	教師の仕事について(1) 教師の一日の具体的職務						
5	教師の仕事について(2) 教師間の協働、コミュニケーション、教師間及び他機関等との連携(チームとしての学校)などを中心に解説する。						
6	第2回～第5回の授業内容について小テストを実施する(20分)。教師と子どもの関係(1)教師の子ども理解を中心に解説する。						
7	前回テストの講評、質疑応答、及び討論を実施する(30分)。教師と子どもとの関係(2)多様な子どもへの配慮を中心に解説する。						
8	教師の授業運営について(1)指導計画案作成と展開を中心に解説する。						
9	教師の授業運営について(2)授業評価を中心に解説する。						
10	教師の表現力(1)コミュニケーション能力を中心に						
11	教師の表現力(2)パフォーマンス						
12	第6回～第11回の内容についての小テストを実施する(20分)。教師集団－教職文化とその継承・変革、及びジェンダーについて						
13	前回の小テストの講評、質疑応答及び討論を実施する(30分)。教師になるプロセス(1)教師養成制度を中心に解説する。						
14	教師になるプロセス(2)教師の採用、配置及び研修。全体のまとめ。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	授業全体で習得した基本的内容を確認する。100点満点で60点以上を可とする。			小テスト	20%	各テーマごとに基本的理解を確認する。20点満点で12点以上を可とする。
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
テキストを事前・事後に読むこと。				授業中でも、授業外でもメール等で対応する。			
教科書・テキスト	『教職論』(木山・太田)ミネルヴァ書房			受講生に望むこと	質疑応答及び討論に積極的に参加すること。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		教育原論					
担当教員	木山 徹哉・寺川 直樹			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本授業は、第一に教育という営みの意義及び機能について学ぶ。第二に、教育という営みが実践された家庭、地域社会、および学校の歴史的展開について学ぶ。第三に、教育という営みの歴史的展開において、各時代の教育思想家がどのような役割を果たしたか、また彼らが子どもや家庭をどのように位置づけてきたかについて学ぶ。そしてさらに第四に、以上の教育の理念と教育の歴史的展開を踏まえて、今日の教育課題への対応を考える。</p>				<p>本授業の到達目標及びテーマは、以下の5点である。 (1) 教育の意義及び機能(基本的概念)について理解する。 (2) 教育という営みの成立と展開について、主な教育思想家の思想を学ぶことを通じて基本的に理解する。 (3) 国や地域社会及び家族が子どもをどのように捉え位置づけてきたかについて、その歴史や今日の状況について理解する。 (4) 各時代における学校教育の展開(変遷)を教育理念と関連づけて理解する。 (5) 学校及び教育機関が今日の社会の変化のなかで果たすことのできる役割・機能について考えを述べるができる。</p>			
キーワード	学校の誕生、公教育制度、学校教育の機能、教育を受ける権利、教育課程、教育における関係性						
教授方法	オムニバス講義を中心とするが、各テーマごとに小テストを実施し、その結果やキーワードについて質疑応答や討論を取り入れる。						
履修条件等	栄養教諭の教員免許状を取得希望の者						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション:授業の概要、評価方法などを説明する。テキスト全体の内容と趣旨を説明する。						
2	教育の思想(1) 近代以前の教育思想について解説する。ソクラテス、プラトン、コメニウス、ロックなどの教育思想を中心に。						
3	教育の思想(2) 近代以降の教育思想について解説する。ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトなどの教育思想を中心に。						
4	学校の歴史(1) 世界や日本の学校の成立する要因、並びに普及する経緯を中心に概説する。						
5	学校の歴史(2) 日本の学校が普及し展開する過程で、それらが社会の変化等によって多様な機能を果たしていくことを説明する。戦後から現在までを中心に						
6	第2回～5回までの内容を確認する小テストを実施する(20分)。子どもの歴史(各時代の子どもの観、子どもの状態など)に焦点を当てた教育の歴史を概説する。						
7	前回の小テストの講評と質疑応答、並びに討論を実施する(30分)。教育理念・目的を支えるしくみ(1) 学ぶ権利を保障する基本的法制度を中心に解説する。						
8	教育理念・目的を支えるしくみ(2) 諸外国の教育制度との比較で、教育における平等性や公平性を中心に解説する。						
9	子どもは何を学ぶか(1) 戦後の学力観及び教育課程の変遷について、学習指導要領を中心に解説する。						
10	子どもは何を学ぶか(2) 生涯学習の理念と今後の学力保障を考える。アクティブラーニングのねらいや具体的方法、並びに課題などについても考える。						
11	第7回～第10回までの内容を確認する小テストを実施する(20分)。現代の教育の課題(1) いじめ、不登校、教育格差等への対応を考える。質疑応答や討論を取り入れる。						
12	前回の小テストの講評と質疑応答、並びに討論を実施する(30分)現代の教育の課題(2) 今後教育が果たすべき役割機能を考える。質疑応答や討論を取り入れる。						
13	現代の教育の課題(3) 子ども-大人関係をどのように捉えるか。これまでの授業内容を踏まえつつ、質疑応答や討論を行う。						
14	本授業の総まとめ。主たるキーワード(基本的知識)を確認するとともに、今後の教育の課題(第11回～13回)を整理する。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80%	授業全体で習得した基本的知識を確認する。100点満点で60点以上を可とする。		小テスト	20%	各テーマ(単元)ごとに習得した基本的知識を確認する。20点満点で12点以上を可とする。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
教科書を事前に読んでおくこと。新聞等の教育時事について把握しておくこと。				授業中は勿論、授業外でもメール等で対応する。			
教科書・テキスト	『教育原論』(木山・太田)ミネルヴァ書房			受講生に望むこと	質疑応答や討議に積極的に参加すること。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	発達と教育の心理学						
担当教員	加藤 孝士			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義では、乳幼児期から青年期に至る心身の発達を概説し、それに応じた学習のプロセスと学校教育及び子育て、家庭教育の基礎となる理論について学ぶ。また、障害等のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習のプロセスに言及する。それにより、個に応じた教育の在り方を学び、教育活動における基礎的・実践的な力量を養うことを目指す。</p>				<p>1.生涯にわたる子どもの発達と学習の特徴を理解する。 2.各発達段階でどのような関わり（教育）がよりよい成長・発達を導くのかを理解する。 3.講義の内容を基に、自らの興味あるテーマを探究するための基礎的知識を身に付ける。</p>			
キーワード	発達、教育、ライフステージ、学習						
教授方法	講義、及びグループワーク						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	発達と教育の心理学とは？（心理学における発達心理学・教育心理学の位置づけとその関係）						
2	発達過程の理解（発達の原理と基礎的事項）						
3	学習についての理解（人間の学びに関する基礎理論、教育心理学の基礎的事項）						
4	学習についての理解（人間の学びに関する基礎理論、教育心理学の基礎的事項）						
5	教育の在り方、教師の役割（よりよい発達を支える教師の在り方）						
6	胎児期・新生児期・乳児期の発達・学習の特徴とその支援						
7	幼児期の発達の特徴						
8	幼児期の学びと支援						
9	児童期の発達の特徴						
10	児童期の学びと教育						
11	障がいのある子どもの発達・学習の特徴						
12	障がいのある子どもの支援と教育						
13	社会変化に応じた幼稚園、小学校における教育の在り方						
14	発達・教育の知識は、栄養教諭にどのように役立つのか？（まとめとして、授業で得られた知識をどのように生かしているのかをディスカッションし、理念を共有する。）						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	論述及び選択型テスト			小テスト	20	確認テスト
レポート	20	課題レポート			授業参加	10	授業態度、ディスカッションの参加度
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
適宜、課題を出します。				授業後に質問を受けつけます。また、研究室（H404）にも相談に来てください。			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	疑問を持ちながら、受講してください。		
参考書・参考資料等	『やさしく学ぶ発達心理学-出逢いと別れの心理学-』 浜崎隆司・田村隆宏 編（ナカニシヤ出版）			その他・特記事項	特になし		

授業科目		教育制度論					
担当教員	荒井 英治郎			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>現代日本の教育制度改革の特徴は、戦後形成された教育制度のみならず、その制度を支える制度原理それ自体の再編を企図するものであるが、いかなる政策理念に基づいて、いかなる政策対象に、いかなる政策手法を講じていくか、多様な選択肢を検討していくことが求められている。そこで、本授業では、個々の法制度・法文の理解に留まることなく、現代日本の教育課題に即した制度的・経営的事項の構造的課題の分析を行い、今後の制度構想や教育政策のあり方を考察していく能力を習得していく。</p>				<p>本授業では、教育に関する制度的・経営的事項に着目しながら、教育制度改革の諸動向と論争点・課題を理解し、教育改革の理論（理念）と実際（現実）を読み解く資質を修得することを目的とする。具体的には、教育実践に関する教育法規の知識として、日本の教育制度の法的構造、現行制度の概要、法制度の運用上の留意点を確認しながら、教育制度と教育実践との関係を具体的に理解するものとする。</p>			
キーワード	教育制度						
教授方法	授業のスタイルとしては「講義方式」を採用するが、グループワークも併用し、主体的に学習できるような授業を展開するものとする。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、社会環境の変化と教育・子育てと福祉（人口減少社会の到来、学校・家庭・地域の役割分担、子どもが抱える課題の複雑化・困難化など）						
2	現代日本の教育課題と教育政策過程（学力・学習意欲・自己肯定感、教育政策の決定過程、教育政策の諸動向など）						
3	公教育の原理・理念と構造（産業革命と近代国民国家の誕生、近代公教育の原則：義務性、無償性、中立性、就学義務と就学援助など）						
4	公教育制度と教育基本法の改正（教育基本法改正、教育関係法規の改正動向など）						
5	中央教育行政制度改革（政治主導型教育改革、文部科学省・中央教育審議会、義務教育の構造改革、義務教育費国庫負担制度、県費負担教職員制度、教育振興基本計画、中央・地方関係の変化など）						
6	地方教育行政制度改革（教育委員会制度改革動向、総合教育会議と教育大綱、設置者管理・負担主義、学校管理規則、指導主事制度と学校支援など）						
7	学校経営・学級経営と学校評価制度（学校組織マネジメント、学級編制と教職員定数、校務分掌と主任制度・「新しい職」、職員会議の法的位置付け、自己評価・学校関係者評価・第三者評価など）						
8	教職員制度改革（教職の特殊性、教員の資質・能力の向上、免許更新制度、養成・採用・研修の制度、教職員の研修体系、教職大学院制度など）						
9	学校関係者の働き方改革（教員の多忙化と業務改善、服務義務・処分、人事評価制度、メンタルヘルス、「チーム学校」論、学校事務職員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・部活動指導員など）						
10	学校・家庭・地域の連携協力（開かれた学校づくり、家庭教育支援チーム、学校評議員、学校運営協議会、放課後子供教室、学校支援ボランティア、学校支援地域本部、地域学校協働本部、地域未来塾など）						
11	教育内容・教科書をめぐる制度改革（教育課程と学習指導要領の改訂、教科書と補助教材、教科書検定・採択制度など）						
12	学校健康教育の現状と課題（学校安全：災害安全・交通安全・生活安全、学校保健計画、健康診断、感染症予防、学校安全計画と学校事故、災害共済給付、学校給食とアレルギー対応など）						
13	子どもをめぐる法的対応（いじめ対策、不登校支援、児童虐待防止、少年法制、懲戒と体罰、出席停止、指導要録など）						
14	多様な学びとセーフティ・ネット（フリー・スクール、夜間学級、性の多様性・外国人児童生徒への対応、子どもの貧困対策など）						
共通の成績評価基準							
授業中の発言や態度、毎授業提出することを求める「リアクションペーパー」等の平常点（5割）、学期末レポート（5割）などから総合的に評価する。詳しくは、初回授業時に説明する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業中の発言や態度、毎授業	50			レポート	50		
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> 指定テキストの該当ページの熟読（ガイダンス時及び毎授業時に該当ページを指示） グループ内でのディスカッションのための論点整理メモの作成 グループ間でのディスカッションのためのプレゼンテーション準備 グループ間でのディスカッションを踏まえた上での考察レポートの作成 				<p>簡単な質問については講義中に随時受け付け、講義中・講義後・次回授業時に説明を行う。その他、初回授業時に伝えるメールアドレスにて随時質問を受け付けるものとする。</p>			
教科書・テキスト	伊藤良高・大津尚志・永野典詞・荒井英治郎編『改訂 教育と法のフロンティア』晃洋書房、2020年、1400円 教育フロンティア研究会編『ポケット教育小六法』晃洋書房、2021年、1900円			受講生に望むこと	<p>授業は、教員による講義を基本とするが、履修者は、積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することを望む。 初回授業では、授業計画・概要、授業方法と評価に関する説明を行うため、履修予定者は、必ず出席すること。 毎授業前にレジュメ等をアップロードする。履修者は必要に応じて各自ダウンロード・プリントアウトして授業に参加すること。 なお、必要に応じて、ビデオ・DVDなどの視聴覚教材を活用する。</p>		
参考書・参考資料等	特になし						

その他・
特記事項

特になし

授業科目		教育課程論					
担当教員	伏木 久始			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1・2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>国際的な視野から日本の教育課程の特色と課題について理解し、最新の教育課程政策を踏まえて、自分なりの考えをもってグループディスカッションに参加して考え合う授業になる。国内外の様々な特色ある教育課程の事例を紹介し、自分自身が受けてきた学校教育を「かつつ」と判断する認識の枠組みを乗り越え、次代を生きる子どもたちにとって真に必要な教育を考え合う時間が中心となる。(2020年度はオンライン授業のため一部の授業内容・方法を変更する場合があります)</p>				<p>日本の教育課程の特色と課題について、現行の学習指導要領の基本的構造と性格を踏まえて国際的な視野から説明できる。 特色ある教育課程の事例をもとに、幼小連携に求められる視点、小中一貫や中高一貫の課題などを説明できる。 学校教育における教科や特別活動の指導、総合的な学習の時間の指導などを学ぶ側から捉え直し、多面的にカリキュラムマネジメントに取り組む考え方を身に付ける。</p>			
キーワード							
教授方法	<p>授業担当者は最新の情報や専門の知識を提供するだけです。それをもとに自分がどう考えるか、学生同士でどのように学びを深めるかは、受講生一人ひとりの参加意識・課題意識の質に左右されます。完全なる受身姿勢で学ぶのではなく、自分なりに主体的に探究する努力をして、学びを深めるスタイルで授業は進行します。(2020年度はオンライン授業になります)</p>						
履修条件等	<p>教育実践を「授業」というレベルではなく「教育課程」という次元で考えていくことに興味があれば誰でも歓迎する。</p>						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：「教育課程」という考え方						
2	これからの教育課程を考える～少子・人口減少問題と学校教育～						
3	小中一貫の教育課程						
4	個に応じた教育と異学年混合の教育課程						
5	諸外国の教育課程						
6	カリキュラム・マネジメント						
7	講義のまとめのテストとリフレクション						
共通の成績評価基準							
<p>今年度はオンライン授業のみで実施するため、理解度確認テストの内容・方法に関しては柔軟に検討して事前に連絡します。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	課題に対して適切にレポートが書けているかを5段階(50点、40点、30点、20点、10点)で評価する。		ディスカッション	20	(ZOOMを含めた)授業における発言内容や協働的な取り組みを積極的にプラス評価する。	
理解度テスト	30	講義内容を理解しているかどうかを理解度テストにより評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
<p>事前学習：指定したテキストや資料の該当部分を事前に精読すること。 事後学習：関連した参考文献等を精読すること。</p>				<p>メールにて随時質問等を受け付ける hfusegi@shinshu-u.ac.jp</p>			
教科書・テキスト	伏木久始・峯村均『山と湖の小さな町の大きな挑戦』学文社、2000円(税別)			受講生に望むこと	オンラインでのディスカッションを行うため、インターネット環境をストレスのない状況にして参加していただきたい。経済状況等で学習環境に困難のある人はメールで相談してほしい。		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・加藤幸次『教育課程編成論』玉川大学出版部、2011年、2200円 ・加藤幸次『カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方』黎明書房、2017年、2400円 ・森山賢一『教育課程編成論』学文社、2013年、2000円 <p>*その他、授業の中で適宜紹介する。</p>			その他・特記事項	<p>授業者が指導講師として出張する学校現場へのフィールドワークを希望する学生を歓迎する。学校現場へ連れて行きます。(2020年度は新型コロナウイルス感染症に対応するため、フィールドワークを中止します)</p>		

授業科目	道徳教育論						
担当教員	高柳 充利			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目		特別活動論					
担当教員	越智 康詞			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義では、単に特別活動の目標や実践方法（マニュアル）の紹介にとどまるのではなく、教育学の諸理論、学校の組織特性、現代社会の子どもの実態などと関連させながら、特別活動という実践＝カリキュラムを自ら創造していくために不可欠な基礎を学ぶ。その際、導きの糸となるのは、「食育と特別活動の関連」と「民主主義の実現を目指した問題解決活動を通して、民主主義社会の一員にふさわしい倫理・実践能力を身に付ける」というデューイ的な視点である。共に問題を解決し、開かれた学級を創造する実践が、まさに学びのプロセスでもある、という相互循環的なプロセスを念頭に置きながら、教育現場の諸問題に応答し、状況に応じたプランを構想し、自らの実践を批判的に振り返る力を養うことが、本講義のねらいである。</p>				<p>特別活動の理念、活動の特徴および方法について理解する。学級活動や学校生活について、「隠れたカリキュラム」の視点から反省的なまなざしを向けられるようになる。「民主的で開かれた学級」を生み出す活動プランを構想し、市民的スキルの獲得を支援できるようになる。食育の観点とかがかわらせながら、自分で特別活動を構想できるようになる。</p>			
キーワード	特別活動、学級づくり、子ども理解、授業プランの構想						
教授方法	前半5回は講義。講義形式ではあるが、できうる限り皆さんと対話をしながら進める予定。後半2回は、特別活動のプラン報告で受講生の皆さんが主体となる。自分でプランをたて、調べ、まとめて、報告する。アイデア、方法の理解、プレゼンの仕方の三方向から評価する。報告者のみならず、聞き手の皆さんにも、質問や意見や感想なども求める。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	ガイダンス（学校とは、特別活動の歴史・理論背景）						
2	特別活動の目的・理念・方法の特徴（学習指導要領を読む）						
3	学級の諸問題（いじめ・不登校・学級崩壊）						
4	生徒理解の方法						
5	民主的な学校づくりを深める（哲学対話・リーダー＆ファシリテーターとしての教師）						
6	授業プランの構想発表						
7	授業プランの構想発表						
8	試験						
9	なし						
10	なし						
11	なし						
12	なし						
13	なし						
14	なし						
共通の成績評価基準							
<p>レポート4割、テスト6割 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	アイデア（内容の面白さ・実現可能性）、基礎的な学習の成果（基本事項の理解）、プレゼン（質疑応答含む）		試験	60	基礎的事項の理解、自分の言葉で自分の考えを深めているかどうか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回、配布したプリントの復習をする。レポートの作成に向け準備。				授業中、授業終了後ならいつでも対応可能。それ以外は、電話かメールをお願いします。授業担当者の連絡先（研究室電話番号026-238-4218、メールアドレス：yasushi@shinshu-u.ac.jp）			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	毎回の「授業」において、教科書等の指定範囲について予習をしておく。また、授業で扱ったテーマについて、関連する文献や事例について自ら調べ、考えを深めておく。また、レポート（発表会）のための準備を進めておく。		
参考書・参考資料等	特になし。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目	生徒指導論						
担当教員	藤江 玲子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
生徒指導の意義と役割、児童生徒の指導に資する理論、子どもが抱える可能性のある諸課題など、児童生徒の理解と指導に関する基本的な知識を習得するとともに、学校で出会う可能性のあるさまざまな事例や、先進的な実践をもとに、具体的な指導方法を学ぶ。また、児童生徒と信頼関係を構築し、学校によるチームとしての指導・支援に寄与できる力を養うために、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッションなど、他者と対話し、つながり、協働しながら児童生徒指導のあり方を考える活動を行う。				生徒指導の基本となる考え方・理論・方法を理解するとともに、児童生徒の理解を基盤とした指導・支援を行うことのできる能力を養う。			
キーワード	生徒指導、児童生徒理解、チーム支援、協働、実践						
教授方法	授業は、講義と演習を組み合わせで行う。講義では、児童生徒指導の基本となる考え方や理論とともに、さまざまな事例や、先進的な実践を紹介する。演習では、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション等の活動を通じて、児童生徒指導のあり方を考える。						
履修条件等	教育職員免許状取得のための必修科目である。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	生徒指導の意義・役割・位置づけ						
2	生徒指導の基本となる子ども観・教育観						
3	子どもの発達と生徒指導						
4	児童生徒との関係づくり(1) 自己理解とストレス・マネジメント						
5	児童生徒との関係づくり(2) さまざまなコミュニケーション・スキル						
6	成長を促す指導・予防的な指導・課題解決的な指導						
7	児童生徒の理解と対応(1) 発達に関わる課題の理解と対応ー						
8	児童生徒の理解と対応(2) 反社会的行動の理解と対応						
9	児童生徒の理解と対応(3) いじめの理解と対応ー						
10	児童生徒の理解と対応(4) 不登校の理解と対応ー						
11	児童生徒の理解と対応(5) インターネット依存の理解と予防						
12	いのちの教育と自殺防止						
13	家庭・地域・関係機関との連携(1) 家庭・関係機関との連携						
14	家庭・地域・関係機関との連携(2) 地域の資源を活用した生徒指導						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	50	毎時の授業で学んだこと、考察したことが、適切にまとめられているか。		まとめのレポート	50	生徒指導の基本的な考え方・理論・方法について説明できるか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
授業の内容の定着と発展的な学習のために、毎回、指示する課題に取り組む。				質問や相談は、授業中、授業の前後の時間、授業レポート、オンラインのツールを通じて受け付け、状況に則した方法で回答やフィードバックを行う。			
教科書・テキスト	文部科学省『生徒指導提要』(教育図書)			受講生に望むこと	発展的な学習として関連する文献を積極的に読み、児童・生徒の理解とチーム支援に役立ててほしい。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。その他、授業中に適宜参考書を紹介する。			その他・特記事項	【実務経験のある教員】学校における教職経験、教育委員会・研修センターにおける実務経験、スクールカウンセラーとしての経験に、専門領域(教育学、生涯発達科学、臨床心理学)の観点を加えて授業を行う。		

授業科目		教育相談論					
担当教員	中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義では臨床心理学諸理論を基盤としつつ、学校現場における児童・思春期・青年期前期の子どもたちの発達とそれに伴う心理的諸問題を取り扱う。子どもたちのアセスメント、心理的諸問題の発生機序、問題に対応するためのカウンセリングスキル、チームでの対応方法などを講義と演習を通して学習し、実例を通して対応を学んでいく。なお、小グループでのチーム会議やディスカッションも取り入れ、個人だけの学習では得られない協調的問題解決スキル、コミュニケーションスキルも身につける。</p>				<p>学校現場における教育相談業務を独力でこなせるようになるための基礎理論習得が目標である。具体的には、さまざまな心理学諸理論を基盤とした児童生徒の理解と困難状況のアセスメント、保護者との円滑な面談、指導場面での円滑なコミュニケーションと適切な対応、以上を身につけることが目標である。</p>			
キーワード	カウンセリング 事例検討						
教授方法	講義および事例検討などの演習を行う。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 教育相談の必要性						
2	教育相談の発展史						
3	教育相談における関係性と絆						
4	アセスメントと児童理解						
5	特徴をもった子どもの理解と対応						
6	カウンセリングの理論						
7	精神分析の理論と展開						
8	行動主義と認知理論						
9	カウンセリングの基礎技術						
10	不登校・引きこもり問題の理解と対応						
11	虐待問題の理解と対応						
12	非行問題の理解と対応						
13	いじめ問題の理解と対応						
14	予防的援助に関する最新知見						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	点数で評価する		授業レポート	30	演習に関するレポート内容から評価する	
出席	10	出席状況を考慮し評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。 配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。</p>				<p>質問等がある場合は、授業内もしくは研究室で受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	使用しない			受講生に望むこと	本講義の理解を深めるには、講義で習得した相談支援技術を日常生活の中でも実践することが大切である。		
参考書・参考資料等	授業の中で紹介する			その他・特記事項	なし		

授業科目		教職実践演習					
担当教員	笠原 賀子・加藤 孝士			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	2・3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本演習は、学校栄養教育実習の学びを振り返りながら、栄養教諭の職務と役割について理解を深め、教諭としての実践力を高めることを目的とする。履修カルテにより学修を振り返るとともに、課題の発見と解決のための方策をたてる。「食に関する指導」の全体計画、年間計画、指導案を新たに作成し、模擬授業を行って、効果的な教育方法について議論を深める。さらに、児童生徒や保護者、地域の関係者などとの連携を深める方法についても考察する。</p>				<p>学習指導要領を徹底的に理解する。 教員としての資質と指導力を身につける。 食に関する指導における実践的能力を高める。</p>			
キーワード	栄養教諭、教育力、食に関する指導、学校給食						
教授方法	講義、グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーション						
履修条件等	学校栄養教育実習の単位を取得していること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーションと授業目的の明確化						
2	学校栄養教育実習の報告と振り返り、課題の確認						
3	教職における実践演習（1）児童・生徒の問題に関する理解と課題（報告・グループディスカッション）						
4	教職における実践演習（2）児童生徒指導の留意点と方策（ロールプレイ）						
5	教職における実践演習（3）教職員との協力体制に関する検討（グループディスカッション）						
6	教職における実践演習（4）特別支援教育の理解						
7	教職における実践演習（5）指導要領の理解と各学校の事情に合わせた教育の意義（グループディスカッション）						
8	実践演習まとめ（1）学校食育を推進するための組織作り（報告・ディスカッション）						
9	食に関する指導における実践演習（1）生きた教材としての学校給食と食に関する指導の全体計画等（報告・ディスカッション）						
10	食に関する指導における実践演習（2）給食の時間における指導（報告、模擬授業と相互評価）						
11	食に関する指導における実践演習（3）教科の時間における食に関する指導（報告、模擬授業と相互評価）						
12	食に関する指導における実践演習（4）教科外の時間における食に関する指導（報告、模擬授業と相互評価）						
13	食に関する指導における実践演習（5）児童生徒・保護者を対象とした個別指導の実際（報告、ロールプレイ）						
14	実践演習まとめ（2）ゲストスピーカーとのディスカッション 理想の栄養教諭をめざして（目標設定と宣言）						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	80	学校栄養教育実習の実践における課題の発見と、そのバージョンアップが図られているかについて評価する。		主体的態度	20	主体的に授業に取り組んでいるかについて評価する（レポートの締め切り遵守、提出回数なども含む）。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 自ら課題を見つけてレポートを作成し、締切期日を順守して授業に臨むこと。 事後学習 授業内容の復習を徹底し、自律した実践力を培うこと。 				<ul style="list-style-type: none"> 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 メールでの質問も、随時、受け付ける。 メールアドレス 笠原賀子：kasahara.yoshiko@u-nagano.ac.jp 加藤孝士：kato.takashi@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	『四訂栄養教諭 理論と実際』金田雅代編（建帛社） 『食に関する指導の手引 - 第2次改訂版 - 』（文部科学省）			受講生に望むこと	・事前事後の学修に積極的に取り組むこと。 ・ロールプレイやディスカッションに積極的に参加すること		
参考書・参考資料等	『学習指導要領解説（家庭科・保健科・道徳・特別活動・生活科・総合的な学習の時間・理科・社会科等）』（文部科学省） 児童生徒用『教科書』			その他・特記事項	・レポートの提出締切は厳守のこと。		

授業科目	道徳教育と総合的な学習論						
担当教員	高柳 充利			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本講義では、以下の四点を軸に、道徳教育ならびに総合的な学習の時間についての理論と指導法を習得することを目的とする。1.現在の我が国の初等・中等教育における道徳教育ならびに総合的な学習の時間の制度的位置づけ。2.道徳教育ならびに総合的な学習の時間を吟味するための理論的背景となる道徳思想ならびに教育思想。3.今日の道徳教育のあり方について考察するうえで不可欠な、我が国における道徳教育の歴史の変遷と総合的な学習との関連性。4.道徳教育の実践をめぐる課題へ向けた総合的な学習の時間を関連させたアプローチ。以上を学生による発表やディスカッションも含め、講義形式で学ぶ。</p>				<p>道徳教育ならびに総合的な学習の時間についての理論と指導法を習得することを目的とする。</p>			
キーワード	道徳教育、総合的な学習の時間						
教授方法	オンライン授業						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	導入・道徳教育の制度—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
2	道徳教育の思想（古代）—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
3	道徳教育の思想（近代）—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
4	道徳教育の歴史（明治以前・以後）—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
5	道徳教育の歴史（大正・昭和・平成）—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
6	道徳教育の現代的課題と読み物資料の活用—総合的な学習の時間の観点も交えて—						
7	模擬授業とまとめ						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
-	-						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末課題	70%	授業全体を通して示した重要事項が適切に整理・共有されているか		提出課題	30%	授業各回を通して示した重要事項が適切に整理・共有されているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習：授業計画で示された事項について、日常的に好奇心をもって観察・思索すること。 事後学習：授業で扱われた事項について、生活のなかで読書や討議の機会をみつけ、思考を深めること。</p>				授業後の時間等に受け付ける			
教科書・テキスト	特に指定しない			受講生に望むこと	授業への積極的な参加		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する			その他・特記事項	特になし		

授業科目	情報リテラシー (F)						
担当教員	浦上 法之			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
キーワード	ICT,情報演習,Officeソフト						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件等	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピング Office365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
6	PowerPoint編(2) スライドの作成						
7	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
8	PowerPoint編(4) 課題作成						
9	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践						
10	Word編(1) 基本操作						
11	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
12	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
13	Word編(4) 画像や図形						
14	Word編(5) 表とグラフ						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。	授業課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。 全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 メールでの質問も受け付ける。 アドレス： urakami@shinshu-u.ac.jp 		
教科書・テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう! 	

授業科目	健康と運動科学 (F)						
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。				様々なスポーツを体験し、心身共に充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り創っていくさまざまな方法や技能を学ぶ。また生活に運動を取り入れる喜びを味わい、積極的な健康づくりの態度を養う。生涯スポーツの基礎づくりとなる授業である。			
キーワード	健康観、健康づくり、身体技法、スポーツ						
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件等	毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には5回以上の出席が必要。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	授業内容：(講義) 授業の概要と進め方(課題説明)						
第2回	(講義) 東西身体の多様な見方を考える 実技：ブラインドボール						
第3回	(講義) エスニックスポーツと近代化を考える 実技：ブラインドボール						
第4回	(実技) インディアカ(遊戯の原点を理解する)						
第5回	(実技) インディアカ(遊戯における現在を考える)						
第6回	(実技) ニュースポーツ・ユニホック						
第7回	(実技) ユニホック(地域再創造のためのスポーツを理解する)						
第8回	講義：東洋の身体技法原点・東洋ウエルネスを考える 実技：体操・カバディ・呼吸法						
第9回	天人合一の身体を考える 実技：スロースポーツ・太極拳・体操・瞑想法						
第10回	天人合一の身体を考える 実技：スロースポーツ・太極拳・体操・瞑想法						
第11回	講義：気をめぐる身体文化を理解する 実技：卓球						
第12回	講義：健康づくりについて考える 実技：卓球						
第13回	スポーツを理解する 実技：卓球						
第14回	授業のまとめ						
共通の成績評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
積極的な授業参加姿勢	30	実践・講義5回以上出席すること		授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと	
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
【実践】最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 【理論】理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。				e-mailで対応する。E-mail: zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	特になし		

授業科目	健康と運動科学 (F)						
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	食健康	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>学生自分のからだどこころへの理解は、知識だけではなく「からだを動かす」ということを通しても広がり、深まってゆく。そのため、できるだけ幅広い分野の教材を取り上げたい。健康・運動・スポーツは、分かる・理解するなどの「知識」を身につけるだけでは不十分で、「実践」につながってこそ始めて完結する。ここに健康と運動科学授業の意味と重要さがある。自分自身でやってみることで、自分自身のからだを実感し、その中の客観的・科学的理論を抽出し、これを再意識して「からだ」についての知識とからだそのものを結び付ける授業としたい。</p>				<p>西洋的価値観から生まれた「より高く、強く、速く」を競うことから観点を換え、大学生も生老病死の人生を生きる人間であるから、「もっとゆっくり・もっと深く・もっと柔軟に」と、こころやからだを動かすことの価値を学ぶことも意味がある。これまでの大学体育では、あまり行われていなかったが、こうした視点を取り入れた授業を積極的に進めたい。</p>			
キーワード	健康観、健康づくり、身体技法、スポーツ						
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件等	毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	授業の概要と進め方（課題説明）						
第2回	講義：健康観と健康づくりの変遷について考える 実技：バレボール						
第3回	体力とは（体力について理解する） 実技：バレボール						
第4回	健康と運動を考える 実技：バレボール						
第5回	生活習慣病と運動を理解する 実技：バレボール						
第6回	講義：ダイエットと健康を理解する 実技：バスケットボール						
第7回	講義：肥満について理解する 実技：バスケットボール						
第8回	講義：有酸素運動と無酸素運動 運動効果について理解する 実技：バスケットボール						
第9回	講義：運動の原則を理解する 実技：ウォーキング、ジョギング						
第10回	講義：トレーニング原則について理解する 実技：バドミントン						
第11回	トレーニング原則について理解する 実技：バドミントン						
第12回	講義：身体活動強度とエネルギーについて理解する 実技：バドミントン						
第13回	講義：健康づくりについて考える 実技：バドミントン						
第14回	授業のまとめ						
共通の成績評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢	30	実践・講義5回以上出席すること			授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと
記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>【実践】小テストの予習とおよび最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。</p> <p>【理論】理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。</p>				e-mailで対応する。E-mail: zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	特になし		

授業科目		保育原理					
担当教員	太田 光洋			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
現代の保育実践がどのような子ども観や発達観、保育観を基礎として構築されているかについて、保育の歴史、先人の教育思想から学ぶ。また、学んだことをもとに現代の子どもや家族、保育を取り巻く状況や保育制度を捉え、今後の保育のあり方について考える。 担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。				現代の保育（幼児教育）の根拠について、これまでの教育・保育に関する歴史や思想から学び、保育の意義について考え、現代の保育制度と保育が抱える問題と結びつけ、保育の基礎的知識を習得し、今後の保育のあり方を構想できるようにする。			
キーワード	保育、幼児教育、保育の歴史と思想						
教授方法	講義。内容理解のために、ディスカッション、実技などを含む。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	講義概要とオリエンテーション 授業の進め方について、自己紹介カード						
2	根拠法と保育の原理 環境を通しての保育、子どもらしい生活、遊びを中心とした保育、子どもにとっての遊び 保育施設の概要						
3	「保育」とは何か 「保育」観の歴史の変遷と意義（「保育原論」第1章参照）						
4	社会構造、家族の変化と保育制度、子どもと子育て、保育をめぐる状況（家庭、結婚、出産、保育、待機児童、貧困、子育て支援）						
5	保育者の愛と知（「保育原論」第2章参照）【ポータル】						
6	保育と学び 「学び手」としての保育者、「教え手」としての保育者（「保育原論」第3章、第6章参照）						
7	保育の思想と歴史（1）現代の保育の基礎となる保育思想と歴史 コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、フレーベルを中心に（「保育原論」第5 - 8章参照）【ポータル】						
8	保育の思想と歴史（2）日本の保育の歴史と現代の保育 倉橋惣三、城戸幡太郎を中心に						
9	「子どもを大切にすること」と「保育者の役割」（「保育原論」第5 - 8章参照）【ポータル】						
10	幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園の機能、制度と役割（1） （配付資料、「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」参照）						
11	幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園の機能、制度と役割（2） （配付資料、「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」参照）						
12	幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園の機能、制度と役割（3） （配付資料、「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」参照）						
13	子どもの発達と保育の実際（「保育原論」第9 - 12章参照）【ポータル】						
14	授業のまとめ（保育の現代的課題と展望）						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	100	授業内及びポータルで提示される課題についてのレポートで評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業開始までにテキストを通読しておくこと。また、授業内やポータルで提示された課題のレポートを作成すること。				授業の冒頭または最後に対応します。また、メールやリフレクションシートに対応します。			
教科書・テキスト	『保育原論』太田光洋（保育出版会）、「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（チャイルド本社）、「幼稚園教育要領解説（文部科学省）」、「保育所保育指針解説（厚生労働省）」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省）」			受講生に望むこと	授業に関心を持って臨めるように工夫して進めるので能動的に参加し、知識や技能を習得するように努めること。		
参考書・参考資料等	最新保育資料集2021（ミネルヴァ書房）			その他・特記事項	担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所、行政等での研修講師を務めるなどの実務経験を有しており、その経験を授業内容に反映する。		

授業科目	こどもの文化						
担当教員	山本 直樹			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2・3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>こどもたちの生活と遊びについての考えを言葉を中心に深めるために、こどもの言語的発達を促し、生きる喜びを育むものとしての「こどもの文化」と「こどものための文化」の果たす役割を理解する。また、こどもの言葉を育むカルタやすごろく等の伝承遊びや児童文化財の種類とその活用についてを概観し、それらに関する各自の体験を掘り起して、実際に活用しながらその楽しさと遊びとしての機能を考え、それらを通してこどもの話す力、聞く力、表現する力がどう育つかを実践的に学んでいく。</p>				<p>乳幼児期の言葉の発達を踏まえ、絵本や紙芝居、口演童話をこどもに伝える力、内容を理解する力、こどもと共に楽しむことができる力を身につける。また、伝承遊びや幼児教育の中で取り上げられることの多いこどもの言葉を育む文化財についてを演習し、その楽しさを体験するとともに、その特徴を考える。</p>			
キーワード	こども、言葉、生活						
教授方法	講義形式を基本とするが、遊びや児童文化財に関する内容は演習課題を積極的に取り入れる。プレゼンテーションソフトによる講義を中心に、DVD映像や玩具の現物等、豊富な視聴覚教材を活用して授業を実施する。なお、zoomビデオ会議アプリケーションを利用した講義も行う。長野県立大学ポータルサイトを通じて資料配布、レポート提出を行うので、授業前に必ずサイトを確認しておくこと。後半は対面式の演習も行う予定である。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本講義のガイダンス 社会変容とこどもの遊びの変化						
2	乳幼児期の言葉の発達						
3	こどもの文化と言葉の発達						
4	子どもと文化の関係性：「こどもの文化」と「こどものための文化」						
5	こどもの文化としての伝承遊びと行事						
6	こどもの文化としての遊び コマ・けん玉・たこあげ・あやとり						
7	こどもの文化としての遊び すごろく・カルタ						
8	こどものための文化としての児童文化財 絵本						
9	こどものための文化としての児童文化財 紙芝居						
10	こどものための文化としての児童文化財 口演童話						
11	こどものための文化としての児童文化財 パネルシアター						
12	こどものための文化としての児童文化財 人形劇						
13	こどものための文化としての児童文化財 影絵・劇遊び						
14	本講義のまとめと確認						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
1	20	小テスト：タームの終了ごとに10点満点の小テストを計2回実施し、体験したことの意味を自分なりに考えることができるかどうかを評価する。			2	80	授業内レポート：授業内容全体の理解にもとづき、課題を主体的、発展的に深めることができているかを評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回の授業終了時に示す事後課題（経験した授業内容と日常生活や自分自身とのつながり）と、予習課題（予告された授業テーマに関する調査や疑問点の整理）についてを合わせて取り組み、次回の授業時にレポートとして提出する。				授業後に対応する。			
教科書・テキスト	太田光洋編『子どもの生活と遊びを創る保育の内容と方法』保育出版会、2016			受講生に望むこと	演習形式も交えるので、動きやすい服装を望む。		
参考書・参考資料等	小川清美他『演習 児童文化』萌文書林、2010			その他・特記事項	なし		

授業科目		教育原理											
担当教員		木山 徹哉・寺川 直樹		必修・選択		必修	単位数	2単位					
履修年次		1年	開講学期		2学期		授業形態		講義	科目ナバリング			
対象学生		こども	関連資格		備考								
授業の概要						到達目標							
<p>保育・教育の営みの歴史、理念、制度等について、基礎的・基本的な内容を学ぶ。具体的には、保育機関及び学校の成り立ち、保育・教育に関する思想、基本的法律と制度、保育及び学校教育の内容・方法、教育の今日的課題などについて学び、今後の保育・教育の果たすべき、あるいは果たすことのできる役割機能について考え、保育者・教育者となる私たちが修得すべき知識や技能について一定の提案をする。</p>						<p>本授業の具体的な到達目標は、今日に至る保育・教育の営みの歴史（特に近代教育以降）に関する基礎的・基本的知識を習得すること、「児童の福祉」としての保育、教育の機会均等や義務教育、教育の理念や制度に関する基礎的・基本的知識を習得すること、保育・教育機関が今日の社会の変化のなかで果たすことのできる役割機能について自分の意見を述べること、以上の3点である。</p>							
キーワード		学校の誕生、公教育制度、学校教育の機能、教育を受ける権利、教育課程、教育における関係性											
教授方法		オムニバス講義を中心とし、各テーマ（単元）ごとに質疑応答や討論を実施する。											
履修条件等		特になし											
授業計画													
実施回		授業内容											
1		オリエンテーション:授業の概要、評価方法などを説明する。テキスト全体の内容と趣旨を説明する。											
2		教育の思想（1） 近代以前の教育思想について解説する。ソクラテス、プラトン、コメニウス、ロックなどの教育思想を中心に。											
3		教育の思想（2） 近代以降の教育思想について解説する。ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトなどの教育思想を中心に。											
4		学校や保育機関の歴史（1） 世界や日本の学校や保育機関の成立する要因、並びに普及する経緯を中心に概説する。											
5		学校や保育機関の歴史（2） 日本の学校や保育機関が普及し展開する過程で、それらが社会の変化等によって多様な機能を果たしていくことを説明する。戦後から現在までを中心に											
6		第2回～5回までの内容を確認する小テストを実施する（20分）。子どもの歴史（各時代の子ども観、子どもの状態など）に焦点を当てた教育の歴史を概説する。2年次に開講される「こども学」に繋げる基礎的内容とする。											
7		前回の小テストの講評と質疑応答、並びに討論を実施する（30分）。保育・教育理念・目的を支えるしくみ（1） 学ぶ権利を保障する基本的法制度を中心に解説する。											
8		保育・教育理念・目的を支えるしくみ（2） 諸外国の教育制度との比較で、保育・教育における平等性や公平性を中心に解説する。											
9		子どもは何を学ぶか（1） 戦後の学力観及び教育課程の変遷について、幼稚園教育要領、保育所保育指針、並びに学習指導要領を中心に解説する。											
10		子どもは何を学ぶか（2） 生涯学習の理念と今後の学力保障を考える。アクティブラーニングのねらいや具体的方法、並びに課題などについても考える。											
11		第7回～第10回までの内容を確認する小テストを実施する（20分）。現代の保育・教育の課題（1） いじめ、不登校、教育格差等への対応を考える。質疑応答や討論を取り入れる。											
12		前回の小テストの講評と質疑応答、並びに討論を実施する（30分）現代の保育・教育の課題（2） 今後保育・教育が果たすべき役割機能を考える。質疑応答や討論を取り入れる。											
13		現代の保育・教育課題（3） 子ども・大人関係をどのように捉えるか。これまでの授業内容を踏まえつつ、質疑応答や討論を行う。											
14		本授業の総まとめ。主たるキーワード（基本的知識）を確認するとともに、今後の保育・教育の課題（第11回～13回）を整理する。											
共通の成績評価基準													
成績評価方法と基準													
評価項目		割合		評価基準				評価項目		割合		評価基準	
定期試験		80%		授業全体で習得した基本的知識を確認する。100点満点で60点以上を可とする。				小テスト		20%		各テーマ（単元）ごとに習得した基本的知識を確認する。20点満点で12点以上を可とする。	
授業外における学習（事前・事後学習等）						質問や相談への対応							
教科書を事前に読んでおくこと。新聞等で教育関連の時事について理解しておくこと。						授業中は勿論、授業外でもメール等で質問等に対応する。							
教科書・テキスト		『教育原論』（木山・太田）ミネルヴァ書房				受講生に望むこと		授業等で積極的に、質問を出し、討論に参加すること。					
参考書・参考資料等		授業中に適宜紹介する。				その他・特記事項		特になし。					

授業科目	発達心理学							
担当教員	藤田 勉		必修・選択	必修	単位数	2単位		
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング		
対象学生	こども	関連資格		備考				
授業の概要			到達目標					
<p>ヒトの発達段階（胎生期，乳児期，幼児期，児童期，青年期，成人期，老年期）を知り，各発達段階における発達・成熟過程やそれぞれの段階でみられる特徴的な行動や学習，心理的な問題を学ぶ。特に，保育を实践する上で必要な乳幼児期の発達に関する知識を習得し，子どもへの理解を深めるとともに，子どもが他者との相互的にかかわりを通して発達していくことや初期経験の重要性について保育との関連でとらえる。</p>			<p>発達段階ごとの特徴を理解し，授業全体を通してヒトの発達と学習というものを総合的に考えることができる力を養う。本講義を受講することで，受講生には保育者（保育士，幼稚園教諭，母親，父親等）が留意すべき点を理解するとともに，受講生自身の保育者像を確立するための一助としてもらいたい。</p>					
キーワード	発達，発達段階，学習，幼児，保育者							
教授方法	原則的には講義形式で進められるが，口頭による説明だけではわかりにくいと思われる事項については視聴覚教材を用いて説明する。また，授業の中で新聞記事等の資料を紹介し，受講生に最新の情報を提供するとともに，受講生の感想・意見を発表してもらい討議の材料とする。受講生は授業時間以外で講義内容に関して予習・復習を行うことが求められる。今年度は学期中数回の小テストを実施する予定である。							
履修条件等	特になし。							
授 業 計 画								
実施回	授業内容							
第1回	キックオフ（授業の目的，授業の概要，授業の形式，使用テキスト，成績評価の方法，授業のスケジュールなど）							
第2回	発達とはなにか（発達と発達段階，発達の原理），発達と保育（保育者が発達について学ぶ意義），子どもの発達の特徴							
第3回	胎生期から新生児期の発達の特徴（胎児期から新生児期の成長と影響する要因，知覚の発達，原始反射と原始行動）							
第4回	乳児期の発達の特徴（乳児期の発達と人間関係，愛着の発達，マターナルデプリベーション，運動機能の発達，乳児期の言語発達）							
第5回	幼児期の発達の特徴（幼児期の発達と学習，学習としての遊び，自我のめざめ，第1反抗期）							
第6回	幼児期の身体発育と運動発達（身体発育機序，運動機能の発達と環境）							
第7回	幼児期の認知発達（中心化，三つ山課題，保存課題，アニミズム，相貌的知覚，実念論，人工論，幼児の数量観他）							
第8回	幼児期の思考と言語の発達（自己中心的思考，自己中心語，幼児音，書きことばの発達，鏡映文字，ことばの遅れ他）							
第9回	幼児期の社会性の発達（幼児の発達と人間関係，遊びと人間関係，学級集団での育ち合い）							
第10回	幼児期の発達の発達の特徴を踏まえた保育方法と評価（動機づけ，遊びの発達，保育における評価）							
第11回	児童期以降の発達（幼児期から児童期の接続，児童期の発達と学習，発達加速現象，発達勾配現象，徒党時代，青年期の発達）							
第12回	児童期以降の発達（成人期，老年期）							
第13回	子どもの発達障害の特徴とその対応について							
第14回	授業全体のまとめ							
共通の成績評価基準								
【S】基本的な到達目標を十分に達成し，極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。								
成績評価方法と基準								
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準		
期末試験（筆記）	50	筆記試験により授業内容の理解度を総合的に評価する。		小テスト（筆記）	50	筆記試験により授業内容の理解度を評価する（数回実施する予定）。		
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 授業外における学習（事前・事後学習等） この授業は60時間の授業外学習が必要である。授業に臨むにあたり，指定された教科書の該当箇所や参考資料等を事前に読んでおくこと。授業の中で配付する資料は専用サイトにアップロードする予定なので，授業時間外での学習の補助として利用してもらいたい。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 質問や相談への対応 質問・相談については，原則的には授業時間内で受け付け，当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は，初回授業時間に伝えるメール・アドレスにて受け付ける。 </td> </tr> </table>							授業外における学習（事前・事後学習等） この授業は60時間の授業外学習が必要である。授業に臨むにあたり，指定された教科書の該当箇所や参考資料等を事前に読んでおくこと。授業の中で配付する資料は専用サイトにアップロードする予定なので，授業時間外での学習の補助として利用してもらいたい。	質問や相談への対応 質問・相談については，原則的には授業時間内で受け付け，当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は，初回授業時間に伝えるメール・アドレスにて受け付ける。
授業外における学習（事前・事後学習等） この授業は60時間の授業外学習が必要である。授業に臨むにあたり，指定された教科書の該当箇所や参考資料等を事前に読んでおくこと。授業の中で配付する資料は専用サイトにアップロードする予定なので，授業時間外での学習の補助として利用してもらいたい。	質問や相談への対応 質問・相談については，原則的には授業時間内で受け付け，当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は，初回授業時間に伝えるメール・アドレスにて受け付ける。							
教科書・テキスト	『新版行動科学序説（新版5刷）』 藤田勉・藤田直子 世音社 2019 ISBN：978-4-921012-12-0			受講生に望むこと	本授業を受講することで，受講生には保育・幼児教育を心理学的にとらえる視点をもってもらいたい。			
参考書・参考資料等	『子どもの生活と遊びを創る保育の内容と方法』 太田光洋編 保育出版会 2016 ISBN：978-4-903113-10-4 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》』 藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17206-9 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《見方の“クセ”と“思い込み”編》』 藤田勉 ほおずき書籍 2012 ISBN：978-4-434-17309-7 『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《Q & A編》』 藤田勉 ほおずき書籍			その他・特記事項	出席は授業開始時に確認する。授業開始後30分までは遅刻，それ以降は欠席とする。			

『子どもの生活と遊びを創る保育の内容と方法』太田光洋編 保育
出版会 2016 ISBN : 978-4-903113-10-4
『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《行動編》』藤田勉 ほおず
き書籍 2012 ISBN : 978-4-434-17206-9
『ふじたつとむの子育て・保育虎の巻《見方の“クセ”と“思い込

授業科目	こどもと音楽						
担当教員	大南 匠			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目		こどもと自然					
担当教員	前田 泰弘			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>こどもは自らを取り巻く環境とのかかわりの中から、さまざまなことを学んでいく。特に、自然とのかかわりはそれがもつ可塑性の高さから情操や思考を育む上で優れた教材である。本講では、保育者自身が自然を感じる力を養うとともに、こどもが自然とのかかわることによる発達への効果について考えていく。また、こどもが主体的な遊びの中で見せる環境とのかかわり方やとらえ方、またそれらを促す保育者の配慮や役割について、自然を中心とした受講生自身の直接体験と、その結果のグループ討議を基に考えていく。さらに、国内外で行われる自然を通じた保育・教育の実際や、小学校教科科目である生活科を理解することにより、それへの滑らかな連携としての就学前における自然の教育的取り扱いについて理解を深める。</p> <p>担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。</p>				<p>○自然が子どもの育ちに与える効果について考え、それを保育の中で効果的に実践するための知識と方法を実践的に学ぶことをねらいとする。 ○子どもの興味・関心や育ちに応じて、適宜自然を素材として提示するための基礎的知識を習得することを到達目標とする。</p>			
キーワード	自然、体験教育、身体感覚、生活科						
教授方法	パワーポイント等の提示資料を用いた講義のほか、自然を中心とした受講生自身の体験やそれをもとにしたワークなどを通して授業を進めていく。						
履修条件等	生活科・理科を中心とした小学校での学習教科の内容について、改めて確認をしておくことが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	幼児の学びの理解 -体験学習と概念学習-						
2	こどもの育ちと自然 -自然とは何か-						
3	かかわる力を育む -主体的な環境とのかかわり-						
4	環境としての自然(1) -植物の生育と条件-						
5	環境としての自然(2) -身近な環境になる自然-						
6	環境としての自然(3) -科学的思考と観察-						
7	身体感覚を利用した自然との関わり(1)						
8	身体感覚を利用した自然との関わり(2)						
9	身体感覚を利用した自然との関わり(3)						
10	近代の教育・保育における自然						
11	幼少接続期の教育						
12	小学校生活科の理解						
13	自然体験と子どもの発達						
14	自然を活用した保育						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
試験	80	授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。			課題	20	授業内におけるグループワークへの参加状況をもとに評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
自身がこれまでに体験してきた自然に関するあそびや活動を思い出し、整理しておいて欲しい。				授業前後を中心に適宜受け付ける。			
教科書・テキスト	『子どもが育つ環境と保育の指導法』(保育出版会)			受講生に望むこと	季節を感じて生活することを意識して欲しい。		
参考書・参考資料等	『子どもと自然』(岩波新書)			その他・特記事項	野外で活動をすることもある。準備物は適宜伝える。 担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。		

授業科目	児童家庭福祉						
担当教員	中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>わが国の児童福祉は、すべての子どもがよりよく生きられ、自己実現が保証されることを目指し、その時代に応じた法制度や実践の展開がなされている。しかし一方で、子ども家庭をめぐる諸問題は依然として生じており、児童福祉の一翼である保育現場が担う役割も大きい。本講義では、児童福祉の理念と意義、子ども家庭の現状、児童福祉各分野の課題把握を基礎とし、現代社会における子ども家庭を支援するための保育者として必要な児童福祉に関する知識を体系的・構造的に理解することを目的とする。</p>				<p>ねらい 児童福祉の理念と意義、子どもたちの現状、児童福祉各分野の現状把握を基礎とし、現代社会における児童の位置づけを全体的に把握すること。</p> <p>到達目標 児童福祉の理念と意義、子どもたちの現状、児童福祉各分野の現状を理解する。 保育者として必要な児童福祉に関する知識及び考え方を体系的・構造的に理解する。 児童家庭福祉を担う専門職と支援技術について理解する。</p>			
キーワード	児童家庭福祉の理念 児童福祉法 児童家庭福祉の機関・施設・専門職						
教授方法	講義を中心に行う。毎回レジュメを配布する。児童福祉の実情を理解するため視覚教材を用いる回もある。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	児童福祉の理念、意義について解説する。						
第2回	児童福祉の歴史的展開、また現在の子ども家庭を取り巻く環境について解説する。						
第3回	児童福祉の法体系、制度について解説する。						
第4回	児童福祉にかかわる機関、施設の概要について解説する。						
第5回	児童虐待問題について、その実態の理解および虐待防止のための施策と課題について解説する。						
第6回	子どもの養護について考える。関連する児童福祉施設について解説する。						
第7回	子どもの養護について考える。里親制度等の家庭的養護について解説する。						
第8回	障がい児福祉について考える。制度や関連施設について解説する。						
第9回	少年非行と児童福祉施策、情緒障がいと児童福祉施策について解説する。						
第10回	保育・子育て支援・次世代育成支援について解説する。						
第11回	児童福祉の人材について解説する。併せて、専門職間のネットワークについて解説する。						
第12回	児童福祉援助活動における専門技術について、事例検討を含み解説する。						
第13回	児童福祉における保育者の位置づけについて、今後の課題や展開を含め考える。						
第14回	授業総括、試験						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	筆記試験の点数			中間レポート	10	レポートの内容
出席	10	出席状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。 配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。</p>					<p>質問等がある場合は、授業内もしくは研究室で受け付ける。</p>		
教科書・テキスト	なし				受講生に望むこと	本講義の理解を深めるためには、新聞やテレビで日々の子ども家庭に関するニュースに触れることが効果的である。	
参考書・参考資料等	なし				その他・特記事項	なし	

授業科目		こどもと運動					
担当教員	白澤 舞			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
乳幼児期における運動機能の発達と習熟過程について理解するとともに、子どもたちが心と身体を積極的に動かして生活したり遊んだりすることを支える保育者の役割と指導方法を学ぶ。そのために、自らの身体を使ってさまざまな環境下での多様な活動を体験し、身体を動かすことの意味を理解する。また、事例検討や教材研究、指導計画の立案を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいかについて具体的な実践の方法を学ぶ。				1) 乳幼児期の運動機能の発達の特徴を理解し、説明することができる。 2) 子どもの運動能力を育てる保育者の援助について理解し、説明することができる。 3) 運動能力の育ちを安全に支え、豊かにするための方策について思考することができる。 4) 運動能力の育ちに関わる教材の制作、活用ができる。			
キーワード	運動機能の発達 運動能力の習熟過程 保育者の役割						
教授方法	実技を伴う演習形式の授業である。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	子どもの運動機能の発達と習熟過程						
2	子どもの生活と運動（子どもの活動を観察する）						
3	身体を動かすことを知る～いろいろな環境下で動いてみる～						
4	身体を動かすことを知る～人・物と一緒に動いてみる～						
5	ルールのある遊びの実践と留意点						
6	物を使った遊びの実践と留意点（既成の遊具・用具を使って）						
7	物を使った遊びの実践と留意点（身近な物を使って）						
8	戸外での遊びの実践と留意点（園庭・公園での遊び）						
9	戸外での遊びの実践と留意点（自然の中での遊び）						
10	運動会への展開を意識した実践と工夫						
11	保育の展開（年齢に応じたねらいを考え、教材研究を行う）						
12	保育の展開（導入・展開・まとめの流れ、環境の設定と留意点を明確にし、指導計画を組み立てる）						
13	保育の展開（相互に指導計画を共有し、討議を行う）						
14	まとめと総括						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	0			小テスト	0		
授業レポート	30	期末レポート課題		上記以外の授業評価	70	授業内の活動への取り組み（活動記録・討議）30% 指導計画・実施・評価記録40%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教材研究や指導計画の作成、発表準備、記録の作成など。				授業時およびオフィスアワーに受け付けます。メールでも対応します。連絡先については授業内にお知らせします。			
教科書・テキスト	特に定めなし。必要に応じてプリントを配布する。			受講生に望むこと	運動の得意不得意、好き嫌いにかかわらず、どのようにしたら楽しく身体を動かせるかを毎時考えながら受講してください。		
参考書・参考資料等	参考書：『幼児期における運動発達と運動遊びの指導』杉原隆、河邊貢子著（ミネルヴァ書房） その他、授業の中で紹介する。			その他・特記事項	3回～13回の授業は、運動のできる服装で参加してください。		

授業科目	保育者論						
担当教員	荒井 聡史・太田 光洋			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
教職（保育者）の意義、保育者養成制度の概略、保育者の役割と倫理、専門性と職務内容、保育者の研修・専門性向上、地域との連携の重要性と必要性等、保育者としてのあり方について学ぶ。 担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。				教職・保育職の意義、保育者としての役割と倫理、具体的な職務内容などについて理解を深め、保育者としてのあり方について主体的に考え、判断し、行動できるようになる			
キーワード	保育者の身分・地位、保育者集団の特徴と課題、保育者の仕事、子ども理解、保育者の専門性、地域・関係諸機関との協働						
教授方法	講義。一部ディスカッションを含む。						
履修条件等	教育原理、保育原理の履修を前提とする。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	講義概要とオリエンテーション 保育者の社会的意義と身分・地位 幼稚園教諭の身分・地位						
2	保育者の社会的意義と身分・地位 保育士の身分・地位						
3	保育者の仕事 保育者の1日						
4	保育者の仕事 園務分掌						
5	保育者の集団 保育者集団のジェンダー						
6	保育者の集団 保育文化の伝承の問題						
7	保育者の成長過程と研修						
8	子どもを理解するということ 子ども理解の諸側面						
9	子どもを理解するということ 生きる子どもを理解する						
10	保育者の専門性とは何か 反省的实践家としての保育者						
11	保育者の専門性とは何か 保育者の人間性と専門性						
12	保育の中で自分を見つめる						
13	地域・関係機関との連携・協働						
14	保育者の成長と資質向上						
共通の成績評価基準							
【S】授業に主体的に参加し、保育者の課題を自己の課題として受け止め、とてもよく学ぶことができている。【A】授業に主体的に参加し、保育者の課題を自己の課題として受け止め、学ぶことができている。【B】授業に主体的に参加し、保育者の課題を自己の課題として受け止めようとする姿勢はあるが、授業内容と関連付けて学ぶことができている。【C】授業に主体的に参加してはいるが、保育者の課題を自己の課題として受け止める姿勢にかけ、授業内容の理解も十分ではない。【D】授業に対する主体的姿勢にかけ、授業内容の理解も不十分である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験（筆記）	30	授業全体を通じて習得した知識の状況を確認する。		授業レポートA	21	自己の経験と学習にもとづいて求める保育者像を明確にできているかを確認する。	
授業レポートB	21	授業内容を主体的に受け止め、保育者の課題を自己の課題として内面化できているか確認する。		授業内小レポート	28	毎授業回終了後に授業内容について主体的に学習できたかを確認する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
次回の授業内容に関連する教科書該当部分、事前配布資料を読み、予習カードを作成する。 毎回指定された課題・問題に取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・メールでの質問も受け付ける。 			
教科書・テキスト	木山衛哉 / 太田光洋 編著『教職論』ミネルヴァ書房、2017年。			受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭免許、保育士資格という社会的地位の取得に関わる授業であるため、受講生には主体的・積極的な受講態度を望む。 		
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介します。また、授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 実践記録・新聞記事等を読み、保育・幼児教育の現状を把握する。また、テキスト、資料、参考図書などを活用し、保育者のあり方について深く考えること。 担当教員の太田は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めるなどの実務経験を有している。 		

授業科目		社会福祉概論					
担当教員	尾島 豊			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>社会保障の体系を概観した上で、最初に母子保健を例に主な人口動態の指標を学ぶ。次に福祉の歴史を概観してから、各論として 児童福祉（子育て支援と養護問題を中心に）、障害児・者福祉、高齢者福祉（介護保険を中心に）の各サービスを検討してから、生活保護と貧困の現状を学ぶ。最後に利用者の権利擁護の現状と課題に触れる。</p>				<p>主な社会福祉サービスの各分野の現状と主な制度を概観する。理解の目標は、保育士として仕事をやる上で最低限の知識を修得することにある。</p>			
キーワード	社会保障、社会福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、生活保護、権利擁護						
教授方法	講義形式で、各分野のダイジェストを伝え、また簡単なレジュメを配布する。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	社会保障の体系と社会福祉の概念						
2	主な人口動態の指標と母子保健						
3	社会福祉の歴史 - 戦前のイギリスと日本						
4	社会福祉の歴史 - 戦後の流れ						
5	社会福祉の歴史 - 1990年代以後						
6	児童家庭福祉 - 児童福祉から児童福祉へ						
7	児童家庭福祉 - 社会的養護と児童虐待						
8	児童家庭福祉 - 障害児福祉と母子福祉						
9	障害者福祉 - 身体障害者・知的障害者・精神障害者の各福祉と障害者総合支援法						
10	障害者福祉 - 発達障害について						
11	高齢者福祉 - 介護保険制度について						
12	地域福祉と利用者保護、権利擁護						
13	貧困と生活保護制度						
14	権利擁護制度						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	80	関心のある分野についての現状と課題			出席等	20	出席状況と授業への参加度
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
関心のある領域の学習、ワークショップ等への参加				リアクションペーパーに記載、翌週に回答する。			
教科書・テキスト	社会福祉概論（第5版）勁草書房			受講生に望むこと	関心のある領域の学習、ワークショップ等への参加		
参考書・参考資料等	講義をまとめたレジュメを配布する。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	こども学					
担当教員	荒井 聡史・木山 徹哉・山本 直樹		必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生	こども	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>多様な視点から子どもという存在を捉え直し、従来の子どもをめぐる言説の批判的再検討を行う中で、保育実践の基礎となる子ども観を深めていく。</p> <p>セッション1では心性史と呼ばれる歴史学の視点にもとづき、絵画や映画などの多種多様な資料を通して、人々の日常生活の中に潜在している子どもという存在についての意識を描き出す。</p> <p>セッション2では日本における子ども論の展開および、教育思想の潮流を紹介し、子どもの生活世界から子どもという存在を捉え直す。</p> <p>セッション3では子どもの表現活動に着目し、個々の子どもたちの表現が織り成す文化のなかで自己形成する子どもの姿を描き出す。</p>			<p>従来の子どもをめぐる言説を批判的に再検討することを通して、受講者が保育実践の基礎となる子ども観を子どもの具体的な生活に即して深めることができるようになることを目標とする。</p>			
キーワード	こどものイメージ、こどもの生活世界、こどもの演劇体験					
教授方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、オムニバス形式。プレゼンテーションソフトによる講義を中心に、豊富な視聴覚教材を活用して授業を実施する。 ・zoomビデオ会議アプリケーションを利用した講義を基本とする。 					
履修条件等	特になし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	本講義のガイダンス					
2	(セッション1) 歴史の中の子ども 絵画や映画に描かれる「子ども」(子どもの歴史や現状を見る方法)					
3	(セッション1) 歴史の中の子ども ph.アリエスの子ども期を題材に					
4	(セッション1) 歴史の中の子ども 日本の子どもの歴史(1) - 近代以前					
5	(セッション1) 歴史の中の子ども 日本の子どもの歴史(2) - 近代~現代					
6	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み こども学とは何か					
7	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み 「こども」という存在の特徴					
8	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み 「こどもの生活世界」という視点					
9	(セッション2) 子ども学の理論的枠組み ファンタジー体験とこどもの秘密					
10	(セッション3) 子どもの文化から見た子ども 表現の発達: 表れと表し					
11	(セッション3) 子どもの文化から見た子ども ごっこの世界					
12	(セッション3) 子どもの文化から見た子ども 劇的本能: 坪内逍遙の児童教育論より					
13	(セッション3) 子どもの文化から見た子ども 遊びとコミュニケーション					
14	本講義のまとめと確認					
共通の成績評価基準						
<p>【S】授業内容をよく理解し、こどもをめぐる課題を主体的に受け止め、自発的な学習へと発展させることができている。【A】授業内容を理解し、こどもをめぐる課題を主体的に受け止め、自発的な学習へと発展させることができている。【B】授業内容を理解しているが、こどもをめぐる課題を主体的に受け止め、自発的な学習へと発展させることが不十分である。【C】授業内容をよく理解しているが、こどもをめぐる課題を主体的に受け止めることができている。【D】授業内容の理解が不十分で、こどもをめぐる課題を主体的に受け止めることもできていない。</p>						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
セッション・レポート	90	各セッション終了後に課されるレポート(30点満点)3回を通して授業内容の理解度を評価する。	総括レポート	10	授業内容全体の理解にもとづき、課題を主体的、発展的に深めることができているかを評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			質問や相談への対応			
<p>次回の授業内容に関連する資料等を読み、授業内容についての問題意識を持つ。毎回指定された課題・問題に取り組む。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業内で前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・メールでの質問も受け付ける。 			
教科書・テキスト	使用しない。		受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭免許、保育士資格という社会的地位の取得に関わる授業であるため、受講生には主体的・積極的な受講態度を望む。 		
参考書・参考資料等	授業中に適宜参考書を紹介する。また、授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県立大学ポータルサイトを通じて資料配布、レポート提出を行うので、授業前に必ずサイトを確認しておくこと。 ・日頃からテキスト、資料、参考図書、新聞記事等を読み、子どもをめぐる問題についての知識と理解を深めるとともに、自己の持つ子ども観について深く考えること。 		

授業科目		こどもと造形					
担当教員	宮城 正作			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本授業では、こどもの造形活動の発達や展開、保育者としての支援のあり方について学ぶ。とくに、「色彩・形態・材質」、「材料・用具」、「安全・衛生面」、「言葉掛け」などについて、幼児造形活動を支援するという観点から理解を深めていく。また、講義による知識の獲得を最終目標とするのではなく、学んだ知識を実制作を通して活用することで、受講者が知識や技術を技能として定着できるように授業を進行する。くわえて、実制作から知識を引き出すような展開も重視する。</p>				<p>授業内で使用する材料や用具の適切な使用法を理解し、身につける。造形表現の発達過程について理解する。習得した知識や技術が保育者としてどのように活かされるか考えられる。</p>			
キーワード	造形表現、材料・用具、色彩・形体・材質、発達過程						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式でおこなう。						
履修条件等	とくになし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	「花冠をつくろう！ 基本編」 ・配色に着目して、お花紙を用いた花冠作りに取り組む。						
2	「花冠をつくろう！ 応用編」 ・基本の紙花の作り方をもとに、オリジナルの花冠を制作する。						
3	「花冠をつくろう！ 完成編」 ・基本の紙花の作り方をもとにオリジナルの花冠を完成させ、できた作品の撮影をおこなう。						
4	「オリジナルシールをつくろう！ シール制作編」 ・シールを用いた幼児造形活動の展開方法について学ぶ。						
5	「オリジナルシールをつくろう！ シール活用編」 ・前回制作した手作りシールを、グリーティングカードの装飾材料として活用することで、						
6	「描画材の基礎知識 絵の具編」 ・こどもの造形活動に適した描画材について、こどもの発達段階や安全・衛生面、基底材との関係に着目して学ぶ。						
7	「描画材の基礎知識 クレヨン・マーカー編」 ・こどもの造形活動に適した描画材について、こどもの発達過程や安全・衛生面、基底材との関係に着目して学ぶ。						
8	「こどもの平面表現の発達過程」 ・こどもの平面表現の発達過程について講義を中心に解説する。						
9	「こどもの立体表現の発達過程」 ・こどもの立体表現の発達過程について講義を中心に解説する。						
10	「色の基礎知識 色水遊び編」 ・色の三要素である「色相・彩度・明度」について、「色水遊び」とおして学ぶ。						
11	「色の基礎知識 名札づくり編」 ・こどもの色彩感覚に着目しつつ、配色について「名札づくり」を通して学ぶ。						
12	「モダンテクニックとコラージュA」 ・コラージュに使用する手づくり色紙を、モダンテクニックを用いて制作する。						
13	「モダンテクニックとコラージュB」 ・手づくりの色紙を用いて、コラージュ作品を制作する。						
14	「モダンテクニックとコラージュC」 ・手づくりの色紙を用いて、コラージュ作品を制作する。						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
筆記試験	60	講義で解説した内容、配布したプリントの内容、制作をおして得られた知識や技術に関する問題を出題する。			課題作品の提出	40	授業内で制作した課題作品を「記録シート」とともに評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
各作品を完成させるための時間は、授業時間のみでは確保できませんので、授業外の時間も利用して制作してください。				質問は随時受け付ける。 miyagi.masanari@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	とくに使用しない。			受講生に望むこと	あなたの「好き」「楽しい」「面白い」という気持ちを、造形活動をおして表現してください。そのことが、子どもの造形活動を支える一歩目です。		
参考書・参考資料等	プリントを毎回配布します。			その他・特記事項	とくになし。		

授業科目	小児保健						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
こどもの健康課題の歴史の変遷、こどもを取り巻く法的根拠を確認し、母子保健や児童福祉の理念を理解する。新生児から思春期までの成長・発達を学び、発達段階に必要な養護を理解する。また、こどもの日常生活を理解し、生活環境がこどもの成長発達に及ぼす影響を理解する。担当教員は、地域における保健師・助産師の実務経験を有しており、多職種間連携等の実務に活かすことのできる視点を教授できる。				<ul style="list-style-type: none"> こどもの健康課題の歴史の変遷、こどもを取り巻く法的根拠等から母子保健や児童福祉の理念を学ぶ。 健康なこどもの発育・発達の知識を修得する。 健やかなこどもの発達のために整える環境を理解する 			
キーワード	こども 健康 保健						
教授方法	講義（一部グループワーク、演習を含む）						
履修条件等	とくになし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	こどもの健康課題とその対策のあゆみ						
2	日常生活の重要性と母子保健や児童福祉の理念						
3	こどもの成長発達と健康生活						
4	こどもの成長発達と健康生活						
5	こどもの成長発達と健康生活						
6	こどもの成長発達と健康生活						
7	こどもの成長発達と健康生活						
8	こどもの成長発達と健康生活						
9	こどものこころの健康						
10	こどものこころの健康						
11	子育てを支援する社会資源（母子保健サービス）						
12	子育てを支援する社会資源（保護者会や自主グループの活動）						
13	健やかなこどもを育てる社会づくりを考えよう（グループワーク、エコマップづくり）						
14	健やかなこどもを育てる社会づくりを考えよう（グループ発表）・まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	80	グループワーク発表と定期試験の合計で100点満点として本学の基準で評価する		グループ発表	20	グループ参加度、資料、発表等	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
図書館にある文献・視聴覚教材を活用し、事前・事後学習で授業内容を深めることを推奨する				オフィスパワーにて対応			
教科書・テキスト	松田博雄・金森三枝：子どもの保健.中央法規			受講生に望むこと	根拠に基づく保育のための基礎的な知識です。「なぜ？」を考え学びを深めよう。		
参考書・参考資料等	鈴木美枝子編：子どもの保健1.創成社 村松十和・岡本美和子：子どもの保健.樹村房 その他、学習資源については順次紹介する			その他・特記事項	とくになし		

授業科目		海外プログラム			
担当教員	前田 泰弘・小笠原 明子・安氏 洋子・渡邊 望	必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	実験・実習
対象学生	こども	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
<p>フィンランド共和国（以下フィンランド）における子育てや子どもの発達支援・保育・教育の実際について、現地とのオンラインでの研修を通して実践的に理解する。本講では、その事前指導として北欧地域における社会福祉や保育・教育の制度、子育てに関する思想や文化などについて理解する。オンライン研修では、現地教育機関の教員によるフィンランドの子育てや保育・教育の実際などに関する講義・ディスカッションのほか、ICTを用いた教育技法などについて演習を行う。また、現地の映像や保育関係者とのオンラインセッションを通して、保育の実際についてもより実践的に体験する。事後指導では、オンライン研修で学んだ学習内容の振り返りと報告書の作成を行う。これをもとに報告会を行い、自らの保育の資質向上に向けた昇華を図るとともに、本邦の保育の現状に対する俯瞰的な視野からの理解とその改善に対する考察を行う。担当教員の前田は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。</p> <p>担当教員の小笠原は、保育現場での保育や療育の実務経験を有しており、子どもの発達状況や保育士のかかわり方など、実践事例を交えながら授業を展開する。これにより、学生自身が様々な面から子どもを考察し、実務に活かすことができる能力を身につけられるよう指導する。</p>			<p>海外の保育事情やその背景となる文化や思想の実際を知り、子どもの発達支援・保育に関する視野を広げる。また、海外とのオンラインによるやりとりを通して、自らの問題解決能力やコミュニケーション能力を発揮するとともに、それを省察する。このような体験をもとに、自らの保育者としての資質の向上ならびに保育観や保育に対する意欲・態度を深化させることをねらいとする。</p>		
キーワード	フィンランド、OECD、エデュケア、ICT教育、野外（自然）保育				
教授方法	事前事後指導（第1回～第4回、第12回～第14回）は講義形式で行う。オンライン研修（第5回～第11回）では、現地の大学や保育者養成教員による講義や演習とともに、現地保育所等とのやりとりによる保育の実際の体験を行う。				
履修条件等	本プログラム参加のための所定の手続きを完遂していること。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	海外プログラムの概要と意義				
2	フィンランドの文化・思想と子育て				
3	フィンランドの保育・教育制度（社会教育を含む）				
4	フィンランドの野外（自然）保育				
5	オンライン研修の心構えと準備				
6	オンライン講義（1）フィンランドの保育・幼児教育				
7	オンライン講義（2）フィンランドの子育て・文化				
8	オンライン講義（3）フィンランドの野外（自然）保育の実際				
9	オンライン演習（1）フィンランド人の生活と思想				
10	オンライン演習（2）フィンランドの保育-公立保育所・野外保育園-				
11	オンライン演習（3）特徴的な保育技術（ICTを用いた保育・オンライン教育の実際）				
12	研修の振り返り				
13	研修報告書、報告会の準備				
14	研修報告会				
共通の成績評価基準					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
課題	50	事前指導およびオンライン研修での参加の様子、課題の遂行状態、振り返りの内容等を総合的に評価する。	課題	50	研修後に提出を課す報告書及び報告会の内容を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
フィンランドの文化、教育・保育等について、積極的に事前学習を行って欲しい。			授業の前後を主として、適宜受け付ける。		
教科書・テキスト	資料を配布する。		受講生に望むこと	本邦の保育・幼児教育・社会福祉（児童福祉）について、事前に十分理解しておいて欲しい。また、研修をより充実させるため、要望等を伝えてほしい。	

参考書・ 参考資料等	授業時に紹介する。	その他・ 特記事項	担当教員の前田は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。 担当教員の小笠原は、保育現場における保育の実務経験を有している。
---------------	-----------	--------------	--

授業科目	社会的養護						
担当教員	尾島 豊			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童や利用者の権利擁護について、児童福祉施設の今日的動向にふれながら学ぶ。社会的養護を要する児童や家庭等の現代的な背景、児童養護施設・乳児院等の児童福祉施設・里親制度等の歴史、現状、課題等を学ぶことにより、保育士の役割等を考え、理解する。				社会的養護問題（障害児・者を含む）の歴史と現状、そして課題を学び、社会的養護の意義と必要性について理解することが目的。虐待ケースの支援過程や、児童相談所の運営、児童福祉施設（児童養護施設・乳児院）の実際を学びながら理解する。学習の目標は、保育士として必要な社会的養護の知識を習得することにある。3年次「社会的養護内容」は、この授業の続編で、児童養護施設・乳児院以外の児童福祉施設の役割と里親を中心とした家庭養護について学ぶ。			
キーワード	社会的養護、児童福祉施設、児童相談所、児童虐待への対応、子どもの権利擁護、施設養護と家庭養護など						
教授方法	講義形式と場合によってDVD等視覚教材を使用。また現場の職員を呼んで各分野における現状と課題について話を聞き、議論する。						
履修条件等	児童福祉論を聞いていること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	社会的養護の基礎的な概念と分野、及び本講義で扱う分野について						
2	社会的養護の意義の理解 - 家庭問題と社会的養護						
3	社会的養護の意義の理解 - 児童の権利と社会的養護						
4	社会的養護の意義の理解 - 子どもの貧困と社会的養護						
5	社会的養護の歴史 - 明治・大正期						
6	社会的養護の歴史 - 昭和・戦後期						
7	社会的養護の歴史（現状） - 児童虐待防止法とその改正 -						
8	社会的養護の分野で働くということ（外部研修を予定）						
9	社会的養護の分野で働くということ（外部研修を予定）						
10	社会的養護の課題 - 小規模ケア・リーピングケア・自立支援・家族統合-						
11	社会的養護の課題 - 児童養護施設における処遇の現状と課題-						
12	社会的養護の課題 - 乳児院における処遇の現状と課題-						
13	障がい児・者施設における支援の現状と課題						
14	テスト						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
最終講義でのテスト	50%	基礎的な概念の理解度			課題レポート	40%	講義で扱った各施設・機関の理解度
授業への参加度	10%	出欠席、授業への参加度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
紹介する外部研修への参加。ゲスト講師の話に関する理解を深める。				リアクションペーパーに記載。翌週に回答。			
教科書・テキスト	「社会的養護」みらい			受講生に望むこと	紹介する外部研修への参加。ゲスト講師の話に関する理解を深める		
参考書・参考資料等	ゲスト講師の配布資料			その他・特記事項	時になし。		

授業科目	こどもの食と栄養						
担当教員	上延 麻耶			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>子どもの健全な成長・発達に欠かすことができない栄養に関する基本的事項を学習する。また、子どもの成長・発達と栄養・食生活との関係を理解し、発育段階に応じて適切な食生活の支援ができる知識と技術を修得する。さらに、特別な配慮を必要とする子どもの栄養、児童福祉施設における食事、食育の基本的事項などについて理解し、実践につなげる力を養う。</p>				<p>栄養に関する基本的知識を修得し、子どもの成長・発達における栄養・食生活の意義や特徴、関連性を理解し、発育段階に応じた食生活の支援ができる知識と技術を獲得する。また、特別な配慮を必要とする子どもの栄養や児童福祉施設における食事、食育の基本的事項などについて学び、実践につなげる力を養う。</p>			
キーワード	子どもの食と栄養、幼稚園						
教授方法	講義および演習形式で行う。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	子どもの健康と食生活の意義						
2	栄養に関する基本的知識						
3	栄養に関する基本的知識						
4	栄養に関する基本的知識						
5	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活						
6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活						
7	幼児期の心身の発達と食生活						
8	幼児期の心身の発達と食生活						
9	学童期の心身の発達と食生活						
10	食育の基本と内容						
11	地域や家庭と連携した食育の展開						
12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養						
13	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養						
14	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験 (筆記)	60	授業内容の理解度、目標到達度を評価する。			小テスト	20	単元ごとに学習内容の理解度を評価する。
授業レポ ート	20	テーマに沿って内容がまとめられているか、調べた内容を正確に理解しているかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
指定された課題に取り組む。				質問は講義の前後や講義中に受け付ける。授業のはじめに、前時の講義内容に関する質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・ テキスト	最新子どもの食と栄養－食生活の基礎を築くために－、飯塚美和子他、学健書院、2020			受講生に 望むこと	主体的に取り組むこと。		
参考書・ 参考資料等	適宜資料を配布する。			その他・ 特記事項	特になし		

授業科目	子育て支援の心理学						
担当教員	中山 智哉・藤田 勉・金山 美和子		必修・選択	選択	単位数	2単位	
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
近年、急速な社会情勢の変化から、わが国の子育て環境が一段と厳しさを増している。そうした中、親の育児不安の増大や児童虐待の増加、親子の愛着不全、少子化による子ども同士のふれあいの減少など、子どもの育ちに関するさまざまな課題が指摘されている。本講義では、こうした現代の子育て家庭をめぐる社会現状や課題を把握するとともに、生涯発達の見点から子どもの育ち、親としての育ち、家族・家庭の意義や機能についての理解を深める。また、喫緊の課題となっている子どもの心の健康や親の子育てを支える具体的な支援方法についても学んでいく。			生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその過程を包括的に捉える視点を習得する。 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 子どもの精神保健とその課題について理解する。				
キーワード	生涯発達心理学 家庭支援 精神保健						
教授方法	講義および演習 3名の教員（藤田・金山・中山）によるオムニバス						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	子ども家庭支援の心理学について概要を把握する（担当：中山）						
第2回	胎児期・乳児期の発達と親子関係（担当：藤田）						
第3回	幼児期の発達と親子関係（担当：藤田）						
第4回	学童期・青年期の発達と親子関係の変化（担当：藤田）						
第5回	成人期・老年期の発達と家族関係（担当：藤田）						
第6回	家族・家庭の意義と機能、親子関係の発達と支援、家族システム論（担当：金山）						
第7回	妊娠から出産、育児までの親意識 親育ち子育てを支える環境（担当：金山）						
第8回	出産、子育てを取り巻く社会的状況（担当：金山）						
第9回	ライフコースの多様性 共働き世帯の増加 性役割分業 男女共同参画（担当：金山）						
第10回	虐待の疑いがある家庭、精神疾患を抱えた子育て、外国にルーツをもつ家庭への支援（担当：中山）						
第11回	発達障がいを含む「気になる子ども」とその家庭の支援（担当：中山）						
第12回	乳幼児期から学童期にかけての精神保健（担当：中山）						
第13回	学童期以降の精神保健（担当：中山）						
第14回	授業のまとめ・振り返り（担当：中山）						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
試験・レポート	90	3名の教員が30%ずつ評価する。試験・レポートは担当教員の指示に従う。	出席	10	出席状況		
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応				
毎回指定された課題・問題に取り組む。 配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。			質問等がある場合は、授業内もしくはメールで受け付ける。				
教科書・テキスト	なし		受講生に望むこと	発達心理学・家庭支援・精神保健などの知識を統合し、実践に役立てることができるよう創意・工夫した学びを望む。			
参考書・参考資料等	なし		その他・特記事項	なし			

授業科目	小児保健						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
こどもの健康課題の歴史の変遷、こどもを取り巻く法的根拠を確認し、母子保健や児童福祉の意義を理解する。新生児から思春期までの成長・発達を学び、発達段階に必要な養護を理解する。また、こどもの病気・事故・ケガなどに関する知識を学び、予防方法や対処方法の知識、こどもの健康状態の把握方法について学ぶ。				<ul style="list-style-type: none"> こどもの健康課題の歴史の変遷、こどもを取り巻く法的根拠等から母子保健や児童福祉の理念を理解する。 健康なこどもの発育・発達の知識を修得する。 健やかなこどもの発達のために整える環境を理解する 乳幼児がかかりやすい病気・事故・ケガを、その予防方法や対処方法と共に知識を学ぶ 			
キーワード	こども 保健 健康 事故予防 疾病予防						
教授方法	講義、演習、グループワーク、グループ発表						
履修条件等	とくになし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 健康の概念と指標 母子保健のあゆみ						
2	こどもの身体発育について						
3	こどもの運動機能の発達						
4	こどもの生理的機能の発達						
5	健康状態の観察と早期発見						
6	こどもの主な疾病と予防						
7	こどもの主な疾病と予防						
8	こどもに起こりやすい事故とその予防						
9	こどものこころの健康						
10	児童相談所からみえる家庭環境の実際						
11	障がいをもつこどもとの関わりの実際(7/14水曜日4限予定)						
12	健やかなこどもを育む社会資源 グループ発表						
13	健やかなこどもを育む社会 グループワーク(エコマップづくり)						
14	健やかなこどもを育む社会 グループ発表とまとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	80	グループ発表と合計し100点満点とし大学の基準に準ずる			グループ発表と資料	20	グループワークと発表の評価表を用いて、自己評価と教員評価の合計の20%を定期試験の80%に加算する
授業外における学習(事前・事後学習等)							
グループ発表のための学習及び資料づくりなど				質問や相談は授業終了後確保する			
教科書・テキスト	鈴木美枝子編 これだけはおさえない保育者のための子どもの保健 創成社			受講生に望むこと	積極的に事前事後学習し発言してほしい		
参考書・参考資料等	参考書は随時紹介する			その他・特記事項	ゲストスピーカーの講義は日程変更の可能性あり 障害をもつ子どもとの関わり(7/14水4限) 児童相談所から見える過程(未定)		

授業科目	自然保育論					
担当教員	小笠原 明子		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング
対象学生	こども	関連資格		備考		
授業の概要			到達目標			
<p>自然の中には子どもの動機づけや創造性を高める素材が多く存在しており、子どもの興味や状況に応じた活動の設定が可能である。このような条件を備えた自然環境を生かした保育は、子どもが潜在的にもつ感覚を自らの感性とベースで発揮することを可能としていく。自然とのかかわりの中で実際にどのような活動が行なわれるのか考え、さらに、それらを促す保育者の配慮や役割について考える。</p> <p>担当教員は、保育現場における保育の実務経験を有しており、子どもの発達状況や保育士のかかわり方など、実践での事例を交えながら授業を展開し、学生自身が様々な面から子どもを考察し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p>			<p>子どもは自然の中で過ごすことで、その変化を自らの感覚を通して感じ取り、自発的にかかわるようになる。このような自然を通じた保育は子どもの育ちを支える基盤になると言える。本講では自然を保育の教材とし、それを保育の中で豊かに生かせるよう、自身の経験も踏まえて探求することを目標とする。</p>			
キーワード	自然、保育、保育者のかかわり、子どもの世界					
教授方法	講義形式で実施し、各講義において演習課題を設け授業の内容の理解を深め、実践に結びつくようにする					
履修条件等	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	自然保育とは					
2	保育所保育指針・幼稚園教育要領における「自然」とは					
3	自然環境を生かした保育					
4	自然環境を生かした保育（保育者のかかわり）					
5	自然環境を生かした保育（体験を通して育つ）					
6	自然環境を生かした保育（子どもの世界）					
7	総括（知識の確認とまとめ）					
共通の成績評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	70%	講義内容を理解できているか		授業レポート	30%	自身の考えを述べているか
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
今後の実習に繋げる（目標と課題の明確化）				随時対応する		
教科書・テキスト	講義において適宜紹介する			受講生に望むこと	自然に興味をもち受講してほしい	
参考書・参考資料等	適宜資料を配付する			その他・特記事項	担当教員は、保育現場における保育の実務経験を有しております。	

授業科目	音楽表現演習						
担当教員	大南 匠			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1年	開講学期	2・3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	保育内容（言葉）						
担当教員	渡邊 望			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>保育内容（言葉）では、他の領域との関連性をふまえながら、生きる力の基礎としての言葉の役割について理解するとともに、養育者（母親・家族・保育者）や、仲間との豊かなことばの環境の中で言葉を獲得していくことを学ぶ。また、それらをもとに言葉の豊かな育ちにかかわる保育内容と指導法について、絵本や紙芝居などの、実際の児童文化財などに触れながら理解を深め、言葉に対する感覚を養つための実践力を育む。</p>				<p>1．ことばの機能や言葉の持つ意味について理解する。 2．ことばの発達過程について理解するとともに、それを支える保育者の在り方を身に付ける。 3．領域「言葉」の内容及び他領域との関わりを理解する。 4．児童文化財に積極的に触れ教材研究を行うとともに、活用する力を身に付ける。</p>			
キーワード	5領域、言葉、児童文化財、絵本						
教授方法	講義で行う部分と、受講者が実際に読んだり、演じたり、発表したりする部分を設け、実際の保育現場での展開方法についても検討していきます。積極的に参加するように心がけてください。						
履修条件等	「保育原理」や「発達心理学」で学んだこと、保育の基本的な考え方や育ちの道筋について、理解していることを前提に授業を進めます。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業のねらいと内容、進め方について						
2	領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱い、領域保育内容言葉における、ことばの機能、ことばが持つ意味の理解						
3	領域保育内容言葉の変容と他の領域との関係						
4	保育内容言葉と子どもの育ちの関係						
5	絵本の機能と読み聞かせの方法について						
6	紙芝居の歴史と演じ方の理解と実演						
7	ことばを育てる活動とその具体的な指導法の理解						
8	ことばの発達的特徴とその援助方法についての計画と評価のあり方						
9	ペープサートの作り方および、演じる際の注意点と実演						
10	ことばを豊かにするごっこ遊びについての展開と方法						
11	教材研究（情報機器の活用を含む） こどものことばを育てる遊びと指導						
12	指導案作成 こどものことばを育てる遊びと指導						
13	模擬保育と討議 こどものことばを育てる遊びと指導						
14	授業総括						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
確認テスト（筆記試）	40	ことばの発達と保育者のかかわりについて筆記試験を行う。授業内容を理解しているかで評価します。		レポート	20	「私が推奨する絵本とその特徴」絵本の紹介レポートを作成する。	
レポート	20	「ことばを豊かにする遊びの展開」子どもの姿をイメージしながら「遊び」を計画する。		課題発表	20	「ICTを活用した保育教材の制作」グループで制作・発表を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。絵本などの児童文化財は「知っている」だけではなく、子ども達の前で「できる」ことが大切です。授業で紹介された内容を参考に各自で取り組んでください。</p>				<p>・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。 ・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。</p>			
教科書・テキスト	『保育内容（言葉）』（同文書院）			受講生に望むこと	意見交換や質疑応答を通して、全体で学び合えるクラスにしたいと思っていますので、積極的に質問や発言をして参加してください。		
参考書・参考資料等	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』			その他・特記事項	毎回テキストを持参してください。		

授業科目	地域子育て支援論						
担当教員	金山 美和子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>家庭支援が必要となった背景、機能や変遷、現状について学び、今日の家庭支援に求められるあり方を考える。家庭の意義とその機能をふまえて子育て家庭を取り巻く社会的状況について子どもや親の育ちという観点から家庭支援の現代的課題について理解する。主として保育者による家庭支援の具体的事例を取りあげ子育て家庭の支援体制について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開や関連機関との連携などのアプローチを学び、保育者という立場からの具体的な支援について考える。</p> <p>担当教員は私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有しており、保育現場で得られた知見をもとに実践事例の検討をふまえて授業を実施し、実務に活かすことができる能力を身につけさせる。</p> <p>英語表記「The Theory of Community-Based Child-Rearing Support」</p>				<p>家庭の意義、その機能と変遷について理解する。</p> <p>子育て家庭の支援体制について理解する。</p> <p>子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関の連携について理解する。</p>			
キーワード	家庭 子ども 子育て 支援 地域						
教授方法	講義科目であるが、ディスカッションや体験ワーク等を取り入れて授業を行う。						
履修条件等	保育士資格取得に関する科目である。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	家族を取り巻く社会状況						
2	結婚と家族の状況						
3	家族と子育ての状況						
4	子育て支援の必要性						
5	保育所における子育て支援の役割と機能						
6	幼稚園における子育て支援の役割と機能						
7	認定こども園における子育て支援の役割と機能						
8	地域における多様な子育て支援 地域子ども子育て支援事業						
9	地域における多様な子育て支援 企業、市民団体等による取り組み						
10	地域子育て支援の内容と方法 地域子育て支援拠点における実践を手掛かりとした理解						
11	地域子育て支援の内容と方法 支援者の役割						
12	地域子育て支援の内容と方法 「気になる子ども」「気になる保護者」への支援						
13	地域における子育て支援体制 子どもや親の育ちを支える視点						
14	地域における子育て支援体制 専門機関との連携による支援						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。</p> <p>【A】基本的な到達目標を十分に達成している。</p> <p>【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。</p> <p>【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。</p> <p>【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	試験期間に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価する。			授業レポート	20	地域子育て支援論を概観する課題について評価する
上記以外の授業評価	30	毎回授業時に課す課題への回答について評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習としてテキストを熟読する。毎回指定された課題・問題に取り組む。授業で学んだことをもとに地域子育て支援の実践を体験し理論と実践から理解を深める。				質問は、授業中や授業の前後に受け付ける他、授業コミュニケーションカードを活用し毎回授業の始めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。メールでの質問も受け付ける。			
教科書・テキスト	テキスト 太田光洋編（2016）「子育て支援の理論と実践」保育出版会			受講生に望むこと	新聞報道等から関連情報を得て課題意識をもつこと。自主的な体験学習の機会を得ること。		
参考書・参考資料等	「家庭支援の理論と方法」渡辺顕一郎・金山美和子著（金子書房）			その他・特記事項	担当教員は、私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有している。		

授業科目	保育内容（健康）						
担当教員	白澤 舞			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」についてのねらいと内容を理解するとともに、実際の保育場面における保育者の役割について学ぶ。乳幼児期の心と身体の発達の特徴をふまえ、子どもの心身の健やかな成長のために、適切な指導方法のあり方を学ぶ。また、事例検討や教材研究、指導計画の立案を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいのかについて具体的な実践の方法を学ぶ。				1) 乳幼児期における健康の概念について説明することができる。 2) 領域「健康」のねらいと内容を理解し、説明することができる。 3) 領域「健康」のねらいに沿った援助について説明することができる。 4) 領域「健康」の内容を具体的な保育活動に結びつけて教材を制作し、それを活用することができる。			
キーワード	保育内容 健康 指導法 教材の制作と活用						
教授方法	演習形式の授業である。						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	健康の捉え方を考える（わたしたちの健康と子どもにとっての健康）						
2	保育の基本的な考え方と領域「健康」（領域「健康」のねらいと内容）						
3	保育の基本的な考え方と領域「健康」（領域「健康」の内容の取扱い）						
4	心と身体の健やかな育ちにおける保育者の役割						
5	子どもの身体機能の発達と運動能力						
6	子どもの生活リズムと生活習慣						
7	子どもの安全と保健指導のあり方						
8	健康の領域に関わる保育事例（遊びにおける身体活動）						
9	健康の領域に関わる保育事例（基本的生活習慣の獲得）						
10	子どもの健康における今日的課題						
11	教材研究（年齢に応じたねらいを考え、教材研究を行う）						
12	指導計画作成（導入・展開・まとめの流れ、環境と配慮を明確にし立案する）						
13	模擬保育と討議（模擬保育を実施し、討議を行う）						
14	領域「健康」のまとめと総括						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末課題	40	筆記テスト20%、レポート課題20%			その他の評価	60	指導計画・実施・評価記録40%、授業内の活動への取り組み20%
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
配布資料の読み込み、教材研究・指導計画の立案・発表準備などを行うこと。				授業時およびオフィスアワーに受け付けます。メールでも対応します。連絡先については授業内にお知らせします。			
教科書・テキスト	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省） この他、必要に応じてプリントを配布する。			受講生に望むこと	授業時のディスカッションや模擬保育等に積極的に参加できるように、予習と復習を行うこと。		
	授業の中で紹介する。			その他・特記事項	特になし		
参考書・参考資料等							

授業科目	器楽基礎						
担当教員	安氏 洋子・大南 匠			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2・3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
ソルフェージュ課題により、リズム感、音程感を身につけ、読譜力を向上させる。 授業形態は習熟度に合わせた8グループによるグループレッスンとする。 ピアノに関してはバイエルを中心とした課題、弾き歌いに関しては共通テキストにある楽曲を課題とする。				保育現場における音楽活動に必要なピアノ演奏の基礎的知識と技術を修得し、弾き歌いのレパートリーを広げることを目標とする。 また、他の履修者のレッスンに立ち会うことで演奏表現の幅の広さを理解するとともに、自分の演奏を客観的に捉える視点を持てるようにする。			
キーワード	ピアノ、演奏、弾き歌い、読譜、習熟度別						
教授方法	習熟度別にグループ分けを行い、個人レッスン						
履修条件等	選択						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション及びピアノ曲を課題としたレッスン1 以下全て習熟度に応じたグループレッスン						
2	ピアノ曲を課題としたレッスン2						
3	ピアノ曲を課題としたレッスン3						
4	ピアノ曲を課題としたレッスン4						
5	ピアノ曲を課題としたレッスン5						
6	ピアノ曲を課題としたレッスン6						
7	ピアノ曲を課題としたレッスン7						
8	ピアノ曲を課題としたレッスン8						
9	ピアノ曲を課題としたレッスン9						
10	ピアノ曲を課題としたレッスン10						
11	ピアノ曲を課題としたレッスン11						
12	ピアノ曲を課題としたレッスン12						
13	ピアノ曲を課題としたレッスン13						
14	ピアノ曲を課題としたレッスン14						
共通の成績評価基準							
履修者全員の演奏を2名の講師が採点し、平均化したものが試験評価となる。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実技テスト	80%	履修者全員の演奏を2名の講師が採点し、平均化したものが試験評価となる。		その他	20%	授業意欲や練習量を担当教員が評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
課題曲の事前練習				各教員がメールでの相談対応、また音楽室や研究室にてピアノを用い、実技への相談に対応する。			
教科書・テキスト	ピアノ課題：バイエル等各自のレベルに応じたテキストを使用する。 弾き歌い課題：小林美実編著「こどものうた200」チャイルド社			受講生に望むこと	ピアノ実技習得は日々の練習が大切であるため、レッスン前日だけでなく毎日練習に取り組んでほしい。		
参考書・参考資料等	弾きたい曲があれば各自楽譜を準備すること。			その他・特記事項	特になし		

授業科目	保育の指導法						
担当教員	金山 美和子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>授業の概要 幼稚園教育要領に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての総合的な指導」の方法的特質について理解する。幼児が自ら興味や関心をもって環境に取り組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしいかわり方を身につけていくことをふまえ、5領域のねらい及び内容の関連と総合的な指導のあり方について実践的に学ぶ。実践事例の記録、保育指導案などから指導法の実際や指導のあり方について考えるとともに、基本的な指導計画を作成する力を身につける。 担当教員は私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有しており、保育現場で得られた知見をもとに実践事例の検討をふまえ授業を実施する。 英語表記「Teaching Methods in Early Childhood Education」</p>				<p>幼稚園教育要領の各領域におけるねらい及び内容の関連と遊びによる総合的な指導について理解する。 乳幼児期の発達過程をふまえた保育内容の指導法を理解する。 幼稚園教育の指導計画の作成を理解する。</p>			
キーワード	環境を通しての教育 遊びを通しての総合的な指導 保育記録 指導計画						
教授方法	演習						
履修条件等	幼稚園教諭						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	幼稚園教育、保育の基本						
2	幼稚園教育要領における「環境を通しての教育」						
3	幼稚園教育要領における「遊びを通しての総合的な指導」						
4	幼稚園教育の基礎となる子ども理解						
5	幼児期のふさわしい生活の展開と援助						
6	環境を通しての教育 環境を通しての学び						
7	環境を通しての教育 自発的な遊びと環境						
8	環境を通しての教育 環境構成の実際						
9	遊びを通しての指導 乳幼児の発達過程と遊び						
10	遊びを通しての指導 乳幼児の遊びと仲間関係						
11	遊びを通しての指導 乳幼児の遊びに対する援助						
12	保育計画の実際（教育課程・長期計画・短期計画）						
13	幼稚園教育における家庭・地域との連携のあり方						
14	保育実践を高める省察・カンファレンス						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	40	試験期間に実施し、講義内容に関する理解度を論述にて評価する。			授業レポート	30	保育の指導法を概観する課題について評価する。
上記以外の授業評価	30	毎回授業時に課す課題への回答について評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習としてテキストを熟読する。 毎回指定された課題・問題に取り組む。 授業で学んだことをもとに幼稚園、認定こども園等の保育実践を体験し理論と実践から理解を深める。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける他、授業コミュニケーションカードを活用し毎回授業の始めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。メールでの質問も受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	テキスト 太田光洋編（2016）「子どもが育つ環境と保育の指導法」保育出版会			受講生に望むこと	新聞報道等から関連情報を得て課題意識をもつこと。自主的な体験学習の機会を得ること。		
参考書・参考資料等	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説			その他・特記事項	担当教員は、私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有している。		

授業科目	保育内容（環境）						
担当教員	前田 泰弘			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>子どもは身近な環境とのかかわりを通して、生活の知識や技術などを身に付けていく。本講では、子どもが環境(自然・もの・人・できごと)とのかかわりを通じて周囲への興味・関心を広げていく過程を、実際と理論の側面から学習するとともに、保育者がそれに対して行い得る援助について考える。特に、子どもが「感じる力」「考える力」「判断する力」「実行する力」を自発的に発揮できることをねらいとして、保育者自身がどのような環境構成をできるかについて考える。また、授業は、季節や子どもの発達に合わせた指導計画を立てられることをねらいとする。担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。</p>				<p>子どもが日常生活でかかわる環境とそこから身に付ける知識や技能等について理解を深める。このことにより、子どもの育ちのねらいに合わせた環境とのかかわりを保育の中で計画し実践できるようになることをねらいとする。</p>			
キーワード	かかわる力、科学的思考、直接体験、自然						
教授方法	パワーポイントを用いた講義の他、体験活動や演習を行う。						
履修条件等	こどもと自然、自然保育論						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	保育における「環境」とは -保育内容（環境）のねらいと内容の理解-						
2	子どもの育ちと環境 -子どもの育ちの流れと環境とのかかわりの拡大過程-						
3	遊びの発達と環境 -遊びを通じた環境とのかかわりとその発達-						
4	環境としての自然 -自然環境と子どもの育ち-						
5	子どもの自発性と保育環境 -子どもの自発性を高める保育環境とその整備-						
6	観察しかかわる力をはぐくむ -自然に親しむ、植物や生き物に触れる-						
7	季節による自然や生活の変化（1）春の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材						
8	季節による自然や生活の変化（2）夏の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材						
9	季節による自然や生活の変化（3）秋の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材						
10	季節による自然や生活の変化（4）冬の環境と子どもの様子・行事と保育のねらい・教材						
11	数量や図形、文字への関心をはぐくむ -日常生活の中での数量・図形・文字-						
12	事物の性質や仕組みへの関心をはぐくむ -さまざまな物や道具にかかわって遊ぶ-						
13	保育内容「環境」に関連する指導計画の考え方と指導案の作成						
14	保育内容「環境」に関連する模擬保育の実施						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
試験	80	授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。			課題の提出状況	20	毎回の講義後に課す提出課題に対して評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
子どもが自発的なかかわりを示す環境（もの・こと）や季節・行事等について、日頃から関心をもって欲しい。				授業の前後を中心に、適宜受け付ける。			
教科書・テキスト	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省）、『子どもが育つ環境と保育の指導法』（保育出版社）			受講生に望むこと	身近な環境に興味をもって生活をして欲しい。		
参考書・参考資料等	授業時に紹介する。			その他・特記事項	担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。		

授業科目		幼児理解の理論と方法					
担当教員	前田 泰弘			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>就学前の子どもとその保護者、家庭を理解するための理論と方法を学ぶ。具体的には、子どもの発達を客観的に評価する方法や、日常において生起する臨床的問題の実際を、臨床発達心理学の観点から理解できるようにする。また、多様な保護者やさまざまな困難を抱える子どもの理解や援助の仕方の原則を理解し、保育現場の内外の資源と連携をしながら援助を行っていくための知識と技能を習得する。子どもやその保護者をめぐる多様な問題に対して、客観的な根拠に基づいて多面的かつ柔軟に援助ができるようになることをねらいとする。</p> <p>担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。</p>				<p>保育現場では、さまざまな発達課題や生活の課題を有する子どもや保護者がいる。それらの人々を対人援助者として客観的な根拠を元に理解し、効果的な技術をもって援助を行うための知識と技能を身に付けることをねらいとする。</p>			
キーワード	発達評価、家族理解、機関連携						
教授方法	オンライン（オンデマンド形式）で講義を行う。						
履修条件等	発達心理学						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	幼児理解の理論						
2	幼児教育における幼児理解 -幼稚園教諭としての幼児理解のあり方-						
3	幼児理解の方法 -発達評価の理論と実際-						
4	幼児理解の方法 -生育環境の評価の理論と実際-						
5	幼児理解と評価 -幼児の評価の考え方と指導記録の記入-						
6	特別な支援が必要な幼児と保護者の理解						
7	幼児理解と保育計画						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題	30	講義後に提示する課題に取り組むことで、習得状況を評価する。		試験	70	期末に行う。授業を通して学んだ知識と援助技術について習得状況を確認する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
児童家庭福祉や発達心理学で学んだ内容を復習（確認）しておくこと。				授業後を中心に、Microsoft Formsやメールにより適宜受け付ける。			
教科書・テキスト	「実践にいかず障害児保育・特別支援教育」（萌文書林）			受講生に望むこと	子どもや保護者・家族を取り巻く問題や施策等について、日々関心をもって生活して欲しい。		
参考書・参考資料等	「幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法」（建帛社） 「保育・教育相談支援」（建帛社）			その他・特記事項	担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。		

授業科目		保育内容（表現）					
担当教員	安氏 洋子・宮城 正作・白澤 舞			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
音楽表現、造形表現、身体表現について、指導や援助方法をオムニバス形式で学ぶ。乳幼児の発達を理解し、身近にあるものやことに興味を持てるような環境設定及び指導法について学ぶ。音楽表現では「聴く力」を育む実践を行い、音を創造する活動を通して、やわらかな感性を育むことを目指す。造形表現では動かすことのできる造形物の制作を通して、造形表現における「動き」について理解を深める。身体表現では、自己のからだところや他者（人・モノ）とのかかわりについて体験を通して理解を深める。また、指導計画の立案、模擬保育とその振り返りを行い、全体を通して保育内容表現についての総合的理解を深め、乳幼児の生活と遊びにおける表現について学ぶ。				日常生活の中にある事柄に留意し、心を動かす豊かな感性を育み、感じたことや考えたことを様々な方法で表現することを学ぶ。 また乳幼児の些細な表現に気付き、豊かな表現活動を引き出せるような指導や援助方法について、指導計画の立案、模擬保育と振り返りを行い、音楽、造形、身体表現を通して総合的に修得することを目標とする。			
キーワード	音楽表現、造形表現、身体表現、感性、創造性						
教授方法	担当形態：オムニバス・複数 学生同士がグループディスカッションを行い、個々の意見を取り入れたグループワークを展開できるようにする。						
履修条件等	教員の免許取得のための必修科目						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	領域「表現」とはなにか。（安氏・白澤・宮城） 「表現」のねらい、内容、内容の取扱いについて学ぶ。						
2	【造形表現】「なんでも、どこでも、アニミズム！」 ・ICT機器を用いた表現とその注意点について学ぶ。						
3	「動くペープサートを作ろう！A」（宮城） ・「基本のペープサート」を制作し、動く仕組みを理解する。						
4	「動くペープサートを作ろう！B」（宮城） ・「基本のペープサート」の仕組みを応用し、「オリジナルのペープサート」を制作する。						
5	「動くペープサートを作ろう！C」（宮城） ・前回に引き続き、「オリジナルのペープサート」を制作し、完成させる。						
6	【音楽表現】（安氏）サウンド・エデュケーション ・領域「表現」と音楽的な発達について。「聴く力」を育む。図形楽譜・イメージサウンド。音をかたちで表現する。音を創造する。						
7	絵本と音楽1（安氏） 絵本の中の音を創造する。オリジナル曲の創作。指導案について説明。						
8	絵本と音楽2（安氏） 楽器の種類と取扱方法、奏法について。オリジナル曲の創作。図形楽譜、スコア譜の作成方法。指導案を考え作成する。						
9	絵本と音楽3（安氏） 創作曲の発表とふりかえり。指導案に基づいた模擬保育の実施。指導案の提出。						
10	【身体表現】（白澤）からだ探求：からだところ ・自己のからだところのかかわりを感じる。・他者とのコミュニケーションにおけるからだところのかかわりを感じる。						
11	五感を使った体験と表現：からだと他者（白澤） ・「人」や「モノ」いろいろな素材（身近な物・場・音・リズム）をからだで感じる。						
12	五感を使った体験と表現：教材開発と指導案の作成（白澤） ・の体験を生かした手遊び・からだ遊びの制作と指導案の作成を行う。						
13	五感を使った体験と表現：模擬保育と考察（白澤） ・模擬保育を通して子どもの表現に気づき、豊かな表現を引き出す保育について考える。						
14	まとめ・ふりかえり（安氏、宮城、白澤） 子どもの生活と遊びにおける表現と保育者の役割						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小テスト 課題提出	80%	各オムニバスの最後の授業内で、各担当者による試験を行う。			その他	20%	授業意欲などを担当教員が評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
各教員より事前に学生に課題を伝え、課題について考えたり、事前準備を行う。				各教員がメールや研究室等で質問や相談へ対応する。			
教科書・テキスト	『子どもが育つ環境と保育の指導法』太田光洋編著（保育出版会） 『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之・鈴木恵津子編著（教育芸術社） 『保育内容「表現」-からだで感じる・表す・伝える-』池田裕恵・猪崎弥生編著（杏林書院） 『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省）			受講生に望むこと	日々の気付きや日常生活の些細な出来事に注目しながら、さまざまな経験を積み重ね、感性を研ぎ澄ませてほしい。		
				その他・特記事項	特になし		

参考書・ 参考資料等	特になし
---------------	------

授業科目		ドラマ表現演習					
担当教員	山本 直樹			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
他者と共に自己表現を楽しむドラマの体感を基礎として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な資質・能力である、自分を表現する力、自分なりに工夫して行動する力、感じる力、想像・創造する力の研ぎ澄ましをテーマとした活動や、子どもを対象とする語りと最小限の演技で構成されるリーダーシアターに取り組み、単なる専門的・芸術的表現とは異なる保育者の「豊かな表現」を意識しながら、子どもの表現を見る目を養っていく。				自分の経験をもとに、感じたことや考えたことを、自分のやり方で、楽しく、全身で表現するドラマの基本を理解する。そして、個人やグループで創意工夫をしながら自己表現をすることを楽しみ、自分が子どもの頃に遊んだ時の感覚である「遊び心」を再経験をすることを目標とする。			
キーワード	自己表現、演劇、身体、言葉						
教授方法	演習を基本とするが、講義も行う。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本講義のガイダンス ルール（まじめに遊ぶ、アイコンタクト、人の話を聴く、チャレンジ精神）、グループ身体表現体験						
2	ドラマへのウォームアップ（自己表現） コミュニケーションをテーマに						
3	ドラマへのウォームアップ（自己表現） 集中・感覚をテーマに						
4	ドラマへのウォームアップ（自己表現） 身体・言葉をテーマに						
5	ドラマであそぶ 物の見立てから						
6	ドラマであそぶ 身体の見立てから						
7	ドラマであそぶ 言葉のイメージから						
8	ドラマをつくる 日常生活を題材に						
9	ドラマをつくる 詩やショートストーリーを題材に						
10	ドラマをつくる 絵本を題材に						
11	ドラマをえんじる リーダースシアターの体験						
12	ドラマをえんじる リーダースシアターの練習						
13	ドラマをえんじる リーダースシアターの授業内発表						
14	本講義のまとめと確認						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
1	20	5点満点の小テストを計4回実施し、体験したことの意味を自分なりに考えたかを評価する。		2	50	授業内容全体の理解にもとづき、課題を主体的、発展的に深めることができているかを評価する。	
3	30	授業への参加態度や、グループ活動における参加態度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回の授業終了時に示す事後課題（経験した授業内容と日常生活や自分自身とのつながり）と、予習課題（予告された授業テーマに関する調査や疑問点の整理）についてを合わせて取り組み、次回の授業時にレポートとして提出する。				授業後に対応する			
教科書・テキスト	山本直樹他『幼児教育知の探究 領域研究の現在＜表現＞』萌文書林2021			受講生に望むこと	演習形式も交えるので、動きやすい服装を望む		
参考書・参考資料等	『ドラマによる表現教育』ブライアン・ウェイ著／岡田陽訳（玉川大学出版部） 『表現あそび』太宰久夫著（全国児童館連合会／今人舎） 『遊びからはじまる学び 今、幼児の表現活動を問い直す』花輪充著（大学図書出版）			その他・特記事項	なし		

授業科目	身体表現演習						
担当教員	白澤 舞			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>領域「表現」におけるねらいと内容をふまえ、子どもの表現の捉え方について理解するとともに、子どもの豊かな表現をとらえ、育むための保育者の役割と指導方法を学ぶ。そのために、自己の感覚を十分に働かせて多様な自由な表現を体験し、自己の身体と心の関わりや身体による他者（人・モノ）との関わりについて理解する。また、事例検討や教材研究、指導計画の立案を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいかについて具体的な実践の方法を学ぶ。</p>				<p>1) 子どもの表現の捉え方を理解し、説明することができる。 2) 子どもの表現の実態を理解し、それを受け止め、支え育む援助とは何かを思考することができる。 3) 子どもの表現を豊かにする教材を制作し、それを活用することができる。</p>			
キーワード	子どもの表現 身体表現 保育者の役割 教材の制作と活用						
教授方法	実技を伴う演習形式の授業である						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	からだを感じる、からだで感じる（自己と他者の身体と心の状態と、その関わりを感じ取る）						
2	からだを感じる、からだで感じる（受信と発信、受け止めることと受け取られること、その関わりを感じ取る）						
3	子どもの生活と表現（子どもの表現を見取る）						
4	自然の中での体験と表現						
5	多様な動きで遊ぶ ～からだと言・リズム・言葉～						
6	多様な動きで遊ぶ ～からだと身近なもの～						
7	多様な動きで遊ぶ ～からだと言間・時間・力～						
8	身体表現の技術 ～動きのきっかけ・発見～						
9	身体表現の技術 ～動きの応用・発展～						
10	表現活動教材の作成						
11	表現活動教材の作成						
12	表現活動教材の作成						
13	発表と討議						
14	身体表現のまとめと総括						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	30	レポート課題			その他	70	授業への取り組み（参加態度・意欲、活動記録）、グループ課題（制作、発表）
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
配布資料の読み込み、活動記録の作成、グループでの制作や発表準備など				授業時およびオフィスアワーに受け付けます。メールでも対応します。連絡先については授業内にお知らせします。			
教科書・テキスト	『保育内容「表現」-からだで感じる・表す・伝える-』池田裕恵・猪崎弥生編著（杏林書院）その他、適宜プリントを配付する。			受講生に望むこと	からだの状態や感覚に意識を向け、実際に動くことを通して表現について考えます。先入観にとらわれず子どものおもいきり感じたまま動いてみたり、体験を振り返って言葉にすることで表現への理解を深めてください。		
参考書・参考資料等	『乳幼児のダンスABC』猪崎弥生・山田悠莉（一二三書房）その他、授業の中で紹介する。			その他・特記事項	からだの感覚を意識しやすい、動きやすい服装で参加してください。裸足で動くこともあります。		

授業科目	保育内容総論						
担当教員	太田 光洋			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>保育内容と総合的指導の意義について理解したうえで、幼児期の特性と領域の観点から子どもを総合的に捉える視点を養い、子どもの発達の実態や個性に適した保育内容の継続的で具体的な展開を行うために必要な知識や技能を身につける 担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所等での研修講師を務めており、学習内容を保育の実際と結びつけながら理解を深められるようにする。</p>				<p>保育内容の歴史の変遷と意義及び保育の全体構造における内容と方法について学び、園生活全体を通して総合的に指導・援助を行うという考え方と指導に必要な実践的能力を習得する。特に幼児期の特性とプロセスをふまえ、遊びを通しての指導を中心とする保育計画立案、評価能力を身につける</p>			
キーワード	保育内容、遊び、保育計画、保育実践						
教授方法	講義及び演習。内容理解、実践理解のために、グループワーク、発表を含む。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業概要とオリエンテーション 保育内容総論を学ぶ目的と内容、進め方 保育内容の総合的理解 園生活の一日						
2	保育の基本と保育内容 保育内容とはなにか（保育の基本、ねらいと保育内容、方法） 保育内容の構造 子どもの生活構造の特徴と保育内容						
3	遊びを通しての総合的な指導、環境を通しての指導法子どもの活動と援助 保育者の援助のあり方						
4	保育内容の計画と評価 保育計画の必要性と計画の実際（教育課程と指導計画保育内容の実際、長期的活動、行事の事例を含む）、とも育て						
5	保育内容の実践 「保育内容としての遊び」の構想と準備（環境づくり・教材準備、情報機器、教材の具体的活用を含む）						
6	保育内容の実践 「保育内容としての遊び」の構想と準備（環境づくり・教材準備、情報機器、教材の具体的活用を含む）						
7	保育内容の実践 模擬保育に向けた指導計画の作成（子ども理解、目標、保育者の役割、評価）						
8	保育内容の実践 模擬保育に向けた指導計画の作成（子ども理解、目標、保育者の役割、評価）						
9	保育内容の実践 模擬保育の実践と振り返り						
10	保育内容の実践 模擬保育の実践と振り返り						
11	保育内容の実践 模擬保育の実践と振り返り						
12	保育内容の実践 模擬保育の実践と振り返り						
13	保育内容の歴史 保育内容の変遷とその理念【ポータル】						
14	保育内容の歴史 保育内容の変遷とその理念【ポータル】						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	100	指導計画と教材準備、保育内容の歴史					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
テキストの通読。教材の作成や整理をしておくこと				授業の前後に行う			
教科書・テキスト	『保育内容総論』太田光洋編（同文書院） 『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省）			受講生に望むこと	能動的に学びましょう		
参考書・参考資料等	『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省）			その他・特記事項	担当教員は、幼稚園における教諭、園長のほか、保育所、行政等での研修講師を務めるなどの実務経験を有しており、その経験を教授内容に反映する。		

授業科目	保育内容（人間関係）						
担当教員	金山 美和子			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>幼児が周囲の人々に親しみをもち、支え合って生活するために、自立心と人とかかわる力を養うための保育内容と方法について学ぶ。幼児の人への信頼感や人とかかわる力、自己のあり方、社会生活に望ましい習慣や態度が、充実感のある他者との関係のなかで育っていくことに留意し、保育者の役割と援助について理解する。幼児の人間関係は保育の場における遊びや生活を通して豊かに育つことから、演習を通して保育の場での人間関係をめぐる具体的な事例、人間関係を豊かにする遊びや活動について指導計画の立案や模擬保育の検討などを通して実践的に理解する。</p> <p>担当教員は私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有しており、保育現場で得られた知見をもとに実践事例の検討をふまえて授業を実施する。</p> <p>英語表記「Activities in Early Childhood Education :Human Relationships」</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ・乳幼児期の人間関係を捉える基本的な考え方を理解する。 ・保育実践における保育内容「人間関係」の指導のあり方を理解する。 			
キーワード	保育内容 人間関係 領域 事例						
教授方法	演習						
履修条件等	幼稚園教諭						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い						
2	乳幼児期の人間関係 子どもと養育者の人間関係						
3	乳幼児期の人間関係 乳幼児期の人間関係をめぐる今日的課題						
4	子どもと保育者の信頼関係						
5	自立心と自己有用感						
6	子ども同士の人間関係とその援助						
7	環境による教育で育てる人間関係						
8	遊びにおける仲間関係への援助 指導案作成						
9	遊びにおける仲間関係への援助 指導案および模擬保育の検討						
10	遊びにおける協同的活動と援助 指導案作成						
11	遊びにおける協同的活動と援助 指導案および模擬保育の検討						
12	気になる子どもの理解と援助 人とかかわりにおいて子どもが抱える困難						
13	気になる子どもの理解と援助 家庭に対する支援						
14	人とかかわりを育てる保育者の役割						
共通の成績評価基準							
<p>【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。</p> <p>【A】基本的な到達目標を十分に達成している。</p> <p>【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。</p> <p>【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。</p> <p>【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業レポート	40	保育内容（人間関係）の指導法を概観する課題について評価する。			指導案作成	30	人間関係を豊かにする遊びの指導案作成について評価する。
上記以外の授業評価	30	毎回授業時に課す課題への回答について評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>事前学習としてテキストを熟読する。</p> <p>毎回指定された課題・問題に取り組む。</p> <p>授業で学んだことをもとに幼稚園、認定こども園等の保育実践を体験し理論と実践から理解を深める。</p>				<p>質問は、授業中や授業の前後に受け付ける他、授業コミュニケーションカードを活用し毎回授業の始めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。メールでの質問も受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』			受講生に望むこと	新聞報道等から関連情報を得て課題意識をもつこと。自主的な体験学習の機会を得ること。		

参考書・ 参考資料等	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』、『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』	その他・ 特記事項	担当教員は、私立幼稚園における教諭及び主任教諭の実務経験を有している。
---------------	---	--------------	-------------------------------------

授業科目	社会的養護内容						
担当教員	尾島 豊			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
前半では専門書を講読しながら施設養護実践に関する主な諸概念の理解を深める。後半では、児童養護施設と乳児院以外の各分野の現場の先生をゲスト講師に迎えて、実際の現場での現状と支援について学ぶ。具体的には、障害児施設、母子生活支援施設、児童自立支援施設や里親制度などで実際に働く職員を呼んで実際の 実践の現状と課題を考える。				社会的養護が必要となる養護問題の現状を、様々な機関や施設の役割を通して学ぶ。2年次「社会的養護」の続編であり、前半が児童養護施設と乳児院の役割を中心にするのに対して、この授業ではそれ以外の児童福祉施設や里親の現状と課題の理解を主とする。学習の目標は、保育士として必要な養護の知識と技術を習得することにある。			
キーワード	社会的養護、児童養護施設・乳児院以外の児童福祉施設、里親制度など						
教授方法	講義形式：専門書の購読と、現場の施設職員等呼び、講義とディスカッションを行う。						
履修条件等	2年次の児童福祉論と社会的養護の取得が前提となる。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	社会的養護に関する各機関・施設ーこの授業のねらいと目的						
2	施設養護の基本的諸概念 - リーピングケア・小規模化・自立支援・家族再統合 -						
3	施設養護の実際 - 母子生活支援施設ー						
4	施設養護の実際 - 児童自立支援施設ー						
5	施設養護の実際 - 児童心理治療施設						
6	里親制度の実際 - 児童相談所						
7	社会的養護の方向性、まとめ						
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
前半の課題レポート	40	社会的養護に関する基礎概念の理解度		後半の課題レポート	50	様々な分野の機関・施設などの機能や役割の理解度	
授業への参加度	10	出席状況と授業への参加度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
2年次の社会的養護の復習				リアクションペーパーに記載、翌週に回答			
教科書・テキスト	2年次の教科書			受講生に望むこと	2年次の社会的養護の復習とワークショップ等への参加		
参考書・参考資料等	2年次の教科書			その他・特記事項	特になし		

授業科目	器楽応用						
担当教員	大南 匠・安氏 洋子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	小児保健						
担当教員	宮崎 紀枝			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
こどもの病気・事故・ケガなどに関する知識を学び、予防方法や対処方法の基本的な知識に基づいて、実践に役立つ保健活動を考える。こどもに関わる保護者・保育者の健康の保持増進、地域に存在する様々な社会資源との連携等について学び、健やかなこどもの成長発達を促進する仕組みを理解する				<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児がかかりやすい病気・事故・ケガを、その予防方法や対処方法と共に知識を修得する。 ・保育現場におけるより良い環境管理を、乳幼児・保育者の双方から理解する ・予防のための指導方法を理解する 			
キーワード	こども 健康と安全 事故予防 疾病予防						
教授方法	講義、演習、グループワーク、グループ発表						
履修条件等	小児保健 を修了していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション こどもの疾病と事故の保健統計						
2	こどもによくある病状と観察						
3	主な疾病の特徴						
4	主な疾病の特徴						
5	こどもの事故とその予防						
6	こどもの事故とその予防						
7	保育環境と安全対策						
8	保育環境と安全対策						
9	病気・事故の予防のまとめ						
10	障がいをもつこどもとの関わりの実際						
11	職員の健康管理						
12	児童相談所からみえる家庭環境の実際						
13	健康教育発表						
14	健康教育発表						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	定期試験と健康教育の発表で100点満点として本学の成績評価基準に準ずる		健康教育発表	50	指導案20% 発表（媒体、内容）30%	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
グループ発表（健康教育発表）の準備の学習を要す				質問および相談は授業中および終了後対応する時間を確保する			
教科書・テキスト	小児保健 1 で使用した教科書を用いる			受講生に望むこと	積極的に学んでほしい		
参考書・参考資料等	必要時紹介する			その他・特記事項	特になし		

授業科目	相談援助						
担当教員	尾島 豊			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目		造形表現演習					
担当教員	宮城 正作			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>本授業では、保育者として必要な造形知識や技術を、制作や体験をとおして身につけていく。とくに「紙・ダンボールによる表現」、「環境構成の考え方」、「材料や用具の準備」について取り組む。その際、各活動において、材料や用具の選定、環境の変化が表現効果に与える影響について着目し、各技法と材料・用具との関係について理解を深められるようにする。</p>				<p>授業内で使用する材料や用具の適切な使用法を理解し、身につける。習得した知識や技術が保育者としてどのように活かされるか考えられる。</p>			
キーワード	造形表現、粘土、版表現、ダンボール						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式でおこなう。						
履修条件等	「こどもと造形」を履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	「石塑粘土でキーホルダーづくり！（１）」 ・石塑粘土を材料とするキーホルダーの制作を行う。						
2	「石塑粘土でキーホルダー作り！（２）」 ・乾燥させた型抜き後の石塑粘土を、紙やすりを用いて研磨する。						
3	「石塑粘土でキーホルダー作り！（３）」 ・研磨した石粘土をアクリル絵具等で色付けする。						
4	「石塑粘土でキーホルダー作り！（４）」 ・前回到引き続き、研磨した石粘土をアクリル絵具等で色付けする。						
5	「ステンシルでプリントしよう！ - トートバッグ作り - （１）」 ・各種版画技法と幼児造形活動における版表現の展開方法について概説する。						
6	「ステンシルでプリントしよう！ - トートバッグ作り - （２）」 ・前回到引き続き、下描きの制作を行う。						
7	「ステンシルでプリントしよう！ - トートバッグ作り - （３）」 ・前回到引き続き、下描きを基にした版制作（ステンシルシートの切り抜き）。						
8	「ステンシルでプリントしよう！ - トートバッグ作り - （４）」 ・完成した版を用いてトートバッグにプリントし、作品を完成させる。						
9	「日めくりカレンダーをつくろう！（１）」 ・「相欠き継ぎの構造」と「ダンボールの切り方」について解説する。						
10	「日めくりカレンダーをつくろう！（２）」 ・前回到引き続き制作を行う。						
11	「日めくりカレンダーをつくろう！（３）」 ・前回到引き続き制作を行う。						
12	「日めくりカレンダーをつくろう！（４）」 ・前回到引き続き制作を行う。						
13	「日めくりカレンダーをつくろう！（５）」 ・前回到引き続き制作を行う。						
14	「まとめ」 ・制作物の講評と授業全体のまとめを講義形式で行う。						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題の提出	60	・3つの課題の作品と記録シートで評価する。		試験	40	・授業内で教授した知識や技術が定着しているか筆記試験で評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
各作品を完成させる時間は授業内では足りませんので、授業外の時間を活用して制作してください。				随時受け付けます。 miyagi.masanari@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	とくになし。			受講生に望むこと	あなたの「好き」「楽しい」「面白い」という気持ちを、造形活動をおして表現してください。そのことが、子どもの造形活動を支える一歩目です。		
参考書・参考資料等	授業でプリントを配布する。			その他・特記事項	とくになし。		

授業科目	器楽応用						
担当教員	大南 匠・安氏 洋子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
キーワード							
教授方法							
履修条件等							
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
教科書・テキスト				受講生に望むこと			
参考書・参考資料等				その他・特記事項			

授業科目	教育史						
担当教員	木山 徹哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>幼児教育及び初等教育を中心として保育・教育という営みが今日までのような経緯を辿ってきたかを、各時代における保育・教育へのさまざまな需要、各時代における「子ども」の捉え方や処遇などを中心に考える。</p> <p>具体的には、日本の明治以降の保育・教育機関の成立・普及・展開の過程を、欧米の教育思想や制度の導入、日本の政治的・経済的・社会的変化と保育・教育との関係、さらに社会や大人と子どもとの関係を主な視点にして整理するとともに、今後の保育・教育の課題について検討する。</p>				<p>本授業では、以下の4点を主たる目標とする。日本の近現代の保育・教育の歴史について、その基本的な流れを説明することができる。欧米の教育思想や教育制度ととの関連について説明することができる。子ども観や親子関係の変化について、またその変化が保育・教育に与える影響について説明することができる。教育の歴史を踏まえて、今後の保育・教育の課題について自分の意見を述べるができる。</p>			
キーワード	家庭教育、社会的保育、幼稚園論争、幼児教育の独自性（存在意義）、児童文化						
教授方法	講義が中心となるが、授業内容のなかの重要なテーマについていくつか討論を行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション 授業概要、到達目標、並びに評価方法の説明						
2	幼稚園（保育園も含む、以下同じ）や学校と家庭教育との関係、幼稚園や学校の機能や存在意義についてグループ討論を行ない、それを整理する。						
3	保育・教育機関の成立と普及：幼稚園や学校の成立及び普及の要因について解説する。						
4	欧米の保育・教育思想と制度の導入：保育・教育の目的、内容、方法、あるいは子どもの捉え方などに関する思想について解説する						
5	保育・教育と児童文化：我が国における児童文化の誕生と保育・教育の展開について考える。						
6	戦時下の保育・教育：戦争の中の子どもの生活、保育、教育について考える。						
7	戦後の保育・教育の開始（1）：新学制、教育法規等、戦後の新教育の特徴と子どもの生活の変化について考える。						
8	戦後の保育・教育の開始（2）：教育基本法、学校教育法、児童福祉法など主な法規の理念等を解説する。						
9	高度経済成長期の保育・教育（1）：社会経済的変化の中の保育・教育、女性労働やジェンダーと保育などについて考える。						
10	高度経済成長期の保育・教育（2）：主として幼稚園振興政策下の幼稚園と保育園の関係について考える。						
11	教育要領、保育指針、及び学習指導要領の変遷：戦後の各時期における幼稚園および学校の教育内容について考える。						
12	保育・教育需要の多様化と平等：保育機関の多様化、外国にルーツをもつ子どもの保育・教育、経済格差と保育・教育などの問題を考える。						
13	学校教育の動揺と家庭教育及び保育：学校教育に対して向けられる批判の意味とその背景について考える。						
14	今後の保育・教育の在り方：少子化、多様な学び、グローバル化、情報化等の進展の中での保育・教育の役割について考える。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	80%	授業で習得した基本的知識を踏まえた上で、重要なテーマについて客観的な資料に基づいて自らの意見を述べる。100点満点で60点以上を可とする。			小テスト	20%	各授業で学んだ基本的知識について確認する。20点満点の12点以上を可とする。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業中に紹介する資料や書籍を読んでほしい。				授業中は勿論、授業以外でもメール等で対応する。			
教科書・テキスト	特に指定しない。			受講生に望むこと	質疑応答や討論に積極的に参加してほしい。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する。			その他・特記事項	特になし。		

授業科目		教育の方法と技術					
担当教員	山本 直樹			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>幼児期の教育の基本を踏まえた上で、保育方法の基本として子どもの側や保育者の側から捉える保育方法とその原理、保育形態の種類と活用法を概観する。その上で、「幼稚園教育要領」で示されている具体的指導法の4項目「環境を通して行う教育」「幼児期にふさわしい生活の展開」「遊びを通しての総合的指導」「一人一人の特性に応じた指導」について解説し考える。保育方法としての情報機器や視聴覚教材の活用法についても具体的な演習活動を展開する。</p>				<p>「幼稚園教育要領」等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をめざす保育内容の指導法の理解を目標とする。それと同時に、幼児期の発達特性をふまえた教育の方法および技術について、情報機器及び視聴覚教材の活用法も含めて理解することを目標とする。</p>			
キーワード	保育方法、情報機器、遊び						
教授方法	講義形式を基本とするが、具体的方法を扱う内容では演習課題を積極的に取り入れる。プレゼンテーションソフトによる講義を中心に、DVD映像等、豊富な視聴覚教材を活用して授業を実施する。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	本講義のガイダンス 教育と保育の方法、目標と内容						
2	教育方法の意義と課題						
3	教育理論・方法の変遷 伝統的な学習理論						
4	教育理論・方法の変遷 学習形態・学習指導法の類型						
5	授業の設計と評価						
6	保育方法とその原理						
7	保育形態の種類と活用						
8	具体的指導技術 話法・板書						
9	具体的指導技術 環境構成						
10	保育と指導案						
11	幼児期における情報機器の活用と課題						
12	視聴覚教材の種類と活用						
13	情報機器を活用した教材作成						
14	本講義のまとめと確認						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
1	80	筆記試験を通じて授業内容の理解度を評価する。		2	20	2回ほど小テストを実施し理解度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
毎回の授業内容に関する終了時に示す事後課題と予習課題（予告された授業テーマに関する調査や疑問点の整理）についてを合わせて取り組む。				授業後に対応する			
教科書・テキスト	『子どもの生活と遊びを創る保育の内容と方法』太田光洋編（保育出版会） 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『幼稚園教育要領解説』（平成30年2月 文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）			受講生に望むこと	授業への主体的な参加を望む		
	参考書・参考資料等	『幼児教育の方法』小田豊・青井倫子他（北大路書房） 『幼児教育の指導法』師岡章編（放送大学教育振興会）			その他・特記事項	なし	

授業科目	小児保健実習					
担当教員	塩野谷 祐子		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	4年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナンバリング
対象学生	こども	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
乳幼児の健康保持・増進にとって必要な知識を学び、保育現場での保健活動に役立つ力の習得を図る。具体的には病気・事故・怪我に関して保育者として必要な知識を習得し、実践での生かし方を学ぶ。さらに家庭との連携や健康教育の在り方についても取り上げる。随時グループワークを行なう。 英語表記 「Practice in Child Health」				子どもの体調観察の仕方、養護技術、病気や怪我の対応と予防に関する技術、また、連絡帳や保健だよりなどによる家庭への伝達方法の習得がなされているかを到達目標とする。		
キーワード	保健 養護 病気 事故 怪我					
教授方法	実習形式。一部講義形式。随時グループワークを実施する。					
履修条件等	特に無し					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	ガイダンス（授業の進め方、評価方法の説明） 子どもの健康観察と健康管理（バイタルサインの測定と連絡帳の活用）					
2	子どもの発育・発達の観察と評価（身体計測と母子手帳の活用）					
3	子どもの養護と教育（排泄、おむつ交換、沐浴、衣服の着脱を学ぶ）					
4	子どもの体調不良への対応（嘔吐物の処理、手洗いの仕方を学ぶ）					
5	応急手当（怪我への対応の仕方を学ぶ）					
6	応急手当（乳幼児の心肺蘇生法を学ぶ）					
7	学んだ知識と技術のまとめ（実技テストと小テストの実施）					
共通の成績評価基準						
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況	30%	課題に真面目に取り組んでいるかで評価する。	提出課題	20%	提出内容に応じて評価する。	
実技テスト	30%	正しく適切に行動できているかで評価する。	筆記試験	20%	理解度に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応			
・教科書とプリントを活用し、予習・復習をすることで知識と技術がより定着する。 ・出された課題については丁寧に取り組むこと。			・授業中、授業前後で受け付け、対応する。 ・メールでも受け付け、対応する。 E-mail:y-shionoya@shoin-u.ac.jp			
教科書・テキスト	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの健康と安全』鈴木美枝子編著 創成社		受講生に望むこと	演習科目のため、主体的かつ積極的に参加する意欲が必要となる。他の学生とのグループワークもあり、コミュニケーション力も大切となる。		
参考書・参考資料等	授業内で適宜紹介する。		その他・特記事項	特に無し。		

授業科目	保育の観察法と統計解析法						
担当教員	藤田 勉			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	4年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>授業の前半では、保育現場における観察の意味を理解し、子どもの行動を客観的に観察する様々な方法を学ぶ。実際に幼児の行動を観察したり、保育場面を記録した動画を視聴したりする中で、保育者が幼児の行動を観察する際に留意すべき点などを確認する。授業の後半では、観察等により得られたデータを統計的に分析する手法を学習し、観察結果を正確に評価・査定する手段を習得する。</p>				<p>保育の現場では、子どもの行動を主観的にとらえることが多いが、様々な観察法を知ることで、子どもの行動を客観的に把握できるようにする。また、観察等により得られたデータを統計的に処理できるスキルを身につける。</p>			
キーワード	観察、行動、観察法、データ、統計解析法						
教授方法	前半は観察の意味や観察方法について講義形式で説明するが、実際の保育現場や保育場面を記録した動画を視聴しながら、具体例をまじえて観察法を学ぶ。授業の後半では、PCを使い、演習形式で統計解析法について学習する。受講生は授業時間以外で講義内容に関して予習・復習を行うことが求められる。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	キックオフ（授業の目的、授業の概要、授業の形式、使用テキスト、成績評価の方法、授業のスケジュールなど）						
2	保育の観察法（逐次記録法、頻度記録法、持続時間記録法）						
3	保育の観察法（潜時記録法、時間見本法、インターバル記録法）						
4	保育の観察法（観察法のまとめ、試験）						
5	統計解析法（統計とは、統計学で扱うデータのタイプ、代表値、平均、分散、標準偏差、尺度、データ整理の方法など）						
6	統計解析法（記述統計学、表とグラフ、相関、相関係数、統計的推計、統計的検定など）						
7	統計解析法（統計解析法のまとめ、試験、授業全体のまとめ）						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験（筆記）	50	筆記試験により授業内容の理解度を評価する。			小テスト（筆記）	50	筆記試験により授業内容の理解度を評価する（数回実施する予定）。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業に臨むにあたり、指定された文献の講読、課題の実施など授業時間外での事前・事後学習が必要である。				質問・相談については、原則的には授業時間内で受け付け、当日もしくは後日回答する。その他必要な場合は、初回授業時間で伝えるメール・アドレスにて受け付ける。			
教科書・テキスト	授業の中で指定する予定。			受講生に望むこと	本授業を通して、受講生には保育や幼児教育に対する新たな視点を身につけてもらいたい。		
参考書・参考資料等	授業の中で適宜指定する。			その他・特記事項	出席は授業開始時に確認する。授業開始後30分までは遅刻、それ以降は欠席とする。		

授業科目		乳児保育					
担当教員	春高 裕美			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目では、乳児保育(0、1、2歳児)の理念、歴史の変遷とその役割について理解する。乳児期の発達を理解し、一人一人の発達過程に応じた援助や関わり、乳児保育の現状と課題について、保育実践の映像や演習を通して学ぶ。さらに、保護者と連携して乳児の育ちを支えていくためには、どのような育児支援が必要かを考える。乳児保育の実践経験をもとに、具体的な事例等を活用して理解を深める				<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について学ぶ 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満の発育・発達を踏まえた、3歳未満児の保育内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ 			
キーワード	乳児保育、3歳未満児、乳児期、保育						
教授方法	講義に加え、事例検討や実践を行う。						
履修条件等	乳児保育 を履修したのちに乳児保育 を履修することが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション；授業の位置づけ、授業の進め方を理解する。 乳児保育とは何か [1] 乳児保育の理念と概念 [2]						
2	乳児保育の歴史の変遷 [3]						
3	乳児保育の基礎知識 3歳未満児の発達を踏まえた保育 [4] [5]						
4	乳児保育の基礎知識 乳児保育での「配慮事項」とは [6]						
5	保育所・認定こども園における乳児保育 [7] [8]						
6	乳児院における乳児保育 [9]						
7	家庭的保育等における乳児保育 [10] [11]						
8	家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 [12]						
9	保護者とのパートナーシップ [13] [14]						
10	職員間・地域関連機関との連携 [15] [16]						
11	3歳未満児の生活と環境 [17] [18]						
12	3歳未満児の遊びと環境 [19] [20]						
13	3歳未満児の育ちを踏まえた援助と関わり [21] [22]						
14	3歳以上児の保育に移行する時期の保育 [23] [24]						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
小テスト	60%	授業回ごとの小テストを実施する		レポート	15%	中間レポート：課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字、自己の考察内容等、総合的に評価する	
レポート	15%	最終課題レポート：課題に沿った内容であるか、提出期限、誤字脱字、自己の考察内容等、総合的に評価する		授業中の参加度	10%	事例検討での発言等総合的に評価する	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
事前学習：授業回に該当する教科書の内容（「番号」で示した頁）を精読する 事後学習：授業後に出题する復習テストを実施し、知識を定着させる				質問は授業終了後に受け付ける			
教科書・テキスト	よくわかる！保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック [第2版] 池田りな他 ミネルヴァ書房 2019 ISBN:987-4-623-08642-9			受講生に望むこと	・事例検討では当事者に立場になって考えること ・3歳未満児の発達、発育をよく理解しておくこと		
参考書・参考資料等	保育所保育指針			その他・特記事項	保育所での乳児保育の実践経験を有する。 自治体での乳児に関わる業務経験を有する。		

授業科目	発達支援演習						
担当教員	前田 泰弘			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	4年	開講学期	1 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
本講では、発達支援を行う上で必要な客観的根拠（子どもの発達の状況や家庭の様子など）を得るための技術（観察法や評価法）を教授する。また、他の専門機関や学校との連携や、子どもに関する園内外での情報共有や発達支援のための協議の方法等を教授する。担当教員は、保育所等における発達相談や療育の実務経験を有している。授業では事例を交えることで、実践的な理解が促されるようにしている。				子どもの発達の諸相や発達の中で見られる気になる様子、障害の様態、保護者や家庭の理解と支援などに関する知識を総合して、子どもそれぞれのADLやQOLに合わせた発達支援を計画・実践できることを目標とする。			
キーワード	発達支援、個別の計画、検査法、観察法						
教授方法	対面により行う。ICT機器を用いて視覚的に教授するとともに、より実践的に理解できるよう、具体的な支援事例を想定した演習を行う。						
履修条件等	「幼児理解の理論と方法」「発達支援論」を履修済のこと						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	発達支援演習概説						
2	身体感覚の発達理解と支援						
3	特別支援教育諸学校と就学支援						
4	個別支援計画の作成とカンファレンス						
5	発達評価と観察の技術						
6	発達支援を要する児の実際						
7	まとめ -QOLを考慮した発達支援-						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
1	80	筆記試験により知識の習得状況を評価します。			2	20	講義内・後に提示する課題への回答状況を評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
「幼児理解の理論と方法」「発達支援論」等、関連する既習科目の理解を前提に進めます。本講受講前に復習をしておいてください。				講義の前後を中心に適宜対応します。			
教科書・テキスト	「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」（萌文書林）			受講生に望むこと	実際の保育実践や実習等での経験等と照らし合わせながら、実践的に学んでいただけることを望みます。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜指示をします。			その他・特記事項	必要に応じてMicrosoft Teams（オンデマンド教材）を使用します。		

授業科目	保育者支援論						
担当教員	中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	4年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>現在保育現場では、さまざまな課題を抱える子ども、信頼関係が作りづらい保護者、保育者同士の人間関係など、多くの困難を抱えている。また、保育現場は、こうした課題を抱え込みやすい組織的・社会構造的な側面を持つ。本講義では、こうした課題を抱える保育者や保育現場を支援するための方法論を理論的・体験的に学習することを目的とする。園内連携や外部の専門家や機関との協働が保育者の負担を軽減し、さらに保育者の力量形成につながるのかを研究報告や支援実践を通して理解を深める。</p>				<p>保育の質の向上と協働（園内・園外）の関連性を理解する。 保育者のメンタルヘルスについて理解する。 協働を可能にする保育者としての資質を身につける。</p>			
キーワード	保育者のメンタルヘルス 多職種連携 保育者の専門性						
教授方法	講義および演習						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	現在の保育現場における保育者の職務内容と課題						
第2回	保育者としてのアイデンティティの確立と協働性						
第3回	保育と関連機関との連携と課題						
第4回	実践活動にむけた準備						
第5回	保育・子育て支援施設における実践活動						
第6回	保育・子育て支援施設における実践活動						
第7回	振り返り						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	レポートの内容		実践活動	40	演習への参加意欲、演習内での発表、発言から評価する。	
出席	10	出席状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>毎回指定された課題・問題に取り組む。 配布したレジュメをよく読んで、知識の定着を図ること。</p>				<p>質問等がある場合は、授業内もしくは研究室で受け付ける。</p>			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	演習が中心となるため、積極的な演習内での発表、発言、活動への参加意欲を求める。		
参考書・参考資料等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目	保育経営論						
担当教員	太田 光洋			必修・選択	必修	単位数	1単位
履修年次	4年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	子ども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この授業では、保育経営について園経営と学級経営という観点から保育にかかわる基本的な事項とそれを支える人的・物的条件の理解を通して保育経営の基礎について理解する。さらに近年の動向をふまえ、社会におけるこれからの園や保育者に期待する役割について考え、園経営や学級経営における今日的な課題を解決する具体的方法とキャリアステージに応じた保育経営への参画について考える。				園経営と学級経営の基礎的理解を深め、キャリアに応じた参画について理解する。また、卒業後初年度から学級経営を行うための理論を学び、ディスカッションを通して理解を深め、具体的な保育実践ができるようになる。			
キーワード	園経営、学級経営、保育方法、保育者のキャリア						
教授方法	講義及び演習。一部ゲストスピーカーを交え、ディスカッションを随時行う						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	保育経営とは何か、保育者に求められる資質とキャリアに応じた役割について考える、保育経営に関する不安について話し合う						
2	ゲストスピーカーによる学級経営の実際についての話を聞き、学級経営の課題について理解を深める						
3	学級経営についての不安や課題についてディスカッションを通して、自身の課題を明らかにする						
4	自身の課題をふまえ、学級経営に求められる基本的な知識や準備について考え、発表する						
5	ゲストスピーカーによる園経営の実際についての話を聞き、園経営の課題について理解を深める						
6	園経営に関する不安や課題に対して、キャリアごとに期待される資質能力についてディスカッションし、自身の役割と課題について考える						
7	これまでの実習や自身の課題をふまえ、園経営という観点から保育者としてのあり方について考える、まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小レポート(5回)	100	課題について問題や自己課題の認知度、理解度に応じて評価する					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
実習時の記録や記憶を参照し、学級経営や園経営の課題を明らかにすること。ゲストスピーカーの話を参考に、自分のキャリアを展望し、必要な準備について考え、実践する				授業中、授業終了前に質問を受け、授業内で説明する。また、授業後の質問はメールでも受け付ける。ota.mitsuhiro@u-nagano.ac.jp 授業後の質問に対しては、次回授業時に説明する。			
教科書・テキスト	授業時に紹介する。必要に応じて資料を配付する			受講生に望むこと	実習の経験などをふまえ、自身の課題と併せて授業内容を生かせるようにしてほしい		
参考書・参考資料等	授業時に随時紹介する。			その他・特記事項	保育者研修、幼稚園長等の実務経験で得られた知見を、教授内容に反映する。		

授業科目	保育臨床特殊講義						
担当教員	関 裕子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	2年	開講学期	4 学期	授業形態	講義	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>教育改革の一環として幼児教育が重要視され、乳幼児期の教育のあり方に関心が高まりつつある一方で、保育現場の保育者、園の力だけでは改善が難しい制度や育ちの社会的無理解が、保育の質や保育者の社会的評価に影響を及ぼしている。</p> <p>本授業では、子どものより良い育ちを保障するための要件は何か、また、やむを得ない状況においてそれを補完するためにはどのような思考が求められるか、制度、メディアなど様々なキーワードを切り口に、ピンチをチャンスに変えた県内外の保育現場の事例・データから考察を深め、子どもの理解者を増やす社会構築のヒントを見出していく。</p>				<p>保育課題を考えるための基本的知識を習得する。</p> <p>保育課題に対する自分なりの問題意識と思考方法を獲得する。</p> <p>保育課題を分析する際にどのような点に着目すべきかを学ぶ。</p>			
キーワード	保育 格差 創意工夫 ピンチはチャンス						
教授方法	講義形式(理解深度のため画像・DVD視聴を含む)後、演習問題で思考を深める。						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	保育と格差 ～保育現場のリアル～						
2	保育と制度 ～データから読み取る新制度の理解度～						
3	保育とコミュニティ ～子育ての環は社会総がかり～						
4	保育と療育・特別支援教育 ～望まれる相互理解～						
5	保育とマスメディア ～子ども理解に基づく様々な発信～						
6	保育と義務教育 ～互いにアプローチ～						
7	保育のパラドックス ～本質を見直す～						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小レポート	50	多様な考えを取り入れながら思考を深めているか			最終課題	50	独自性をもって思考を深めているか
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業のテーマ「保育と〇〇」をメディアで検索し、上位表示をチェックしてから授業に臨んでください。				授業の前後に対応する			
教科書・テキスト	適時、指示する			受講生に望むこと	保育・子育ての課題に対する多様な切り口をつかみとってください		
参考書・参考資料等	適宜、指示します			その他・特記事項	特になし		

授業科目		保育臨床特殊講義					
担当教員	福岡 寿			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	3 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>平成8年度より、長野県内の保育園・幼稚園等の巡回訪問支援を実施してきているが、近年、保育園では、発達特性等のある園児をはじめ、様々な配慮を必要とする園児の増加がみられ、クラス活動を進めていく保育士は、配慮を要する園児に対応する加配保育士等と緊密な連携を図りつつ、クラスづくりを進めていくことが必要になってきている。そのため、本講義では多くの保育園・幼稚園を巡回指導してきた現場での実践を踏まえ、発達特性のある園児のいるクラスにおいて、クラス活動の進め方、配慮を要する園児への対応、主活動を進める保育士と加配保育士との連携、発達特性のある子の家族との連携、また、関係機関との多職種連携のあり方について学ぶ。</p>				<p>保育園・幼稚園等の現場で働く専門職として、園児との関係づくり（対応の仕方、信頼関係の作り方等）を理解する。 発達特性のある子の集団適応を進めるためには、特性のある子を取り巻くクラス的环境因子（クラス的环境、園児の活動、保育士の対応等）が重要であることを理解する。 発達特性のある子の行動の特性および必要とされる配慮を理解する。 発達特性のある園児の卒後に向けて、本人と家族の不安感に寄り添いつつ、保育園として、保健・福祉・教育等の関係機関と連携していくことの重要性と連携の仕組みについて理解する。</p>			
キーワード	保育士と園児との関係構築、実行機能、特性への配慮、多職種連携						
教授方法	講義を中心とするが、講義の理解をより深めるために、映像等の視覚教材の活用、および、質疑						
履修条件等	特にありません						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	授業の位置づけ、授業の進め方を理解する。授業を通じて何を学ぶかを知る。講義の開始にあたり、第一回目の講義では、県内外の保育園巡回指導からみられる現在の保育園・幼稚園現場の実情を理解する。						
2	クラス作りためには、園児との信頼関係づくりが重要であり、そのための関わり方の基本を学ぶ。園児との関係を強化していく中で、クラス的环境づくりにも配慮しつつ、保育士の過剰な指示や声かけ、対応が無くとも園児が主体的に行動で						
3	発達特性のある子が集団に適応していくためには、対象児を取り巻くクラス的环境づくりが重要であることを学ぶ。その際、最も重要なクラス環境は、園児が自主的に行動し、夢中で真剣に活動する園児集団であることを理解し、そのためのに必要な取り組みを理解する。						
4	発達特性のある子が、クラスでどのような行動特性を示すかを理解した上で、行動特性に対して、どのような配慮をしていくことが重要であるかを理解する。						
5	主活動を進める保育士と特性のある子に対応する加配等の保育士の連携のあり方を理解する。その中で、発達特性のある園児も不適応になることなく、むしろ持っている特性の強みをクラスづくりに活かしていくことの大切さを理解する。						
6	発達特性のある子の卒園から就学に向け、対象児と家族を支える保健・福祉・教育等の多職種連携のあり方を学ぶ。						
7	第1回から6回までの講義を踏まえ、質疑応答を通じて、より理解を深め、その後の保育園等の実習を効果的に進めるために必要な視点等を理解する。						
共通の成績評価基準							
(S)基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。(A)基本的な到達目標を十分に達成している。(B)基本的な到達目標をおおむね達成している。(C)基本的な到達目標を最低限度達成している。(F)基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50%	講義を通じて習得した理解度に応じて評価する。		レポート	50%	講義と質疑等を通じて学んだ点、その後の実習等に活かしていきたい点等についてレポート提出を求め、記述内容に応じて評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
全ての講義を終えたのちにレポート提出を求める。				各講義の終わりに質疑の時間を設けるが、最終の講義において質疑応答の時間を集中的に設ける。			
教科書・テキスト	講義はパワーポイント等の資料で進める。			受講生に望むこと	本講義の内容を通じて理解した内容をその後の保育園等の実習にどう活かしていくか、各自、保育実習を想定しながら講義に臨んで下さい。		
参考書・参考資料等	「気になる子が活きるクラスづくり」（福岡寿著 中央法規出版）の購読を勧める。			その他・特記事項	実務経験 平成2年度より障害児とその家族の支援業務に携わってきた。平成8年度からは長野県北信圏域（中野市等）の保育園巡回を開始し、平成26年度からは、長野県の事業に基づき、県内広く保育園・幼稚園巡回に取り組んでいる。		

授業科目	保育臨床特殊講義						
担当教員	菱田 隆昭			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	2 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この科目は、保育に関する現代的課題や子ども・保護者を取り巻く地域・社会・環境と保育のあり方について、歴史的な掘り下げを行うことで理解を深めるものである。長野県で行われてきた学校教育・幼児教育・保育の歴史について、それらの概観を理解するとともに、人々の熱意や願い、様々な工夫などを知り、地域と人々の関わりが今日の保育にどのように結びついているかを学ぶ。その際、史料を読み解いたり、意見交換をしたりして、考え方の幅を広げられるようにする。				ねらい 長野県を中心として、我が国の学校教育・幼児教育・保育の歴史の概観を理解するとともに、それらの発展に懸けた人々の熱意・願い・工夫等を知ることができる。史料の読解を通して、当時の幼児教育・保育の状況を考えるとともに、今日の教育・保育にどのように結びついているかを考察することができる。 到達目標 日本の近代から今日までの学校教育・幼児教育・保育の主な流れを理解することができる。 長野県の学校教育・幼児教育・保育の歴史を概観し、特徴的な出来事を取り上げ、その意義を理解できる。 明治期の史料読み、当時の幼児教育・保育を考えるとともに、分かったことをポスターにまとめ、発表することができる。 保育者養成（幼稚園保母養成機関）について、基本的事項の理解とともに、今日的課題との関連性を考えることができる。			
キーワード	長野県 教育の歴史 保育の歴史 保育者養成						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。調べ学習、ポスター作成、発表、意見交換等を行う。						
履修条件等	特になし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション：授業の進め方を理解する。教育の歴史を学ぶ意義を理解する。						
2	近代日本の教育史の概観を理解する。明治期の教科書等の史料を読む。						
3	長野県の近代教育史の概観を理解する。特徴的な出来事を調べる。授業時レポート を作成する。						
4	長野県の幼児教育・保育の歴史を理解する。代表的な保育や幼稚園を取り上げ、理解を深める。						
5	明治期の保育関連史料を読み、当時の保育の状況を考え、ポスター（発表資料）を作成する。						
6	ポスターを発表する。意見交換を通して、多様な考え方を知る。						
7	幼稚園保母養成の歴史を理解する。上田保母伝習所の史料を読み、教育内容や地域の関連性を考える。授業時レポート を作成する。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
ポスター作成・発表	60%	史料を読み解き、ポスターを正確に分かりやすくまとめることができたか、分かりやすく発表できたかを評価する。			授業時レポート	30%	問題意識をもって課題に取り組んだかを評価する。
積極的な受講態度	10%	意見交換時などの積極的な受講態度を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
授業時に配布した資料を熟読し、関連事項を調べる。授業時に紹介した参考文献等を読み、ノートにまとめる。				質問は、授業内や授業の前後で受け付ける。授業の初めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。			
教科書・テキスト	特になし。			受講生に望むこと	集中講義ですので、体調を整え、集中力をもって授業に臨みましょう。また、積極的な受講態度を期待しています。		
参考書・参考資料等	授業時に資料を配布する。また、授業中に適宜参考文献等を紹介する。例えば、『信州教育事始め』駒込幸典著 信濃毎日新聞社 1999年			その他・特記事項	長野県は、教育に対して、とても熱心な土地柄であり、全国的にも「教育県」と言われています。その源流の一端を、一緒に探ってみましょう。		

授業科目	保育臨床特殊講義						
担当教員	太田 光洋			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	4年	開講学期	1 学期	授業形態	講義	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
この講義では、保育や子どもに関する現代的な課題やトピックについて、臨床に携わるゲストスピーカーを招いてその理解を深める。今年度は、保育コーチング、子育て支援、子どもの貧困、環境等について取り上げる。				子どもや保育が抱える現代的な課題についての理解を深め、具体的な支援や保育を構想できるようになる。			
キーワード	保育コーチング、子育て支援、子どもの貧困、環境						
教授方法	講義及び園種。随時、グループワーク、発表を行う						
履修条件等	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション、保育や子どもをめぐる現在の臨床的課題について考える						
2	コーチングの理論について学び、保育におけるコーチングについて、グループワークを通して理解を深める						
3	保育、子育て支援におけるコーチングの実践について、グループワークで実践し、基礎的な具体的実践力を身につける。						
4	子どもの貧困と支援の実践について、アクティブラーニングを通して学び、保育者としてできることを考える。						
5	周産期における母子のあり方や支援の実践について学び、この時期の子育て支援のあり方についての具体的理解を深める。						
6	環境による保育と保育内容、方法について、グループディスカッションや発表を通して、具体的な保育展開力を身につける						
7	地域における子育て支援の実践、保育者としての成長についてグループワークを行い、自身のキャリアについて考える、まとめ						
共通の成績評価基準							
【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小レポート	75	2～6回の授業内容の理解度に応じて評価する			まとめのレポート	25	子どもや保育課題についての考察の程度に応じて評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
子どもや保育をめぐる現代的課題について調べる。				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付け、最後に説明する。 ・メールでの質問も受け付ける。ota.mitsuhiro@u-naganno.ac.jp ・授業後の質問等に対しては毎回の授業冒頭で説明する。 			
教科書・テキスト	なし。資料等を随時配付する			受講生に望むこと	現代的課題を自分の問題として、また、自分にできることは何かということと併せて考え、実践に結びつけてほしい		
参考書・参考資料等	阿部彩『子どもの貧困』岩浪新書、下野新聞社『貧困の中の子ども 希望って何ですか』ポプラ新書、重松延寿『マンガでやさしくわかるコーチング』CTIジャパン			その他・特記事項	保育者対象の研修、幼稚園長、保育者等のアドバイザー、自治体審議会等の実務経験で得られた知見を教授内容に反映する。		

授業科目		教育実習 事前事後指導					
担当教員	渡邊 望			必修・選択	選択	単位数	0.5単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>事前指導では、教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園理解を深めるとともに、実習前・実習中の留意点と対策、訪問指導教員の指導の受け方について学ぶ。また、見学実習の際の子どもの観察記録、指導計画の立案、実践と評価の内容と方法等、実際に現場で幼稚園、幼稚園教諭の役割を学ぶための基本的な知識を得て、最初の実習に臨めるよう必要な準備を整える。</p> <p>事後指導では、実習先の評価をもとにした総括と学びの振り返り、実習での自らの課題、また、次の教育実習に向けた新たな課題について、省察と課題発見を行う。</p>				<p>教育実習の目的や意義について理解し、実習の内容や方法が分かり、子どもを見る視点や保育者の意図を推察することができる。</p> <p>実習での保育を省察し、教育実習に向けた自己課題を明らかにする。</p>			
キーワード	実習、幼稚園、保育実践、子ども、保育者						
教授方法	講義を中心に行うが、実習中に困難が生じないように演習を行ったり、受講者の質問に答えたりしながら進める。						
履修条件等	幼稚園と幼稚園教諭に関心があり、その役割について学びたい意思があること。						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	教育実習の意義と目的を理解し、自分の課題の明確化。						
2	実習先でのオリエンテーションの受け方の理解。						
3	実習記録の意味を理解し、記入方法の確認。						
4	実習生の心構えと実習中の取り組み方の理解。						
5	実習前後の手続きを理解し、実習資料の作成。						
6	教育実習の振り返りと省察および教材研究。						
7	教育実習に向けた今後の課題の検討。						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。</p> <p>【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。</p> <p>【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。</p> <p>【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。</p> <p>【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
事前レポート	50	実習園について調査し概要をまとめる。実習に向けても自己課題を明らかにし、実習での取り組みを具体的に検討する。			事後レポート	50	実習を振り返り、学んだことをまとめる。自己評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>実習園に関する調査を行う。</p> <p>絵本などの児童文化財や保育教材などについて各自で調べる。</p> <p>実習を振り返り省察し、気づきや学びをまとめる。</p>				<p>授業の前後に対応するほか、適宜研究室でも対応する。</p> <p>緊急の場合には電話での相談にもこたえる。</p>			
教科書・テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著 ミネルヴァ書房			受講生に望むこと	外部での実習をより有意義な時間にするためには、自ら課題を見つけ、思考しながら取り組むことが必要です。実習指導以外の授業で学んだことも、適宜振り返りながら実習の準備を進めていきましょう。		
参考書・参考資料等	「保育者になるための国語表現」、田上貞一郎、萌文書林 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」、長島和代ほか、わかば社 その他、シアター遊びや折り紙など保育関連書籍			その他・特記事項	教育実習の準備を進めていきます。毎回必ず出席してください。 2学期にも数回事前指導を行います。担当者のアナウンスを確認してください。		

授業科目	教育実習						
担当教員	渡邊 望			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
幼稚園の生活に参加することで、幼児理解を深めるとともに、幼稚園の役割と機能、保育の内容、子どもの生活、記録、幼稚園教諭の役割、職務内容について、実践的、具体的に理解する。観察実習と部分参加実習を中心として幼児の発達および発達過程と、それに応じた保育の実践について学ぶ。記録の意義や子どものとらえ方、幼稚園教諭の役割など、教師としての視点や考え方を指導教諭の指導の下で学び、実践的理解を深めるとともに以後の学習に向けた課題を明らかにする。				幼稚園教育について、観察実習・参加実習を通して実践的な理解を深める。また、部分実習を通して、子どもの個人差や教師に求められる資質に気づく。			
キーワード	幼児理解、幼稚園教諭の役割、保育実践、記録と計画						
教授方法	指定された幼稚園で2週間連続して実習を行う。						
履修条件等	幼稚園と幼稚園教諭に関心があり、その役割について学びたい意思があること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（於：学内） 教育実習 についての理解。						
2	オリエンテーション（於：実習園） 各園での実習オリエンテーションに訪問し、実習内容および注意事項の確認。						
3	観察実習 1 園の概要、1日の流れの理解。						
4	観察実習 2 学級活動や子どもの様子を観察しおよび理解。						
5	観察実習 3 子どもの様子の観察からの、遊びや興味関心、発達特徴の理解。						
6	観察実習 4 子どもの様子の観察からの、遊びや興味関心、発達特徴の理解。						
7	観察実習 5 子どもの様子の観察からの、遊びや興味関心、発達特徴の理解。 1週間の流れの理解。						
8	観察実習 6 教師の動きや言葉かけからの、配慮や意図の推察と理解						
9	観察実習 7 教師の動きや言葉かけからの、配慮や意図の推察と理解						
10	観察実習 8 教師の動きや言葉かけからの、配慮や意図の推察と理解						
11	部分実習 1 保育の一部分を担当し、子どもの個人差や教師に求められる資質への気づき						
12	部分実習 2 保育の一部分を担当し、子どもの個人差や教師に求められる資質への気づき						
13	部分実習 3 保育の一部分を担当し、子どもの個人差や教師に求められる資質への気づき						
14	実習のまとめ 反省会を通して、学内での取り組みや次の実習に向けての課題の明確化。						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習評価		実習園の評価と実習記録の内容から総合的に評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習前は絵本や手遊び、簡単な遊びのアイデアなどの準備を行いましょう。実習後は、実習での気づきを参考に今できることを考えて取り組んでください。				巡回指導訪問教員が訪れた際に相談する、もしくは実習担当者にメールが電話で直接相談してください。			
教科書・テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著 ミネルヴァ書房、			受講生に望むこと	現場で学べる貴重な機会ですので、幼稚園の先生に相談しながら、積極的に取り組んでください。		
参考書・参考資料等	「保育者になるための国語表現」、田上貞一郎、萌文書林 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」、長島和代ほか、わかば社 その他、シアター遊びや折り紙など保育関連書籍			その他・特記事項	教育実習 事前事後指導の授業をすべて受講していることが必要です。必ず出席してください。		

授業科目		保育所実習 事前事後指導					
担当教員	小笠原 明子			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>保育実践の場を理解するためには、保育所の役割や機能を理解するとともに、子どもの理解や保育士の専門性を学ぶことが重要となってくる。そのために、講義と実践を結びつけることができるよう、知識・意識・技術などを実践的に準備を行う。授業は講義だけでなく、学生自身が考え表現し学ぶことができるよう演習（グループワーク）の形態をとることもある。実習後は、実習録などを基に振り返りをおこなうことで、保育所実習 に向けた課題や学習目標を明確にし、保育所実習 と保育所実習 が連続性のあるものとする。</p>				<p>・保育所実習 の目標を明確にし、実習施設の方針・日課等、また子どもの実態（発達や経験）に合わせて指導計画案をたて、教材準備をおこなう実践力を育む。 ・実習後には、実習の振り返りを踏まえ、改善のための課題や学習目標を明確にする。</p>			
キーワード	保育所の役割、子ども理解、保育者の専門性						
教授方法	講義形式で実施する						
履修条件等	保育士資格に必要な講義を履修済みであることが好ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	保育所実習 指導ガイダンス （実習の目的と概要の理解、実習の心構えと留意事項の理解）						
2	保育所実習 の意義と目的 （実習の手引きの内容の理解、実習前後の手続きについての確認）						
3	保育所実習 に向けて （保育所の役割と機能の理解）						
4	保育所実習 に向けて （保育所実習 実習録の意味と書き方）						
5	保育所実習 に向けて （子どもを理解するための視点を学ぶ）						
6	保育所実習 に向けて （子どもに合わせた保育の考え方の理解）						
7	保育所実習 に向けて （部分実習の教材準備と指導計画案作成）						
8	保育所実習 に向けて （指導計画案による模擬保育）						
9	保育所実習 に向けて （実習前後の手続き）						
10	保育所実習 事後指導 （保育所実習 を振り返り省察と報告をおこなう）						
11	保育所実習 事後指導 （保育所実習 を振り返り観察の方法、実習録の書き方を確認する）						
12	保育所実習 事後指導 （保育所実習 を振り返り指導計画案の立案方法を確認する）						
13	保育所実習 事後指導 （保育所実習 を振り返り教材の研究をおこなう）						
14	保育所実習 総括 （保育所実習 に向け課題を明確にする）						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加および取り組み	100	実習の手引き参照					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先の施設について事前に調べておく。				随時受け付ける。			
教科書・テキスト	実習テキストにより進める。			受講生に望むこと	主体的に取り組むこと。		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	担当教員の小笠原は、保育現場における保育の実務経験を有しております。		

授業科目	保育所実習						
担当教員	小笠原 明子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3年	開講学期	4 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	子ども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>実習は各自が指定された保育所で3年生の2学期に10日～11日間実施する。主に観察・参加実習が主となり、子どもの様子を把握することを通して指導案の作成および部分実習を行い、さらに、振り返りを実施することで自身の実習を深めていく。また、実習の不安や不明な点の改善、実習の見直し等の助言のため、実習期間中は教員が巡回指導をおこなう。</p>				<p>実習施設について理解をし、保育者の役割や子どものかかわりを観察の視点から学ぶ。さらに、実際に子どものかかわりを通して発達を理解を深める。保育所の役割（地域との連携等）を学ぶ。</p>			
キーワード	観察・参加実習、保育所の理解、子どものかかわり						
教授方法	実践						
履修条件等	保育所実習 事前指導を全て受講していること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	保育所での実習オリエンテーション（保育所の方針・日課の理解、配属クラス・持ち物・勤務時間などの確認）						
2	観察・参加実習1（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
3	観察・参加実習2（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
4	観察・参加実習3（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
5	観察・参加実習4（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
6	観察・参加実習5（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
7	巡回教員の指導（巡回教員による実習指導をおこなう）						
8	指導案の作成（これまでの観察・参加実習を基に部分実習の指導を立案し、担当の先生に指導していただく）						
9	部分実習・振り返り（指導案に基づき部分実習をおこなう。終了後、担当の先生と振り返りを実施することで自身の課題を見つける）						
10	観察・参加実習6（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
11	部分実習・振り返り（指導案に基づき部分実習をおこなうが、前回の課題について改善できるよう意識し取り組むようにする）						
12	観察・参加実習7（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
13	保育所での反省会（先生方から実習全体についての反省会をおこなっていただく）						
14	実習録の提出と受け取り（実習録を書き上げ提出し、その後、実習録を受け取りに行く、実習終了後、お礼状を作成する）						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習評価	100	実習の手引き参照					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先の施設について事前に調べておく 教材の準備をおこなう				随時、受け付ける			
教科書・テキスト	特になし			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	担当教員の小笠原は保育現場における保育の実務経験を有しております（保育現場での実習担当の経験あり）。		

授業科目	保育所実習 事前事後指導					
担当教員	小笠原 明子		必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナンバリング
対象学生	こども	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
<p>保育所実習 の学びと課題を基に保育所実習 の目標を明確にする。実習時期にあわせた保育所のカリキュラムや子どもの姿を想定した指導計画案をたて、教材研究と準備、模擬保育を通して実践力を培う。授業は講義だけでなく、学生自身が考え表現し学ぶことができるよう演習（グループワーク）の形態をとることもある。実習後は、自己評価や面談、レポート等を通して実習を振り返り、今後の学習の課題や目標を明確にする。</p>				<p>・保育所実習 の目標を明確にし、子どもの実態（発達や経験）に合わせて指導計画案をたて、教材準備をおこなう実践力を身につける。 ・実習後には、実習の振り返りや自己評価・面談などを通して、今後の学習の課題や目標を明確にする。</p>		
キーワード	責任実習、保育カリキュラム、教材準備					
教授方法	演習形式で実施する					
履修条件等	保育所実習 、保育所実習 事前事後指導、施設実習 、施設実習 事前事後指導履修済みのこと 保育士資格に必要な講義を履修済みであることが好ましい					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	保育所実習 指導ガイダンス （実習の目的と概要の理解、実習の心構えと留意事項の理解）					
2	保育所実習 の意義と目的 （実習の意義と目的について理解し自分の課題を明確にする）					
3	保育所実習 に向けて （保育所実習 実習録の意味と書き方）					
4	保育所実習 に向けて （保育の展開の理解）					
5	保育所実習 に向けて （実技指導）					
6	保育所実習 に向けて （責任実習の教材準備と指導計画案作成）					
7	保育所実習 に向けて （指導計画案の添削）					
8	保育所実習 に向けて （指導計画案による模擬保育）					
9	保育所実習 に向けて （実習前後の手続き）					
10	保育所実習 事後指導 （保育所実習 を振り返り自己評価をおこなう）					
11	保育所実習 事後指導 （保育所実習 を振り返り省察と報告をおこなう ）					
12	保育所実習 事後指導 （保育所実習 を振り返り省察と報告をおこなう ）					
13	保育所実習 事後指導 （保育所実習 を振り返り保育士の専門性を考える）					
14	保育所実習 総括 （自己評価、振り返りを基に課題を明確にする）					
共通の成績評価基準						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加および取り組み	100	実習の手引き参照				
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応		
実習先の施設について事前に調べておく 保育所実習 を振り返り課題を明確にする				随時受け付ける		
教科書・テキスト	実習テキストにより進める			受講生に望むこと	主体的に取り組むこと	
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	担当教員の小笠原は保育現場における保育の実務経験を有しております	

授業科目		保育所実習					
担当教員	小笠原 明子			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>実習は各自が指定された保育所で3年生の3学期に10日～11日間実施する。保育所実習を踏まえ部分実習や責任実習をおこなう。子どもの実態（発達・経験）に合わせ指導案の作成および部分実習・責任実習をおこない、さらに、振り返りを実施することで自身の実習を深めていく。また、実習の不安や不明な点の改善、実習の見通し等の助言のため、実習期間中は教員が巡回指導をおこなう。</p>				<p>・実習施設について理解をし、保育所の役割・機能や保育士の専門性、乳幼児の発達を理解を深め、総合的に学ぶ。 ・子どもの実態（発達・経験）を基に保育の計画について理解を深め、部分実習や責任実習を実施する。</p>			
キーワード	部分・責任実習、保育者の専門性、乳幼児の発達を理解、子どもの実態（発達・経験）の理解						
教授方法	実践						
履修条件等	保育所実習の指導を全て受講していること、保育所実習他、指定科目の単位を取得していること						
授業計画							
実施回	授業内容						
1	保育所での実習オリエンテーション（保育所の方針・日課の理解、配属クラス・持ち物・勤務時間などの確認）						
2	観察・参加実習1（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
3	観察・参加実習2（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
4	指導案の作成（これまでの観察・参加実習を基に部分実習の指導を立案し、担当の先生に指導していただく）						
5	部分実習・振り返り（指導案に基づき部分実習をおこなう。終了後、担当の先生と振り返りを実施することで自身の課題を見つける）						
6	参加実習3（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
7	巡回教員の指導（巡回教員による実習指導をおこなう）						
8	指導案の作成（これまでの観察・参加実習と部分実習を基に責任実習の指導を立案し、担当の先生に指導していただく）						
9	指導案の修正・準備（所長先生、実習担当の先生の指示に従い指導案を修正し、教材の準備をおこなう）						
10	責任実習（指導案に基づき責任実習をおこなう。終了後、担当の先生と振り返りを実施することで自身の課題を見つける）						
11	責任実習反省会（責任実習終了後、所長先生、実習担当の先生、担当の先生と反省会をおこなっていただく）						
12	観察・参加実習4（所長先生、実習担当の先生の指示に従い実習をおこなう）						
13	保育所での反省会（先生方から実習全体についての反省会をおこなっていただく）						
14	実習録の提出と受け取り（実習録を書き上げ提出し、その後、実習録を受け取りに行く、実習終了後、お礼状を作成する）						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習評価	100	実習の手引き参照					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習先の施設について事前に調べておく 教材の準備を行う				随時受け付ける			
教科書・テキスト	保育実習の手引き			受講生に望むこと	積極的に取り組むこと		
参考書・参考資料等	特になし			その他・特記事項	担当教員の小笠原は保育現場における保育の実務経験を有しております（保育現場での実習担当の経験あり）。		

授業科目		施設実習 事前事後指導					
担当教員	尾島 豊・中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	3・4年	開講学期	1・2学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
施設実習 を円滑かつ効果的に進めるために必要な知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にする共に、実習体験を深化することが目的。特に施設実習 の選択は進路との関連もあり、実習先を自分で調べて決定することが重要となる。事前学習は、実習先の理解、実習への心構え、実習のねらいと内容の理解、事後は振り返っての自己洞察などが課題となる。				児童福祉施設または障害支援施設等の福祉施設で実習を行い、その経験から児童や利用者の理解を深め、実習の経験を深めて就職できることが目標。			
キーワード	児童福祉施設、障害者施設						
教授方法	実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を徹底して行う。						
履修条件等	施設実習 を履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	施設実習の意義と オリエンテーション・具体的手続き						
2	施設実習の概要 - DVD教材、先輩の日誌を読みながら						
3	施設実習 の選択に向けて - 施設実習で行く施設の概要・養護系障害系施設						
4	施設実習 の選択に向けて - アンケートと調整						
5	施設実習 の選択に向けて - 実習希望の決定						
6	施設実習 に向けて - 実習施設の決定、事前訪問、						
7	施設実習 に向けて - 実習の目的の明確化						
8	施設実習 に向けて - 実習日誌について-						
9	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
10	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
11	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
12	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
13	実習後の学習 - 実習の振り返り（グループでの報告と議論）-						
14	実習後の学習 - 実習の振り返り（個別に評価伝達）-						
共通の成績評価基準							
実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を行う。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習レポート（事前）	30	実習課題がどれだけ明確化しているか		実習レポート（事後）	30	実習の経験の学びがどれだけ深まっているか	
出席	40	授業への参加度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
施設実習 の履修が前提				授業時または個別に相談に乗る			
教科書・テキスト	資料を配布予定。			受講生に望むこと	施設実習 とこの授業を履修する者は福祉系の就労を目指していることが望ましい。		
参考書・参考資料等	資料を配布予定。			その他・特記事項	なし		

授業科目	施設実習						
担当教員	尾島 豊・中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	2学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
保育士資格の取得には「施設実習」の履修が必修科目。11日間の実習。主に居住型施設の生活に参加し、児童や利用者の理解を深めるとともに、施設の機能と福祉専門職、保育士の職務について学ぶ。				児童福祉施設または障害支援施設の福祉施設(主に居住型)の生活に参加して、その経験から児童や利用者の理解を深め、支援の実際を習得することが目的。			
キーワード	児童福祉施設、障害者支援施設						
教授方法	実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を行う。						
履修条件等	事前事後施設実習指導の科目を必ず履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	児童福祉施設等での実習、原則は11日間(1日8時間)、主に居住型の福祉施設で実習を実施する。時期は7月中に実施予定。						
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
共通の成績評価基準							
* 実習前、実習期間中、実習後の期間を通じての態度と実習先の施設の評価を踏まえた総合評価。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
実習前の学習				実習期間中の学習			
実習後の学習							
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
実習先の施設で実習を実施すること。				授業時、または個別に相談にのる。			
教科書・テキスト	必要な資料を配布。			受講生に望むこと	施設への関心をもち、深めること。		
参考書・参考資料等	必要な資料を配布。			その他・特記事項	なし		

授業科目	施設実習 事前事後指導				
担当教員	尾島 豊・中山 智哉		必修・選択	選択	単位数 1単位
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習 科目ナバリング
対象学生	こども	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
<p>「施設実習」に比べて、障害、養護系の福祉施設（通所も含む）、その他の福祉施設での幅広い施設種別で実習を行う。福祉関係の就労を希望する学生が選択する。児童福祉施設、社会福祉施設における養護・支援活動に実際に参加し、必要な知識・能力・技術を習得する。さらに家庭や地域の生活実態にふれて、子どもや利用者の家庭に対する理解力・判断力を養うとともに地域で支援するために必要とされる能力を養い、施設の機能と福祉専門職、保育士の職務について学ぶ。</p>			<p>学生の進路を踏まえて、児童福祉施設または障害支援施設の福祉施設の経験から児童や利用者の理解を深め、実習の経験を深めることが目的。</p>		
キーワード	児童福祉施設、障害者支援施設、その他の福祉施設				
教授方法	実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を徹底して行う。				
履修条件等	事前事後指導（施設実習）を必ず履修すること。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	原則11日間（1日8時間）、個々の関心のある福祉施設での実習を実施する。				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
共通の成績評価基準					
実習前、実習期間中、実習後の期間を通じての態度と実習先の施設の評価を踏まえた総合評価。					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
実習前学習			実習期間中		
実習後学習					
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
実習先施設での11日間の実習			授業時、または個別に相談にのる。		
教科書・テキスト	必要な資料を配布。		受講生に望むこと	将来の就職を福祉系の仕事を目指している者。	
参考書・参考資料等	必要な資料を配布。		その他・特記事項	なし	

授業科目	施設実習						
担当教員	尾島 豊・中山 智哉			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	3・4年	開講学期	3・4学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	子ども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>「施設実習」に比べて、障害、養護系の福祉施設（通所も含む）、その他の福祉施設で幅広い施設種別での実習を行う。福祉関係の就労を希望する学生が選択する。児童福祉施設、社会福祉施設における養護・支援活動に実際に参加し、必要な知識・能力・技術を習得する。さらに家庭や地域の生活実態にふれて、子どもや利用者の家庭に対する理解力・判断力を養うとともに地域で支援するために必要とされる能力を養い、施設の機能と福祉専門職、保育士の職務について学ぶ。</p>				<p>学生の進路を踏まえて、児童福祉施設または障害支援施設の福祉施設の経験から児童や利用者の理解を深め、実習の経験を深めることが目的。</p>			
キーワード	児童福祉施設、障害者支援施設、その他の福祉施設						
教授方法	実習前は、施設実習先の説明、選択する施設を理解し、一般的な実習の諸注意などを学び、そして希望先の施設に連絡して決定する具体的な手続きの支援と、さらに決定後は実習先の施設の理解、実習目的の明確化、実習日誌の記入方法などを学ぶ。実習を終えた事後学習は、グループを使って自己の実習を振り返る訓練を徹底して行う。						
履修条件等	事前事後指導（施設実習）を必ず履修すること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	原則11日間（1日8時間）、個々の関心のある福祉施設での実習を実施する。						
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
共通の成績評価基準							
実習前、実習期間中、実習後の期間を通じての態度と実習先の施設の評価を踏まえた総合評価。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習前学習					実習期間中		
実習後学習							
授業外における学習（事前・事後学習等）					質問や相談への対応		
実習先施設での11日間の実習					授業時、または個別に相談にのる。		
教科書・テキスト	必要な資料を配布。				受講生に望むこと	将来の就職を福祉系の仕事を目指している者。	
参考書・参考資料等	必要な資料を配布。				その他・特記事項	なし	

授業科目		教育実習 事前事後指導					
担当教員	渡邊 望			必修・選択	選択	単位数	0.5単位
履修年次	4年	開講学期	2 学期	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
事前指導では、教育実習の意義と目的を理解し、実習や既習の教科の内容を踏まえた上で、幼稚園教諭として必要な資質や能力、技能を得るために、責任実習の際の記録、指導計画の立案と修正、教材研究、実践と評価の内容と方法等、現場で実践するために必要な準備を整える。実習前・実習中の留意点と対策、訪問指導教員の指導の受け方について再確認する。 事後指導では、実習先の評価をもとにした総括と学びの振り返り、自分の保育の省察と課題発見を行う。				教育実習の目的や意義について理解し、子どもの発達に即した指導計画の立案や、教材の準備ができる。 実習での保育を省察し、今後の課題を明確にする。			
キーワード	実習、幼稚園、保育実践、子ども、保育者						
教授方法	講義を中心に行うが、実習中に困難が生じないように演習を行ったり、受講者の質問に答えたりしながら進める。						
履修条件等	幼稚園と幼稚園教諭に関心があり、その役割について学びたい意思があること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	教育実習の目的と意義の理解。						
2	指導計画、教材研究の方法や保育の展開の仕方について。						
3	子ども達の姿、発達を踏まえた、保育計画の立案および教材準備。						
4	事前訪問時の書類を作成および、諸注意の確認。						
5	実習中の留意点と対策、訪問指導教員の指導の受け方の確認。						
6	実習の振り返りと省察および、自己課題の明確化。						
7	実習での学びと課題などの体験共有と、保育内容、保育方法についての意見交換。						
共通の成績評価基準							
【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
事前レポート	50	実習に向けても自己課題を明らかにし、実習での取り組みを具体的に検討する。		事後レポート	50	実習を振り返り、学んだことをまとめる。自己評価を行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
実習園に関する調査を行う。 絵本などの児童文化財や保育教材などについて各自で調べる。 実習を振り返り省察し、気づきや学びをまとめる。				授業の前後に対応するほか、適宜研究室でも対応する。 緊急の場合には電話での相談にもこたえる。			
教科書・テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著 ミネルヴァ書房			受講生に望むこと	外部での実習をより有意義な時間にするためには、自ら課題を見つけ、思考しながら取り組むことが必要です。実習指導以外の授業で学んだことも、適宜振り返りながら実習の準備を進めていきましょう。		
参考書・参考資料等	「保育者になるための国語表現」、田上貞一郎、萌文書林 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」長島和代ほか、わかば社 その他、シアター遊びや折り紙など保育関連書籍			その他・特記事項	教育実習の準備を進めていきます。毎回必ず出席してください。 1学期にも数回事前指導を行います。担当者のアナウンスを確認してください。		

授業科目	教育実習						
担当教員	渡邊 望			必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	2 学期	授業形態	実験・実習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>教育実習 の学びとその後の学習をふまえ、幼稚園における教育活動について、指導教諭のもとで計画・実践し、幼稚園教諭として必要な資質・専門的知識・技術を習得する。幼稚園実習 では、子どもの観察記録、指導計画の立案、実践と評価の内容と方法等について実際に取り組む参加実習、責任実習を中心として、理論と実践の統合をはかり、保育理解を深める。また、クラス経営や家庭と地域の生活実態にふれ、子育て支援ニーズについて理解を深めるとともに、子育てを支援するために必要な能力を養う。</p>				<p>1．観察実習・参加実習を通して、教師の意図と子どもの姿の関係について学ぶ。 2．責任実習を通して、子ども主体の保育展開の方法を体験的に学び、教師の役割について理解を深める。 3．実習の振り返りを通して、教師の在り方について考え、自己課題を明確にする。</p>			
キーワード	幼児理解、幼稚園教諭の役割、保育実践、記録と計画						
教授方法	指定された幼稚園で2週間連続して実習を行う。参加実習と責任実習を中心に行う。						
履修条件等	幼稚園と幼稚園教諭に関心があり、その役割について学びたい意思があること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション（於：学内） 教育実習 についての理解。						
2	オリエンテーション（於：実習園） 各園での実習オリエンテーションに訪問し、実習内容および注意事項の確認。						
3	観察実習 園の概要、1日の流れの理解。						
4	参加実習1 子どもの実態把握～生活～						
5	参加実習2 子どもの実態把握～遊び～						
6	参加実習3 子どもの実態把握～学級活動～						
7	参加実習4 子どもの実態把握～保育室外の遊び～、1週間の理解						
8	参加実習5 学級の実態把握、教師の助手的な参加実習～子どもへのかかわり～						
9	参加実習6 教師の助手的な参加実習～保育内容の構成～						
10	参加実習7 教師の助手的な参加実習～具体的な指導方法～						
11	責任実習1 保育を担当する～生活～						
12	責任実習2 保育を担当する～遊び～						
13	責任実習3 保育を担当する～学級活動～						
14	実習のまとめ 実習園での反省会						
共通の成績評価基準							
<p>【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。</p>							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習評価	100	実習園の評価と実習記録及び指導案の内容から総合的に評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>実習前は絵本や手遊び、簡単な遊びのアイデアなどの準備を行いましょう。 実習後は、実習での気づきを参考に今できることを考えて取り組んでください。</p>				<p>巡回指導訪問教員が訪れた際に相談する、もしくは実習担当者にメールが電話で直接相談してください。</p>			
教科書・テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著 ミネルヴァ書房、			受講生に望むこと	現場で学べる貴重な機会ですので、幼稚園の先生に相談しながら、積極的に取り組んでください。		
参考書・参考資料等	「保育者になるための国語表現」、田上貞一郎、萌文書林 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」、長島和代ほか、わかば社 その他、シアター遊びや折り紙など保育関連書籍			その他・特記事項	教育実習 事前事後指導の授業をすべて受講していることが必要です。必ず出席してください。		

授業科目	保育・教職実践演習					
担当教員	荒井 聡史・木山 徹哉・渡邊 望・小笠原 明子		必修・選択	選択	単位数	2単位
履修年次	4年	開講学期	3・4学期	授業形態	演習	科目ナンバリング
対象学生	こども	関連資格		備考		
授業の概要				到達目標		
履修カルテを活用しながら、これまでの学習全体を振り返り、保育・教職の意義や人間関係、幼児理解、学級経営・保育内容の指導力などについて事例検討、模擬授業、ロールプレイング、フィールドワーク、グループ討論等を通して保育者としての資質、能力の形成を図る。セッション1では保育職・教職の専門性についての観点から受講者各自の課題とその解決の方法を探究する。セッション2ではワークショップ形式のアイスブレイク、グループワーク、チームビルディングなどを通して各自の実践力の課題を確認し、さらに事例記録の作成と事例検討のグループ・カンファレンスを通して実践力を磨く。セッション3・4では教育実習・保育実習の体験にもとづく保育内容に関する課題の確認と探求を行う。				受講者が将来保育者となるうえで個々の課題を発見、認識し、課題解決をしていく中で、保育職の意義と責任を自覚し、保育者として最小限必要な資質能力を身に付け、職務を著しい支障が生じることなく実践できるようにすることを目標とする。		
キーワード	履修カルテ、プロセスレコード、幼稚園実習・保育実習のふりかえり					
教授方法	演習、オムニバス形式。事例検討、模擬保育、ロールプレイング、フィールドワーク、グループ討論等を中心に授業を実施する。					
履修条件等	教育実習、保育実習、施設実習を履修していること、保育実習 または施設実習 を履修しているもしくは履修中であることを前提とする。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容					
1	本授業のガイダンスおよび履修カルテを通じた課題の確認					
2	(セッション1) 保育・教職の意義の検討と探求 保育職の専門性と私の課題					
3	(セッション1) 保育・教職の意義の検討と探求 教職の専門性と私の課題					
4	(セッション1) 保育・教職の意義の検討と探求 各自の課題解決のための方法					
5	(セッション2) 実践力の検討と探求 ワークショップを通じた実践力の確認					
6	(セッション2) 実践力の検討と探求 事例記録(プロセスレコード)の作成					
7	(セッション2) 実践力の検討と探求 グループ・カンファレンス					
8	(セッション3) 幼稚園実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求					
9	(セッション3) 幼稚園実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求					
10	(セッション3) 現職幼稚園教諭を招いての研究発表会およびディスカッション					
11	(セッション4) 保育実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求					
12	(セッション4) 保育実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求					
13	(セッション4) 現職保育士を招いての研究発表会およびディスカッション					
14	本授業のふりかえりとまとめ					
共通の成績評価基準						
【S】大学で履修した他の専門科目や、実習経験と授業内容の深い学びと関連付けて保育者としての自己の課題を発見し、自発的な学習へと発展させることができている。【A】大学で履修した他の専門科目や、実習経験と授業内容の学びを関連付けて保育者としての自己の課題を発見し、自発的な学習へと発展させることができている。【B】大学で履修した他の専門科目や、実習経験と授業内容の学びを関連付けて保育者としての自己の課題を発見しているが、自発的な学習へと発展させることができている。【C】大学で履修した他の専門科目や、実習経験と授業内容を関連付けて学んでいるが、保育者としての自己の課題についての理解が不十分である。【D】大学で履修した他の専門科目や、実習経験と授業内容を関連付けて学べておらず、保育者としての自己の課題の理解も不十分である。						
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
授業レポート	80	各セッション終了後のレポート(20点満点)4回の合計で科目の目標の達成度を評価する。	授業態度	20	各セッションでの態度点(5点満点)4回の合計で受講者の意欲、態度、グループ活動での他メンバーとの協調性等を評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)						
課題レポートの作成、発表会への準備学習。			質問や相談への対応			
			質問・相談は授業中に随時受け付ける。また、授業時間以外にもメール等での質問・相談をしてもらってよい。			
教科書・テキスト	特に設定しない。		受講生に望むこと	教員免許、保育士資格という社会的地位と関連する科目なので、受講生の主体的・積極的な授業参加をのぞむ。特に、グループでの討議・発表の機会が多いので協調性を発揮しながらも主体的・積極的に授業に参加してほしい。		

参考書・ 参考資料等	授業の中で随時紹介する。	その他・ 特記事項	特になし。
---------------	--------------	--------------	-------

授業科目	こども学ゼミ				
担当教員	中山 智哉・太田 光洋・荒井 聡史・藤田 勉・大南	必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	2年	開講学期	通年	授業形態	演習
対象学生	こども	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
<p>乳幼児期の子どもと体の発達を総合的にとらえ、成長によりよい教育や環境を考えることを目的に、保育学、教育学、心理学、福祉学、芸術学など様々な学問領域を通して学びを深める。実施方法は、専門の異なる13名の教員が行うゼミ活動に、数名のグループに分かれ、オムニバス形式で受講する。内容は実地調査や行動観察、文献研究、実技演習など教員それぞれの専門に応じたゼミ活動によって進められる。受講生はグループのメンバーと互いに理解・協力をしながら演習を行う。その中で受講生は、乳幼児期の子どもと体の発達、発達を促進する環境、子どもに関する諸問題についての理解を深め、自分自身がより深めていきたいテーマを探ることで、3年次に開講される「こども学ゼミ」の学びを明確化できるようにする。</p>			<p>子どもの発達と環境との関係について、保育分野にとどまらず幅広い知識を獲得するとともに、発達と環境が相互に影響を与え合う関係であることを知る。 子どもの育ちにかかわる様々な学問領域の基礎的概念や考え方についての知識を獲得するとともに、子どもと社会との境界で生じる諸問題について学んだ概念を用いて説明することができる。 様々な学問領域を通じた学びから、受講生自身が深めたいテーマを設定する。</p>		
キーワード	保育領域 保育表現領域 心理領域 福祉領域 家庭支援領域				
教授方法	演習				
履修条件等	なし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション こども学ゼミ の進め方				
2	様々な学問領域から子どもと環境を捉えることの意義				
3	保育・幼児教育学からの学び				
4	保育・幼児教育学からの学び				
5	心理学からの学び				
6	心理学からの学び				
7	教育学からの学び				
8	教育学からの学び				
9	福祉学からの学び				
10	福祉学からの学び				
11	芸術学（造形）からの学び				
12	芸術学（造形）からの学び				
13	芸術学（劇活動）からの学び				
14	芸術学（劇活動）からの学び				
15	中間まとめ 各専門領域からの学びを統合する				
16	保育・幼児教育学からの学び				
17	保育・幼児教育学からの学び				
18	福祉学からの学び				
19	福祉学からの学び				
20	芸術学（音楽）からの学び				
21	芸術学（音楽）からの学び				
22	教育学からの学び				
23	教育学からの学び				
24	芸術学（身体表現）からの学び				
25	芸術学（身体表現）からの学び				
26	心理学からの学び				
27	心理学からの学び				
28	最終まとめ 各専門領域からの学びを統合する				
共通の成績評価基準					

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
受講態度	50	活動・話し合い等に積極的に参加している	レポート	25	レポートの内容
小テスト	25	小テストの点数			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
毎回指定された課題・問題に取り組む。 事後学習を通して知識の定着を図ること。			各回の教員に個別に相談する		
教科書・テキスト	使用しない		受講生に望むこと	演習活動に積極的に参加する	
参考書・参考資料等	別途指示する		その他・特記事項	なし	

授業科目	こども学ゼミ						
担当教員	中山 智哉・太田 光洋・荒井 聡史・大南 匠・前田	必修・選択	必修	単位数	2単位		
履修年次	3年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
乳幼児期の子どもと体の発達を総合的にとらえ、成長によりよい教育や環境を考えることを目的に、保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コースの3つから、1つのコースを選択し学びを深める。実施方法は、3コースに分かれ（各コース：15名程度）、それぞれのコースの専門性に応じた活動によって進められる。受講生はグループのメンバーと互いに理解・協力をしながら演習を行う。その中で受講生は、乳幼児期の子どもの発達、発達を促進する環境、子どもに関する諸問題についての理解を深め、自分自身がより深めていきたい課題を探ることで、4年次に開講される「卒業研究」のテーマを明確化できるようにする。				子どもの発達と環境との関係について、保育分野にとどまらず幅広い知識を獲得するとともに、発達と環境が相互に影響を与え合う関係であることを知る。 子どもの育ちにかかわる様々な学問領域の基礎的概念や考え方についての知識を獲得するとともに、子どもと社会との境界で生じる諸問題について学んだ概念を用いて説明することができる。 様々な学問領域を通じた学びから、受講生自身が深めたいテーマを設定する。			
キーワード	保育領域 教育領域 保育表現領域 心理領域 福祉領域 家庭支援領域						
教授方法	演習						
履修条件等	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	オリエンテーション こども学ゼミ の進め方						
2	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
3	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
4	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
5	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
6	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
7	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
8	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
9	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
10	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
11	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
12	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
13	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
14	保育・教育コース、保育表現コース、心理・福祉・支援コース、それぞれの教授内容により進めていく。						
共通の成績評価基準							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート等	100	各コースの指示に従う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
各コースの指示に従う。				各コースの教員に相談する。			
教科書・テキスト	なし			受講生に望むこと	所属したコースの学習内容を深める。		
参考書・参考資料等	なし			その他・特記事項	なし		

授業科目	卒業研究				
担当教員	太田 光洋・荒井 聡史・大南 匠・藤田 勉・前田	必修・選択	必修	単位数	4単位
履修年次	4年	開講学期	通年	授業形態	演習
対象学生	こども	関連資格		備考	
授業の概要			到達目標		
<p>子どもの発達と保育・教育に関する自分自身の問題意識に沿ってテーマを設定し、指導教員の指導の下で計画を立て、問題を明らかにするための適切な方法と技術を身につける。資料収集、文献講読、調査等に取り組み卒業研究としてまとめる。また、研究プロセスで相互の研究に触れ、知見を広げると共に自らの課題に対する考察を深める。</p>			<p>自ら課題を立て、その課題に適切にアプローチするための計画を立て、具体的に遂行できるようになる。また、課題についての考察を進める中で、協同的に課題を解決する態度や批判的思考ができるようになる。</p>		
キーワード	研究、批判的思考、協同、ディスカッション				
教授方法	演習				
履修条件等	特になし				
授 業 計 画					
実施回	授業内容				
1	オリエンテーション、研究の進め方				
2	各研究テーマに沿った研究計画作成、発表、ディスカッション				
3	各研究テーマに沿った研究計画作成、発表、ディスカッション				
4	各研究テーマに沿った研究計画作成、発表、ディスカッション				
5	構想発表				
6	各研究テーマに沿った文献・論文のレポート、ディスカッション				
7	各研究テーマに沿った文献・論文のレポート、ディスカッション				
8	各研究テーマに沿った文献・論文のレポート、ディスカッション				
9	各研究テーマに沿った文献・論文のレポート、ディスカッション				
10	各研究テーマに沿った文献・論文のレポート、ディスカッション				
11	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク				
12	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク				
13	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク				
14	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク				
15	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク				
16	各研究テーマに応じた調査・観察、フィールドワーク				
17	各研究テーマに応じた調査・観察、調査報告、ディスカッション				
18	各研究テーマに応じた調査・観察、調査報告、ディスカッション				
19	各研究テーマに応じた調査・観察、調査報告、ディスカッション				
20	各研究テーマに応じた調査・観察、調査報告、ディスカッション				
21	各研究テーマに応じた調査・観察、調査報告、ディスカッション				
22	調査結果にもとづく論文作成、ディスカッション				
23	調査結果にもとづく論文作成、ディスカッション				
24	調査結果にもとづく論文作成、ディスカッション				
25	完成校作成、卒業論文報告書作成				
26	完成校作成、卒業論文報告書作成				
27	完成校作成、卒業論文報告書作成				
28	卒業論文発表会				

共通の成績評価基準

【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
卒業論文	100	卒業論文の取り組み状況、完成校における問題理解、考察の程度に応じて評価する			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
フィールドワーク、調査などのデータを随時整理してゼミ時に報告する。			授業時はもちろん、必要に応じて随時説明する。メールによる質問も同様。ota.mitsuhiro@u-nagano.ac.jp		
教科書・テキスト	なし。随時紹介する。		受講生に望むこと	自らの課題解決に向け、アグレッシブに取り組むこと。	
参考書・参考資料等	なし。随時紹介する。		その他・特記事項	保育者向け研修や各種審議会委員等の経験を、具体的な課題や問題か帰結のアドバイスに反映し、リアルな課題への対応への考察を深められるよう教授する。	

授業科目	情報リテラシー (C)						
担当教員	川原 琢也			必修・選択	必修	単位数	2単位
履修年次	1年	開講学期	通年	授業形態	演習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。</p>				<p>ねらい レポートや卒業論文をはじめ、大学での学びに必要な「情報収集、データ分析、文書作成、発表」を効果的に行うためのICTスキルを身につけることを目指す。また、コンピュータやネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識の修得、それらを安全に利用するための情報倫理を養うことを目指す。</p> <p>到達目標 コンピュータとネットワークに関する基礎知識を習得する。 安全にICTを活用することができる 様々な問題解決にICTを活用することができる</p>			
キーワード	ICT,情報演習,Officeソフト						
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件等	特になし。必修科目。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
1	【ガイダンス】 授業のガイダンス、および、PC利用および情報知識等に関するアンケート、タイピング						
2	基礎知識編(1) 大学における知的活動(大学で様々な知的活動を行うためのコンピュータやインターネットの利用について)、タイピング Office365のサービス						
3	基礎知識編(2) 情報倫理とセキュリティ - 情報化社会と向き合うために-						
4	基礎知識編(3) コンピュータ・ネットワークの基礎知識、コンピュータの基本操作(Windows操作、ファイル管理)						
5	PowerPoint編(1) プレゼンテーションの基本と基本操作						
6	PowerPoint編(2) スライドの作成						
7	PowerPoint編(3) 効果的なプレゼンテーション						
8	PowerPoint編(4) 課題作成						
9	PowerPoint編(5) プレゼンテーションの実践						
10	Word編(1) 基本操作						
11	Word編(2) 文書作成(書式設定、インデント・ルーラー)						
12	Word編(3) 文書作成(ヘッダーとフッター、段組、文字列の検索・置換)						
13	Word編(4) 画像や図形						
14	Word編(5) 表とグラフ						
15	Word編(6) レポート・論文を書くときに利用する機能						
16	Word編(7) 総合練習問題						
17	Word編(8) 総合練習問題						
18	Excel編(1) 基本操作(データ入力と表示形式、オートフィル)						
19	Excel編(2) 表の作成と印刷、基本的な関数						
20	Excel編(3) 相対参照/絶対参照/複合参照						
21	Excel編(4) 関数の応用						
22	Excel編(5) 関数の応用						
23	Excel編(6) グラフの基礎						
24	Excel編(7) グラフの応用						
25	Excel編(8) データベースとしての取り扱い(データの並び替えと抽出、クロス集計)						
26	Excel編(9) データベースとしての取り扱い、総合練習問題						
27	Excel編(10) 総合練習問題						
28	まとめ 【小テスト】						

共通の成績評価基準

成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	小テストを課し理解度に応じて評価する。	授業課題	30	課された課題を正確に解くことができ、提出期限を守って提出できている。 全ての課題を提出できている。
上記以外の授業評価	40	授業に意欲的に取り組んでいる。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			質問や相談への対応		
授業時間内に完成しなかった課題については、授業外の時間を利用して完成させ、提出期限を守って提出すること。 授業で指定されたレポートを作成し、提出すること。 様々な科目や課題において、積極的にPCを活用すること。			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・メールでの質問も受け付ける。 アドレス： kawahara@cs.shinshu-u.ac.jp 		
教科書・テキスト	『大学生の知の情報スキル』森 園子編著・池田 修・谷口 厚子・永田 大・守屋 康正著, 共立出版, 2017, ISBN: 978-4-320-12425-7		受講生に望むこと	授業に欠席しないこと。 主体的に課題に取り組むこと。 全ての課題&レポートを、提出期限を守って提出すること。	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配布する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の経験の差によりレベルが異なることが予想されるが、個々のペースで良いので積極的にパソコンを利用し、大学生生活および社会でICT器機を効果的に活用できるよう、スキルアップを目指してほしい。 ・各自の学習成果を確認するため、日商PCやP検などの検定にも挑戦してみましょう! 	

授業科目	健康と運動科学 (C)						
担当教員	張 勇		必修・選択	選択	単位数	1単位	
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	1学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要			到達目標				
本講義では講義・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。			様々なスポーツを体験し、心身共に充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り創っていくさまざまな方法や技能を学ぶ。また生活に運動を取り入れる喜びを味わい、積極的な健康づくりの態度を養う。生涯スポーツの基礎づくりとなる授業である。				
キーワード	健康観、健康づくり、身体技法、スポーツ						
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件等	【保育士資格必須科目】 毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容						
第1回	授業内容:授業の概要と進め方(課題説明)						
第2回	講義:東西身体の多様な見方を理解する 実技:ブラインドボール						
第3回	講義:東西身体の多様な見方を理解する 実技:ブラインドボール						
第4回	実技:キンボール・スポーツ						
第5回	エスニックスポーツと近代化を考える 実技:インディアカ(遊戯の原点を理解する)						
第6回	講義・実技:インディアカ(遊戯における現在を考える)						
第7回	実技:ユニホック(地域再創造のためのスポーツを理解する)						
第8回	実技:ユニホック(生涯スポーツを理解する)						
第9回	東洋の身体技法原点・東洋ウエルネスを考える 実技:体操・カバディ・呼吸法						
第10回	講義:天人合一の身体を考える 実技:スロースポーツ・太極拳・体操・瞑想法						
第11回	講義:気をめぐる身体文化を理解する 実技:卓球						
第12回	講義:健康づくりについて考える 実技:卓球						
第13回	講義:スポーツを理解する 実技:卓球						
第14回	授業のまとめ						
共通の成績評価基準							
全ての授業を通して、リーダーシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
積極的な授業参加姿勢	30	実践・講義5回以上出席すること		授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと	
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習(事前・事後学習等)				質問や相談への対応			
実践】最終レポートを課す。 また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 【理論】 理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。 さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。				e-mailで対応する。E-mail:zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	特になし		

授業科目	健康と運動科学 (C)						
担当教員	張 勇			必修・選択	選択	単位数	1単位
履修年次	1・2・3・4年	開講学期	3学期	授業形態	実験・実習	科目ナンバリング	
対象学生	こども	関連資格		備考			
授業の概要				到達目標			
<p>学生自分のからだどこころへの理解は、知識だけではなく「からだを動かす」ということを通しても広がり、深まってゆく。そのため、できるだけ幅広い分野の教材を取り上げたい。健康・運動・スポーツは、分かる・理解するなどの「知識」を身につけるだけでは不十分で、「実践」につながってこそ始めて完結する。ここに健康と運動科学授業の意味と重要さがある。自分自身でやってみることで、自分自身のからだを実感し、その中の客観的・科学的理論を抽出し、これを再意識して「からだ」についての知識とからだそのものを結び付ける授業としたい。</p>				<p>西洋的価値観から生まれた「より高く、強く、速く」を競うことから観点を換え、大学生も生老病死の人生を生きる人間であるから、「もっとゆっくり・もっと深く・もっと柔軟に」と、こころやからだを動かすことの価値を学ぶことも意味がある。これまでの大学体育では、あまり行われていなかったが、こうした視点を取り入れた授業を積極的に進めたい。</p>			
キーワード	健康観、健康づくり、身体技法、スポーツ						
教授方法	授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。						
履修条件等	<p>「幼稚園教諭資格必須科目」 【実践】 毎時間出席をとる。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンス日程等の詳細について全学総合教育<公用掲示板>にて知らせるので注意すること。また単位取得には3回以上の出席が必要。</p>						
授業計画							
実施回	授業内容						
第1回	授業の概要と進め方（課題説明）						
第2回	健康観と健康づくりの変遷について考える 実技：バレ－ボール						
第3回	体力とは（体力について理解する） 実技：バレ－ボール						
第4回	健康と運動を考える 実技：バレ－ボール						
第5回	講義：生活習慣病と運動を理解する 実技：バレ－ボール						
第6回	講義：ダイエットと健康を理解する 実技：バスケットボール						
第7回	講義：肥満について理解する 実技：バスケットボール						
第8回	講義：有酸素運動と無酸素運動 運動効果について理解する 実技：バスケットボール						
第9回	運動の原則を理解する 実技：ウォーキング、ジョギング						
第10回	講義：トレーニング原則について理解する 実技：バドミントン						
第11回	講義：ウォーキング、ジョギングの運動特性について理解する 実技：バドミントン						
第12回	講義：身体活動強度とエネルギーについて理解する 実技：バドミントン						
第13回	講義：健康づくりについて考える 実技：バドミントン						
第14回	授業のまとめ						
共通の成績評価基準							
全ての授業を通して、リーダシップや周りとの協調性、授業内容を発展させて考える態度、積極的な授業参加姿勢等を考慮し評価する。							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
積極的な授業参加姿勢	30	実践・講義5回以上出席すること			授業レポート	40	授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと
上記以外の授業評価	30	授業時間外の運動を促すこと					
授業外における学習（事前・事後学習等）				質問や相談への対応			
<p>【実践】小テストの予習および最終レポートを課す。また、時間外の運動を促すことによって、事前事後学習を達成する。 【理論】 理論の最終授業時にレポートを課す。そのための資料を収集しておくこと。さらに、将来の健康管理にどのように役立てていこうと考えているか、明確に自覚させることによって、事後学習を達成する。</p>				e-mailで対応する。E-mail: zhang.yong@u-nagano.ac.jp			
教科書・テキスト	特に指定なし			受講生に望むこと	毎時間出席をとる。出席は必須。10分以上の遅刻、早退は原則として欠席扱いとする。また単位取得には出席が必要。レポートの提出締め切りは各クラス最終コマから1週間以内とする。		
参考書・参考資料等	【実践】横沢喜久子ら編「健康・運動科学の理論と実践」市村出版 2009年3月			その他・特記事項	特になし		